高崎市文化財調査報告書 第457集

若田坂上遺跡

－八幡霊園拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０２１

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書 第457集

若田坂上遺跡

－八幡霊園拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

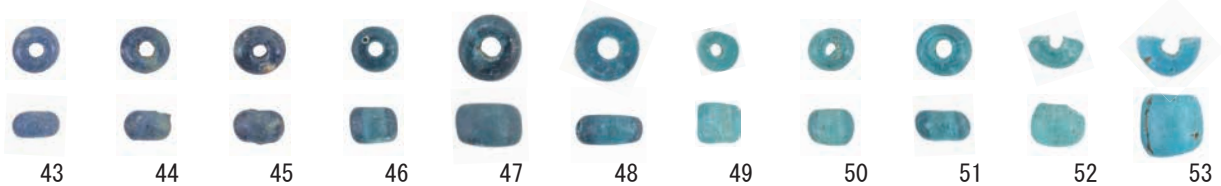
２０２１

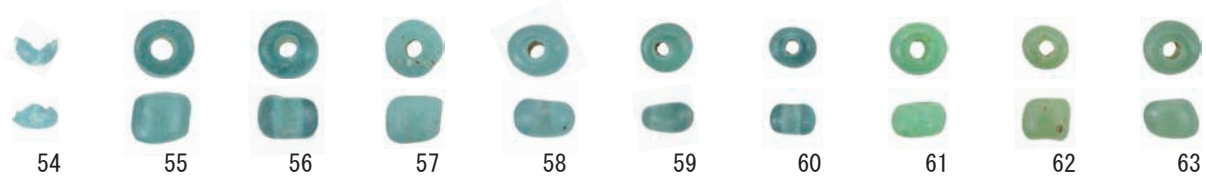
高崎市教育委員会

榛名山遠望　手前の台地上に若田坂上遺跡が所在する

若田坂上遺跡古墳群（上が北）

１号墳　２号墳

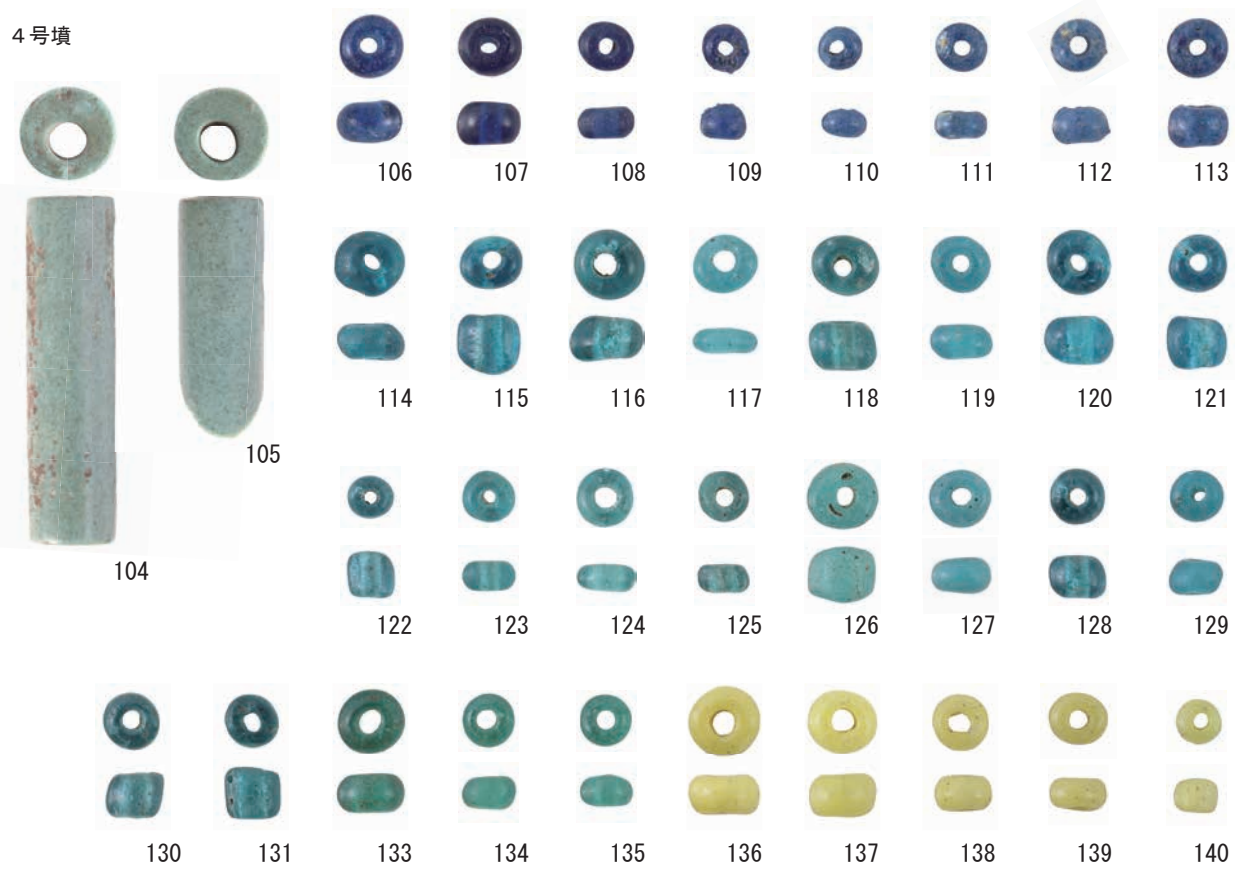




３号墳

※玉類は200%で掲載

４号墳出土遺物



※玉類は200%で掲載

７号墳出土遺物

８号墳出土遺物

１号礫床墓出土鉄釧　圧痕部拡大

１号礫床墓出土遺物

６号礫床墓出土遺物

11号竪穴建物跡出土遺物

12号竪穴建物跡出土遺物

11号竪穴建物跡

430

431

432 433 434 435 436 437

438 439 440 441 442 443

444 445 446 447 448 449

450 451 452 453 454 455

※玉類は200%で掲載

17号竪穴建物跡出土遺物

８号墳

233

234

２号土坑墓

249

17号竪穴建物跡

507　508

遺構外

584

589

590

※玉類は200%で掲載

序

高崎市は、古来より関東と信越をつなぐ交通の要衝に位置する人口約３７万２千人の中核市です。

令和２年３月には、高崎市吉井町の多胡郡正倉跡が新たに国指定史跡に指定されました。法倉と推定される総瓦葺の荘厳な礎石建物は、全国の官衙遺跡でも有数の規模を誇ります。多胡郡正倉跡は、平成２９年１０月にユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑のひとつ、多胡碑に記された碑文の内容と関連した遺構として広く注目されています。この登録を契機に、本市の持つ文化財の価値が日本国内はもとより世界に広く知られることを期待します。

本書は、高崎市若田町における八幡霊園拡張整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書です。若田坂上遺跡周辺では、各時代の集落や墓域が濃密に分布しており、このたびの調査では、弥生時代や古墳時代などの住居跡や墓をはじめとする多くの遺構を検出し、この地において古代より連綿と紡がれる人々の生活を垣間見ることができる成果をあげました。本書を通して高崎市の多様な歴史を知る一助となれば幸いと存じます。

結びに、本遺跡の発掘調査および報告書刊行にあたりご協力をいただきました関係機関ならびに関係者の皆様に心から感謝申し上げ、序といたします。

令和３年３月

高崎市教育委員会

教育長　飯野眞幸

例　　言

1．本書は、八幡霊園拡張整備事業に伴い実施した「若田坂上遺跡」の発掘調査報告書である。
2．本遺跡は、高崎市若田町350番地外に所在する。
3．本遺跡は、複数年次に亘り断続的に調査を行ったため、調査次毎に高崎市遺跡番号を付した。
　平成26～28年度調査（一次調査）：596　　平成29年度調査（三次調査）：718
　※平成26～28年度調査（596）は東西調査区に分割したため、平成26年度調査は596、平成27・28年度調査は596（東）として峻別したが、これらの調査区の混同を避けるため、本書では平成26年度調査を西区（596W）、平成27・28年度調査を東区（596E）、平成29年度調査を北東区（718）と呼称する。（）内は略号とする。
4．本遺跡の発掘調査および整理作業は、高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。
　調査組織は以下のとおりである。

教育長	飯野 眞幸
教育部長	上原 正男(～平成28年度)、小見 幸雄(平成29年度～)
文化財保護課長	冨加津 豊(平成26年度)、若狭 徹(平成27・28年度)、角田 真也(平成29年度～)
埋蔵文化財担当係長	田口 一郎(平成26年度)、角田 真也(平成27・28年度)、矢島 浩(平成28～令和元年度)、神澤 久幸(平成29年度～)、清水 豊(令和２年度)
庶務担当	加藤 志津代(平成26～29年度)、針井 修(平成26～28年度)、岡田 清香(平成29年度～)、小暮 里江(平成30年度～)
調査担当	山本 ジェームズ、南雲 博文(平成27年度)、田村 孝(平成28年度)

5．発掘調査および整理作業期間は以下のとおりである。
　596W　発掘：平成26年４月28日～平成27年１月13日　整理：平成27年１月14日～平成27年３月31日
　596E　発掘：平成27年８月24日～平成28年５月31日　整理：平成28年６月１日～平成29年３月31日
　718　発掘：平成29年11月13日～平成30年３月20日　整理：平成30年３月21日～平成30年３月31日
　報告書作成：平成30年４月１日～令和３年３月31日
6．本書の編集は山本が行った。執筆は主に山本が担当し、第４章第１節「６．４号墳出土瓢形環状鏡板付轡」は文化財保護課主任学芸員・大野義人が文章執筆ならびに実測図作成を行った。また、発掘調査中の遺構等記録写真の撮影は調査担当者がそれぞれ実施した。遺物の写真撮影は山本、文化財保護課再任用職員・飯島克巳および担当者の指示の下、臨時職員が実施した。
7．図版等の作成は担当者および担当者の指示の下、臨時職員が実施した。
8．発掘調査にあたり、表土掘削および埋め戻し作業は㈱井ノ上が実施した。
9．本遺跡の調査および整理作業に係る各種委託業務は、以下のとおり実施した。
　測量基準杭設置：㈱協和テクノ　　遺構測量　：㈱測研、㈱技研コンサル
　空中写真撮影　：㈱測研　　図面トレース：㈱測研
　出土品保存処理：㈲武蔵野文化財修復研究所
10. 各調査の出土遺物や記録図面、写真類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。
11. 発掘調査にあたり、地元関係者および関係機関、所管部署にご協力をいただいた。また、発掘調査および整理作業には多くの臨時職員にご尽力いただいた。
12. 発掘調査および整理作業にあたり、下記の方々より様々なご教示やご助言をいただいた。記して感謝します。
　櫻井 秀雄、南雲 芳昭、深澤 敦仁、三浦 茂三郎、右島 和夫（敬称略）

凡　　例

1．本書に使用した地図は、国土地理院発行1/25,000地形図（下室田）及び傾斜量図を元に作成した。
2．本書中の座標値は平面直角座標第Ⅸ系国家座標（世界測地系）を原則とし、方位は同座標北（G.N.）である。
3．本書中の図版縮尺は、各図に表示している。
4．各種測量図や断面図に付した標高はT.P.を基準とした。
5．土層・遺物の色調および土壌の注記は、農林水産省農林水産技術会議事務局・(財) 日本色彩研究所監修1967『新版標準土色帖』(1997年後期版)を使用した。
6．本書で触れる代表的なテフラ等火山噴出物および各種遺構には以下の略号を使用した。
　As-A（浅間Ａ軽石）：天明三（1783）年　　Hr-FP（榛名二ツ岳伊香保テフラ）：６世紀半ば
　As-B（浅間Ｂ軽石）：天仁元（1108）年　　Hr-FA（榛名二ツ岳渋川テフラ）　：５世紀末～６世紀初頭
　As-C（浅間Ｃ軽石）：３世紀後半
　SD：溝　SI：竪穴建物跡　SK：土坑　Pit：柱穴・小穴　ST：墓　SX：不明遺構　SZ：古墳
7．遺構や遺物の各種図面に使用したトーンは以下のとおりである。
　遺構図：焼土範囲　炭化物範囲　硬化面範囲　粘土範囲　灰範囲　石
　遺物図：赤彩範囲　化粧土範囲　須恵器断面　繊維痕跡　母岩表皮
8．遺物観察表中の数値や略号は以下のとおりである。
　観察表：（）残存値　【】復元値

目　次

巻頭図版
序・例言・凡例・目次

第１章　調査に至る経緯
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の方法 …… 1
　第３節　日誌抄 …… 2

第２章　地理的・歴史的環境
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　検出した遺構・遺物
　第１節　調査の概要 …… 6
　第２節　基本土層 …… 6
　第３節　検出した遺構・遺物 …… 12
　（１）古墳 …… 12
　　１号墳・２号墳・３号墳・４号墳・５号墳・６号墳・
　　７号墳・８号墳
　（２）墓 …… 96
　　礫槨墓・石槨墓・土坑墓・周溝墓・礫床墓
　（３）竪穴建物跡 …… 127
　　１～25号竪穴建物跡
　（４）溝 …… 225
　　１～６号溝
　（５）土坑 …… 229
　　１～69号土坑
　（６）ピット …… 250
　　１～38号ピット
　（７）畠跡・As-A処理遺構 …… 257
　（８）遺構外出土遺物 …… 260

第４章　成果と課題
　第１節　若田坂上遺跡の古墳について …… 263
　第２節　礫床墓について …… 271
　第３節　鉄釧について …… 273
　第４節　人形土器について …… 275
　第５節　集落について …… 278

写真図版
抄録

表　目　次

第１表　１号墳　出土遺物観察表 …… 19
第２表　２号墳　主体部石材計測値一覧表 …… 26
第３表　２号墳　出土遺物観察表（１） …… 30
第４表　２号墳　出土遺物観察表（２） …… 31
第５表　３号墳　主体部石材計測値一覧表 …… 37
第６表　３号墳　出土遺物観察表 …… 41
第７表　４号墳　主体部石材計測値一覧表 …… 48
第８表　４号墳　出土遺物観察表（１） …… 56
第９表　４号墳　出土遺物観察表（２） …… 57
第10表　４号墳　出土遺物観察表（３） …… 58
第11表　５号墳　出土遺物観察表 …… 64
第12表　６号墳　出土遺物観察表 …… 65
第13表　７号墳　出土遺物観察表（１） …… 83
第14表　７号墳　出土遺物観察表（２） …… 84
第15表　７号墳　出土遺物観察表（３） …… 85
第16表　８号墳　出土遺物観察表 …… 95
第17表　１号礫槨墓　出土遺物観察表 …… 100
第18表　２号土坑墓　出土遺物観察表 …… 106
第19表　１号周溝墓　出土遺物観察表 …… 107
第20表　１号礫床墓　使用礫計量表 …… 108
第21表　１号礫床墓　出土遺物観察表 …… 116
第22表　２号礫床墓　使用礫計量表 …… 117
第23表　３号礫床墓　使用礫計量表 …… 119
第24表　３号礫床墓　出土遺物観察表 …… 119
第25表　４・５号礫床墓　使用礫計量表 …… 120
第26表　４・５号礫床墓　出土遺物観察表 …… 122
第27表　６号礫床墓　使用礫計量表 …… 124
第28表　６号礫床墓　出土遺物観察表 …… 125
第29表　７号礫床墓　使用礫計量表 …… 126
第30表　１号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 129
第31表　２号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 132
第32表　３号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 133
第33表　４号竪穴建物跡　出土遺物観察表（１） …… 141
第34表　４号竪穴建物跡　出土遺物観察表（２） …… 142
第35表　５号竪穴建物跡　出土遺物観察表（１） …… 144
第36表　５号竪穴建物跡　出土遺物観察表（２） …… 145
第37表　６号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 148
第38表　７号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 150
第39表　８号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 154
第40表　９号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 156
第41表　10号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 161
第42表　11号竪穴建物跡　出土遺物観察表（１） …… 173
第43表　11号竪穴建物跡　出土遺物観察表（２） …… 174
第44表　11号竪穴建物跡　出土遺物観察表（３） …… 175
第45表　11号竪穴建物跡　出土遺物観察表（４） …… 176
第46表　12号竪穴建物跡　出土遺物観察表（１） …… 183
第47表　12号竪穴建物跡　出土遺物観察表（２） …… 184
第48表　13号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 185
第49表　14号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 187
第50表　15号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 190
第51表　16号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 193
第52表　17号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 198
第53表　18号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 200
第54表　19号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 204
第55表　20号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 208
第56表　21号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 211
第57表　22号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 214
第58表　23号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 219
第59表　24号竪穴建物跡　出土遺物観察表 …… 223
第60表　溝　出土遺物観察表 …… 225
第61表　土坑　一覧表（１） …… 229
第62表　土坑　一覧表（２） …… 230
第63表　土坑　出土遺物観察表 …… 249
第64表　ピット　一覧表 …… 250
第65表　ピット　出土遺物観察表 …… 256
第66表　遺構外　出土遺物観察表 …… 261

挿　図　目　次

第１図　若田坂上遺跡　位置図 …… 3
第２図　若田坂上遺跡および周辺遺跡　位置図 …… 5
第３図　若田坂上遺跡および周辺遺跡　配置図 …… 5
第４図　若田坂上遺跡　基本土層柱状図 …… 7
第５図　若田坂上遺跡　遺跡全体図 …… 8
第６図　若田坂上遺跡　西区遺構全体図 …… 9
第７図　若田坂上遺跡　東区・北東区遺構全体図 …… 10
第８図　若田坂上遺跡　西区遺構拡大図 …… 11
第９図　若田坂上遺跡　東区・北東区古墳分布図 …… 11
第10図　１号墳　墳丘全体図 …… 13
第11図　１号墳　墳丘断面図（１）…… 14
第12図　１号墳　墳丘断面図（２）…… 15
第13図　１号墳　主体部平面図・断面図 …… 16
第14図　１号墳　主体部掘り方平面図 …… 17
第15図　１号墳　主体部出土遺物分布図 …… 18
第16図　１号墳　出土遺物実測図（１）…… 18
第17図　１号墳　出土遺物実測図（２）…… 19
第18図　２号墳　墳丘全体図 …… 21
第19図　２号墳　墳丘断面図 …… 22
第20図　２号墳　主体部展開図 …… 24
第21図　２号墳　主体部出土遺物分布 …… 25
第22図　２号墳　主体部平面図（１）…… 27
第23図　２号墳　主体部平面図（２）・掘り方エレベーション図‥ 28
第24図　２号墳　出土遺物実測図（１）…… 29
第25図　２号墳　出土遺物実測図（２）…… 31
第26図　３号墳　墳丘全体図・断面図（１）…… 33
第27図　３号墳　墳丘断面図（２）…… 34
第28図　３号墳　出土遺物分布図 …… 35
第29図　３号墳　主体部展開図 …… 36
第30図　３号墳　主体部平面図（１）…… 38
第31図　３号墳　主体部平面図（２）・掘り方エレベーション図‥ 39
第32図　３号墳　主体部出土遺物分布図 …… 40
第33図　３号墳　出土遺物実測図（１）…… 40
第34図　３号墳　出土遺物実測図（２）…… 41
第35図　４号墳　墳丘全体図 …… 43
第36図　４号墳　墳丘断面図 …… 44
第37図　４号墳　主体部展開図 …… 46
第38図　４号墳　主体部出土遺物分布図 …… 47
第39図　４号墳　主体部平面図（１）…… 49
第40図　４号墳　主体部平面図（２）…… 50
第41図　４号墳　主体部平面図（３）・掘り方エレベーション図‥ 51
第42図　４号墳　出土遺物分布図 …… 52
第43図　４号墳　出土遺物実測図（１）…… 53
第44図　４号墳　出土遺物実測図（２）…… 54
第45図　４号墳　出土遺物実測図（３）…… 55
第46図　４号墳　出土遺物実測図（４）…… 56
第47図　４号墳　出土遺物実測図（５）…… 58
第48図　５号墳　墳丘全体図・葺石立面図 …… 60
第49図　５号墳　墳丘断面図（１）…… 61
第50図　５号墳　墳丘断面図（２）…… 62
第51図　５号墳　出土遺物分布図 …… 62
第52図　５号墳　出土遺物実測図（１）…… 63
第53図　５号墳　出土遺物実測図（２）…… 64
第54図　６号墳　全体図 …… 65
第55図　６号墳　出土遺物実測図 …… 65
第56図　７号墳　墳丘全体図 …… 67
第57図　７号墳　墳丘断面図 …… 68
第58図　７号墳　埴輪列平面図（１）…… 69
第59図　７号墳　埴輪列平面図（２）…… 69
第60図　７号墳　埴輪列断面図 …… 70
第61図　７号墳　主体部展開図 …… 71
第62図　７号墳　主体部平面図 …… 72
第63図　７号墳　出土遺物分布図 …… 73
第64図　７号墳　出土遺物実測図（１）…… 74
第65図　７号墳　出土遺物実測図（２）…… 75
第66図　７号墳　出土遺物実測図（３）…… 76
第67図　７号墳　出土遺物実測図（４）…… 77
第68図　７号墳　出土遺物実測図（５）…… 78
第69図　７号墳　出土遺物実測図（６）…… 79
第70図　７号墳　出土遺物実測図（７）…… 80
第71図　７号墳　出土遺物実測図（８）…… 81
第72図　７号墳　出土遺物実測図（９）…… 82
第73図　８号墳　墳丘全体図 …… 86
第74図　８号墳　墳丘断面図（１）…… 87
第75図　８号墳　墳丘断面図（２）…… 88
第76図　８号墳　葺石立面図 …… 88
第77図　８号墳　主体部平面図・断面図 …… 89
第78図　８号墳　主体部掘り方平面図・エレベーション図 …… 90
第79図　８号墳　出土遺物分布図 …… 91
第80図　８号墳　出土遺物実測図（１）…… 92
第81図　８号墳　出土遺物実測図（２）…… 93
第82図　８号墳　出土遺物実測図（３）…… 94
第83図　各種墓遺構分布図 …… 96
第84図　１号礫槨墓　平面図・断面図 …… 97
第85図　１号礫槨墓　礫検出平面図・立面図 …… 98
第86図　１号礫槨墓　掘り方平面図 …… 98
第87図　１号礫槨墓　出土遺物分布図 …… 99
第88図　１号礫槨墓　出土遺物実測図（１）…… 99
第89図　１号礫槨墓　出土遺物実測図（２）…… 100
第90図　１号石槨墓　平面図・断面図（１）…… 101
第91図　１号石槨墓　平面図・断面図（２）…… 102
第92図　１号土坑墓　平面図・断面図 …… 103
第93図　１号土坑墓　ピット平面図・断面図 …… 104
第94図　１号土坑墓　掘り方平面図 …… 104
第95図　２号土坑墓　平面図・断面図 …… 105
第96図　２号土坑墓　掘り方平面図 …… 106
第97図　２号土坑墓　出土遺物実測図 …… 106
第98図　１号周溝墓　平面図・断面図 …… 107
第99図　１号周溝墓　出土遺物実測図 …… 107
第100図　１号礫床墓　平面図・断面図 …… 109
第101図　１号礫床墓　出土遺物分布図 …… 110
第102図　１号礫床墓　掘り方平面図 …… 110
第103図　１号礫床墓　出土遺物実測図（１）…… 111
第104図　１号人形土器陰影図 …… 112
第105図　１号礫床墓　出土遺物実測図（２）…… 112
第106図　２号人形土器陰影図 …… 113
第107図　１号礫床墓　出土遺物実測図（３）…… 114
第108図　１号礫床墓　出土遺物実測図（４）…… 115
第109図　２号礫床墓　平面図・断面図 …… 117
第110図　３号礫床墓　平面図・断面図 …… 118

第111図　３号礫床墓　掘り方平面図 …… 119
第112図　３号礫床墓　出土遺物実測図 …… 119
第113図　４・５号礫床墓　検出状況図 …… 120
第114図　４号礫床墓　平面図・断面図 …… 121
第115図　５号礫床墓　平面図・断面図 …… 122
第116図　４・５号礫床墓　出土遺物実測図 …… 122
第117図　４・５号礫床墓　掘り方平面図 …… 123
第118図　６号礫床墓　平面図・断面図 …… 124
第119図　６号礫床墓　出土遺物分布図 …… 125
第120図　６号礫床墓　出土遺物実測図 …… 125
第121図　７号礫床墓　平面図・断面図 …… 126
第122図　１号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 127
第123図　１号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図 …… 128
第124図　１号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 128
第125図　１号竪穴建物跡　掘り方平面図 …… 129
第126図　１号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 129
第127図　２号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 130
第128図　２号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図 …… 131
第129図　２号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 131
第130図　２号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 132
第131図　３号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 133
第132図　３号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 133
第133図　４号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 134
第134図　４号竪穴建物跡　ピット断面図 …… 135
第135図　４号竪穴建物跡　エレベーション図 …… 136
第136図　４号竪穴建物跡　礫検出状況図 …… 136
第137図　４号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 137
第138図　４号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）…… 138
第139図　４号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）…… 139
第140図　４号竪穴建物跡　出土遺物実測図（３）…… 140
第141図　４号竪穴建物跡　出土遺物実測図（４）…… 141
第142図　５号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 142
第143図　５号竪穴建物跡　ピットおよび炉跡平面図・断面図 …… 143
第144図　５号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 143
第145図　５号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 144
第146図　６号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 145
第147図　６号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 146
第148図　６号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）…… 147
第149図　６号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）…… 148
第150図　７号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 149
第151図　７号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 150
第152図　７号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 150
第153図　８号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 151
第154図　８号竪穴建物跡　ピット断面図・エレベーション図 …… 152
第155図　８号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図 …… 152
第156図　８号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 153
第157図　８号竪穴建物跡　掘り方平面図 …… 153
第158図　８号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 154
第159図　９号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 155
第160図　９号竪穴建物跡　ピット断面図・エレベーション図 …… 156
第161図　９号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 156
第162図　10号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 157
第163図　10号竪穴建物跡　エレベーション図 …… 158
第164図　10号竪穴建物跡　ピット断面図 …… 159
第165図　10号竪穴建物跡　炉跡平面図・断面図 …… 160
第166図　10号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 160
第167図　10号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 161
第168図　11号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 163
第169図　11号竪穴建物跡　断面図 …… 164
第170図　11号竪穴建物跡　出土遺物分布図（１）…… 166
第171図　11号竪穴建物跡　出土遺物分布図（２）…… 167
第172図　11号竪穴建物跡　掘り方平面図 …… 168
第173図　11号竪穴建物跡　掘り方断面図 …… 169
第174図　11号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）…… 170
第175図　11号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）…… 171
第176図　11号竪穴建物跡　出土遺物実測図（３）…… 172
第177図　11号竪穴建物跡　出土遺物実測図（４）…… 173
第178図　12号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 177
第179図　12号竪穴建物跡　ピット断面図・エレベーション図 …… 178
第180図　12号竪穴建物跡　カマド平面・断面図 …… 179
第181図　12号竪穴建物跡　炭化物検出状況図 …… 180
第182図　12号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 180
第183図　12号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図 …… 181
第184図　12号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）…… 182
第185図　12号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）…… 183
第186図　13号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 184
第187図　13号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 185
第188図　13号竪穴建物跡　掘り方平面図 …… 185
第189図　13号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 185
第190図　14号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 186
第191図　14号竪穴建物跡　礫・出土遺物分布図 …… 187
第192図　14号竪穴建物跡　掘り方平面図 …… 187
第193図　14号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 187
第194図　15号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 188
第195図　15号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図 …… 189
第196図　15号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 190
第197図　15号竪穴建物跡　掘り方平面図 …… 190
第198図　15号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 190
第199図　16号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 191
第200図　16号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図 …… 192
第201図　16号竪穴建物跡　礫・出土遺物分布図 …… 193
第202図　16号竪穴建物跡　掘り方平面図 …… 193
第203図　16号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 193
第204図　17号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 194
第205図　17号竪穴建物跡　ピット断面図 …… 195
第206図　17号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図 …… 196
第207図　17号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 196
第208図　17号竪穴建物跡　掘り方平面図 …… 197
第209図　17号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）…… 197
第210図　17号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）…… 198
第211図　18号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 199
第212図　18号竪穴建物跡　出土遺物分布図・実測図 …… 200
第213図　19号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 201
第214図　19号竪穴建物跡　ピット断面図 …… 202
第215図　19号竪穴建物跡　炉跡平面図・断面図 …… 202
第216図　19号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 203
第217図　19号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図 …… 203
第218図　19号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 204
第219図　20号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 205
第220図　20号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 206
第221図　20号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図 …… 207
第222図　20号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）…… 207
第223図　20号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）…… 208
第224図　21号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 209
第225図　21号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 210
第226図　21号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図 …… 211

第227図　21号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 211
第228図　22号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 212
第229図　22号竪穴建物跡　ピット断面図 …… 213
第230図　22号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 213
第231図　22号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図 …… 214
第232図　22号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 214
第233図　23号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 215
第234図　23号竪穴建物跡　ピット断面図 …… 216
第235図　23号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 217
第236図　23号竪穴建物跡　掘り方検出ピット断面図 …… 217
第237図　23号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図 …… 218
第238図　23号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 219
第239図　24号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 220
第240図　24号竪穴建物跡　ピット断面図 …… 221
第241図　24号竪穴建物跡　炉跡平面図・断面図 …… 221
第242図　24号竪穴建物跡　出土遺物分布図 …… 222
第243図　24号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図 …… 222
第244図　24号竪穴建物跡　出土遺物実測図 …… 223
第245図　25号竪穴建物跡　平面図・断面図 …… 223
第246図　25号竪穴建物跡　炉跡平面図・断面図 …… 224
第247図　25号竪穴建物跡　掘り方平面図 …… 224
第248図　溝　出土遺物実測図 …… 225
第249図　１・２号溝　平面図・断面図 …… 226
第250図　３号溝　平面図・断面図 …… 227
第251図　４～６号溝　平面図・断面図 …… 228
第252図　１・２土坑　平面図・断面図 …… 230
第253図　３～５号土坑　平面図・断面図 …… 231
第254図　６～８号土坑　平面図・断面図 …… 232
第255図　９～13号土坑　平面図・断面図 …… 233
第256図　16～19号土坑　平面図・断面図 …… 234
第257図　20～24号土坑　平面図・断面図 …… 235
第258図　25～30号土坑　平面図・断面図 …… 236
第259図　31～38号土坑　平面図・断面図 …… 237
第260図　39～43号土坑　平面図・断面図 …… 238
第261図　44～49号土坑　平面図・断面図 …… 239
第262図　50～52号土坑　平面図・断面図 …… 240
第263図　53・54・57・59号土坑　平面図・断面図 …… 241
第264図　55・56号土坑　平面図・断面図 …… 242
第265図　58号土坑　平面図・断面図（１） …… 243
第266図　58（２）・60～62号土坑　平面図・断面図 …… 244
第267図　63・66・67号土坑　平面図・断面図 …… 245
第268図　68・69土坑　平面図・断面図 …… 246
第269図　土坑　出土遺物実測図（１） …… 247
第270図　土坑　出土遺物実測図（２） …… 248
第271図　土坑　出土遺物実測図（３） …… 249
第272図　１～９号ピット　平面図・断面図 …… 251
第273図　10～21号ピット　平面図・断面図 …… 252
第274図　22～29号ピット　平面図・断面図 …… 253
第275図　30～38号ピット　平面図・断面図 …… 254
第276図　ピット　出土遺物実測図（１） …… 255
第277図　ピット　出土遺物実測図（２） …… 256
第278図　畠跡・As-A処理遺構配置図 …… 257
第279図　畠跡・As-A処理遺構　平面図・断面図（１） …… 258
第280図　畠跡・As-A処理遺構　平面図・断面図（２） …… 259
第281図　遺構外　出土遺物実測図（１） …… 260
第282図　遺構外　出土遺物実測図（２） …… 261
第283図　若田坂上遺跡周辺の古墳分布図 …… 263
第284図　若田坂上遺跡古墳群の主体部主軸の傾き …… 264
第285図　若田坂上遺跡４号墳出土瓢形環状鏡板付轡部位名称 …… 266
第286図　若田坂上遺跡４号墳出土瓢形環状鏡板付轡 …… 267
第287図　若田古墳群出土環状鏡板付轡 …… 269
第288図　若田坂上遺跡　礫床墓分布図 …… 271
第289図　礫床墓主体部主軸の傾き …… 272
第290図　１号礫床墓出土鉄釧 …… 273
第291図　１号礫床墓出土人形土器 …… 276
第292図　時期別竪穴建物配置図 …… 279

写　真　図　版　目　次

PL. 1　若田坂上遺跡　西区空中写真（上が北）
若田坂上遺跡　東区空中写真（上が北）
PL. 2　若田坂上遺跡　東区東端空中写真(上が北東)
若田坂上遺跡より高崎市街地遠望（北西→）
PL. 3　西区　発掘調査前風景（南東→）
西区　発掘調査前風景（南→）
西区　発掘調査前風景（南東→）
西区　発掘調査前風景（南東→）
仮設事務所設置風景（南西→）
仮設事務所設置状況（南東→）
東区　重機による表土除去風景（南西→）
東区　重機による表土除去風景（南西→）
PL. 4　若田坂上遺跡　古墳群検出状況（上が北）
１号墳　検出状況（上が北）
１号墳　墳丘上As-B堆積状況（西→）
１号墳　葺石転石検出状況（北→）
１号墳　墳丘検出状況（北東→）
PL. 5　１号墳　主体部検出状況（南→）
１号墳　主体部検出状況（南西→）
１号墳　主体部完掘状況（南→）
１号墳　主体部検出状況（東→）
１号墳　主体部検出状況（西→）
１号墳　裏込め石検出状況（南→）
１号墳　裏込め石検出状況（東→）
１号墳　周溝堆積状況（北→）
PL. 6　２号墳　検出状況（上が北）
２号墳　検出状況（南→）
２号墳　周溝堆積状況（西→）
２号墳　主体部検出状況（南→）
２号墳　主体部検出状況（南東→）
PL. 7　２号墳　玄室礫床検出状況（南東→）
２号墳　玄室舗石検出状況（南東→）
２号墳　鉄鏃等遺物出土状況（東→）
２号墳　羨道設置礫検出状況（南東→）
２号墳　羨道完掘状況（南東→）
PL. 8　２号墳　閉塞石検出状況（北→）
２号墳　奥壁より玄門を望む（北→）
２号墳　閾石検出状況（北→）
２号墳　玄室奥壁検出状況（南東→）
２号墳　玄室東壁検出状況（西→）
２号墳　玄室西壁検出状況（東→）

PL. 9　2号墳　裏込め石検出状況（南東→）
2号墳　裏込め石一部除去検出状況（南東→）
2号墳　一段目側壁検出状況（南東→）
2号墳　裏込め被覆除去状況（南東→）
PL. 10　2号墳　一段目側壁検出状況（東→）
2号墳　一段目側壁検出状況（北→）
2号墳　側壁除去風景（南→）
2号墳　側壁除去作業実施状況（南東→）
2号墳　側壁除去状況（南→）
2号墳　根石検出状況（南→）
2号墳　掘り方完掘状況（南→）
2号墳　掘り方完掘状況（東→）
PL. 11　3号墳　検出状況（上が北）
3号墳　検出状況（北西→）
3号墳　周溝堆積状況（東→）
3号墳　葺石残存状況（西→）
3号墳　主体部検出状況（南→）
PL. 12　3号墳　礫床残存状況（南→）
3号墳　羨道閉塞石検出状況（北→）
3号墳　羨道閉塞石除去状況（北→）
3号墳　主体部検出状況（南→）
3号墳　羨道舗石検出状況（北→）
3号墳　閾石設置痕検出状況（北→）
3号墳　主体部検出状況（南→）
3号墳　主体部検出状況（西→）
PL. 13　3号墳　玄室奥壁抜き取り痕検出状況(西→)
3号墳　裏込め石検出状況（東→）
3号墳　羨道側壁検出状況（北→）
3号墳　羨道側壁検出状況（北東→）
3号墳　羨道西側壁検出状況（東→）
3号墳　羨道東側壁検出状況（西→）
3号墳　舗石除去状況（南→）
3号墳　裏込め石除去状況（南→）
PL. 14　3号墳　羨道一段目検出状況（北→）
3号墳　羨道一段目検出状況（南→）
3号墳　羨道礫除去状況（北→）
3号墳　側壁除去風景（北西→）
3号墳　掘り方完掘状況（南→）
3号墳　掘り方完掘状況（東→）
3号墳　掘り方完掘状況（南→）
3号墳　掘り方完掘状況（北→）
PL. 15　4号墳　検出状況（上が北）
4号墳　墳丘検出状況（南東→）
4号墳　主体部検出状況（南→）
4号墳　主体部検出状況（南→）
4号墳　北側撹乱確認状況（北→）
PL. 16　4号墳　主体部検出状況（東→）
4号墳　玄室検出状況（西→）
4号墳　玄室内遺物出土状況（西→）
4号墳　瓢形環状鏡板付轡出土状況(北西→)
4号墳　玄室内遺物出土状況（東→）
4号墳　玄室内遺物出土状況（北西→）
4号墳　玄室残存部・羨道検出状況(左が北)
PL. 17　4号墳　主体部西側壁検出状況（東→）
4号墳　主体部東側壁検出状況（西→）
PL. 18　4号墳　玄室礫床除去状況（北→）
4号墳　玄室礫床除去状況（北東→）
4号墳　玄室舗石検出状況（北→）
4号墳　閾石検出状況（北→）
4号墳　玄室舗石除去状況（南東→）
4号墳　玄室舗石除去状況（北→）
PL. 19　4号墳　閾石・閉塞石検出状況(北→)
4号墳　閾石検出状況（北→）
4号墳　閾石除去状況（北→）
4号墳　裏込め被覆検出状況（東→）
4号墳　西側裏込め被覆検出状況（東→）
4号墳　東側裏込め被覆検出状況（西→）
PL. 20　4号墳　一段目検出状況（南西→）
4号墳　一段目検出状況（西→）
4号墳　一段目検出状況（北→）
4号墳　根石検出状況（北→）
4号墳　掘り方検出状況（南→）
PL. 21　5号墳　検出状況（左が北）
5号墳　平成27年度調査時葺石検出状況（西→）
5号墳　平成27年度調査時葺石検出状況（南西→）
5号墳　平成27年度調査時墳丘断ち割り状況（西→）
5号墳　平成27年度調査時遺物出土状況（西→）
PL. 22　5号墳　平成29年度調査時遺構検出状況（西→）
5号墳　主体部付近礫検出状況（北→）
5号墳　礫廃棄坑調査状況（北西→）
5号墳　礫廃棄坑巨礫検出状況（東→）
5号墳　礫廃棄坑巨礫検出状況（北→）
5号墳　礫廃棄坑巨礫検出状況（東→）
5号墳　礫廃棄坑完掘状況（西→）
5号墳　礫廃棄坑完掘状況（南→）
PL. 23　5号墳　想定主体部検出状況（北→）
5号墳　想定主体部完掘状況（北→）
5号墳　遠景（西→）
5号墳　遠景（南西→）
5号墳　遠景（北西→）
5号墳　北側葺石検出状況（北西→）
5号墳　周溝完掘状況（北東→）
5号墳　周溝立ち上がり状況（南西→）
PL. 24　6号墳　検出状況（上が北）
6号墳　周溝完掘状況（西→）
7号墳　検出状況（上が北→）
7号墳　平成27年度調査時検出状況（南→）
5号墳　平成29年度調査時検出状況（南西→）
PL. 25　7号墳　埴輪列検出状況（南→）
7号墳　埴輪列検出状況（西→）
7号墳　埴輪列１号円筒埴輪検出状況(北→)
7号墳　埴輪列２号円筒埴輪検出状況(北→)
7号墳　埴輪列４号円筒埴輪検出状況(北→)
7号墳　埴輪列６号円筒埴輪検出状況(北→)
7号墳　埴輪列９号円筒埴輪検出状況(北→)
7号墳　埴輪列形象埴輪検出状況(北→)
PL. 26　7号墳　周溝内埴輪出土状況（南西→）
7号墳　須恵器大甕出土状況(北東→)
7号墳　主体部検出状況(西→)
7号墳　主体部根石検出状況(北→)
7号墳　主体部完掘状況(北→)
7号墳　主体部礫抜き取り痕検出状況(北→)
7号墳　北側周溝完掘状況（西→）
7号墳　東側周溝完掘状況（北→）
PL. 27　8号墳　検出状況（上が北）
8号墳　検出状況（南西→）

８号墳　葺石検出状況（南→）
８号墳　周溝内遺物出土状況（南→）
８号墳　人物埴輪出土状況（南東→）
PL. 28　８号墳　主体部検出状況（南→）
８号墳　主体部礫検出状況（南東→）
８号墳　粘土検出状況（南東→）
８号墳　主体部舗石検出状況（南東→）
８号墳　主体部内遺物出土状況（東→）
８号墳　主体部舗石除去状況（北東→）
８号墳　裏込め石検出状況（南東→）
８号墳　主体部完掘状況（南東→）
PL. 29　１号礫槨墓　検出状況（北→）
１号礫槨墓　調査状況（東→）
１号礫槨墓　礫床検出状況（北→）
１号礫槨墓　礫床検出状況（東→）
１号礫槨墓　壁体検出状況（東→）
１号礫槨墓　壁体検出状況（南→）
１号礫槨墓　掘り方完掘状況（北東→）
１号礫槨墓　遺物出土状況（東→）
PL. 30　１号石槨墓　検出状況（南→）
１号石槨墓　完掘状況（南→）
１号石槨墓　板石除去状況（南→）
１号石槨墓　掘り方完掘状況（南→）
１号土坑墓　調査状況（北→）
１号土坑墓　掘り方完掘状況（北→）
２号土坑墓　完掘状況（北東→）
２号土坑墓　掘り方完掘状況（北東→）
PL. 31　１号周溝墓　完掘状況（南西→）
１号周溝墓　完掘状況（北西→）
１号周溝墓　完掘状況（西→）
１号周溝墓　完掘状況（北東→）
１号周溝墓　周溝堆積状況（南西→）
PL. 32　１～５号礫床墓　検出状況（南西→）
１号礫床墓　検出状況（西→）
１号礫床墓　調査状況（南→）
１号礫床墓　鉄釧出土状況（南→）
１号礫床墓　鉄釧出土状況（東→）
PL. 33　１号礫床墓　完掘状況（南→）
１号礫床墓　礫床除去状況（南→）
１号礫床墓　端部ピット検出状況（南→）
１号礫床墓　掘り方完掘状況（南→）
１号礫床墓　東側端部ピット断ち割り断面（北東→）
１号礫床墓　２号人形土器頭部出土状況（南西→）
PL. 34　２号礫床墓　検出状況（北→）
２号礫床墓　完掘状況（北東→）
３号礫床墓　礫床検出状況（南東→）
３号礫床墓　礫床検出状況（北東→）
３号礫床墓　礫床除去状況（北東→）
３号礫床墓　端部礫除去状況（南西→）
３号礫床墓　掘り方完掘状況（北東→）
１号礫床墓　遺物出土状況（西→）
PL. 35　４・５号礫床墓　礫床検出状況（北東→）
４・５号礫床墓　礫床検出状況（南東→）
４・５号礫床墓　礫床検出状況（北西→）
４号礫床墓　礫床検出状況（北東→）
４号礫床墓　掘り方完掘状況（北東→）
PL. 36　５号礫床墓　礫床検出状況（北→）
５号礫床墓　掘り方完掘状況（北東→）
４・５号礫床墓　高坏出土状況（南東→）
６号礫床墓　検出状況（南西→）
６号礫床墓　礫床検出状況（北西→）
６号礫床墓　礫床除去状況（北西→）
６号礫床墓　端部ピット完掘状況（北西→）
６号礫床墓　遺物出土状況（南西→）
PL. 37　７号礫床墓　検出状況（北西→）
７号礫床墓　検出状況（北→）
７号礫床墓　検出状況（南→）
７号礫床墓　調査状況（南東→）
７号礫床墓　調査状況（南→）
７号礫床墓　礫床検出状況（北→）
７号礫床墓　礫床検出状況（南→）
７号礫床墓　掘り方完掘状況（南→）
PL. 38　１号竪穴建物跡　完掘状況（北→）
１号竪穴建物跡　カマド完掘状況（北→）
１号竪穴建物跡　カマド調査状況（西→）
１号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（北→）
２号竪穴建物跡　完掘状況（南西→）
２号竪穴建物跡　遺物出土状況（南東→）
２号竪穴建物跡　カマド完掘状況（南→）
２号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（南西→）
PL. 39　３号竪穴建物跡　完掘状況（東→）
３号竪穴建物跡　覆土堆積状況（東→）
４号竪穴建物跡　完掘状況（北→）
４号竪穴建物跡　遺物出土状況（北→）
４号竪穴建物跡　炉完掘状況（北→）
５号竪穴建物跡　完掘状況（南→）
５号竪穴建物跡　炉完掘状況（東→）
５号竪穴建物跡　遺物出土状況（北西→）
PL. 40　６号竪穴建物跡　完掘状況（東→）
６号竪穴建物跡　遺構内土坑完掘状況(東→)
６号竪穴建物跡　遺物出土状況（東→）
６号竪穴建物跡　遺物出土状況（北東→）
７号竪穴建物跡　完掘状況（東→）
７号竪穴建物跡　埋甕検出状況（北西→）
７号竪穴建物跡　１号埋甕出土状況(北西→)
７号竪穴建物跡　２号埋甕出土状況(北西→)
PL. 41　８号竪穴建物跡　完掘状況（南東→）
８号竪穴建物跡　遺物出土状況（南東→）
８号竪穴建物跡　カマド完掘状況（南東→）
８号竪穴建物跡　カマド 断ち割り状況（南西→）
８号竪穴建物跡　貯蔵穴完掘状況（南東→）
８号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（南東→）
９号竪穴建物跡　完掘状況（北→）
９号竪穴建物跡　掘り方状況（北→）
PL. 42　10号竪穴建物跡　完掘状況（南西→）
10号竪穴建物跡　完掘状況（北西→）
10号竪穴建物跡　炉完掘状況（南東→）
10号竪穴建物跡　遺物出土状況（北→）
10号竪穴建物跡　北東区画炭化材検出状況（北西→）
10号竪穴建物跡　南東区画炭化材検出状況（南西→）
10号竪穴建物跡　南西区画炭化材検出状況（北西→）
10号竪穴建物跡　南西区画炭化材検出状況（北東→）
PL. 43　11号竪穴建物跡　完掘状況（南西→）
11号竪穴建物跡　床面遺物出土状況(南東→)
11号竪穴建物跡　粘土検出状況（南→）
11号竪穴建物跡　３号ピット完掘状況西→）

11号竪穴建物跡　13号ピット完掘状況(東→)
PL. 44　11号竪穴建物跡　貯蔵穴完掘状況（北西→）
11号竪穴建物跡　貯蔵穴遺物出土状況(南→)
11号竪穴建物跡　貯蔵穴遺物出土状況(南西→)
11号竪穴建物跡　貯蔵穴遺物出土状況(西→)
11号竪穴建物跡　床下遺物出土状況（東→）
11号竪穴建物跡　３号土坑調査状況(北東→)
11号竪穴建物跡　６号土坑調査状況（西→）
11号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（南西→）
PL. 45　12号竪穴建物跡　完掘状況（北西→）
12号竪穴建物跡　炭化材・礫検出状況(北西→)
12号竪穴建物跡　遺物出土状況（南西→）
12号竪穴建物跡　カマド調査前状況北西→)
12号竪穴建物跡　カマド調査状況（北西→）
12号竪穴建物跡　カマド完掘状況（北西→）
12号竪穴建物跡　床下土坑完掘状況(北西→)
12号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（北西→）
PL. 46　13号竪穴建物跡　検出状況（北西→）
13号竪穴建物跡　完掘状況（北西→）
13号竪穴建物跡　カマド検出状況（西→）
13号竪穴建物跡　カマド土層断面（北→）
14号竪穴建物跡　検出状況（北西→）
14号竪穴建物跡　覆土堆積状況（西→）
14号竪穴建物跡　床面検出状況（北西→）
14号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（北西→）
PL. 47　15号竪穴建物跡　検出状況（南西→）
15号竪穴建物跡　床面検出状況（北西→）
15号竪穴建物跡　カマド調査状況（南西→）
15号竪穴建物跡　貯蔵穴完掘状況（北東→）
15号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（西→）
16号竪穴建物跡　床面検出状況（南西→）
16号竪穴建物跡　カマド調査状況（南西→）
16号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（南東→）
PL. 48　17号竪穴建物跡　検出状況（南東→）
17号竪穴建物跡　床面検出状況（南東→）
17号竪穴建物跡　貯蔵穴検出状況（南西→）
17号竪穴建物跡　３号土坑完掘状況(南西→)
17号竪穴建物跡　遺物出土状況（南東→）
17号竪穴建物跡　遺物出土状況（北東→）
17号竪穴建物跡　カマド残存状況（南西→）
17号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（南東→）
PL. 49　18号竪穴建物跡　完掘状況（南→）
18号竪穴建物跡　炉完掘状況（南→）
18号竪穴建物跡　金属製品出土状況（西→）
19号竪穴建物跡　床面検出状況（北東→）
19号竪穴建物跡　炉完掘状況（南東→）
19号竪穴建物跡　炭化材検出状況（南西→）
19号竪穴建物跡　遺物出土状況（北東→）
19号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（北東→）
PL. 50　20号竪穴建物跡　床面検出状況（北西→）
20号竪穴建物跡　炭化材検出状況（北西→）
20号竪穴建物跡　貯蔵穴完掘状況（北西→）
20号竪穴建物跡　貯蔵穴内遺物出土状況（北東→）
20号竪穴建物跡　こも編み石出土状況(東→)
20号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（北西→）
21号竪穴建物跡　床面検出状況（南西→）
21号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（南東→）
PL. 51　22号竪穴建物跡　床面検出状況（北東→）
22号竪穴建物跡　粘土塊検出状況（北→）
22号竪穴建物跡　遺物出土状況（北東→）
22号竪穴建物跡　遺物出土状況（北東→）
22号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（北東→）
23号竪穴建物跡　床面検出状況（北東→）
23号竪穴建物跡　遺物出土状況（南東→）
23号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（北東→）
PL. 52　24号竪穴建物跡　床面検出状況（南→）
24号竪穴建物跡　焼土検出状況（南→）
24号竪穴建物跡　炉完掘状況（南→）
25号竪穴建物跡　床面検出状況（南→）
25号竪穴建物跡　焼土検出状況（北西→）
25号竪穴建物跡　炉跡焼土層検出状況(西→)
25号竪穴建物跡　炉完掘状況（北東→）
25号竪穴建物跡　掘り方完掘状況（北→）
PL. 53　１号溝　完掘状況（北東→）
２号溝　完掘状況（北→）
３号溝　完掘状況（北→）
４・５号溝　完掘状況（南→）
６号溝　完掘状況（東→）
PL. 54　１号土坑　完掘状況（南→）
２号土坑　完掘状況（西→）
３号土坑　完掘状況（南西→）
４号土坑　完掘状況（北→）
５号土坑　完掘状況（北東→）
６号土坑　検出状況（西→）
６号土坑　土器棺内面（南東→）
６号土坑　完掘状況（西→）
PL. 55　７・８号土坑　完掘状況（東→）
９・10号土坑　完掘状況（南→）
11号土坑　完掘状況（北東→）
12号土坑　完掘状況（東→）
13号土坑　礫・遺物検出状況（南→）
13号土坑　完掘状況（南→）
16号土坑　完掘状況（東→）
17号土坑　遺物出土状況（東→）
PL. 56　18号土坑　完掘状況（南東→）
19号土坑　完掘状況（北西→）
20・21号土坑　完掘状況（南東→）
22号土坑　完掘状況（西→）
23号土坑　完掘状況（西→）
24号土坑　完掘状況（西→）
25号土坑　完掘状況（北西→）
26号土坑　完掘状況（北→）
PL. 57　27号土坑　完掘状況（西→）
28号土坑　完掘状況（東→）
29号土坑　完掘状況（東→）
30号土坑　完掘状況（西→）
31号土坑　完掘状況（南→）
32号土坑　完掘状況（西→）
33・34号土坑　完掘状況（南→）
35号土坑　完掘状況（南→）
PL. 58　36・37号土坑　完掘状況（南→）
38号土坑　完掘状況（北→）
39号土坑　完掘状況（北東→）
40号土坑　完掘状況（北西→）
41号土坑　完掘状況（北西→）
42号土坑　完掘状況（北西→）

43号土坑　完掘状況（東→）
43号土坑　完掘状況（北→）
PL. 59　44号土坑　完掘状況（西→）
45号土坑　完掘状況（北→）
46号土坑　完掘状況（北→）
47号土坑　完掘状況（北西→）
48号土坑　完掘状況（西→）
49号土坑　完掘状況（北西→）
50号土坑　完掘状況（北→）
51号土坑　完掘状況（東→）
PL. 60　52号土坑　完掘状況（南→）
53号土坑　完掘状況（東→）
54号土坑　完掘状況（北→）
55号土坑　完掘状況（南東→）
56号土坑　完掘状況（北西→）
57号土坑　完掘状況（東→）
58号土坑　礫検出状況（南西→）
58号土坑　完掘状況（南西→）
PL. 61　59号土坑　完掘状況（東→）
60号土坑　完掘状況（南→）
67号土坑　完掘状況（西→）
68号土坑　完掘状況（北西→）
１号ピット　完掘状況（東→）
２号ピット　完掘状況（東→）
３号ピット　完掘状況（東→）
４号ピット　完掘状況（西→）
PL. 62　５号ピット　完掘状況（東→）
６・７号ピット　完掘状況（東→）
９～12号ピット　完掘状況（東→）
13号ピット　完掘状況（東→）
14号ピット　完掘状況（東→）
15号ピット　完掘状況（東→）
16号ピット　完掘状況（東→）
PL. 63　17号ピット　完掘状況（北→）
18号ピット　完掘状況（東→）
19号ピット　完掘状況（西→）
20号ピット　完掘状況（西→）
21号ピット　埋甕埋設状況（北→）
21号ピット　埋甕検出状況（北→）
21号ピット　完掘状況（北西→）
22号ピット　完掘状況（南西→）
PL. 64　23号ピット　遺物出土状況（東→）
23号ピット　完掘状況（東→）
24号ピット　完掘状況（東→）
25号ピット　完掘状況（西→）
26号ピット　完掘状況（西→）
27号ピット　完掘状況（西→）
28号ピット　完掘状況（北東→）
29号ピット　完掘状況（北東→）
PL. 65　30号ピット　完掘状況（東→）
31号ピット　完掘状況（北→）
32号ピット　完掘状況（北東→）
38号ピット　完掘状況（南西→）
33～38号ピット　完掘状況（北東→）
PL. 66　東区　As-B軽石降下後掘削痕検出状況（北西→）
東区　As-B軽石降下後掘削痕検出状況（南東→）
PL. 67　As-A軽石埋没畠跡　検出状況（南→）
As-A軽石埋没畠跡　完掘状況（南西→）
As-A軽石埋没畠跡　検出状況（西→）
As-A軽石埋没畠跡　完掘状況（西→）
As-A軽石埋没畠跡　検出状況（北西→）
As-A軽石埋没畠跡　完掘状況（南西→）
As-A軽石埋没畠跡　土層断面（西→）
As-A軽石埋没畠跡　土層断面（西→）
PL. 68　As-A処理遺構　検出状況（北→）
As-A処理遺構　完掘状況（北→）
As-A処理遺構　検出状況（北→）
As-A処理遺構　完掘状況（北→）
As-A処理遺構　検出状況（北→）
As-A処理遺構　完掘状況（北→）
As-A処理遺構　完掘状況（南→）
近現代耕作痕　検出状況（西→）
PL. 69　基本土層①（東→）
基本土層②（東→）
基本土層③（南→）
基本土層④（南→）
基本土層⑤（南→）
基本土層⑥（南→）
PL. 70　基本土層⑦（北→）
基本土層⑧（西→）
基本土層⑨（北→）
基本土層⑩（西→）
基本土層⑪（西→）
基本土層⑫（南西→）
基本土層⑬（南西→）
基本土層⑭（西→）
PL. 71　１～３号墳　出土遺物
PL. 72　３・４号墳　出土遺物
PL. 73　４号墳　出土遺物
PL. 74　５号墳　出土遺物
PL. 75　６・７号墳　出土遺物
PL. 76　７号墳　出土遺物
PL. 77　７号墳　出土遺物
PL. 78　７号墳　出土遺物
PL. 79　７号墳　出土遺物
PL. 80　７・８号墳　出土遺物
PL. 81　８号墳　出土遺物
PL. 82　１号礫槨墓、２号土坑墓、１号周溝墓出土遺物
PL. 83　１号礫床墓　出土遺物
PL. 84　３～６号礫床墓、１・２号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 85　３・４号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 86　４・５号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 87　６・７号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 88　８～10号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 89　11号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 90　11号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 91　11号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 92　11・12号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 93　12～16号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 94　17・18号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 95　19・20号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 96　21～24号竪穴建物跡　出土遺物
PL. 97　１・３・４号溝、６・13・17号土坑　出土遺物
PL. 98　37・43・55・58・68号土坑、
８・11・21・23号ピット　出土遺物
PL. 99　遺構外　出土遺物

第１章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯

平成26年４月に高崎市都市整備部公園緑地課（以下、「公園緑地課」）より高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課（以下、「文化財保護課」）に、高崎市八幡霊園における墓地の拡張整備事業に係る埋蔵文化財の扱いについて協議依頼があった。また、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、同年４月２日に文化財保護法第94条に基づく通知が公園緑地課より文化財保護課に提出された。

本事業地および周辺の埋蔵文化財の分布は濃厚である。八幡霊園敷地内に県指定史跡・若田原遺跡群が所在している。かつて縄文時代や古墳時代の集落の調査がなされ、現在でも霊園内においてその遺構の一部が保存されている。また、若田大塚古墳をはじめ峯林古墳、楢ノ木塚古墳の３基の古墳が霊園敷地内に現存しており、すでに消滅した古墳を含めた古墳群が当地に所在したことが知られている。

事業地東隣には、古墳時代中期の円墳や積石塚と考えられる方墳、弥生時代や古墳時代の竪穴建物跡多数を検出した剣崎長瀞西遺跡が所在する。当遺跡からは土坑中より馬歯と共に国内最古級とされるＸ字形環状鏡板付轡が出土しており、さらに、馬具を装着した状態で馬が埋葬されていたことが推測される貴重な資料として注目される。その他、金製垂飾付耳飾や韓式系土器などの渡来系遺物の出土する遺跡としても名高い。なお、剣崎長瀞西遺跡の出土品は平成29年３月に県指定の重要文化財となっている。

事業地南隣には、古墳時代終末期の円墳を検出した若田金堀塚遺跡が、事業地南東には後期古墳を検出した大島原遺跡がそれぞれ所在しており、濃密な古墳分布を形成する。これら周辺遺跡の状況からは本事業地においても同種の遺構・遺物の検出が想定され、保存を必要とする埋蔵文化財が残されている可能性が高いことを確認した。

上記の埋蔵文化財を巡る環境を踏まえた協議を実施したが、公園緑地課より霊園拡張は急務であり事業計画の変更は困難であるとの回答を得た。事業予定地内において検出が予測される各種埋蔵文化財への工事による影響は不可避とのことであったため、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

なお、調査面積が広大のため、発掘調査は複数年度に亘り実施することとし、事業計画上優先順位の高い西側より調査を順次開始した。平成26年５月に調査を開始し、平成29年度まで延べ24ヶ月の調査を行った。

第２節　調査の方法

若田坂上遺跡は、西から東へと緩やかに傾斜する八幡台地上にあり、台地下と比高20mを超える見晴らしのよい高台から望む榛名山麓や高崎市域西部の景色は息をのむものがある。調査区が立地する地形は、当台地北縁の標高最高点より北の台地際へと緩やかに下る斜面地であり、さらに東側へと傾斜する下がり勾配となる。遺跡の東には当台地を南北に縦断する県道前橋安中富岡線が走るが、現在は切り通し状に下がる県道の地形は旧来の小谷地状の窪み地形を利用したものと考えられ、当遺跡と西隣の剣崎長瀞西遺跡とは地形的に分かれていた可能性が考えられる。

発掘調査対象面積は平成26年度調査約9,000㎡、平成27・28年度調査約4,800㎡、平成29年度調査約1,400㎡であり、合計では約15,200㎡である。

発掘調査着手前は、遺跡地は畑や梅林として利用されていた。そのため遺構確認面までは重機を使用した表土除去作業を行った。表土掘削および発掘調査中の掘削によって生じた排出土は、事業地内にて仮置きして管理した。

遺構確認面まで表土を除去した後、人力により遺構平面プランの検出を行い、遺構の形状や重複関係の確認を行った。遺構確認後は土層観察用ベルトの設定や半裁方向を決定し、順次人力での掘削を行った。土層観察用ベルトは、各遺構の埋土堆積状況などを観察し、分層作業や写真撮影、断面図化作業を行った後に取り除いた。それぞれの遺構より出土した遺物は、出土状況の記録写真撮影や分布状況の記録図面を作成した後、遺構ごとに取り上げを行った。

掘削が完了した遺構は、35㎜モノクロ・カラーリバーサルフィルムを使用したフィルムカメラおよびデジタルカメラにより記録写真撮影を行った

後、光波測距儀や平板測量で平面図および断面図等の記録図作成を行った。また、調査の進捗と共に随時、遺跡の空中写真撮影を実施した。

調査完了後の埋め戻し作業については、事業課との調整により部分的に実施した。

第３節 日誌抄

調査の経過を作業日誌より抜粋して振り返る。

平成26年度

５月14日　表土掘削を開始
６月19日　４号竪穴建物の調査
６月23日　６号土坑で臥せた甕が出土
７月２日　４号竪穴建物で耳栓が出土
７月３日　５号竪穴建物で石囲炉を検出
７月８日　６～11号竪穴建物を検出
７月11日　４号竪穴建物で石匙が出土
８月28日　東エリアの空撮
９月10日　７号竪穴建物の埋甕を検出
９月11日　８・９号竪穴建物を調査
９月18日　21号ピットから埋甕を検出
９月29日　10号竪穴建物の調査。炭化物・焼土が顕著
10月２日　11号竪穴建物の調査。内斜口縁坏や石製紡錘車が出土
10月７日　11号竪穴建物貯蔵穴から土器が出土
10月９日　11号竪穴建物の床面から完形に近い高坏や坏が多く出土
10月10日　集積遺構（ST01）を検出
10月27日　11号竪穴建物の主柱穴を６基検出
11月11日　12号竪穴建物で土器や石製紡錘車出土
12月19日　西エリアの空撮
１月13日　現場撤収完了

平成27年度

８月28日　表土掘削を開始
８月31日　１・３号墳、畠を検出
９月３日　カクランの下から２号墳を検出
９月４日　４号墳を検出
10月２日　４号墳から碧玉製管玉が出土
10月19日　３号墳の葺石の一部を検出
10月27日　５号墳を検出。埴輪片も多く出土
11月25日　高崎市立西部小学校５・６年生が見学
11月26日　２号墳の主体部を調査開始
11月27日　13・15号竪穴建物の床面を検出
11月28日　現地説明会を実施。見学者は88名
11月30日　４号墳の主体部を検出
12月４日　２号墳の主体部礫床を検出
12月７日　３号墳の主体部を調査
12月８日　２号墳で鉄鏃が出土
12月９日　４号墳で瓢形環状鏡板付轡が出土
12月10日　17号竪穴建物の床面を検出
12月16日　４号墳玄室より遺物が多数出土
12月24日　４号墳の玄室礫床を検出
１月26日　７・８号墳を検出。埴輪片が多く出土
１月27日　８号墳の葺石を一部確認する
２月３日　８号墳で馬、人物など形象埴輪が出土
２月10日　７号墳の墳丘下から１号礫床墓を検出
２月15日　８号墳の主体部を調査
２月18日　７号墳で馬形埴輪基部の残存を確認
２月19日　１号礫床墓付近より１号人形土器の頭部が出土
２月22日　１号礫床墓内より鉄釧が出土
３月２日　３号礫床墓を検出
３月３日　２・３号墳の壁石を除去
３月７日　７号墳周溝より２号人形土器の頭部が出土
３月24日　19～21号竪穴建物の床面を検出
３月25日　18号竪穴建物の床面を検出

平成28年度

４月６日　22号竪穴建物の床面を検出
４月11日　23号竪穴建物の床面を検出
４月18日　３号礫床墓より石鏃が出土
４月19日　並列する４・５号礫床墓を検出
４月26日　全景写真の撮影
５月31日　現場撤収完了

平成29年度

11月14日　表土掘削を開始
11月21日　５号墳の葺石を確認
11月28日　近世畠およびAs-A処理遺構を検出
12月18日　７号墳主体部の礫を一部確認
１月９日　７号墳北東側の周溝で須恵器大甕出土
１号礫床墓検出。残存良好の土器出土
２月９日　８号墳周溝完掘
２月14日　空撮
２月21日　１号周溝墓を検出。S字甕片が出土
２月28日　１号礫床墓内から高坏と小型甕が出土
３月２日　２号礫床墓を検出
３月12日　１号礫床墓の礫床面まで完掘
３月20日　現場撤収完了

第２章　地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

若田坂上遺跡は、群馬県高崎市若田町字坂上に所在する。本遺跡は高崎市中心部より北西6.3kmの八幡台地上にある。JR信越本線『群馬八幡駅』から北西1.9kmにあり、同台地上に鎮座する上野国一社八幡宮や大聖護国寺からは北西1.2kmに位置している。本遺跡に隣接して、西に高崎市八幡霊園、南に若田浄水場、南東に高崎市立西部小学校がそれぞれ所在する。八幡台地は、台地を縦断する県道前橋安中富岡線、南側台地下の国道18号線、北側台地下の国道406号線に挟まれており、本遺跡は高崎市西部地域に形成された主要な交通網のさなかに所在する。

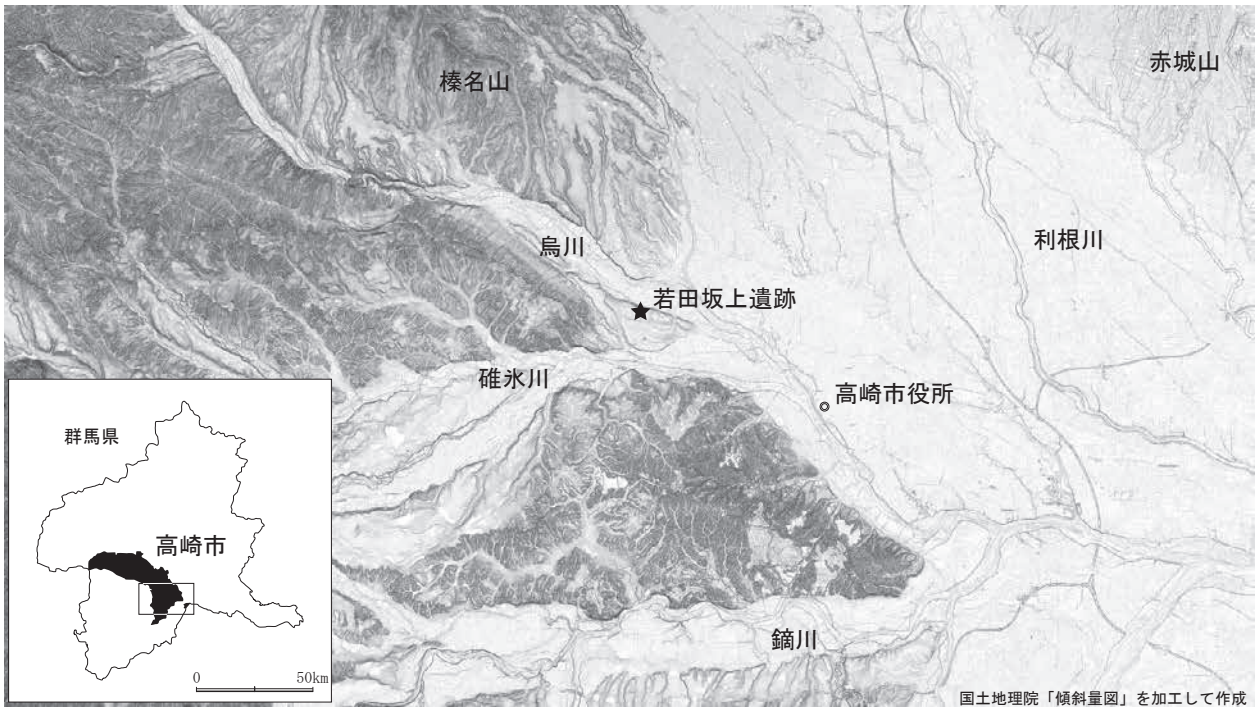
八幡台地は、巨視的には榛名山の南東麓地域に属するものと考えられる。榛名山からは南東流する烏川を隔てた対岸に位置しており、地形的には秋間丘陵から高崎の平野部へと突き出す尾根の先端で舌状台地の様相を呈している。地質的には砂・礫、ロームなどの火山噴出物により成り、台地の北側には南東流する里見川や烏川、南側に東流する碓氷川がある。遺跡地の標高は現地表面でおよそ148mを測り、当台地北側の台地下にある烏川の河岸段丘とは比高20m以上の高台となる。

西から東へと緩やかに傾斜する八幡台地は、本遺跡を含む若田町～八幡町近辺では細かな谷筋によって大きくは３つの支台に細分される。付近の小字名を概観すると、北の谷筋では「飢渇谷津」や「谷津」、南の谷筋では「清水久保」「上谷津」「中谷津」「下谷津」など水や谷地形に関わる名が窺え、現状でも当該谷筋の地形が周囲より窪んでいることが一目瞭然である。これらの支台のうち、若田屋敷裏遺跡や八幡中原遺跡に代表される古代の遺構は中央（中原支台）、観音塚古墳に代表される大型前方後円墳は南（八幡支台）にそれぞれ立地する。本遺跡は最も北側に位置する支台（若田支台）上にあり、榛名山から高崎市域西部が一望できる八幡台地北側縁辺部に位置している。

第２節　歴史的環境

若田坂上遺跡(１)が立地する八幡台地上には数多くの遺跡が所在する。以下で時期ごとに見られる遺跡の摘要を記す。

旧石器時代　高崎の旧市内では旧石器時代に属する遺跡の検出は顕著でなく遺物の出土が散見されるのみである。本遺跡周辺では、八幡中原遺跡(16)でローム中より石器数点の検出があったほか、後世の遺構より流入遺物として数点が出土しているのみである。



第１図　若田坂上遺跡　位置図

縄文時代　本遺跡東に所在する剣崎長瀞西遺跡(13)では草創期土器群の出土があり、本遺跡周辺の縄文時代の活動が当該期まで遡る可能性を示唆している。また、本遺跡南東の大島原遺跡(８)では調査範囲が狭いながらも竪穴建物跡を検出し、中期後半を中心に一部前期後半まで遡る土器も出土している。本遺跡西の若田原遺跡(14)はやはり中期後半を核とし前期末から後期にかけての集落展開を確認しており、本台地における中核的な遺跡と位置づけられている。

弥生時代　本遺跡周辺では剣崎長瀞西遺跡および八幡遺跡(23)の周辺において集落遺構の検出が顕著である。剣崎長瀞西遺跡(剣崎遺跡)では後期を中心に竪穴建物跡78軒が検出されている。南西１kmの八幡遺跡では、後期を中心に50軒を超える竪穴建物跡が確認されており、遺構埋土中に一次堆積と推定される浅間Ｃ軽石層があることから建物跡の埋没時期を知ることが可能な例が含まれる。また、八幡遺跡に近接して四ノ市遺跡(24)や八幡六枚遺跡(22)などでも竪穴建物跡が検出されており、これらの遺跡の動向は八幡台地南縁の集落展開を考える上で重要な資料となる。なお、八幡遺跡では、礫床墓や土坑墓の検出に加えて銅釧が出土した特殊遺構のほか、土坑墓から鉄剣１振を検出している。竪穴建物跡の検出数に比して墓の数が限定的であるが、本遺跡と同一台地上で釧と剣を併せ持つ集団の存在が目を引く。

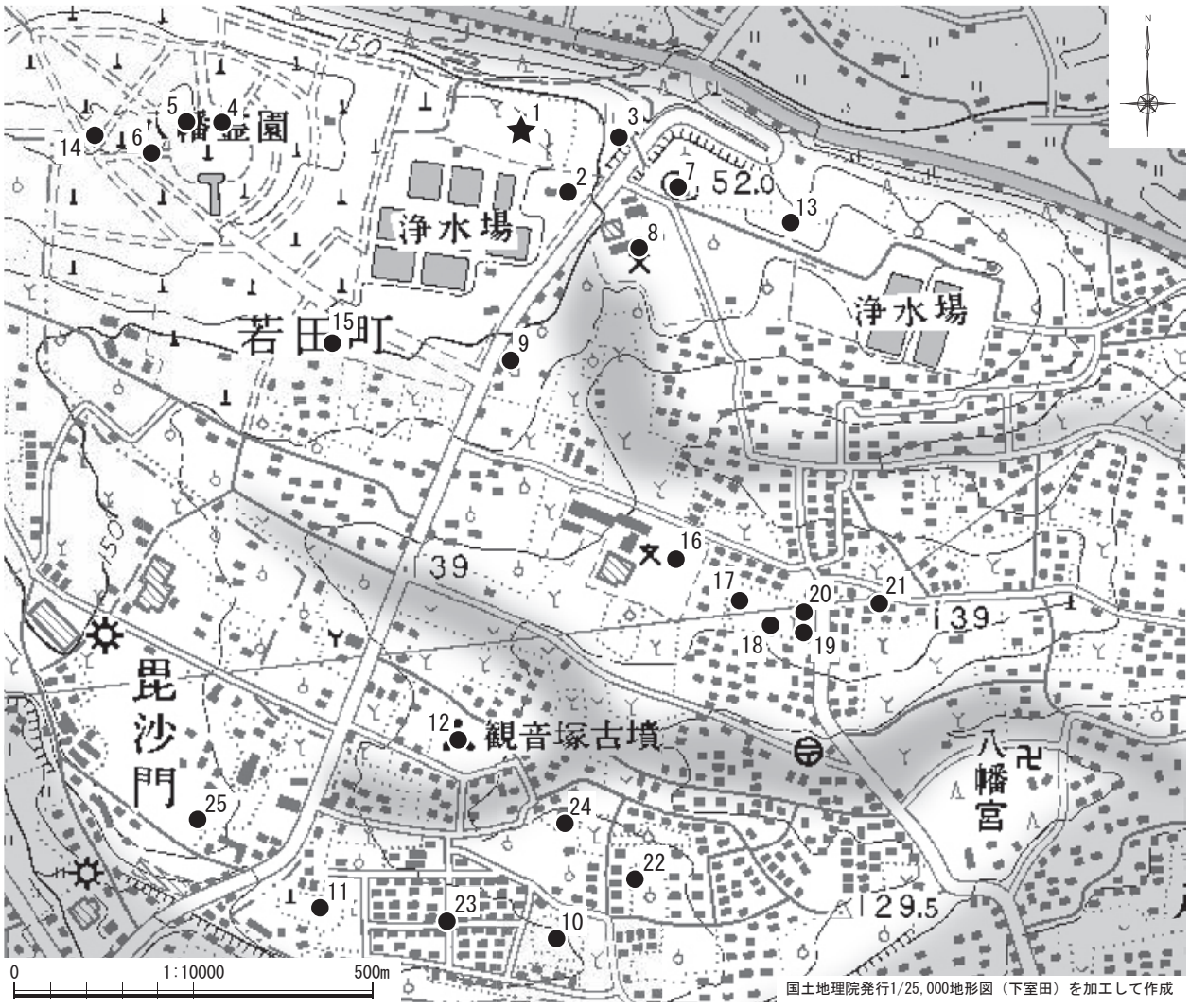
さらに、東2.2kmの引間遺跡では後期竪穴建物跡37軒を検出しており、北西2.6kmの下里見宮谷戸遺跡や南東2.7kmの少林山台遺跡では礫床墓を検出している。大規模な集落域や共通する墓形態など、本台地を巡っては集団間の関係性が注視される遺跡が少なくない。

古墳時代　本遺跡周辺には、西方に鉄製矛や横矧板鋲留短甲を出土した若田大塚古墳(４)や楢ノ木塚古墳(５)、峯林古墳(６)があり、東には三角板革綴短甲や滑石製模造品を出土した剣崎長瀞西古墳(７)、方形墳や積石塚が確認された剣崎長瀞西遺跡、後期～終末期古墳が調査された大島原遺跡のほか、本遺跡に南接して終末期の円墳１基を検出した若田金堀塚遺跡(２)などがある。また、すでに平夷されたが東1.6kmにあり多数の滑石製模造品を出土した剣崎天神山古墳をはじめ、八幡霊園内や西部小学校東の斜面地付近には多数の古墳があったとされ、本遺跡周囲には古墳が高密度に構築されていることが理解される。

八幡台地南辺には二子塚古墳(10)、平塚古墳(11)、国史跡八幡観音塚古墳(12)が比較的良好な状態で現存する他、八幡遺跡では全長30mの前方後円墳１基および円墳22基が調査された。剣崎長瀞西遺跡では、韓式系土器や金製垂飾付耳飾などの出土があり、渡来系要素の強い集団の存在が想定されている。また、土坑より馬歯と共に出土し馬に装着した状態で埋まられたと考えられる轡はＸ字鋲留の鏡板を持つ特徴的なもので、国内最古級とされ注目を浴びる。

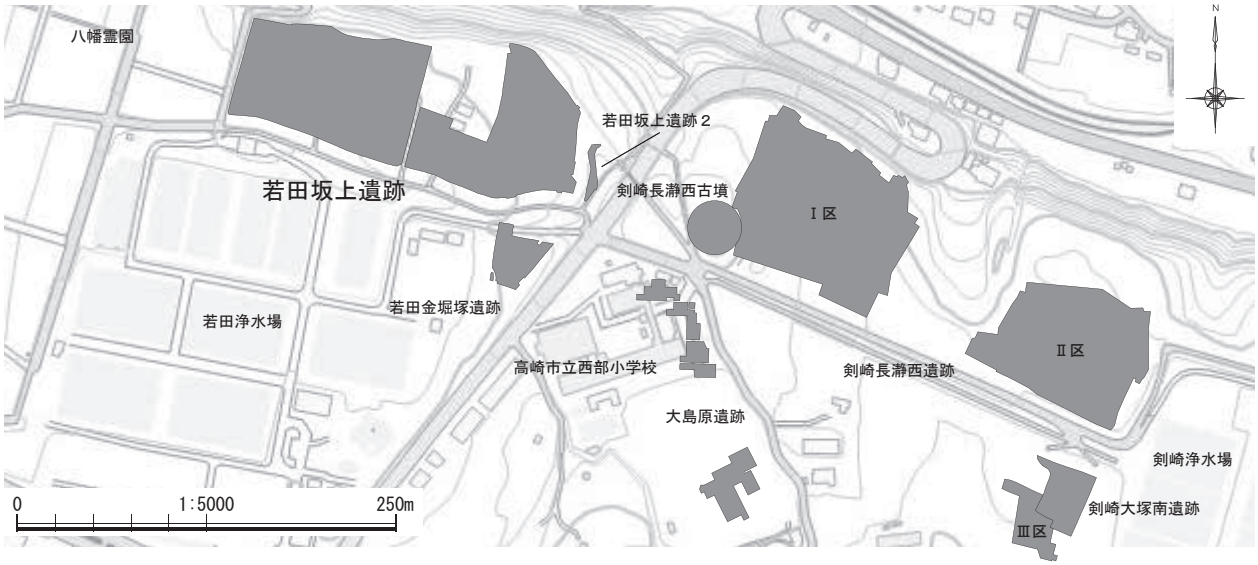
奈良・平安時代　本遺跡周辺では、若田屋敷裏遺跡(15)で古墳時代後期～奈良・平安期となる竪穴建物跡27軒を検出しており、その他、やや大型となる２棟を含む掘立柱建物跡７棟を確認している。本遺跡より南東0.6kmに所在する八幡中原遺跡では、中学校建設に伴う１・２次調査(16)で雨落ち溝を持つ大型掘立柱建物跡を検出しており、一般集落とは異なる特殊な遺構を想定することができる。また、３次調査(17)・５次調査(19)・６次調査(20)や七五三引(しめびき)遺跡(21)において、版築による掘込地業や礎石と想定される大型礫が多数確認されていることから、地盤改良を伴う礎石建物の存在が示唆される。さらに、これらの掘込地業を伴う遺構が一定の規則をもった配置を取ることが明らかとなった他、３次調査や４次調査(18)で区画と考えられる大規模な溝が検出されている。これらの調査成果からは、規則的な配置を見せ、溝により区画された建物群の存在が想定される。これらの遺構に加え４次調査では溝より円面硯片、八幡中原遺跡南方400mの八幡六枚遺跡２(22)では肩部に「片罔郡」と刻書された須恵器甕片がそれぞれ出土している。罔は岡の異体字とされ、和銅四(711)年の多胡郡建郡を記念する多胡碑の碑文にも見えるが、これら遺構遺物の様相から、八幡中原遺跡を中心とする当八幡台地に古代片岡郡に関連する官衙遺跡が存在したことが想定される。

中世　本遺跡が立地する八幡台地の東、中原支台の東端には鳴熊城（永正年間)、南の八幡支台には八幡館（15世紀末～16世紀初頭）などが知られるほか、同支台に鎮座する八幡神社には堀や土塁の一部が見られる。台地南の平地には剣崎小路城や木嶋屋敷が所在したとされる。



1．若田坂上遺跡（本調査）　2．若田金堀塚遺跡　3．若田坂上遺跡２　4．若田大塚古墳　5．楢ノ木塚古墳　6．峯林古墳
7．剣崎長瀞西古墳　8．大島原遺跡　9．物見塚古墳　10．八幡二子塚古墳　11．平塚古墳　12．観音塚古墳　13．剣崎長瀞西遺跡
14．若田原遺跡　15．若田屋敷裏遺跡　16．八幡中原遺跡（１・２次）　17．八幡中原遺跡（３次）　18．八幡中原遺跡（４次）
19．八幡中原遺跡（５次）　20．八幡中原遺跡（６次）　21．七五三引遺跡　22．八幡六枚遺跡２　23．八幡遺跡　24．四ノ市遺跡
25．龍的塚古墳

第２図　若田坂上遺跡および周辺遺跡　位置図



第３図　若田坂上遺跡および周辺遺跡　配置図

第３章　検出した遺構・遺物

第１節　調査の概要

今回の調査では、縄文時代から古代まで各種遺構および遺物を検出した。遺構の内訳は、円墳８基、礫槨墓１基、石槨墓１基、土坑墓２基、周溝墓１基、礫床墓７基、竪穴建物跡25軒、溝６条、土坑65基、ピット38基である。また、平安時代後期以降および近世の畠跡、ならびに近世の浅間山降下火山灰等による罹災復旧痕が随所に見られる。

各遺構より多くの遺物が出土している。４号竪穴建物跡からは縄文時代中期の土器群を中心に多くの遺物が出土し、７号竪穴建物跡では遺構中央部と想定される箇所から埋甕２個体が検出されている。また、11号竪穴建物跡からは坏類等の土器や滑石製品が多数出土し、４号墳からは群馬県域では類例の少ない瓢形環状鏡板付轡が出土している。さらに、特筆すべきは１号礫床墓より出土した鉄釧および同遺構の周辺より検出した人形土器２体であろう。鉄釧は県内でも数例程度しか検出されていない希少な遺物であり、高崎市の出土例としては本遺跡のものが初となる。また、鉄釧を検出した同礫床墓に人形土器２体が伴う可能性が示唆され、類例の少ない貴重な出土状況といえる。

上記の資料価値の高さから、人形土器２点、鉄釧14点（残欠13点含む）、石鏃１点、土器３点の合計20点を「若田坂上遺跡礫床墓出土品」として、令和２年11月に高崎市指定文化財に認定した。

第２節　基本土層

本遺跡の調査前現況の標高最高所は遺跡南西隅でおよそ海抜155.0m、最低所は北東隅のおよそ147.4mであり、全体的には南西から北東へと下がる比高およそ８mの傾斜地に立地している。事業対象地は、調査以前には畑や梅林として利用されていた。地元の方によると畑ではウド栽培を行っていたとのことで、西区南半および東区西側の範囲で、ローム層まで掘削された均一な間隔で連続するトレンチ状の耕作痕を多数検出した。

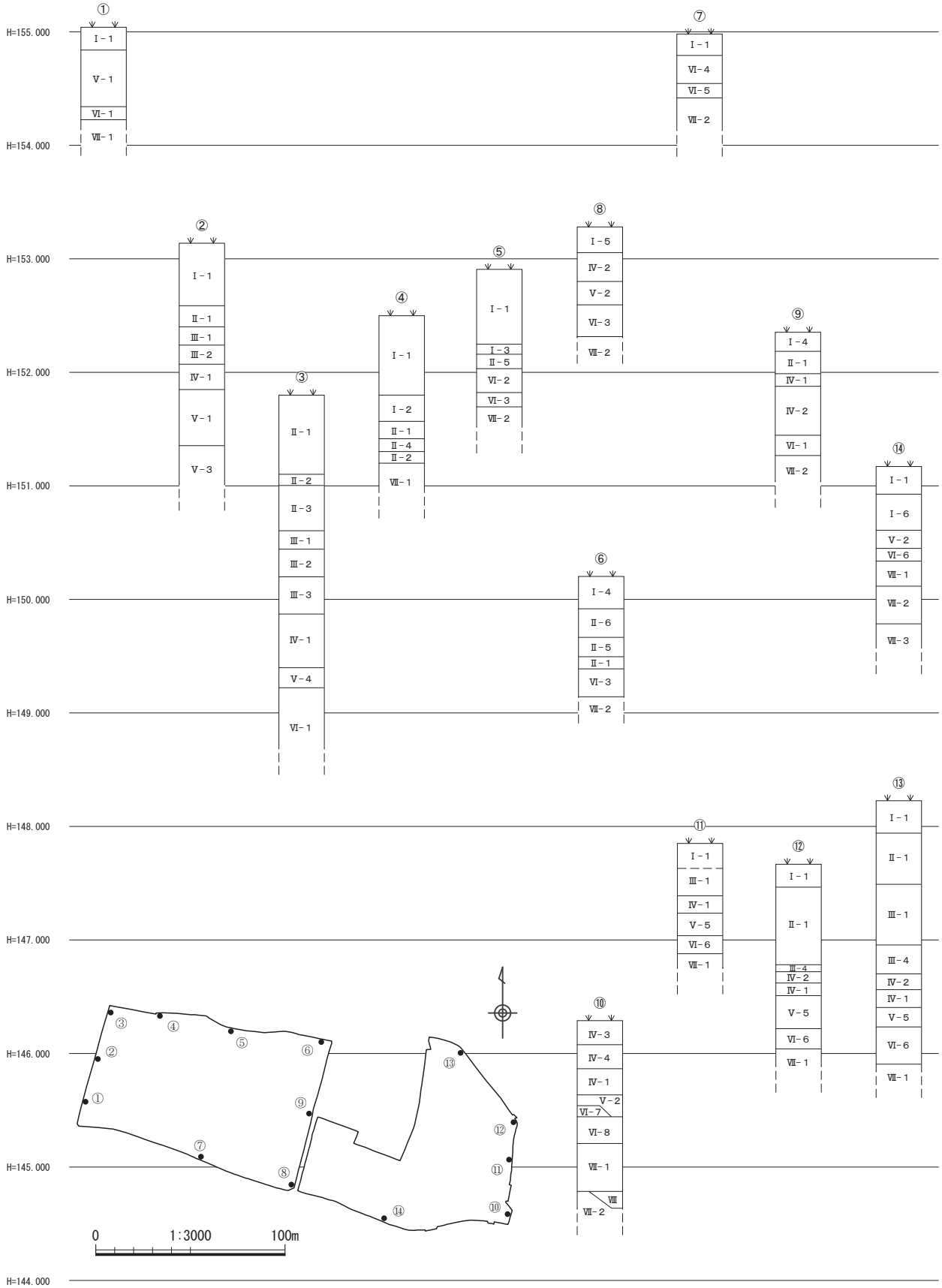
発掘調査に際して基本土層を14地点で観察した。標高がより高い西区の南半では、表土層を除去すると、若干の黒色土層をはさみ比較的すぐにローム漸移層が露出する(①、⑦、⑧)。土層断面の観察ではテフラの一次堆積層を確認できる箇所はなく、面的にもAs-BやAs-Cの検出はまばらであった。

一方、事業対象地北端には台地の北縁に沿うように明治期布設とされる水道管[※1]があるが、この布設の際に実施されたと考えられる厚さ1.2mにもなる造成土が確認された(③～⑤)。当該の水道管は本遺跡地付近ではすでに使用されていないが、布設当時と思われる造成の痕跡は現在でも確認できる。なお、土層断面の観察からはAs-A混土層の上位にロームを巻き込む造成土が看取され、造成には大規模な土壌の移動が伴ったことが理解される。また、軽石層との関係により近世以降の造成といえるため、水道布設時期との齟齬はない。この造成土のためか部分的にではあるが旧状が保たれたために、西区北西側では北西へと下がる小谷地状の窪みにAs-Bの堆積が観察された。西区北東はゆるやかな下がり傾斜となるが、やはり遺跡土の多くは失われており、表土やAs-A混入土層を取り除くとすぐさまローム漸移層が露出する(⑥)。

東区の西側では、西区同様にウド栽培の連続耕作痕による近現代の影響が著しいが、東区中央付近より東にはAs-Bの堆積層(Ⅲ層)が検出された。特にAs-Bが顕著に見られたのは検出された複数の円墳の周溝内覆土の上層においてであり、円墳以外の平坦面上では層としては薄く、残存が良好であったとはいい難い。As-Bを除去するとAs-Cを混入する黒色土(Ⅳ層)が広範囲に見られ、円墳や古墳時代竪穴建物跡の確認面となる。

As-Cは黒色土との混土層として調査区内随所で見られるが、一次堆積層やそれに準じるような単一層は確認できなかった。As-C混土層以下にはAs-Cが混入しない黒色土層(Ⅴ層)があるが、いずれの地点でも概ね20cm内外の厚みとなる。この黒色土層以下にはグラデーションでロームを混入する漸移層(Ⅵ層)が見られ、ロームの混入比率を高めてローム層(Ⅶ層)に至る。上位に拳～人頭大の礫を多量に含む泥流堆積物の様相を呈し、厳密にはロームの再堆積ということであろうか。Ⅶ層を50cmほど掘削するとAs-YP（Ⅷ層）が顔を出す。As-YP層まで掘削が及ぶ遺構はほぼない。

※１　近代化し成長を続ける高崎の飲料水確保を目的に計画された、上里見町で取水した水を剣崎町に築いた貯水池・ろ過池を経て高崎市街地へと送水する水道管の布設工事。日露戦争勃発に伴う中断を経て、明治40年に着工、同43年に完成。『高崎市史』通史編４より



第４図　若田坂上遺跡　基本土層柱状図

基本土層

Ⅰ－１　黒色（10YR 2/1）　　表土。As-A混。しまり弱、粘性やや弱。
Ⅰ－２　黒褐色（10YR 3/2）　　黄褐色粒子(φ2～3mm)少量。As-YP含む。しまりやや弱、粘性やや弱。
Ⅰ－３　灰黄褐色（10YR 5/2）　表土。ゴミを含む。しまりやや弱、粘性弱。
Ⅰ－４　暗褐色（10YR 3/3）　　表土。しまり弱、粘性弱。
Ⅰ－５　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　表土。As-A混。しまりやや強、粘性弱。
Ⅰ－６　黒褐色（10YR 2/3）　　植物根が顕著でボソボソする。しまりやや弱、粘性やや弱。

Ⅱ－１　黒褐色（10YR 3/2）　　As-A混。しまり強、粘性弱。
Ⅱ－２　黄褐色（10YR 5/6）　　As-A混。ロームと黒色土が混在。しまりとても強、粘性やや強。
Ⅱ－３　褐灰色（10YR 4/1）　　As-A混。黄褐色粒子(φ3～5mm)少量。小礫含む。しまりやや強、粘性やや弱。
Ⅱ－４　黒褐色（10YR 2/2）　　As-A、炭化物、遺物含む。黄褐色粒子(φ3～5mm)多量、ブロック(φ7～10mm)やや多量。しまりとても強、粘性やや弱。
Ⅱ－５　暗褐色（10YR 3/3）　　As-A混。しまりやや強、粘性弱。
Ⅱ－６　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　As-A混(密度高い)。しまりやや強、粘性弱。

Ⅲ－１　黒褐色（10YR 3/2）　　As-B混。夾雑物少ない。しまり強、粘性弱。
Ⅲ－２　黒褐色（10YR 3/2）　　As-B混。黄褐色粒子(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
Ⅲ－３　黒褐色（10YR 3/1）　　As-C含む。黄褐色ロームブロック(φ3～5cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
Ⅲ－４　黒褐色（10YR 3/2）　　As-B混。しまりやや弱、粘性なし。

Ⅳ－１　黒色（10YR 2/1）　　As-C混(やや多量)。As-YP少量。しまり強、粘性やや弱。
Ⅳ－２　黒褐色（10YR 3/2）　　As-C混(少量)。シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
Ⅳ－３　暗褐色（10YR 3/3）　　As-C混。炭化物含む。しまり強、粘性弱。
Ⅳ－４　黒褐色（10YR 3/2）　　As-C混(やや多量)。しまり強、粘性やや弱。

Ⅴ－１　黒褐色（10YR 2/2）　　As-YP含む。小礫少量含む。しまりやや強、粘性やや強。
Ⅴ－２　黒褐色（10YR 3/1）　　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
Ⅴ－３　黒色（10YR 1.7/1）　　As-YP含む。しまりとても強、粘性やや弱。
Ⅴ－４　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。
Ⅴ－５　黒褐色（10YR 3/2）　　As-YP僅かに含む。しまり強、粘性やや弱。

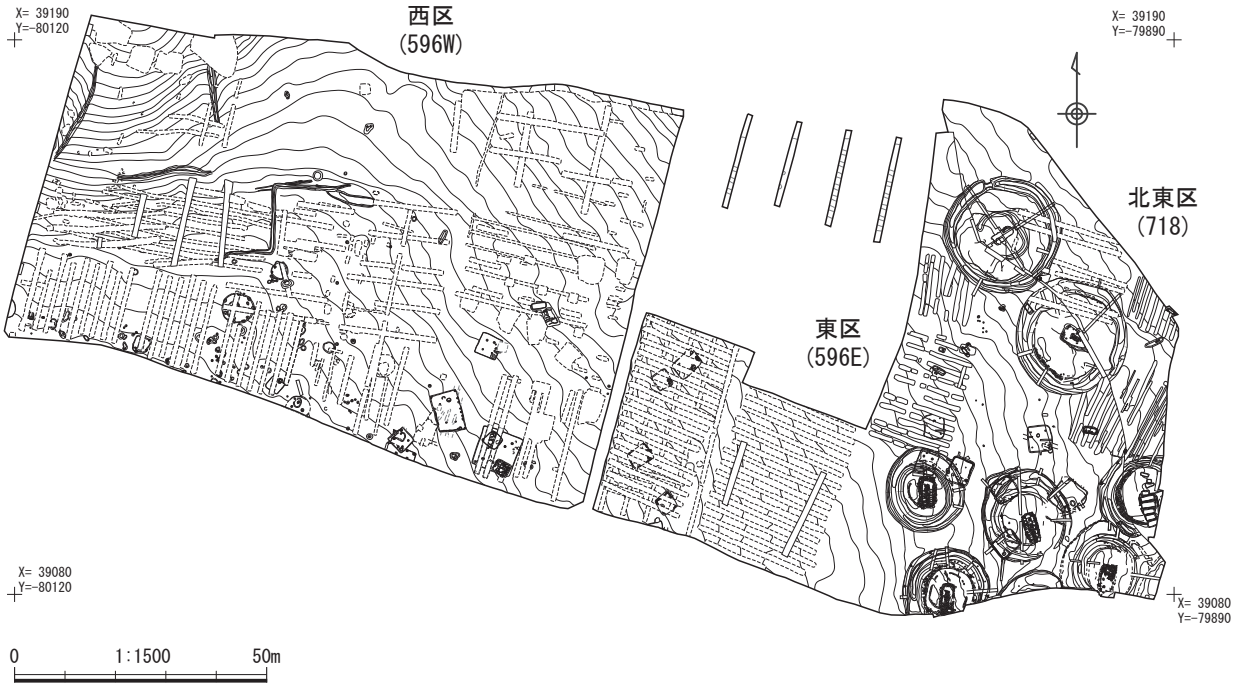
Ⅵ－１　黒褐色（10YR 3/1）　　ロームと黒褐色土との漸移層。拳大の礫含む。しまりやや強、粘性やや強。
Ⅵ－２　明黄褐色（10YR 6/6）　黒褐色土混在。しまり強、粘性弱。
Ⅵ－３　黄褐色（10YR 5/6）　　黒褐色土少量混在。しまり強、粘性弱。
Ⅵ－４　黒褐色（10YR 2/2）　　軽石なし。シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
Ⅵ－５　黒褐色（10YR 3/1）　　シルト(φ3～5mm、φ1～2cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
Ⅵ－６　黒褐色（10YR 3/1）　　漸移層。黄褐色ローム(φ5～7mm)やや少量。層下位はロームの混入が多い。As-YP含む。しまりとても強、粘性やや強。
Ⅵ－７　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　漸移層。As-YP少量。黄褐色シルトが全体的に含まれるローム(φ5～7mm)やや少量。しまり強、粘性強。
Ⅵ－８　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　黄褐色シルト主体。しまり強、粘性強。

Ⅶ－１　明黄褐色（10YR 6/8）　シルト質。礫含む。しまりとても強、粘性強。
Ⅶ－２　黄褐色（10YR 5/6）　　シルト。礫、As-YP含む。しまりやや強、粘性強。
Ⅶ－３　黄褐色（10YR 5/6）　　シルト。As-YPを多量に含む。しまりとても強、粘性とても強。

Ⅷ－１　黄橙色（10YR 8/8）　　As-YP。発泡した黄色味の強い軽石。しまりやや強、粘性なし。

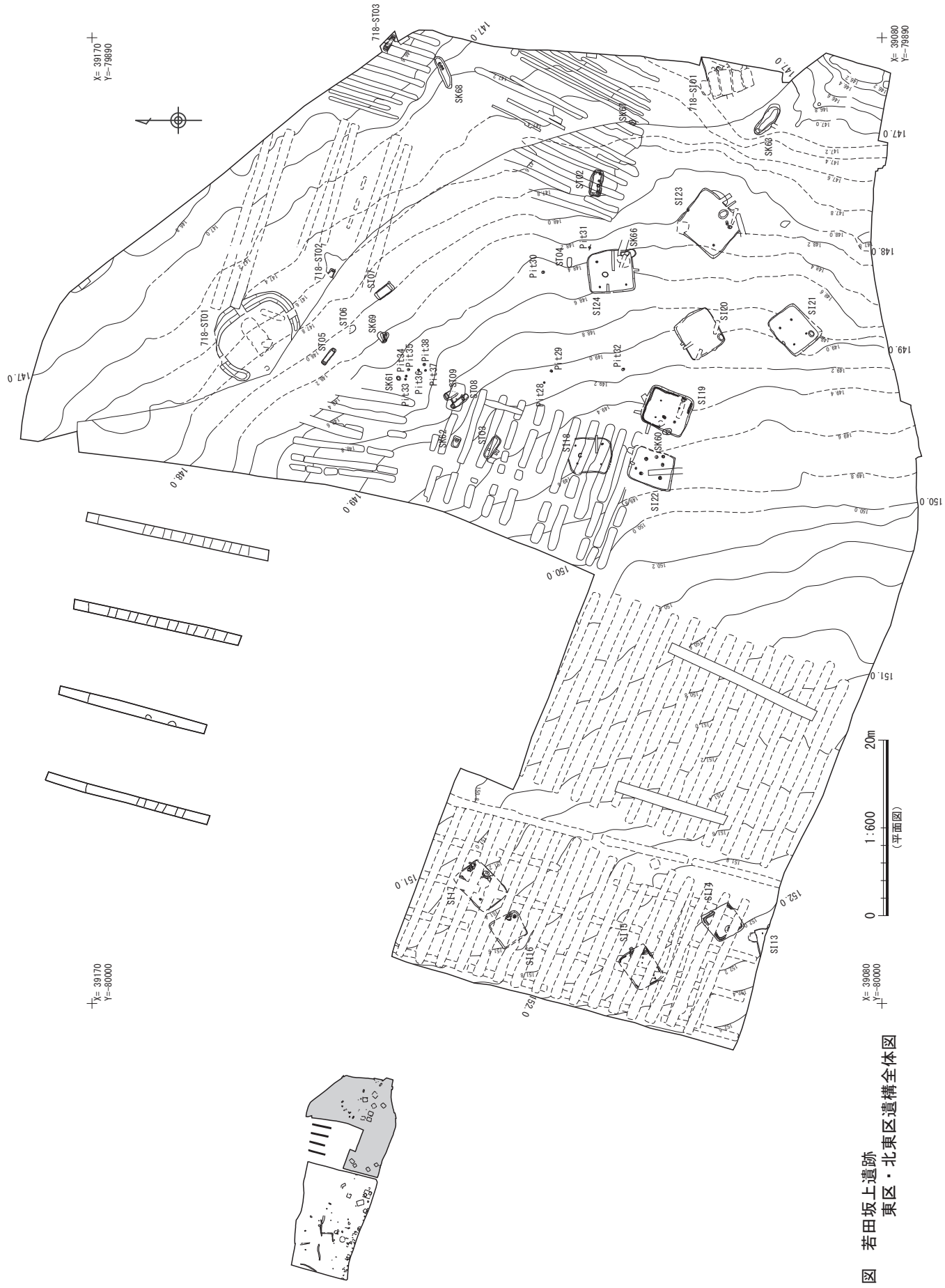
凡例

Ⅰ　表土
Ⅱ　As-A（混土）
Ⅲ　As-B（混土）
Ⅳ　As-C（混土）
Ⅴ　黒色土（As-C下）
Ⅵ　漸移層（黒色土～黄褐色土）
Ⅶ　ローム（黄褐色）
Ⅷ　As-YP

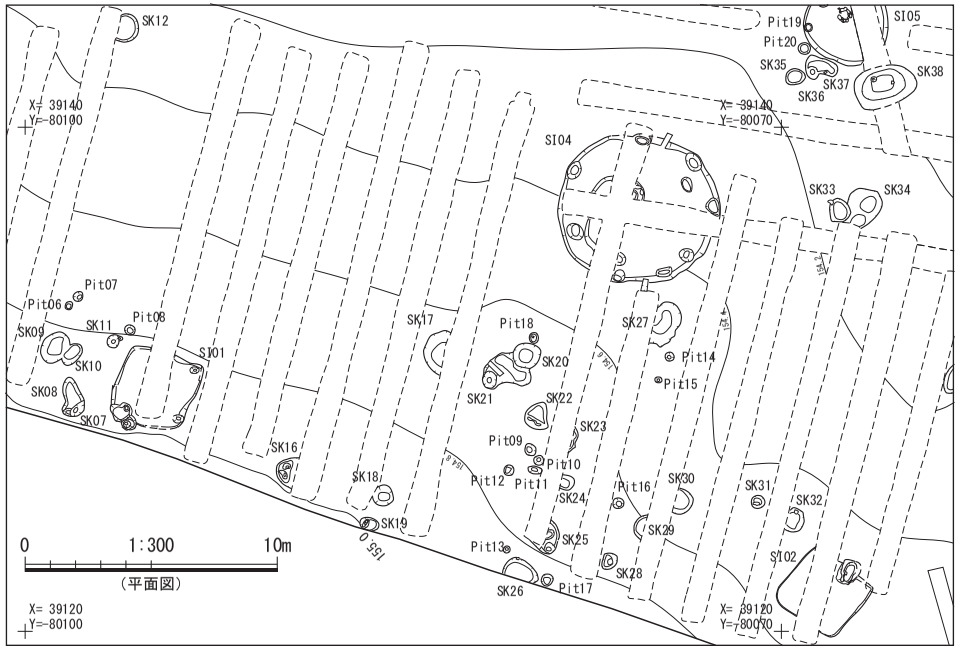


第５図　若田坂上遺跡　遺跡全体図

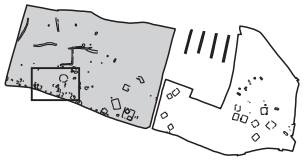
第６図　若田坂上遺跡　西区遺構全体図

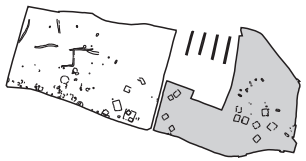


第７図　若田坂上遺跡
東区・北東区遺構全体図



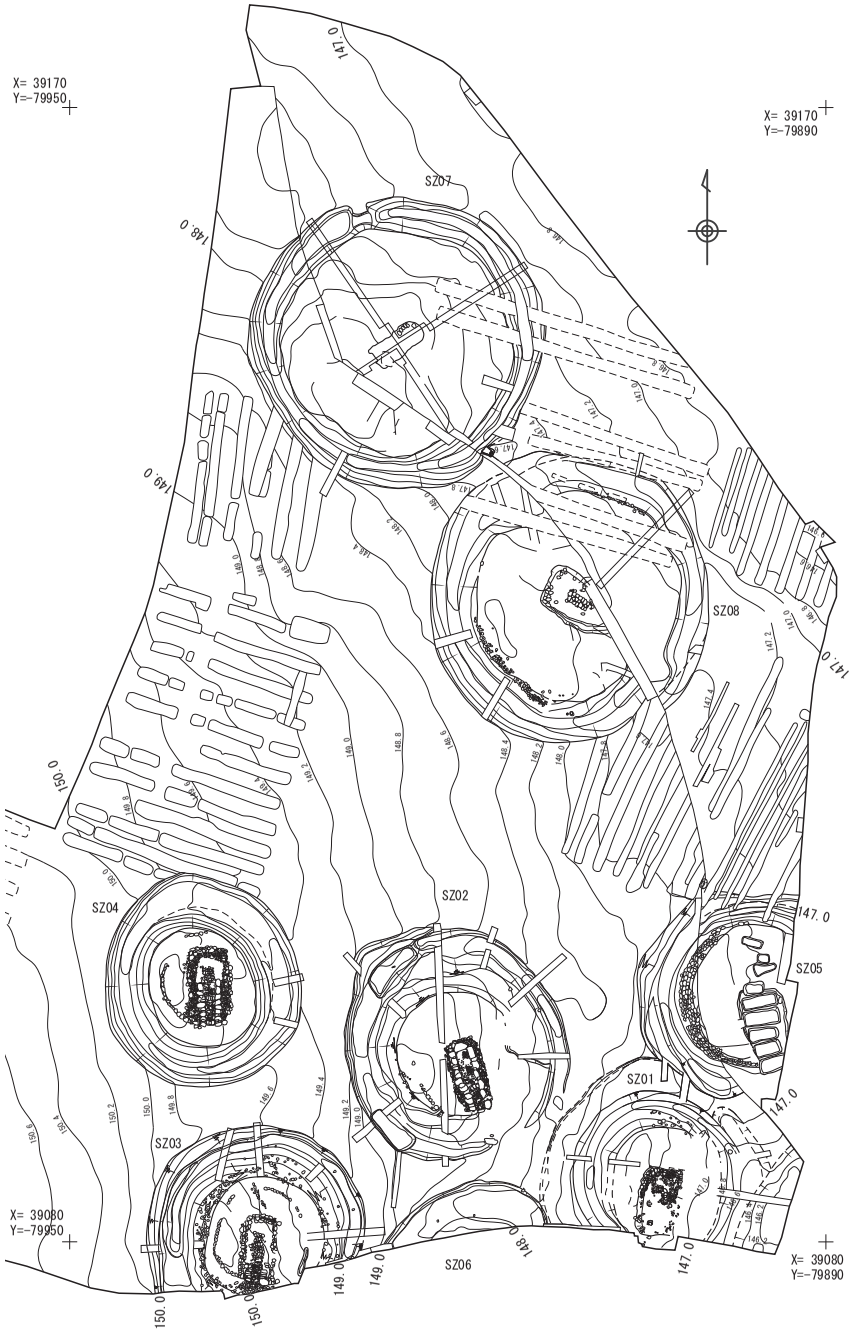
第８図　若田坂上遺跡　西区遺構拡大図





0　1:600　20m
（平面図）

第９図　若田坂上遺跡　東区・北東区古墳分布図



第３節　検出した遺構・遺物

（１）　古墳

今回の調査では、周溝のみ検出した１基を含めて、合計８基の古墳を検出した。すべて円墳であり、遺跡東区の東側に集中して分布している。本遺跡の東方に展開する剣崎長瀞西遺跡や大島原遺跡などの古墳群とは、八幡台地を南北に縦断する県道前橋安中富岡線を隔てている。

すべての古墳は平成27年度の東区調査時に検出をしている。しかし、事業計画の関係上、一部の古墳では全面調査が適わず、５・７・８号墳については、調査区外に遺構の一部を残しながら部分的な調査に留まった。その後、平成29年度の調査にて、上述の円墳３基の未調査部分の調査を実施することになった。調査年度や調査区が異なっているが、不要な混乱を避けるため平成27年度調査時に付与した遺構名称を踏襲した。

調査前の状況　東区のうち古墳が検出された範囲は、調査以前に梅などの果樹林として利用されており、また、周囲には竹林や篠が繁茂する状況であった。調査以前では古墳を想起させる塚状の盛り上がり等はもとより、地表面において礫の転石等も観察されず、古墳の存在を示唆する痕跡は看取されなかった。そこで試掘トレンチを掘削したところ、周溝の一部や葺石と考えられる礫などが検出され、複数の古墳が地表下に残存していることが確認できた。

なお、埋没が進行した周溝を含む円墳の周囲には、堆積したAs-Bを掘り込む平安時代後期以降と推定される耕作痕のほか、As-A降下後に耕作地復旧を目的に、軽石の集積をしたと推定される遺構（いわゆる処理坑）が検出される。これらの遺構が墳丘上に及ぶのは稀で、主に墳丘間において検出していることから、平安時代後期以降の耕作痕や近世の軽石処理遺構の掘削に際しては、古墳の墳丘が回避されたものと推測される。したがって各円墳は少なくともAs-A降下に伴う復旧作業が実施された近世まではその形状が認知される程度に残存していた可能性が考えられる。石室の一部の礫抜き取り痕にAs-Aが混入していたことから石室壁体の抜き取りが近世以降であったことが考えられ、やはり墳丘や石室が近世まで一定程度残存していた可能性を示唆しているといえる。

【１号墳】（596E-SZ01）

位置　東区東端に位置する。すぐ北側にある５号墳と周溝が接する。西側に６号墳、北西側に２号墳がそれぞれある。埋葬主体部南端以南は道路下のため未調査である。

墳形・規模　墳丘径10mの円墳。

周溝　西から北側で確認した。周溝の外縁は曖昧で掘り込み位置が判然とせず、全体的にやや緩慢な感がある。また、古墳の東側は地形が大きく下がっており、墳丘東側では周溝の境界は明確ではなかった。検出できた西～北側では幅が5.1～5.5mであり、深さは遺構確認面からおよそ0.6mとなる。周溝底部の標高は西側や北側で147.5mとなるが、東側では146.2m前後であり、高低差が著しい。斜面下方となる東側には、周溝が築かれなかった可能性も考慮しておきたい。

埋土は黒褐色土を基調とし、上位にAs-Bの堆積層などが見られることから、周溝はAs-B降下前には概ね埋没していたことが理解される。

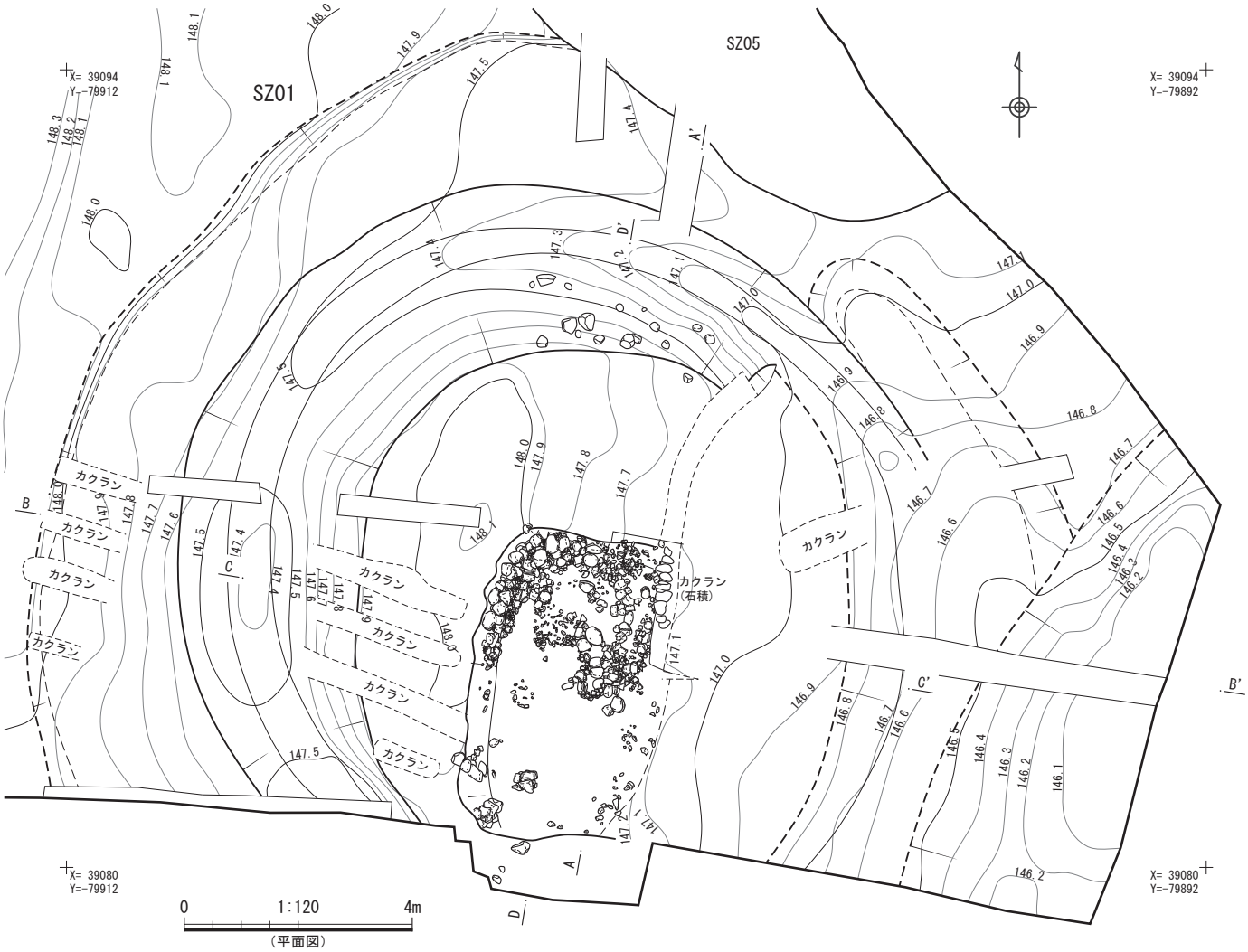
墳丘　埋葬主体部の様相から２段以上の築成が想定されるが、検出は地山を削り出した１段目のみである。墳丘西側には溝状のカクラン、墳丘東半分は近現代と推定される後世の改変により失われている。

外表施設　墳丘からは拳大～人頭大の礫を多数検出したため当初は葺石が葺かれていたものと考えられるが、検出時点で残存していると想定できたものはほぼない。検出した礫量も限定的であったため、葺石が墳丘全面に及んだものか疑問が残る。埴輪の樹立は認められない。

埋葬主体部　横穴式石室であるが、石室を構成した石材の大半はすでに抜き取られている。残存していたのは床下の舗石数石および裏込め石に留まる。また、主体部南端以南は調査区外となるため詳細は不明である。

石室の規模および規格は不明だが、礫の抜き取り痕や掘り方の状況などから、東側に袖を持つ形状であったと推定されるため、袖を有する石室形態であったと推測できる。主軸は概ねＮ－172°－Ｗとなり、石室開口部は南南西であったと推定される。

裏込め　掘り方内の外縁には人頭大の礫を掘り方底面よりやや積み上げるように設置している。



第10図　１号墳　墳丘全体図

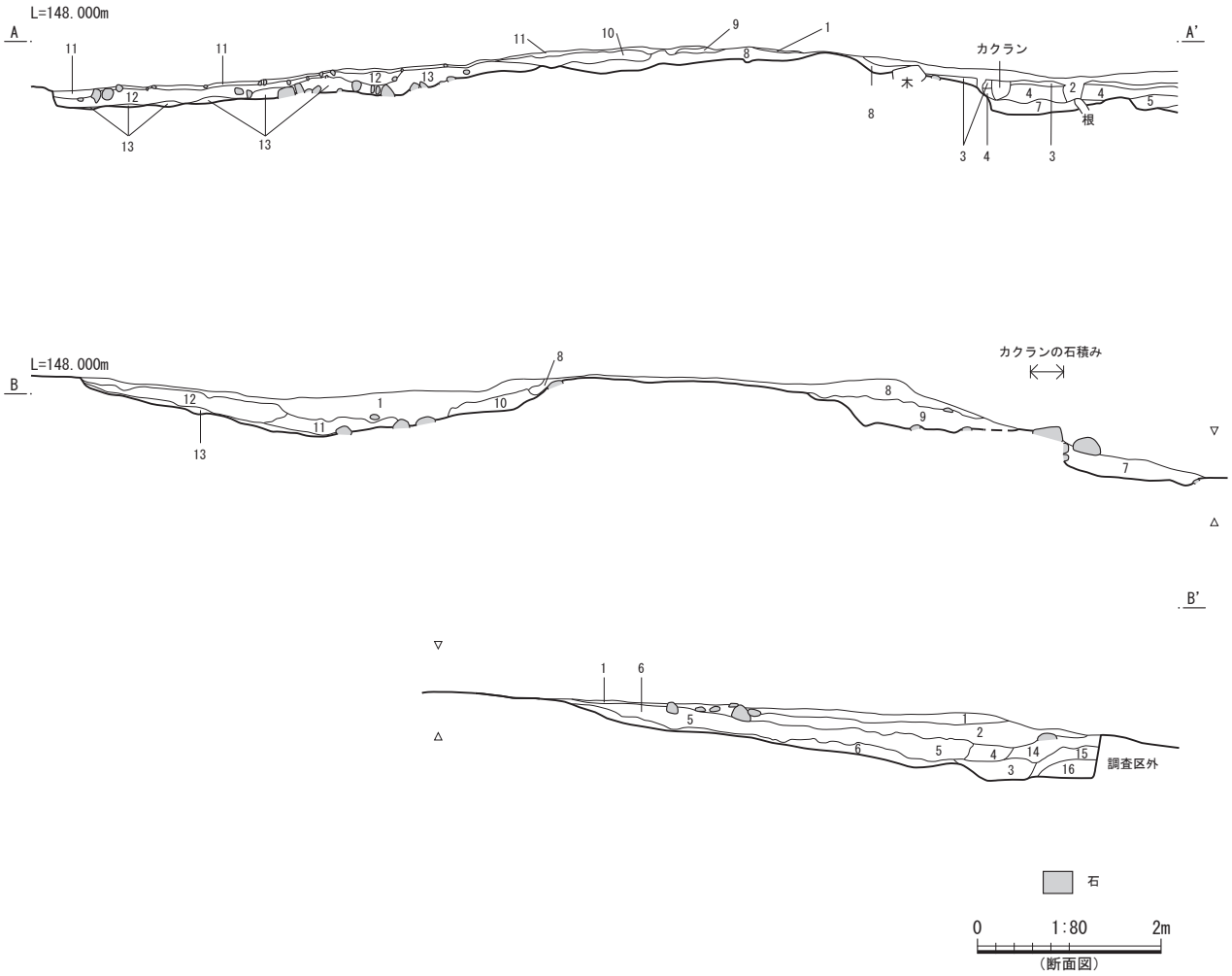
いわゆる裏込め被覆石に該当するものである。裏込め石には拳大の礫を充填していた。

掘り方　　地山を削り出す墳丘１段目を掘り込んで主体部の掘り方としている。規模は残存する範囲で長軸5.3m、短軸3.4mであり、遺構検出面から掘り方底面まではおよそ0.6mとなる。底面の標高は147.4mである。

出土遺物　　埋葬主体部の残存状況が良好でなかったため、原位置を留めた遺物はないと考えているが、主体部調査の過程で若干の遺物が得られている。

古墳に伴う可能性が想定される遺物は、須恵器（甕、長頸壺、坏、高坏、小型壺）、刀子、鉄鏃、石製品（臼玉）がある。須恵器高坏は長脚で脚部中位に二重沈線があるが透かし窓がない。そのほか、形象埴輪や円筒埴輪の小片が少量得られているが、北隣する５号墳の遺物が流入したもので、本墳に伴うものではないと考えられる。また、古墳時代前期土器が墳丘上や周溝内より出土しているが、本墳周辺の竪穴建物跡から混入した遺物と考えられる。

所見　　埋葬主体部が大きく損なわれていたため詳細は断じ難いが、１号墳はわずかに西にふれた南に開口する横穴式石室を持つ径10mの円墳である。墳丘には葺石を退化的に葺いていたものと考えられ、埴輪は伴っていない。遺物は原位置を留めていないと考えられるため構築年代の決め手に欠くが、墳丘規模や石室の規格、周囲の円墳との共通点から本墳の築造は概ね６世紀後半～７世紀前半と推測される。



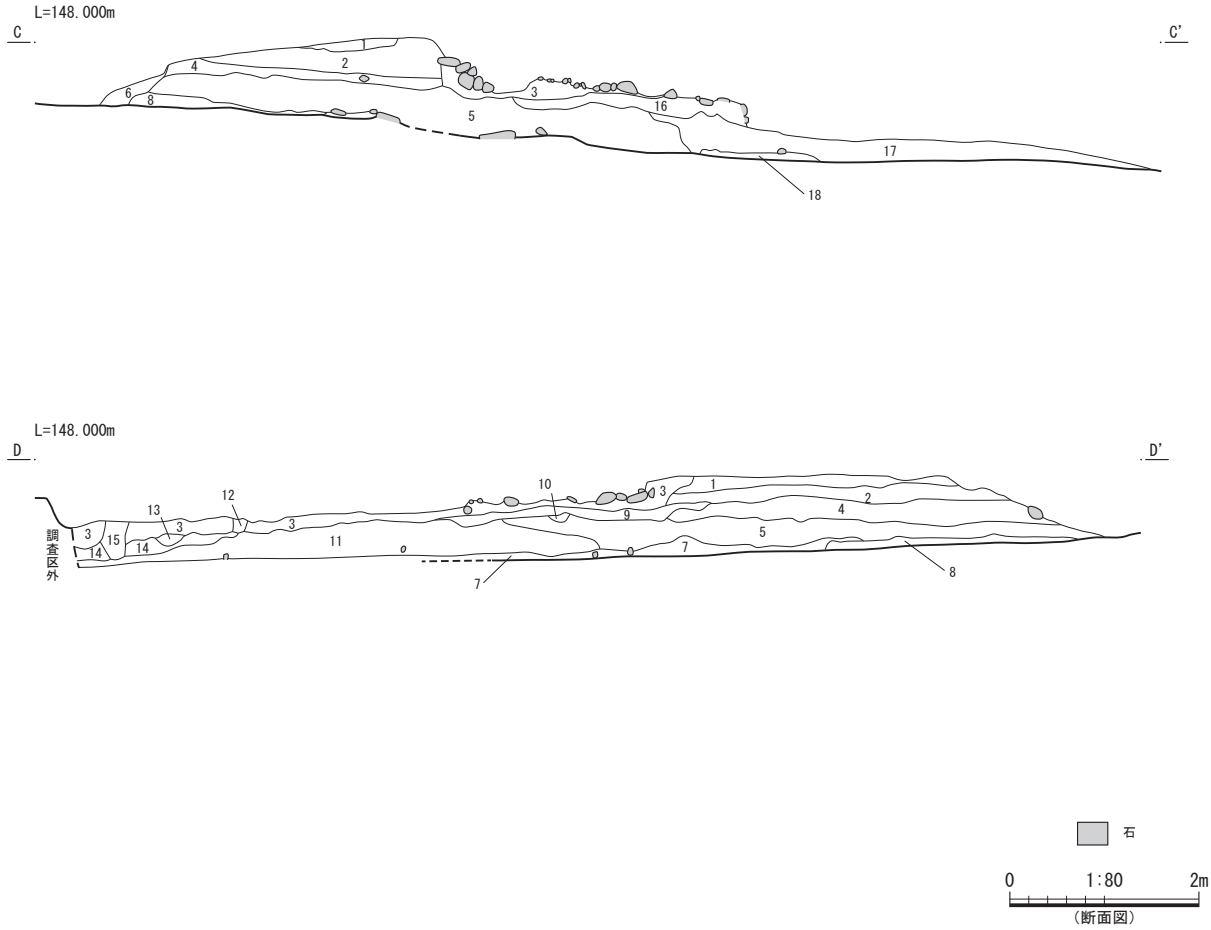
1号墳(SPA-A')

1	暗褐色 (10YR 3/3)	表土。As-B混。しまり強、粘性弱。
2	オリーブ褐色 (2.5Y 4/4)	As-B(一次堆積に近い)。上層にいくに従って、粒子の大きさが小さくなる。しまりやや弱、粘性弱。
3	黒褐色 (5YR 2/1)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)やや多量、(φ5～8mm)多量。局所的にAs-Bが見られる。しまり強、粘性やや強。
4	黒褐色 (5YR 2/2)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)やや多量、(φ5～8mm)やや多量、(φ1cm以上)やや少量。3層よりも大型の黄色粒子が見られる。橙色粒子(φ3～6mm)やや少量。しまり強、粘性強。
5	黒色 (5YR 1.7/1)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)多量、(φ5～8mm)やや少量。3、4層よりも小型の黄色粒子が目立つ。しまりやや強、粘性やや弱。
6	黒褐色 (5YR 3/1)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)やや少量。3、4、5層より黄色粒子が少ない。しまりやや強、粘性やや弱。
7	暗赤褐色 (5YR 3/2)	As-C混。シルト質。黄色粒子(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性強。
8	暗褐色 (7.5YR 3/3)	砂質。1層目の表土に似ている。しまり強、粘性弱。
9	灰褐色 (7.5YR 5/2)	砂質。As-Bを少々含む。しまりやや強、粘性弱。
10	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	砂質。非常に緩い。小さな礫をやや多く含む。しまり弱、粘性弱。
11	にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	砂質。非常に緩い。小さな礫を多く含む。しまり弱、粘性弱。
12	暗褐色 (10YR 3/4)	局所的にAs-B混。11層よりもシルト質。やや小さな礫を多く含む。しまり弱、粘性やや弱。
13	黒褐色 (10YR 3/2)	シルト質。しまり強、粘性やや強。

1号墳(SPB-B')

1	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	As-B(一次堆積に近い)とAs-B混土層(一部)。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混。シルト質。黄色粒子(φ1～3mm)多量、(φ5～8mm)多量。しまりやや弱、粘性やや強。
3	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)やや多量。2層目よりも柔らかい感触でシルト質。しまりやや弱、粘性やや強。
4	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)やや少量。3層目と類似するが、3層目ほどシルト質ではない。2、3層目より粒子が少ない。しまりやや強、粘性やや弱。
5	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)やや多量、(φ5～8mm)やや少量。シルト質。しまりやや弱、粘性やや弱。
6	暗褐色 (10YR 3/3)	As-Cの少ない黒色土層。下層で漸移層と思われるにぶい黄色土が見える。黄色粒子(φ1～2mm)少量。シルト質。しまりやや強、粘性強。
7	灰黄褐色 (10YR 4/2)	As-Bを少し含む砂質土層。ややシルト質だが緩い。しまり弱、粘性やや弱。
8	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	As-B混。砂質。しまりやや強、粘性弱。
9	黒褐色 (10YR 3/2)	As-Bを少し含む層。小礫を多く含む。しまりやや弱、粘性やや弱。
10	暗褐色 (10YR 3/3)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)多量、(φ4～6mm)やや多量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
11	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)やや多量、(φ4～6mm)少量。シルト質。しまり強、粘性やや強。
12	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)多量、(φ4～6mm)やや多量。10、11層目よりしまっていて硬い。シルト質。しまり強、粘性強。
13	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	As-Cを微少に含む黒色土。10～12層より色が明るい。黄色粒子(φ1～2mm)少量。シルト質。しまり強、粘性強。
14	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混(多量)。As-YP含む。黄褐色シルト(φ2～3mm)わずか。しまり強、粘性やや弱。
15	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混(やや多量)。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
16	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混(やや多量)。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや弱。

第11図　１号墳　墳丘断面図（１）

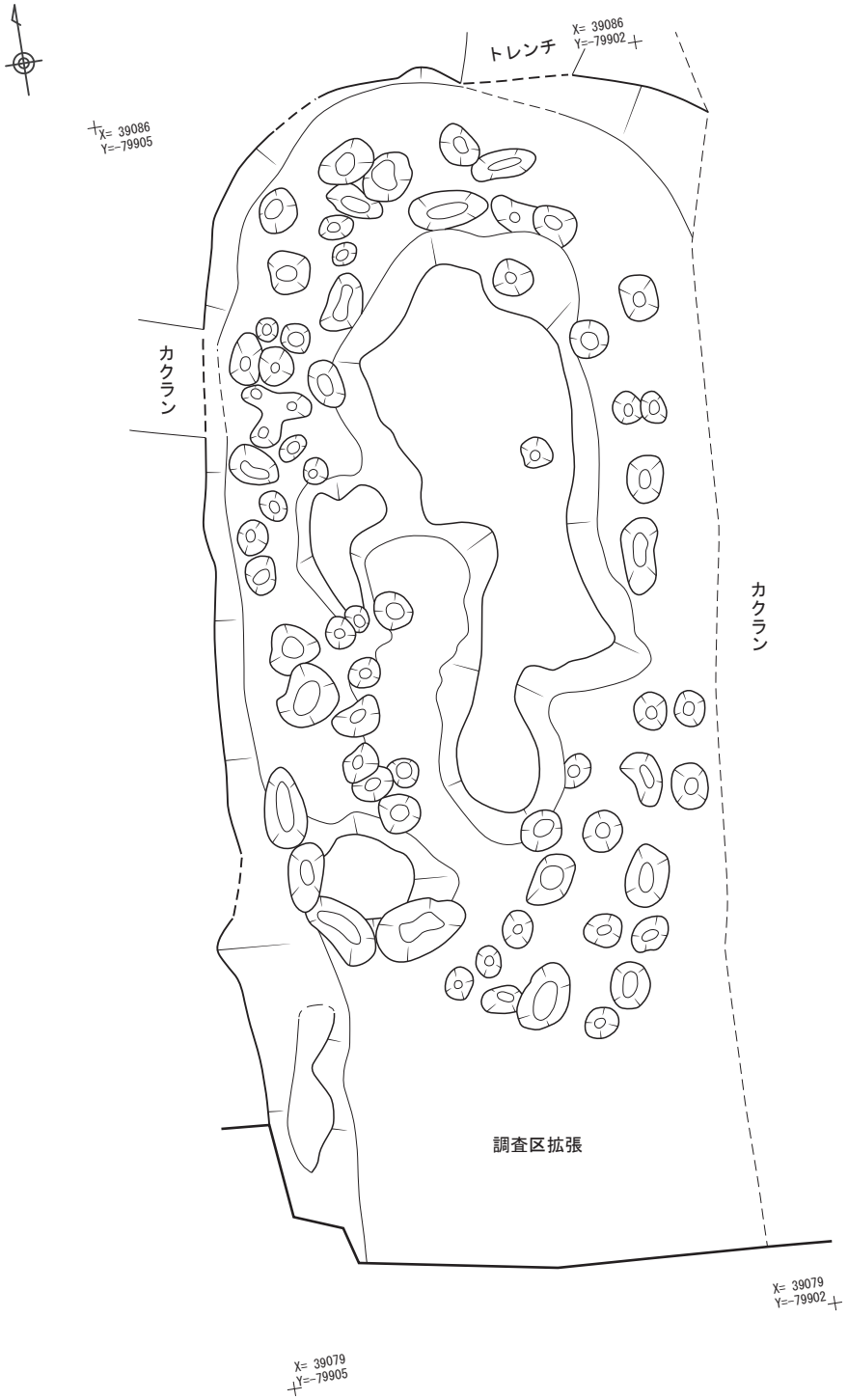


1号墳(SPC-C',D-D'、E-E'、F-F'共通)

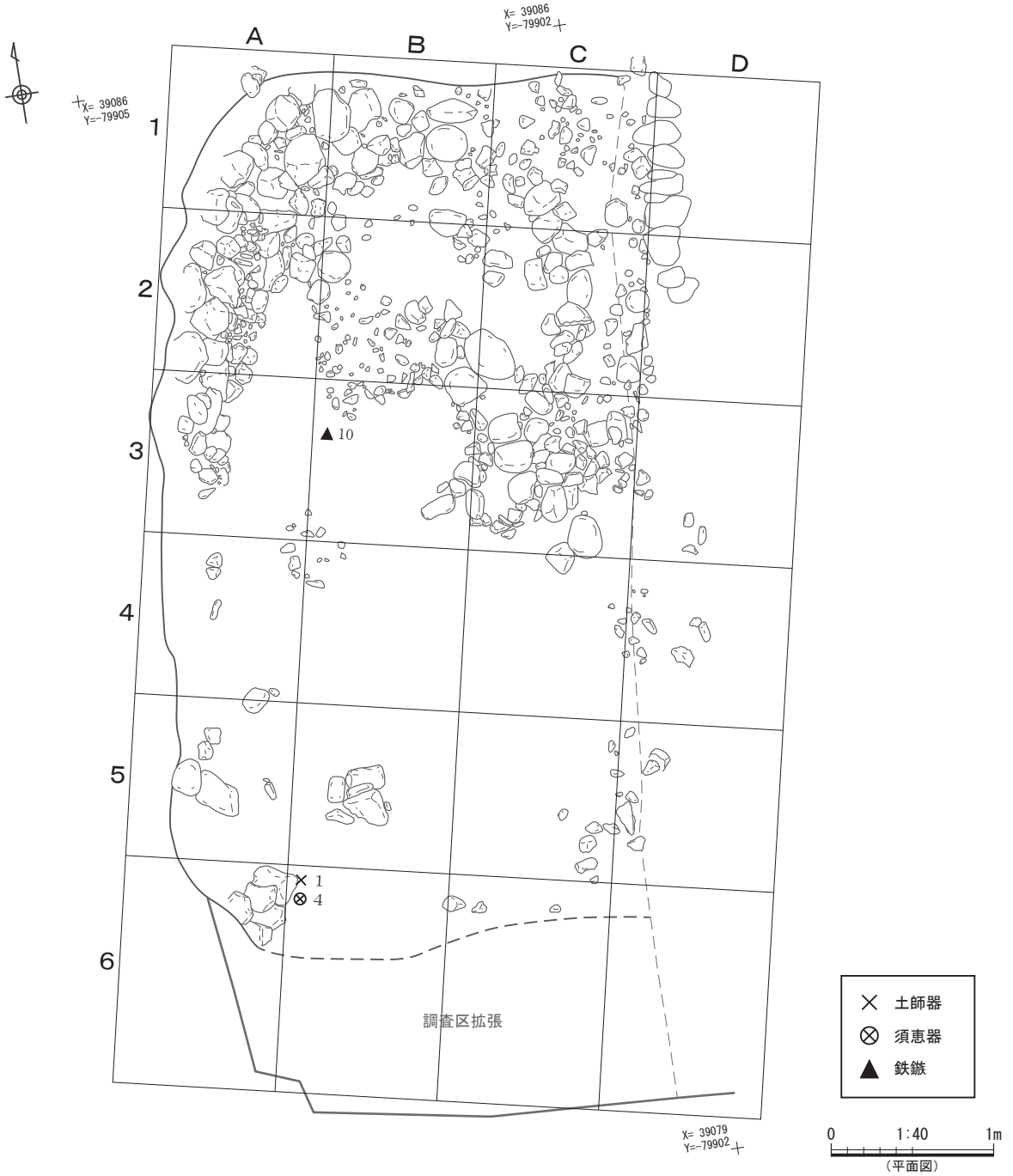
1	黄褐色 (10YR 5/8)	As-B混(少量)。しまり強、粘性弱。
2	暗褐色 (10YR 3/3)	As-C混(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)やや多量、(φ8～10mm)やや少量。しまり強、粘性弱。地山か
3	黒色 (10YR 2/1)	As-C混(φ1～3mm)少量。4層目に比べてしまりが弱く、柔らかい。しまりやや弱、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混(φ1～3mm)やや少量、(φ4～7mm)少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。地山か
5	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	黄褐色土を含む黒色土層。橙色粒子(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
6	暗褐色 (10YR 3/3)	As-C混(φ1～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。周溝内に堆積した黒色土か
7	黄褐色 (10YR 5/6)	黄色ロームに近い漸移層。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。8層目よりも土が柔らかく、粒子の混じりが少ない印象。
8	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	漸移層。橙色粒子(φ1～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
9	黒色 (10YR 2/1)	As-Cを僅かに含む。(φ1～2mm)微量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
10	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混入なし。しまりやや強、粘性やや弱。
11	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混入なし。As-YP、礫含む。しまり強、粘性やや弱。
12	黒褐色 (10YR 3/2)	As-B混。しまり弱、粘性弱。
13	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混入なし。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
14	暗褐色 (10YR 3/3)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
15	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
16	黒色 (10YR 2/1)	As-C混(少量)。しまり強、粘性やや弱。4層に対応か。
17	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
18	褐色 (10YR 4/6)	黒褐色土～黄褐色シルトの漸移層。しまり強、粘性弱。

第12図　１号墳　墳丘断面図（２）

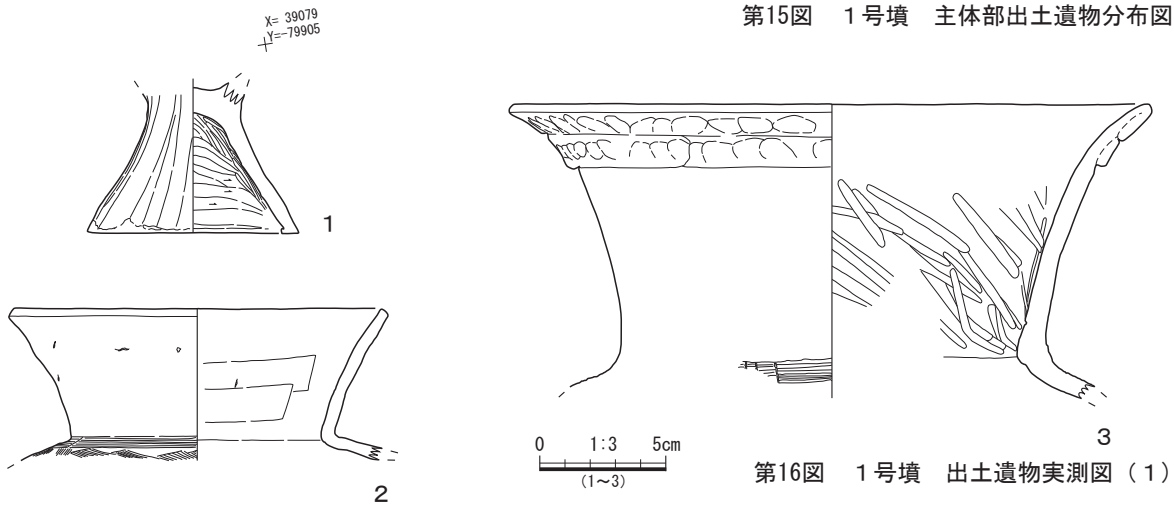
第13図　１号墳　主体部平面図・断面図



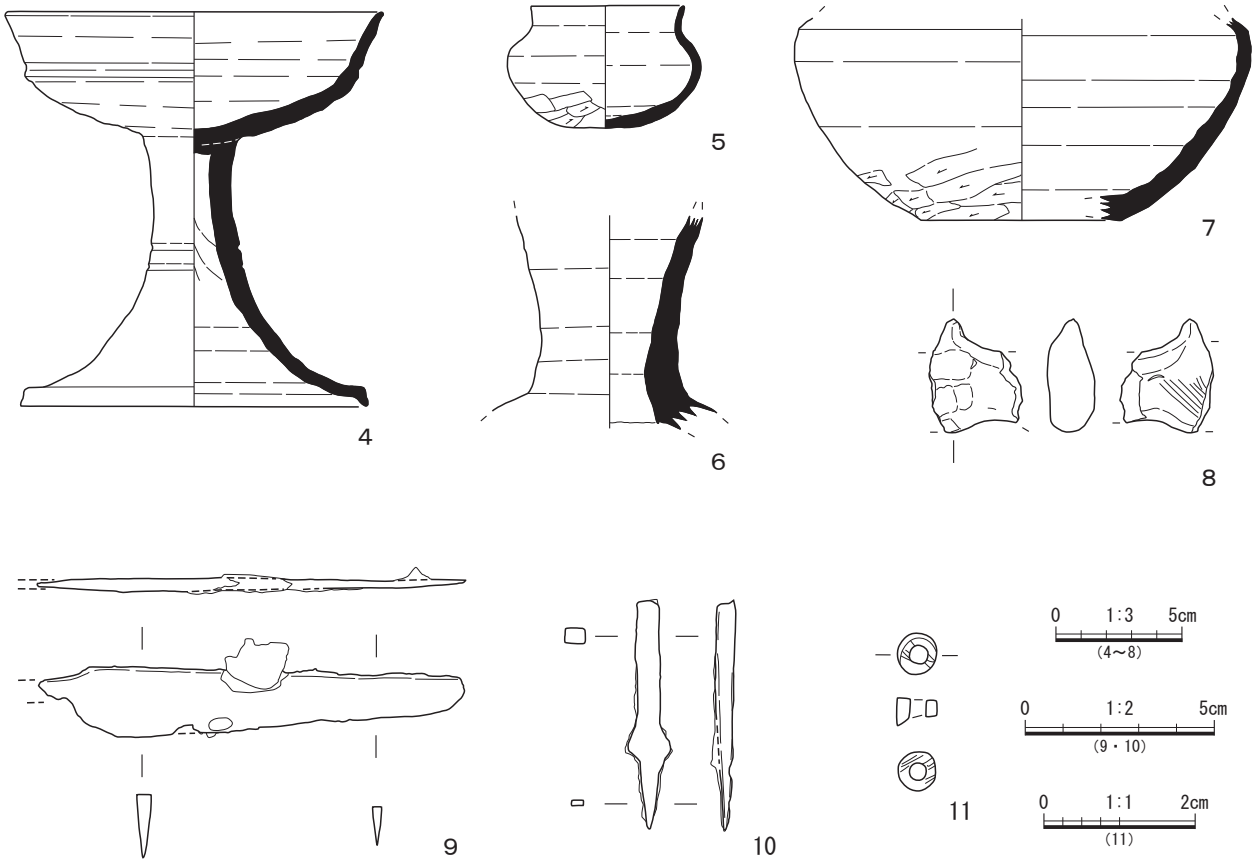
第14図　１号墳　主体部掘り方平面図



第15図　１号墳　主体部出土遺物分布図



第16図　１号墳　出土遺物実測図（１）



第17図　１号墳　出土遺物実測図（２）

第１表　１号墳　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第16図 PL.71	1	土師器 高坏	—	8.4	(5.9)	外：縦位ナデ、裾端部は平坦 内：横位、斜位ナデ	①良好　②10YR 7/4 ③砂	脚部 1/3	
第16図 PL.71	2	土師器 壺	15.0	—	(6.0)	外：口縁ナデ、無文。頸部に櫛描平行線。以下胴部に斜位のハケメ。 内：ナデ	①良好　②7.5YR 8/4 ③砂	口縁部	
第16図 PL.71	3	弥生土器 壺	25.0	—	(11.7)	外：折り返し口縁、直下に粘土紐貼り付けにより多段の口縁とする。口縁に指頭痕。頸部に櫛描簾状文を施文。 内：ヘラ状工具によるナデ、ミガキ	①良好　②10YR 8/4 ③輝石、砂	口縁部	
第17図 PL.71	4	須恵器 高坏	15.0	13.8	15.6	坏部：口縁はやや外反し、中位に稜がある。 脚部：長脚で、中位に二重沈線がある。透かしがない	①良好　②7.5Y 6/1 ③白色粒子	2/3	
第17図 PL.71	5	須恵器 小型壺	6.2	—	5.2	口縁はわずかに外反する。底部ヘラケズリ	①良好　②5Y 6/1 ③白色粒子	1/2	
第17図 PL.71	6	須恵器 提瓶	—	—	(8.4)	内外に自然釉付着	①良好　②5Y 7/1 ③砂	頸部	
第17図 PL.71	7	須恵器 壺	—	【8.0】	(8.0)	短頸壺か。底部ヘラケズリ	①良好　②5Y 8/1 ③砂、小礫	破片	

図版	番号	器種 部位	法量(cm)		成形・整形技法等の特徴（器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第17図 PL.71	8	埴輪 人物手	幅	(3.6)	親指の造形が確認できる。そのほか四指は先端を欠失する。器面はナデだが、甲側にハケメがわずかに観察される。器面の色調は７号墳の埴輪と類似する	①概ね良好 ②5YR 6/6 ③輝石、白色粒子、小礫	破片	
			高さ	4.5				
			厚み	1.9				

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	観察所見	備考
第17図 PL.71	9	刀子	(11.3)	1.8	0.3	17.0	茎の一部および切先が欠損しているようだが、錆のため不明確	
第17図 PL.71	10	鉄鏃	(6.1)	0.7	0.4	6.0	有頸の有茎鏃。頸部から鏃身部にかけて欠損。棘状関か	

図版	番号	種別 器種	法量(mm) 直径	孔径	厚さ	重量 (g)	材質	観察所見	備考
第17図 巻頭図版2	11	臼玉	5.2	2.1	2.9	0.1	滑石	成形時の擦痕が観察できる。片面欠損	

【２号墳】（596E-SZ02）

位置　東区東側南半に位置する。東側に５号墳、南東側に１号墳、南側に６号墳、南西側に３号墳、西側に４号墳がそれぞれ近接する。

墳形・規模　墳丘径10mの円墳。

周溝　周溝は主体部開口部である南南東以外の全面で検出した。周溝北西側は下層遺構と重複していたために若干掘削が過ぎ、東側はカクランのため墳丘および周溝の一部が破壊されていた。比較的残存状況が良好な西側では遺構検出面で幅3.2mであり、深さは遺構確認面より0.8m前後となる。遺構の構築された地形がやや傾斜しているためか、周溝底部は標高148.6～147.8mを測る。

埋土は黒色土や黒褐色土を基調とし、上位にAs-Bの一次堆積などが見られることから、周溝はAs-B降下前には概ね埋没していたことが理解される。墳丘東側ではカクランの影響を受けるが、周溝の下層が辛うじて残存していた。

墳丘　埋葬主体部の様相から２段以上の築成が想定されるが、検出は地山を削り出した１段目のみである。墳丘上には後世のカクランと考えられる細長い土坑状の掘り込みが複数あり、葺石や石室構築材と推定される礫多数が検出されている。

外表施設　墳丘からは拳～人頭大の礫を多数検出したため、当初は葺石が葺かれていたものと考えられる。１段目墳丘斜面ではまばらに礫が検出されるが、埋葬主体部を取り囲むように弧状に設置された礫列は、２段目墳丘の葺石根石であったと想定される。埴輪の樹立は認められない。

埋葬主体部　西側に袖を持つ片袖の横穴式石室。石材は管見の限り、輝石安山岩の大型礫を使用する自然石積みであり、概ね２段までが残存している。

石室主軸はＮ－162°－Ｅで、開口部を南南東に持つ。石室全長4.9m、玄室長2.8m、幅は奥壁付近1.0m、中央1.1m、玄門付近で1.0m。羨道長2.1m、幅は閾石付近0.8m、中央0.7m、羨門付近0.7mを測る。残存高は0.8mである。

玄室内は玉砂利状の小礫を敷き詰めて礫床とし、礫床下部には扁平な河原石を敷く舗石が良好に残存する。舗石は玄門側の礫がやや小振り、奥壁側の礫がやや大振りという傾向が看取されるが、いずれも目地が整然としない。玄門から玄室中央付近まで、より丁寧に並べられている印象を受けるため、玄門から奥壁へと舗石を設置したものと推測する。

羨道と玄室の境には四角錐状のやや大振りの礫２石が横並びに据えられていた。この２石は、規模や設置の様相からいわゆる閾石であったと考えられる。閾石の２石は、玄室に平滑な面を向け、羨道に窄まる頂点を向けて、掘り方面を掘り窪めずに設置されている。玄室側には小礫を使用した礫床があり、残存している礫床面の高さからは閾石が上端近くまで覆われていたことが考えられる。

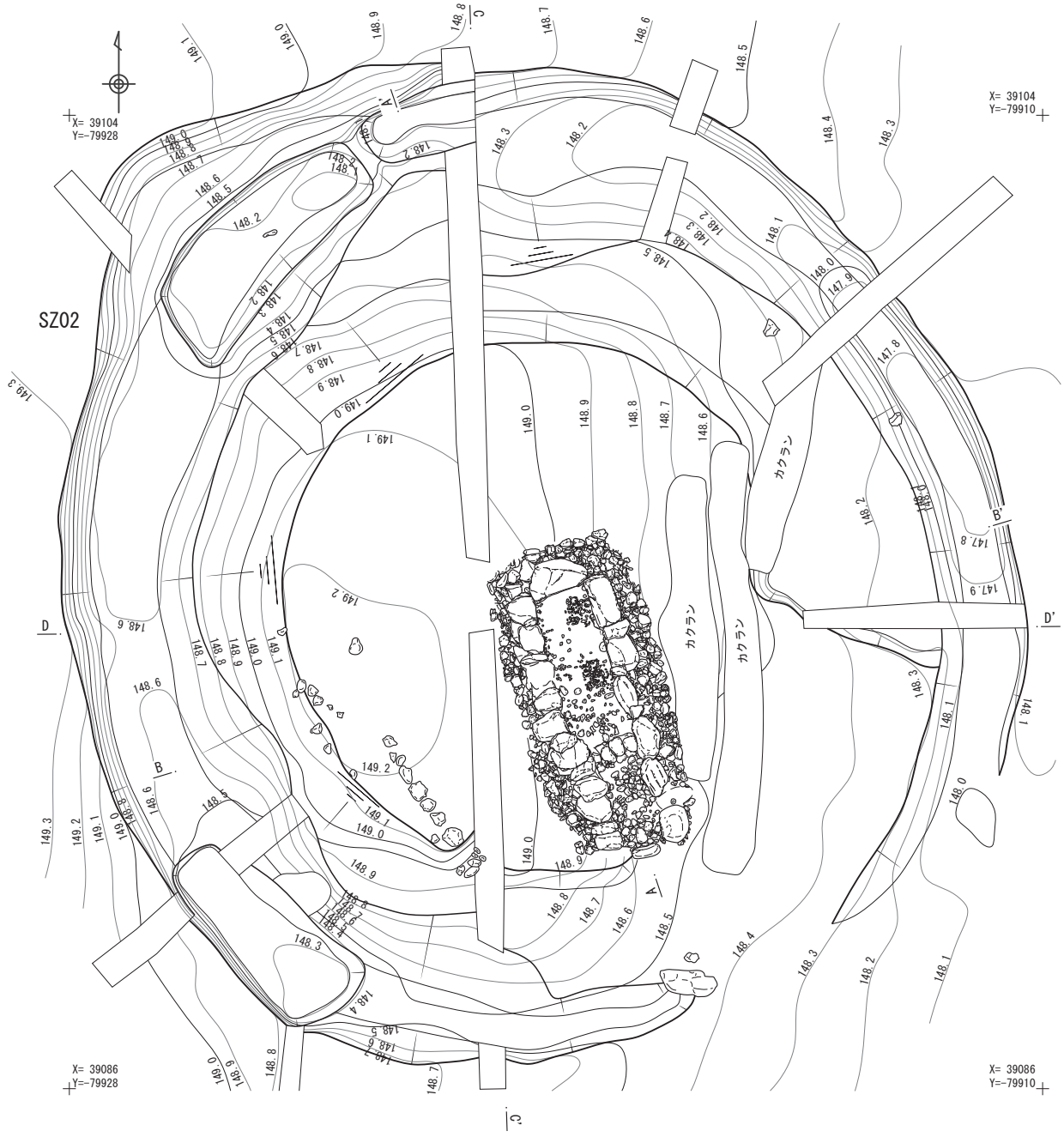
一方、羨道側でも一定量の拳大の礫を検出している。羨道の礫は閉塞石の礫と混在し、両者を分離することが困難であったため、羨道に礫が敷き詰められていたかどうか判別し難い状況であった。しかしながら、羨道内で検出した礫がすべて閉塞石であり、埋葬行為等の機能時に羨道内の礫が存在していなかったならば、羨門側からは閾石の三角錐形状の頂点が見えるという状態となっていたであろう。閾石を掘り方面に埋め込まない設置の強度や、羨門からみた閾石の視覚効果などを考慮した場合、羨道部の礫は閾石の四角錐の頂点部分を覆う高さまで礫が充填されていたものと推定され、羨道に存在する多量の礫は、少なくともその下位の一部が機能面として羨道内に敷かれたものであったと考えておきたい。

閾石の上には扁平な礫数石が並んでいた。上述のとおり、羨道には人頭大の礫が多量に存在し、閉塞石として設置されたものが含まれていると思われるが、閾石上の礫列は閉塞石が玄室内へ流入することを防ぐために設置されたものであろう。

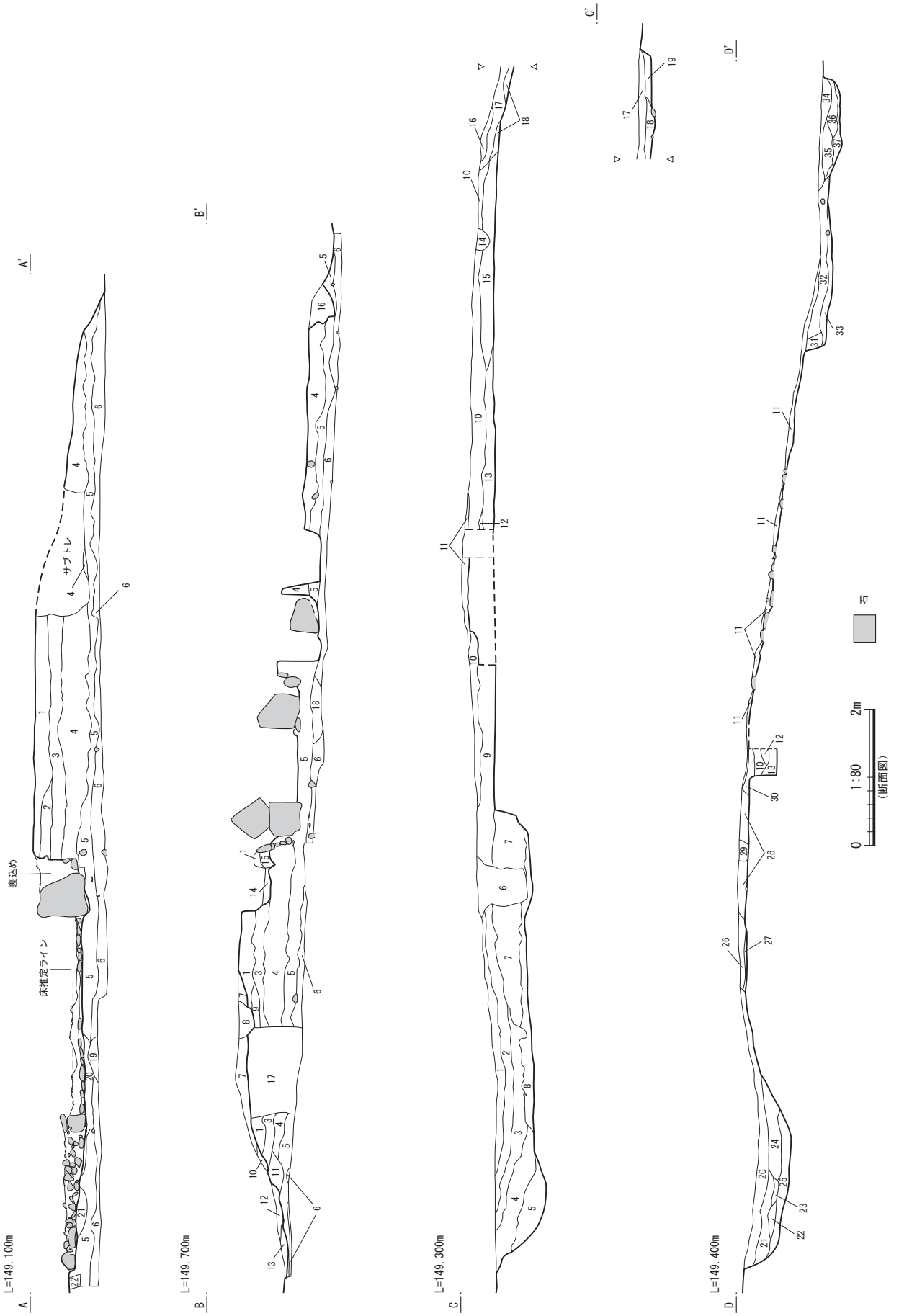
裏込め　掘り方内の外縁には人頭大の礫を掘り方底面よりやや積み上げるように設置している。また、外縁の裏込めと石室構築材の間には拳大の礫を多量に充填して裏込めとしている。

掘り方　地山削り出しの墳丘１段目の中央部分を掘りくぼめ、横穴式石室の掘り方としている。規模は長軸5.8m、短軸2.8mであり、遺構検出面から掘り方底面まではおよそ0.7mを測る。底面の標高は148.2mである。

出土遺物　石室内床面からは鉄鏃、鉄釘、鉄製耳環など多数の金属製品が出土している。また、石室内の堆積土を篩にかけたところ、ガラス小玉や管玉、滑石製や土製の臼玉などの微細な玉類、



第18図　２号墳　墳丘全体図



第19図　２号墳　墳丘断面図

２号墳(SPA-A',B-B' 共通)

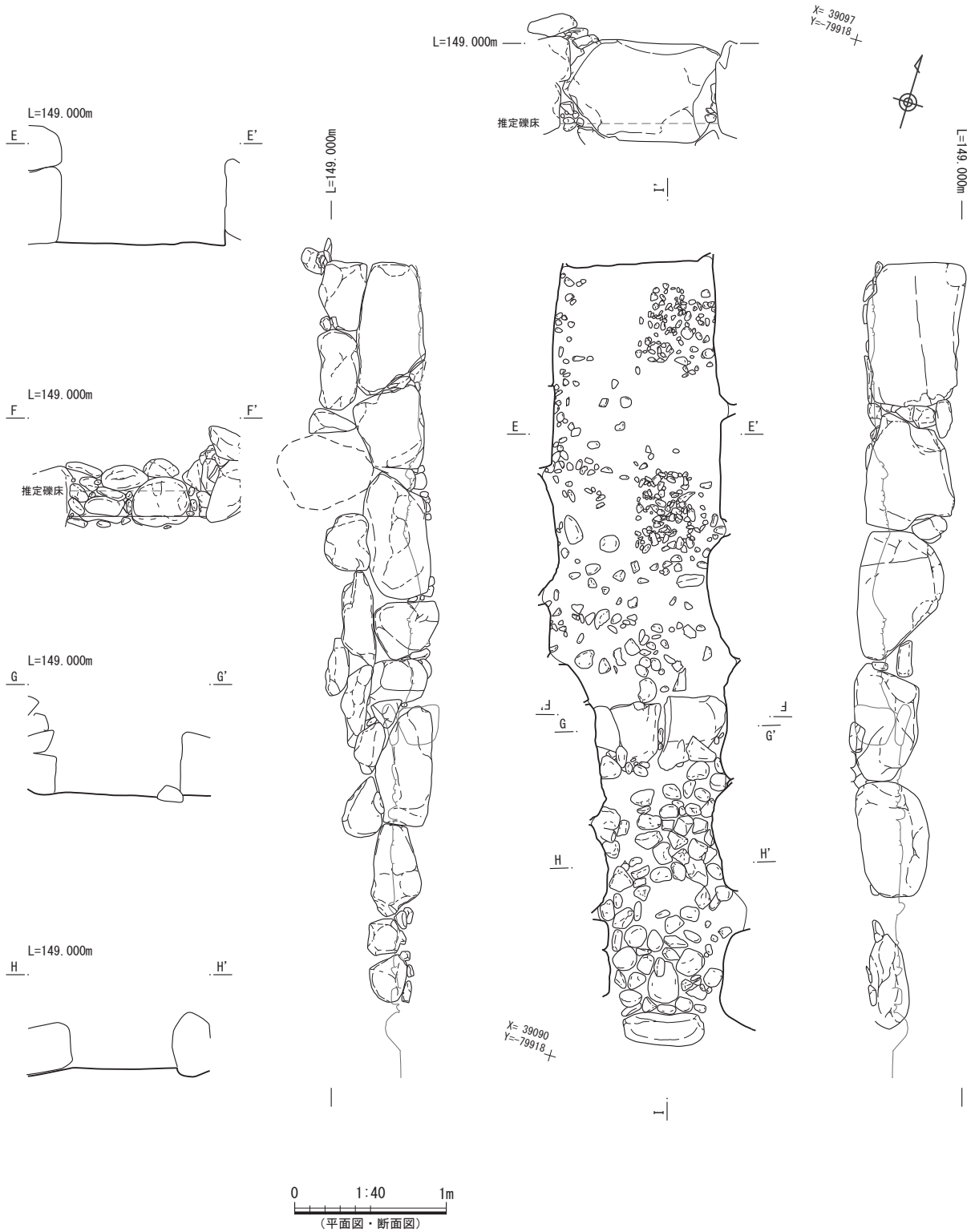
1	黒色（10YR 2/1）	As-C混(密度濃い)。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
2	黒色（10YR 2/1）	As-C含まない。As-YP混。しまりやや強、粘性やや強。
3	黒褐色（10YR 2/2）	As-C含まない。As-YP少量。しまりやや強、粘性やや強。
4	黒色（10YR 2/1）	As-YPやや少量。しまり強、粘性やや強。
5	灰黄褐色（10YR 4/2）	As-YP少量。黄褐色シルト混在。漸移層。しまり強、粘性やや強。
6	明黄褐色（10YR 6/6）	地山シルト。しまり強、粘性やや強。
7	黒褐色（10YR 2/3）	As-C混。境界の判然としないにぶい黄褐色土が斑状に混在。しまり強、粘性やや弱。
8	黒褐色（10YR 2/2）	As-B混。木の根有り。墳丘2段目葺石根石の抜き取り痕と想定。しまり弱、粘性弱。
9	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。しまりやや強、粘性やや強。
10	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-C混。にぶい黄褐色粒子が混入。しまり強、粘性弱。
11	黒褐色（10YR 3/1）	As-C極わずか。しまり強、粘性やや弱。
12	黒褐色（10YR 3/2）	As-Cの混入なし。黄褐色シルト粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。周溝埋土。
13	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性弱。周溝埋土。
14	黒色（10YR 2/1）	As-C混入はほとんどない。横位に筋状に褐色土が混入。しまり極めて強、粘性弱。
15	黒色（10YR 2/1）	As-Cなし。しまりやや弱、粘性やや弱。石室掘り方か。
16	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混。黄褐色シルト粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。周溝埋土か。
17	黒色（10YR 2/1）	As-C混。層上位→下位に向かってAs-Cの混入密度が下がる。層下位にはにぶい黄褐色土がある。しまり強、粘性やや強。 墳丘構築以前の遺構（竪穴建物跡）埋土と考えられる。
18	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	白色粒子(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。黒色土と黄褐色土が斑状に混入する。しまりやや強、粘性強。
19	黄橙色（10YR 7/8）	黄褐色シルト(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)多量、(φ8mm～1cm)多量、(φ1～3cm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
20	黒褐色（10YR 3/1）	白色粒子(φ1～3mm)やや多量。橙色粒子(φ1～2mm)やや少量。黄褐色土が局所的にブロック状に混入する。極めて硬くしまっているため、石室の整地面の可能性がある。しまり強、粘性強。
21	暗褐色（10YR 3/3）	白色粒子(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。 20層目と同じく、極めて硬くしまっているため墳丘築造前の整地の可能性が考えられる。
22	黒褐色（10YR 3/1）	白色粒子(φ1～3mm)やや多量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。

２号墳(SPC-C',D-D' 共通)

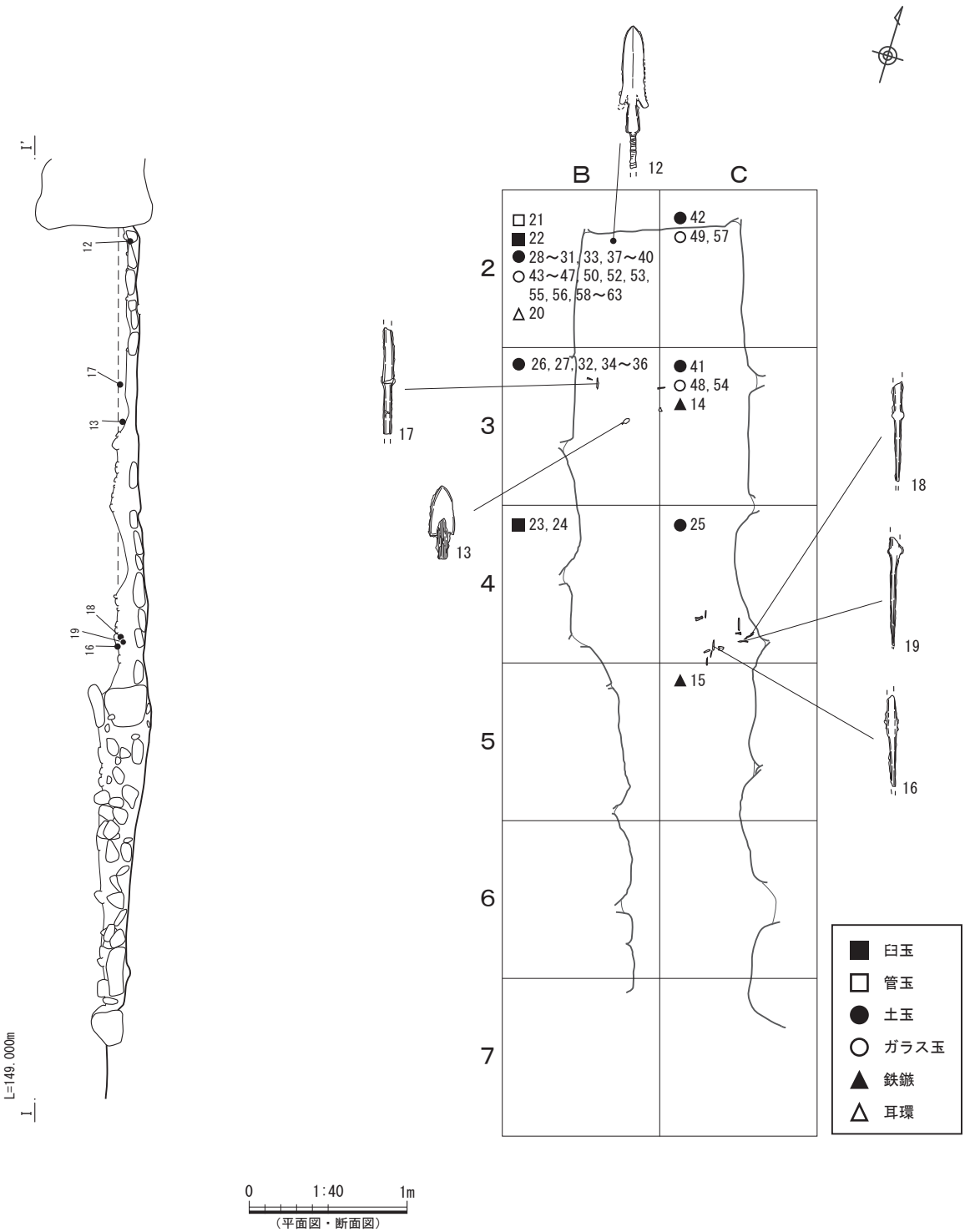
1	黒色（10YR 2/1）	上位にAs-B一次堆積。As-B直下の黒色粘質土層。しまり強、粘性やや強。周溝埋土。
2	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。黄褐色シルト粒子(φ3～5mm)少量。しまり強、粘性やや強。周溝埋土。
3	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混。黄褐色シルト粒子(φ3～5mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。周溝埋土。
4	灰黄褐色（10YR 4/2）	黄褐色シルト(φ2～3cm)やや少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。
5	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。As-YPやや多量。しまり強、粘性強。
6	黒褐色（10YR 3/2）	As-B混。As-C、As-YP含む。しまり上位は堅いが下位はボロボロ。粘性弱。カクラン。
7	黒褐色（10YR 3/2）	As-Cほとんど含まず。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。地山。
8	黒褐色（10YR 3/2）	As-YP含む。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。(φ5～7cm)少量。漸移層。
9	黒色（10YR 2/1）	As-C混(多く含む)。しまり強、粘性やや弱。
10	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(やや多量)。炭化物、焼土を少々含む。しまり強、粘性やや弱。
11	暗褐色（10YR 3/3）	As-B混。しまり強、粘性弱。
12	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや弱。
13	黒色（10YR 2/1）	As-Cほとんど含まず。しまりやや弱、粘性やや弱。地山か。
14	黒褐色（10YR 3/2）	As-B混。As-YP少量。しまりやや弱、粘性やや弱。2段目葺石根石の抜き取り痕か？
15	黒色（10YR 2/1）	As-C混(少量)。しまりやや強、粘性やや強。地山か。
16	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混。褐色土ブロック(φ3～5cm)少量。しまり強、粘性弱。
17	褐色（10YR 4/6）	As-C混。斑状に褐色土が黒褐色土と混在。しまり強、粘性やや強。
18	黒褐色（10YR 3/1）	As-C僅か。しまりやや弱、粘性やや強。
19	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-C僅か。しまり強、粘性強。漸移層。
20	黒色（10YR 2/1）	As-C混。上位にAs-B一次堆積。1層と同じ。しまり強、粘性やや強。
21	黒色（10YR 2/1）	As-C混。礫がやや多い。しまり強、粘性やや強。
22	黒褐色（10YR 3/2）	As-C少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
23	黒褐色（10YR 3/1）	As-C少量。しまりやや強、粘性やや強。
24	黒褐色（10YR 2/2）	As-C多量。しまり強、粘性やや弱。
25	黒褐色（10YR 3/2）	As-C少量。As-YP含む。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性強。
26	黒褐色（10YR 3/1）	As-B、As-C混。しまりやや強、粘性やや強。
27	黒色（10YR 2/1）	As-C混。しまりやや強、粘性やや弱。盛土？
28	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(やや多量)。しまりやや強、粘性やや弱。
29	黒褐色（10YR 3/1）	As-B混。しまりやや弱、粘性弱。
30	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混。しまり強、粘性やや弱。
31	暗褐色（10YR 3/3）	As-Cの混入はない。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。漸移層（地山）。 しまりやや強、粘性やや強。
32	黒褐色（10YR 3/2）	As-Cの混入はない。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。漸移層（地山）。 しまりやや強、粘性やや強。
33	明黄褐色（10YR 6/6）	黄褐色シルト層（地山）。しまり強、粘性やや強。
34	黒色（10YR 2/1）	As-C混(僅か)。しまり強、粘性やや強。周溝埋土。
35	黒色（10YR 2/1）	As-C混(少量)。しまりやや強、粘性やや強。周溝埋土。
36	黒褐色（10YR 3/2）	As-C（僅か）。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。周溝埋土。
37	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ3～5mm、φ2～3cm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや強。周溝埋土。

ヒトの歯の残滓をそれぞれ検出した。墳丘上および周囲から須恵器甕、提瓶、鏃片が出土した。

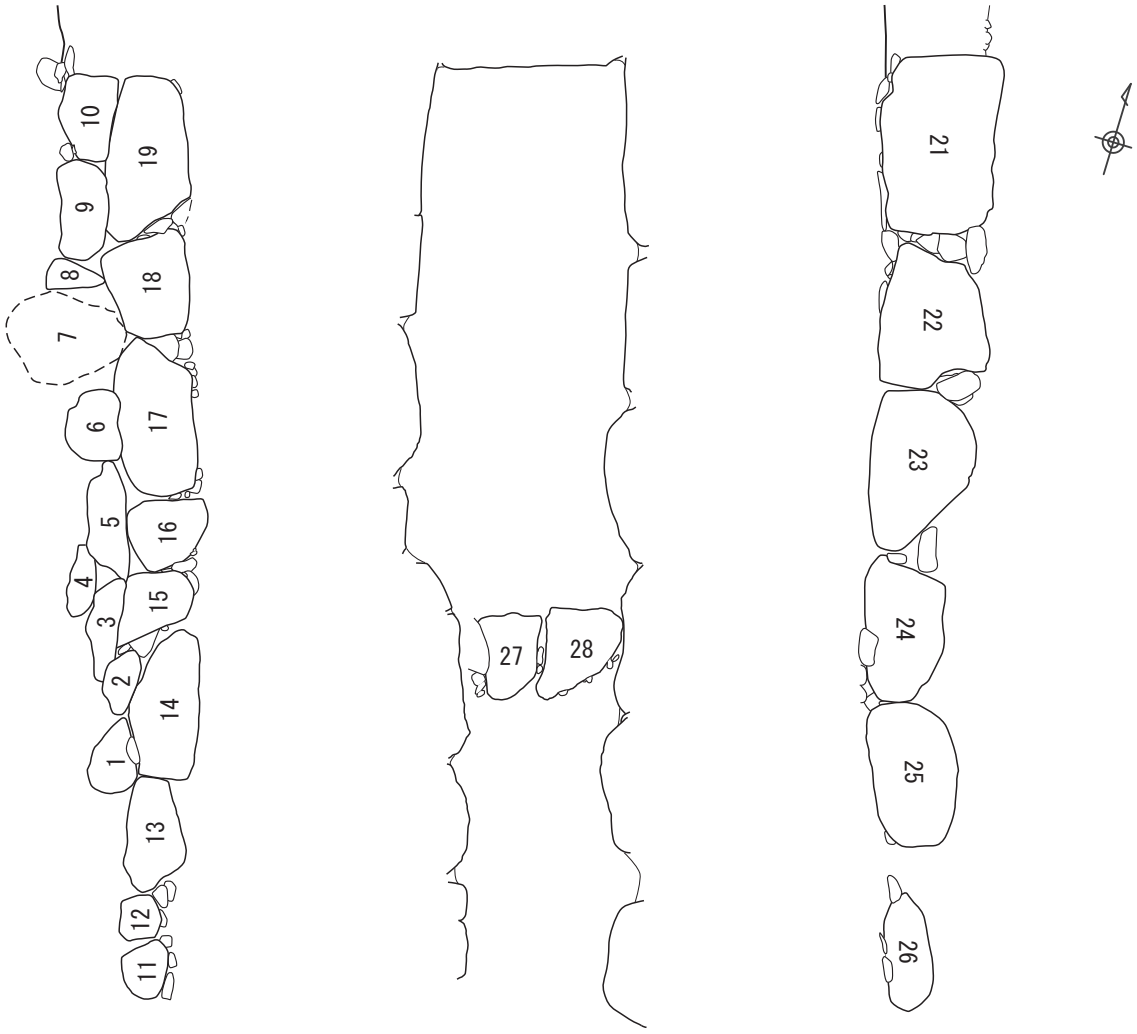
所見　本墳は片袖の横穴式石室を持つ墳丘径10m程度の円墳である。墳丘には埴輪の樹立は確認されず、葺石の存在は想定されるが、あまり緊密でなかった可能性がある。墳丘および周溝など、石室内以外では遺物の出土は散見されるのみである。石室の様相や埴輪を樹立しない点なども勘案して、本墳の築造は概ね６世紀後半～７世紀前半と推測される。



第20図　２号墳　主体部展開図



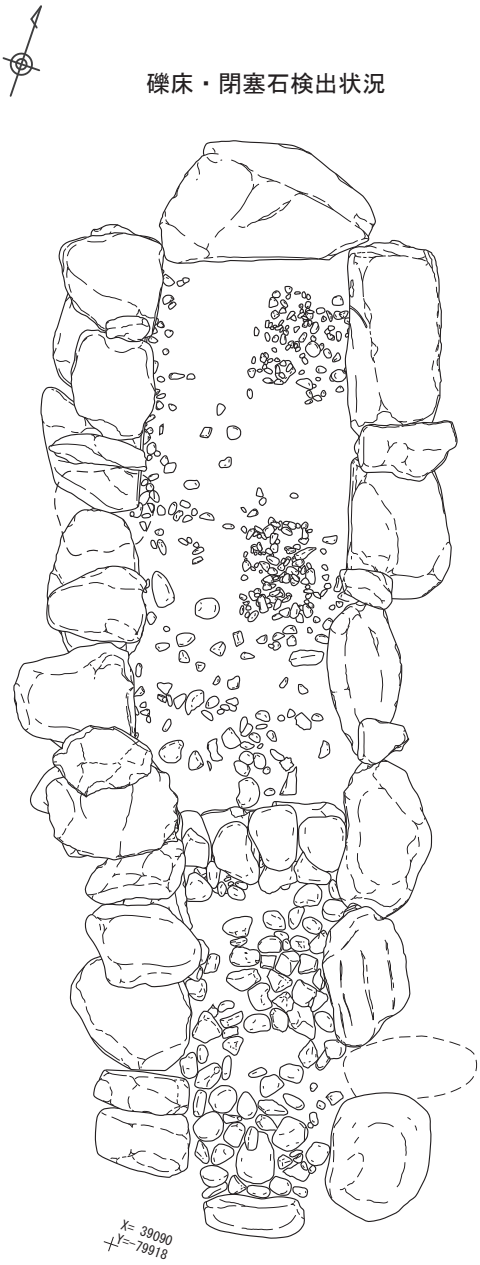
第21図　２号墳　主体部出土遺物分布図



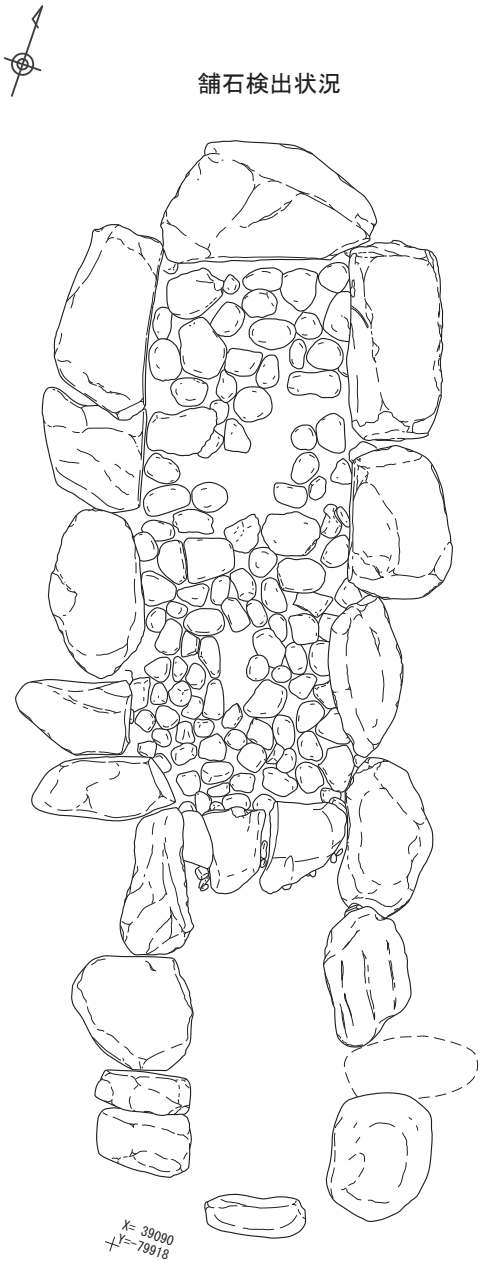
第２表　２号墳　主体部石材計測値一覧表

番号	部位		法量（cm）				石種	備考
	位置	段数	長軸	短軸	高(厚)	重量(kg)		
1	西側壁	2.5	55	36	19	33	凝灰岩か	
2	西側壁	2	57	39	34	79	輝石安山岩	
3	西側壁	2	63	63	25	119	輝石安山岩	
4	西側壁	2	51	32	17	33	輝石安山岩	
5	西側壁	2	66	49	33	110	輝石安山岩	
6	西側壁	2	51	47	34	116	輝石安山岩	
7	西側壁	2	53	46	53	169	凝灰岩	
8	西側壁	1	56	33	28	83	輝石安山岩	羨門石
9	西側壁	1	47	24	19	37	輝石安山岩	
10	西側壁	1	65	60	39	156	輝石安山岩	
11	西側壁	2	65	38	26	69	凝灰岩	羨門石
12	西側壁	2	71	52	22	112	輝石安山岩	
13	西側壁	2	61	37	25	51	凝灰岩か	
14	西側壁	1	80	49	37	136	凝灰岩	
15	西側壁	1	70	49	33	161	輝石安山岩	袖
16	西側壁	1	58	50	40	147	輝石安山岩	袖
17	西側壁	1	95	58	52	300	輝石安山岩	
18	西側壁	1	66	60	48	296	輝石安山岩	
19	西側壁	1	100	44	47	373	輝石安山岩	北端
20	奥壁	1	114	64	78	771	輝石安山岩	
21	東側壁	1	94	53	50	557	輝石安山岩	北端
22	東側壁	1	80	54	62	426	輝石安山岩	
23	東側壁	1	86	70	32	249	輝石安山岩	
24	東側壁	1	85	46	44	214	輝石安山岩	
25	東側壁	1	72	42	45	196	凝灰岩	
26	東側壁	1	75	56	34	186	凝灰岩	羨門石
27	閾石		53	39	36	45	凝灰岩	
28	閾石		46	41	35	74	凝灰岩	

礫床・閉塞石検出状況

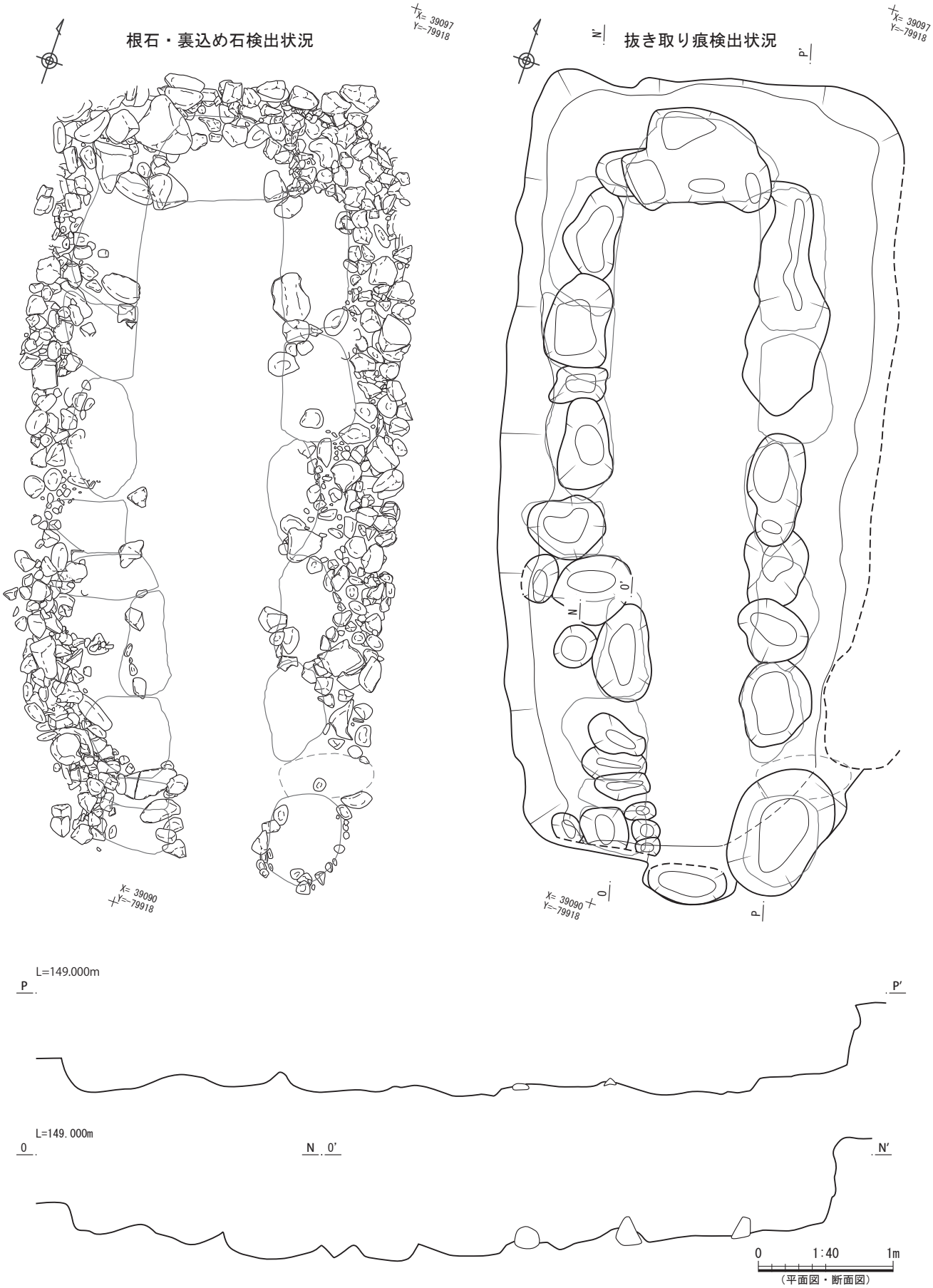


舗石検出状況

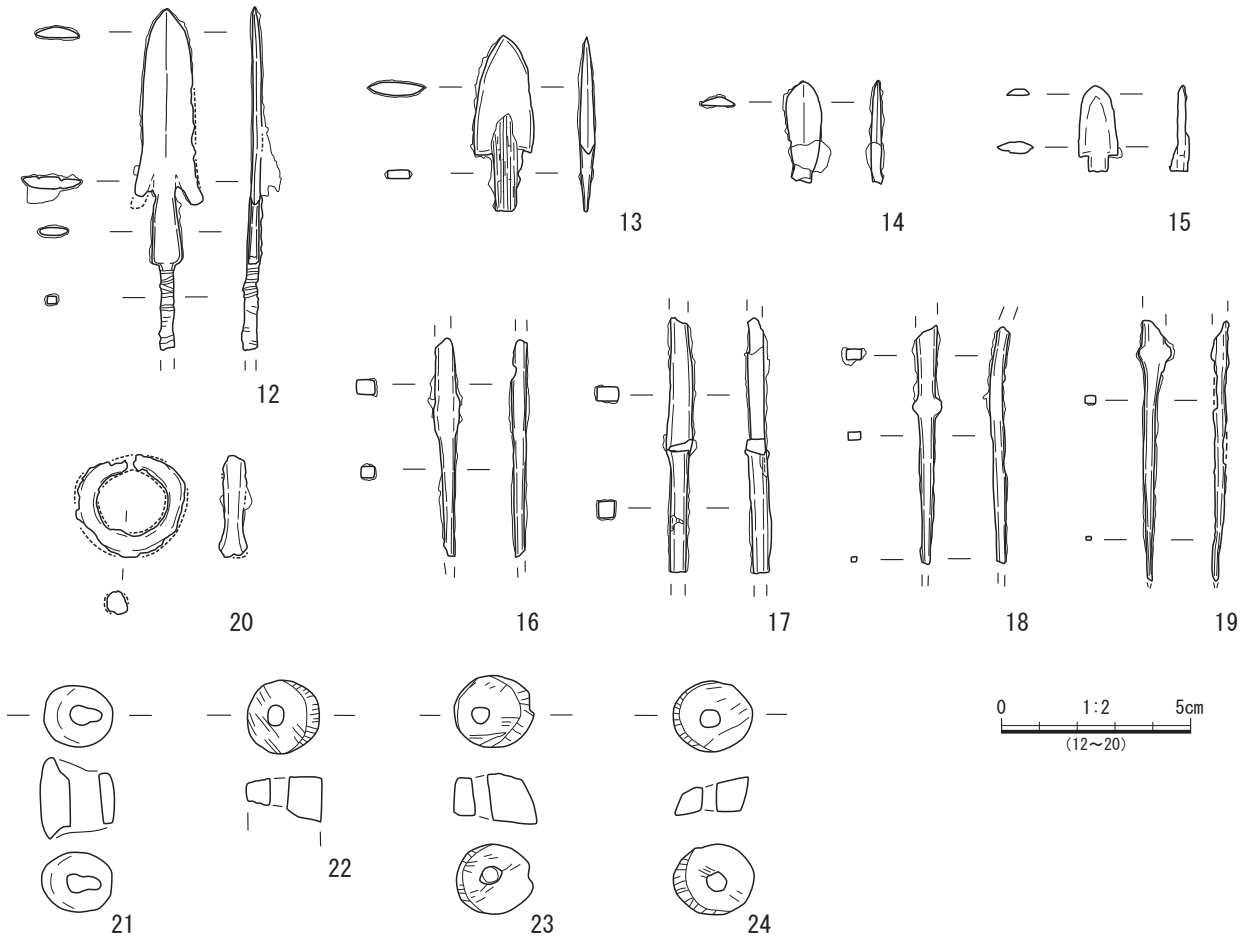


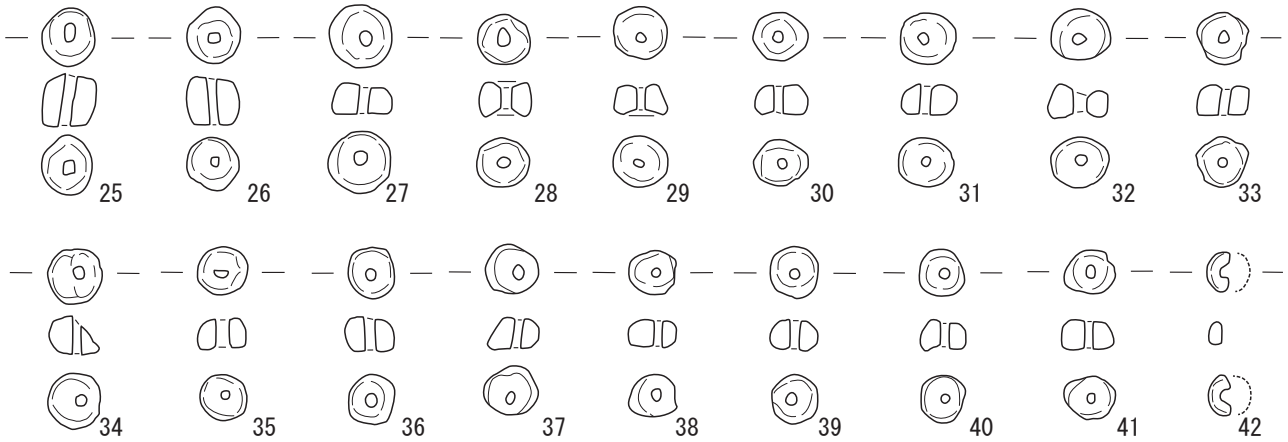
0　1:40　1m
（平面図・断面図）

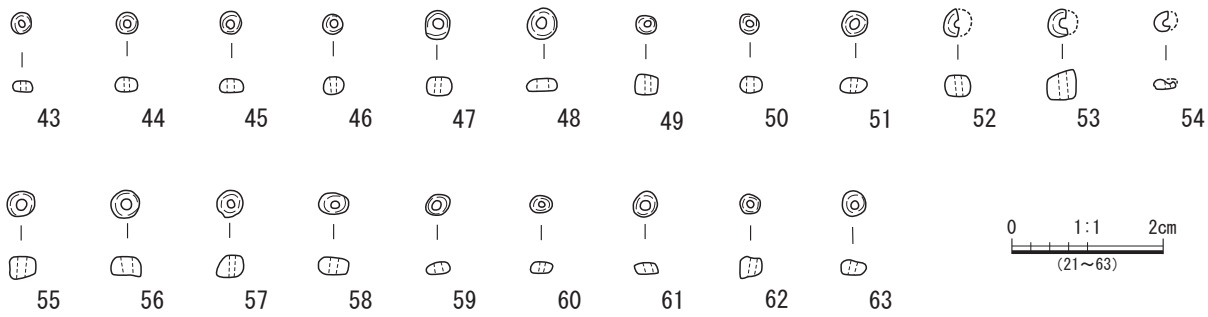
第22図　２号墳　主体部平面図（１）



第23図　２号墳　主体部平面図（２）・掘り方エレベーション図







第24図　２号墳　出土遺物実測図（１）

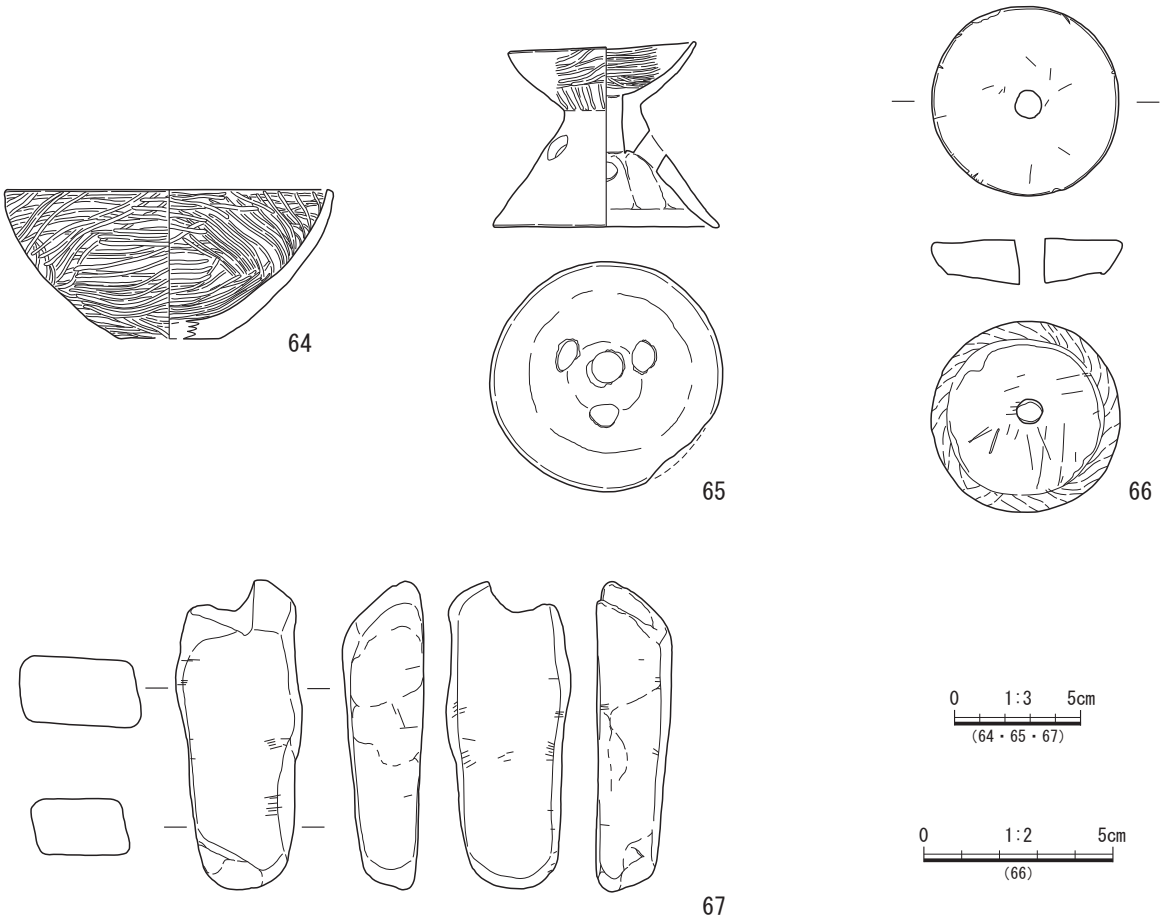
第３表　２号墳　出土遺物観察表（１）

図版	番号	種別 器種	法量(cm)			重量 (g)	観察所見	備考
			長さ	幅	厚さ			
第24図 PL.71	12	鉄鏃	(9.0)	(1.8)	0.3	8.0	腸抉柳葉の有茎鏃。茎部に紐状繊維の圧痕が観察される	
第24図 PL.71	13	鉄鏃	(4.6)	1.6	0.4	4.9	有茎鏃。茎に木質残留物が付着する	
第24図 PL.71	14	鉄鏃	(2.2)	0.9	0.3	2.3	有茎鏃。鏃身部は柳葉形	
第24図 PL.71	15	鉄鏃	(2.3)	1.2	0.2	1.6	有茎鏃。鏃身部は長三角形	
第24図 PL.71	16	鉄鏃	(5.7)	0.5	0.4	3.7	有茎鏃の頸～茎部。頸部関は棘状か。頸部断面は長方形、茎部断面は方形	
第24図 PL.71	17	鉄鏃	(6.7)	0.6	0.4	6.0	有茎鏃の頸～茎部。頸部関は棘状。頸部断面は長方形、茎部断面は方形	
第24図 PL.71	18	鉄鏃	(6.3)	0.4	0.2	3.6	有茎鏃の頸～茎部。頸部関は棘状。頸・茎部ともに断面は長方形	
第24図 PL.71	19	鉄鏃	(6.9)	0.3	0.2	2.7	有茎鏃の頸～茎部。頸部関は棘状。頸・茎部ともに断面は長方形	
第24図 PL.71	20	耳環	径 2.9	―	0.6	7.0	内径1.9cm。劣化が進行する	

図版	番号	種別 器種	法量(mm)			重量 (g)	材質	観察所見	備考
			直径	孔径	厚さ				
第24図 巻頭図版2	21	管玉	9.6	2.4	7.2	1.3	硬玉	穿孔は径2.4mmと径1.6mmの2種が重複する	
第24図 巻頭図版2	22	臼玉	9.3	2.4	6.5	0.8	滑石	側面に擦痕が顕著。端部が一部欠損	
第24図 巻頭図版2	23	臼玉	9.2	2.7	7.3	1.1	滑石	成形時の擦痕が顕著。厚みは不均衡	
第24図 巻頭図版2	24	臼玉	9.3	2.3	4.0	0.6	滑石	成形時の擦痕が観察される。厚みは不均衡	
第24図 巻頭図版2	25	臼玉	7.9	1.4	7.3	0.5	土	黒みが強く、器面の仕上げがより丁寧	
第24図 巻頭図版2	26	臼玉	7.3	1.1	6.4	0.5	土	黒みが強く、器面の仕上げがより丁寧	
第24図 巻頭図版2	27	臼玉	8.5	1.9	4.4	0.3	土	黒みが強く、器面の仕上げがより丁寧	
第24図 巻頭図版2	28	臼玉	7.1	1.2	4.5	0.2	土	端部は中央に向かって若干窪む	
第24図 巻頭図版2	29	臼玉	7.3	1.7	4.1	0.2	土	端部の一方は平坦だが、他方は中央に向かって窪む	
第24図 巻頭図版2	30	臼玉	7.0	1.2	4.3	0.2	土	端部は平坦	
第24図 巻頭図版2	31	臼玉	7.5	1.6	4.1	0.2	土	端部は平坦	
第24図 巻頭図版2	32	臼玉	7.6	1.8	4.4	0.2	土	端部は中央に向かって若干窪む	
第24図 巻頭図版2	33	臼玉	6.9	1.2	4.2	0.2	土	端部は平坦	
第24図 巻頭図版2	34	臼玉	7.8	1.2	5.2	0.2	土	端部は平坦。端部が一部欠損	
第24図 巻頭図版2	35	臼玉	6.6	1.1	4.2	0.2	土	端部は平坦	
第24図 巻頭図版2	36	臼玉	7.2	1.6	4.5	0.2	土	端部は平坦	
第24図 巻頭図版2	37	臼玉	6.7	1.6	3.9	0.2	土	端部は平坦	
第24図 巻頭図版2	38	臼玉	6.2	1.5	3.8	0.1	土	端部は平坦	
第24図 巻頭図版2	39	臼玉	6.8	1.7	4.0	0.2	土	端部は平坦	
第24図 巻頭図版2	40	臼玉	6.4	1.3	4.4	0.2	土	端部は平坦	
第24図 巻頭図版2	41	臼玉	5.8	1.7	3.8	0.2	土	端部は平坦	
第24図 巻頭図版2	42	臼玉	5.5	1.1	2.9	0.1以下	土	1/2残存	
第24図 巻頭図版2	43	小玉	3.0	1.0	1.5	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第24図 巻頭図版2	44	小玉	3.1	1.0	1.8	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第24図 巻頭図版2	45	小玉	3.3	1.3	2.0	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第24図 巻頭図版2	46	小玉	3.1	1.1	2.3	0.1以下	ガラス	色調：濃い青	
第24図 巻頭図版2	47	小玉	4.1	1.1	2.7	0.1	ガラス	色調：濃い青	
第24図 巻頭図版2	48	小玉	4.3	1.6	1.7	0.1以下	ガラス	色調：明るい青	
第24図 巻頭図版2	49	小玉	2.6	1.0	2.5	0.1以下	ガラス	色調：明るい青	
第24図 巻頭図版2	50	小玉	2.8	1.2	2.2	0.1以下	ガラス	色調：明るい青	
第24図 巻頭図版2	51	小玉	3.5	1.5	1.8	0.1以下	ガラス	色調：明るい青	
第24図 巻頭図版2	52	小玉	3.5	1.1	2.6	0.1以下	ガラス	色調：明るい青	
第24図 巻頭図版2	53	小玉	4.1	1.0	4.1	0.1以下	ガラス	色調：明るい青	
第24図 巻頭図版2	54	小玉	(2.7)	(1.4)	(1.6)	0.1以下	ガラス	色調：明るい青	
第24図 巻頭図版2	55	小玉	3.6	1.8	2.8	0.1以下	ガラス	色調：青緑	
第24図 巻頭図版2	56	小玉	3.7	1.2	2.6	0.1以下	ガラス	色調：青緑	
第24図 巻頭図版2	57	小玉	3.5	0.9	2.9	0.1以下	ガラス	色調：青緑	
第24図 巻頭図版2	58	小玉	3.4	1.1	2.1	0.1以下	ガラス	色調：青緑	
第24図 巻頭図版2	59	小玉	3.4	0.8	1.7	0.1以下	ガラス	色調：青緑	
第24図 巻頭図版2	60	小玉	3.0	1.1	1.9	0.1以下	ガラス	色調：青緑	
第24図 巻頭図版2	61	小玉	3.4	1.4	2.0	0.1以下	ガラス	色調：黄緑	
第24図 巻頭図版2	62	小玉	2.8	1.0	2.4	0.1以下	ガラス	色調：黄緑	
第24図 巻頭図版2	63	小玉	3.5	1.1	2.4	0.1以下	ガラス	色調：黄緑	

２号墳の周溝内を中心に、古墳時代前期の遺物が出土している。２号墳調査時には認定していなかったが、調査の進行とともに、同墳下層に竪穴建物跡３軒を検出するにいたった。20・21・23号竪穴建物跡は、それぞれが２号墳の周溝により一部を削平されているが、20・21号竪穴建物跡は一部が墳丘下、23号竪穴建物跡は一部が周溝外にあるため、残存が比較的良好であった。掲載した遺物はこれら竪穴建物跡のいずれかに帰属する可能性が高いものと考えられるが、２号墳調査時に周溝埋土内より一括出土しているため、その正確な帰属が不明である。したがって、ここで一括で掲載する。

参考ではあるが、64は墳丘南西の周溝内、65は同北東の周溝内、66は同北西の墳丘部分よりそれぞれ出土している。直近の遺構からの出土を想定するならば、64は21号竪穴建物跡、65は23号竪穴竪穴建物跡、66は20号竪穴建物跡にそれぞれ帰属する可能性が考えられる。



第25図　２号墳　出土遺物実測図（２）

第４表　２号墳　出土遺物観察表（２）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第25図 PL.71	64	古式土師器 坏	【13.0】	【4.0】	5.9	器面ヘラミガキ	①良好　②10YR 7/6 ③砂	1/3	
第25図 PL.71	65	古式土師器 器台	7.4	9.0	7.3	外：ヘラミガキ、脚部に３孔穿孔 内：受け部ヘラミガキ、脚部ナデ	①良好　②10YR 8/3 ③長石、砂、小礫	ほぼ完形	

図版	番号	種別 器種	法量(mm) 直径	孔径	厚さ	重量 (g)	観察所見	備考
第25図 PL.71	66	紡錘車	4.9	0.7	1.2	32.0	上下面に擦痕、端部に斜位の擦痕がある	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第25図 PL.71	67	砥石	12.3	5.0	2.8	261.0	泥岩		

【３号墳】（596E-SZ03）

位置　東区中央南端に位置する。北側に４号墳、北東側に２号墳、東側に６号墳がそれぞれ近接する。埋葬主体部より南の墳丘は現道下のため未調査である。

墳形・規模　墳丘径10mの円墳。円を基調とするが、２段目葺石根石の様相からはやや角張った印象を受ける。

周溝　未調査の南側を除く各面で検出した。周溝幅は遺構検出面で4.3～5.3mとなる。遺構はなだらかな傾斜面上に構築されているため周溝の掘り込み位置および掘り込み深度にばらつきがあるが、深さは遺構確認面より西側1.1m、北側0.6m、東側0.4mを測る。周溝底部の標高は西側149.3m、北側149.0m、東側148.8mとなり、地形の傾斜に準じて西から東へと高さが減じる。

埋土は黒色土や黒褐色土を基調とし、上位にAs-Bの一次堆積層を含む。As-B降下前に周溝が概ね埋没していたことが理解される。

墳丘　埋葬主体部の様相から２段以上の築成が想定されるが、検出は地山を削り出した１段目のみである。

外表施設　墳丘１段目の斜面や周溝内から拳大～人頭大の礫を多数検出したため、築造時には葺石が葺かれていたものと考えられる。１段目墳丘斜面で検出した礫の多くは規則的な配列を取らず、また、明確に据えられた様子が看取されないため崩落葺石と判断している。一方で、埋葬主体部を取り囲むように設置された礫列は、２段目墳丘の葺石根石であったと想定される。礫列は、埋葬主体部の正面である南から北西へとやや直線的に並び、緩やかに北へと曲がった後、やはりやや直線的に並ぶ。礫列は主体部北面へと続き、緩やかに南東へと曲がったところで検出が途絶える。なお、石室東側で検出した溝状の窪みは２段目葺石根列の抜き取り痕と推測される。その他、墳丘には埴輪の据え付けられた痕跡は認められず、総じて埴輪の出土は少量であったため、本墳は埴輪を樹立していないものと考える。

埋葬主体部　横穴式石室。玄室の奥壁や両側壁の構築材はすべて抜き取られており、検出したのは羨門から羨道の一部および舗石、裏込め石である。したがって、石室の平面プランや袖の有無など詳細は明らかにしがたいが、舗石の様相や石の抜き取り痕などから、石室主軸はＮ－172°－Ｗで、開口部を南南西に持つことが推定される。石室構築材はほぼ残存しないため正確性には欠くが、石室の全長は約4.1mと推測される。石室中央付近で横長の抜き取り痕があるが、これは羨道と玄室を仕切る閾石の痕跡と考えられるため、これを基準に測定すると、玄室長は2.1m、幅0.8～0.9mとなり、羨道長は2.0m、幅0.7～0.8mとなる。

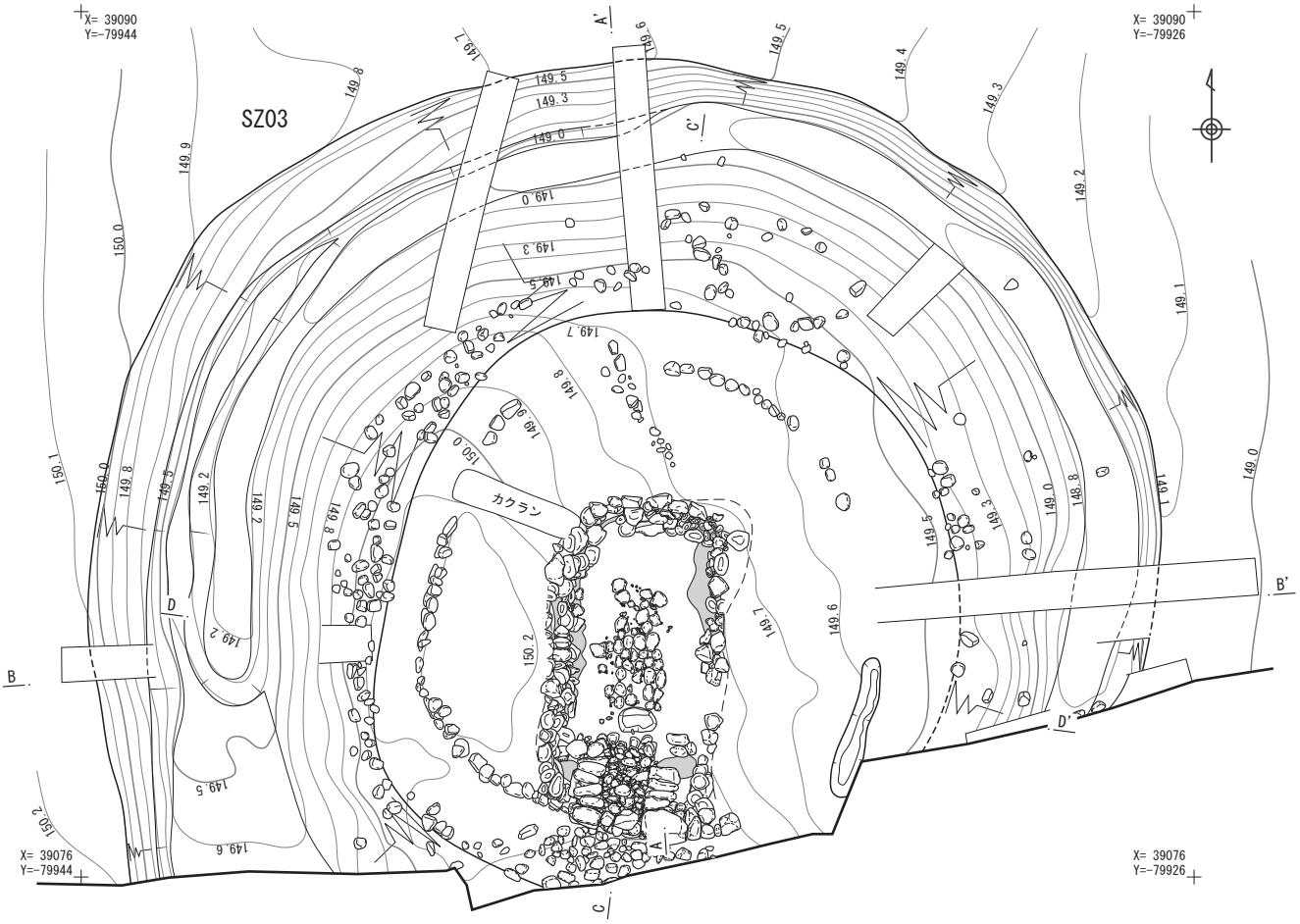
玄室の想定範囲には扁平な礫が敷き詰められており、舗石が比較的良好な状態で残存していた。敷き方は一定しないが、閾石から玄室中央付近までは横列に目地が意識されたように敷かれているため、閾石の設置後、玄門から奥壁に向かって舗石を敷いたものと考えられる。壁体の構築材がすでに取り除かれており、玄室範囲内は間詰めの石や裏込め石など多量の礫を含む埋土で充たされていたが、この埋土に一定量の小礫が混在していた。このことから、その残存は確認できなかったものの、舗石の上には小礫を敷き詰めた礫床が存在したものと推測される。

また、羨道内に充填されていた閉塞石を除去したところ、玄室舗石と同等の規模や形状となる扁平な礫を玄室同様に敷き詰めている様子が確認された。

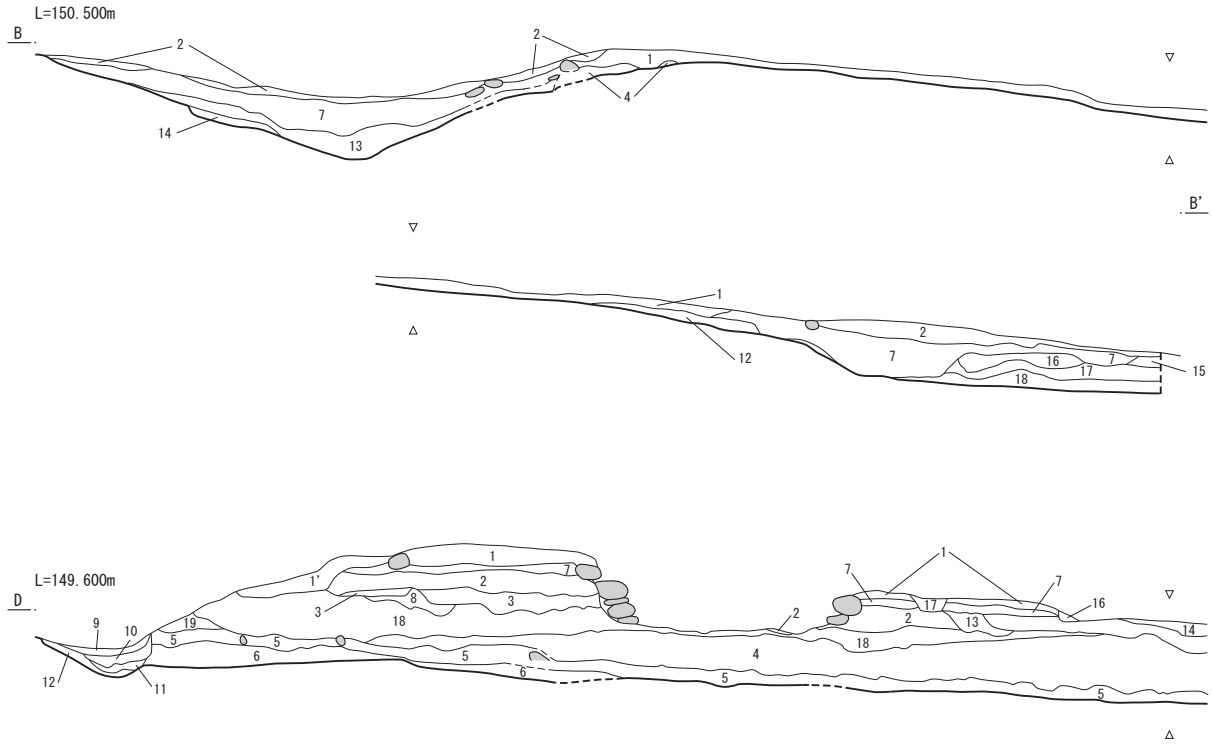
裏込め　掘り方内の外縁には人頭大の礫を掘り方底面よりやや積み上げるように設置している。また、外縁の裏込めと石室構築材の間には拳大以下の比較的細かな礫を多量に充填している。

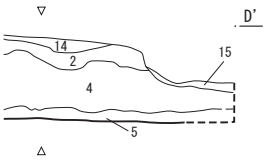
掘り方　地山を削り出す墳丘１段目を掘り込んで主体部の掘り方としている。規模は長軸5.6m、短軸2.8～3.1mであり、遺構検出面から掘り方底面まではおよそ0.5mを測る。底面の標高は149.4mである。

掘り方内の形状を観察すると、羨道や玄室空間についてはやや掘り窪められて一段深くなっていることが看取される。裏込め石などがある掘り方内部外縁についてはやや浅く、前者とのあいだに段差がつく。羨道部の一段低い部分は羨道部幅であるが、玄室では幅が増えて、玄室壁体の推定抜き取り痕を含む範囲まで広がる。掘り方の様相は、石室の形状や構築材の設置などとも連動していると考えられ、石室の構築方法等を検討する上では興味深い。



第26図　３号墳　墳丘全体図・断面図（１）





３号墳(SPA-A')

1	黒褐色（10YR 3/1）	表土。As-B混。シノ等の根の影響を受ける。しまりやや弱、粘性弱。
2	灰オリーブ色（5Y 6/2）	As-B一次堆積層。しまり弱、粘性弱。
3	暗褐色（10YR 3/3）	小礫～人頭大の礫が極めて多く混入。横穴式石室の痕跡。しまりやや弱、粘性弱。
4	黒色（10YR 2/1）	As-C混。墳丘土と考えられる。しまり強、粘性やや弱。
5	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。根によるカクラン。しまりやや弱、粘性やや弱。
6	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混。墳丘構成土と考えられる。しまり強、粘性やや弱。
7	黒色（10YR 2/1）	As-C混。周溝埋土。しまり強、粘性やや強。
8	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(少量)。黄褐色シルトブロック少量混入。しまりやや強、粘性やや強。
9	黒色（10YR 2/1）	As-C混(やや少量)。しまり強、粘性やや強。
10	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(少量)。しまり強、粘性やや強。
11	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	地山。しまり強、粘性やや強。

３号墳(SPB-B')

1～11層までSPA-A'と共通		
12	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(少量)。しまり強、粘性強。墳丘構築土か。
13	黒色（10YR 2/1）	As-C混(やや少量)。しまりやや強、粘性やや強。6層に相当。
14	灰黄褐色（10YR 4/2）	地山。しまり強、粘性やや強。11層に相当。
15	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(やや多量)。しまり強、粘性やや弱。SZ06周溝埋土か。
16	褐色（10YR 4/4）	As-C混(少量)。しまり強、粘性やや強。
17	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(少量)。しまり強、粘性やや弱。
18	黒褐色（10YR 3/2）	As-Cなし。黄褐色シルト混入。しまりやや強、粘性やや弱。

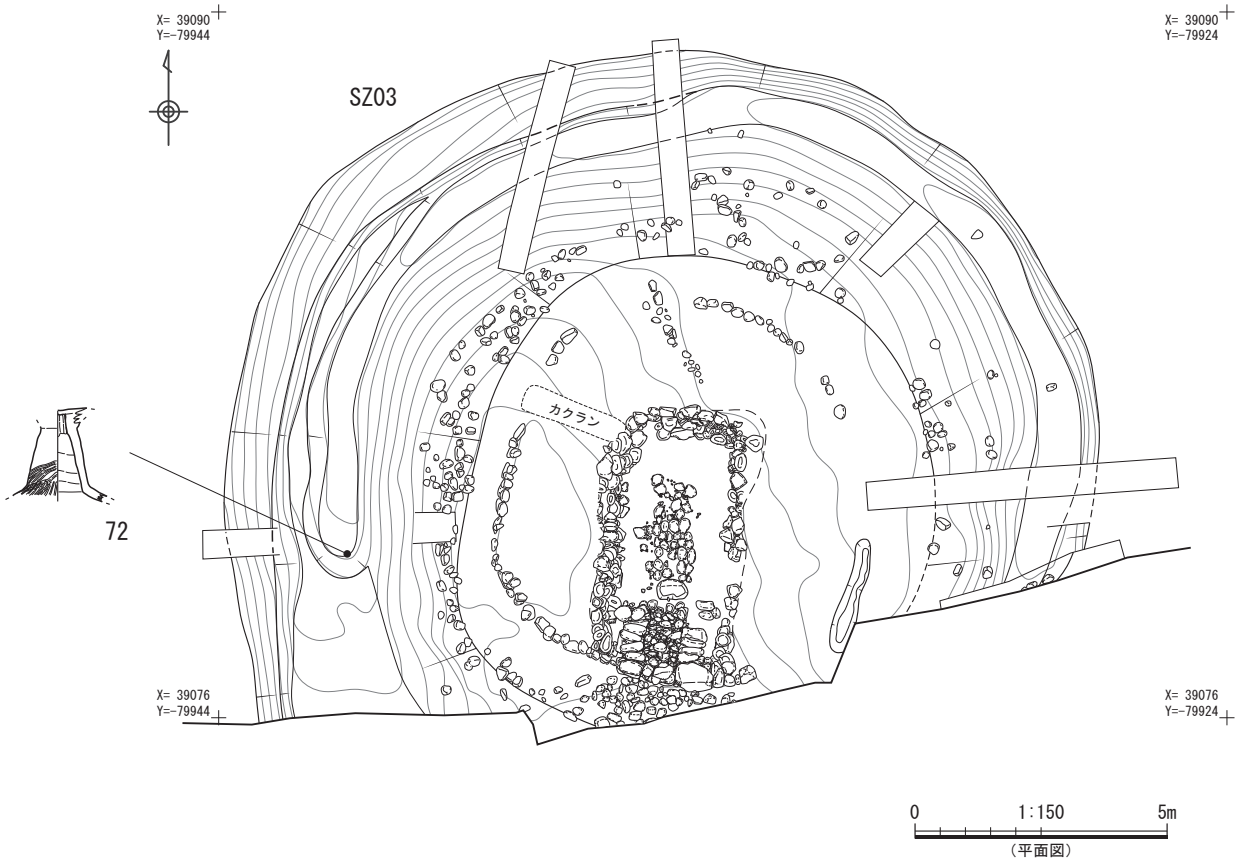
３号墳(SPC-C')

A	灰黄褐色（10YR 4/2）	As-B混。しまり弱、粘性弱。カクラン。
B	黒褐色（10YR 3/2）	As-B混。小礫多い。しまり弱、粘性弱。
1	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒色（10YR 2/1）	As-C混土黒色土。As-C密度濃い。しまり強、粘性やや弱。
3	黒褐色（10YR 2/2）	As-Cの混入はほぼなく、As-C下の黒色土と想定される。しまりやや強、粘性やや強。
4	黒褐色（10YR 3/1）	軽石状の小粒子含む。As-YP、黄褐色シルト粒子(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
5	灰黄褐色（10YR 4/2）	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量が混在するも黒色土が主体。しまり強、粘性やや強。漸移層。
6	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。シルトが優勢。しまり強、粘性やや強。漸移層。
7	黒褐色（10YR 3/2）	白色粒子(φ1～2mm)やや少量。黒色土中ににぶい黄褐色土が斑状に混入する。しまり強、粘性強。極めて硬くしまっており、整地面の可能性が考えられる。
8	黒褐色（10YR 2/2）	白色粒子(φ1～2mm)少量。7層目に比べてゆるく柔らかい。しまり弱、粘性弱。

３号墳(SPD-D')

1	黒褐色（10YR 3/1）	表土。As-B混。シノ等の根の影響を受ける。しまりやや弱、粘性弱。
1'	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混。As-YP少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2～6層までSPA-A'と共通		
7	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。にぶい黄褐色シルトがうっすら混入。しまり強、粘性弱。
8	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-Cは混入しない。黄褐色シルト全体的に混在。しまり強、粘性やや弱。
9	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3cm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
10	黒褐色（10YR 3/2）	As-Cなし。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
11	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
12	黄橙色（10YR 7/8）	黄褐色シルト主体の地山。しまりやや強、粘性やや強。
13	黒色（10YR 2/1）	As-C混(極めてわずか)。しまりやや強、粘性弱。
14	灰黄褐色（10YR 4/2）	しまりやや強、粘性やや弱。
15	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性弱。
16	黒褐色（10YR 3/1）	As-A混。礫抜き取り痕か。しまり弱、粘性弱。
17	黒褐色（10YR 3/1）	As-B混。しまり弱、粘性弱。
18	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや弱。
19	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。

第27図　３号墳　墳丘断面図（２）



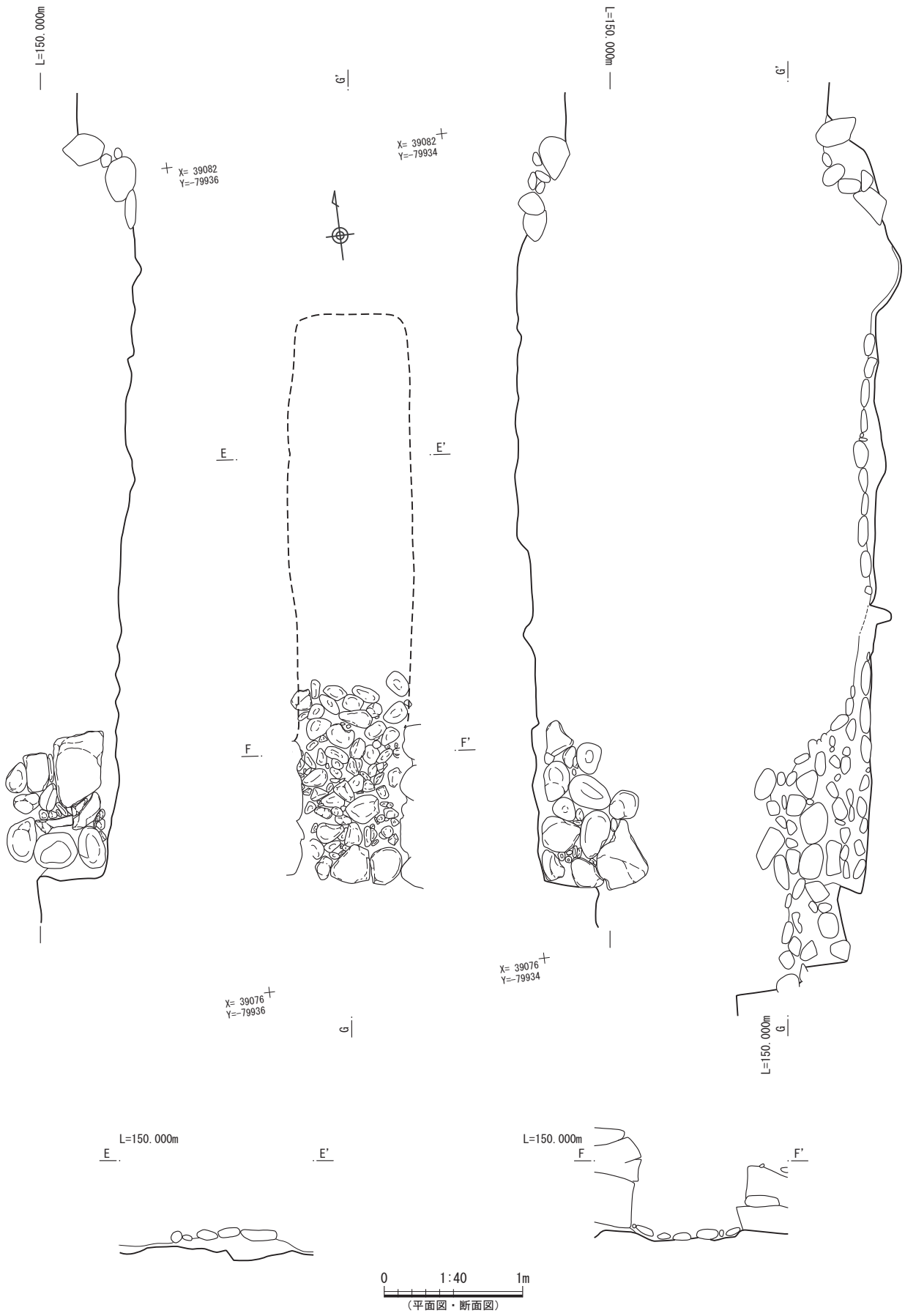
第28図　３号墳　出土遺物分布図

出土遺物　　埋葬主体部の残存が良好でなく、特に玄室部がほぼ全壊の憂き目にあったためか、調査時には遺物がほとんど認識でなかった。ただ、主体部内の埋土をすべて精査したところ、ガラス玉数点を検出した。そのほか、埴輪片を出土しているものの、総じて少量であるため、本墳に伴ったものとは考えにくい。

所見　　横穴式石室を持つ円墳で、埴輪を樹立せず、退化的な葺石敷設を行っていたと想定される。埴輪の樹立がないことから、概ね７世紀代の築造と推定される。

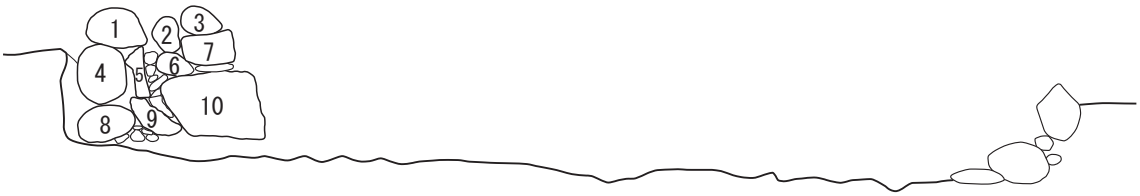
石室材の残存が限定されているため、詳細な石室形状については不明である。掘り方底面の状況からは、羨道幅に比して玄室幅が広がるように看取されるため、両袖形の石室である可能性は十分予見される。一方で、残存する羨道側壁面を玄室側へと延長した場合、特に玄室西側壁の礫抜き取り痕や残存した舗石が羨道側壁延長線内に収まらないとめ、両者は整合しない。また、推定閾石抜き取り痕の位置が玄門および袖の位置となることが予測されるが、その観点からも掘り方底面形状とは合致しない。したがって、本墳の石室が西側に袖を持つ片袖の形状をとる可能性が排除できないと考えられる。

参考として、石室形態が判明している２、４号墳では、両墳ともに玄室と羨道比率が１：１前後となる。本墳と前述２古墳が構造の上で顕著に異なっていないことから主体部比率についても同等であると仮定したとき、玄室の範囲は推定閾石抜き取り痕北端までであったと考えることできる。その場合、やはり玄室範囲と掘り方底面形状の間には齟齬があるため、掘り方底面形状から横穴式石室と即断することができない。両袖か片袖、あるいは無袖のいずれの可能性も排除はしないが、総合的に判断して、２、４号墳同様に片袖形状の石室であった可能性を想定したい。



第29図　３号墳　主体部展開図

西側壁



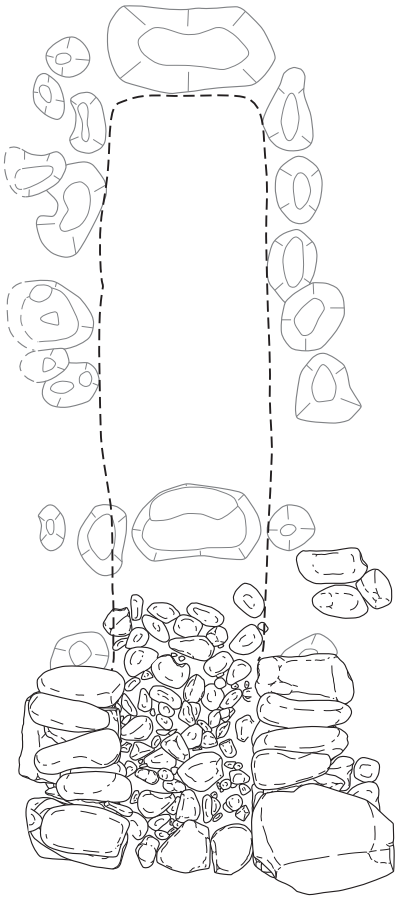
東側壁

第５表　３号墳　主体部石材計測値一覧表

番号	部位		法量（cm/kg）				石材	備考
	位置	段数	長軸	短軸	高(厚)	重量		
1	西側壁	3	46	26	17	30	輝石安山岩	羨門石
2	西側壁	3	41	19	16	19	輝石安山岩	
3	西側壁	3	47	19	13	20	輝石安山岩	
4	西側壁	2	52	25	26	74	輝石安山岩	羨門石
5	西側壁	2	42	26	12	9	輝石安山岩	
6	西側壁	2	36	19	15	13	輝石安山岩	
7	西側壁	2	40	28	18	36	輝石安山岩	
8	西側壁	1	64	37	26	93	輝石安山岩	羨門石
9	西側壁	1	34	28	15	18	輝石安山岩	
10	西側壁	1	54	47	39	200	凝灰岩	
11	東側壁	3	80	56	36	170	輝石安山岩	羨門石
12	東側壁	3	42	21	23	24	輝石安山岩	
13	東側壁	2	51	25	23	48	輝石安山岩	羨門石
14	東側壁	2	46	35	21	36	凝灰岩	
15	東側壁	2	50	30	21	41	輝石安山岩	
16	東側壁	2	50	18	21	27	輝石安山岩	
17	東側壁	1	59	31	22	66	輝石安山岩	羨門石
18	東側壁	1	45	24	31	48	輝石安山岩	
19	東側壁	1	33	20	16	12	凝灰岩	
20	東側壁	1	47	32	25	50	輝石安山岩	
21	東側壁	1	52	31	25	53	輝石安山岩	

X= 39083
Y=-79935

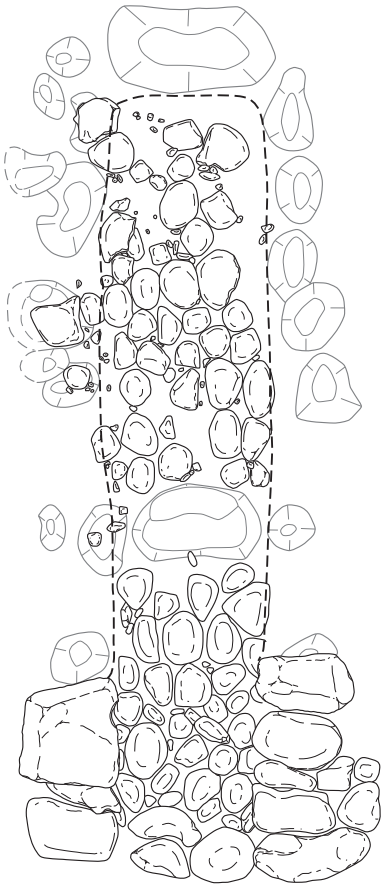
閉塞石検出状況



X= 39076
Y=-79935

X= 39083
Y=-79935

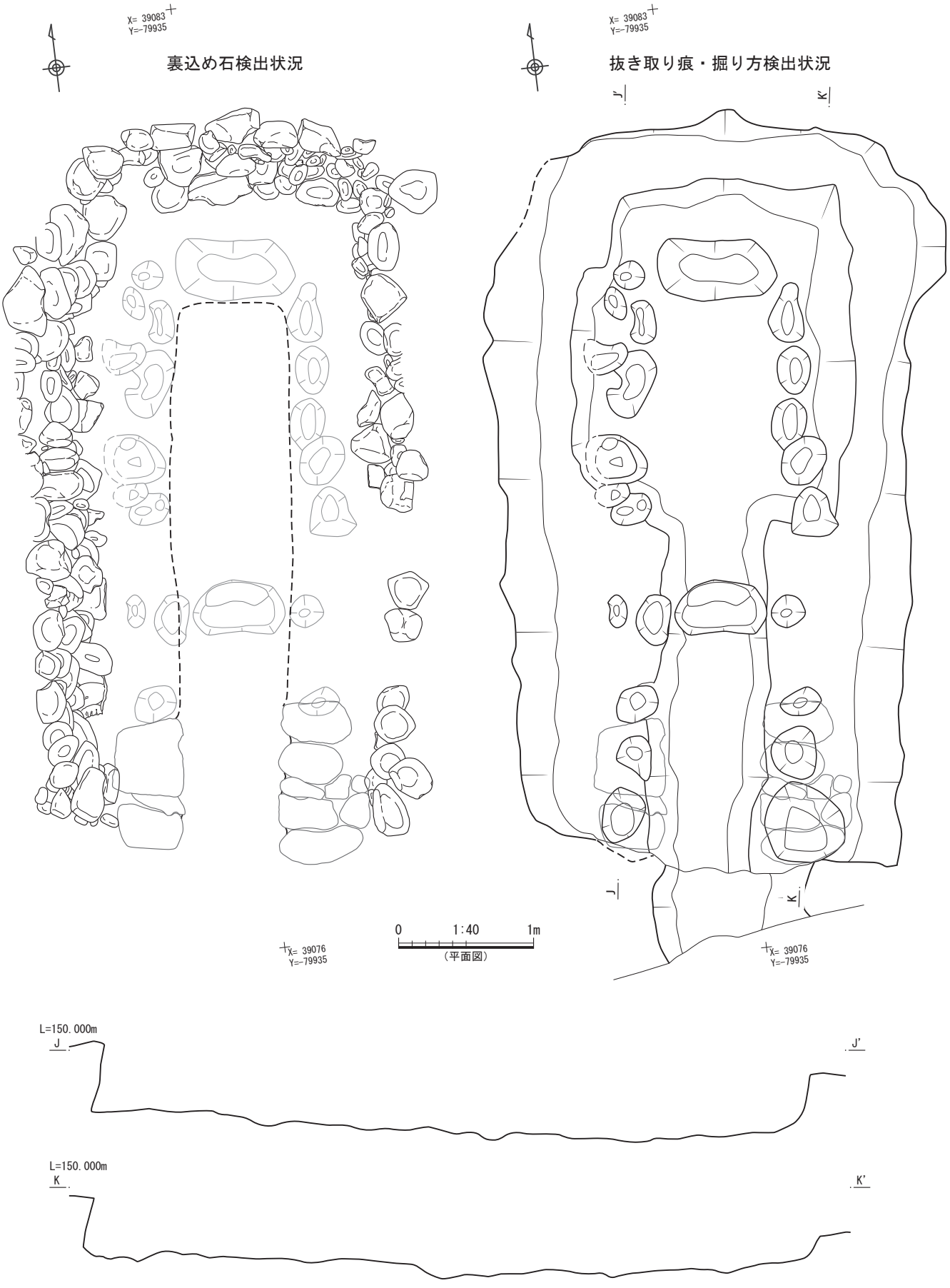
舗石検出状況



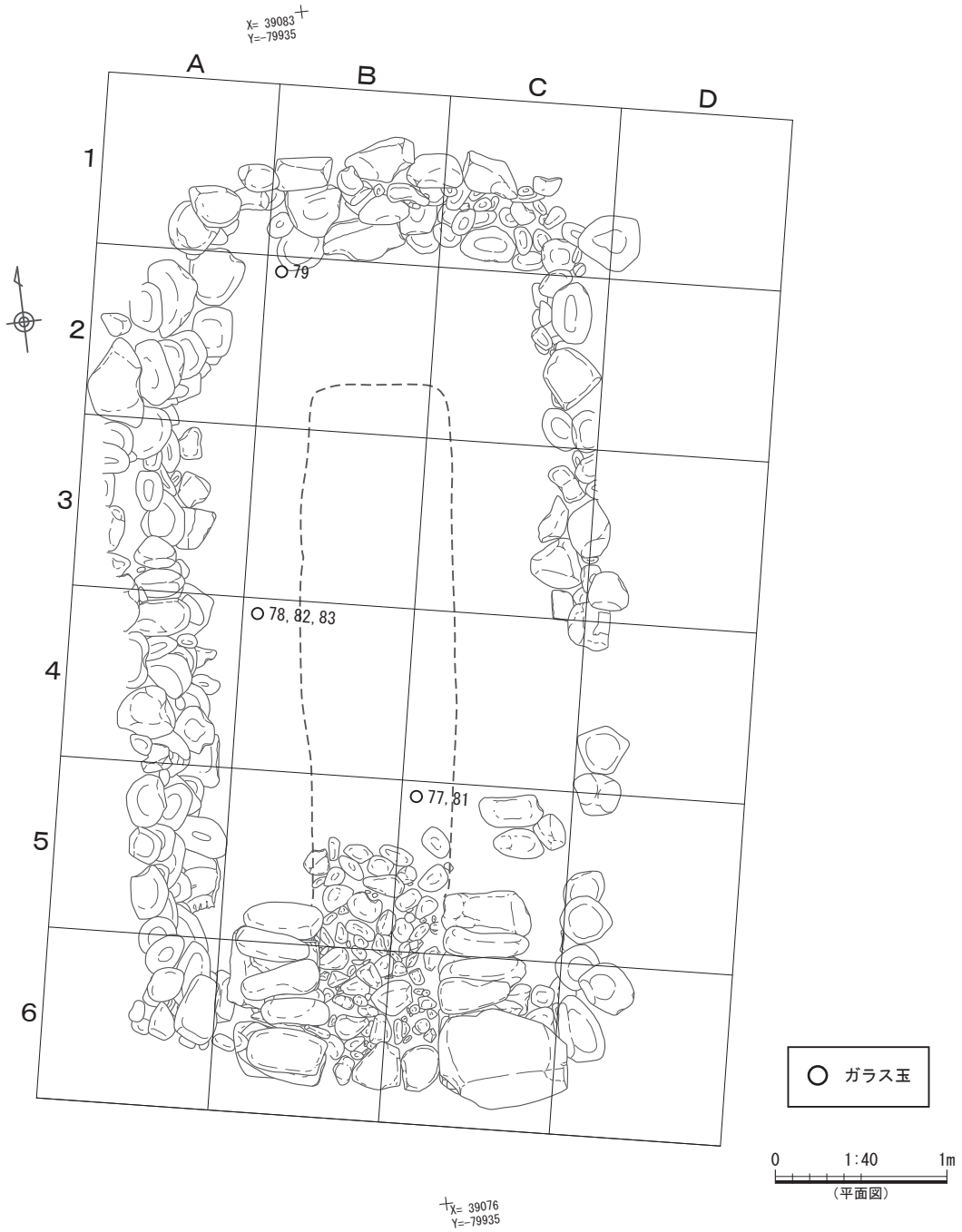
X= 39076
Y=-79935

0　1:40　1m
（平面図）

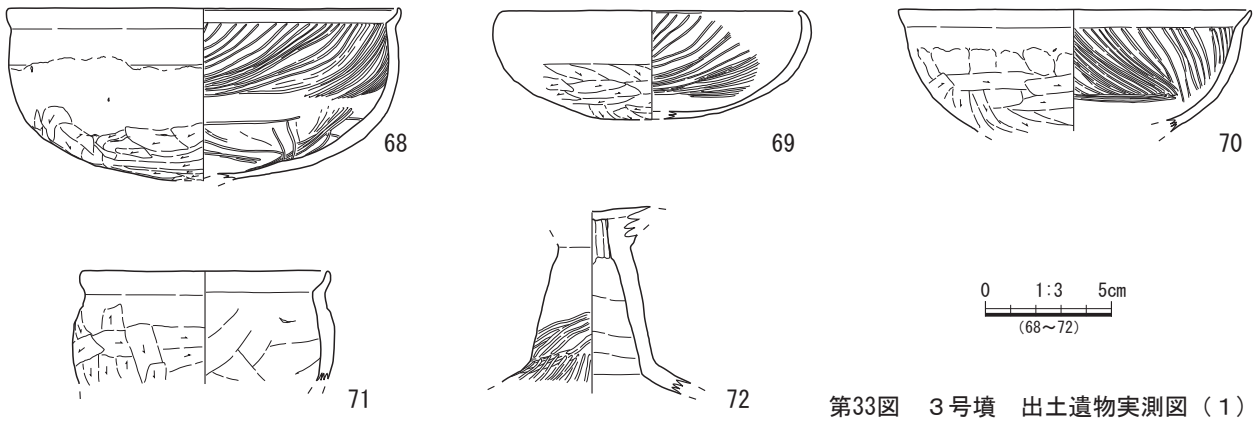
第30図　３号墳　主体部平面図（１）



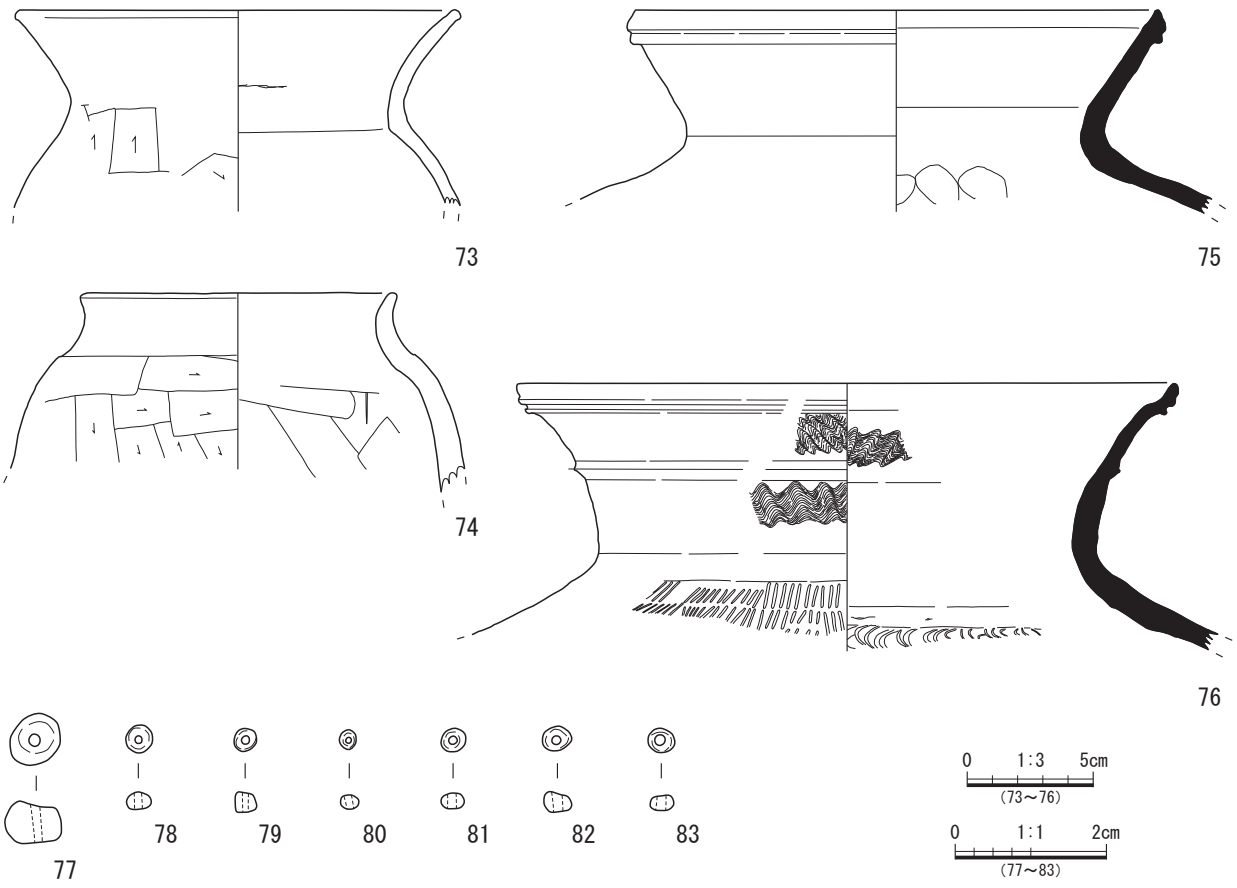
第31図　３号墳　主体部平面図（２）・掘り方エレベーション図



第32図　３号墳　主体部出土遺物分布図



第33図　３号墳　出土遺物実測図（１）



第34図　３号墳　出土遺物実測図（２）

第６表　３号墳　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第33図 PL.71	68	土師器 坏	15.6	—	6.8	外：口縁ナデ、体部上半未調整、底部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、体部暗文状ミガキ、底部ナデ	①良好　②7.5YR 7/6 ③砂、小礫	口縁～底部 1/2	
第33図 PL.71	69	土師器 坏	【12.0】	—	4.8	外：口縁ナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、体部暗文状ミガキ(時計回り)	①良好　②5YR 6/4 ③砂	破片	
第33図 PL.71	70	土師器 坏	【14.0】	—	4.8	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ→暗文状ミガキ	①良好　②5YR 6/6 ③砂、小礫	破片	
第33図 PL.71	71	土師器 鉢	【10.0】	—	(4.3)	外：口縁ナデ、胴部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、胴部ヘラナデ	①良好　②5YR 6/4 ③砂	破片	
第33図 PL.72	72	土師器 高坏	—	—	(7.4)	外：脚部ナデ、裾部ミガキ 内：ヨコナデ、裾部ナデ	①良好　②7.5YR 7/4 ③砂	破片	
第34図 PL.72	73	土師器 甕	【17.2】	—	(7.8)	外：口縁及び端部ナデ。頸部以下ヘラケズリ。全体的に赤味があるが、胴部上半が白変色。 内：ナデ。粘土紐積み上げ痕。胴部白変色	①良好　②2.5YR 6/6 ③砂	破片	
第34図 PL.72	74	土師器 甕	【12.0】	—	(7.9)	外：口縁及び端部ナデ。頸部で段を有する。胴部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、胴部ヘラナデ	①良好　②2.5YR 6/6 ③輝石、石英、小礫	口縁～胴部 1/6	
第34図 PL.72	75	須恵器 大甕	【20.6】	—	(8.1)	外：無文 内：頸部ユビオサエ、ナデ	①良好　②5Y 5/1 ③白色粒子	口縁部 破片	
第34図 PL.72	76	須恵器 大甕	—	—	(10.6)	外：口縁は外反する。口縁上端に２条、中位に１条の突線を設け、口縁部を２段に区画する。区画内に櫛歯状工具による波状文を施文。頸部以下は並行タタキ 内：口縁中位に波状文１単位。その他はナデ。頸部付近はナデ、頸部以下に同心円状当て具痕	①器面は還元炎焼成、断面は赤褐色の互層 ②N 5/0 ③白色粒子	破片	

図版	番号	種別 器種	法量(mm) 直径	孔径	厚さ	重量 (g)	材質	観察所見	備考
第34図 巻頭図版2	77	小玉	7.6	1.5	5.3	0.4	ガラス	色調：紺	
第34図 巻頭図版2	78	小玉	3.4	1.1	1.8	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第34図 巻頭図版2	79	小玉	3.0	0.9	2.4	0.1以下	ガラス	色調：紺　　研磨が顕著でない	
第34図 巻頭図版2	80	小玉	2.6	0.9	1.7	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第34図 巻頭図版2	81	小玉	(3.5)	1.0	1.7	0.1以下	ガラス	色調：青緑	
第34図 巻頭図版2	82	小玉	3.0	0.8	1.7	0.1以下	ガラス	色調：青緑	
第34図 巻頭図版2	83	小玉	3.3	1.5	1.9	0.1以下	ガラス	色調：青緑	

【４号墳】（596E-SZ04）

位置　　東区中央南側に位置する。東側に２号墳、南東側に３号墳がそれぞれ近接する。

墳形・規模　　墳丘径10mの円墳。やや歪な円形で、わずかに卵形を呈する。

周溝　　周溝は全周する。周溝北側は下層遺構と重複していたために若干掘削が過ぎたが、北側以外では遺構検出面で幅3.2～3.6mとなる。斜面上方となる西側でやや浅いが、深さは遺構確認面より1.5m前後であり、周溝底部は概ね標高148.8mで揃う。

埋土は黒色土や黒褐色土を基調とし、上位にAs-AやAs-Bを含むものの、周溝がAs-B降下前には概ね埋没していたことが理解される。墳丘北側では中位層の一部までカクランが及ぶが、下位埋土は残存しており、遺構は大きく損なわれていない。

墳丘　　埋葬主体部の様相から２段以上の築成が想定されるが、検出は地山を削り出した１段目のみである。墳丘北東側は後世の影響を受けている。２段目墳丘を巡ったと想定される葺石根石列が、墳丘北東で不自然に途切れるため、本来の墳丘形状は検出現況より円形に近いことが推定される。

外表施設　　墳丘からは拳大～人頭大の礫を多数検出したため当初は葺石が葺かれていたものと考えられる。１段目墳丘斜面や周溝内より検出した礫の多くは原位置を留めない崩落葺石と考えられ、明確な据え付け痕跡等は未確認である。１段目の墳丘上では、横穴式石室の西壁に取り付き、埋葬主体部を回るように検出された礫列は、２段目墳丘の葺石根石であったと想定される。礫列は、埋葬主体部の正面である南面西隅から西側へと1/4周ほどと、北側に数石分を検出した。

なお、墳丘上および周溝内埋土を含めて埴輪の検出はなく、本墳には埴輪の樹立は認められない。

埋葬主体部　　西側に袖を持つ片袖の横穴式石室。石材は輝石安山岩の大型礫を使用する自然石積みであり、１～２段が残存している。羨道の礫より玄室で使用する礫が大振りとなる印象である。

石室主軸はＮ－178°－Ｅで、開口部をほぼ南に持つ。奥壁を欠いているため抜き取り痕や舗石を加味した推定値となるが、石室全長4.5m、玄室長2.3m、幅は奥壁付近1.1m、中央1.1m、玄門付近0.9m。羨道長2.2m、幅は閾石付近0.8m、中央0.7m、羨門付近0.7mを測る。残存高は0.7mである。

玄室北半分は後世のカクランにより奥壁および壁体の一部ならびに礫床を欠失する。一方、玄室南半分では両側壁がそれぞれ１段ずつ残存しており、玉砂利状の小礫を敷き詰めた礫床を確認した。礫床下部には扁平な河原石を敷き詰める舗石が良好に残存するが、カクランを受けた玄室北側においても舗石が残存していたため、壁体の抜き取り痕と併せて玄室の本来形状の想定が可能である。

玄室と羨道の間には直方体を呈する細長い閾石が、掘り方面をあまり掘りくぼめずに設置される。閾石より玄室側に舗石が敷かれる。舗石は閾石付近では横目地が通るように整然と並ぶが、玄室中程から北は目地に乱れが生じている。このことから、舗石は閾石から奥壁へと順に敷いたものと考えられる。舗石を敷いた後に礫床を設けている。礫床検出時には、閾石の下半分が礫床下に隠れる状態であった。

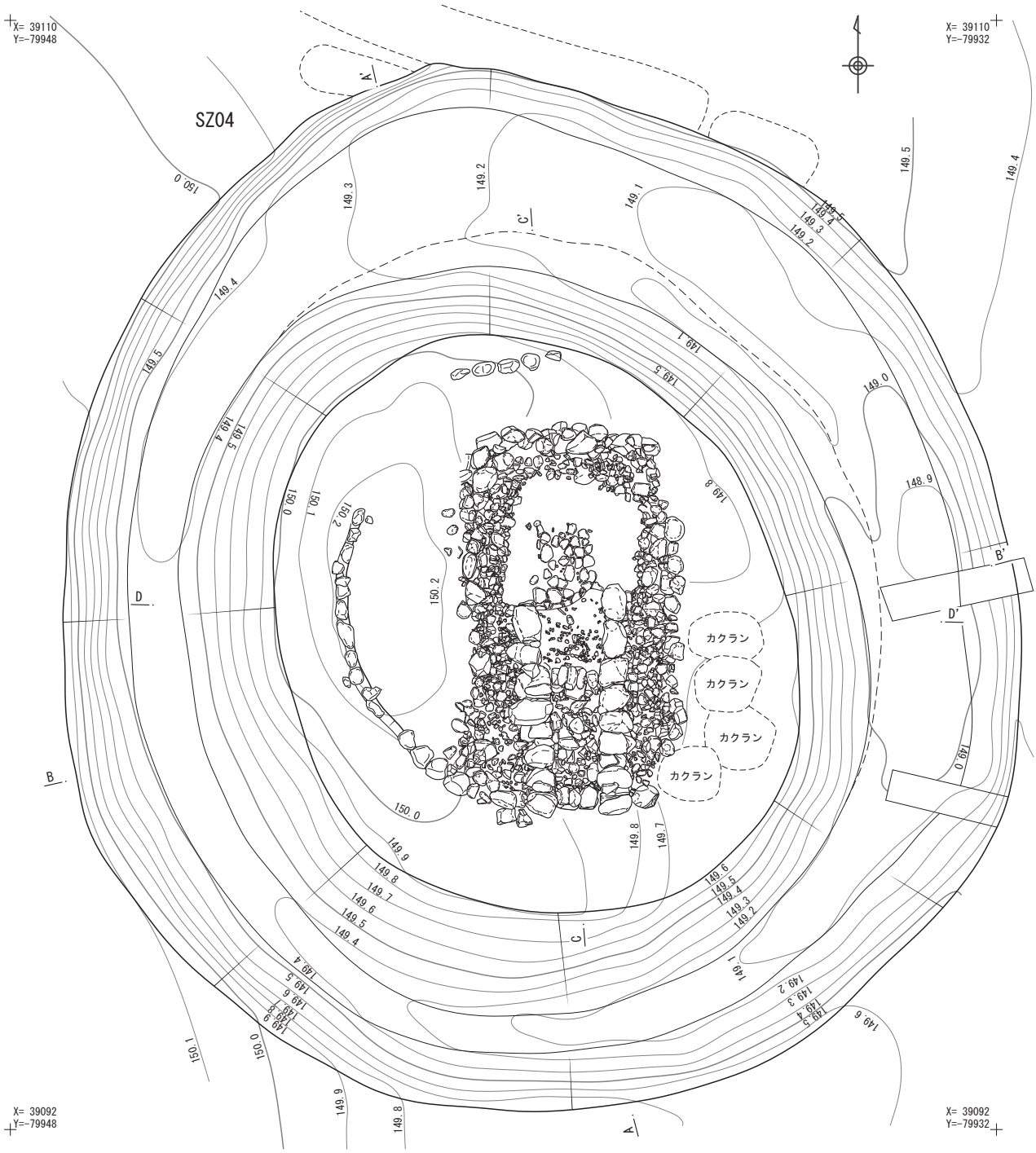
羨道には多量の礫が存在しており、調査当初は閉塞石と解釈していた。しかし、礫を取り除いていくと、羨道底面に閾石を固定するように設置された扁平な礫が検出された。そのため、羨道にも礫が敷かれていた可能性を考慮したい。なお、閾石の南脇で確認した扁平な石の上面レベルが玄室礫床と同等であるため、羨道礫敷面と玄室礫床面とが一連となるところに閾石の上半分が露出する様相が想定される。

２号墳でも見られたが、閾石の上には楕円形状の礫数石が並ぶように検出された。また、羨道側にも人頭大の礫が数石並んでおり、ともに閉塞石の一部と考えられる。

石室前面には礫が多く散乱していたが、前庭構造は看取されなかったため、石材の抜き取り等の後世の改変を受けた時に外部に閉塞石が掻き出されたものと考えられる。

裏込め　　石室掘り方内の外縁には人頭大の礫を底面よりやや積み上げるように設置している。また、外縁の裏込めと石室構築材の間には拳大の礫を多量に充填して裏込めとしている。

掘り方　　地山削り出しの墳丘１段目の中央部分を掘りくぼめ、横穴式石室の掘り方としている。規模は長軸6.6m、短軸3.6mであり、遺構検出面から掘り方底面まではおよそ0.5mを測る。底面の標高は149.5mである。



第35図　４号墳　墳丘全体図

第36図　４号墳　墳丘断面図

４号墳(SPA-A')

1	灰黄褐色（10YR 4/2）	As-A混土。As-A(φ1～3mm)やや多量。(φ4～7mm)多量。(φ1～2cm)多量。極めてに硬くしまる。粘性弱。
2	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-A混土。1層目よりもAs-Aの密度が低い。(φ1～3mm)少量。1層目程ではないが硬くしまる。粘性弱。
3	黒褐色（10YR 3/2）	小礫を多く含むAs-B混土。As-B密度低。しまり弱、粘性弱。小礫は石室の裏込めに用いられたか。全体的に軽い砂まじりの土で構成される。
4	黒褐色（10YR 2/3）	As-AかAs-Cと思われる白色軽石(φ5mm～1cm)やや多量。極めて硬くしまる。粘性弱。
5	にぶい黄褐色（10YR 5/3）	小礫石を多く含む。裏込めか？硬くしまる。粘性弱。
6	灰黄褐色（10YR 4/2）	As-B混。しまり強、粘性弱。
7	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(密度やや低い)。しまり強、粘性やや弱。
8	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-C混(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
9	暗褐色（10YR 3/4）	As-C混(φ1～3mm)少量。橙色粒子(φ1～4mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
10	灰黄褐色（10YR 4/2）	As-A、As-B混。礫含む。しまり強、粘性弱。
11	黒褐色（10YR 2/2）	As-A混。しまり強、粘性弱。
12	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混。しまり強、粘性やや強。
13	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混。しまりやや弱、粘性やや強。木根痕。
14	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混。As-YP含む。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性強。
15	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-YP含む。黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性強。
16	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。しまり強、粘性やや弱。
17	暗褐色（10YR 3/3）	As-YP含む。しまり強、粘性弱。
18	黒褐色（10YR 2/3）	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。漸移層。しまり強、粘性強。

４号墳(SPB-B'）　※1～5層はSPA-A'と共通

6	灰黄褐色（10YR 5/2）	As-B、As-C混。As-B密度高。As-C(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
7	暗褐色（10YR 3/3）	As-B、As-C混。As-B密度低。As-C(φ1～3mm)やや多量、(φ4～6mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
8	黒褐色（10YR 2/3）	As-C混。As-C(φ1～3mm)やや多量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
9	黒色（10YR 2/1）	As-C(φ1～3mm)少量。しまりやや強、粘性弱。地山か？
10	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(φ1～3mm)やや多量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
11	暗褐色（10YR 3/3）	As-C(φ1～2mm)少量。橙色粒子(φ3～7mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
12	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-A、As-B混。As-A(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)やや少量。As-B密度低。しまり強、粘性弱。
13	暗褐色（10YR 3/4）	As-C混(φ1～3mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。しまり強、粘性弱。
14	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(φ1～3mm)の粒子で構成される。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
15	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(φ1～3mm)少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
16	黒色（10YR 2/1）	As-C混(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。しまりやや弱、粘性強。

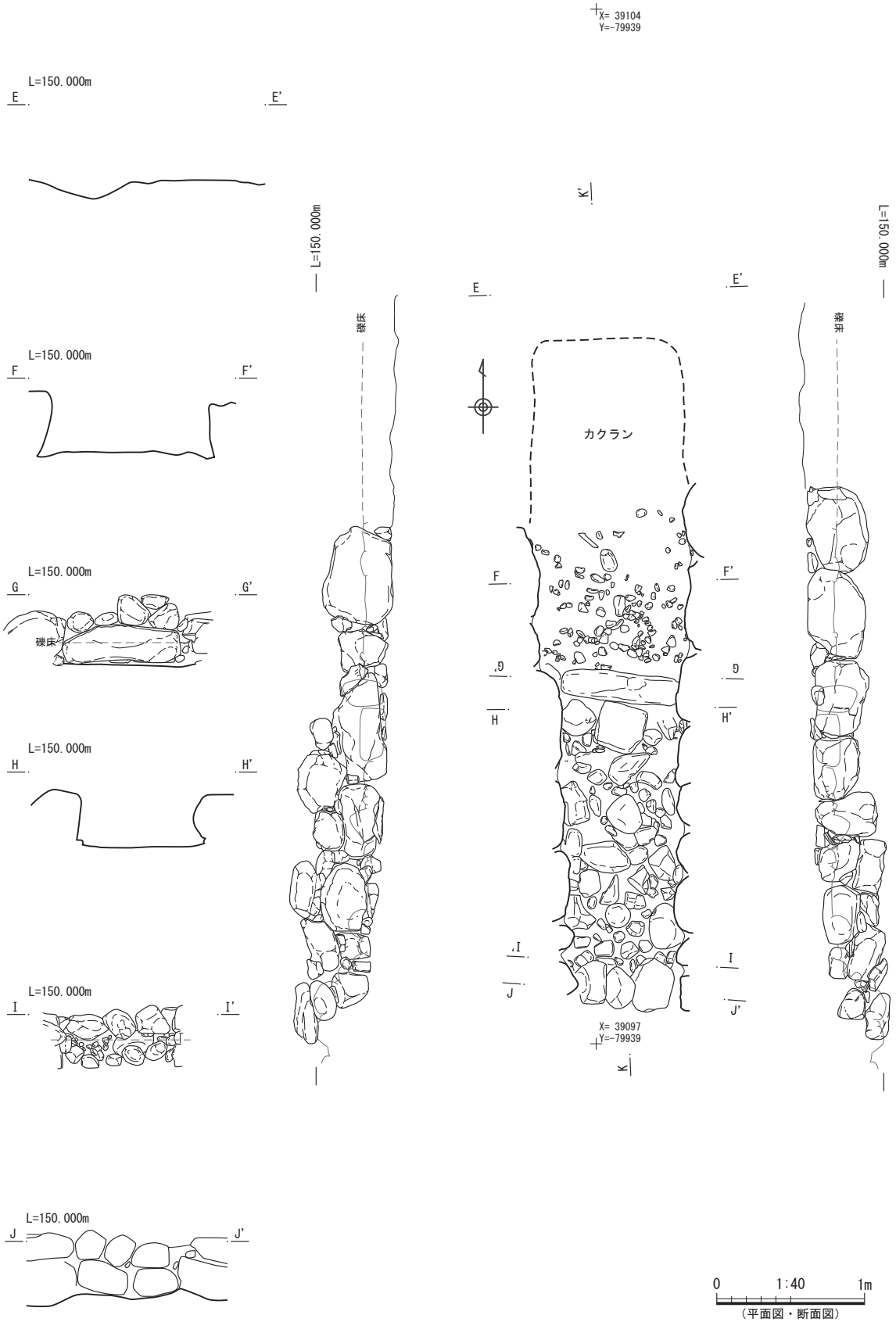
４号墳(SPC-C',D-D'共通)

1	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)多量。全体的に非常に硬化ししまっている。しまり強、粘性やや強。
2	黒色（10YR 2/1）	As-C混(φ1～3mm)やや少量、(φ4～7mm)少量。1層目よりもやや緩い。しまり強、粘性やや強。
3	黒褐色（10YR 3/2）	As-C含まず。白色粒子(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
4	暗褐色（10YR 3/3）	As-C含まず。白色粒子(φ1～3mm)やや多量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量、(φ4～7mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
5	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	漸移層。白色粒子(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。礫を多く含む。しまり強、粘性やや強。
6	黒褐色（10YR 3/1）	白色粒子(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや多量。局所的に黄褐色ブロックが混入する。倒木痕と推定。しまり強、粘性やや強。
7	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	白色粒子(φ1～3mm)やや多量。橙色粒子(φ1～3mm)やや多量。全体的に黄褐色土が混入する。倒木により黄褐色ロームが持ち上げられ、黒色土中に混入したと考えられる。しまりやや強、粘性強。
8	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)多量、(φ8～10mm)多量。しまり強、粘性やや弱。
9	黒褐色（10YR 3/2）	白色粒子(φ1～3mm)やや少量。黒色土中に黄褐色土が層状に混入。しまりやや強、粘性強。
10	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
11	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	白色粒子(φ1～2mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。倒木痕と関連があるか。しまりやや弱、粘性やや弱。
12	黒褐色（10YR 3/2）	白色粒子(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
13	黄褐色（10YR 5/6）	黄褐色ローム層。しまり強、粘性やや弱。
14	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)やや多量、(φ8～10mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。竪穴建物の埋土か。
15	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。竪穴建物の埋土か。
16	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(φ1～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
17	暗褐色（10YR 3/3）	As-C混(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。根によるカクランか。しまり弱、粘性弱。

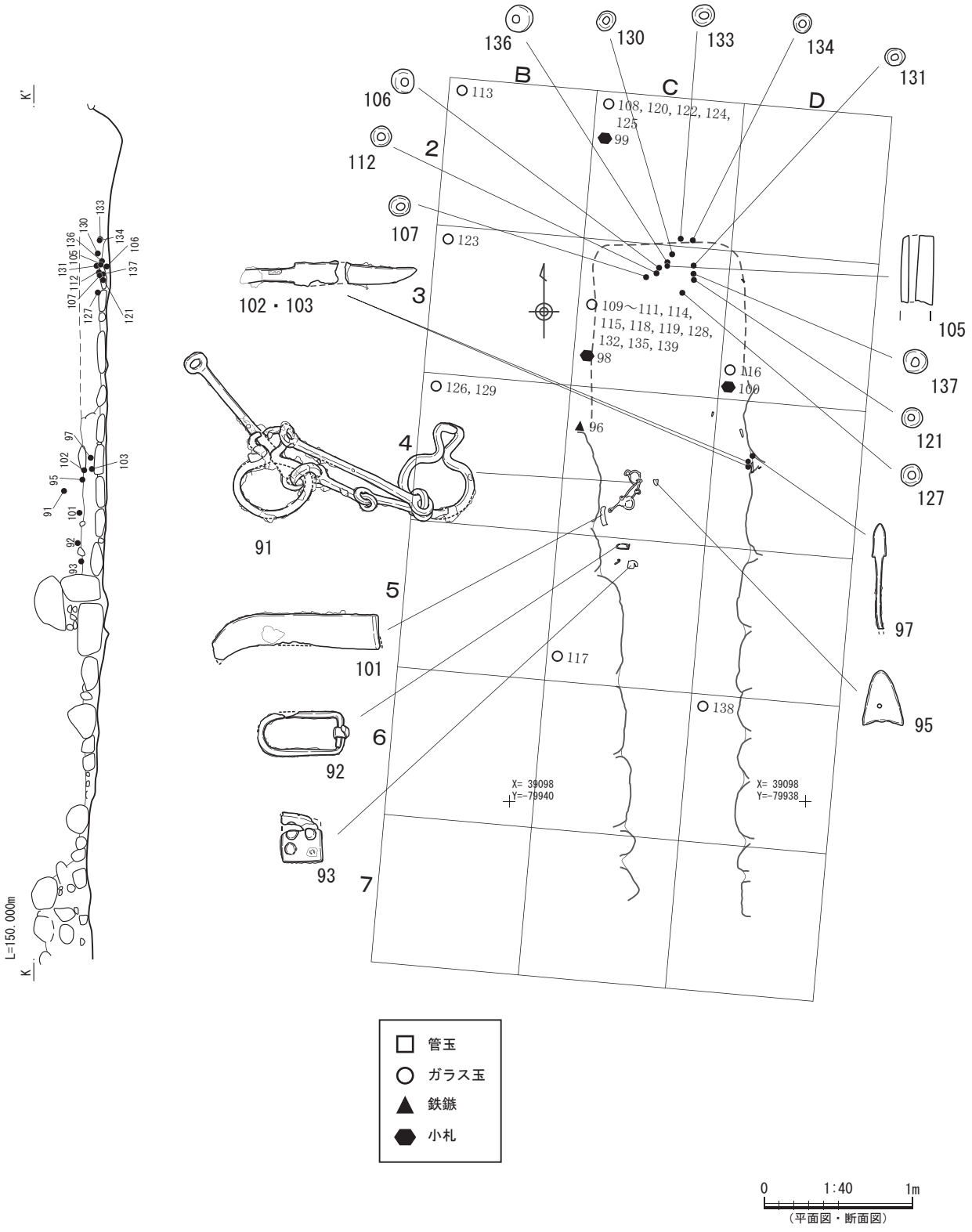
出土遺物　玄室内から瓢形環状鏡板付轡や辻金具、鋲具などの馬具類、小札甲の小札や鉄鏃などの武具類、刀子、曲刃鎌、鉄釘などの鉄製品、碧玉製管玉やガラス小玉などの装身具が出土している。玄室北半分は石室石材が抜き取られるなど残存状況は良好ではなかったが、一部残存していた礫床下の舗石の隙間や、石室内埋土の中からガラス小玉や鉄製品を検出することができた。

墳丘南西の墳丘斜面や周溝より須恵器大甕の破片多数が出土しており、石室南面やや西寄りの位置からは提瓶が出土している。そのほか、墳丘周囲や周溝からは土師器坏、壺、甕の破片、須恵器蓋坏などが検出されている。本墳下層には竪穴建物跡２軒が検出されているため、それらの遺構に伴う遺物も一部、周溝から出土している。

所見　ほぼ南に開口する片袖の横穴式石室を持つ円墳で、葺石を葺くが、埴輪が樹立されていない。葺石も全面的でなく部分的であった可能性が考えられる。埋葬主体部のうち、玄室の北半分は近世以降に壁体を抜き取られており、該当部分は礫床も失われていたが、礫床下の舗石が残存していたため玄室の本来の規模を窺い知ることができる。残存していた玄室南半分では、礫床より各種遺物が出土しているが、西側に馬具類、東側に鉄鏃などの武具類の出土傾向が窺え、副葬品安置時の位置関係を反映したものと推測される。瓢形環状鏡板付轡は群馬県内に類例が乏しいが、６世紀後半に盛行し７世紀には消失するとされる。埴輪が設置されないことを加味すると、本墳の築造は概ね６世紀後半～７世紀前半と推定される。

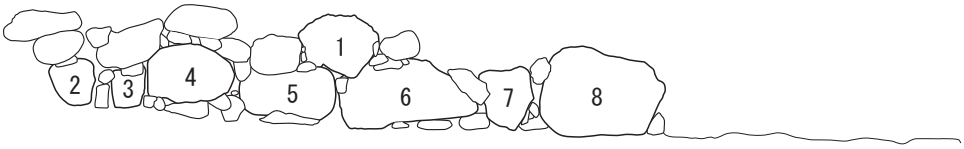


第37図　４号墳　主体部展開図

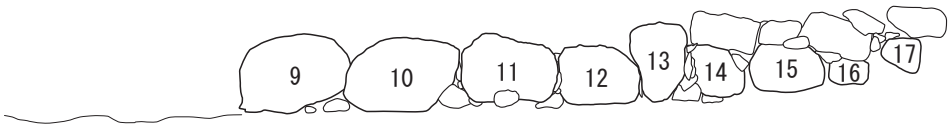


第38図　４号墳　主体部出土遺物分布図

西側壁



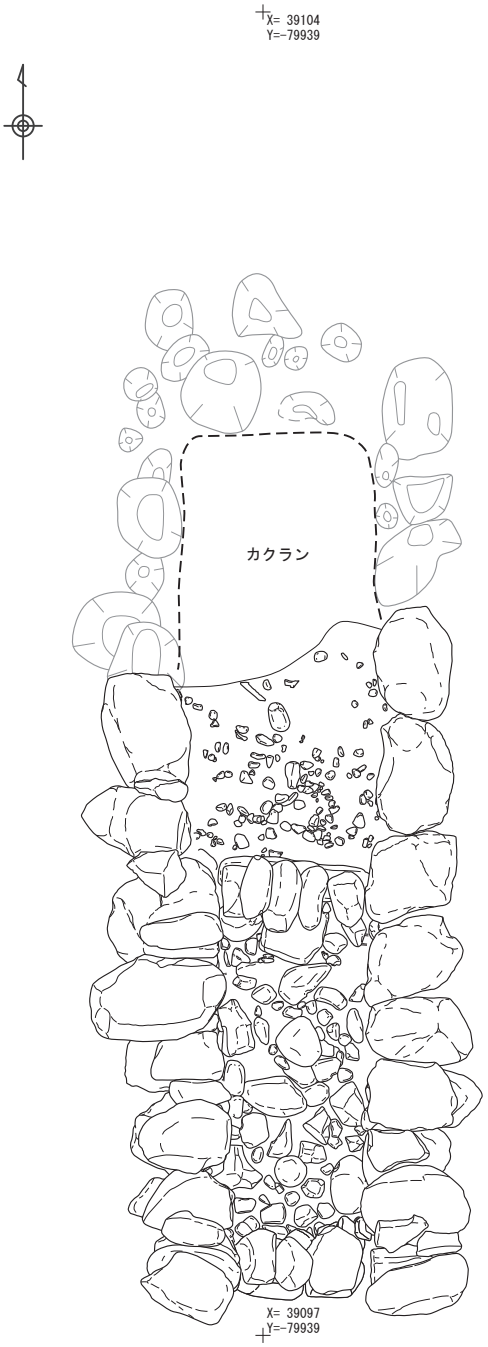
東側壁



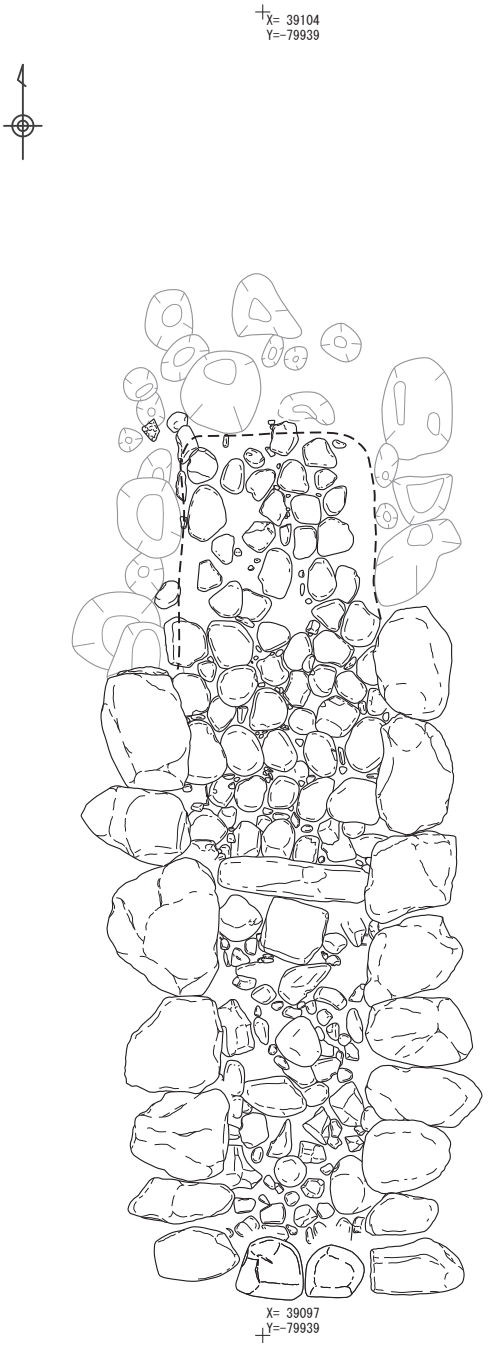
第７表　４号墳　主体部石材計測値一覧表

番号	部位		法量（cm/kg）				石材	備考
	位置	段数	長軸	短軸	高(厚)	重量		
1	西側壁	2	75	47	30	144	凝灰岩	
2	西側壁	1	54	30	28	51	凝灰岩	羨門石
3	西側壁	1	50	21	23	40	凝灰岩	
4	西側壁	1	54	42	39	107	凝灰岩	
5	西側壁	1	60	44	28	110	凝灰岩	
6	西側壁	1	71	68	38	209	凝灰岩	
7	西側壁	1	55	45	38	109	凝灰岩	
8	西側壁	1	63	32	49	186	凝灰岩	
9	東側壁	1	56	43	32	128	凝灰岩	
10	東側壁	1	59	44	38	120	凝灰岩	
11	東側壁	1	44	44	39	118	凝灰岩	
12	東側壁	1	48	36	37	84	凝灰岩	
13	東側壁	1	52	42	41	116	凝灰岩	
14	東側壁	1	56	31	36	75	凝灰岩	
15	東側壁	1	49	38	31	69	凝灰岩	
16	東側壁	1	32	22	12	17	輝石安山岩	
17	東側壁	1	52	28	21	60	輝石安山岩	羨門石

閉塞石検出状況



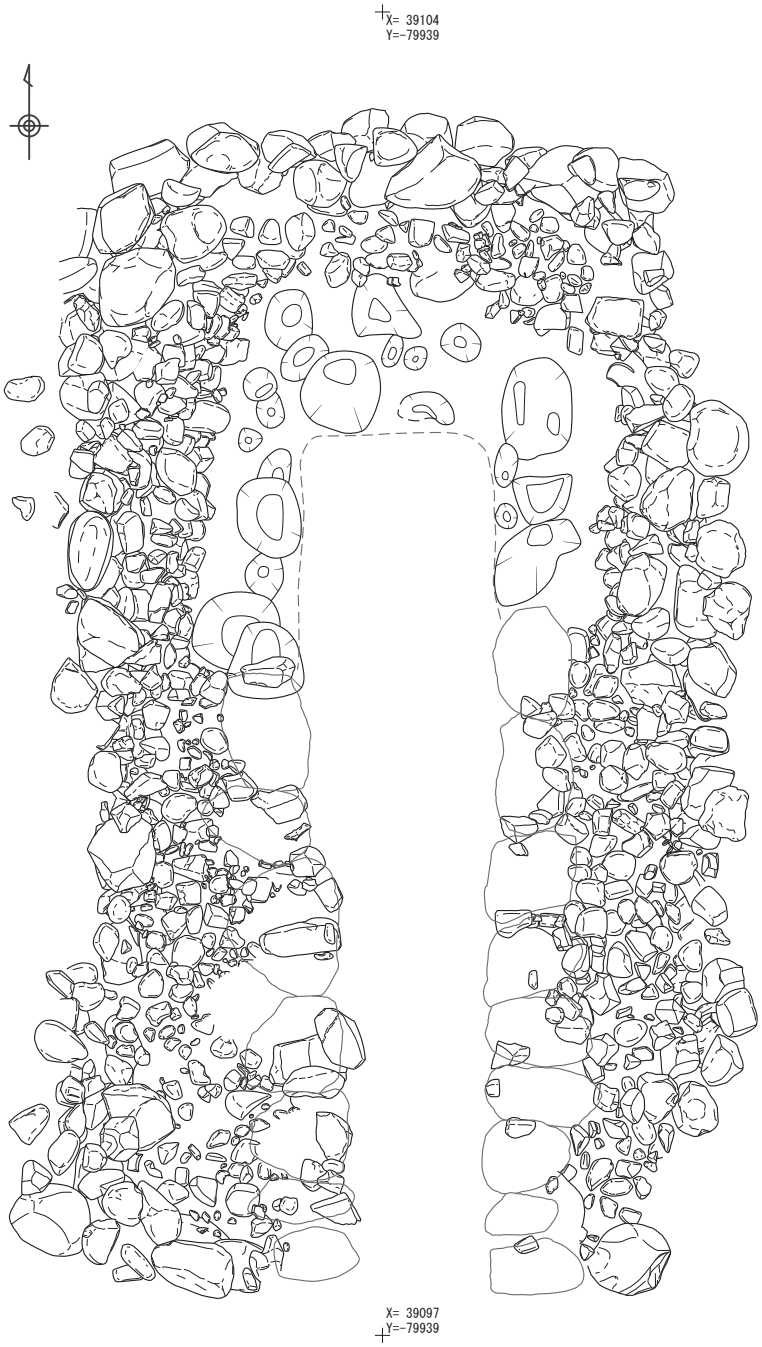
舗石検出状況



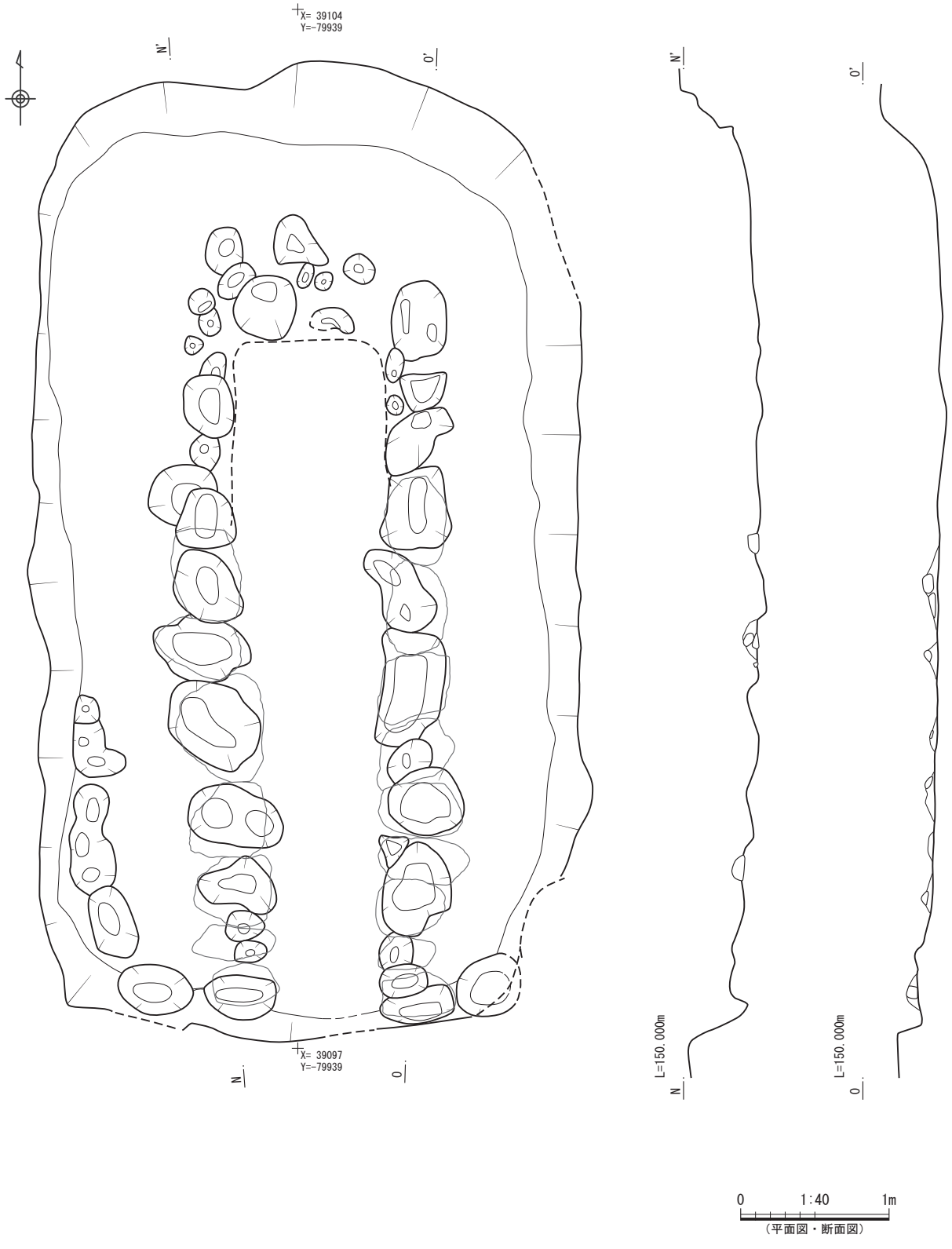
0　1:40　1m
（平面図・断面図）

第39図　４号墳　主体部平面図（１）

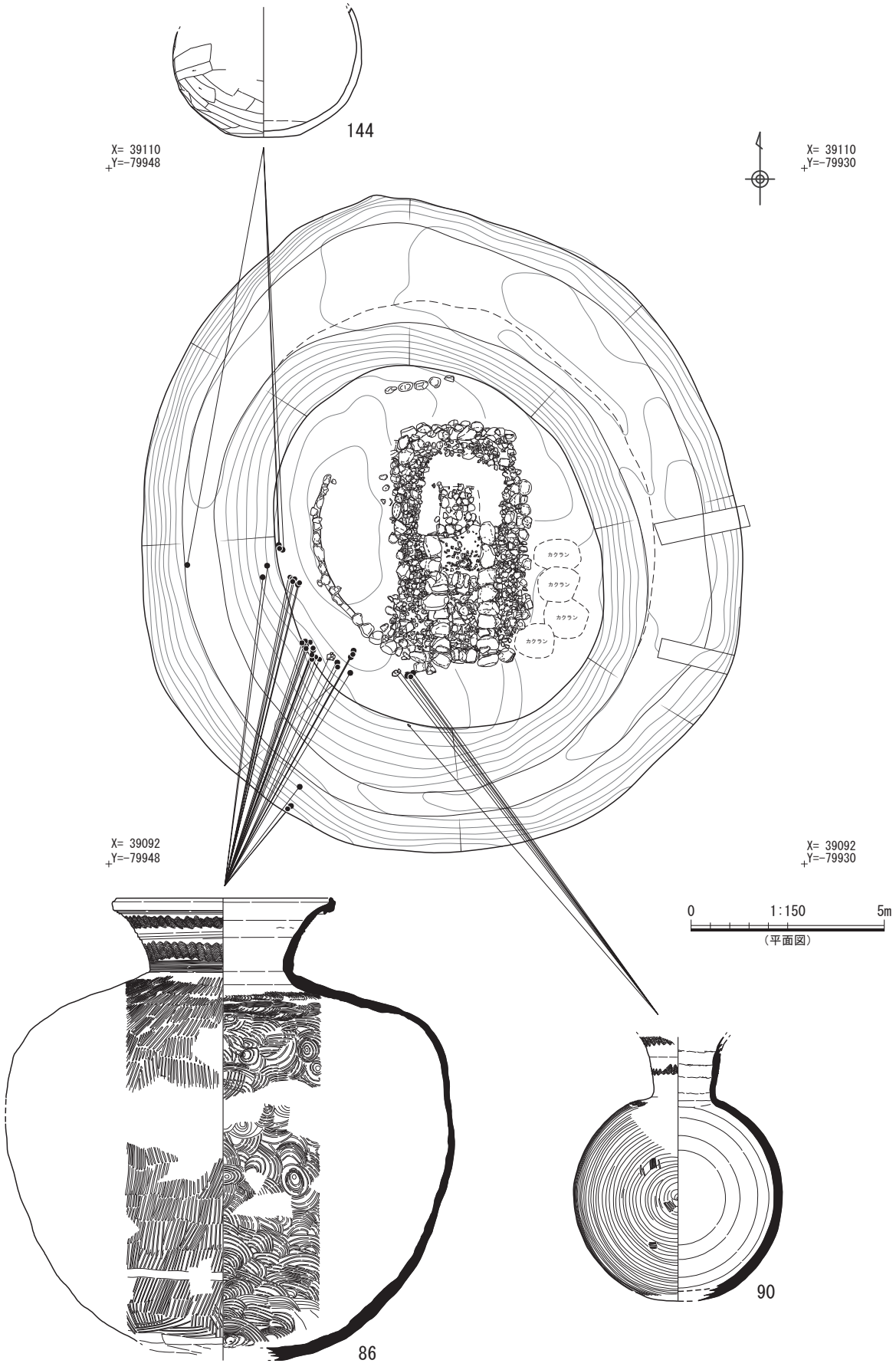
裏込め石検出状況



第40図　４号墳　主体部平面図（２）

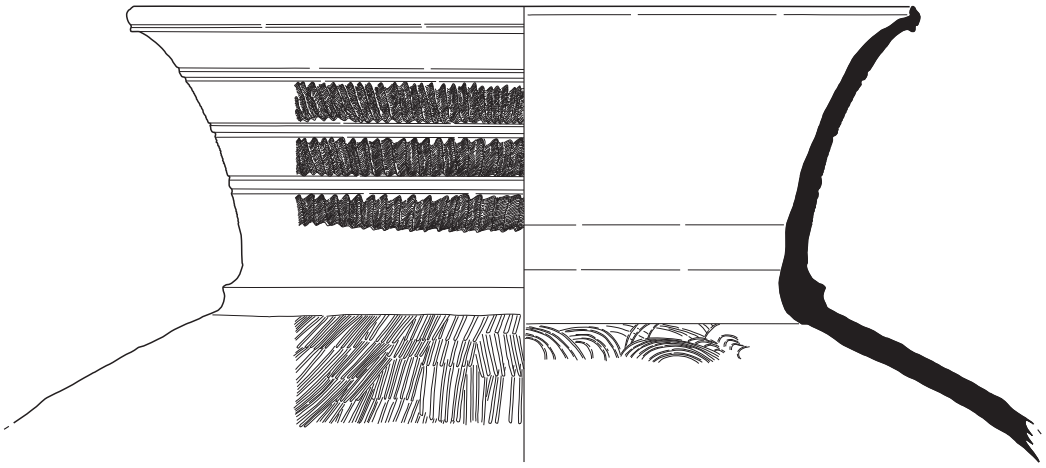


第41図　４号墳　主体部平面図（３）・掘り方エレベーション図

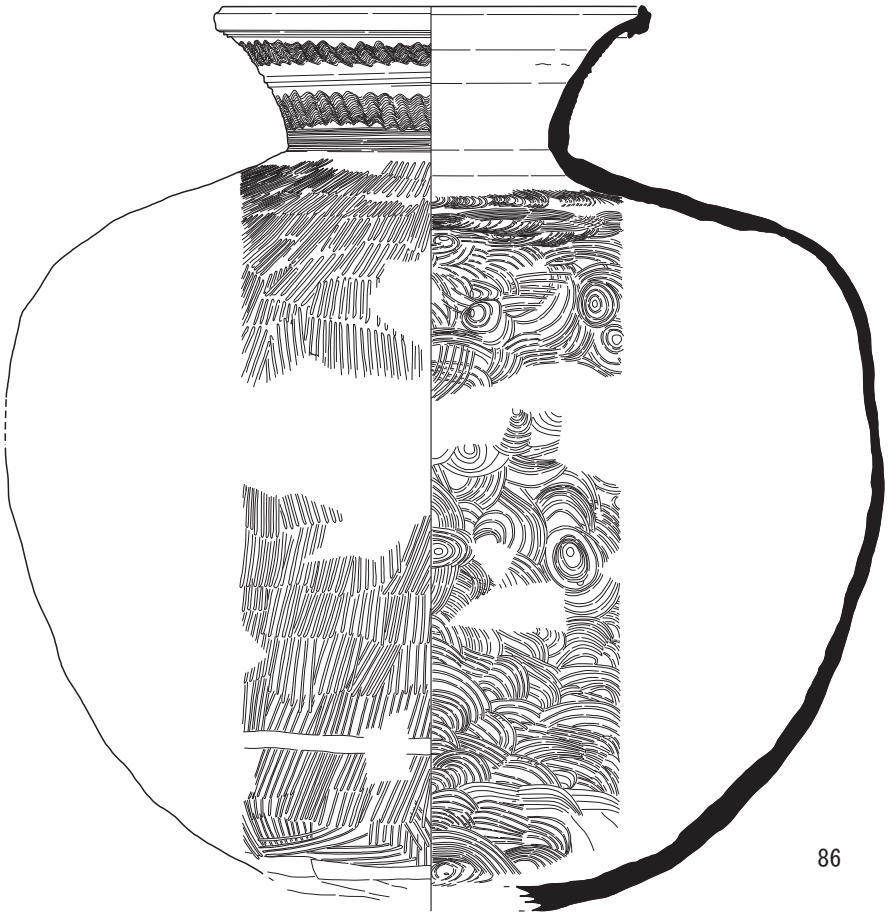


第42図　４号墳　出土遺物分布図

84



85

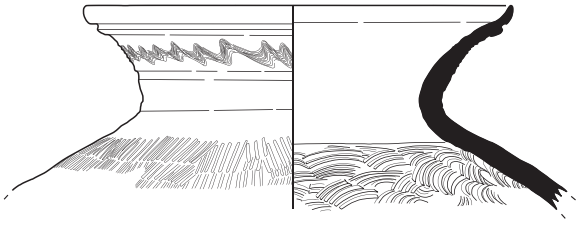


0　1:3　5cm
(84)

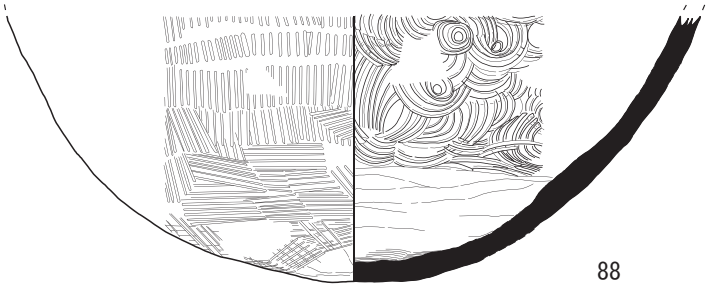
0　1:4　10cm
(85・86)

86

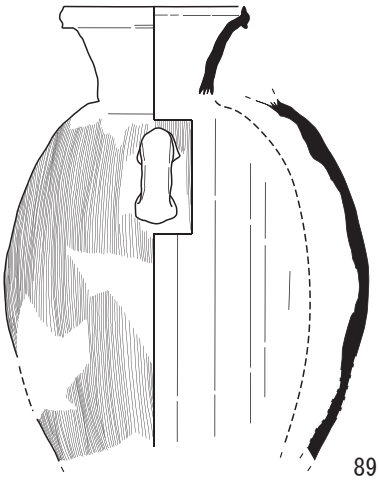
第43図　４号墳　出土遺物実測図（１）



87

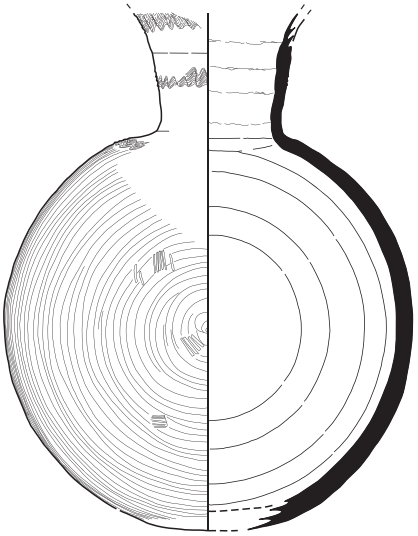


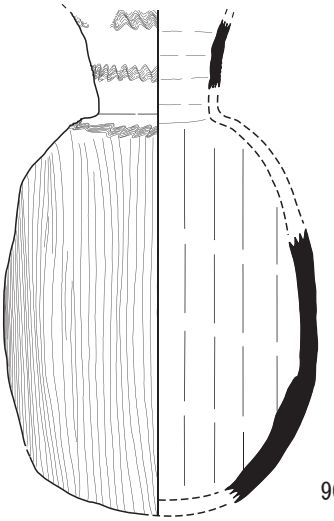
88



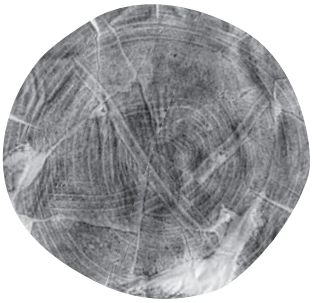
89

0　1:4　10cm
（87～90）



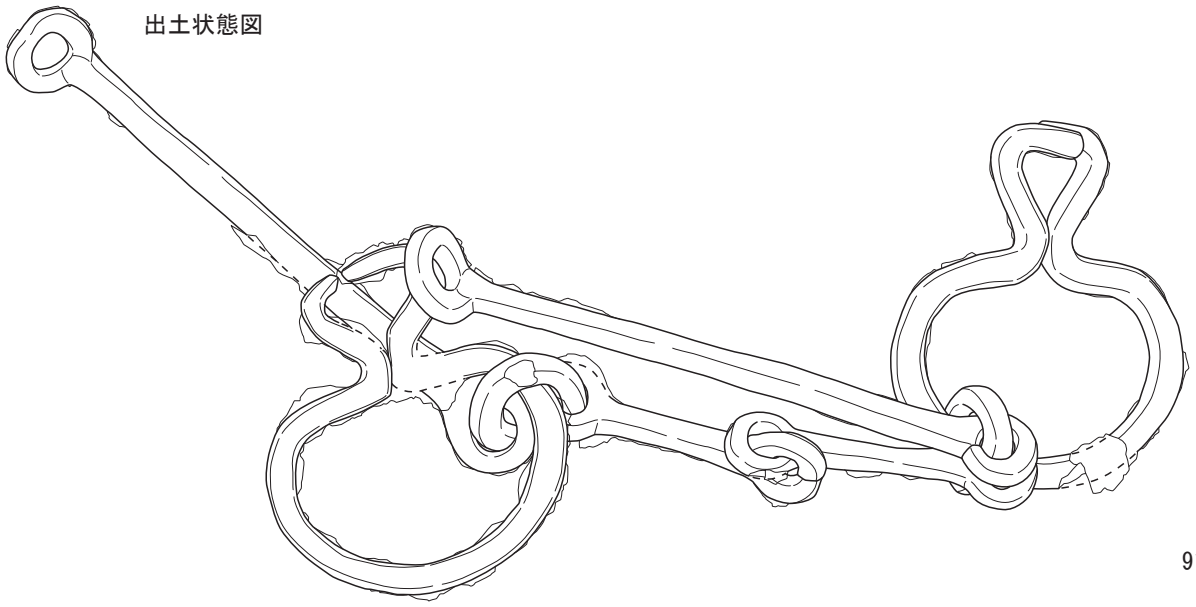


90

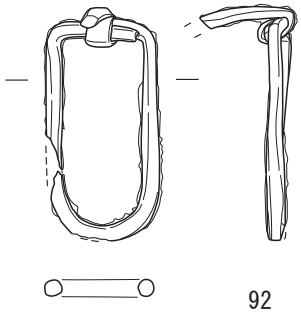


第44図　４号墳　出土遺物実測図（２）

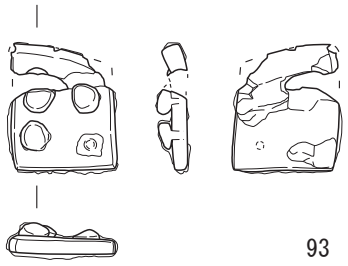
出土状態図



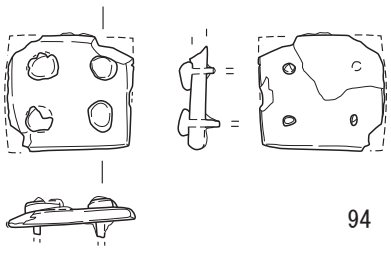
91



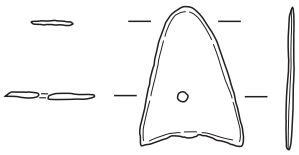
92



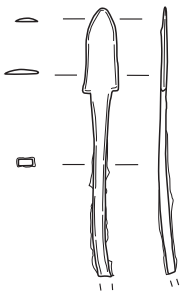
93



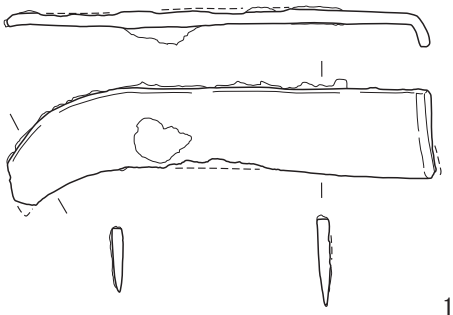
94



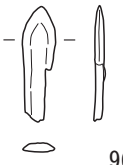
95



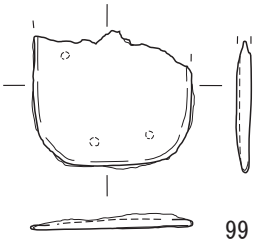
97



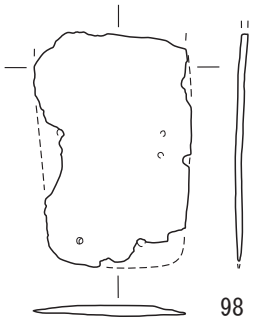
101



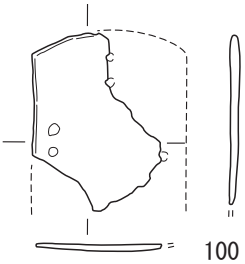
96



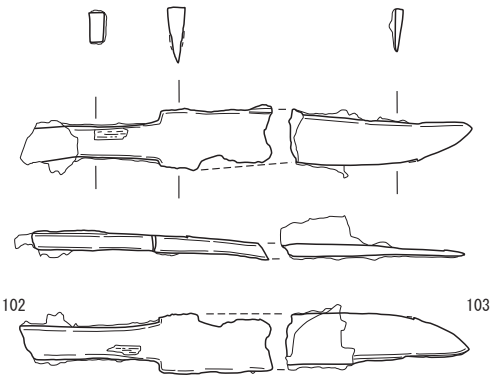
99

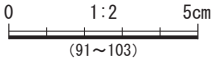


98



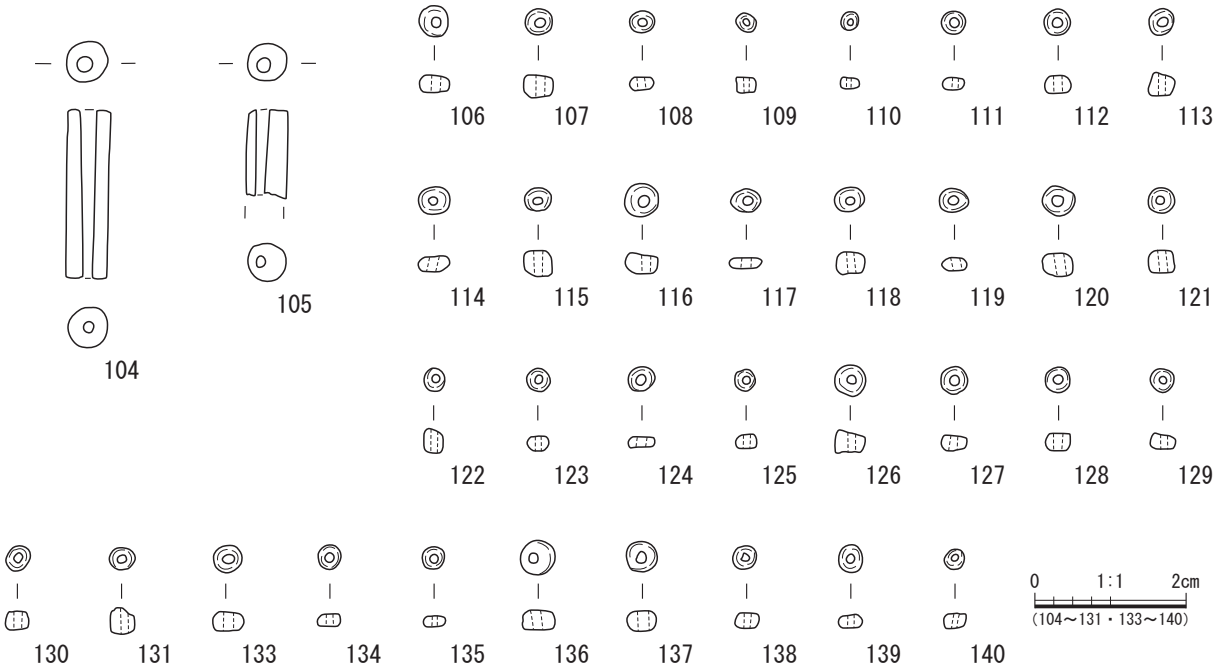
100





102・103

第45図　４号墳　出土遺物実測図（３）



第46図　４号墳　出土遺物実測図（４）

第８表　４号墳　出土遺物観察表（１）

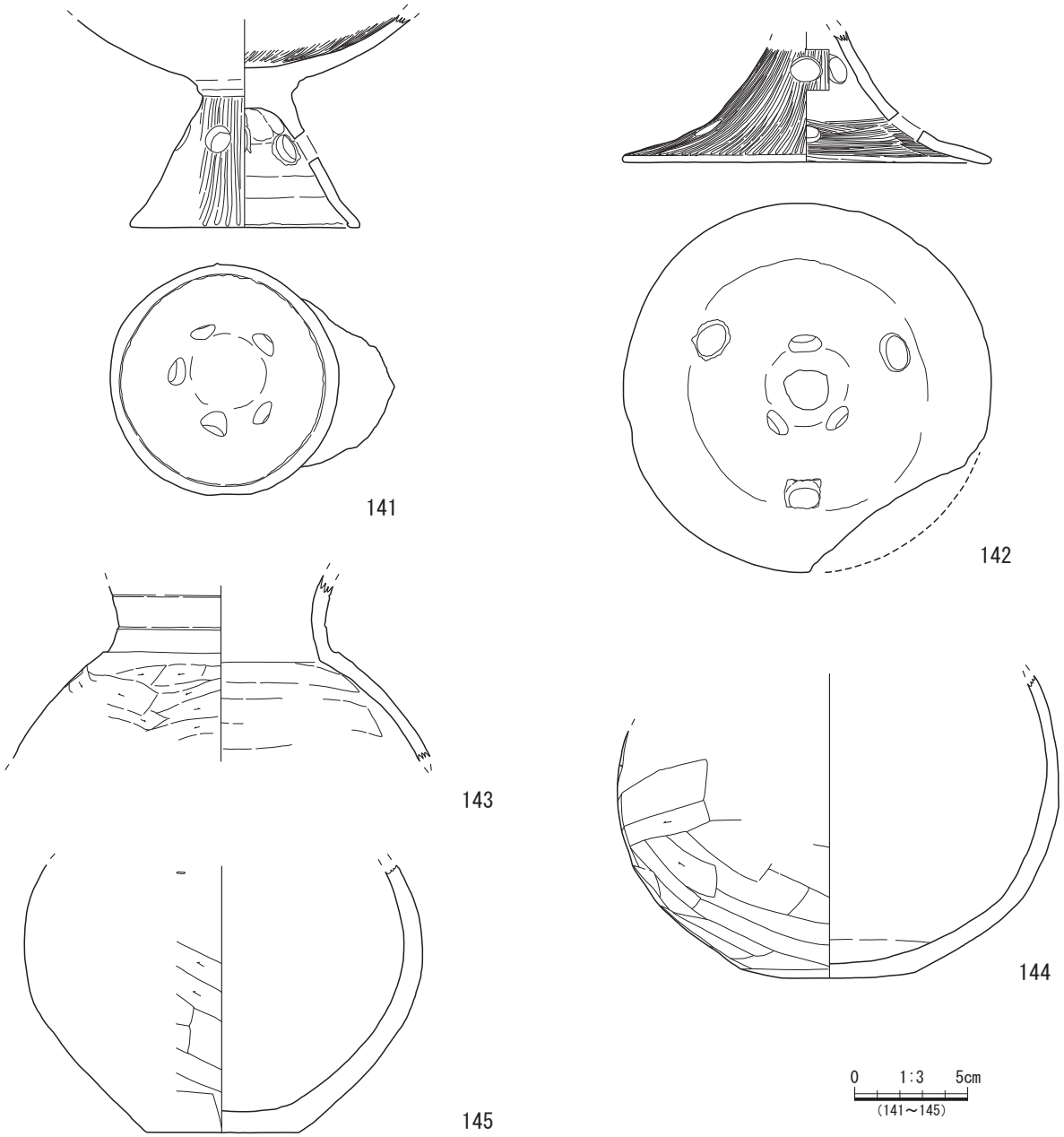
図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第43図 PL. 72	84	須恵器 坏蓋	【10.7】	－	2.8	器面には水引き痕、底面指頭痕	①良好　②2.5Y 7/1 ③砂	2/5	
第43図 PL. 72	85	須恵器 大甕	42.0	－	(24.0)	外：口縁ナデ。口縁部を突線で４段に区画し、２～４段目に櫛歯状工具による丁寧な波状文を施文。頸部に補強帯と考えられる段を有し、胴部は並行タタキ 内：口唇端部が内屈する。口縁、頸部ナデ。胴部に同心円状当て具痕があるがナデ消される。	①良好 ②N 6/0 ③長石、砂、白色粒子	口縁部 1/3	
第43図 PL. 72	86	須恵器 大甕	23.1	【11.1】	47.9	外：口縁ナデ。口縁中位に突線を設け口縁を上下２段に区画し、区画内に櫛歯状工具による波状文を施す。頸部ナデ、頸部以下並行タタキ 内：口縁、頸部ナデ。頸部以下同心円状当て具痕	①良好 ②2.5Y 5/1 ③石英、長石、白色粒子	3/4	底部の一部が未検出。底部穿孔か？
第44図 PL. 73	87	須恵器 大甕	22.7	－	(10.8)	外：平行タタキ 内：同心円状の当て具痕	①良好　②2.5Y 6/1 ③長石、砂、小礫	口縁部 2/3	
第44図 PL. 73	88	須恵器 大甕	－	－	(14.0)	外：平行タタキ 内：同心円状の当て具痕	①良好　②2.5Y 6/1 ③長石、小礫	底部 2/3	
第44図 PL. 72	89	須恵器 提瓶	10.0	22.0	24.0	肩部に把手がつく。カキメが明瞭に残る。	①良好　②N 5/0 ③砂、小礫	1/3	
第44図 PL. 72	90	須恵器 提瓶	－	体部径 21.6	16.5	口縁に２単位、頸部に１単位の波状文を施文。 外底面に×状のヘラ記号か。	①酸化炎　②10YR 6/3 ③長石、土器砕片、砂	3/4	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	観察所見	備考
第45図 PL. 73	91	瓢形環状 鏡板付轡	※第４章第１節６（266頁）の計測値を参照			408.1	環状鏡板に立聞部を造り出し瓢形とした鏡板が特徴。銜は二連。引手と銜、鏡板は遊環により連結。左の立聞の接合部が少し分離する	
第45図 PL. 73	92	鉸具	5.9	2.9	0.5	12.1	刺鉄の先端が欠損	
第45図 PL. 73	93	飾金具	(3.4)	2.8	0.4	12.9	四つ留の鋲のうち、一つが欠損	
第45図 PL. 73	94	飾金具	3.4	3.2	0.4	15.7	四つ留の鋲留	
第45図 PL. 73	95	鉄鏃	3.9	2.8	0.3	3.3	無茎鏃。鏃身は切先がやや丸い三角形状。中央より少しずれた位置に径2.5㎜の孔	
第45図 PL. 73	96	鉄鏃	(3.0)	0.9	0.3	1.3	片刃の有茎鏃	
第45図 PL. 73	97	鉄鏃	7.1	1.0	0.2	3.1	長頸鏃	
第45図 PL. 73	98	小札	(6.3)	4.2	0.3	16.1	縅孔：不明、綴孔：２列、下搦孔：２孔	
第45図 PL. 73	99	小札	(3.6)	4.2	0.3	11.1	縅孔等の小孔３孔を確認	
第45図 PL. 73	100	小札	(4.7)	(3.5)	0.3	7.5	縅孔：中央に１列２孔、綴孔：２列×２孔～、下搦孔：不明	
第45図 PL. 73	101	曲刃鎌	(11.2)	2.1	0.4	31.7	先端が欠損	
第45図 PL. 73	102	刀子	(6.7)	1.6	0.4	9.8	茎部分。木質残留物あり103と同一個体と考えられる	
第45図 PL. 73	103	刀子	(4.8)	1.3	0.3	6.9	切先部分。102と同一個体と考えられる	

第９表　４号墳　出土遺物観察表（２）

図版	番号	種別 器種	法量(㎜)			重量 (g)	材質	観察所見	備考
			直径	孔径	厚さ				
第46図 巻頭図版3	104	管玉	5.8	2.3	長 22.8	1.2	碧玉	下端の孔径は1.4㎜。器面は丁寧に磨かれる	
第46図 巻頭図版3	105	管玉	5.6	2.5	長(15.5)	0.5	碧玉	器面は丁寧に磨かれる。一方の端部を欠失	
第46図 巻頭図版3	106	小玉	4.0	1.1	2.5	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第46図 巻頭図版3	107	小玉	3.7	0.9	2.5	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第46図 巻頭図版3	108	小玉	3.5	1.1	1.8	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第46図 巻頭図版3	109	小玉	2.8	1.0	2.1	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第46図 巻頭図版3	110	小玉	2.8	1.1	1.6	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第46図 巻頭図版3	111	小玉	3.2	1.2	1.7	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第46図 巻頭図版3	112	小玉	3.4	0.9	2.2	0.1以下	ガラス	色調：紺　　研磨が顕著でない	
第46図 巻頭図版3	113	小玉	3.8	1.2	2.5	0.1以下	ガラス	色調：紺	
第46図 巻頭図版3	114	小玉	4.4	1.0	2.2	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	115	小玉	4.1	1.2	3.3	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	116	小玉	4.6	1.4	2.5	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	117	小玉	4.0	1.7	1.5	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	118	小玉	4.0	1.3	3.1	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	119	小玉	3.8	1.3	2.0	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	120	小玉	3.8	1.3	2.9	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	121	小玉	3.7	1.2	3.3	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	122	小玉	2.9	0.8	2.8	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	123	小玉	3.3	1.2	1.8	0.1以下	ガラス	色調：明青（不透明）	
第46図 巻頭図版3	124	小玉	3.7	1.6	1.7	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	125	小玉	3.3	1.2	1.6	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	126	小玉	4.2	1.3	2.9	0.1	ガラス	色調：明青（不透明）	
第46図 巻頭図版3	127	小玉	3.7	1.0	2.1	0.1以下	ガラス	色調：明青（不透明）	
第46図 巻頭図版3	128	小玉	3.5	1.3	2.6	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	129	小玉	3.3	0.7	2.3	0.1以下	ガラス	色調：明青（不透明）	
第46図 巻頭図版3	130	小玉	3.5	1.2	2.7	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	131	小玉	3.4	1.4	3.1	0.1以下	ガラス	色調：明青	
第46図 巻頭図版3	132	小玉	—	—	—	0.1以下	ガラス	色調：明青　　小片のため実測不可	
第46図 巻頭図版3	133	小玉	4.0	1.6	2.4	0.1以下	ガラス	色調：緑	
第46図 巻頭図版3	134	小玉	3.4	1.3	1.9	0.1以下	ガラス	色調：緑	
第46図 巻頭図版3	135	小玉	3.1	1.4	1.8	0.1以下	ガラス	色調：緑	
第46図 巻頭図版3	136	小玉	4.5	1.5	2.4	0.1以下	ガラス	色調：黄	
第46図 巻頭図版3	137	小玉	4.0	1.2	2.6	0.1以下	ガラス	色調：黄	
第46図 巻頭図版3	138	小玉	3.5	0.9	2.1	0.1以下	ガラス	色調：黄	
第46図 巻頭図版3	139	小玉	3.6	1.2	1.8	0.1以下	ガラス	色調：黄	
第46図 巻頭図版3	140	小玉	2.8	0.8	2.0	0.1以下	ガラス	色調：黄	

４号墳の周溝内より古墳時代前期の土器が検出されている。４号墳の調査時点では認識していなかったが、４号墳の墳丘調査の過程で下層より竪穴建物跡が検出され、本墳と19・21号竪穴建物跡とが重複していたことが判明した。以下の遺物は上記いずれかの竪穴建物跡に伴うものと考えられるが、正確には出土遺構を明らかにできないため、ここで一括で掲載する。



第47図　４号墳　出土遺物実測図（５）

第10表　４号墳　出土遺物観察表（３）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第47図 PL.73	141	古式土師器 高坏	—	10.2	(9.4)	外：坏部ナデ、脚接合部で段を有し、脚部はヘラナデ。 同一の高さで５孔穿孔 内：坏部ヘラミガキ、脚部は端部をわずかに折り返す。 ナデ	①良好　②7.5YR 7/6 ③砂、小礫	4/5	
第47図 PL.73	142	古式土師器 器台	—	16.3	(5.8)	外：ヘラミガキ。透かしは３孔２段で計６孔穿孔 内：脚部ナデ、裾部ハケ状工具でナデ	①良好　②7.5YR 7/6 ③石英、砂、雲母?	脚部	
第47図 PL.73	143	土師器 甕	—	—	(8.3)	外：口縁ナデ、沈線状の段がある。胴部ヘラケズリ 内：口縁～胴部ナデ	①良好　②10YR 7/4 ③長石、砂	口縁部 1/3	
第47図 PL.73	144	土師器 甕	—	7.7	(13.4)	外：胴部中位ヨコケズリ、下位～底部ナナメケズリ 内：ナデ	①良好　②10YR 6/4 ③砂、小礫	胴部以下 1/3	
第47図 PL.73	145	土師器 甕	—	6.8	(11.8)	器面の磨滅が著しい 外：ヘラミガキ　　内：ナデ	①良好　②7.5YR 6/4 ③長石、石英、砂	胴部～底部	

【５号墳】（596E-SZ05、718-SZ05）

位置　東区東端南寄りに位置する。すぐ南の１号墳と周溝が接する。西に２号墳、北西に８号墳がそれぞれある。墳丘東端は調査区外のため未調査である。

墳形・規模　葺石根石で計測すると、径12mの円墳となる。

周溝　周溝は墳丘南西から北まで巡る。埋葬主体部前面と想定される南面では立ち上がる。東半分については調査区外のため未確認である。

周溝は南西から北に向かって幅が減じており、墳丘西で幅3.6m、北で幅2.1mとなる。深さは遺構確認面からおよそ0.3～0.7mであり、周溝底部の標高はおおよそ147.0m前後となる。

埋土は黒褐色土を基調とし、As-AやAs-Bの混土層が埋土上位に見られることから、周溝はAs-B降下前には概ね埋没していたことが理解される。

墳丘　１段目は地山削り出しによるが、一部では盛土と考えられる層が看取される。埋葬主体部の様相からも２段以上の築成が想定される。墳丘上の埋葬主体部付近は連続する土坑に多量の礫が投じられている（SX01～09）。中には石室壁体に使用されたと考えられる大振りの礫数石も見られ、石室構築材および裏込め石等の礫が土坑に破棄されたものと考えられる。

外表施設　墳丘には人頭大の礫が比較的丁寧に葺かれた葺石がある。本来は埋葬主体部の正面であったであろう南面から主体部背面である北側までの墳丘西半分で確認した。特に墳丘西側の葺石の残存が良好で、根石となる礫列も確認できる。墳丘北面には葺石が確認できず、周辺の周溝から崩落葺石の検出もほとんどない。

葺石の最下段の根石には、規模や形状が比較的揃った横長の大振りの礫を丁寧に据えている。墳丘の北西で根石列がずれる箇所があるが、ここは根石列の区切りと考えられる。区切り前後での根石列の不連続性を勘案すると、区切りを起点としてその両側へと葺く作業が進行したのではなく、両側より葺かれてきた礫列がこの区切り箇所で接続したものと推定される。墳丘東側は調査区外となるため確認できないが、西側の葺石列を見る限りでは、石室開口部を起点に、墳丘後方へと葺き進めたことが考えられる。

さらに、ところどころ縦位に葺かれた礫列が認識できる。縦の礫列は作業工区の分割を目的とした列と考えてよいだろう。すなわち、葺石の基準となる根石をまず設定したのち、要所要所に縦列の礫を葺いて作業工区を細分している。各工区の基準礫列の間隔は、根石の位置で心ー心を測ると概ね幅2.5mとなる。根石より上は工区によって礫の規模や形状、葺き方にもばらつきがあるが、各工区を担当した個人の特性と考えられるだろうか。

調査の過程で、墳丘や周溝の埋土、葺石の隙間などから多くの埴輪小片が出土している。墳丘は２段以上の築造を想定しているが、盛土の検出がほぼなかったことや葺石の検出状況から、１段目上のテラス部分はすでに削平されていることが想定される。したがって、墳丘上では埴輪を据え付けた痕跡は検出されなかったものの、本墳には埴輪が樹立された可能性が認められる。

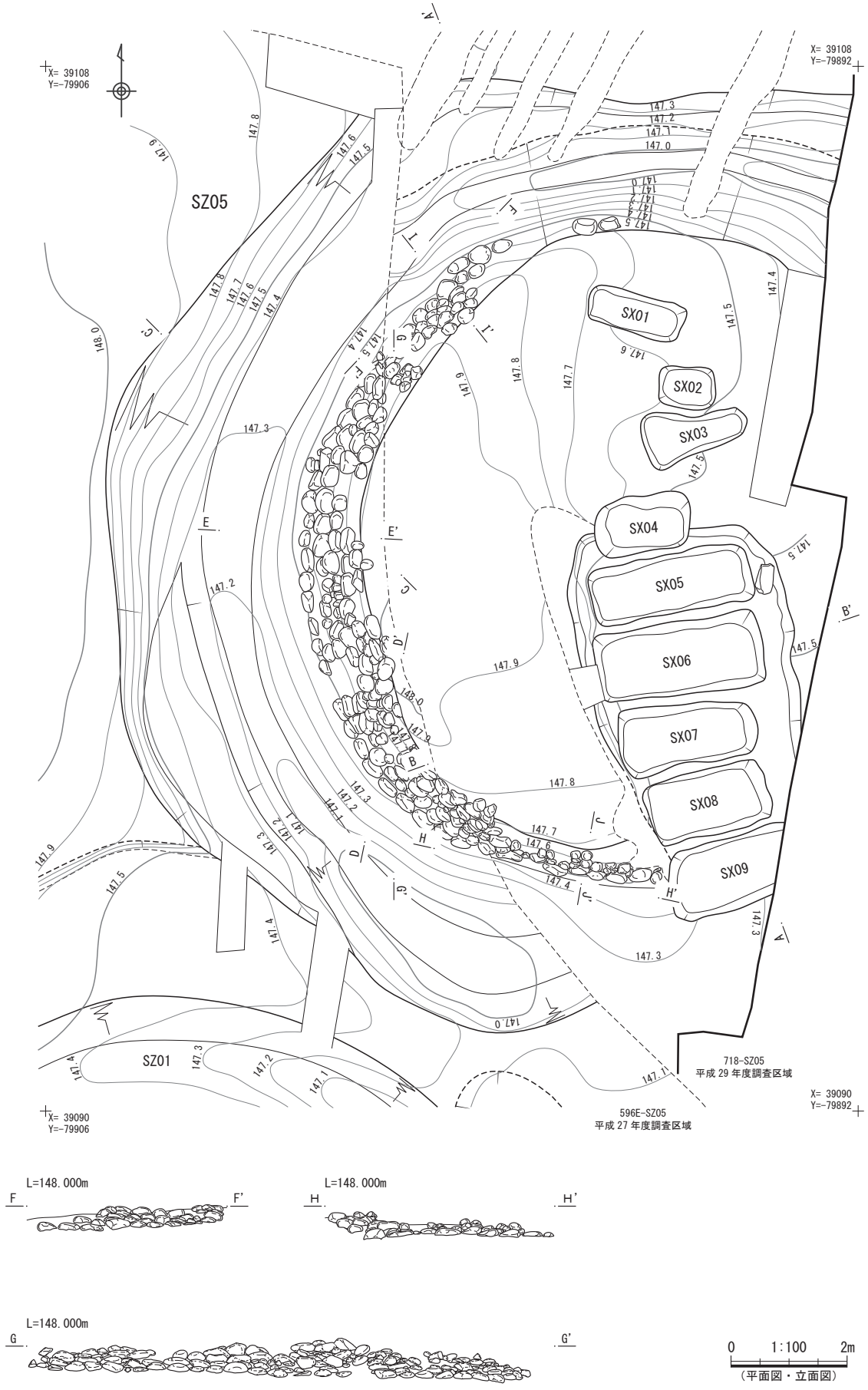
埋葬主体部　墳丘１段目より上が削平されており、また、埋葬主体部が予測される墳丘中央部は、後世に構築された連続する多数の土坑によりほぼ破壊されていた。これら土坑に多量に含まれる拳大の礫を除去すると、土坑底部付近から巨礫数石が検出された。この巨礫は古墳石室に使用されても遜色ないものであるが、古墳の石室構造をまったく留めておらず、原位置より移動したものと考えられる。したがって、明確な根拠に欠けるが、本墳の埋葬主体部は大振りの礫を使用した石室であり、拳大の礫は石室の裏込め石であったと想定される。

掘り方　地山を削り出しである墳丘１段目の上面から掘削された浅い掘り込みを確認した。多数の土坑との重複により大部分を欠失するが、この浅い掘り込みが埋葬主体部の掘り方と推定される。

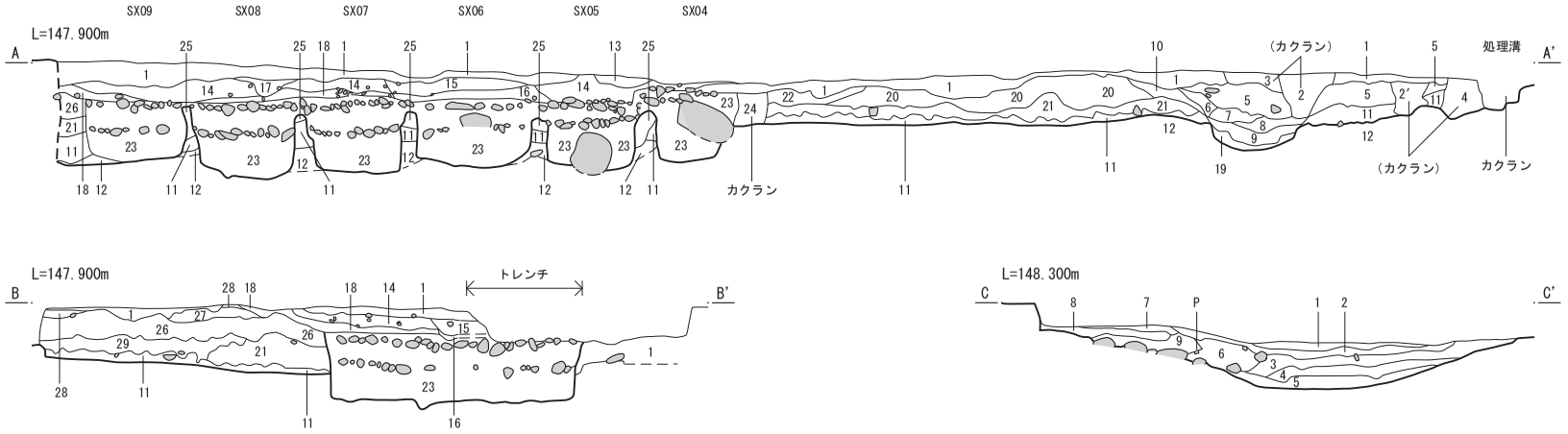
掘り方の構築位置は墳丘中央よりやや南に寄っており、その南端は葺石列と接する位置にくることが想定される。

規模は、確認できる範囲で長軸6.2m、短軸3.7mを測り、主軸はＮ－169°－Ｅとなる。遺構検出面から掘り方底面まではおよそ0.3mであり、底面の標高は147.5mとなる。

掘り方の規模や主軸向きなどの諸要素に加え、墳丘上の土坑から検出した巨礫や裏込め石と考えられる拳大の礫の様相を加味すると、本墳の埋葬主体部は横穴式石室であった蓋然性が高い。



第48図　５号墳　墳丘全体図・葺石立面図



（平面図・断面図）

５号墳(SPA-A')

1	黒褐色（10YR 3/1）	表土。As-A、As-B混。黄褐色シルト粒子(φ5～7mm)少量。しまり弱、粘性弱。
2	褐灰色（10YR 4/1）	カクラン。As-A、As-B混。黄褐色シルトブロック(φ3～5cm)少量。しまり弱、粘性弱。
2'	褐灰色（10YR 4/1）	カクラン。As-A、As-B混。しまり弱、粘性弱。
3	褐灰色（10YR 4/1）	カクラン。As-A、As-B混。黄褐色シルトブロック(φ5～10cm)少量。しまりやや弱、粘性弱。
4	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	カクラン。As-A、As-B混。黄褐色シルト粒子＋ブロック多量。しまりやや強、粘性弱。
5	黒色（10YR 2/1）	As-C混。礫含む。周溝埋土。しまり強、粘性やや強。
6	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。黄褐色シルト粒子(φ3～5mm)少量。しまり強、粘性やや強。
7	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混。しまり極めて強、粘性強。
8	黒色（10YR 2/1）	As-C混。しまり極めて強、粘性強。
9	灰黄褐色（10YR 4/2）	As-C僅かに混。黄褐色シルト粒子(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性強。
10	黒褐色（10YR 3/1）	As-C僅かに混。黄褐色シルト粒子(φ2～3mm)少量。しまり極めて強、粘性やや強。
11	灰黄褐色（10YR 4/2）	黄褐色シルト（地山ローム）層との漸移層。ロームブロック(φ3～5cm)少量。しまり極めて強、粘性やや強。
12	黄褐色（10YR 5/6）	黄褐色シルト（地山ローム）層。しまり極めて強、粘性やや強。
13	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色ロームブロック(φ5～7cm)やや多量。しまりやや強、粘性強。
14	黒褐色（10YR 3/1）	竹の根が密集。しまりやや弱、粘性弱。
15	黒褐色（10YR 3/2）	竹の影響が少なく、夾雑物も少ない。しまりやや強、粘性やや強。
16	黒褐色（10YR 2/2）	しまりやや強、粘性やや強。
17	暗褐色（10YR 3/3）	黄褐色ロームブロック(φ2～3cm)やや多量。しまりやや強、粘性なし。
18	黒褐色（10YR 2/2）	竹の影響をあまり受けていない。As-B混。しまり強、粘性弱。
19	黒褐色（10YR 2/2）	黄褐色ローム(φ3～5cm)多量。礫少し含む。しまりやや強、粘性やや強。
20	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
21	暗褐色（10YR 3/3）	黄褐色ローム(φ3～5cm)少量。しまり強、粘性やや弱。

５号墳(SPB-B')

1～21層は、SPA-A'を参照

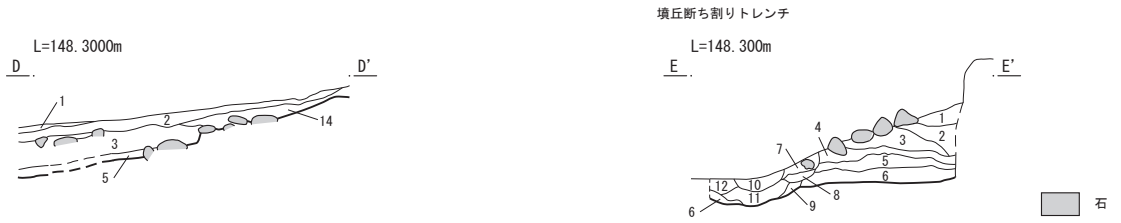
22	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色ローム(φ5～10cm)少量。しまりやや強、粘性弱。
23	黒褐色（10YR 2/2）	粒子が細かくパサパサした層。礫廃棄と推定される土坑のぎっちり詰まった礫の隙間に入る土。しまりなく、粘性なし。
24	黒褐色（10YR 3/1）	カクラン。ロームブロック(φ5～7cm)多量。しまりやや弱、粘性弱。
25	黒褐色（10YR 3/1）	As-C、ローム粒子含む。古墳主体部の礫抜取り後の堆積土と推定。しまりやや強、粘性弱。
26	黒色（10YR 2/1）	As-C多量。As-YP少量。しまり強、粘性やや強。
27	黒褐色（10YR 3/2）	As-C多量。黄褐色ローム(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。盛り土か。
28	灰黄褐色（10YR 4/2）	As-C少量。しまり強、粘性やや強。盛り土か。
29	黒褐色（10YR 3/1）	褐色土ブロックが斑状に混在。漸移層か。しまり強、粘性やや弱。

５号墳(SPC-C')

1	黒色（10YR 2/1）	As-B一次堆積層直下の粘質土層。しまりやや強、粘性強。
2	黒色（10YR 2/1）	黒色粘質土層。しまり強、粘性やや強。
3	黒褐色（10YR 3/1）	As-C、As-YP少量を含む。しまり強、粘性やや強。
4	黒色（10YR 2/1）	As-C少量を含む。しまりやや強、粘性やや弱。
5	暗褐色（10YR 3/3）	黄褐色シルト含む。しまりやや弱、粘性やや強。
6	黒褐色（10YR 3/2）	As-C、As-YPを含む。埴輪片有。しまり強、粘性やや弱。
7	黒褐色（10YR 3/2）	As-B混。しまり強、粘性やや強。
8	黒褐色（10YR 3/2）	As-B混。As-C混。しまり強、粘性やや弱。
9	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混。しまり強、粘性やや弱。

５号墳(SPI-I', J-J'共通)

11	灰黄褐色（10YR 4/2）	黄褐色シルト（地山ローム）層との漸移層。ロームブロック(φ3～5cm)少量。しまり極めて強、粘性やや強。
12	黄褐色（10YR 5/6）	黄褐色シルト（地山ローム）層。しまり極めて強、粘性やや強。
20	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
21	暗褐色（10YR 3/3）	黄褐色ローム(φ3～5cm)少量。しまり強、粘性やや弱。
26	黒色（10YR 2/1）	As-C多量。As-YP少量。しまり強、粘性やや強。
27	黒褐色（10YR 3/2）	As-C多量。黄褐色ローム(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。盛り土か。



５号墳(SPE-E')

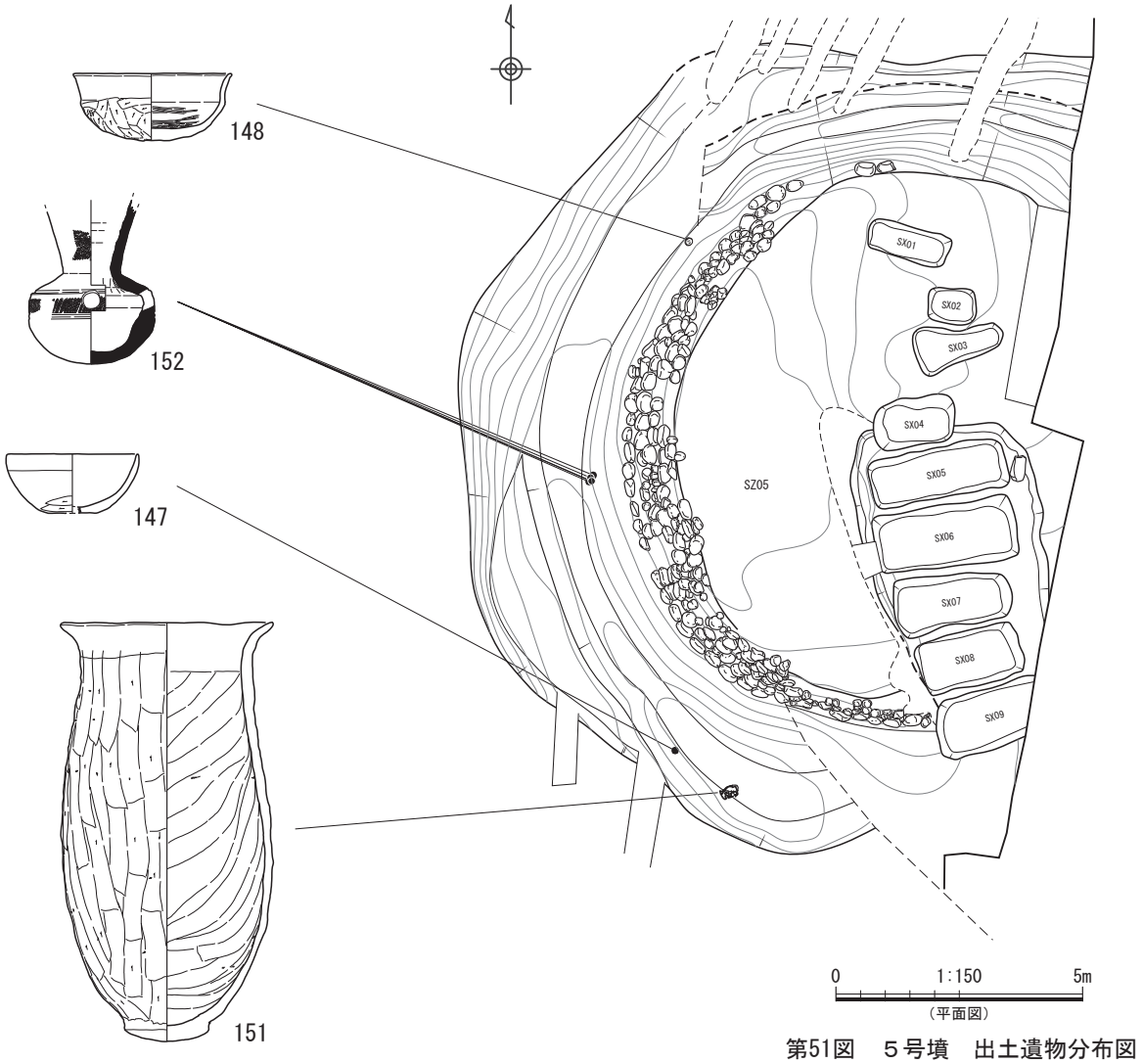
1	灰黄褐色 (10YR 4/2)	As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。盛土。しまり強、粘性やや強。
2	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。旧地表面。しまりやや強、粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
4	暗褐色 (10YR 3/3)	As-Cなし。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
5	褐色 (10YR 4/4)	As-Cなし。黄褐色シルト主体。黒褐色土混在。しまり強、粘性強。
6	黄褐色 (10YR 5/6)	シルト。硬質。しまり強、粘性強。
7	黒褐色 (10YR 3/2)	軽石状白色粒子少量を含む。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
8	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
9	暗褐色 (10YR 3/3)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまりやや弱、粘性やや強。
10	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
11	暗褐色 (10YR 3/3)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや多量。しまり極めて強、粘性やや強。
12	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。

５号墳(SPD-D')

1	暗褐色 (10YR 3/3)	表土。As-B混。しまり強、粘性弱。
2	にぶい赤褐色 (2.5YR 4/4)	As-B堆積層(一次堆積に近い)。しまりやや強、粘性弱。
3	黒褐色 (5YR 2/1)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)やや多量、(φ5～8mm) 多量。局所的にAs-B混。しまり強、粘性やや強。
5	黒色 (5YR 1.7/1)	As-C混。黄色粒子(φ1～3mm)多量、(φ5～8mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
14	褐色 (10YR 4/4)	黄褐色シルト(φ1～3mm)やや少量。シルト質。しまりやや強、粘性やや弱。

0　1:80　2m
（平面図・断面図）

第50図　５号墳　墳丘断面図（２）



第51図　５号墳　出土遺物分布図

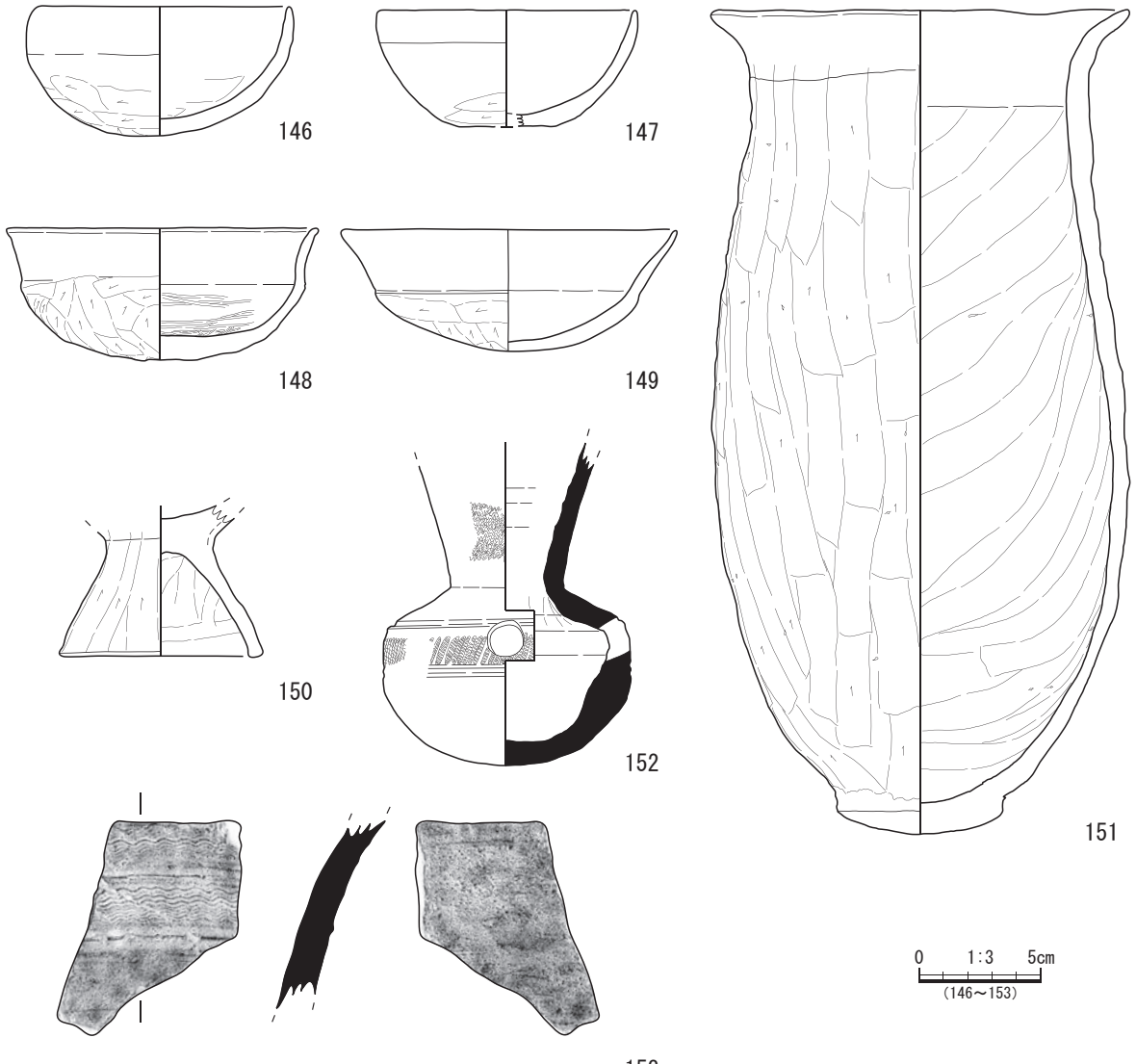
出土遺物　　墳丘が一部削平され、埋葬主体部が残存しないため原位置を留めた遺物はないが、周溝内への流入遺物や墳丘上の土坑より本墳に関連しそうな遺物が出土している。

古墳に伴う可能性が想定される遺物は、須恵器（提瓶、甕、鼈）の小片、埴輪（円筒、朝顔、形象）がある。第52図148の土師器坏および152の須恵器鼈は、墳丘寄りの周溝で出土した。掲載した埴輪片については主体部想定位置で検出した連続土坑（後世の礫廃棄坑）中より出土したもので、原位置を保っていない。しかし、７、８号墳で確認している埴輪と胎土や焼成などの要素で異なる様相を呈しており、前述の２古墳樹立の埴輪とは異なる埴輪群を想定することができる。確認された埴輪片は概ね円筒埴輪であるが、158は直線的な破片であり、家などの形象埴輪が想定される。

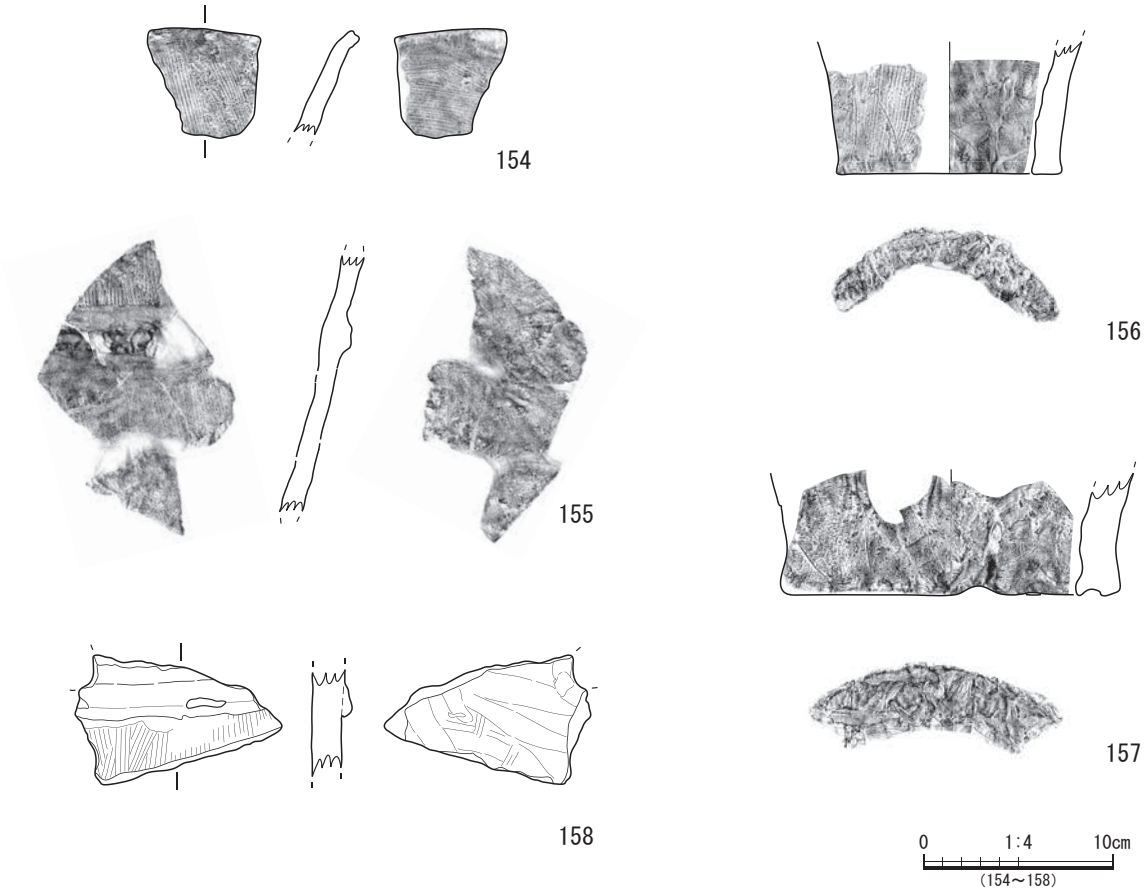
所見　　本墳は、墳丘に葺かれていた葺石が良好に残存していた。比較的規模の大きい礫を使用し、根石列も丁寧に設定されており、本遺跡で確認した古墳の中では葺石の敷設がもっとも良好であった。埋葬主体部が大きく損なわれていたため詳細は判じ難いが、埋葬主体部は、開口部を南に指向する横穴式石室であったことが推定される。

また、埴輪を据え付けた明確な痕跡は確認していないが、小片ながら墳丘や周溝から一定量出土すること、埴輪を確認している他古墳と異なる埴輪群が想定されることなどから、本墳が本来的には埴輪を樹立していた可能性を想定したい。

出土した土師器坏や須恵器鼈は６世紀後半の様相を呈していると思われることから、本墳の築造は概ね６世紀後半と推測される。



第52図　５号墳　出土遺物実測図（１）



第53図　５号墳　出土遺物実測図（２）

第11表　５号墳　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第52図 PL.74	146	土師器 坏	10.5	—	5.3	外：口縁ナデ、口縁下部未調整、底部ヘラケズリ 内：ナデ	①良好　②5YR 6/6 ③輝石、砂礫	ほぼ完形	
第52図 PL.74	147	土師器 坏	【10.6】	—	4.8	外：口縁ナデ、体部上半未調整、底部ヘラケズリ 内：ナデ	①良好　②5R 6/6 ③輝石、砂、小礫	1/2	
第52図 PL.74	148	土師器 坏	12.8	—	5.4	外：口縁は緩やかに外反し、端部をつまみだす。口縁ナデ。わずかな稜を持ち以下ヘラケズリ 内：ナデ、底面ヘラミガキ。内面黒色処理	①良好　②5YR 6/6 ③石英、長石、砂	ほぼ完形	
第52図 PL.74	149	土師器 坏	13.8	—	5.0	外：口縁ナデ、口縁と体部境には沈線状の稜線、体部は浅い、底部ヘラケズリ 内：ナデ	①良好　②5YR 6/6 ③石英、小礫	3/5	
第52図 PL.74	150	土師器 台付甕	—	8.4	(6.2)	外：工具によるタテナデ 内：工具ナデ	①良好　②7.5YR 7/4 ③輝石、長石、砂	脚部	
第52図 PL.74	151	土師器 長胴甕	17.3	6.9	31.3	外：口縁ナデ、胴部ヘラケズリ。頸部外面に粘土状付着物。底部丸く、自立しない 内：口縁ナデ、胴部ヘラナデ	①良好　②5YR 7/4 ③輝石、小礫	ほぼ完形	
第52図 PL.74	152	須恵器 甕	体部径 10.1	—	(13.3)	球胴で口縁基部がすぼまる。口縁には波状文がある。肩部および胴部中位にそれぞれ二重の沈線があり、この間を連続刺突文で充填する。穿孔は頸部稜線直下。器面には自然釉が付着する。	①良好　②N 5/0 ③砂	4/5	
第52図 PL.74	153	須恵器 甕	—	—	—	外：凸線や沈線によって区画、区画内に波状文 内：ナデ	①概ね良好　②N 5/0 ③小礫、白色粒子	破片	

図版	番号	器種 部位	法量(cm)		口唇 形態	突帯 断面形状	透孔 形状	成形・整形技法等の特徴	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第53図 PL.74	154	埴輪 円筒	口径	—	端部中央 やや窪む	—	—	外：口縁端部がやや外反。タテハケ 内：口唇際ナデ、以下ヨコハケ	①良好 ②7.5YR 7/4 ③小礫、白色粒子	口縁部 破片	
			高さ	—							
			底径	—							
第53図 PL.74	155	埴輪 円筒	口径	—	—	中央が窪 む台形	—	外：タテハケ 内：ユビナデ、部分的にハケ	①良好 ②10YR 7/4 ③小礫、砂	胴部 破片	
			高さ	(14.9)							
			底径	—							
第53図 PL.74	156	埴輪 円筒	口径	—	—	—	—	外：タテハケ 内：底部粘土板付近は指頭圧痕が多い、部分的にハケメあり	①良好 ②7.5YR 7/4 ③砂、小礫、赤色粒子	底部 1/3	
			高さ	(7.0)							
			底径	【12.0】							
第53図 PL.74	157	埴輪 円筒	口径	—	—	—	—	外：タテハケ。底面端部に棒状圧痕 内：底面に布目状の圧痕。基部成形時の作業痕の可能性か	①良好 ②7.5YR 7/4 ③砂、小礫、赤色粒子	底部 1/4	
			高さ	(6.5)							
			底径	【18.0】							

図版	番号	器種 部位	法量(cm)		成形・整形技法等の特徴（器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第53図 PL.74	158	埴輪 形象	幅	(11.0)	直線的な破片。外面の突帯とタテハケに対して内面はヨコナデが中心となる。突帯上位に透かし状の切り込みがあるが、形状は不明。家形の可能性が考えられる	①良好 ②7.5YR 7/4 ③砂、小礫、白色粒子	破片	
			高さ	(6.7)				
			厚さ	1.7				

【６号墳】（596E-SZ06）

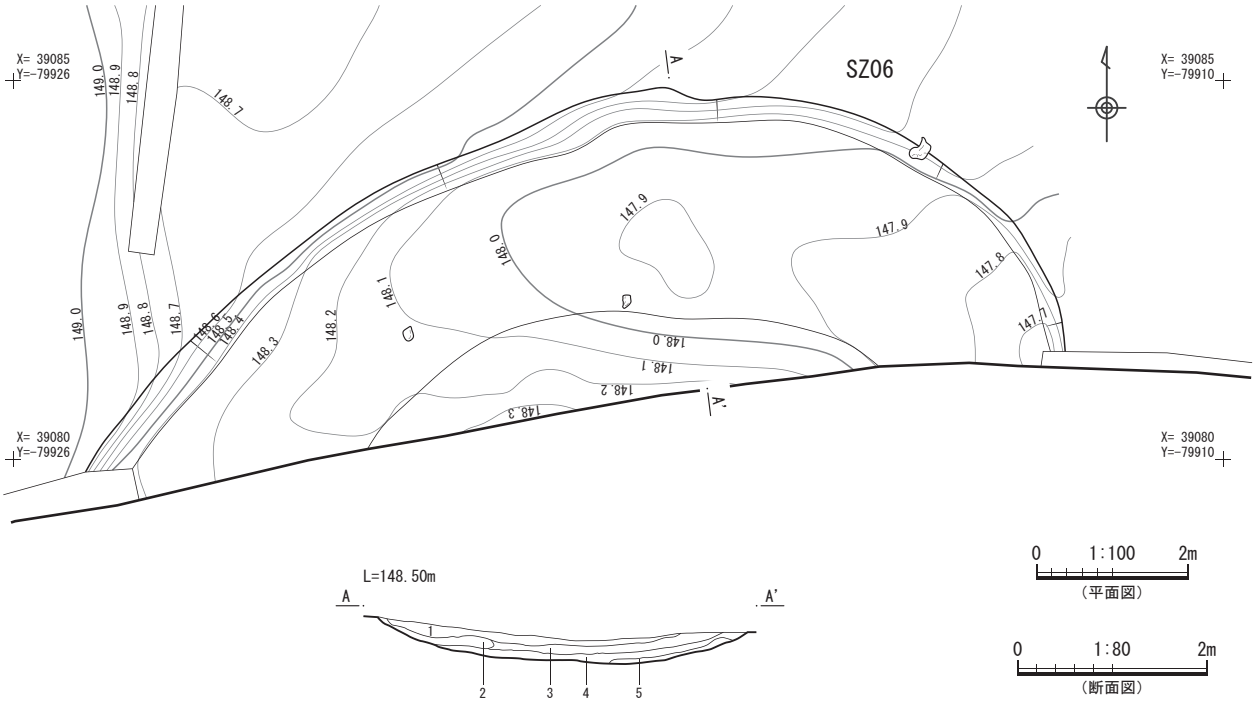
位置　　東区東側南端に位置する。西に３号墳、北西に４号墳、北に２号墳、東に１号墳がそれぞれ近接する。墳丘本体は調査区外のため未調査である。

墳形・規模　　墳丘は未検出。

周溝　　東側がやや歪に窄まるが、外周１／４ほどを検出した。幅はおよそ4.0mで、遺構確認面からの深さは0.5mを測る。周溝底部の標高は147.9mとなる。

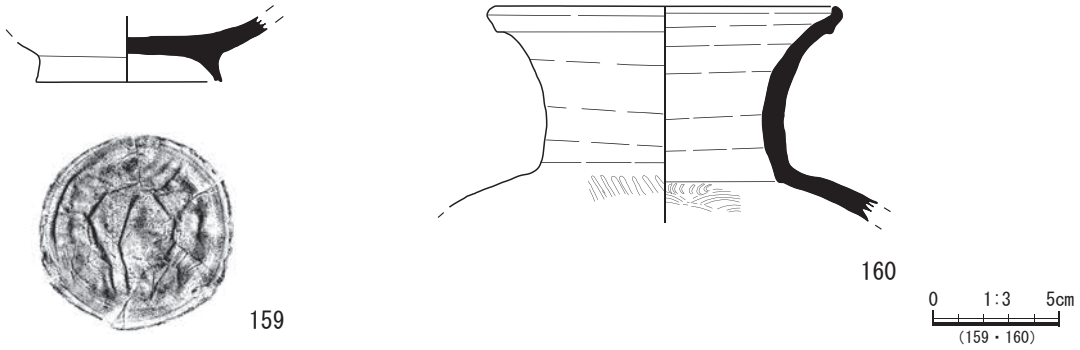
出土遺物　　須恵器大甕や土師器甕の小片が出土。

所見　　墳丘本体は未確認だが、弧状に巡る溝から周溝と判断し古墳として扱った。周溝の外周から円と仮定した場合の径を復元すると、１～３号墳の周溝外周径と概ね一致する。したがって、本墳も同様に径10m前後の円墳であった可能性が考えられる。



６号墳(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 2/2）　As-B混(密度低)。As-C混(φ1～3mm)少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混(φ1～3mm)少量。シルト質。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混(φ1～3mm)少量。2層目よりもシルト質。橙色粒子(φ1～4mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
4　にぶい黄褐色（10YR 5/4）　漸移層。シルト質。橙色粒子(φ1～4mm)少量。しまりやや弱、粘性強。
5　黄褐色（10YR 5/6）　漸移層。シルト質。橙色粒子(φ1～3mm)微量に含む。しまりやや弱、粘性やや強。

第54図　６号墳　全体図



第55図　６号墳　出土遺物実測図

第12表　６号墳　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第55図 PL.74	159	須恵器 高台付碗	—	7.5	(2.6)	底部回転糸切り後、粘土貼り付けによる高台	①酸化炎　②7.5Y 8/2 ③石英	底部 破片	
第55図 PL.74	160	須恵器 甕	【14.0】	—	(8.5)	外：頸部無文。胴部並行タタキ 内：口縁ナデ。胴部同心円状当て具痕	①良好　②N 5/0 ③白色粒子	口縁部 破片	

【７号墳】（596E-SZ07、718-SZ07）

位置　　東区北端に位置する。南東には８号墳が近接するが、周溝は重複しない。調査工程上、本墳の調査は南西1/3と北東2/3に二分割して実施した。

墳形・規模　　遺構確認面の高さで計測すると、径18.3mの円墳となる。

周溝　　周溝は墳丘を全周する。周溝は南側でやや整わないが、概ね幅2.3～2.6mであり、深さは遺構確認面からおよそ0.5～0.8mである。周溝底部の標高はおよそ147.5m前後となる。

墳丘北側のやや西寄りの一部で周溝幅が狭まり、深さもやや浅くなる箇所がある。通路状の機能を果たしただろうか。

周溝の埋土は、暗褐色や黒褐色土を基調とする。埋土中のAs-B等のテフラは明瞭でなく、混入は顕著ではないことから、周溝はAs-B降下前には概ね埋没していたことが推察される。

墳丘　　１段目は地山削り出しによるが、一部では盛土と考えられる層が看取される。埋葬主体部の様相からも２段以上の築成が想定される。

外表施設　　墳丘面には残存する葺石は認められなかった。墳丘周囲や周溝埋土内には礫が散見される程度であり、本墳には葺石が積極的には葺かれなかった可能性が考えられる。

埴輪　　墳丘の南西部を中心に埴輪片の出土があり、円筒埴輪や形象埴輪の存在が確認された。精査の結果、埴輪の抜き取り痕と想定されるピット状の小穴を含め、墳丘南西側から南面にかけて墳丘上に樹立したと思われる埴輪列を確認した（第60図）。埴輪Ａ～Ｎまで14箇所を確認した掘り込みのうち、原位置を保っている、もしくは土圧等で傾倒はするものの原位置から大きくは動いていないと判断されるものがＡ、Ｄ、Ｆ、Ｈ、Ｌ、Ｎの６箇所であった。脚部が樹立状態に近いと判断される埴輪Ｎの馬形埴輪は、蹄を表現する切り込みの方向から、本体は北西方向に頭部を向けて樹立されていた可能性が考えられる。また、埴輪樹立の形跡と考えられるピットはＢ、Ｃ、Ｅ、Ｇ、Ｉ、Ｊ、Ｋ、Ｍの８箇所である。いずれも埋土に埴輪片を含むが、破片であったり埴輪底部が存在しないなど原位置を保っているとは考えられず、樹立埴輪列の存在を示唆するに留まる。なお、それぞれのピットの間隔には若干のばらつきが見られるが、ピットの中心から中心の距離は、概ね0.4～0.5mである。埴輪列に限定すると、出土した埴輪の分布状況から、墳丘上には0.5m間隔に据えられた円筒埴輪列が巡り、その内側に馬形埴輪が樹立されていたことが想定される。

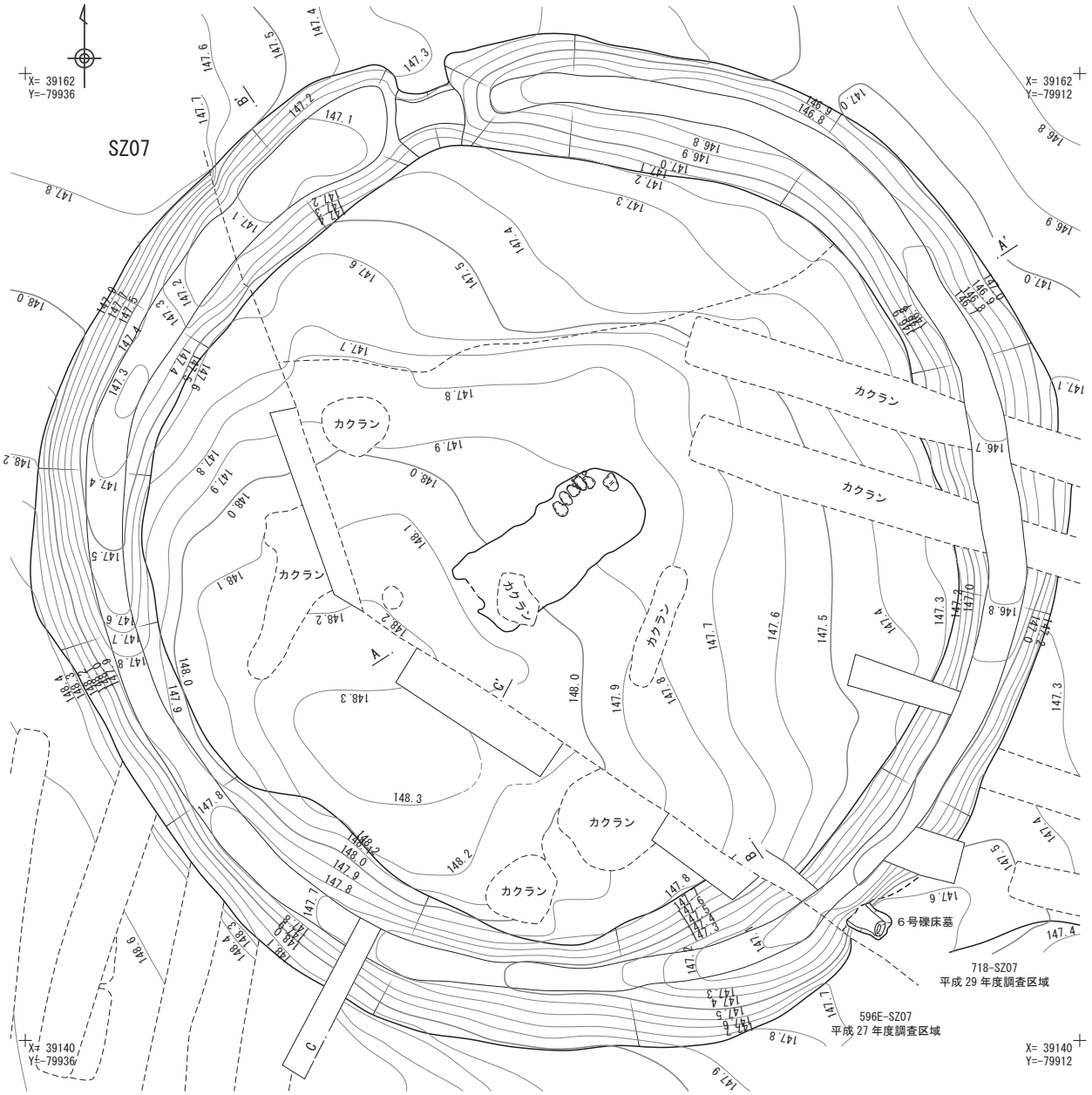
埴輪列の近辺からは、その他多量の埴輪片が出土している。これらの出土位置を勘案すると、墳丘に樹立した円筒埴輪列の内側には、首飾りをした人物および飾り馬２体以上が配されていたことが想定される。なお、盾形埴輪は複数個体が確認できるが、その出土は墳丘北～北西側の一定範囲に集中する傾向がある。そのため、盾形埴輪は墳丘北側に樹立されたものと推定される（第63図）。

埋葬主体部　　墳丘１段目より上が削平されていたことや、埋葬主体部が検出された墳丘の中央および北東半分は、調査前には竹林であったためその影響が著しく、埋葬主体部については、最下部の一部および抜き取り痕跡が残存するのみであった。墳丘上に残る浅い窪み状の掘り込みは埋葬主体部の掘り方範囲と考えられ、確認できた礫および抜き取り痕の配置から、小振りな石室が想定される。竪穴系の埋葬主体部形態をとる可能性を排除するものではないが、残存状況から横穴式石室である蓋然性は高いものと考える。

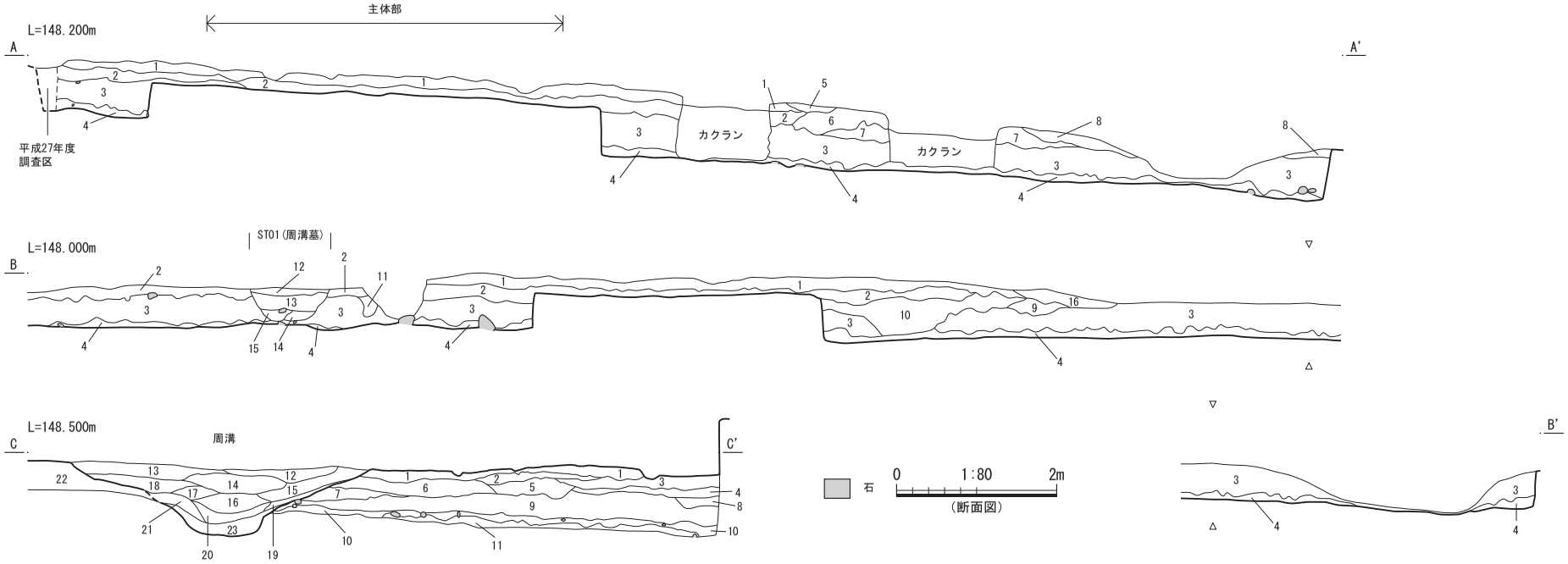
主体部の主軸はＮ－57°－Ｗで、開口部を南西に持つ。構成する壁体をほぼすべて欠いているため詳細は明らかにできないが、抜き取り痕や土層の硬化状況などを勘案すると、主体部の規模は全長3.4m、玄室長1.7m、幅は奥壁付近1.0m、中央0.9m、玄門付近0.8m。羨道長1.7m、玄門付近の幅0.8m、中央0.7m、羨門付近0.6mほどとなる。残存高は0.1m未満である。

主体部構造としては北側に扁平な礫７石が残存しているのみである。礫そのものは極めて扁平であるため、壁体構築材の礫の下部にあたる根石であったと推定される。また、主体部周辺には親指大の小礫が散在しており、本来は石室礫床を構成したものと考えられる。

根石および小礫や埋土を除去すると、長さ0.3～0.4m、幅0.2m程度の窪みが多数検出された。これらの窪みの底部は硬化しており、埋土との差は明確であった。石室石材を抜き取った痕と推定される。



第56図　７号墳　墳丘全体図



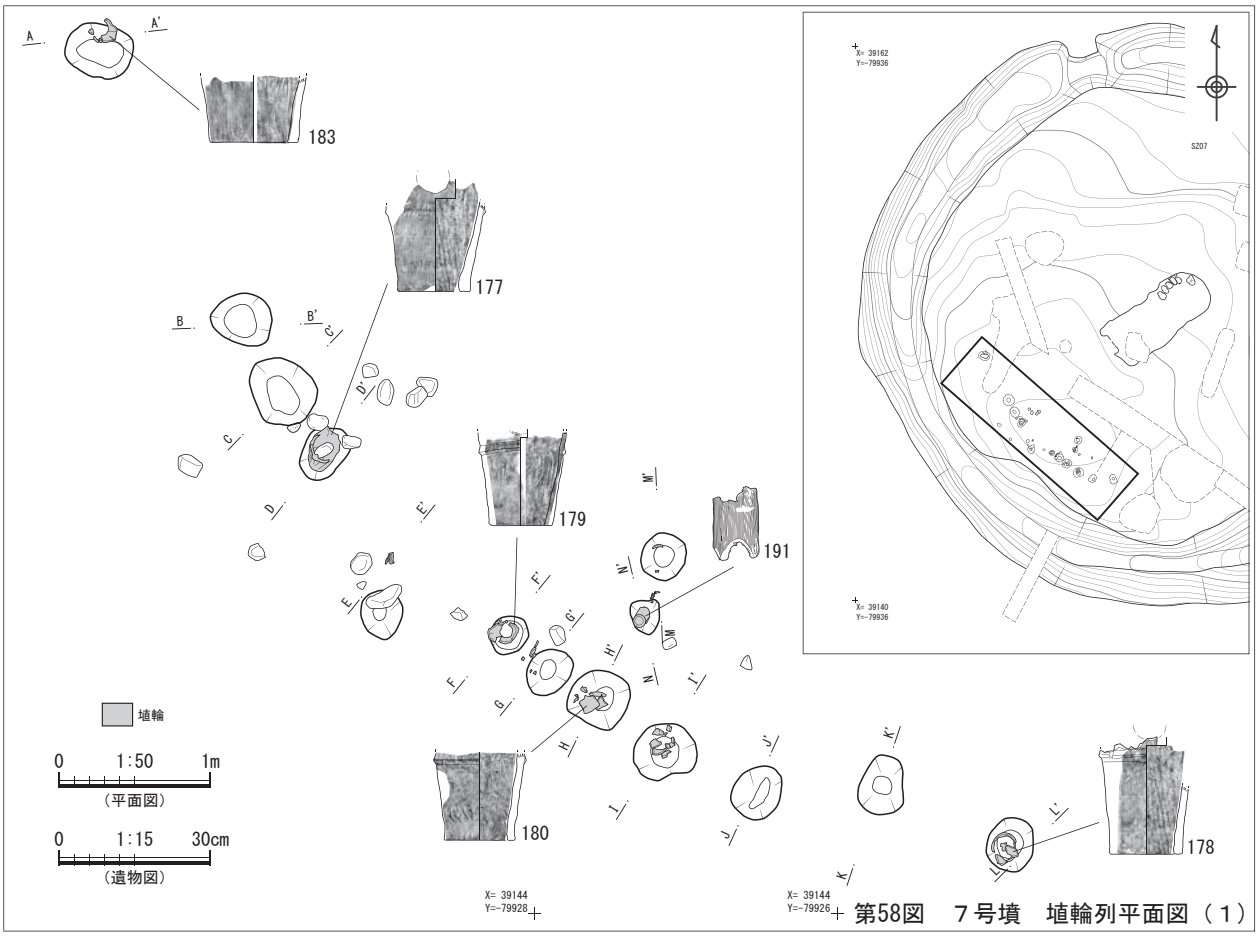
第57図　７号墳　墳丘断面図

７号墳(SPA-A',B-B'共通)

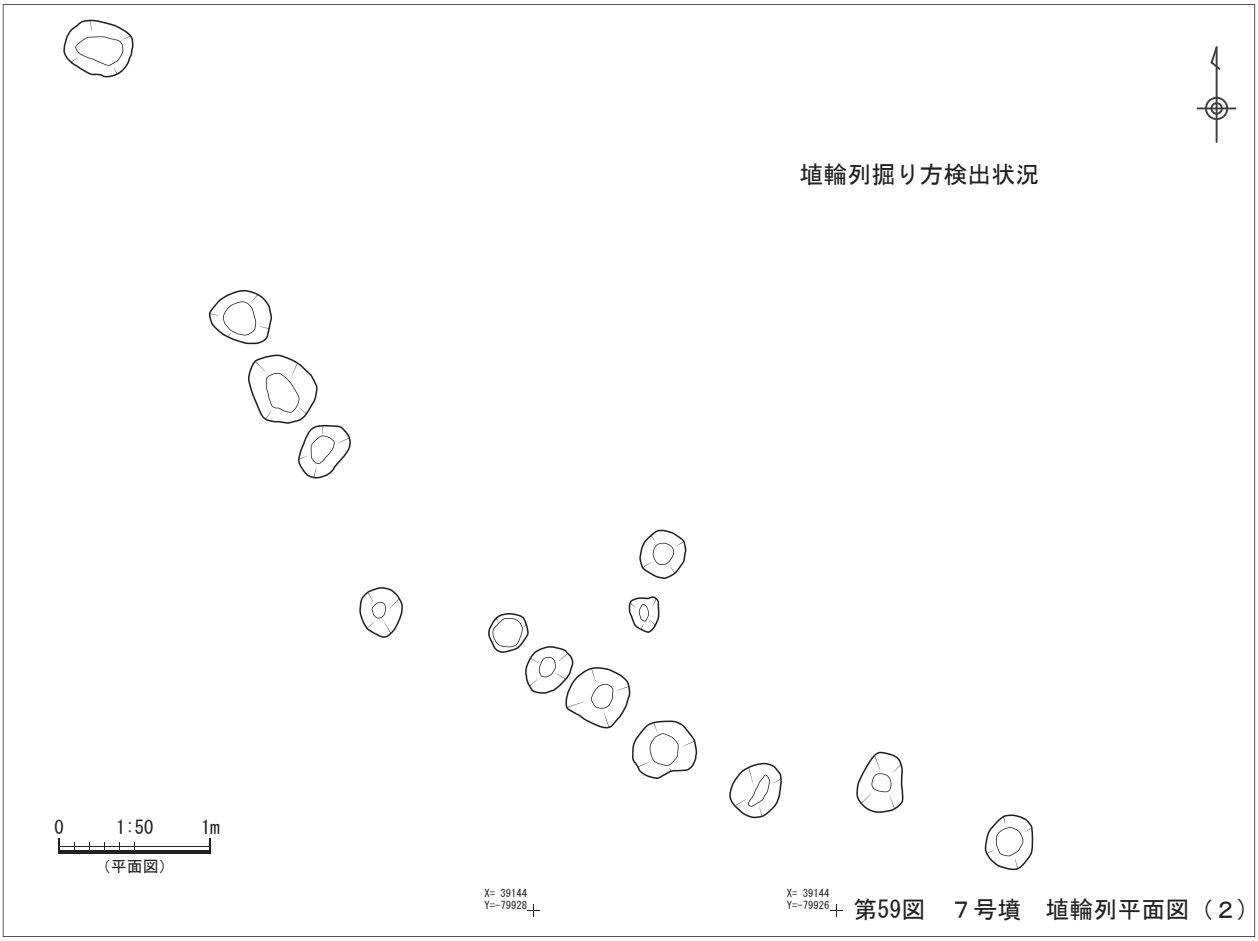
1	黒色 (10YR 2/1)	As-C混(多量)。しまり強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	As-Cは原則混入しないが、層上位で若干含まれる箇所が見られる。しまり強、粘性やや強。
3	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	黒色土と黄褐色ローム漸移層。礫含む。ロームブロック(φ5～10cm)斑状に混入。しまり強、粘性弱。
4	黄褐色 (10YR 5/6)	ローム主体。As-YP含む。黒色土が混じる様相を呈す。しまり極めて強、粘性弱。
5	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混(やや少量)。褐色土(ロームか)があいまいに混在。墳丘盛土の一部か。しまり強、粘性やや弱。
6	黒色 (10YR 2/1)	As-C混(やや多量)。褐色土ブロック(φ3～5cm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
7	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色土ブロック(φ10～15cm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
8	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混(やや少量)。しまり強、粘性弱。
9	黒褐色 (10YR 3/1)	白色粒子少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
10	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色ロームブロック(φ5～15cm)やや多量。As-YP少量。しまりやや強、粘性やや弱。風倒木と推定。
11	黒褐色 (10YR 3/1)	As-Cなし。黄褐色ローム粒子(φ3～5mm)少量。しまり極めて強、粘性やや強。
12	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混(やや多量)。しまり強、粘性強。
13	黒色 (10YR 2/1)	As-C混(多量)。褐色土粒子(φ3～5mm)少量。しまり強、粘性やや強。
14	暗褐色 (10YR 3/3)	褐色土混在。しまりやや強、粘性やや弱。
15	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混(僅か)。褐色土ブロック(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
16	黒色 (10YR 2/1)	As-C混(やや多量)。しまり強、粘性やや強。

７号墳(SPC-C')

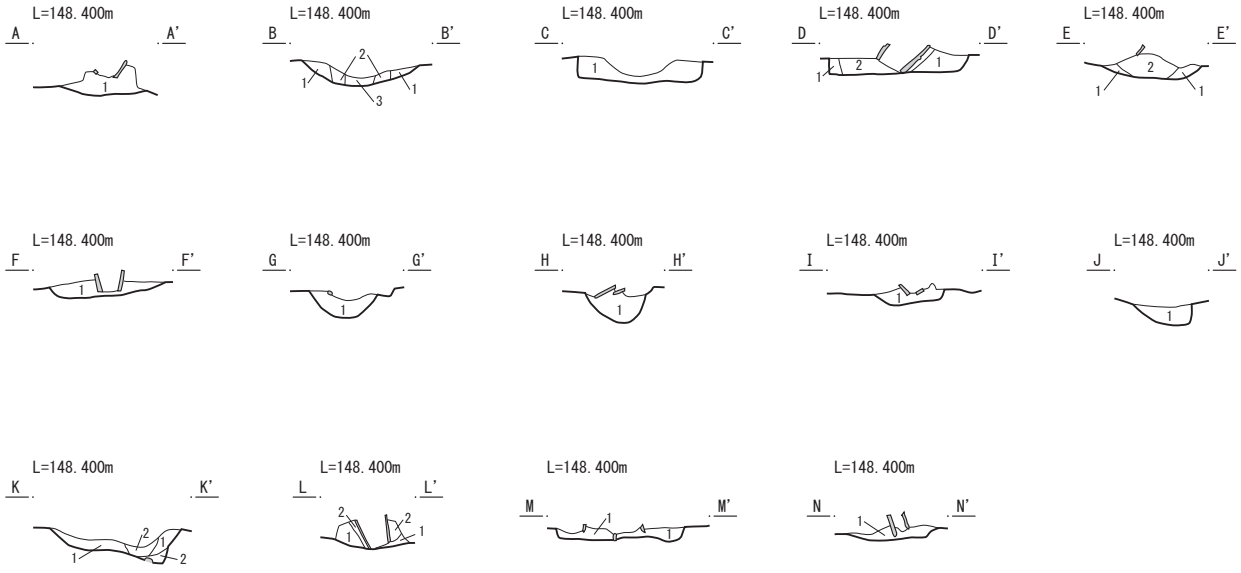
1	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混。古墳残存面である1層上位にはAs-Bが一部で見られる。黄褐色シルト。
2	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)やや少量。しまり極めて強、粘性やや弱。
3	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。黄褐色シルト (φ2～3mm) 少量。局所的に混入。しまり強、粘性弱。
4	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混(混入は極めて少ない)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	白色粒子(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
6	灰黄褐色 (10YR 4/2)	白色粒子(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
7	暗褐色 (10YR 3/3)	白色粒子(微量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性強。
8	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)微量。しまりやや強、粘性やや強。
9	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)少量、(φ2～3cm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
10	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり極めて強、粘性強。
11	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	黒褐色シルト漸移層。しまり極めて強、粘性やや強。
12	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混(φ1～3mm)やや多量、(φ4～6mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
13	暗褐色 (10YR 3/4)	As-C混(φ1～3mm)多量、(φ4～6mm)やや多量、(φ7～10mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
14	暗褐色 (10YR 3/3)	As-C混(φ1～3mm)やや多量、(φ4～6mm)多量、(φ7～10mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
15	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混(φ1～3mm)やや少量。小粒径の軽石が目立つ。しまり強、粘性弱。
16	黒色 (10YR 2/1)	As-C混(φ1～3mm)やや多量。全体的に小粒径のAs-Cが顕著。シルト質。しまりやや弱、粘性やや弱。
17	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混(φ1～3mm)やや少量、(φ4～6mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
18	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混(φ1～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
19	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	白色粒子(φ1～3mm)少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
20	黒色 (10YR 2/1)	白色粒子(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。局所的にAs-Cが混入する。As-C(φ1～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
21	褐色 (10YR 4/4)	黒色土に黄褐色土が斑状に混入する。白色粒子(φ1～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
22	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	漸移層。白色粒子(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
23	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性弱。



第58図　７号墳　埴輪列平面図（１）



第59図　７号墳　埴輪列平面図（２）



埴輪Ａ(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 2/3）　As-C混(φ1～2mm)少量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。

埴輪Ｂ(SPB-B')
1　黒褐色（10YR 2/3）　As-C混(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 2/3）　As-C混(φ1～2mm)少量。若干砂質。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 2/2）　As-C混(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。

埴輪Ｃ(SPC-C')
1　暗褐色（10YR 3/4）　As-C混(φ1～4mm)多量、(φ5～7mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。

埴輪Ｄ(SPD-D')
1　黒褐色（10YR 2/3）　As-C混(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
2　暗褐色（10YR 3/4）　As-C混(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。

埴輪Ｅ(SPE-E')
1　黒褐色（10YR 2/3）　As-C混(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
2　暗褐色（10YR 3/4）　As-C混(φ1～3mm)やや多量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。

埴輪Ｆ(SPF-F')
1　暗褐色（10YR 3/4）　As-C混土(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。

埴輪Ｇ(SPG-G')
1　黒褐色（10YR 2/2）　As-C混(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性強。

埴輪Ｈ(SPH-H')
1　黒褐色（10YR 2/3）　As-C混(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。

埴輪Ｉ(SPI-I')
1　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混(φ1～2mm)やや少量。砂質。しまりやや強、粘性やや弱。

埴輪Ｊ(SPJ-J')
1　黒褐色（10YR 2/3）　As-C混(φ1～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。

埴輪Ｋ(SPK-K')
1　黒褐色（10YR 2/2）　As-C混(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混(φ1～2mm)僅かに混じる。砂質。しまりやや弱、粘性弱。

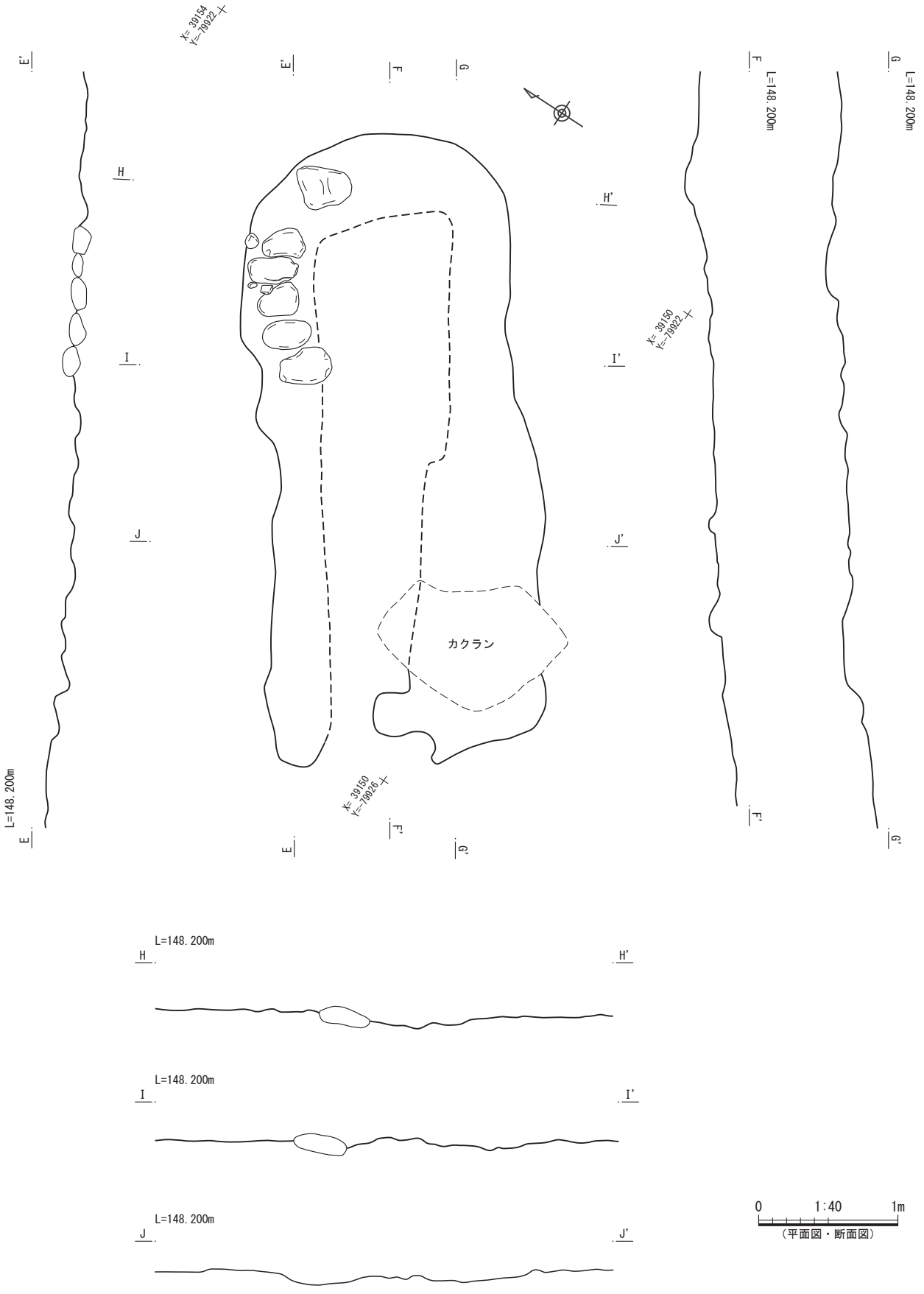
埴輪Ｌ(SPL-L')
1　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混(φ1～2mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　As-C混(φ1～2mm)少量。砂質。しまりやや弱、粘性弱。

埴輪Ｍ(SPM-M')
動物埴輪の脚部②
1　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混(φ1～2mm)少量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや強。

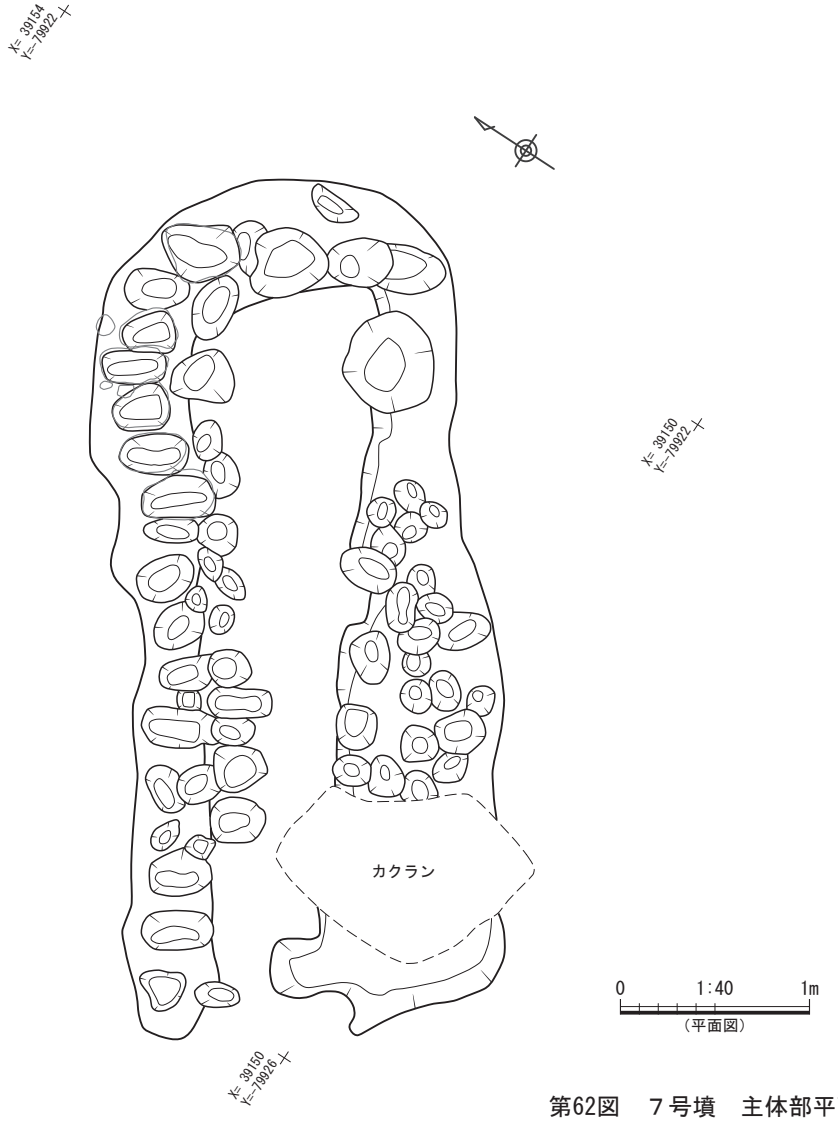
埴輪Ｎ(SPN-N')
動物埴輪の脚部①
1　暗褐色（10YR 3/3）　As-C混(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。

0　1:40　1m
（平面図・断面図）

第60図　７号墳　埴輪列断面図



第61図　７号墳　主体部展開図



第62図　７号墳　主体部平面図

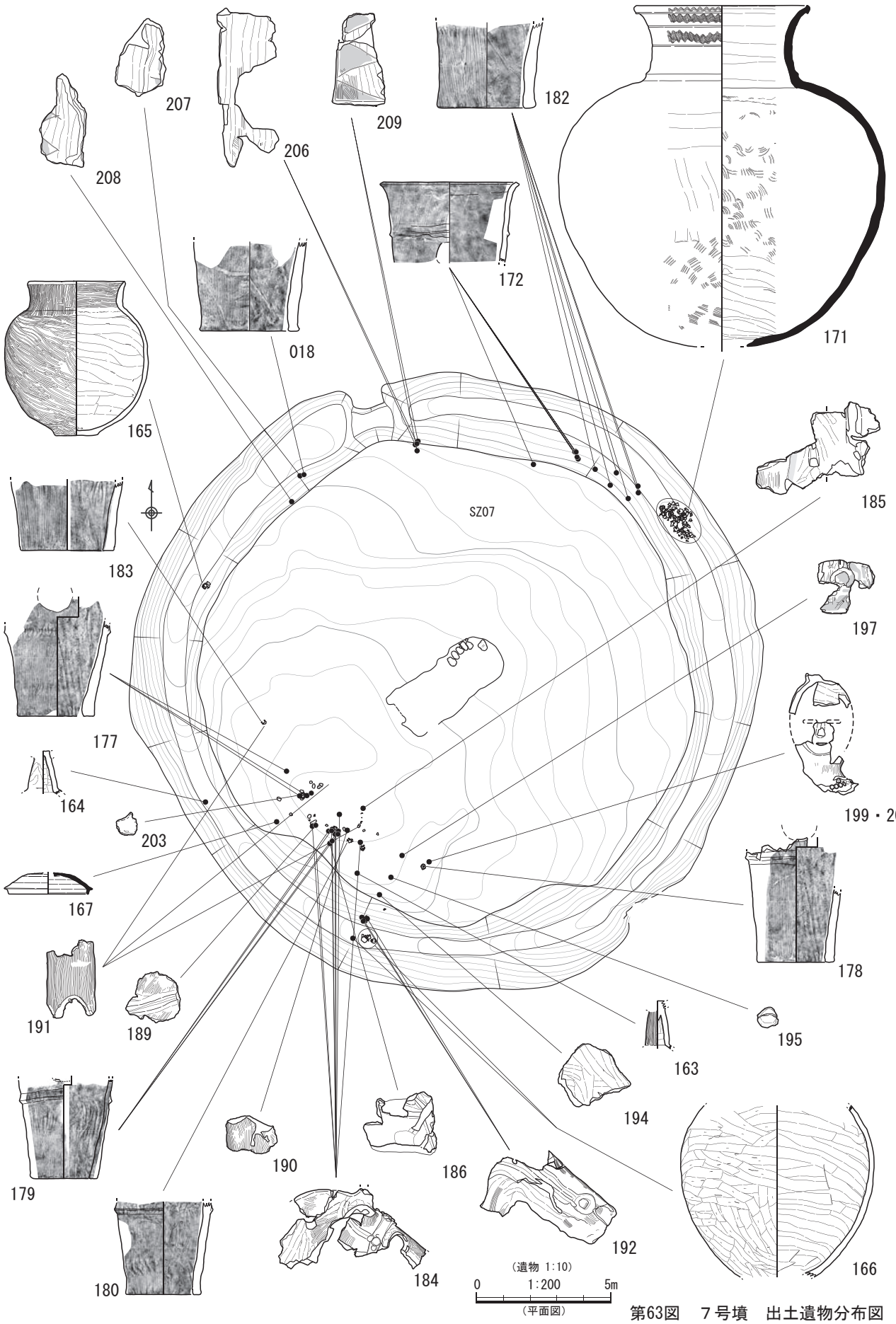
出土遺物　須恵器坏や大甕、各種埴輪（円筒、人物、馬、盾、家などの形象）が出土している。

埴輪は焼成が良好で赤味が強い色味を呈す傾向にある。第68図184は、稜線の明瞭な額革、額革中央の十字飾りの貼付け粘土板や粘土粒、辻金具の円形粘土粒などの部位の造形が丁寧である一方、項革や手綱の貼付け粘土紐は稜線が弱く、断面がやや丸みがある。焼成の様相や胎土の色調から185～191が184に伴う各種部位と考えられ、墳丘上で確認した脚部（ピットＮ）の位置に据えられていたと想定できる。鏡板は鋲の表現となる貼付け粘土粒なども丁寧に造形される。辻金具や飾り金具を詳細に表現した頭絡をつけ、丁寧な器面調整のf字形鏡板を持つ飾り馬である（馬Ａ）。

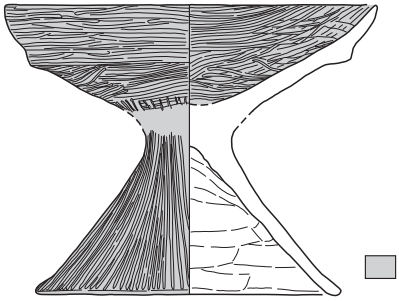
また、第69図192は、手綱や頬革の粘土紐は稜線が弱いが、環状鏡板の円形粘土紐は比較的丁寧に整えられている馬である（馬Ｂ）。鏡板、鼻孔、目など各部位は左右の対称性を意識して付けられており、下顎部に大きく孔をあけることが特徴である。調整の稚拙さこそ看取されるものの、全体の造形は粗雑ではない。各資料の様相から、194～198は馬Ｂの部位と考えられる。第70図193は前者２体とは別の馬の頭部（馬Ｃ）であるため、本墳では少なくとも３個体以上の馬形埴輪があったと推測される。

第64図161、162は弥生時代後期の土器だが、本墳の墳丘下には１号礫床墓、本墳の周溝と南で２号礫床墓、南東で６号礫床墓がそれぞれ重複するため、いずれかの遺構に伴う遺物と推測される。

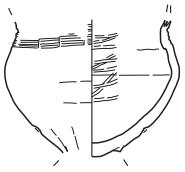
所見　墳丘径18mの円墳で、判然としない石室の埋葬主体部を持つが、墳丘や周溝から出土した埴輪は量、内容ともに充実したものといえよう。馬形埴輪の様相などから、概ね６世紀中葉～後葉の年代が妥当のように思われる。



第63図　７号墳　出土遺物分布図

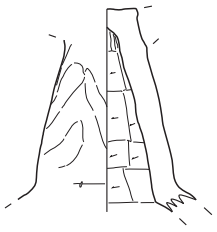


161

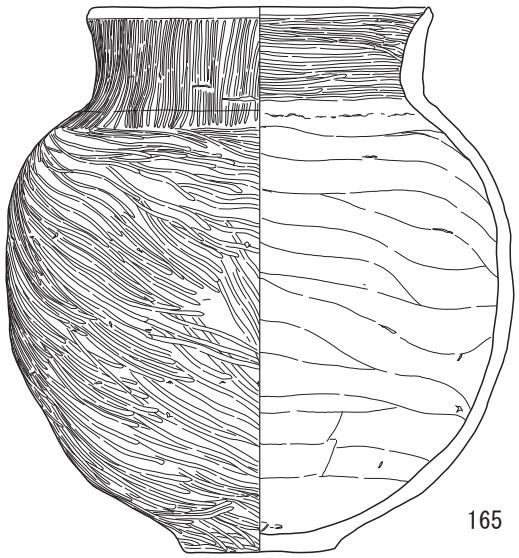


162

163



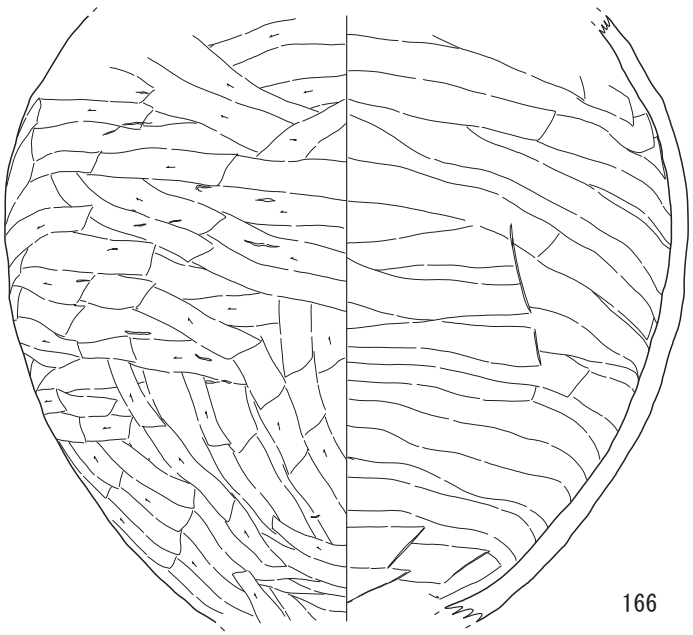
164



165

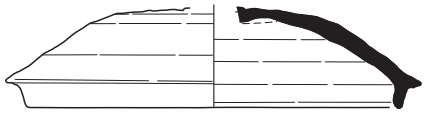
0　1:3　5cm
（161～164）

0　1:4　10cm
（165・166）

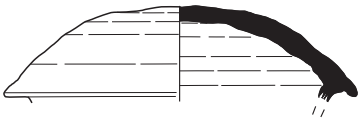


166

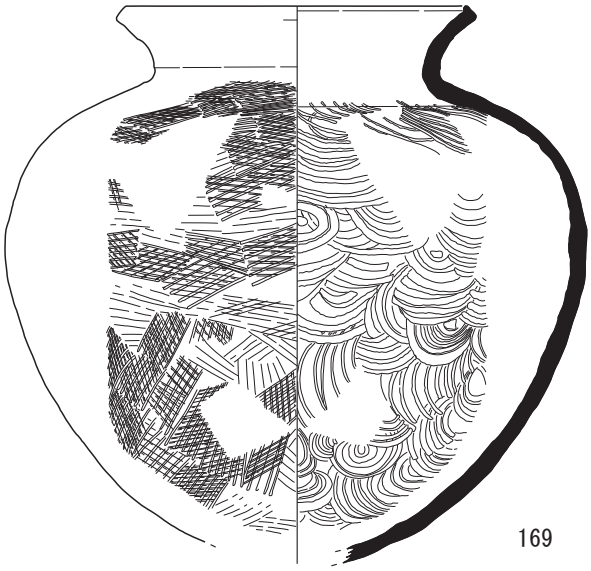
第64図　７号墳　出土遺物実測図（１）



167



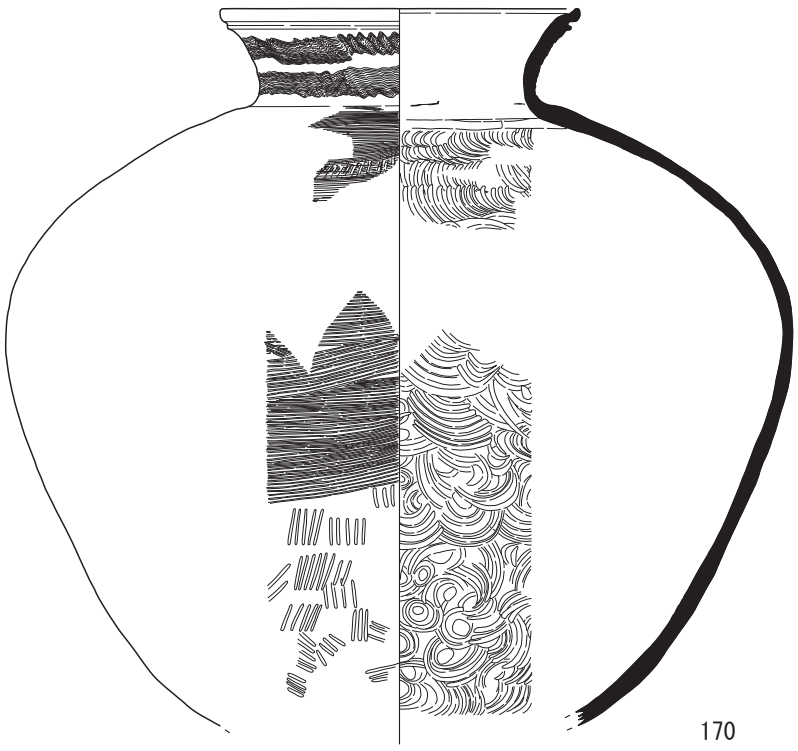
168



169

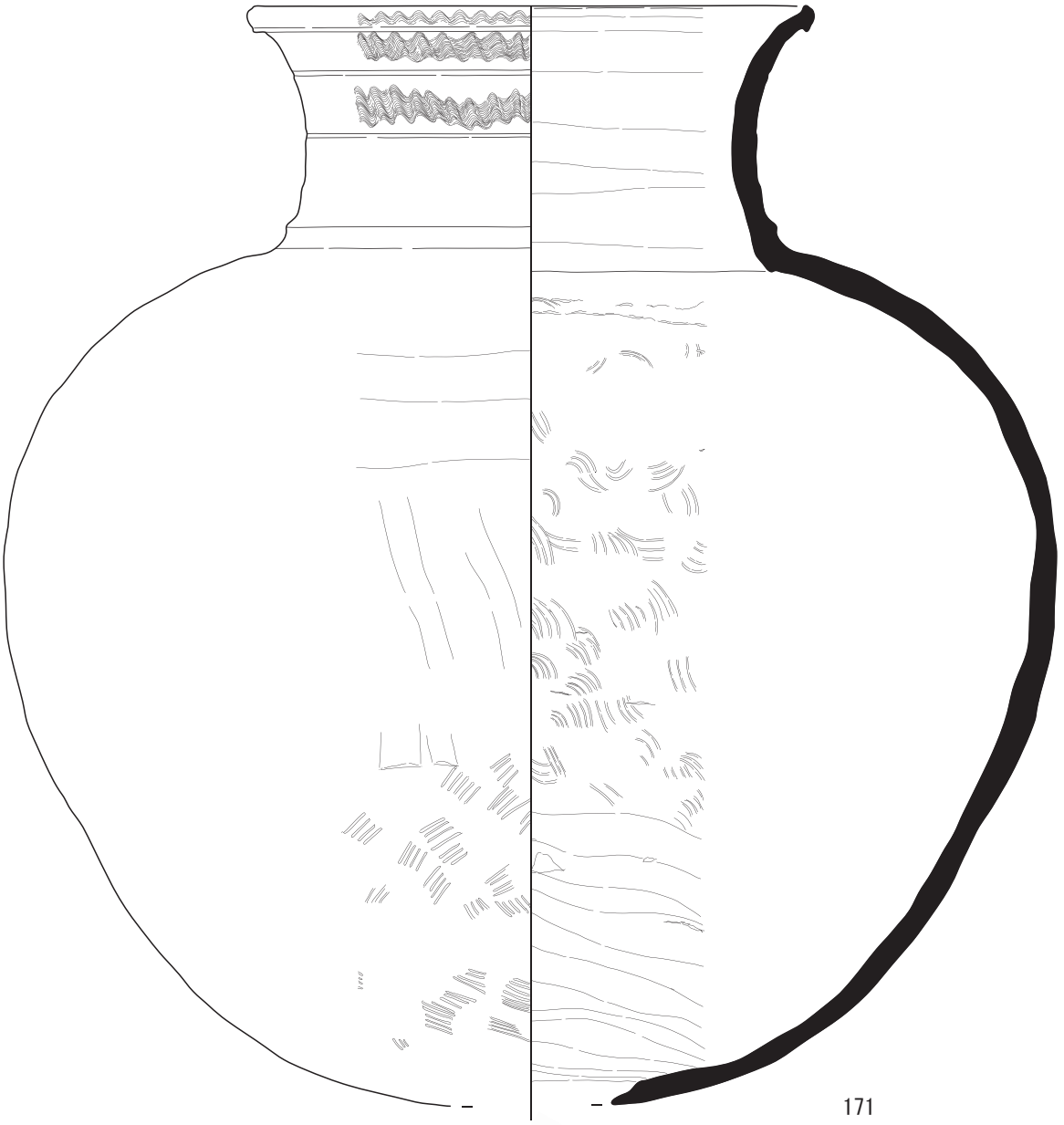
0　1:3　5cm
（167・168）

0　1:4　10cm
（169・170）

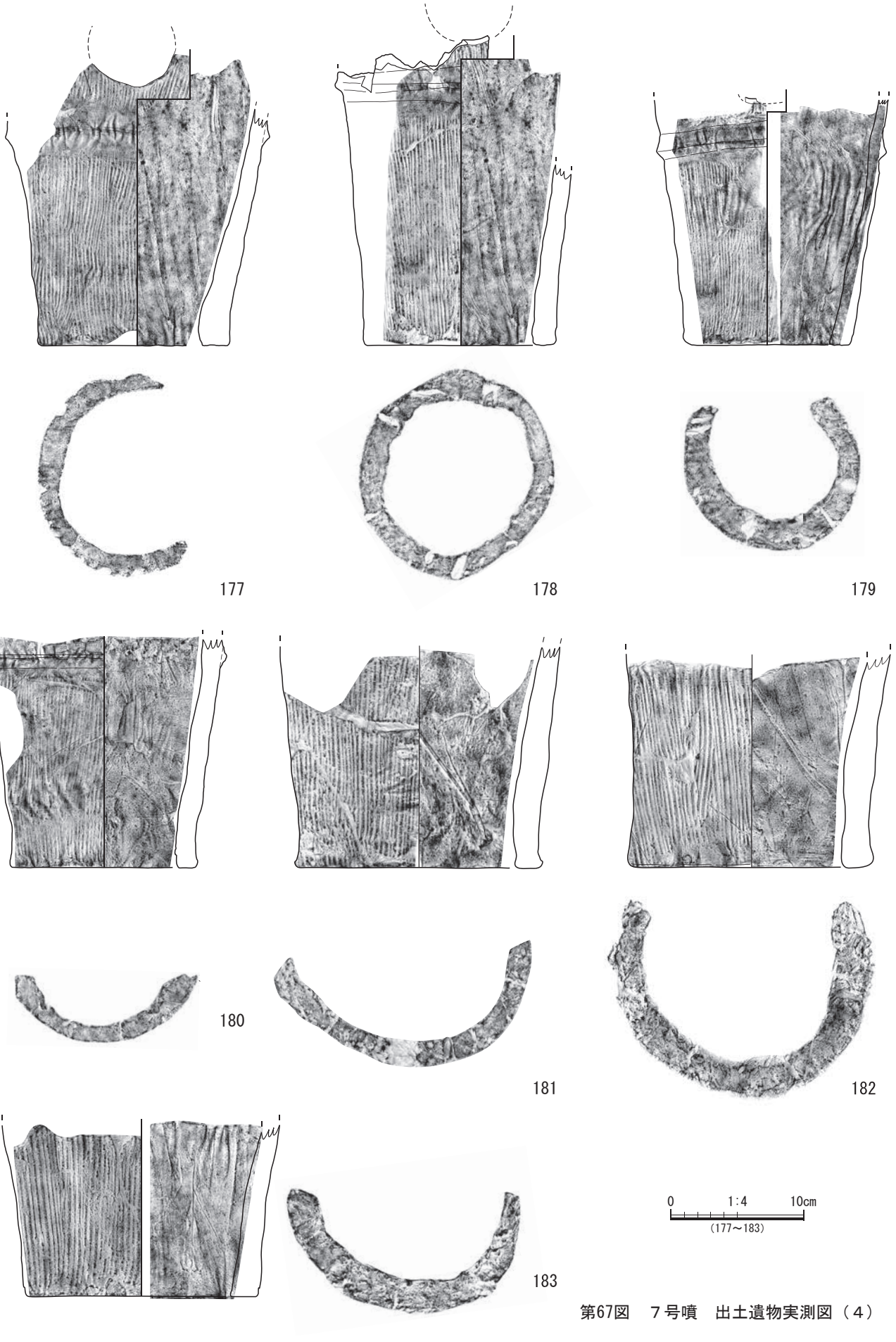


170

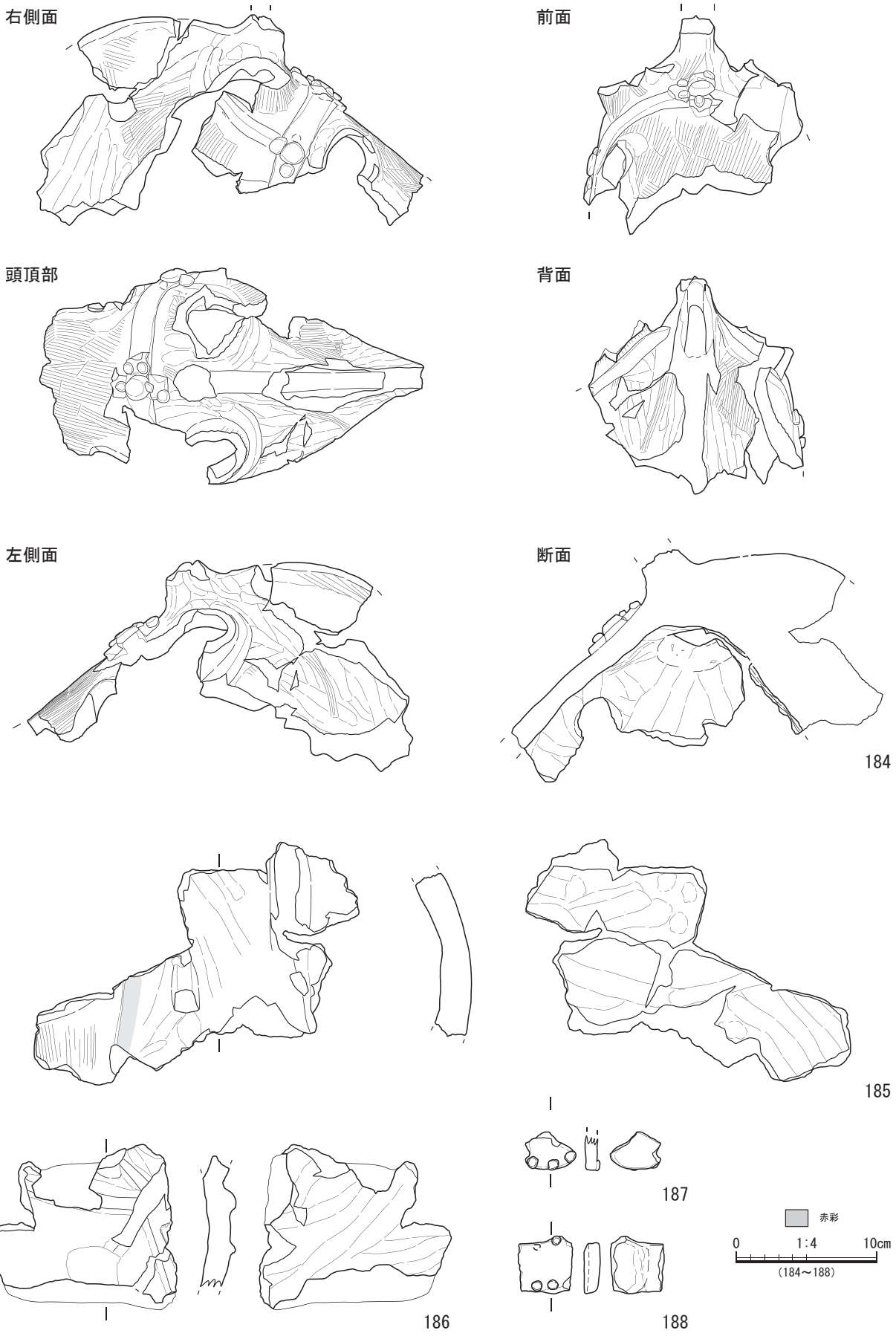
第65図　７号墳　出土遺物実測図（２）



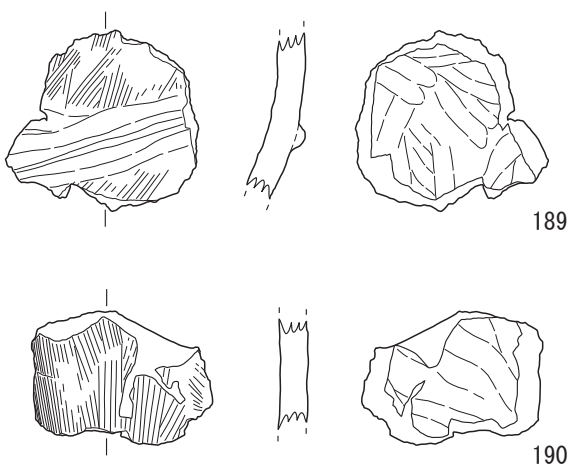
第66図　７号墳　出土遺物実測図（３）

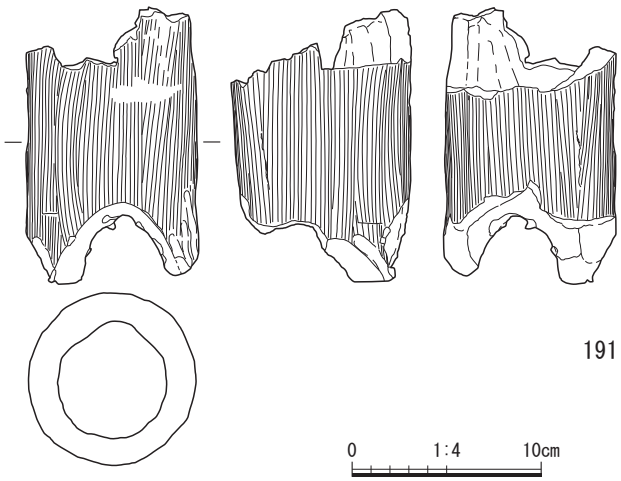


第67図　７号噴　出土遺物実測図（４）



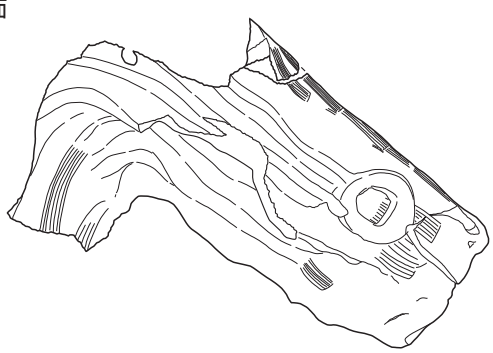
第68図　７号墳　出土遺物実測図（５）



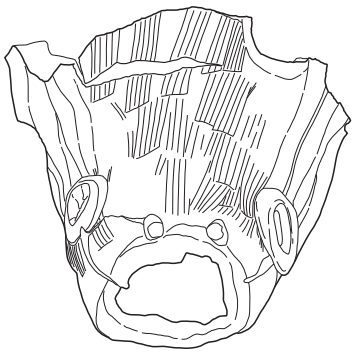


0　1:4　10cm
（189～192）

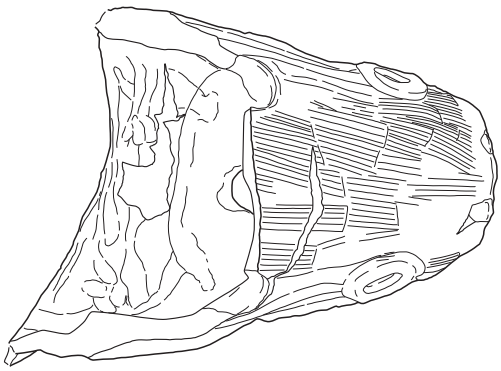
右側面



前面

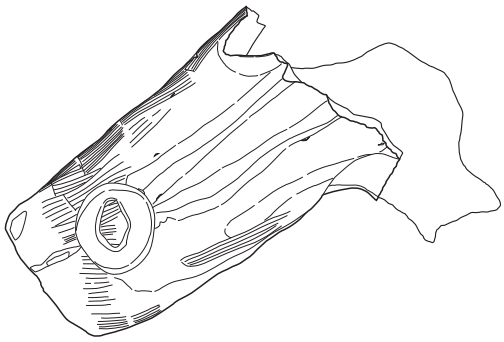


上面

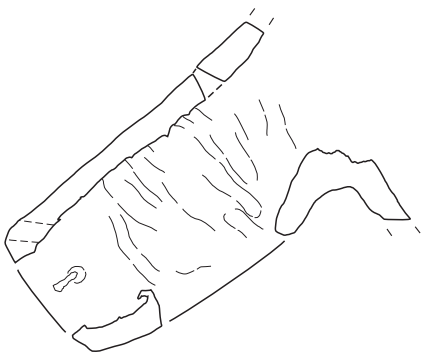


背面

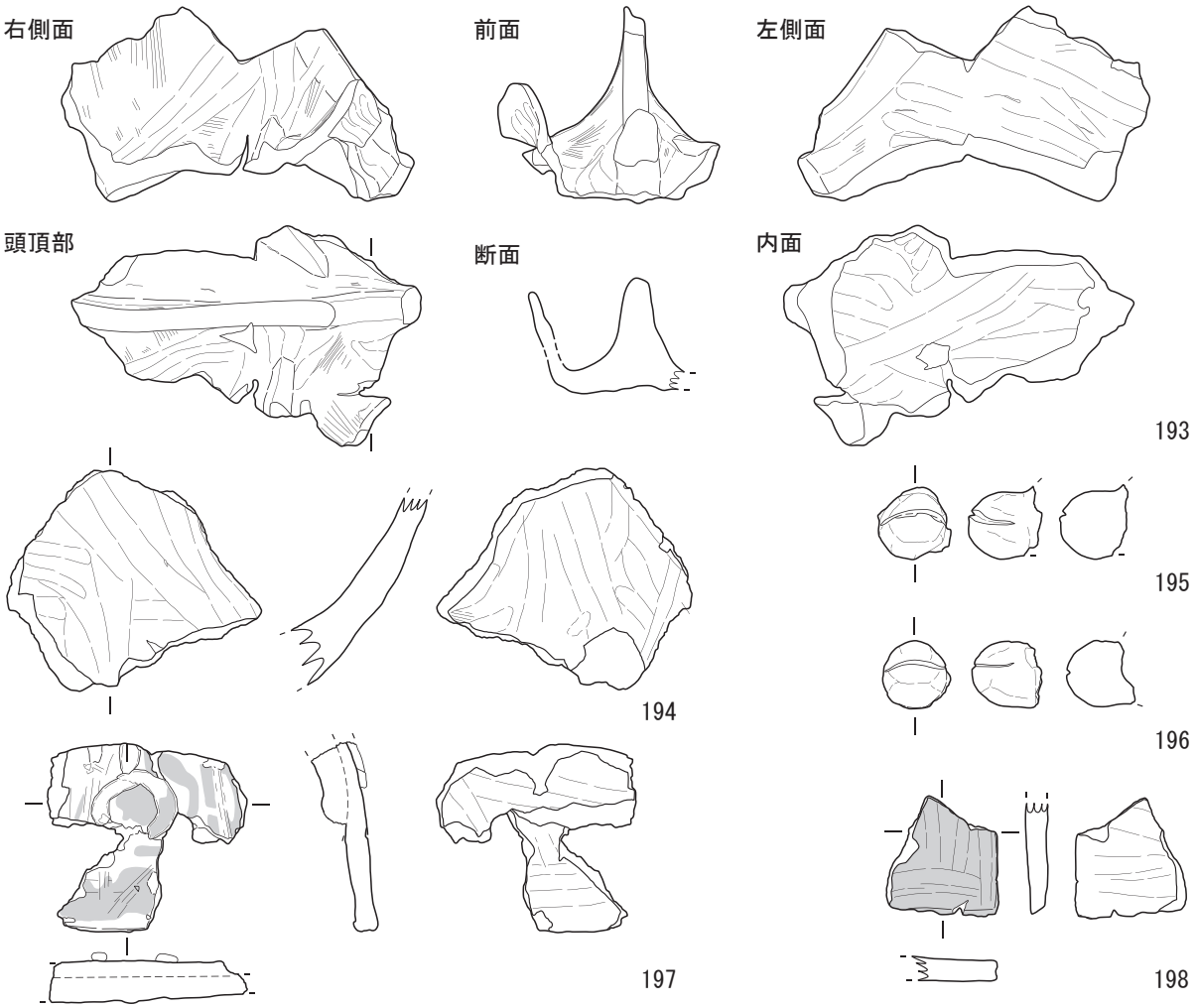
左側面

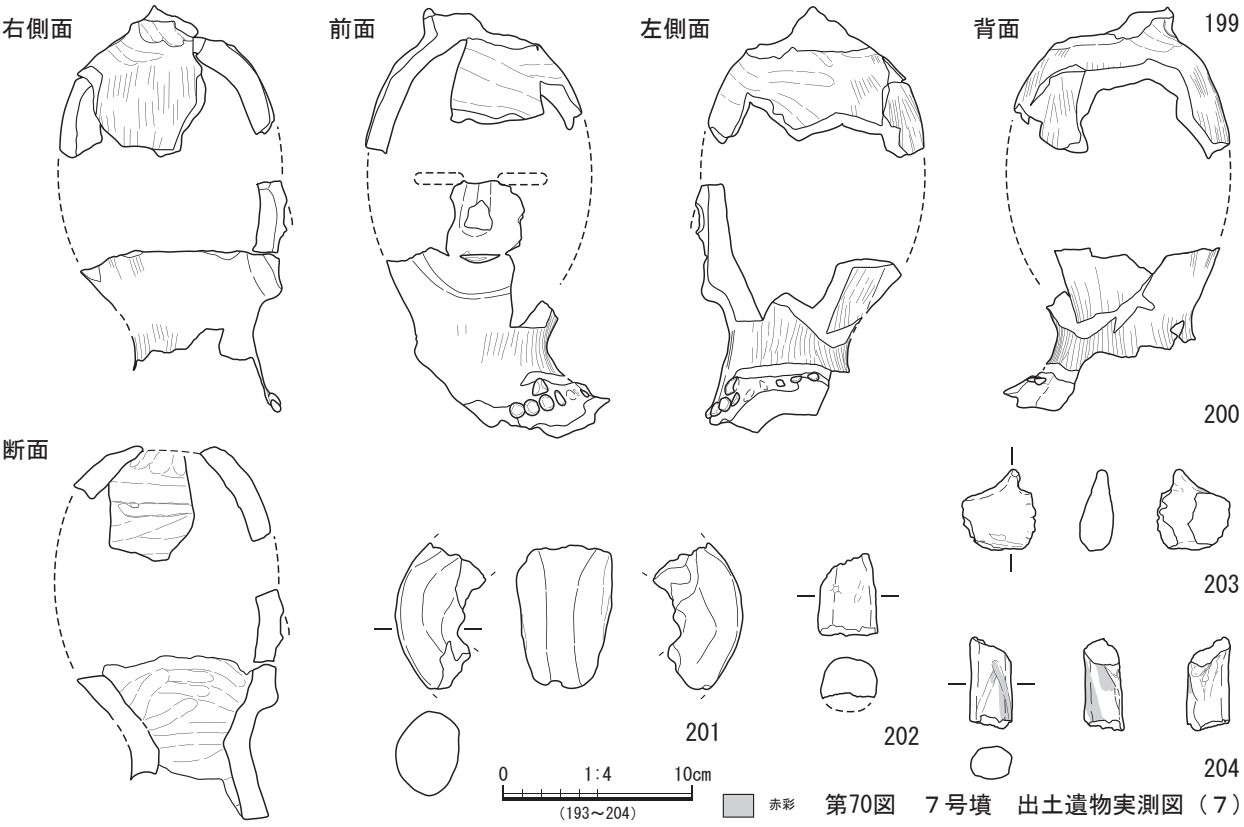


断面

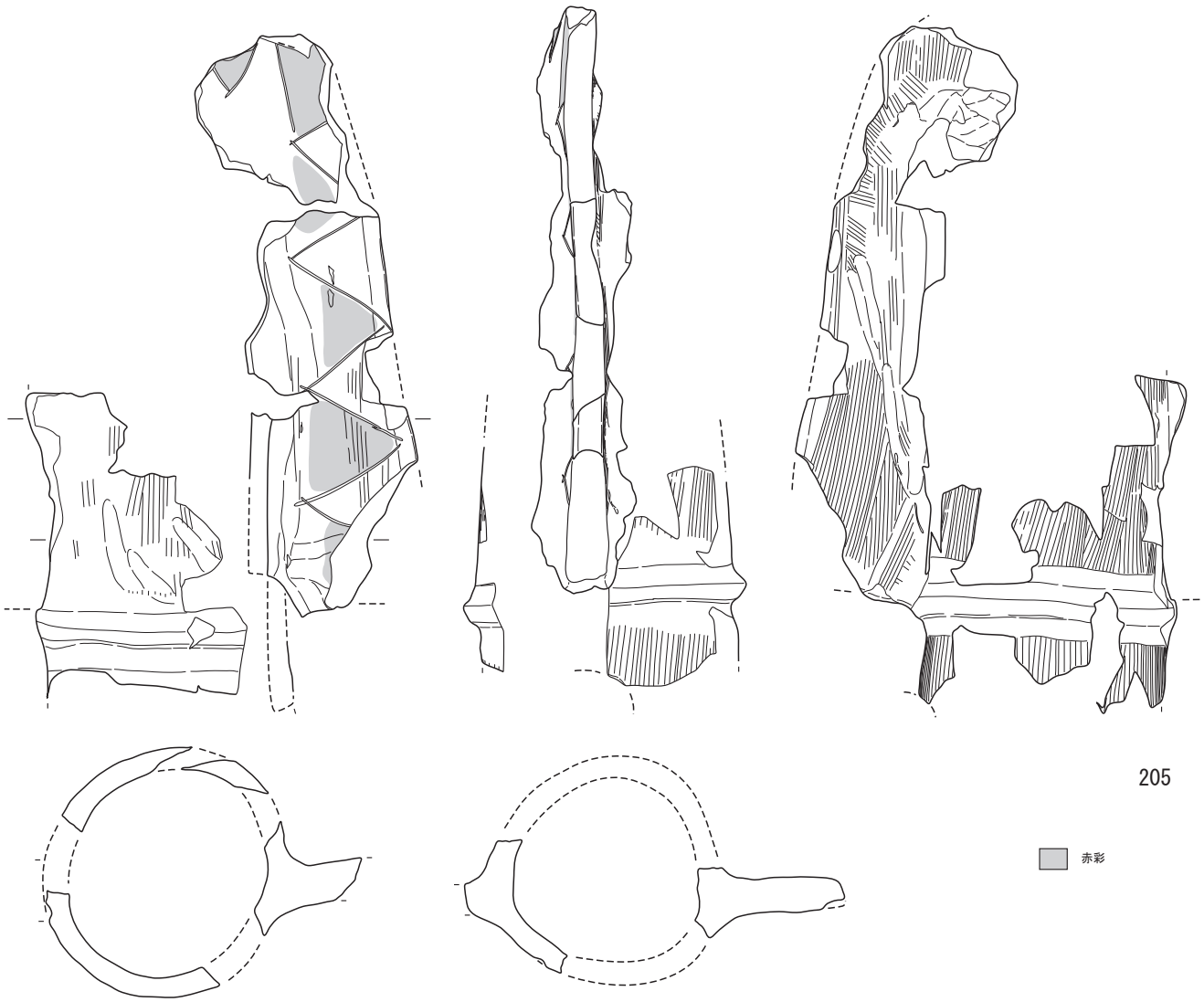


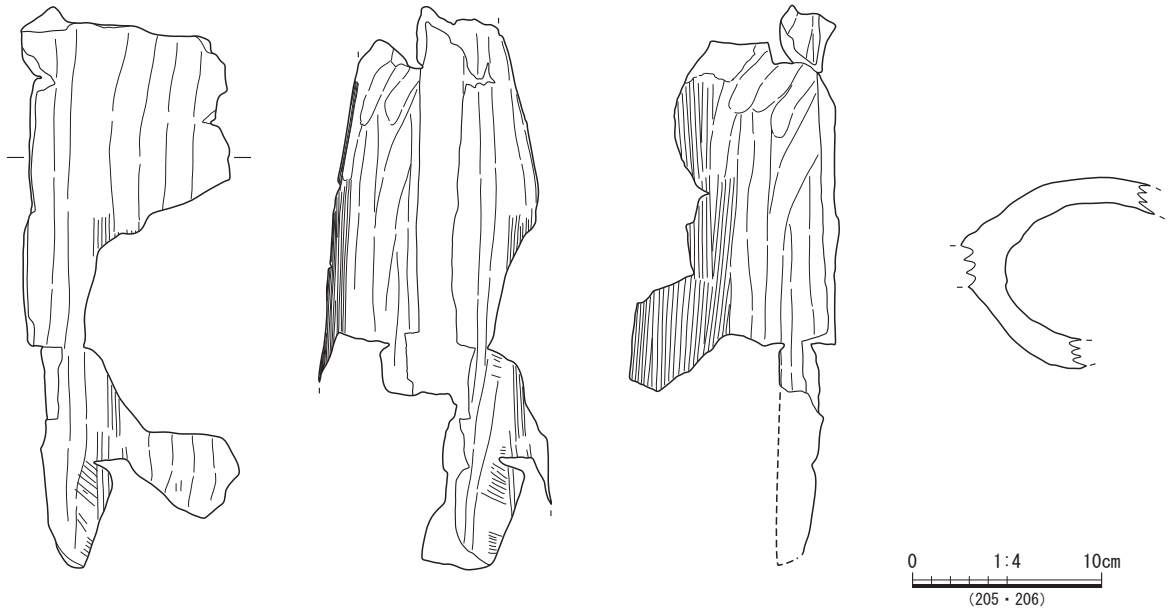
第69図　７号墳　出土遺物実測図（６）



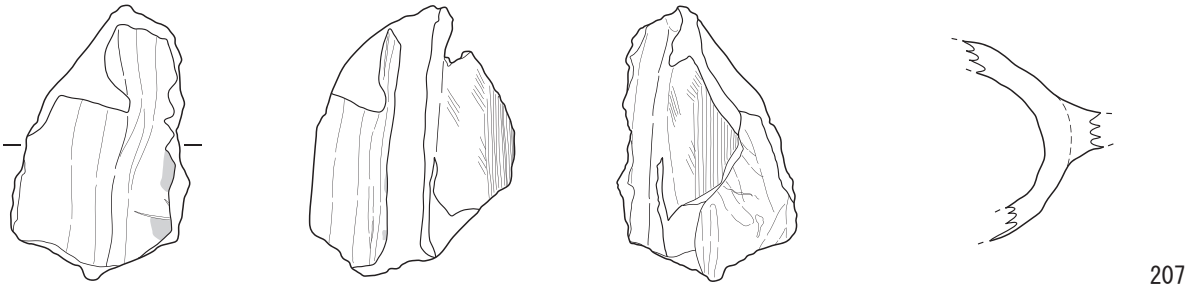


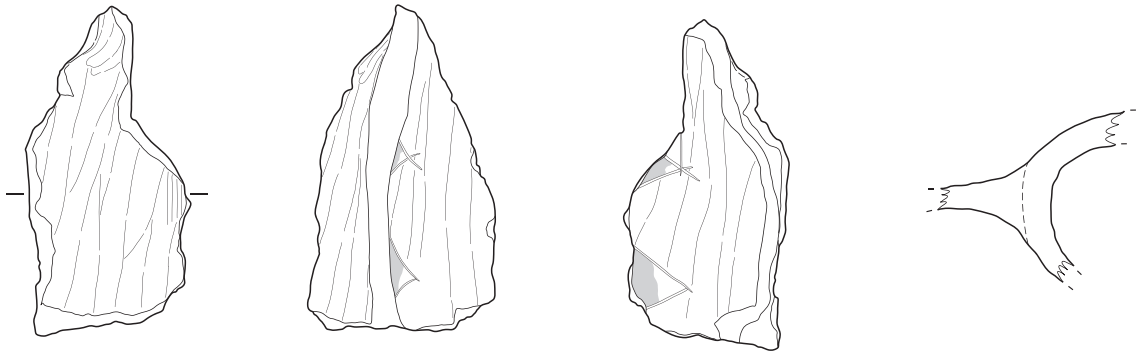
第70図　７号墳　出土遺物実測図（７）

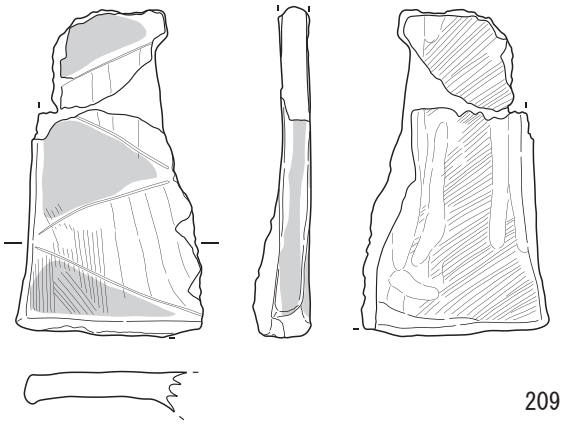


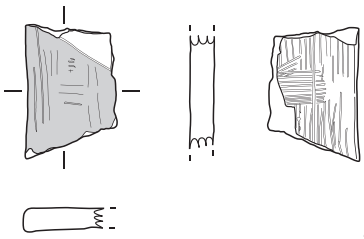


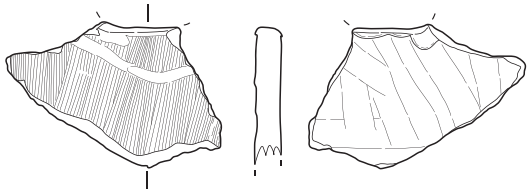
第71図　７号墳　出土遺物実測図（８）

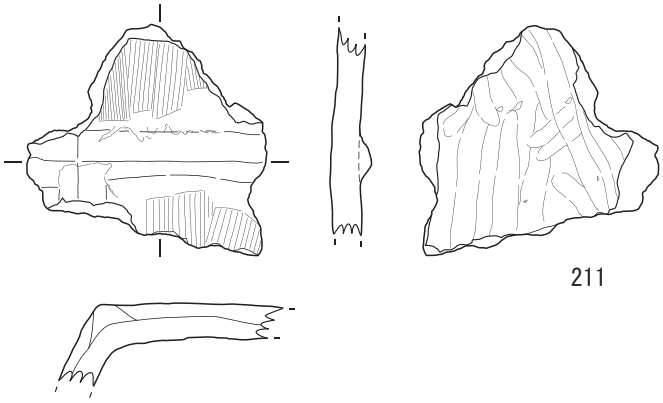

207

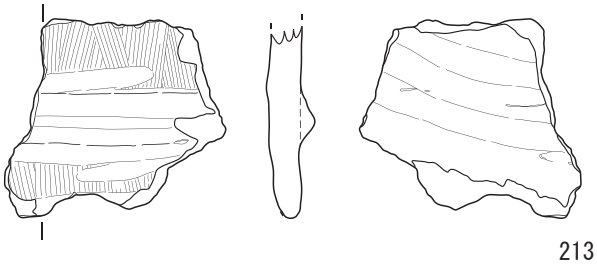

208

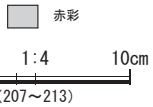

209


210


212


211


213



第72図　７号墳　出土遺物実測図（９）

第13表　７号墳　出土遺物観察表（１）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第64図 PL.75	161	弥生土器 高坏	14.8	12.0	11.5	外：坏・脚部ともに丁寧に磨かれ赤彩される。坏部外面に粘土紐貼り付けによる段を有する 内：坏部は丁寧なミガキと赤彩、脚部工具ナデ	①良好　②10R 5/6 ③輝石、砂	ほぼ完形	
第64図 PL.75	162	弥生土器 小型甕	—	—	(5.4)	外：頸部櫛描簾状文、体部ヘラナデ、底部に台部の剥離痕 内：ヘラナデ	①良好　②5YR 5/3 ③砂	胴部 1/4	
第64図 PL.75	163	土師器 高坏	—	—	(9.0)	外：脚部ナデ 内：脚部工具ナデ	①良好　②5YR 6/6 ③砂	脚部 1/2	
第64図 PL.75	164	土師器 高坏	—	—	(8.1)	外：脚部ナデ 内：ケズリ	①良好　②7.5YR 6/6 ③砂	脚部 1/2	
第64図 PL.75	165	土師器 甕	18.4	8.0	28.9	口縁はほぼ直立し、胴部中位に最大径をもつ 外：口縁は縦位ヘラミガキ、頸部以下は斜位ヘラミガキ 内：口縁は横位ヘラミガキ。頸部以下はヘラナデ	①良好　②2.5YR 6/6 ③石英、輝石、小礫	ほぼ完形	
第64図 PL.75	166	土師器 甕	—	—	(36.2)	外：ヘラケズリ 内：ヘラナデ	①酸化炎　②10YR 6/3 ③石英、長石、赤色粒子	胴部 1/3	
第65図 PL.75	167	須恵器 坏蓋	【16.5】	【6.5】	(3.9)	外：天井部ケズリ、摘みの痕跡あり 内：ナデ	①良好　②2.5Y 7/1 ③砂	1/8	
第65図 PL.75	168	須恵器 坏蓋	【14.0】	—	(3.8)	器厚が厚く、口縁は強く内傾する	①良好　②2.5Y 7/1 ③小礫	1/3	
第65図 PL.75	169	須恵器 甕	19.0	—	(29.5)	外：やや外反する口縁はナデ、頸部以下は縄目タタキ。焼成後に底部が打ち欠かれたか 内：口縁ナデ、同心円状当て具痕	①良好　②2.5Y 8/1 ③胎土は緻密。小礫	4/5	
第65図 PL.75	170	須恵器 甕	19.0	—	(38.0)	外：口唇下に沈線、口縁に２単位の櫛描波状文。頸部以下は平行タタキ後に胴部中位まで櫛歯状工具による横位のカキメを施す。底部付近はタタキが不明瞭になる 内：口縁ナデ。胴部同心円状当て具痕	①良好　②7.5Y 8/1 ③胎土は緻密。小礫	1/2	
第66図 PL.76	171	須恵器 大甕	【31.2】	最大径 63.5	63.0	外：口唇部に波状文１単位および沈線が巡る。口縁は沈線により３段に区画され、上２段に櫛歯状工具による波状文がそれぞれ施文されるが、下段は無文である。下段途中に粘土の盛り上がりが看取されるが、４段区画を意図したとも考えられる。頸部には補強帯が巡る。胴部上半はナデが観察されるが、下半では並行タタキが施される 内：ナデ、同心円状当て具痕	①概ね良好 ②5Y 8/1 ③砂、小礫	4/5	

図版	番号	器種 部位	法量(cm)		口唇 形態	突帯 断面形状	透孔 形状	成形・整形技法等の特徴	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第66図 PL.76	172	埴輪 円筒	口径	【26.0】	端部中央 やや窪む	三角形	円形か	外：器面をタテハケ調整後、口縁はヨコナデ。小振りな突帯を付け推定円形の透孔をもつ 内：口縁付近にヨコハケ後、少し間隔を空けたタテのユビナデを施す	①良好 ②2.5YR 5/6 ③輝石、石英、砂礫	口縁部 一部	
			高さ	(15.0)							
			底径	—							
第66図 PL.76	173	埴輪 円筒	口径	—	端部中央 やや窪む	三角形	—	外：タテハケ。口縁ヨコナデ 内：口縁ヨコハケ後、一定間隔でユビで縦位にナデ消す	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、長石、砂	口縁部 破片	
			高さ	(10.6)							
			底径	—							
第66図 PL.76	174	埴輪 円筒	口径	—	—	—	—	外：タテハケ 内：ナナメハケ後、少し間隔の空いた縦のユビナデ。線刻あり	①良好 ②2.5YR 6/6 ③砂礫	破片	
			高さ	—							
			底径	—							
第66図 PL.76	175	埴輪 円筒	口径	—	—	—	—	外：タテハケ 内：ナデ。線刻「×」	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、砂礫	破片	
			高さ	—							
			底径	—							
第66図 PL.76	176	埴輪 円筒	口径	—	—	—	—	外：タテハケ 内：ナデ。線刻「×」	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、石英、砂礫	破片	
			高さ	—							
			底径	—							
第67図 PL.77	177	埴輪 円筒	口径	—	—	三角形	円形か	外：タテハケ 内：ユビナデ	①良好 ②2.5YR 5/6 ③輝石、砂、小礫	胴～底部	
			高さ	(22.4)							
			底径	14.5							
第67図 PL.77	178	埴輪 円筒	口径	—	—	三角形	円形か	外：タテハケ、底面端部に圧痕 内：ユビナデ	①良好 ②2.5YR 5/6 ③砂、小礫	胴～底部	
			高さ	(19.8)							
			底径	14.5							
第67図 PL.77	179	埴輪 円筒	口径	—	—	三角形	—	外：タテハケ、底面端部に棒状圧痕が多数 内：ユビナデ	①良好 ②2.5YR 4/6 ③長石、砂	胴～底部	
			高さ	(18.7)							
			底径	【12.8】							
第67図 PL.77	180	埴輪 円筒	口径	—	—	三角形	—	外：タテハケ 内：ユビナデ	①良好 ②2.5YR 5/6 ③長石、砂	胴～底部	
			高さ	(17.1)							
			底径	【12.5】							
第67図 PL.77	181	埴輪 円筒	口径	—	—	—	—	外：タテハケ。底面端部に棒状圧痕 内：タテのユビナデ、底部付近はヨコナデ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、砂礫	底部 一部	
			高さ	(12.5)							
			底径	【14.0】							
第67図 PL.77	182	埴輪 円筒	口径	—	—	—	—	外：タテハケ 内：タテのユビナデ、底部付近はヨコナデ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、石英、砂	底部 破片	
			高さ	(12.0)							
			底径	【13.9】							
第67図 PL.77	183	埴輪 円筒	口径	—	—	—	—	外：タテハケ 内：ユビナデ	①良好 ②2.5YR 4/6 ③長石、砂	底部 破片	
			高さ	(10.0)							
			底径	【12.8】							

第14表　７号墳　出土遺物観察表（２）

図版	番号	器種 部位	法量(cm)		成形・整形技法等の特徴（器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第68図 PL.78	184	埴輪 馬	幅	(15.6)	馬の頭部上半分。目は外縁が盛り上がり、端部はナデ。貼り付け粘土紐による面繋があり、額革正面に飾り金具、側面に辻金具がそれぞれ表現される。飾り金具は粘土紐の上に貼り付けた円盤を中心に、四方に矩形粘土板を貼り、各粘度板には鋲の表現と考えられる球状の粘土粒をそれぞれ複数個貼り付ける。辻金具は革紐表現の粘土帯上に交差する箇所に粘土円盤を貼り付ける。辻金具から耳の後方へ項革が表現される。頭頂部に円筒状突起の基部が残存し、突起の根元とタテガミが接する。器面調整は粘土紐等の貼り付け前にハケ、内面はナデ。	①良好 ②2.5YR 5/8 ③小礫	頭部 1/2	
			高さ	(15.4)				
			奥行	(26.3)				
第68図 PL.78	185	埴輪 馬 障泥	幅	(23.1)	馬胴部に粘土板を貼り付けて障泥を表現する。鞍橋や鐙の一部を表す粘土貼り付けがある。器面内外をナデ。赤彩はない。	①良好 ②5YR 6/8 ③小礫	破片	
			高さ	(17.3)				
			厚み	2.2				
第68図 PL.78	186	埴輪 馬	幅	(13.7)	馬の胴部の一部。粘土紐により尻繋が表現される。 外：ナデ後、粘土紐貼り付け。赤彩はない 内：ナデ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③白色粒子、小礫	破片	
			高さ	(11.8)				
			奥行	—				
第68図 PL.78	187	埴輪 馬 鏡板	幅	(3.7)	f字形鏡板の先端部。表面に鋲を表したと考えられる円形粘土の貼り付け３点がある。表裏面ナデ。赤彩はない。	①良好 ②2.5YR 5/6 ③白色粒子、砂	破片	
			高さ	(2.6)				
			厚み	0.9				
第68図 PL.78	188	埴輪 馬 鏡板	幅	(3.8)	f字形鏡板の中央部。表面に鋲を表したと考えられる円形粘土の貼り付け３点および１点の剥離痕がある。ナデ。赤彩はない。背面は半分ほどに剥離痕がある。馬頭部側面との接着部分であろう。	①良好 ②2.5YR 5/6 ③白色粒子	破片	
			高さ	(3.5)				
			厚み	1.2				
第69図 PL.78	189	埴輪 馬	幅	(10.2)	外：ハケ後、粘土紐貼り付けで手綱を表現する。赤彩はない。 内：ナデ	①概ね良好 ②2.5YR 5/6 ③石英、白色粒子	破片	
			高さ	(9.6)				
			厚み	—				
第69図 PL.78	190	埴輪 形象	径	【10.4】	径が小さい円筒状の埴輪。動物埴輪の脚部と推測。 外：タテハケ。一部ユビナデ 内：ナデ	①概ね良好 ②5YR 6/8 ③白色粒子、小礫	破片	
			高さ	(7.1)				
			厚み	1.4				
第69図 PL.78	191	埴輪 動物脚部	幅	9.1	器面調整は外面ハケ、内面工具ナデ。下端部より逆U字状の切れ込みがあり、蹄を表現したものと考えられる。	①良好 ②5YR 5/4 ③白色粒子、小礫	破片	
			高さ	(14.6)				
			奥行	9.4				
第69図 PL.78	192	埴輪 馬	幅	(17.8)	馬の頭部前半分。断面楕円状の粘土円筒に粘土板を貼り付け顎骨を表現する。口端部はすぼまらずに開放、口側面に貼り付けた円環の粘土紐で鏡板を表現。口端部と鏡板の間は鋭利な工具による細い切れ込み。鏡板から２条の貼り付け粘土紐。上が面繋、下が手綱であろう。鼻孔は外面からの刺突。目は外縁が盛り上がり、端部面ナデ。下顎に大きく楕円形の孔が穿たれる。顔面はハケ調整、その他はナデ。全体的にやや粗雑。	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、小礫	頭部 1/2	
			高さ	(17.4)				
			奥行	(26.2)				
第70図 PL.78	193	埴輪 馬	幅	(10.2)	馬の頭頂部から頭部上半。右耳とタテガミが残存し、頭絡の項革を表現した粘土紐が一部看取される。外面はハケが部分的に見られるものの、ユビナデが顕著。内面は粗くナデつける	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、石英、小礫	頭部の一部	
			高さ	(10.9)				
			奥行	(19.0)				
第70図 PL.78	194	埴輪 形象	幅	(13.5)	動物の胴～脚部破片と推定される。内外面ナデ。	①概ね良好 ②5YR 6/6 ③白色粒子、砂(多)	破片	
			高さ	(10.3)				
			厚み	—				
第70図 PL.78	195	埴輪 馬鈴	幅	3.7	中実。鈴口を刻線で表現。器面ナデ	①良好 ②5YR 6/6 ③白色粒子	ほぼ 完形	
			高さ	4.1				
			厚み	3.7				
第70図 PL.78	196	埴輪 馬鈴	幅	3.4	中実。鈴口を刻線で表現。器面ナデ	①良好 ②5YR 6/8 ③輝石、白色粒子	ほぼ 完形	
			高さ	3.6				
			厚み	3.3				
第70図 PL.78	197	埴輪 馬 障泥	幅	(10.8)	上部は馬胴部に接着する部位であり、下部は胴部から離れる板状の部位である。表面には輪鐙を表現した粘土紐の貼り付けがあり、全体的に赤彩が施される。背面はユビナデ。	①概ね良好 ②5YR 6/6 ③礫、石英	破片	
			高さ	(10.1)				
			厚み	1.1				
第70図 PL.78	198	埴輪 馬 障泥	幅	(5.9)	表面はナデ後赤彩が施される。直接接合しないが197と同一個体と考えられる。	①概ね良好 ②5YR 6/6 ③礫、石英	破片	
			高さ	(6.2)				
			厚み	1.1				
第70図 PL.78	199	埴輪 人物	幅	(11.1)	人物埴輪の頭頂部破片と推定される。頭頂部の剥離箇所には頭髪あるいは被り物等の表現が想定される。器面にはハケメがある面とユビナデされる面とがある。内面はユビナデ、頭頂部はしぼりで閉じる	①良好 ②5YR 6/8 ③輝石、小礫	頭部の一部	
			高さ	(8.5)				
			奥行	(11.5)				
第70図 PL.78	200	埴輪 人物	幅	(10.5)	人物埴輪の頭部下半部。鼻は欠落するが鼻梁がやや盛り上がり、鋭利な工具で切り抜いた両目の一部および口が観察される。顔面部分にあたる器面前面は指ナデ、側面から背面にかけてはタテハケがある。左肩から正面にかけて、密な間隔で円形の粘土粒を貼り付けて頸飾りを表現している。また、貼り付け円形粘土粒の上端に粘土紐が張り付けられていたことが剥離痕から推測される。顕著な赤彩はない。内面はナデ	①概ね良好 ②2.5YR 5/6 ③輝石、小礫	頭部の 一部	
			高さ	(13.9)				
			奥行	(10.7)				
第70図 PL.78	201	埴輪 人物	幅	(3.5)	人物埴輪の碗部。器面はナデ	①概ね良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、小礫	碗部 破片	
			高さ	(7.5)				
			奥行	(5.0)				
第70図 PL.78	202	埴輪 人物	長さ	(3.9)	器面はやや粗雑なナデ。赤彩はない。	①やや不良 ②7.5YR 6/4 ③輝石、白色粒子	破片	
			幅	3.0				
			厚み	—				
第70図 PL.78	203	埴輪 人物	長さ	(3.8)	先端は欠損するが親指を粘土ひねり出しで造形。残る指も先端は欠失するが、線刻により四指を表現する。親指内側の手首に赤彩の痕跡がある。	①やや不良 ②7.5YR 6/6 ③白色粒子，砂(多)	破片	
			幅	3.0				
			厚み	1.7				
第70図 PL.78	204	埴輪 人物	長さ	(4.8)	工具ナデ、一部赤彩がある。	①やや不良 ②7.5YR 7/6 ③輝石、白色粒子	破片	
			幅	2.2				
			厚み	1.7				

第15表　７号墳　出土遺物観察表（３）

図版	番号	器種 部位	法量(cm)		成形・整形技法等の特徴（器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第71図 PL.79	205	埴輪 盾	幅	(22.7)	基部円筒の側面に粘土板を貼り付けて盾部を作る。盾部前面はハケやナデによる調整後、鋸歯文を線刻し、鋸歯内を交互に赤彩する。背面はハケによる調整。基部円筒部はハケ調整後突帯貼り付けや透孔を穿孔する	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、砂礫	1/3	
			高さ	(39.2)				
			径	14.4				
第71図 PL.79	206	埴輪 盾	幅	(11.0)	基部下端は断面楕円形だが、上部に行くにつれ幅が窄まる。基部側面に盾部を貼り付けるがすべて欠失する。基部正面はハケも看取されるがナデが主であり、背面はハケ調整となる。内面はユビナデである。	①概ね良好 ②5YR 7/8 ③輝石、砂礫	一部	
			高さ	(29.7)				
			奥行	(10.0)				
第72図 PL.79	207	埴輪 盾	幅	(9.4)	断面がやや潰れた楕円形状の基部円筒の側面に粘土板を貼り付けて盾部をつける。盾部前面には刻線の一部と赤彩が認められる。基部前面はナデ、背面はハケ調整である。基部内面は一部でハケがあるが、ユビナデが主である。	①良好 ②2.5YR 6/8 ③輝石、石英、砂礫	一部	
			高さ	(14.6)				
			奥行	(10.7)				
第72図 PL.79	208	埴輪 盾	幅	(9.4)	基部円筒の側面に粘土板を貼り付けて盾部を作る。盾部前面はナデ調整後、鋸歯文を線刻し、鋸歯内を赤彩する。背面はハケおよびユビナデ調整。基部円筒の内面は粗いナデ。粘土紐の積み上げ痕が観察される。資料上方に基部円筒部の上端が一部残存する	①概ね良好 ②5YR 4/6 ③輝石、小礫	盾部 破片	
			高さ	(14.6)				
			奥行	(10.7)				
第72図 PL.80	209	埴輪 盾	幅	(9.9)	盾形埴輪の盾部。盾部前面はハケやナデによる調整後、鋸歯文を線刻し、鋸歯内を交互に赤彩する。外端部にも赤彩。背面は斜位のハケによる調整	①やや不良 ②5YR 6/6 ③輝石、砂礫	盾部 破片	
			高さ	(17.3)				
			厚み	1.6				
第72図 PL.80	210	埴輪 盾	幅	(4.7)	表面は鋸歯文などを表した線刻がある。鋸歯文区画内および盾部端部に赤彩が施される。 背面は縦横のハケメがある。赤彩はない。	①良好 ②2.5YR 5/6 ③白色粒子	破片	
			高さ	(7.1)				
			厚み	1.3				
第72図 PL.80	211	埴輪 形象	幅	(12.7)	横位の突帯に直交して、器面の鈍角な屈曲に沿って縦位に突帯が施される、外面ハケ調整、内面ナデ調整。赤彩はない。家形か。	①良好 ②5YR 6/6 ③小礫	破片	
			高さ	(12.2)				
			奥行	(4.4)				
第72図 PL.80	212	埴輪 形象	幅	(11.4)	湾曲しない直線的な破片。外面タテハケ、内面ユビナデで調整。透孔状の切り込みがあるが、形状は不明。家形か。	①良好 ②7.5YR 7/4 ③輝石、長石、砂	破片	
			高さ	(7.6)				
			厚さ	1.4				
第72図 PL.80	213	埴輪 形象	幅	(11.6)	湾曲しない直線的な破片。外面はタテハケ調整後、断面三角形の突帯を貼り付け。一部端部が残存する。内面はヨコナデ。家形か。	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、石英、砂	破片	
			高さ	(10.4)				
			厚さ	1.7				

【８号墳】（596E-SZ08、718-SZ08）

位置　東区北東に位置する。北西には７号墳が近接するが、周溝は重複しない。調査工程上、本墳の調査は、南西と北東に二分割して実施した。各々の調査区で検出した遺構の残存状況に差があったため、本来連続性のある周溝や墳丘形状の一部が不整形に合成することになってしまった。

墳形・規模　遺構確認面の高さで計測すると、墳丘径16.5mの円墳となる。

周溝　周溝は墳丘を全周する。北側の一部で幅を減じ、やや浅くなる箇所がある。周溝は南東～東側でやや整わないが、概ね幅3.5～4.0mであり、深さは遺構確認面からおよそ0.5～0.6mである。周溝底部の標高はおおよそ147.7m前後となる。

埋土は暗褐色や黒褐色土を基調とする。埋土上層にてAs-Bの混入が見られるため、周溝はAs-B降下前には埋没が進行していたことが推察される。

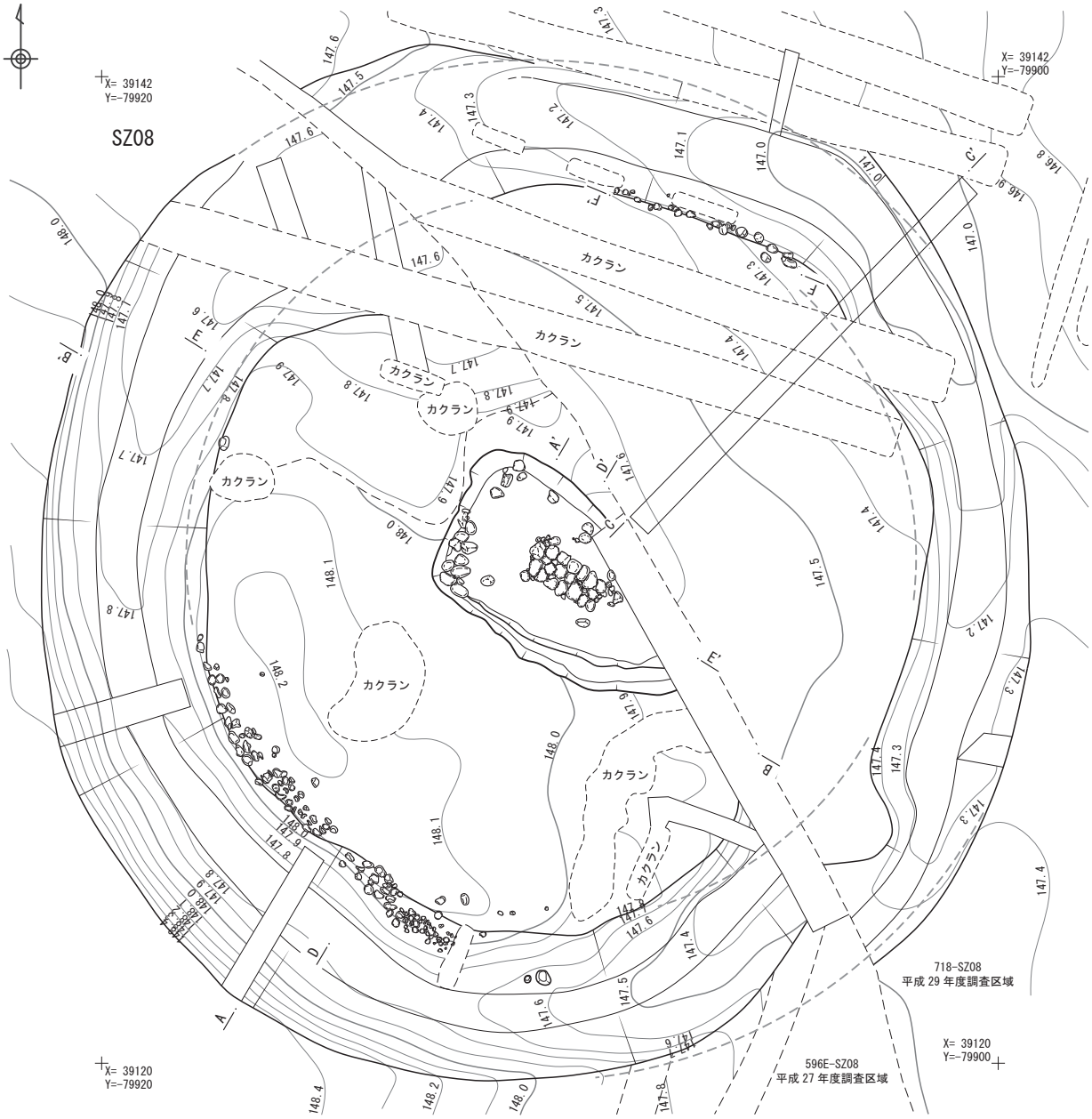
墳丘　１段目は地山削り出しによる。盛土と想定できる土層は確認できないが、埋葬主体部の様相からも２段以上の築成が想定される。

外表施設　墳丘の北東および南西の一部に比較的小振りな礫が集中する様相を検出した。礫はやや雑然としているが、要所では目地が通るように設置されているため、葺石が葺かれたものと考えられる。

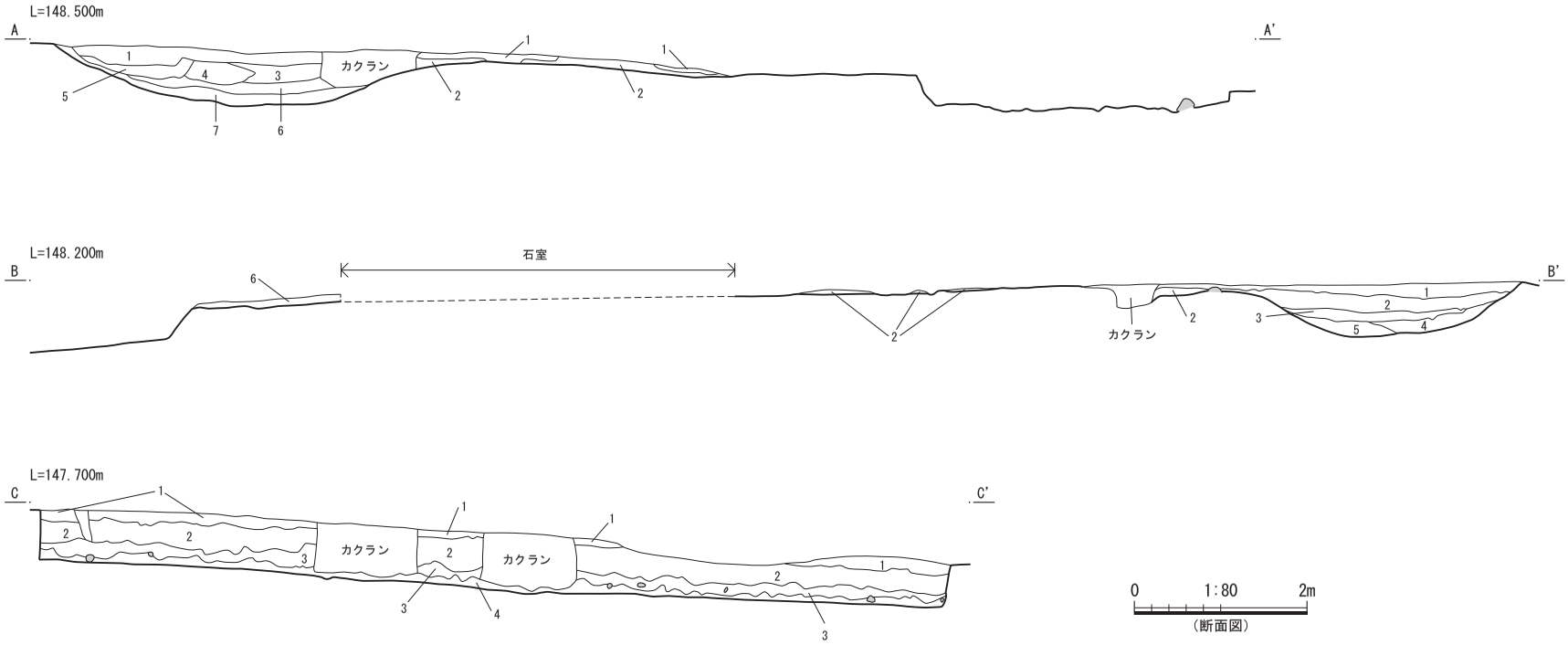
埴輪　墳丘が大きく削平されているため詳細は不明であるが、墳丘裾や周溝内から各種の埴輪が出土している。墳丘上で据え付けた痕跡等は確認できなかったが、本来は本墳に埴輪が樹立されていたものと推測される。特に出土が多かったのは石室開口部より南側の墳丘裾部であった。出土した埴輪片からは、石室開口部により近い墳丘中央の東寄りに人物埴輪２体、その西に馬形埴輪が配置されていたことが考えられる。墳丘南西では円筒埴輪と須恵器大甕片が採取されている。

埋葬主体部　横穴式石室。玄室や羨道を構成する奥壁や両側壁はすべて抜き取られており、一部の舗石が残存するのみである。舗石の様相や石の抜き取り痕などから石室主軸はＮ－119°－Ｅで、開口部を東南東に持つことが推測される。また、石室中央付近で横長の抜き取り痕があるが、これは羨道と玄室を仕切る閾石の痕跡と考えられるため、これを基準に測定すると、玄室長は約2.3m、幅約0.8～0.9mの規模が想定される。羨道については残存しておらず不明である。

玄室の想定範囲には扁平な礫が敷き詰められており、舗石が比較的良好な状態で残存していた。玄室想定範囲の中央で礫の目地が揃うため、玄室中央を境にした舗石の施工単位が推測される。



第73図　８号墳　墳丘全体図



第74図　８号墳　墳丘断面図（１）

８号墳(SPA-A')

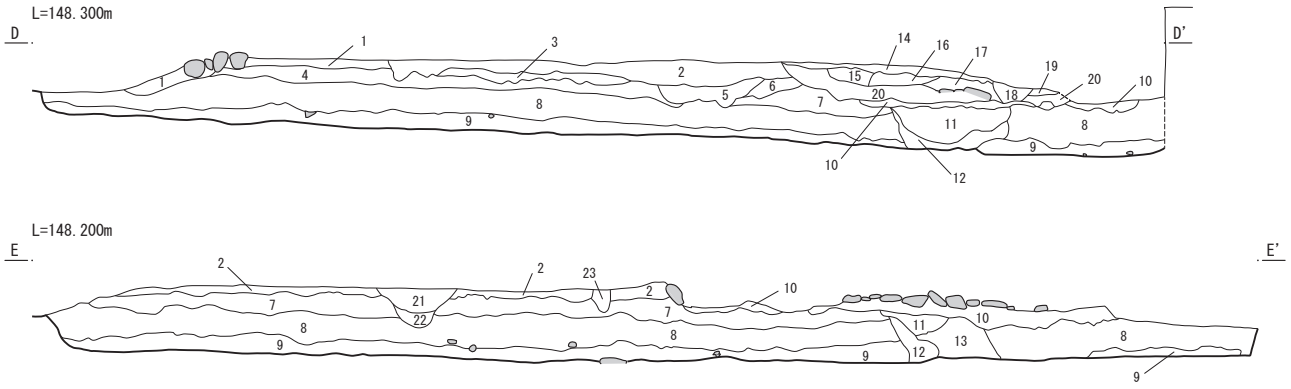
1	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	As-B混。東側の一部で一次堆積に近いと思われるAs-B層を確認。しまりやや強、粘性弱。
2	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-C混(φ1～3mm)多量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
3	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)やや多量。しまり強、粘性強。
4	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)やや多量、(φ8～10mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
5	灰黄褐色（10YR 4/2）	As-B混(密度低)。As-C(φ1～3mm)少量を含む。しまりやや強、粘性弱。
6	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-C混(φ1～3mm)多量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
7	褐色（10YR 4/4）	漸移層。白色粒子(φ1～2mm)やや少量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや強。

８号墳(SPB-B')

1	灰黄褐色（10YR 4/2）	As-B混(密度高)。しまりやや強、粘性弱。
2	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)やや多量、(φ8～10mm)少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
3	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(φ1～2mm)やや多量。橙色粒子(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
4	褐色（10YR 4/4）	白色粒子(φ1～2mm)やや少量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。漸移層。しまり強、粘性やや強。
5	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	白色粒子(φ1～2mm)やや多量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。漸移層。4層目よりも色が明るく硬い。しまり強、粘性強。
6	黒褐色（10YR 2/2）	As-B、As-C混。全体的にゆるい土。As-C(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。

８号墳(SPC-C')

1	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(僅か)。褐色土ブロック(φ5～10cm)やや多量が斑状に混入。しまり強、粘性やや弱。
2	黒褐色（10YR 3/1）	白色粒子（As-Cでない）。褐色土ブロック(φ5～10cm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
3	灰黄褐色（10YR 4/2）	漸移層。黄褐色ロームブロック(φ3～7cm)やや多量。しまり極めて強、粘性やや弱。
4	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	ローム主体。礫多く含む。しまり極めて強、粘性やや強。



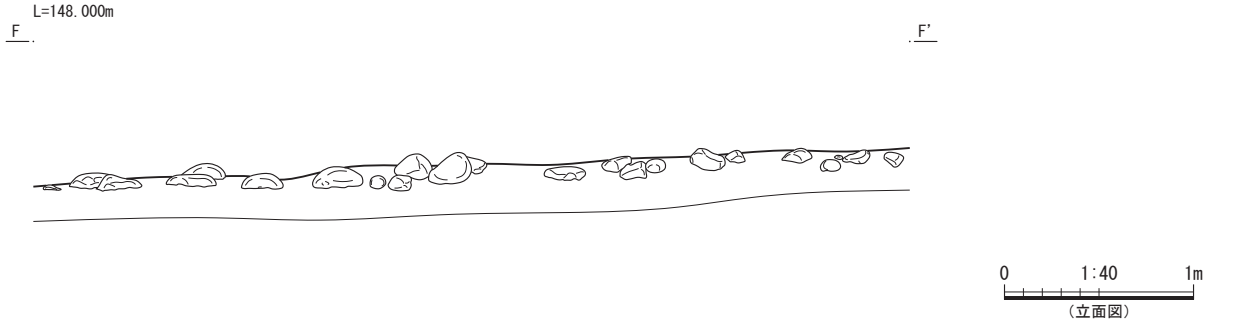
８号墳(SPD-D',SPE-E' 共通)

1	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(やや少量)。しまり強、粘性やや弱。
2	黒色（10YR 2/1）	As-C混(やや多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)微量。しまり強、粘性やや弱。
3	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(微量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)微量。しまりやや強、粘性やや弱。
4	黒褐色（10YR 2/3）	As-C混(微量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや弱。
5	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(やや多量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
6	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(やや少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm) 少量。しまりやや強、粘性やや弱。
7	黒褐色（10YR 3/2）	As-Cなし。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。軽石状白色粒子含む。しまりやや強、粘性やや強。
8	黒褐色（10YR 3/1）	As-Cなし。As-YP含む。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量、(φ2～3cm)やや少量。しまり強、粘性強。
9	灰黄褐色（10YR 4/2）	漸移層。黄褐色シルト多量に混入。しまり極めて強、粘性やや強。
10	黒色（10YR 2/1）	As-C(多量)。黄褐色シルト(φ5～7cm) 、ブロックやや多量。暗褐色ブロック含む。しまり強、粘性弱。
11	暗褐色（10YR 3/3）	黄褐色シルト主体(φ5～10cm)ブロック多量。しまり強、粘性強。倒木痕か。
12	黒色（10YR 2/1）	As-Cなし。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量、(φ3～5cm)やや多量。しまり極めて強、粘性弱。倒木痕か。
13	褐色（10YR 4/4）	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ3～5cm)多量。As-YP含む。しまりやや強、粘性強。倒木痕か。
14	褐灰色（10YR 5/1）	As-A、As-B混(密度やや高い)。しまり強、粘性弱。
15	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-A、As-B混(密度低い)。黒色土、黄褐色土が斑状に混入。しまり強、粘性弱。
16	暗褐色（10YR 3/3）	As-A、As-B混(密度やや低い)。黒色土を基調に黄褐色土が少量混入する。しまり強、粘性やや弱。
17	灰黄褐色（10YR 4/2）	多量の小礫群で構成される(礫床と思われる)。φ4～8cmの小礫が均質に混入。 混入する土はサラサラと乾燥した砂質であるが、As-Bではない。しまり強、粘性弱。
18	暗褐色（10YR 3/3）	少量の小礫が混入。側壁石の抜き取り痕と推定。抜き取った痕に礫床か裏込めの石が混入したか。 As-B混入しないが、サラサラとした黒色の砂を含む。しまり弱、粘性弱。
19	褐色（10YR 4/4）	As-B混(密度低)。小礫少量が混入。しまり弱、粘性弱。
20	掘り方	
21	黒色（10YR 2/1）	As-C混(やや多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
22	黒色（10YR 2/1）	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
23	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。

石

0　1:80　2m
（断面図）

第75図　８号墳　墳丘断面図（２）



第76図　８号墳　葺石立面図

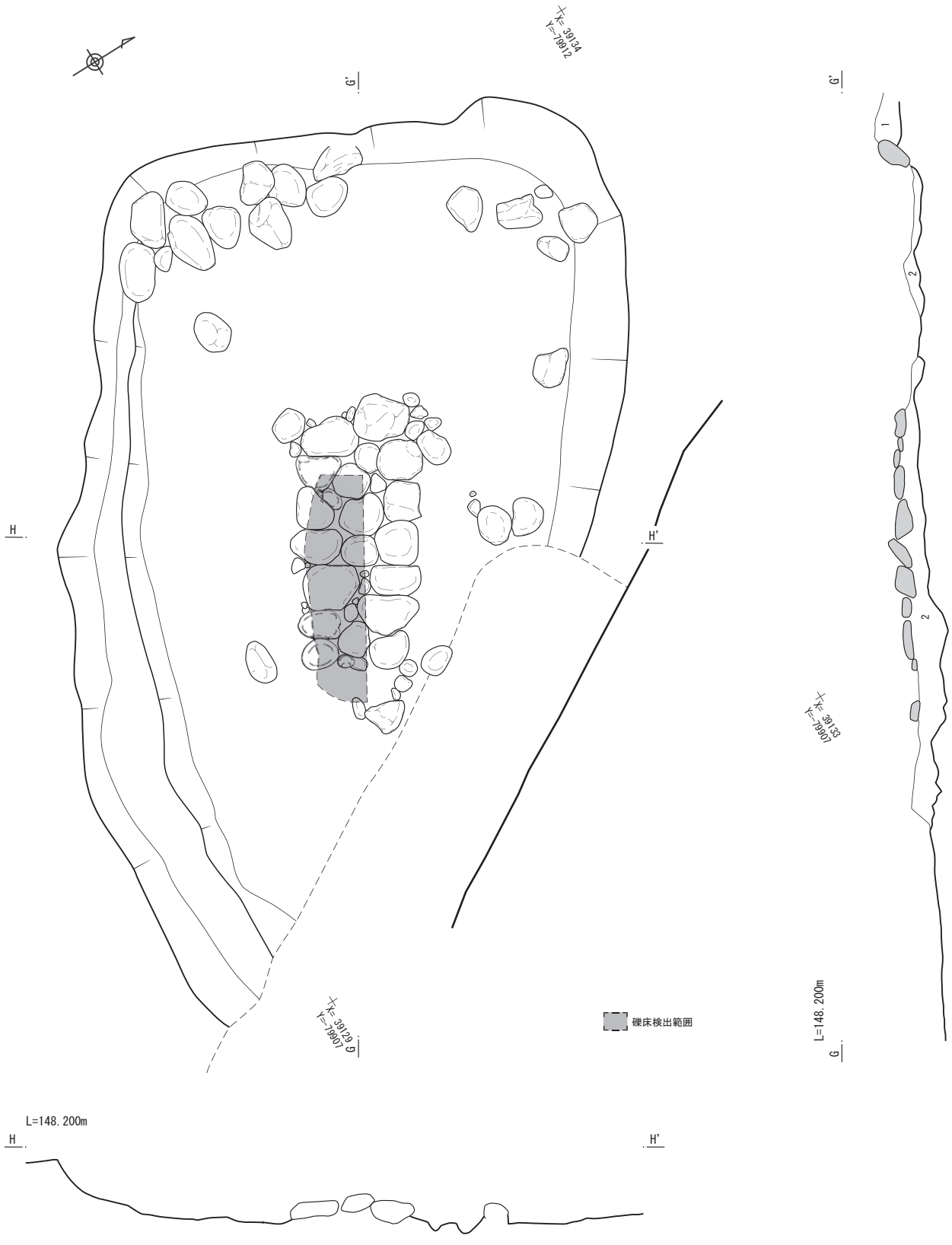
裏込め　　裏込め石そのものの残存はあまりなく、掘り方内の外縁には人頭大の礫を掘り方底面よりやや積み上げる裏込め被覆石の最下段の一部が残存しているのみである。

掘り方　　地山削り出しである墳丘１段目を掘り込んで主体部の掘り方としている。規模は検出できた範囲で長軸6.1m、短軸3.8mであり、遺構検出面から掘り方底面まではおよそ0.4mを測る。底面の標高は147.7mである。

掘り方内の形状を観察すると、羨道部および玄室部がやや下がり、羨道壁体据え付け位置や玄室部分の掘り方外縁部分がやや掘り残されて高くなる。

出土遺物　　円筒埴輪、人物埴輪２体、馬形埴輪など各種埴輪類、須恵器大甕や土師器高坏、滑石製垂飾や臼玉、鉄鏃がある。

所見　　遺構確認面で径16mの円墳であり、各種形象を含む埴輪を樹立し、葺石を葺いたものと考えられる。埋葬主体部には南東に開口する横穴式石室を持つが、壁体が除去されており袖の有無は未確認である。埴輪などの出土遺物の様相から６世紀中葉～後半と推測される。

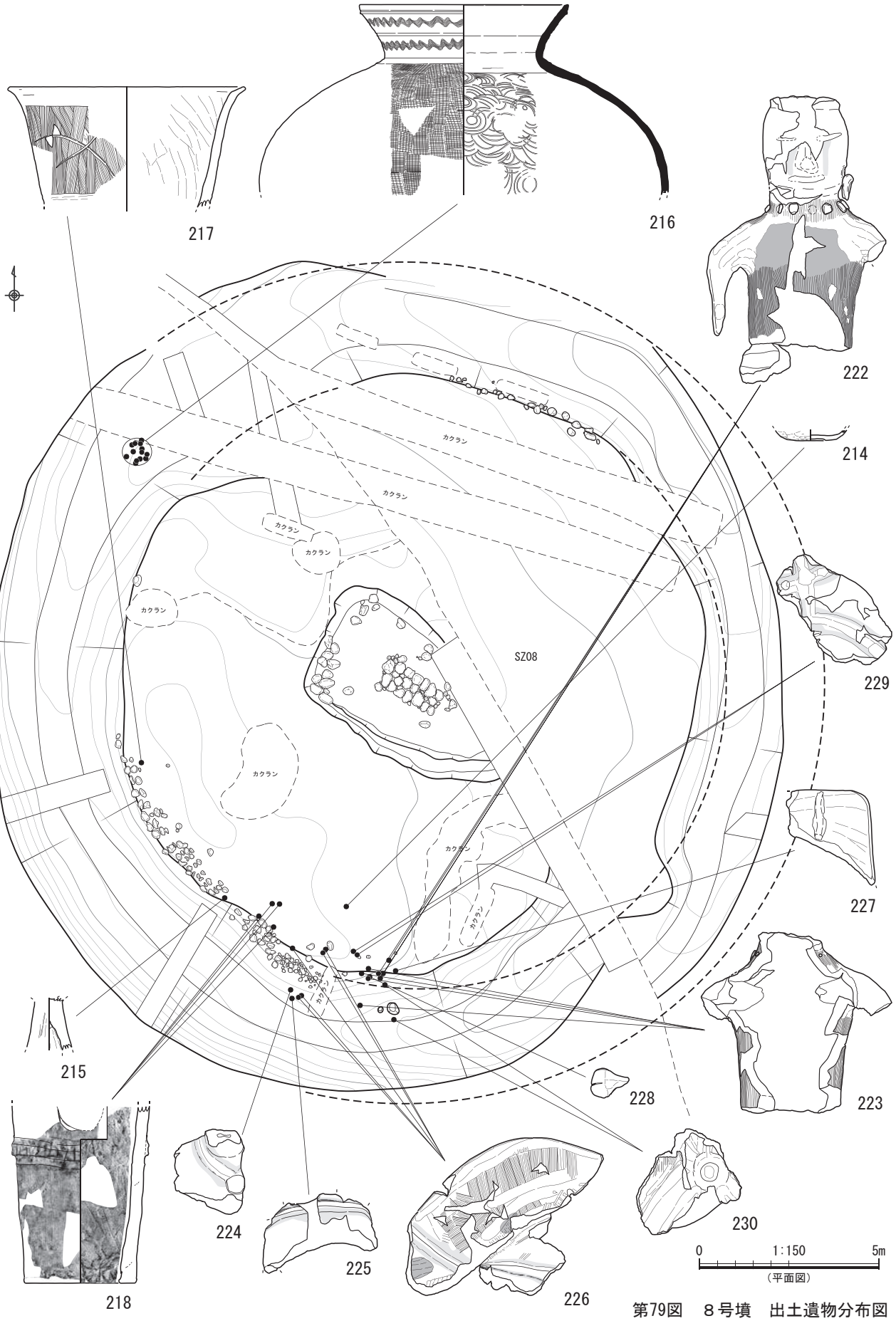


８号墳(SPG-G')
1　黒色（10YR 2/1）　As-C混(やや多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)微量。しまり強、粘性やや弱。
2　黒色（10YR 2/1）　As-C(多量)。黄褐色シルト(φ5～7cm)、ブロックやや多量。暗褐色ブロック含む。しまり強、粘性弱。

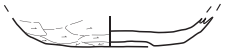
0　1:40　1m
（平面図・断面図）

第77図　８号墳　主体部平面図・断面図

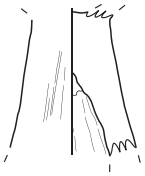
第78図　８号墳　主体部掘り方平面図・エレベーション図



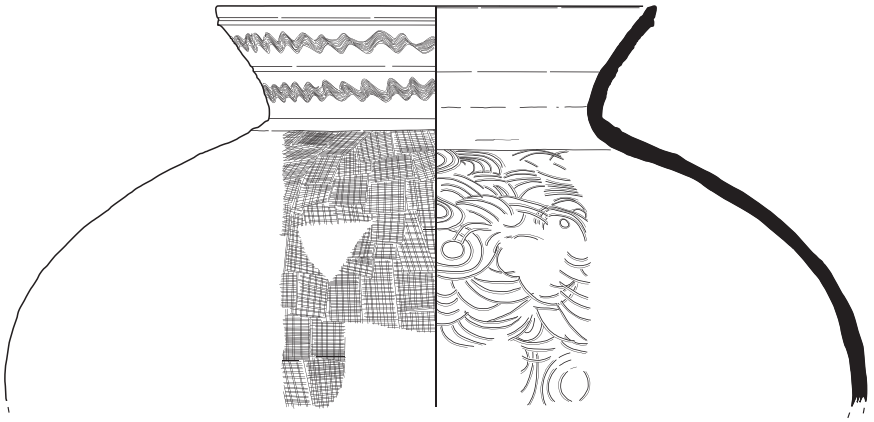
第79図　８号墳　出土遺物分布図



214

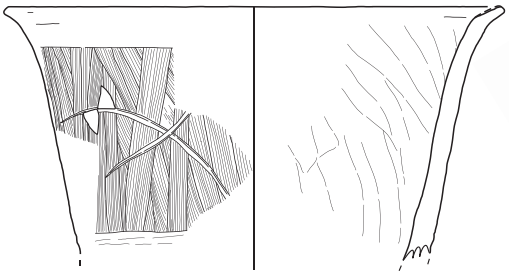


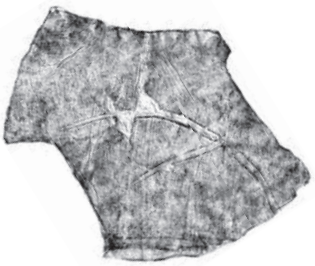
215



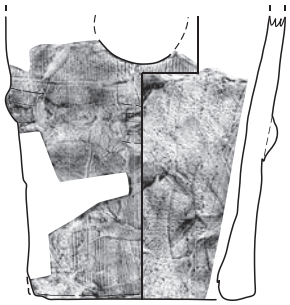
216

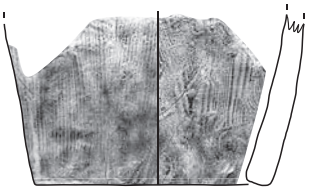
0　1:3　5cm
(214・215)





217

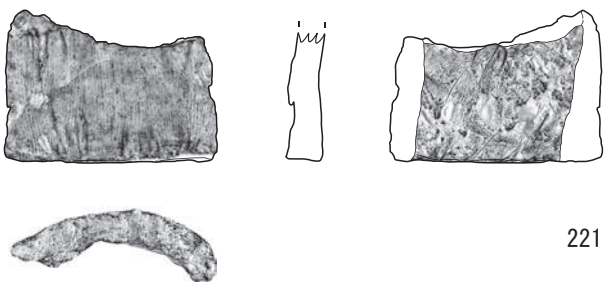




218

219

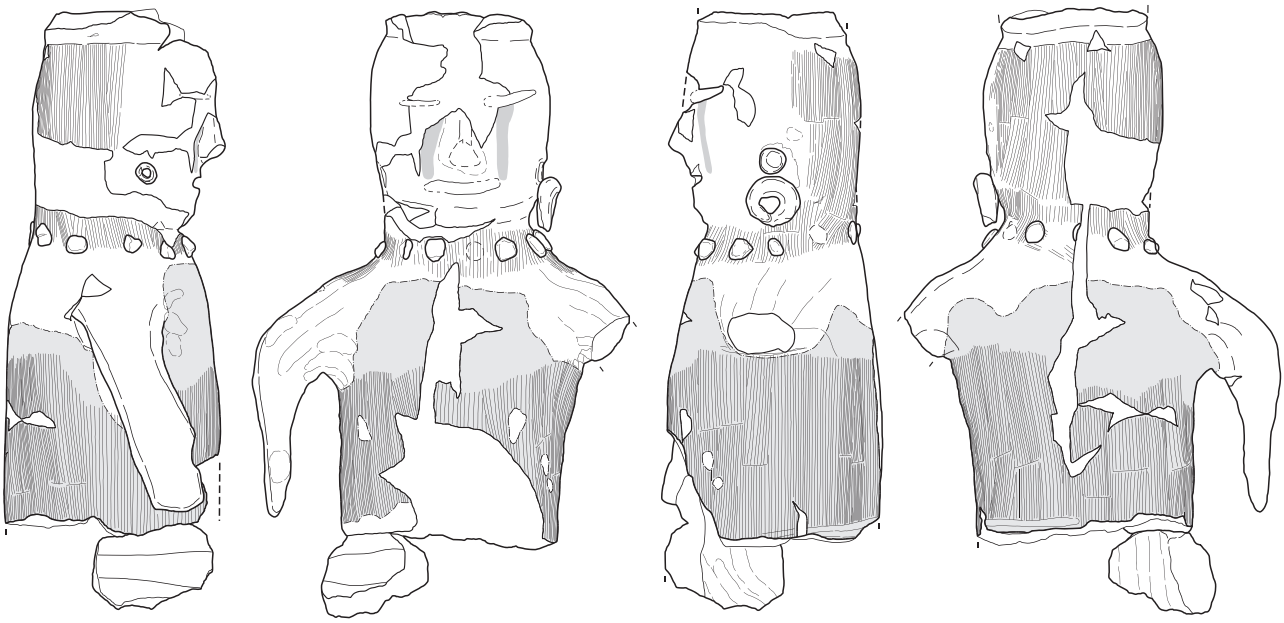
220

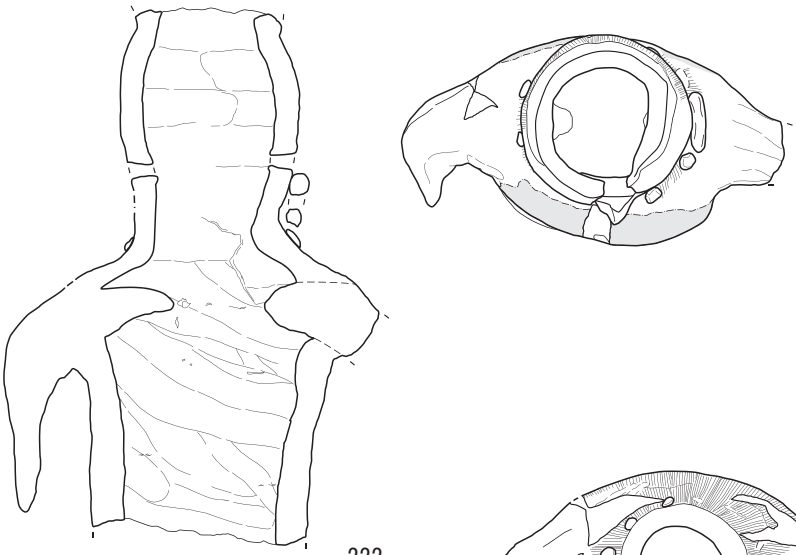


221

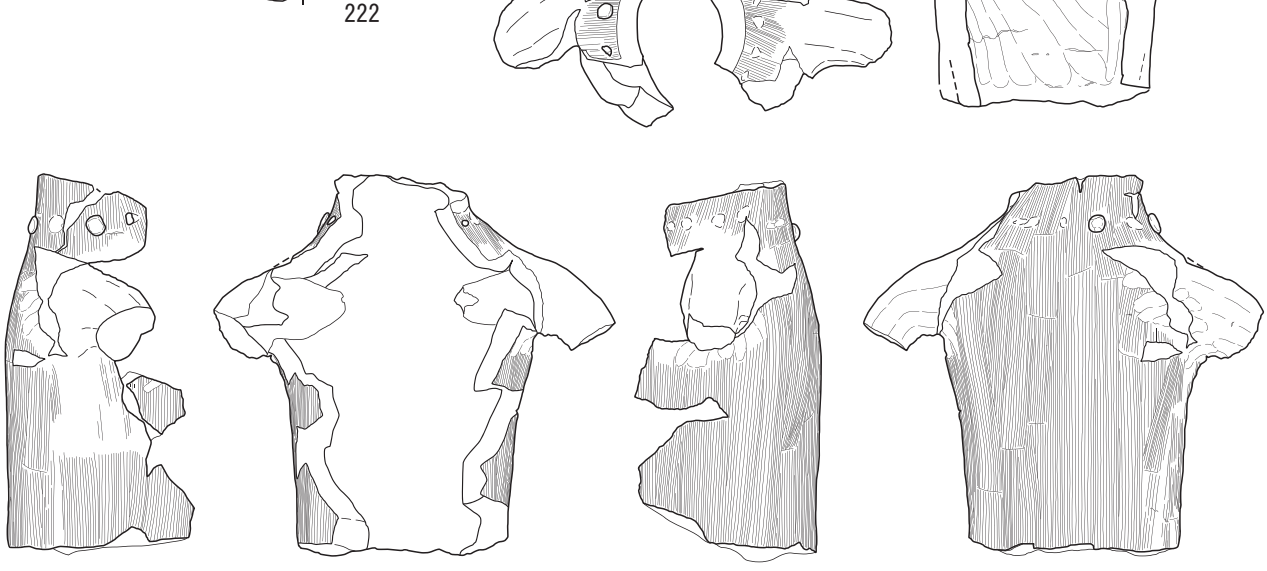
0　1:4　10cm
(216～221)

第80図　８号墳　出土遺物実測図（１）



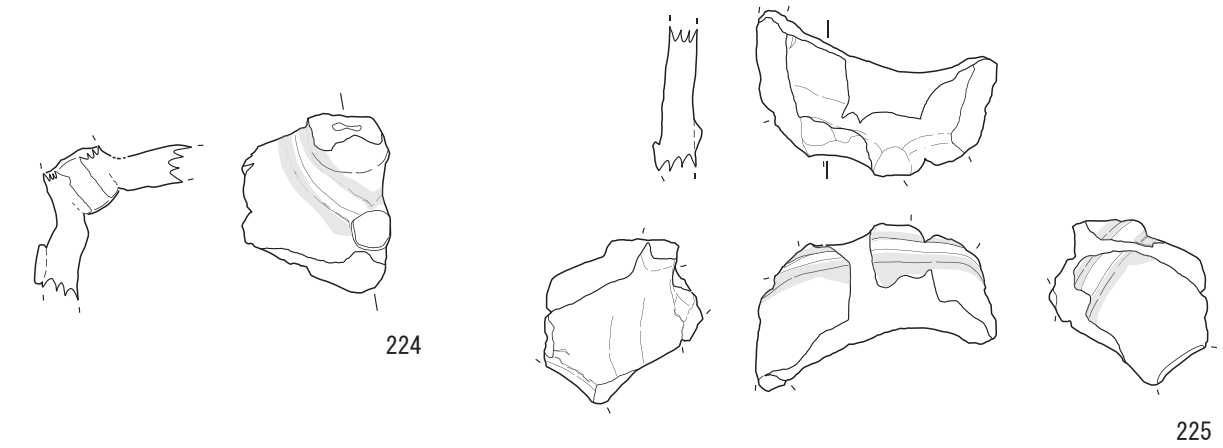


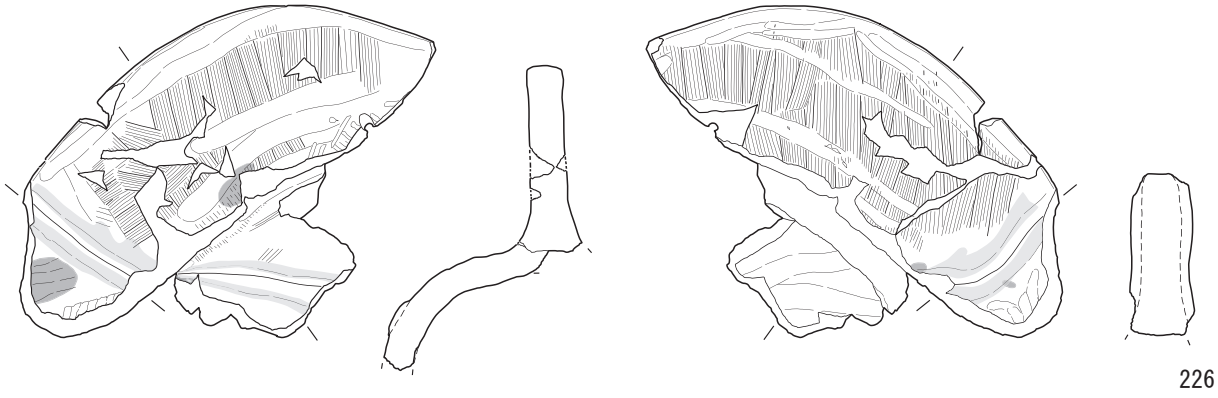
222

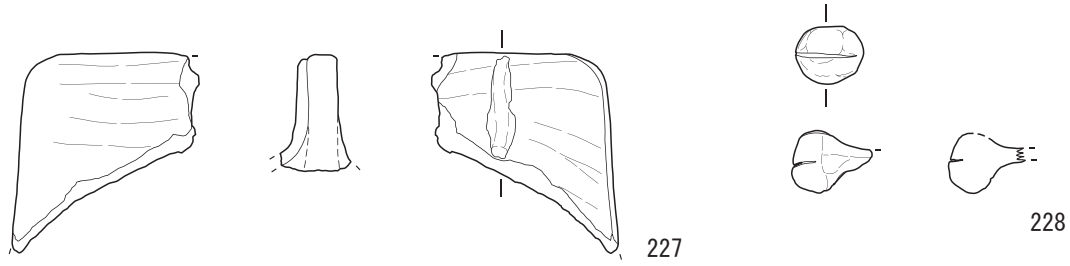


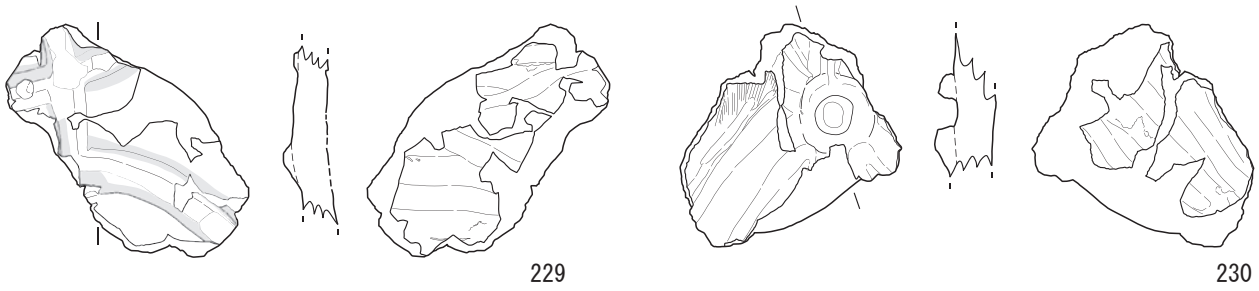
223

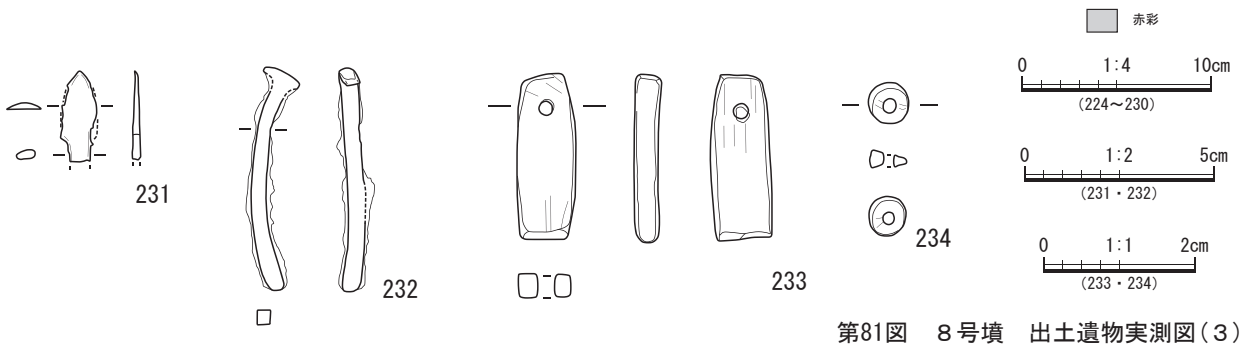
第81図　８号墳　出土遺物実測図（２）











第81図　８号墳　出土遺物実測図（３）

第16表　８号墳　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第80図 PL.80	214	土師器 壺か	—	【3.4】	(1.2)	外：：底部ヘラケズリ。底面上げ底か 内：ナデ	①良好　②7.5Y 6/4 ③輝石、砂	底部 破片	
第80図 PL.80	215	土師器 高坏	—	—	(5.6)	外：ヘラナデ 内：ナデ	①良好　②5YR 6/6 ③小礫	脚部 1/3	
第80図 PL.80	216	須恵器 甕	23.3	—	(21.2)	外：口唇下に沈線１条。口縁は中位の沈線１条で上下２段に区画し、それぞれ櫛描波状文を施文。頸部以下は格子タタキ 内：口縁ナデ、頸部以下同心円状当て具痕	①良好　②5Y 6/1 ③胎土は緻密。白色粒子	口縁～胴部 破片	

図版	番号	器種 部位	法量(cm)		口唇 形態	突帯 断面形状	透孔 形状	成形・整形技法等の特徴	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第80図 PL.80	217	埴輪 円筒	口径	【26.4】	—	—	—	外：タテハケ→口縁ヨコナデ。胴部にもヨコナデがある。ヘラ状工具による刻印あり 内：ユビナデ	①良好 ②7.5YR 6/4 ③長石、赤色粒子、砂	口縁部 破片	線刻あり
			高さ	(13.4)							
			底径	—							
第80図 PL.80	218	埴輪 円筒	口径	—	—	中央が窪む台形	円形か	外：器面はタテハケ、ややつぶれた台形状の突帯を付け、推定円形の透孔をもつ。底面端部に棒状や布目状圧痕 内：底部付近はナデ。１段目突帯より上位にハケメが施される。	①良好 ②7.5YR 7/4 ③調整、砂	底部	
			高さ	(19.8)							
			底径	12.5							
第80図 PL.80	219	埴輪 円筒	口径	—	—	丸みのある三角形	円形か	外：器面はタテハケ、断面が丸い三角の突帯を付け、推定円形の透孔をもつ。底面端部に棒状圧痕 内：工具によるタテナデ。ハケメなし	①概ね良好 ②7.5YR 7/4 ③輝石、石英、砂	底部	
			高さ	(15.0)							
			底径	12.0							
第80図 PL.80	220	埴輪 円筒	口径	—	—	—	—	外：タテハケ。底面端部に棒状圧痕 内：ユビナデ後、一部ハケ調整	①概ね良好 ②5YR 6/6 ③輝石、長石、砂礫	底部	
			高さ	(9.0)							
			底径	13.4							
第80図 PL.80	221	埴輪 円筒	口径	—	—	—	—	外：タテハケ。底面端部に土器砕片が多く混入 内：ナデ	①概ね良好 ②7.5YR 6/4 ③砂、小礫	底部 破片	
			高さ	(8.0)							
			底径	【13.8】							

図版	番号	器種 部位	法量(cm)		成形・整形技法等の特徴（器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第81図 PL.81	222	埴輪 人物	幅	(19.9)	目や口は工具により切り抜き。耳は刺突した孔で、下部に耳環を表す粘土円環が貼り付け。頸部には一定間隔で円形粘土粒が貼り付けられる。赤彩はない。碗部は前方やや下降ぎみにつける。左腕を欠失するが、残存肩部の様相から右腕と同様われる。胴部前面に灰色の付着物。頭頂部を欠失するが、平坦な欠け口から島田髷が想定される。外面はタテハケ調整、内面はナデ。胴部下には突帯がめぐる。	①概ね良好 ②7.5YR 7/6 ③砂(多量)、赤・白色粒子	上半部 1/2	
			高さ	(32.0)				
			奥行	11.4				
第81図 PL.81	223	埴輪 人物	幅	21.2	頭部、両碗部、胴部前面、腰以下を欠失する。頸部に円形粘土粒で首飾りを表現。残存肩部の様相から腕は前方やや下降ぎみに付ける。碗部以外はタテハケ調整、碗部はナデ。内面ヘラナデ。	①良好 ②7.5YR 7/4 ③輝石、赤・白色粒子	上半部 1/4	
			高さ	(19.7)				
			奥行	(9.8)				
第82図 PL.81	224	埴輪 馬	幅	(7.8)	耳の基部が残存する。辻金具と思われる円盤状の貼り付け粘土から赤彩で縁取られた粘土紐が延びる。一方は耳の基部を回るので項革、わずかに残存するもう一方は額革と考えられる。右耳付近の頭部破片である。内外面ナデ	①概ね良好 ②7.5YR 7/4 ③白色粒子、砂	頭部 破片	
			高さ	(7.7)				
			奥行	—				
第82図 PL.81	225	埴輪 馬	幅	(12.7)	左右両耳および右目の痕跡が残る。貼り付け粘土紐は赤彩で縁取られる。額革の表現だろうか。器面はナデ。部分的に灰白色の付着物あり内面ヘラナデおよび耳目の周囲はユビナデ	①概ね良好 ②7.5YR 7/4 ③白色粒子、砂、 礫(多)	頭部 破片	
			高さ	(8.8)				
			厚み	—				
第82図 PL.81	226	埴輪 馬	幅	(21.9)	タテガミから鞍の前輪に接続するところまでの破片。タテガミは端部が広がらない板状で、器面はハケが施される。頸部とタテガミ後方の両側面に手綱を表現した粘土紐が張り付けられる。粘土紐の両側は筋状に赤彩されており、手綱を浮き立たせている。	①良好 ②7.5YR 6/6 ③石英、砂、小礫	頭部 破片	
			高さ	(17.6)				
			厚み	1.8				
第82図 PL.81	227	埴輪 馬	幅	(9.9)	直立する板状粘土の下端は湾曲する。片面に貼り付いた粘土紐は赤彩はなく、尻繋の一部と想定されるため、本資料は鞍橋の内、後輪になると考えられる。破片前方部側に灰白色の付着物あり	①良好 ②7.5YR 7/4 ③白色粒子、砂、 小礫(多)	鞍部 破片	
			高さ	(10.6)				
			厚み	1.6				
第82図 PL.81	228	埴輪 馬 馬鈴	幅	3.6	中実。正面がやや扁平。鈴口は鋭利な工具で切り取られる。器面ナデ	①良好 ②7.5YR 6/4 ③輝石、白色粒子、 砂(多)	ほぼ 完形	
			高さ	3.0				
			厚み	(4.3)				
第82図 PL.81	229	埴輪 馬	幅	(12.7)	貼り付け粘土紐に赤彩が施される。頭絡表現と推定される。部分的にハケ調整が看取される	①概ね良好 ②7.5YR 7/4 ③輝石、石英、長石、 砂、小礫(多)	頭部 破片	
			高さ	(12.2)				
			厚み	—				
第82図 PL.81	230	埴輪 馬	幅	(11.7)	粘土紐貼り付けによる環状雲珠および尻繋の革紐の表現。非赤彩。器面はナデ調整だが、局所的にハケメが看取される	①概ね良好 ②7.5YR 7/4 ③白色粒子、砂、 小礫(多)	尻部 破片	
			高さ	(11.8)				
			厚み	2.0				

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	観察所見	備考
第82図 PL.81	231	鉄鏃	(2.4)	(0.9)	0.2	1.1	有茎鏃。鏃身が一部欠失するが両刃で柳葉形状	
第82図 PL.81	232	鉄釘	(5.9)	0.4	0.4	6.8	断面方形	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第82図 巻頭図版8	233	垂飾	2.2	0.8	0.3	1.3	滑石	中央が僅かに膨らむやや不整形な短冊形で、端部の一方が幅狭く、他方がやや幅広い。幅狭い端部側に小孔が穿孔される。孔径2㎜。	

図版	番号	種別 器種	法量(㎜) 直径	孔径	厚さ	重量 (g)	材質	観察所見	備考
第82図 巻頭図版8	234	臼玉	5.0	1.9	2.6	0.1	滑石	厚みが一定せず側面の形状は歪	

（２）墓

本遺跡では、古墳時代の円墳以外にも、多種の墓遺構が検出されている。その内訳は、礫槨墓１基、石槨墓１基、土坑墓２基のほか、古墳時代前期の周溝墓、弥生時代後期の礫床墓７基である。

多くの墓遺構は東区において検出しており、その分布は八幡台地北縁に近い東区東側から北東区に集中する傾向が看取される。北東区が北東に向かって下り傾斜となる地形上の特性によるものか、これらの墓遺構は斜面に対して直交した主軸をもつ場合が多い。

１号礫槨墓は、拳大から人頭大の自然礫を使用した遺構である。やや大振りな礫を槨の壁体とし、拳大程度の礫を敷き詰める構造を取る。壁体の礫は、すでに倒壊しており構築段階の状況にないものの、その検出状況からは原位置から大きく移動していない可能性が考えられる。本遺構は、古墳時代竪穴建物跡である11号竪穴建物跡が埋没した後に構築されている。

１号石槨墓は、凝灰岩質の割石を使用し、小規模な槨を形成する。東側小口の外側に自然石１石を設置することが特徴的である。

２基の土坑墓は、形状や規模が類似する。２号土坑墓より鉄鏃や耳環などの金属製品が出土している。

１号周溝墓は、古墳時代後期の円墳である７号墳の墳丘下より検出した。主体部は不明であるが、溝から古墳時代前期の土器片を出土する。

特筆すべきは弥生時代後期の礫床墓７基である。７号墳の墳丘下より検出された１号礫床墓では、残存していた礫床面において、本市初検出となる鉄釧を検出した。また、１号礫床墓直近の周辺より２体の人形土器が検出され、同遺構に伴うと推測している。３号礫床墓は８号墳の周溝底面にて検出し、残存していた礫床面より石鏃１点が出土した。隣接して構築された４・５号礫床墓は同一主軸を取ることから強い関連性が窺える。６号礫床墓は、７号墳周溝により一部を欠失するが、遺構内部より土器数点が出土している。いずれの礫床墓も盛土状の封土や区画する溝などは確認されていない。

そのほかでは、西区西側で検出した６号土坑において、弥生時代後期の甕の一部が伏せた状態で出土した。後世の影響により、横倒しの甕の上側となる片面が失われているものの、土坑内には口縁から底部まで接合する１個体分の甕破片が出土した。さらに、この甕と別個体の壺底部が出土しており、両者は組み合わせて使用された土器棺墓の可能性が考えられる。

第83図　各種墓遺構分布図

【１号礫槨墓】（596W-ST01）

位置　　西区東寄りに位置する。11号竪穴建物跡と重複し、遺構の一部を現代耕作痕により欠失する。

規模　　全体的にはやや不整形だが、長軸3.1m、短軸3.0mを測り、隅丸正方形となる。礫の検出面から礫床底部まで0.3m程で、標高は153.1mである。主軸はＮ－46°－Ｅである。

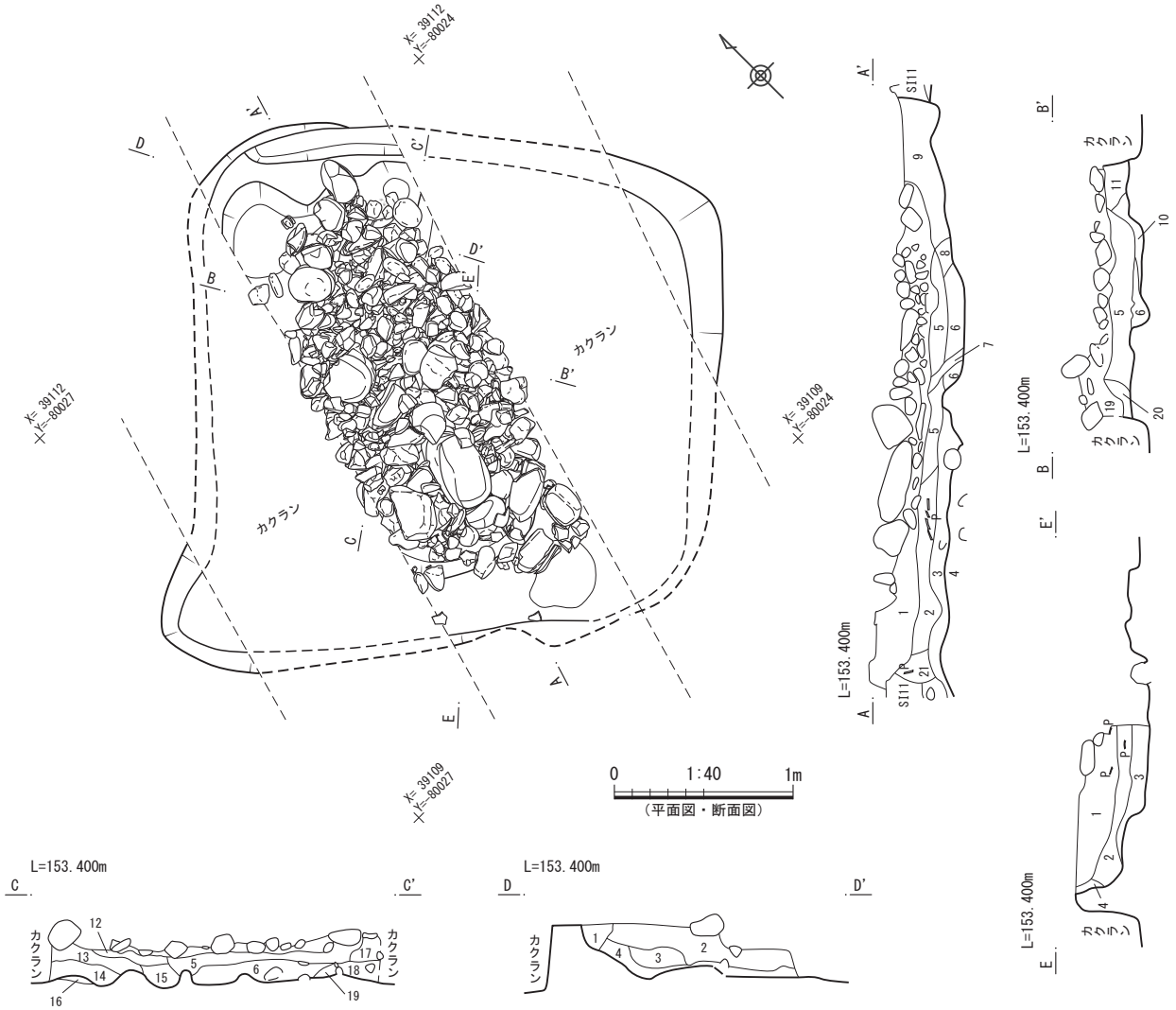
主体部　　現代耕作痕による破壊を免れた遺構の中央部を中心に多量の礫を検出した。多くが乱雑に充填された拳大の礫であるが、精査すると人頭大の礫が整列する状況が確認できた。人頭大の礫を壁体とした槨状の空間が想定される。人頭大礫の配置内部には拳大の礫多数が充填され、礫床を形成するものと推定される。土圧の影響によるものか、礫の多くが傾斜するなど原位置を保っているとは断じ難い状況ながらも、当初の位置からは大きくは移動していないものと推測される。礫槨の規模は推定の域を出ないが、一辺２m弱の方形を呈するものと考えられる。

掘り方　　本遺構は11号竪穴建物跡の覆土を掘り込んで構築されているため、掘り込みの確認が困難を極めたが、石槨より一回り大きく、やや不整形の方形状を呈する掘り方を検出した。

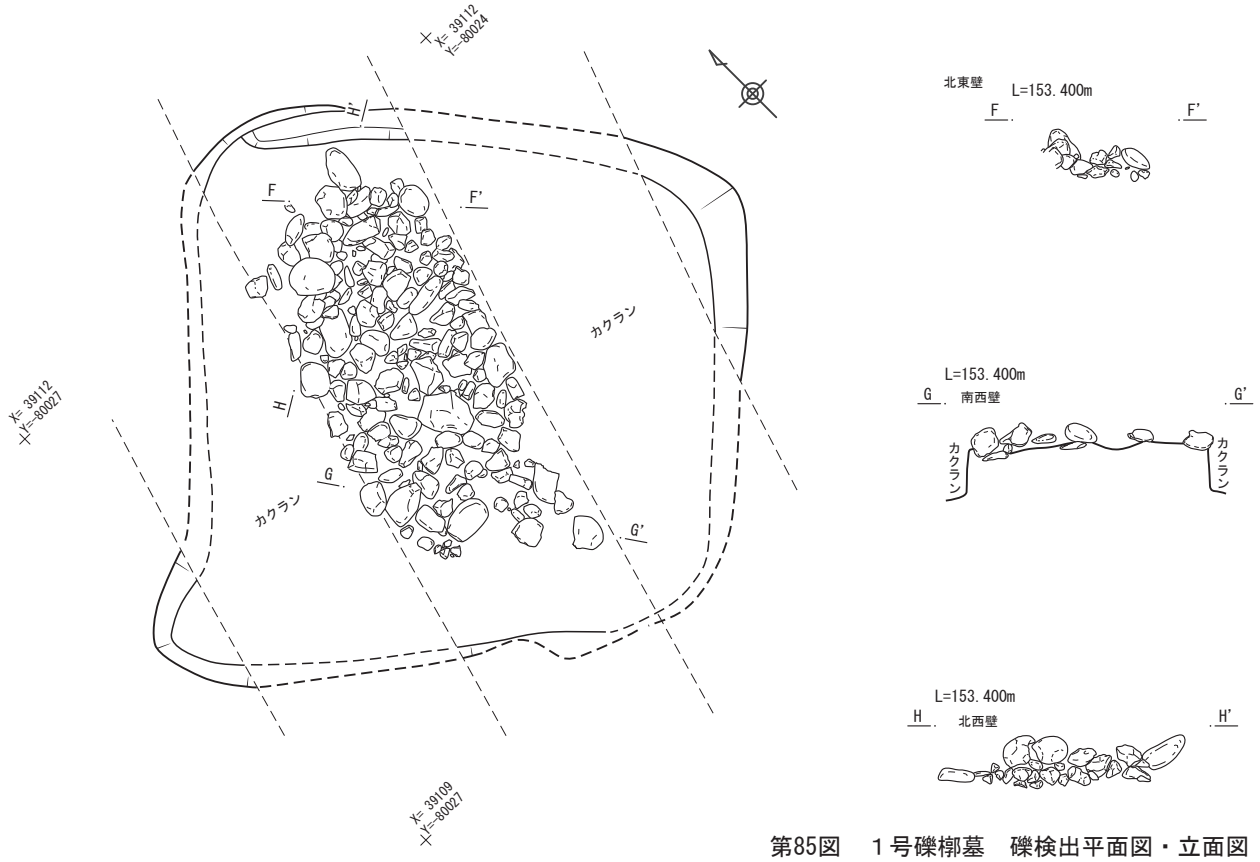
覆土　　黒褐色を基調とし、地山黄褐色シルトやAs-Cなどを混入する。しまりは概ね強いが、粘性はやや弱い傾向がある。

出土遺物　　内斜口縁坏や甕など古墳時代中期の土器等は、重複する11号竪穴建物跡に帰属する出土遺物と考えられる。本遺構に伴うと考えられる遺物は須恵器蓋や甕などであろうか

所見　　11号竪穴建物跡埋没後に構築されており、遺物の様相から８世紀前半の遺構と考えられる。



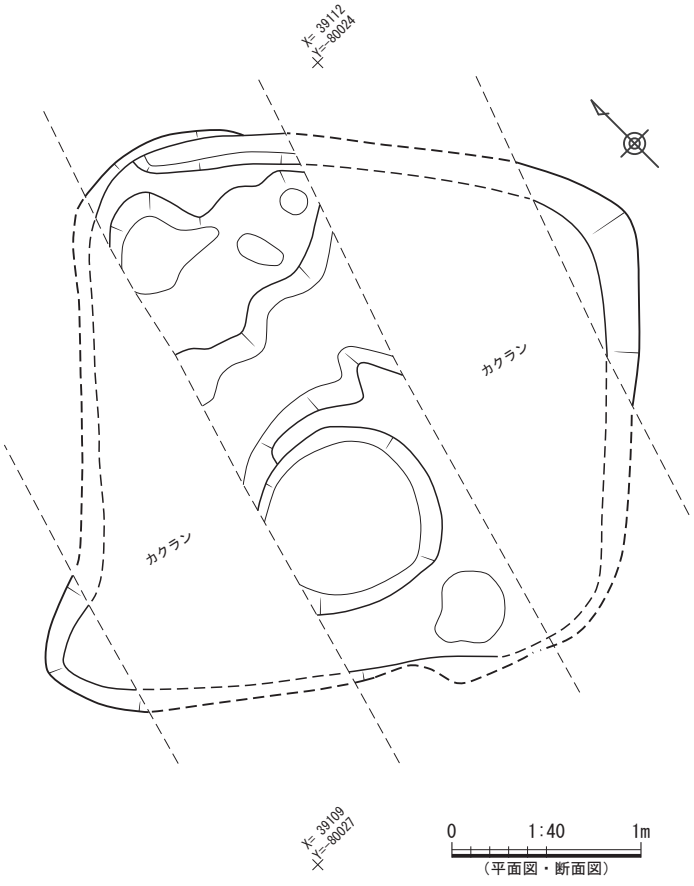
第84図　１号礫槨墓　平面図・断面図



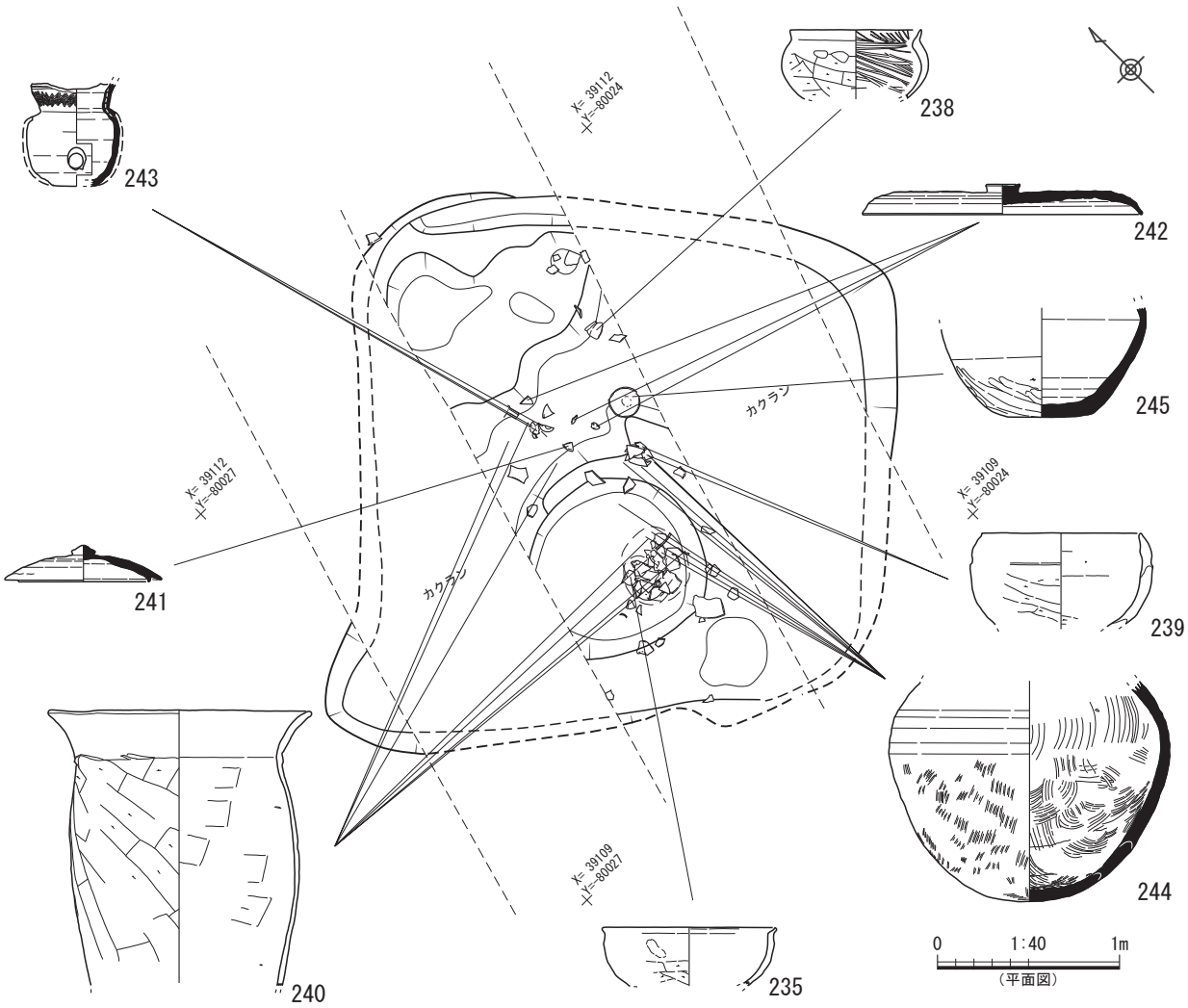
第85図　１号礫槨墓　礫検出平面図・立面図

１号礫槨墓(SPA-A',B-B',C-C'共通)

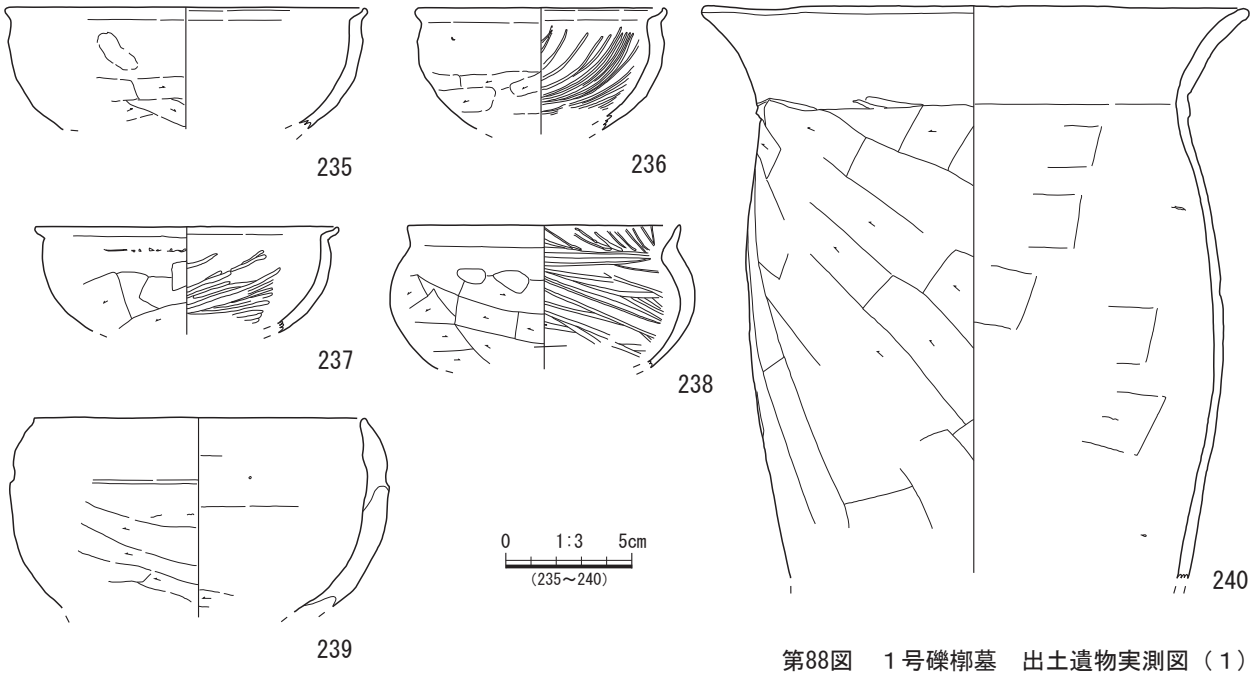
1	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。 焼土・炭化物僅か。しまり強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。 焼土(φ2～3mm)やや多量。 しまり強、粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。 上面が硬化。SI11床下土坑か。 しまり強、粘性やや強。
4	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	黄褐色シルト主体に黒褐色土混。 しまりやや強、粘性やや強。
5	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm) やや少量。焼土(φ1～2mm)少量。 しまり強、粘性やや弱。
6	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm) やや多量。焼土僅か。しまりやや弱、粘性弱。
7	黒色 (10YR 2/1)	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。 しまり強、粘性やや強。木根痕か
8	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多 量。炭化物少量。しまりやや強、粘性やや強。
9	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)やや 少量。焼土僅か。しまりやや強、粘性やや弱。
10	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。 しまり強、粘性やや強。
11	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm) やや多量。しまりやや強、 粘性やや弱。
12	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。 焼土僅か。しまり強、粘性やや弱。
13	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量。 しまり強、粘性やや弱。
14	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。焼土僅か。 しまり強、粘性強。
15	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ1～2mm)多量。 しまり強、粘性やや弱。
16	明黄褐色 (10YR 6/6)	黄褐色シルト主体。しまり強、粘性やや強。
17	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混か。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。 しまりやや強、粘性やや弱。
18	黄褐色 (10YR 5/6)	黄褐色シルト主体。黒褐色土混。炭化物少量。 しまり強、粘性やや弱。
19	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。 しまりやや強、粘性やや弱。
20	黄褐色 (10YR 5/6)	黄褐色シルト主体。黒褐色土混。 しまり強、粘性やや強。
21	黒色 (10YR 2/1)	As-C混か。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。 焼土(φ3～5mm)やや多量。 しまりやや強、粘性やや強。SI11床下土坑か。



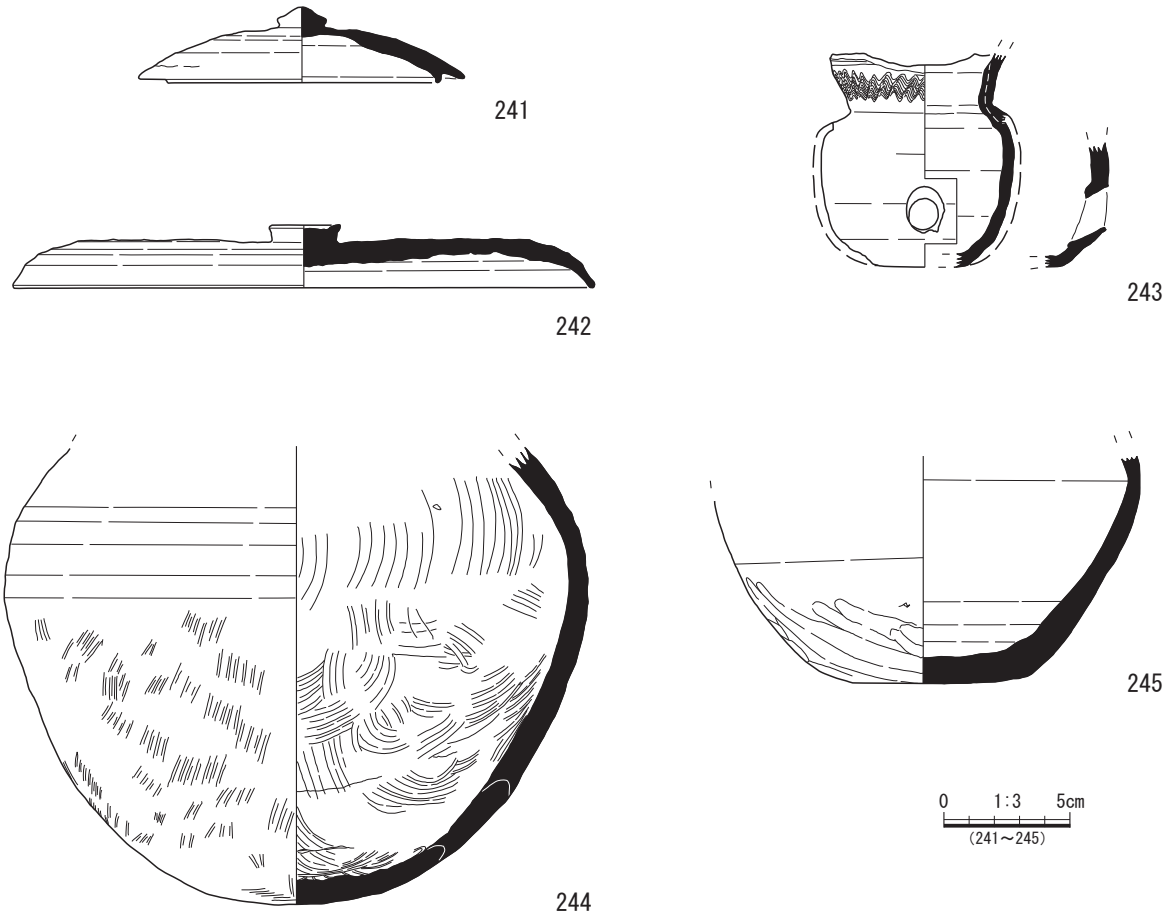
第86図　１号礫槨墓　掘り方平面図



第87図　１号礫槨墓　出土遺物分布図



第88図　１号礫槨墓　出土遺物実測図（１）



第89図　１号礫槨墓　出土遺物実測図（２）

第17表　１号礫槨墓　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第88図 PL.82	235	土師器 坏	【15.5】	—	(4.8)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、黒色処理	①概ね良好 ②5YR 7/6 ③輝石、砂	口縁～体部 破片	
第88図 PL.82	236	土師器 坏	【11.2】	—	(4.8)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、黒色処理、暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 6/6 ③砂	口縁～体部 破片	
第88図 PL.82	237	土師器 坏	【12.8】	—	(4.3)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、暗文状ミガキ	①良好 ②7.5YR 6/6 ③砂	口縁～体部 破片	
第88図 PL.82	238	土師器 坏	【10.8】	—	(5.7)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ。黒色処理、暗文状ミガキ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、長石、砂	口縁～体部 破片	
第88図 PL.82	239	土師器 坏	【13.0】	—	(7.7)	外：球胴状の体部上位に強い稜線をもち、口縁は内湾する。器面はナデ。体部ケズリ 内：ナデ	①良好 ②10YR 7/6 ③砂少量	口縁～体部 破片	
第88図 PL.82	240	土師器 甕	21.5	—	(22.7)	外：口縁ナデ。胴部ヘラケズリ。口縁と胴部の境である頸部は未調整で、ケズリの段差が顕著 内：ヘラ状工具によるナデ	①良好 ②5YR 7/6 ③長石、砂	口縁～胴部 1/2	
第89図 PL.82	241	須恵器 蓋	【13.0】	ツマミ 1.9	3.0	外：宝珠ツマミ 内：カエリあり	①良好 ②10YR 7/1 ③白色粒子	1/3	
第89図 PL.82	242	須恵器 蓋	23.0	ツマミ 2.8	2.5	外：円環ツマミ。端部が局所的に歪む。稜線付近はケズリ 内：ナデ	①良好 ②7.5Y 7/1 ③砂少量	1/2	
第89図 PL.82	243	須恵器	—	(3.6)	(8.5)	外：頸部以下の器面が剥離。口縁部櫛歯状工具による波状文。穿孔は径1.5cm 内：ナデ	①概ね良好 ②7.5Y 7/1 ③砂	口縁～底部 2/3	
第89図 PL.82	244	須恵器 甕	—	—	(18.1)	外：胴部最大径より上位に粘土引き上げ痕、最大径以下に平行タタキ目 内：胴部最大径付近より下位は同心円状当て具痕	①良好/酸化炎 ②2.5Y 8/3 ③小礫	1/2	
第89図 PL.82	245	須恵器 甕	—	5.6	(9.0)	外：胴部に引き上げ痕、底部付近にユビナデ 内：引き上げ痕	①良好 ②5Y 8/1 ③長石、小礫	底部 1/4	

【１号石槨墓】（596E-ST04）

位置　　東区東側中央付近に位置する。北側に８号墳、南側に24号竪穴建物跡や２号墳、東に２号土坑墓がそれぞれ所在する。

規模　　長軸1.1m、短軸0.5mの土坑に板石を設置し石槨を形成する。石槨は西側で幅を減じるやや細長い台形状となるが、内法は長さ0.6、東側で幅0.18m、西側で幅0.15mを測る。遺構の深さは板石を確認した検出面から石槨底面まで0.14m、掘り方底面まで0.25mとなる。遺構主軸はＮ－86°－Ｗである。

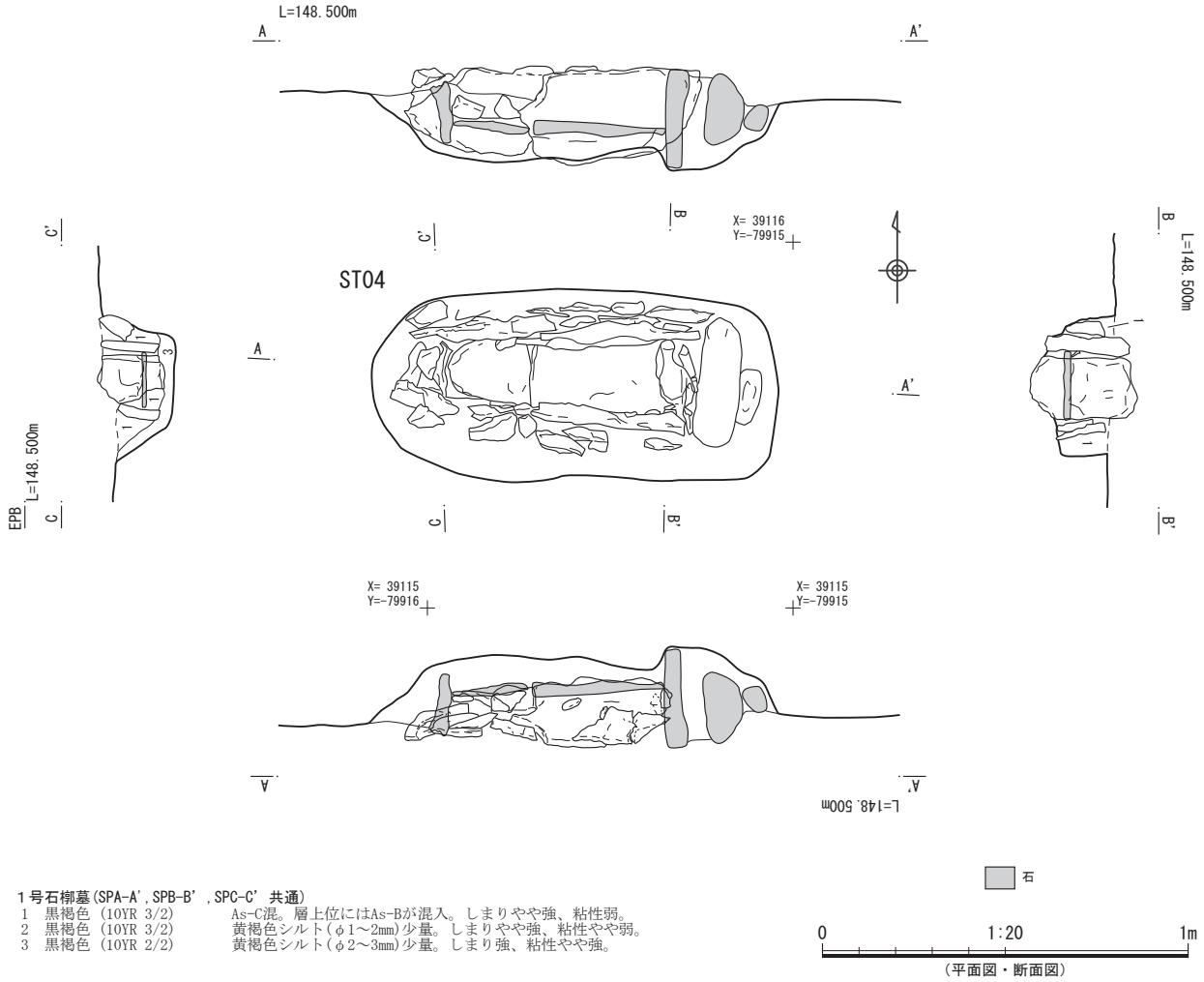
構造　　板状石材により四壁と床部を構成する。南北の両側壁は板状石材を立位で設置し、側壁に挟まれるように東西両端に板状石材を設置して小口としている。その後、２枚の板状石材を敷いて床部とする。また、東側小口の外側にはやや大振りな自然石円礫が埋め込まれている。両側壁の東側端部とほぼ接しており、東小口とも連続する構造から板石石槨と一体となるものと考えられるが、構造上の性格は不明である。石槨の閉塞については蓋状の構造物が想定されるが、調査では該当する構造物は確認していない。

掘り方　　石槨より一回り大きい土坑状の掘り込みである。東側小口部分のみ若干掘り下げられるものの、概ね平坦な底部を呈する。

埋土　　石槨内部の埋土は黒褐色を基調とし、As-Cを含んだしまりがやや強い土層である。また、掘り方の土層は地山由来の黄褐色シルトが少量混入する。

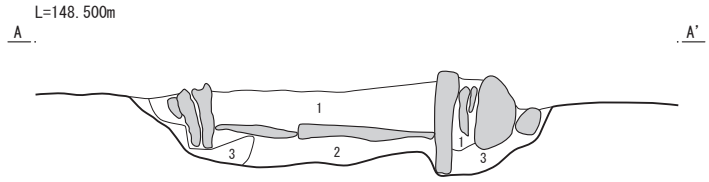
出土遺物　　遺物の出土はない。

所見　　遺物の出土がないため年代の決め手に欠くが、埋土の様相からAs-C降下後の遺構と考えられ、古墳時代に属するものと推定される。



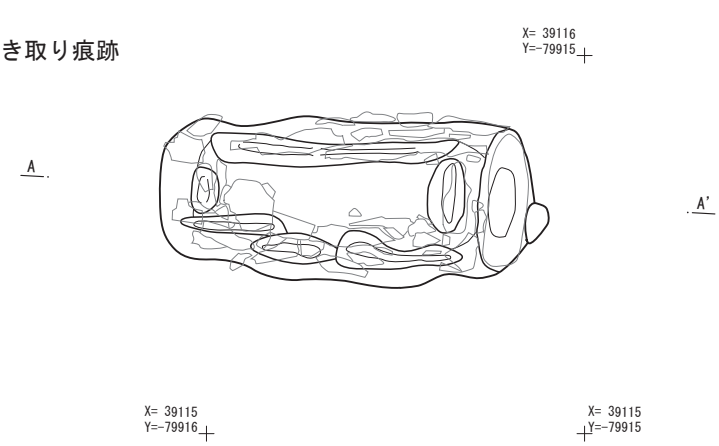
１号石槨墓(SPA-A',SPB-B',SPC-C' 共通)
1　黒褐色（10YR 3/2）　　As-C混。層上位にはAs-Bが混入。しまりやや強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 2/2）　　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。

第90図　１号石槨墓　平面図・断面図（１）

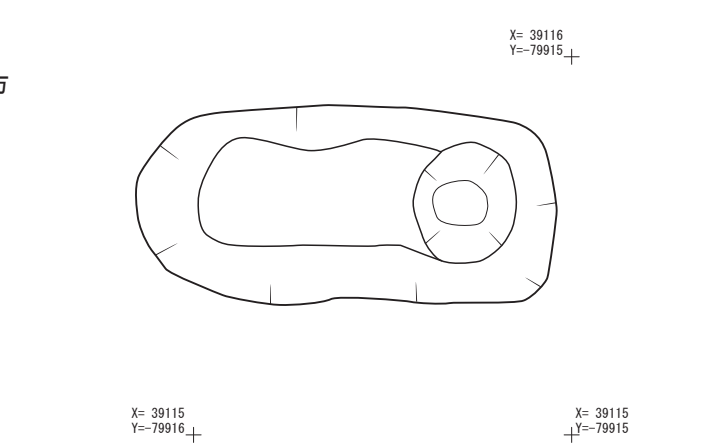


1号石槨墓(SPA-A',SPB-B',SPC-C'共通)
1　黒褐色（10YR 3/2）　　As-C混。層上位にはAs-Bが混入。しまりやや強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 2/2）　　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。

石抜き取り痕跡



掘り方



第91図　１号石槨墓　平面図・断面図（２）

【１号土坑墓】（596E-ST02）

位置　東区中央東寄りに位置する。近世以降のAs-A軽石の処理遺構により一部を欠失する。北西に８号墳、南東に５号墳、南西に２号墳がそれぞれ位置する。

規模　やや不整形な長方形を呈する。長軸3.1m、短軸1.5mを測る。遺構確認面から想定主体部底面までは0.5m程で、掘り方底面までは0.8mとなる。標高では床面が147.2m、掘り方底面が146.9mとなる。主軸はＮ－79°－Ｗである。

構造　やや硬化する底面を持つ長軸2.9m、短軸1.4mの範囲が主体部空間と推定している。礫や木質材等の構築材を利用した構造の痕跡は看取されない。

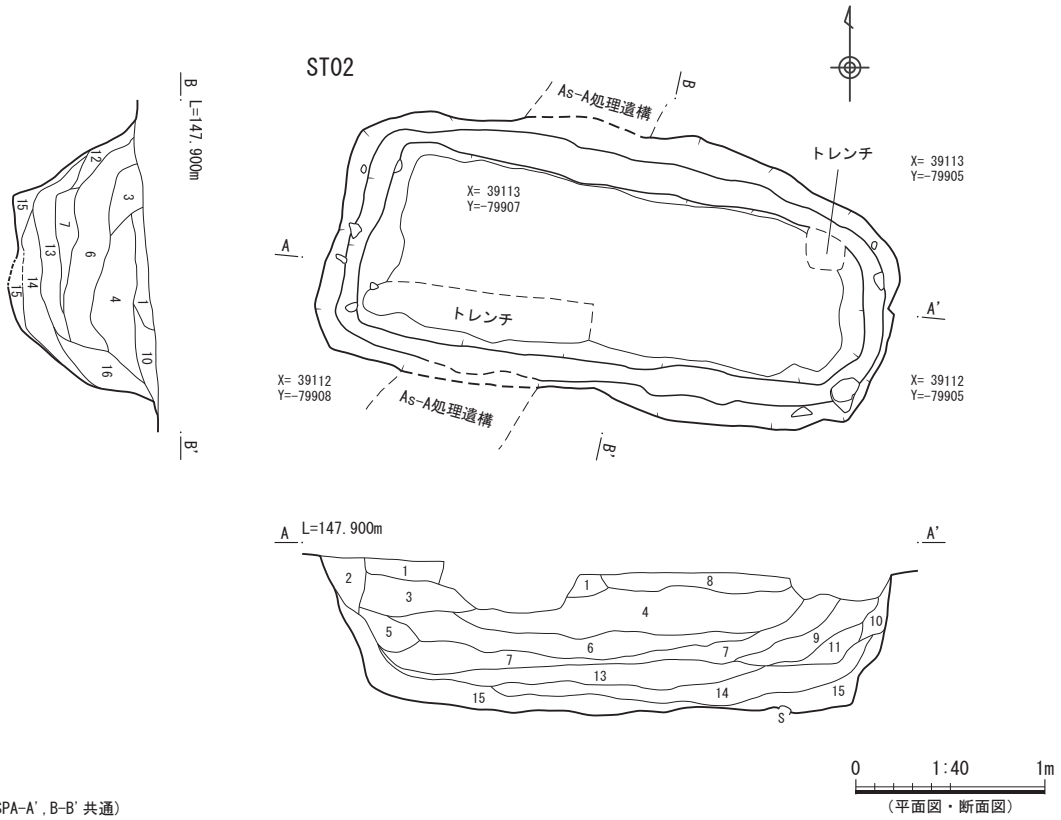
ピット　主体部底面下層に、遺構南壁に沿うようにピット状の小穴４基を検出した。４基の埋土は一様になく、また、北半に対応するピット類は確認できなかった。具体的な機能は不明だが、本遺構の構造に関わるものと推定できる。

掘り方　推定される主体部底面以下の掘り方は、地山の黄褐色シルト粒子を相対的に多く含む黒色土層で埋没する。

埋土　主体部は黒褐色や暗褐色を基調とし、As-Cを混入する。As-BやAs-Aは表土層直下である最上層にのみ少量含まれ、遺構の大半はAs-A降下前に埋没したものと考えられる。

出土遺物　遺物の出土は限定的であるが、弥生時代後期土器片や古式土師器片がわずかに得られている。

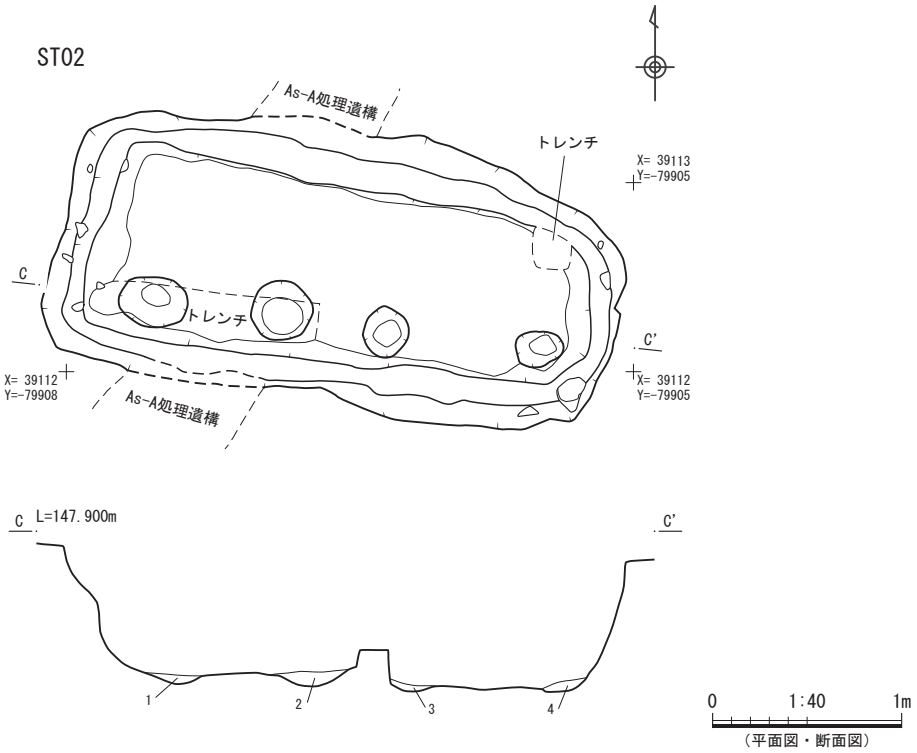
所見　出土した遺物の様相から、As-C降下後の古墳時代に帰属する遺構と考えられる。



１号土坑墓(SPA-A',B-B'共通)

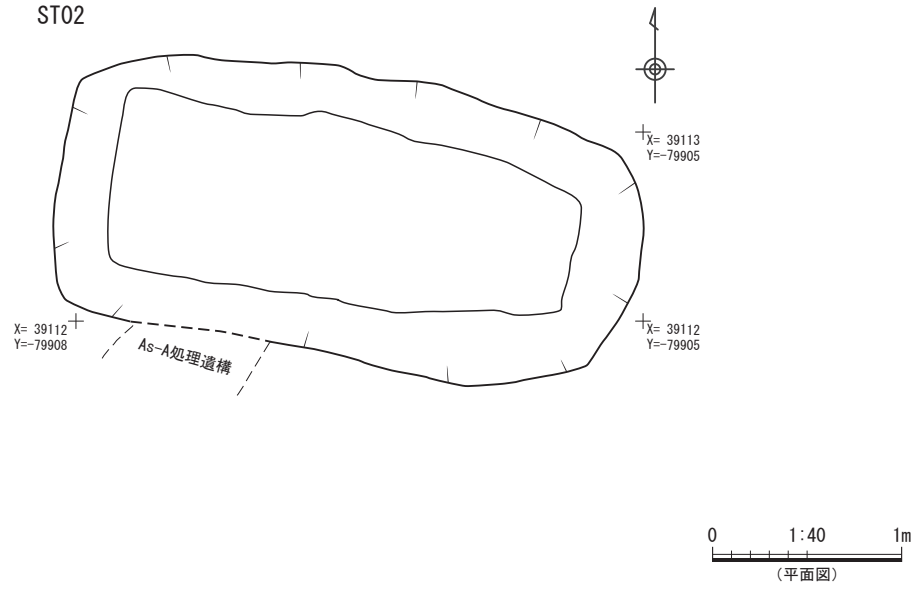
1	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	As-B、As-C混。As-C(φ1～3mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
2	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混。As-C(φ1～3mm)やや少量、(φ6～8mm)少量。しまり強、粘性やや強。硬くしまる。
3	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混。As-C(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)やや少量。砂質。しまり弱、粘性弱。
4	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混。As-C(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)やや多量。橙色粒子(φ1～3mm)やや多量。砂質。しまりやや弱、粘性弱。
5	暗褐色（10YR 3/3）	As-C混。As-C(φ1～2mm)少量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり弱、粘性やや弱。
6	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混。As-C(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。白色粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。
7	暗褐色（10YR 3/4）	白色粒子(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
8	暗褐色（10YR 3/3）	As-B混(密度やや高)。局所的にAs-C(φ1～3mm)が混じる。しまりやや弱、粘性弱。
9	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
10	褐色（10YR 4/6）	白色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
11	暗褐色（10YR 3/4）	白色粒子(φ1～2mm)少量。橙色粒子(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性強。
12	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	白色粒子(φ1～2mm)少量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
13	黒褐色（10YR 2/2）	黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
14	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量。炭化物少量。しまりやや強、粘性弱。
15	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性やや弱。
16	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。

第92図　１号土坑墓　平面図・断面図



１号土坑墓(SPC-C')
1　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　黒色土と黄褐色土が斑状に混ざる。2層目と色味が似ているが、少し硬くしまっている印象。しまりやや強、粘性やや強。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　黒色土に黄褐色土が少し混ざる。白色粒子(φ1～3㎜)やや少量。橙色粒子(φ1～2㎜)少量。全体的にやや硬くしまっており粘質。しまり強、粘性やや強。
3　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　黒色土と黄褐色土が斑状に混ざる。全体的に土がゆるく粘質。しまりやや弱、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 3/1）　橙色粒子(φ1～2㎜)少量。全体的に土がゆるく粘質。しまりやや弱、粘性強。

第93図　１号土坑墓　ピット平面図・断面図



第94図　１号土坑墓　掘り方平面図

【２号土坑墓】（596E-ST03）

位置　　東区中央北寄りに位置する。近世以降のAs-A軽石の処理遺構により遺構の一部を欠失する。

規模　　やや不整の長方形を呈しており、長軸2.8m、短軸1.1mを測る。遺構確認面からの深さは床面まで0.6m、標高は床面148.5mとなる。遺構主軸はＮ－61°－Ｗである。

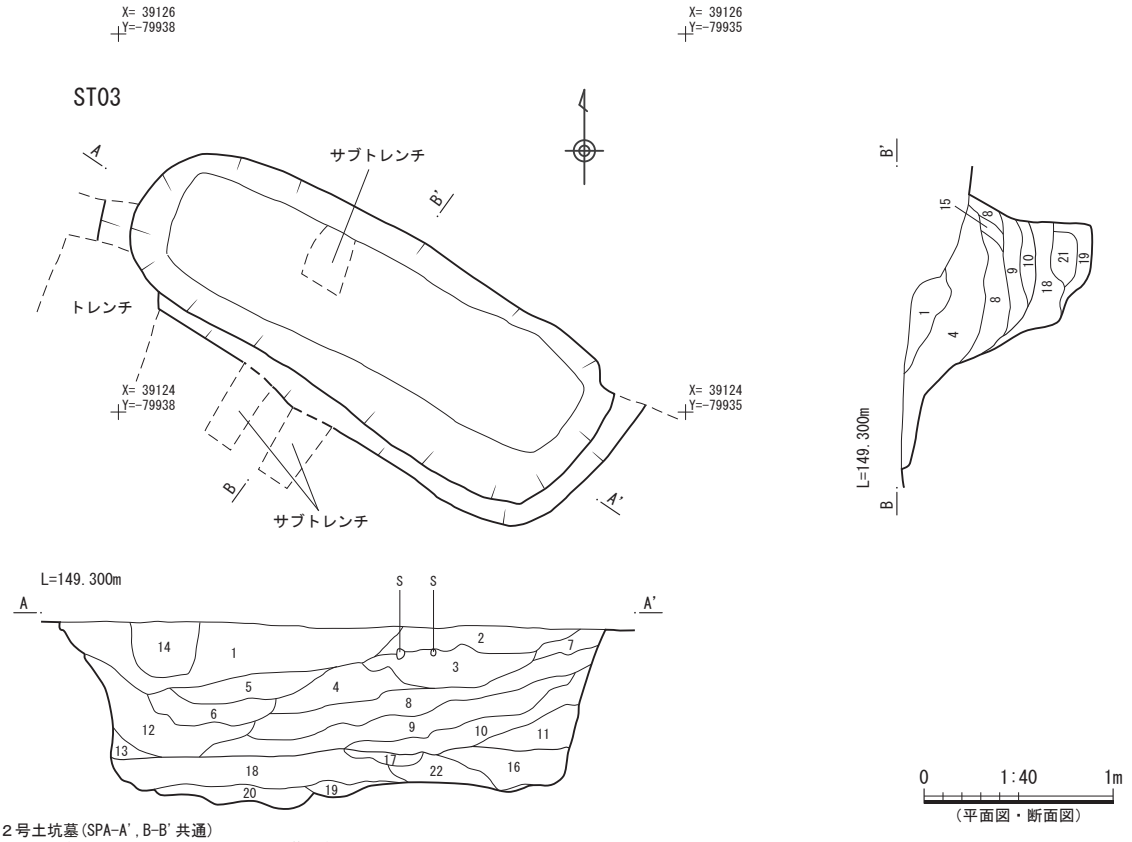
構造　　おおむね平坦でやや硬化する面が床面と想定されるが、礫や木質材等の構築材を利用した構造の痕跡は看取されない。

掘り方　　やや硬化した床面以下はしまりの強い黒褐色土が中心となり、北壁沿いには細長く掘り下げられた段が付けられている。遺構確認面から掘り方底部までは0.9mを測り、段の最深部では1.0mとなる。標高は148.3mである。

埋土　　黒褐色～黒色を基調とし、埋土中位から上位層にはAs-Cが混入する。想定床面の直上層にあたる下位埋土層へのAs-Cの混入は顕著でなく、遺構埋没初期に同軽石が混入しない状況にあったと推測される。

出土遺物　　土器は古式土師器片が少数出土するのみであるが、青銅製耳環２点、鉄鏃１点、滑石製臼玉１点が出土している。

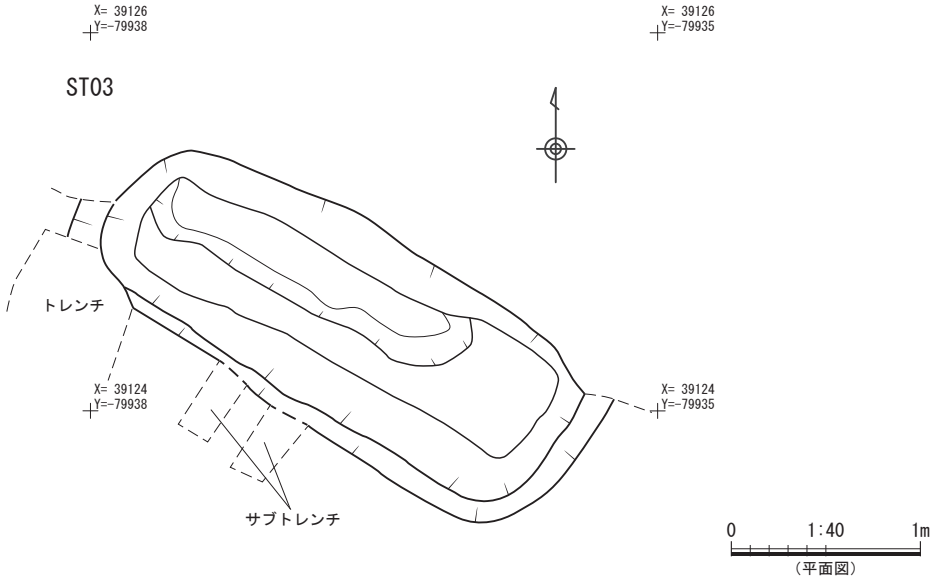
所見　　出土した遺物やAs-Cが混入する様相から、本遺構は古墳時代に帰属する遺構と考えられる。



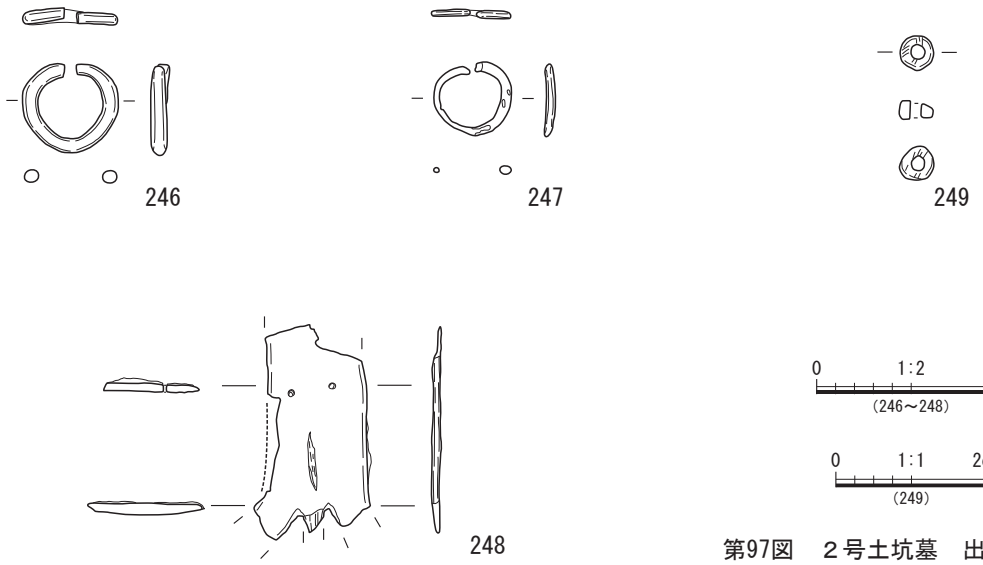
２号土坑墓(SPA-A',B-B'共通)

1	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性弱。
3	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
5	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり極めて強、粘性弱。
6	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性弱。
7	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
8	黒色 (10YR 2/1)	As-C(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
9	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
10	黒褐色 (10YR 3/2)	As-Cほとんど含まない。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
11	黒色 (10YR 2/1)	As-C混入せず。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ3～5cm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。
12	黒色 (10YR 2/1)	As-C混入せず。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。
13	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混入せず。黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。しまり弱、粘性やや強。
14	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
15	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	As-C混入せず。黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまりやや強、粘性弱。
16	黒色 (10YR 2/1)	軽石状粒子 少量。黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
17	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ1～2mm)僅かに含む。しまりやや強、粘性弱。
18	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。耳環出土。
19	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
20	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト主体。黒褐色土混在。しまり極めて強、粘性強。
21	黒褐色 (10YR 3/1)	軽石状粒子少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
22	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。

第95図　２号土坑墓　平面図・断面図



第96図　２号土坑墓　掘り方平面図



第97図　２号土坑墓　出土遺物実測図

第18表　２号土坑墓　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	観察所見	備考
第97図 PL. 82	246	耳環	外径 2.6	内径 1.7	0.3	4.6	青銅製。金銅製の可能性もあるが鍍金成分は未観察。	
第97図 PL. 82	247	耳環	外径 2.1	内径 1.6	0.2	0.8	金銅製。外面にわずかに鍍金成分が残留か。金属劣化が著しい	
第97図 PL. 82	248	鉄鏃	(5.7)	2.6	0.2	9.1	短茎。２孔穿孔。木質残留物あり。	

図版	番号	種別 器種	法量(mm) 直径	孔径	厚さ	重量 (g)	材質	観察所見	備考
第97図 巻頭図版8	249	臼玉	4.5	2.1	1.8	0.1以下	滑石		

【１号周溝墓】（718-ST01）

位置　　東区東側北寄りに位置する。７号墳の墳丘下より検出された。南に１～３号礫床墓がある。

規模　　角のやや丸い方形基調を呈しており、長軸で8.6m、短軸で6.0mを測る。遺構主軸は長軸がやや西に振れるＮ－36°－Ｗとなる。

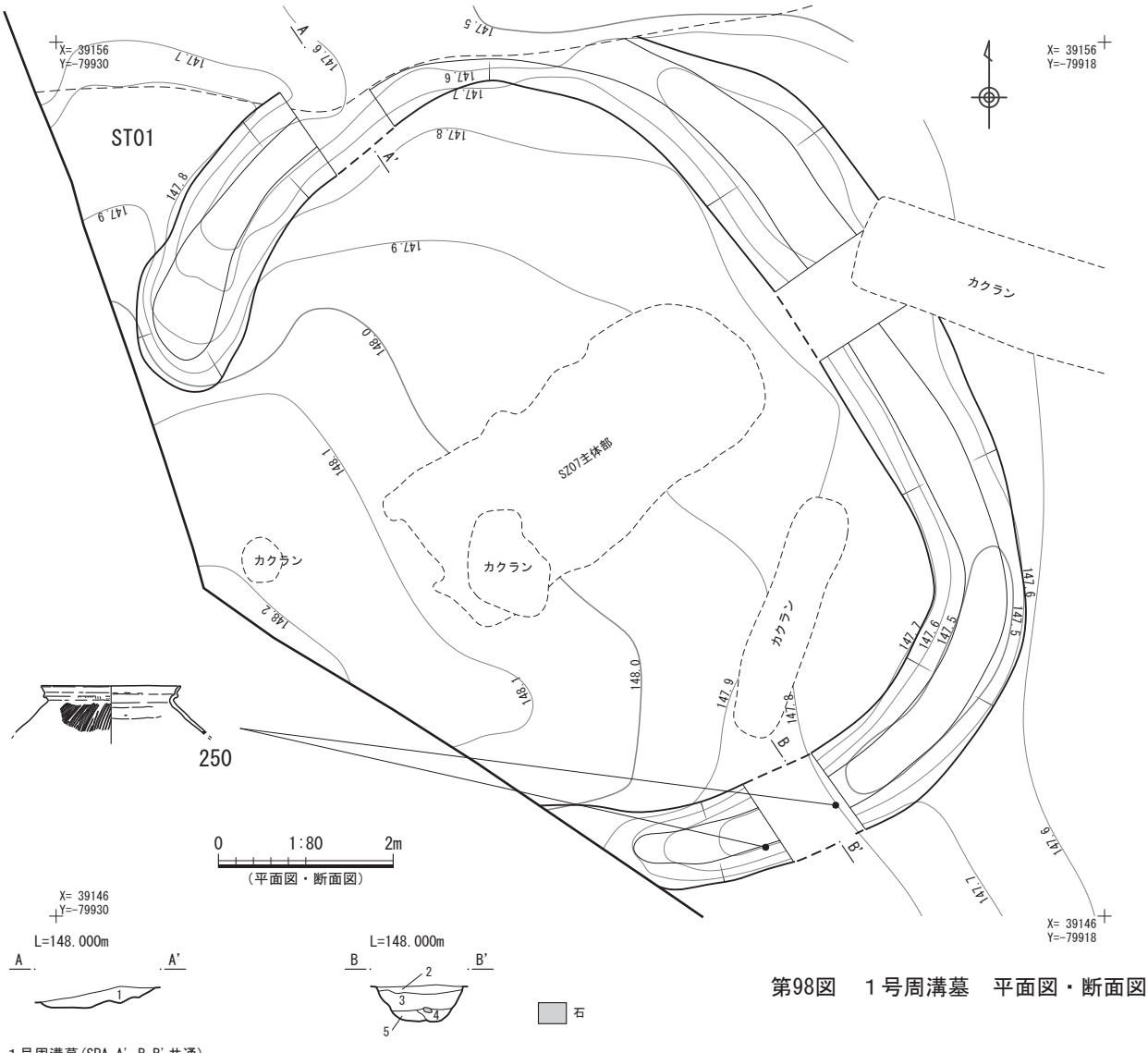
主体部　　未検出である。

周溝　　南東から北東を巡り北西まで連続する周溝を確認したが、西側で周溝が立ち上がるため全周はしない。周溝幅は南東と北東でおよそ1.1m、北西では1.7mとなる。深さは0.2～0.4mとなる。

埋土　　黒～黒褐色を基調とし、As-Cが混入する。

出土遺物　　周溝内よりS字状口縁台付甕をはじめ、土器小片数点が出土した。

所見　　主体部は未検出で出土遺物も限定的であるが、出土遺物の様相から、古墳時代前期に属する周溝墓と考えられる。



第98図　１号周溝墓　平面図・断面図

第99図　１号周溝墓　出土遺物実測図

１号周溝墓(SPA-A',B-B'共通)

1　黒色（10YR 2/1）　As-C混(やや多量)。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　As-C混(やや多量)。しまり強、粘性強。
3　黒色（10YR 2/1）　As-C昆(多量)。褐色土粒子(φ3～5mm)少量。しまり強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 2/2）　As-C混(僅か)。褐色土ブロック(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
5　暗褐色（10YR 3/3）　褐色土混在。しまりやや強、粘性やや弱。

第19表　１号周溝墓　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第99図 PL.82	250	土師器 S字口縁甕	【12.4】	－	(4.6)	外：口縁はやや外傾、胴部はケズリ後、細かいハケメを施す 内：口縁内側に沈線化した段、頸部は指頭圧痕、胴部はナデ	①良好 ②10YR 7/3 ③長石、輝石、砂	口縁部 破片	

【１号礫床墓】（596E-ST05）

位置　東区東側北寄りに位置する。７号墳の墳丘下より検出した。礫床は残存しているが、礫床より上部の構造については、７号墳構築時に失われたものと考えられる。南東に２号礫床墓がある。

規模　長軸2.3m、短軸0.6mの範囲で細長い長方形もしくは長楕円形の形状で礫の集中を検出した。遺構の深さは、礫検出の最上位から礫床上面で0.15mであり、標高は148.0mとなる。遺構主軸はＮ－52°－Ｗである。

構造　土坑状の掘り込み内部に２cm程度の親指大の礫を多量に敷き詰めて床面を形成するいわゆる「礫床墓」である。礫床の厚さは10cmに満たないが、両端部には５cm程の礫が礫床レベルより高く重なる傾向が看取される。さらに、土坑外縁には10cmを超える大振りの礫が置かれている。木質材等による構造物が想定されたが未検出である。

県内他遺跡などの例では、主体部である礫床墓に盛土層が伴うことや、礫床墓を囲う溝が検出される報告がある。本遺構は古墳時代円墳の墳丘下より検出したため、礫床墓の上部構造や溝が残存している可能性に期待した。古墳調査終了後に墳丘を精査しながら掘削し、礫床墓の検出を試みたものの、盛土や溝等の付帯する遺構は確認できなかった。

掘り方　礫床以下には浅い掘り方を持つ。両端部にはピット状の掘り込みがあり、礫床上面からは0.3～0.4mの深さとなる。

埋土　黒褐色や暗褐色を基調とし、地山由来の黄褐色シルトを少量含む。

出土遺物　礫床上面より鉄釧が出土した。検出時には端部を横に向け、土圧の影響か、若干拉げた状態であった。直近周囲には本体より欠け落ちたと思われる小片が散見された。観察の結果、１本の細い鉄板状の素材を連続して巻き上げる螺旋状鉄釧であることが判明した。環体幅はおよそ0.5～0.7cmほどで、断面形状は、釧外部に緩い稜を持つ三角形を呈している。

また、主体部の北東2.1mの位置から１号人形土器の頭部が、顔面を下にした状態で検出された。さらに、主体部南西1.0mの７号墳周溝内より２号人形土器の頭部、ならびに壺状となる胴部がそれぞれ検出された。１号人形土器の出土は主体部の外であるが、出土地点が主体部に隣接していて近距離にあること、地山削り出し基壇を持つ古墳時代後期円墳である７号墳の墳丘下にあることで後世の影響を受けにくく、原位置からは大きく移動していないと推測されることから、本礫床墓に伴うものと想定される。２号人形土器は７号墳周溝内部より出土しているが、出土位置や本遺構からの距離を勘案すると、本礫床墓に属したものと推定することは合理的である。

なお、２号人形土器は７号墳周溝の埋土中位付近より出土しており、７号墳上に樹立されたと考えられる馬形埴輪頭部破片の出土レベルと同じであった。このことから２号人形土器が７号墳周溝に流入したのは７号墳構築時ではなく、樹立埴輪の破損が進行する時期の周溝埋没過程においてであったことが理解される。

２体の人形土器は、上唇より上の頭部は中実で、粘土塊を頭部として顔面部位等を表現する。いずれの人形土器でも、目は刳り貫き、耳や鼻は粘土貼付けによる。頸部で空洞状の胴部と接合し、開いた口が内部空間への開口部となる。１号人形土器は、額部が大きく盛り上がり、鼻孔が表現される大振りな鼻と耳をつけて、見開いた目と大きく開けた口が特徴的である。２号人形土器は、頭頂部に被り物等と推定される表現が見られ、両耳朶には小孔が穿たれている。鼻や耳は１号人形土器同様やや大振りといえるが、１号人形土器と比較して、より写実的な表現といえよう。

所見　本礫床墓は、礫床墓内より螺旋状鉄釧が出土したほか、同遺構に人形土器２体が伴う可能性があるなど、県内でも類例がない希少性の高い遺構である。本遺構には土器が伴うことを確認できなかったが、遺構の構造や出土した遺物の様相から、本遺構は弥生時代後期に属するものと推定される。

第20表　１号礫床墓　使用礫計量表

遺構種別	石種	重量					備考
		～20mm	20～50mm	50～100mm	100mm～	合計	
１号礫床墓	安山岩	本体 8.00 kg	56.20 kg	41.70 kg	2.65 kg	108.55 kg	

１号礫床墓(SPA-A',B-B'共通)

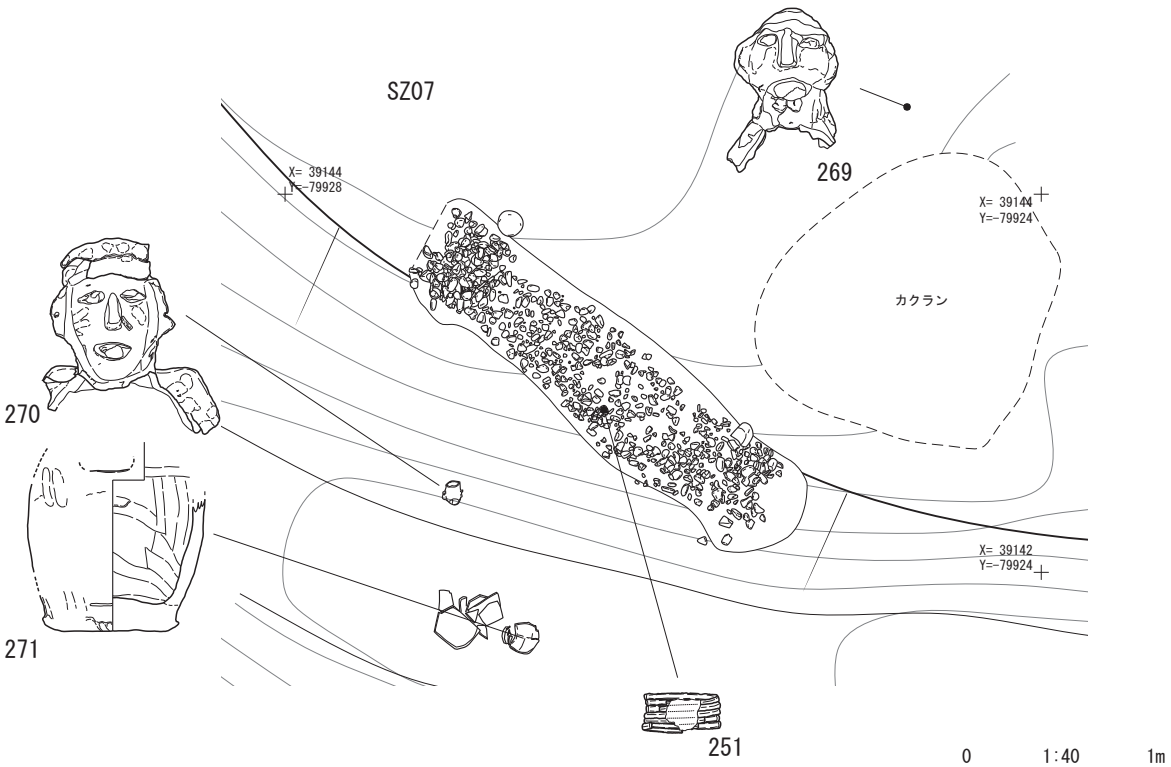
1	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)微量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
2	暗褐色 (10YR 3/3)	黄褐色シルト(φ1～2mm)微量。しまり強、粘性やや強。
3	黒褐色 (10YR 3/2)	夾雑物少量を含む。小礫を比較的多く含む。しまり強、粘性やや弱。小ロピット。
4	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)微量。小礫有。しまり強、粘性やや弱。小ロピット。
5	暗褐色 (10YR 3/3)	夾雑物少量を含む。しまりやや強、粘性やや弱。
6	暗褐色 (10YR 3/3)	黄褐色シルト(φ1～2mm)微量。As-YP僅かに含む。しまり弱、粘性やや弱。
7	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。As-YPを少量含む。白色軽石状粒子を少量含む。しまり強、粘性やや強。
8	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。少礫を含む。しまり強、粘性やや弱。
9	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。As-YPを少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。地山崩落土か。
10	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルトほとんどなし。しまり強、粘性弱。
11	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)微量。As-YPを含む。白色軽石状粒子をやや少量含む。しまり強、粘性やや弱。
12	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。白色軽石状粒子をやや少量含む。しまり強、粘性弱。
13	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。As-YPを少量含む。しまり強、粘性やや強。

石

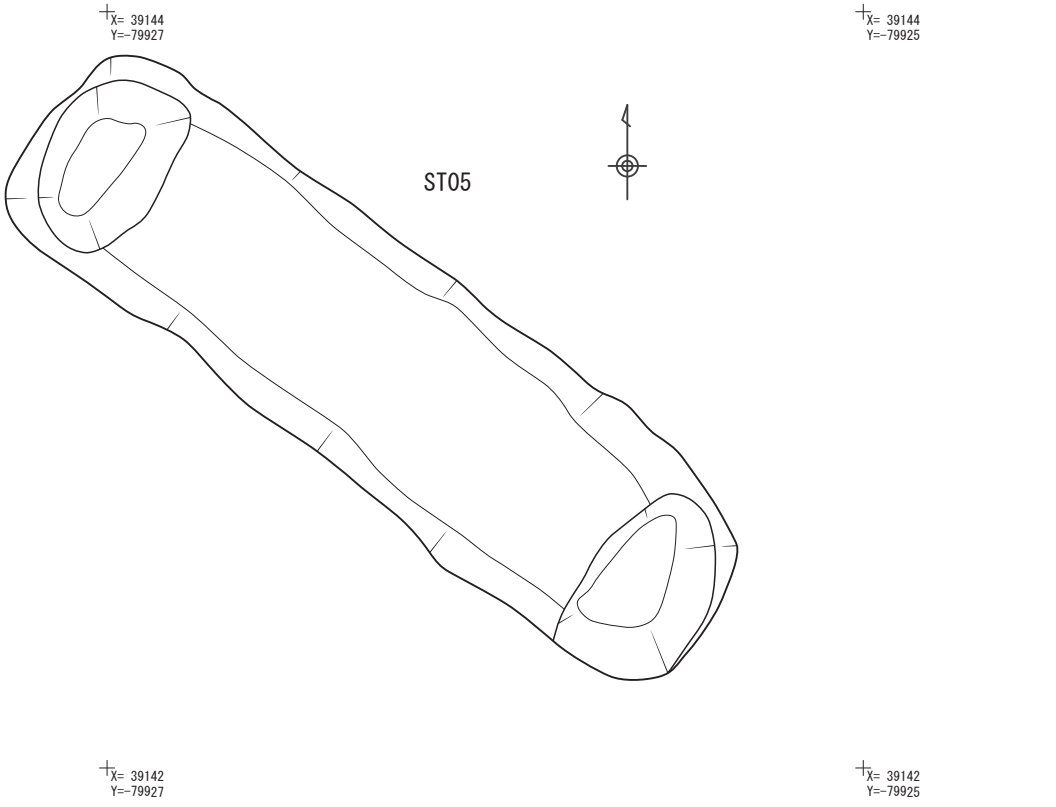
0　1:20　1m

（平面図・断面図）

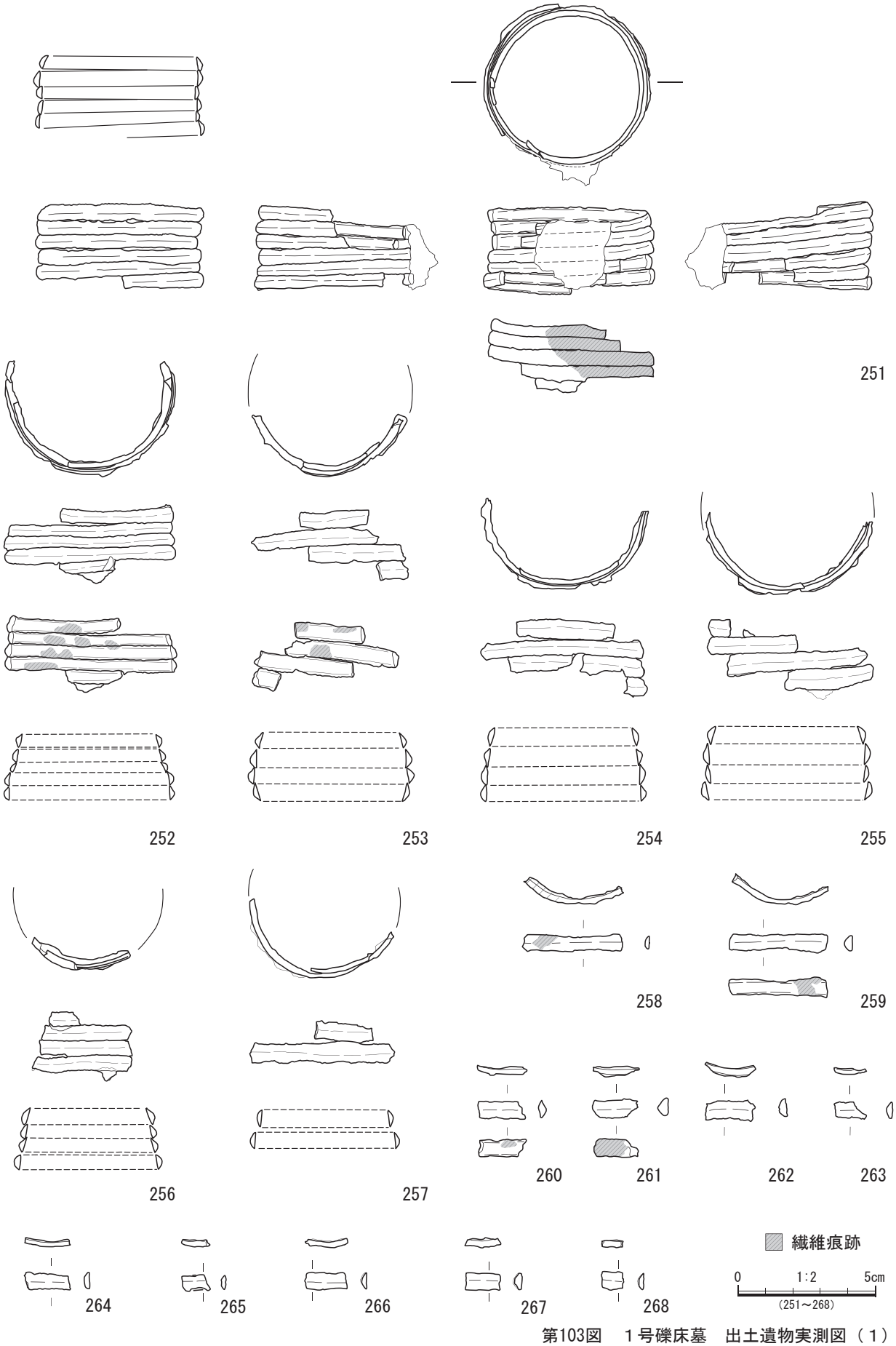
第100図　１号礫床墓　平面図・断面図



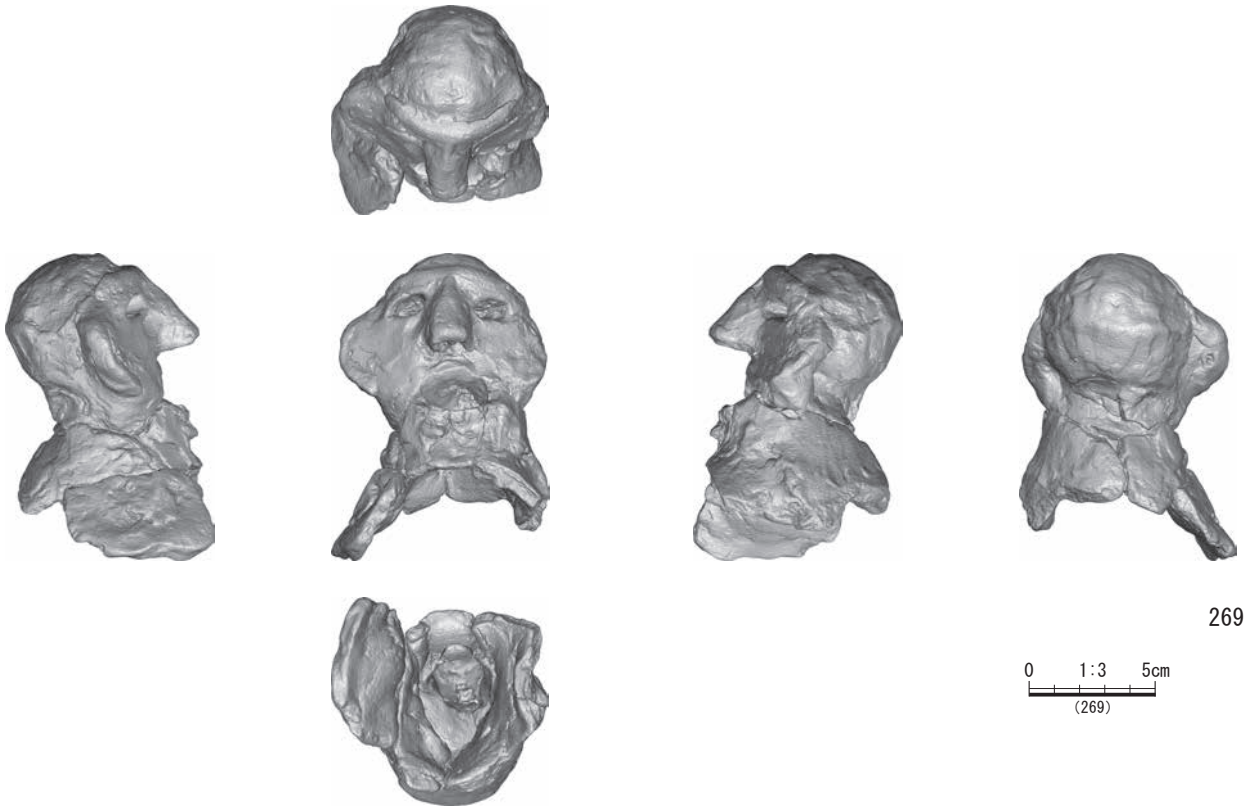
第101図　１号礫床墓　出土遺物分布図



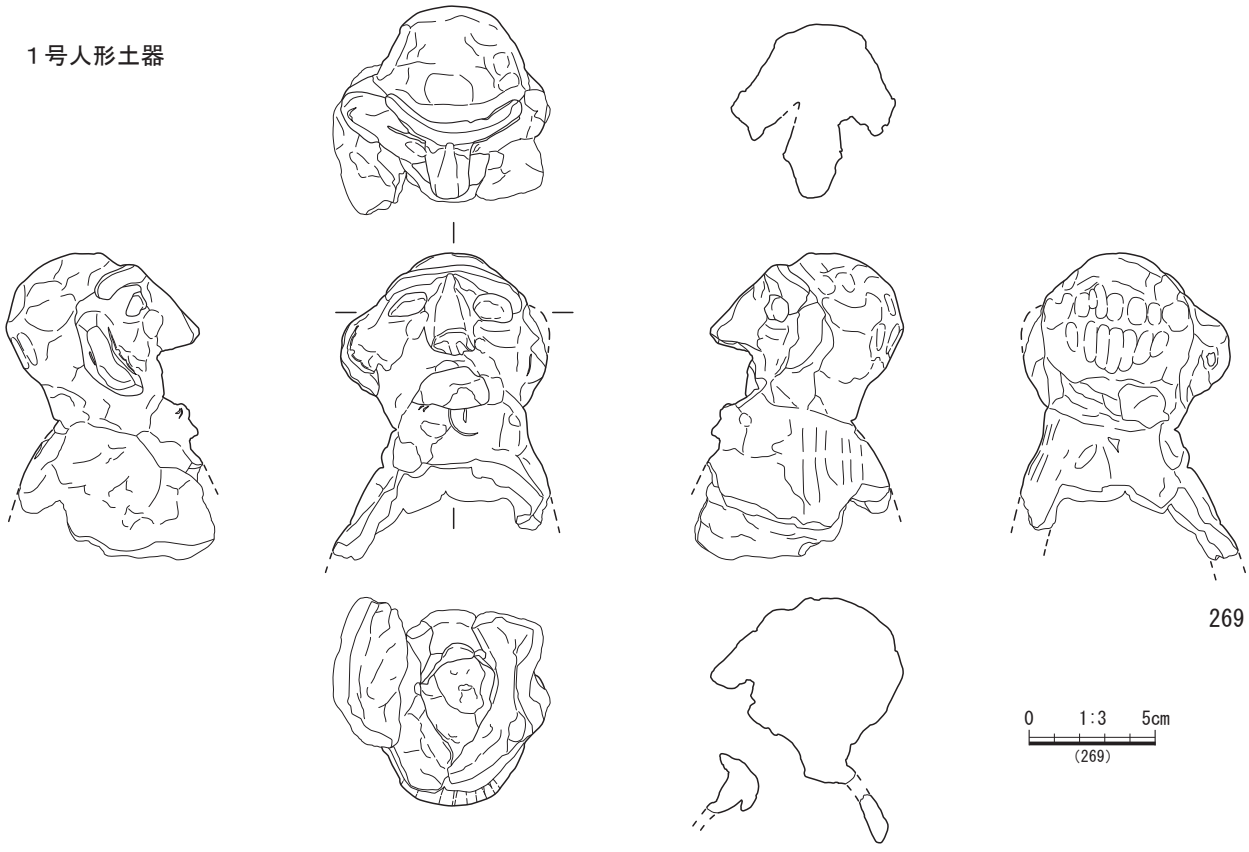
第102図　１号礫床墓　掘り方平面図



第103図　１号礫床墓　出土遺物実測図（１）



第104図　１号人形土器陰影図



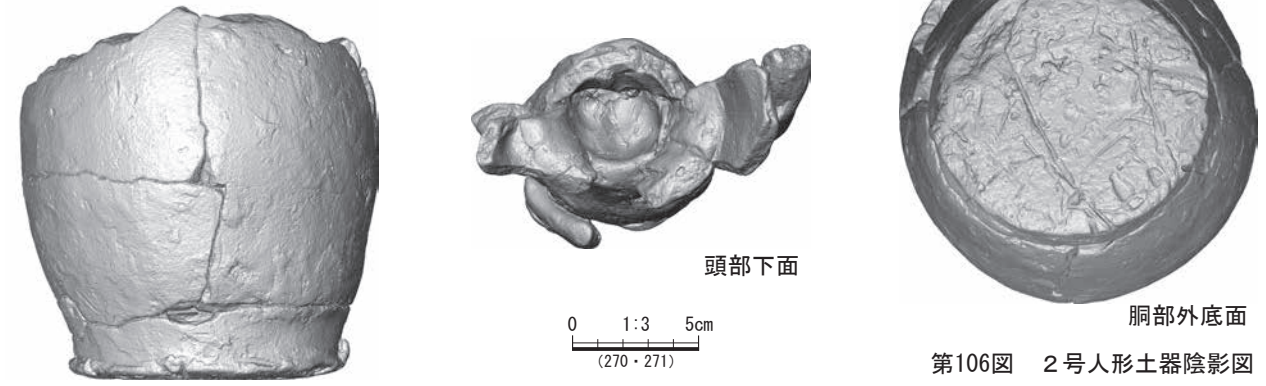
第105図　１号礫床墓　出土遺物実測図（２）

270

271

頭部上面

胴部内底面

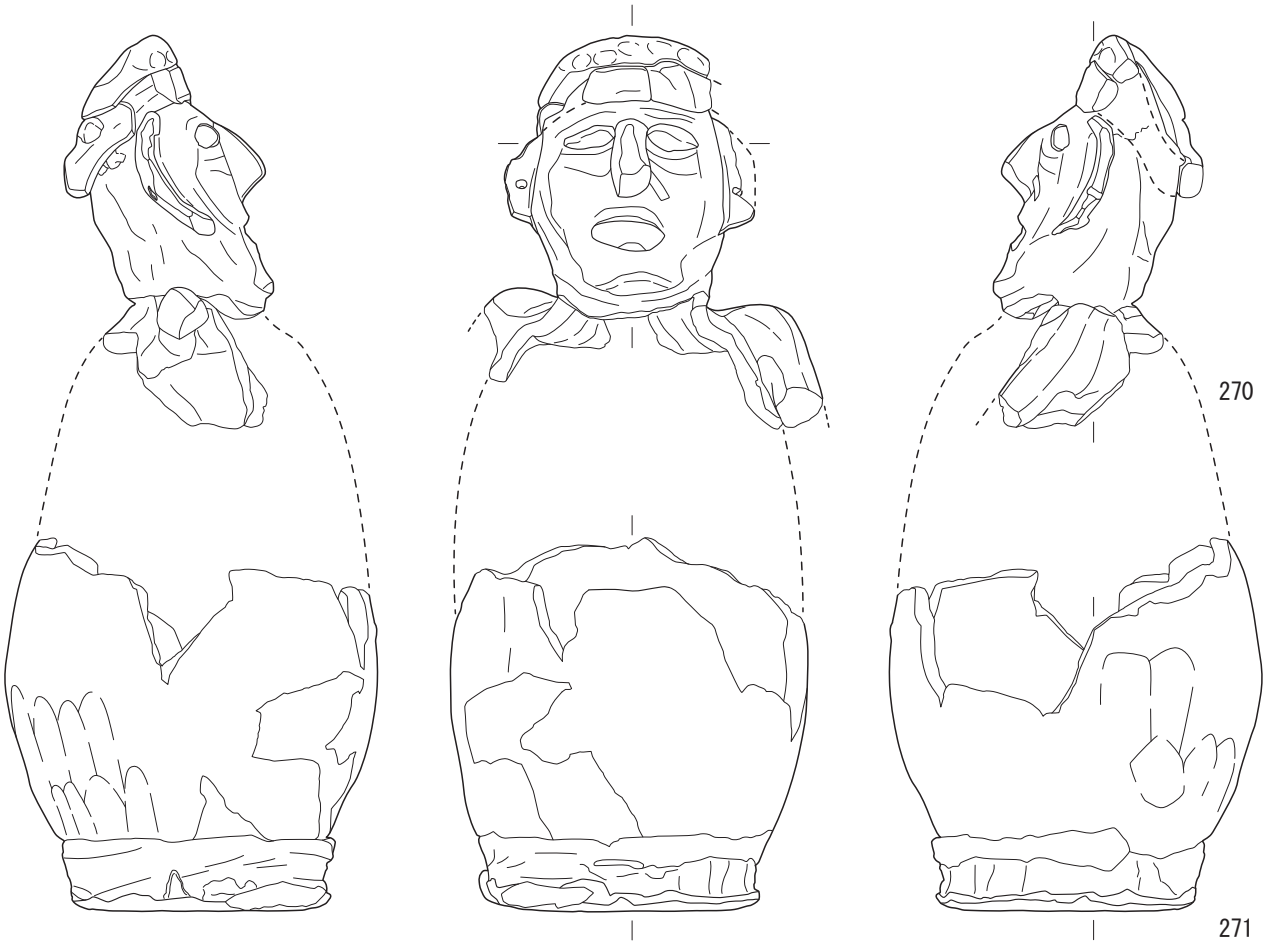


頭部下面

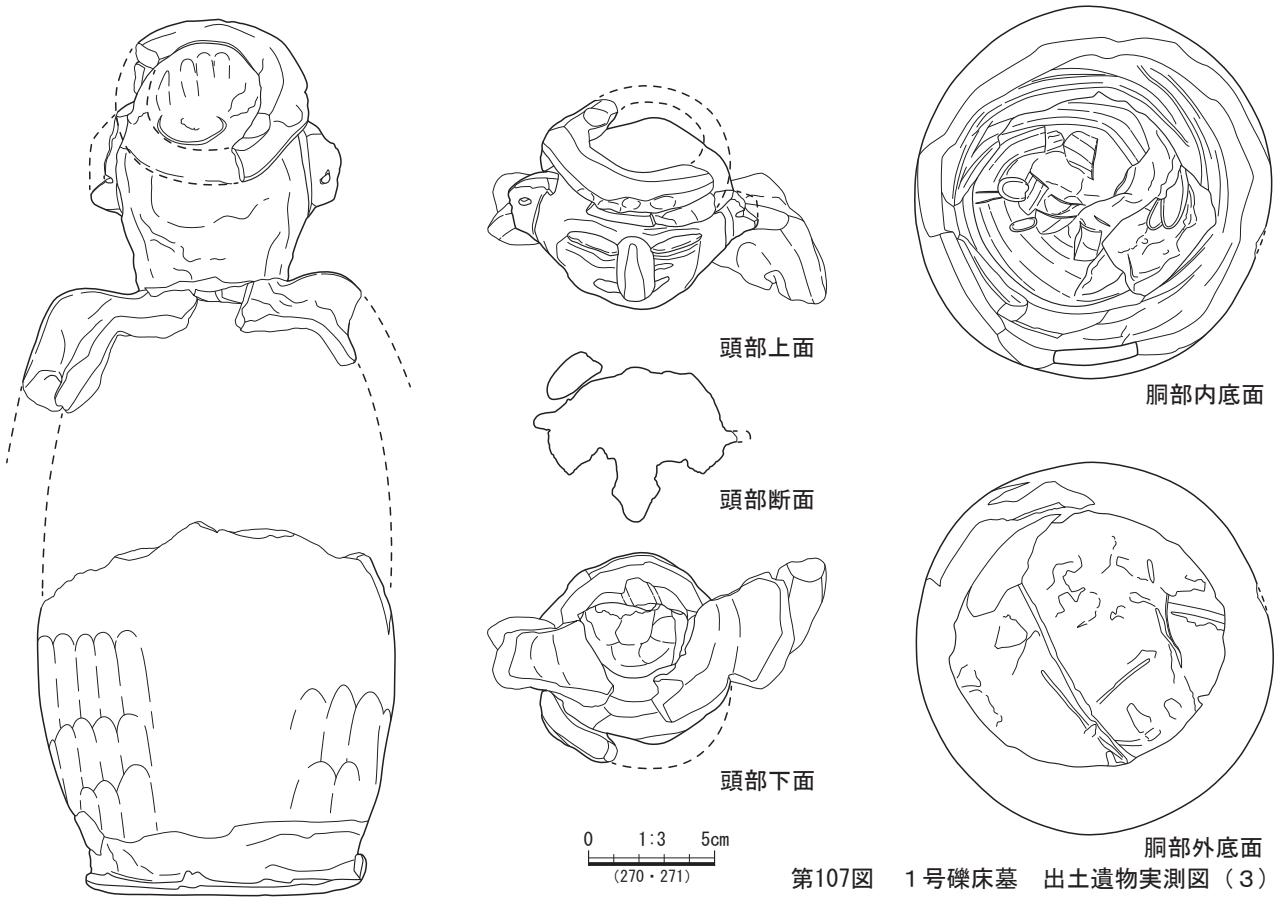
胴部外底面

0　1:3　5cm
(270・271)

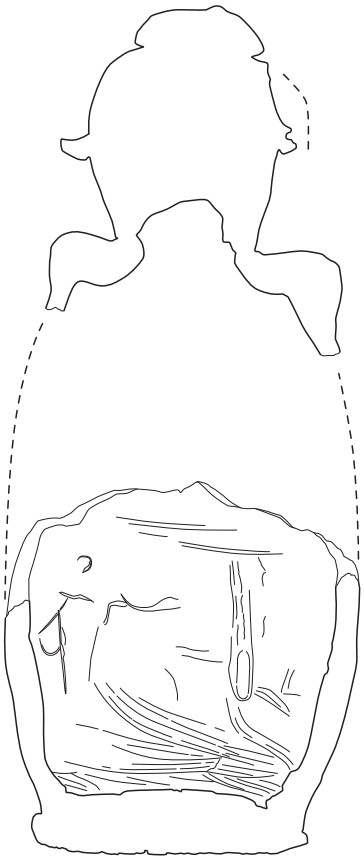
第106図　２号人形土器陰影図

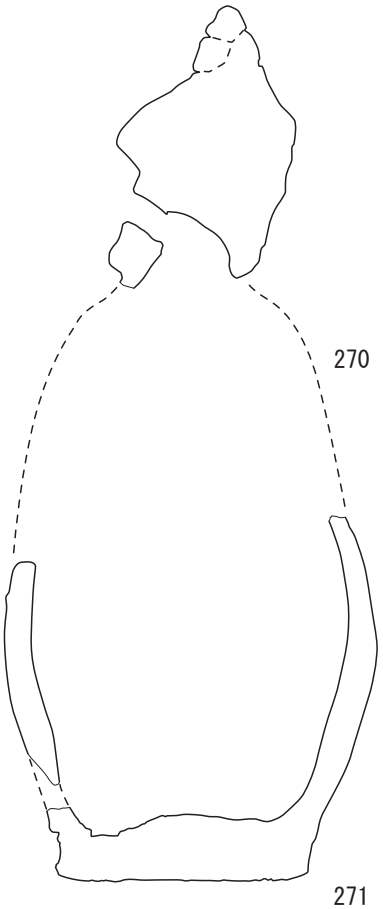


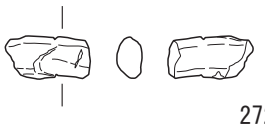
２号人形土器

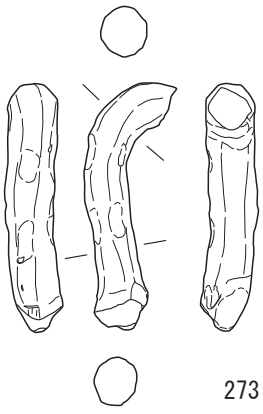


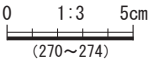
第107図　１号礫床墓　出土遺物実測図（３）











第108図　１号礫床墓　出土遺物図（４）

第21表　１号礫床墓　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	断面形状	段数	法量（cm） 段　長さ	高さ	幅	厚み	外径（内径）	重量（g）	布目痕	所見
第103図 PL. 83	251	鉄釧	三角形	6	1　14.6 2　15.9 3　19.2 4　10.0 5　14.0 6　6.4	3.0	0.4～0.5	0.2～0.3	上：5.8(5.2) 下：6.1(5.3)	30.0	外：平織り 内：不明瞭	
第103図 PL. 83	252	鉄釧	三角形	5	1　6.1 2　9.8 3　11.3 4　11.7 5　2.0	2.3	0.4～0.5	0.2～0.3	上：5.8(5.2) 下：6.1(5.6)	14.0	外：平織り 内：一部残存	
第103図 PL. 83	253	鉄釧	三角形	4	1　2.9 2　6.0 3　4.5 4　1.8	2.4	0.6～0.7	0.3	5.6(5.0)	6.0	不明瞭	255と接合か
第103図 PL. 83	254	鉄釧	三角形	4	1　1.7 2　6.0 3　9.9 4　3.9	2.8	0.6～0.7	0.2～0.3	5.7(5.4)	8.0	不明瞭	下端に付着する小片が６段目の痕跡の可能性
第103図 PL. 83	255	鉄釧	三角形	4	1　2.4 2　4.7 3　6.3 4　4.0	3	0.6	0.2～0.3	6.0～(5.6)	7.0	なし	253と接合か。 下端に付着する小片が６段目の痕跡の可能性
第103図 PL. 83	256	鉄釧	三角形	4	1　1.3 2　3.4 3　3.5 4　3.9	2.2	0.5～0.6	0.3	5.6(推定)	4.0	なし	
第103図 PL. 83	257	鉄釧	三角形	2	1　2.2 2　7.6	1.5	0.6	0.2～0.3	5.6(推定)	4.0	なし	258と接合か
第103図 PL. 83	258	鉄釧	三角形	1	4.0	—	0.6～0.7	0.2	—	1.0	外：平織り 内：一部残存	257と接合か
第103図 PL. 83	259	鉄釧	三角形	1	4.1	—	0.6	0.3	—	2.0	外：なし 内：内面の一部	
第103図 PL. 83	260	鉄釧	三角形	1	1.5	—	0.6～0.7	0.2	—	1.0未満	なし	
第103図 PL. 83	261	鉄釧	三角形	1	1.6	—	0.7	0.5	—	1.0未満	内：あり	
第103図 PL. 83	262	鉄釧	三角形	1	1.8	—	0.6～0.7	0.3	—	1.0未満	なし	
第103図 PL. 83	263	鉄釧	三角形	1	0.8	—	0.6	0.2	—	1.0未満	なし	
第103図 PL. 83	264	鉄釧	三角形	1	1.6	—	0.6	0.2～0.3	—	1.0未満	なし	
第103図 PL. 83	265	鉄釧	三角形	1	1.0	—	0.6	0.3	—	1.0未満	内：あり	
第103図 PL. 83	266	鉄釧	三角形	1	1.5	—	0.7	0.3	—	1.0未満	なし	
第103図 PL. 83	267	鉄釧	三角形	1	1.3	—	0.7	0.4	—	1.0未満	なし	
第103図 PL. 83	268	鉄釧	三角形	1	0.8	—	0.7	0.3	—	1.0未満	なし	

図版	番号	種別 器種	法量(mm) 長さ	幅	奥行	観察所見	①焼成　②色調 ③胎土	備考
第104・ 105図 PL. 83	269	１号 人形土器 頭部	(13.0)	(8.2)	7.5	中実の粘土塊を頭部とし、両目を刳り貫き、粘土貼り付けにより鼻・耳を表現する。額や鼻梁は高く盛り上がり、鼻端部には刺突による鼻孔表現がある。左耳を欠失するが右耳には穿孔は確認できない。頭頂部に剥離痕あり。 頸部以下は中空の壺状を呈しており、中実の頭部と空洞の胴部の接合箇所に粘土貼り付けで下唇をつけて口とする。頸部以下の残存部位では肩部等の人体表現は未確認である。 器面調整は最小限に留まり、粘土を貼り付けたままの箇所等が看取される。下唇に工具によるものと考えられるキザミ状の痕跡があるが、意図的な表現か判別し難い。赤彩等の顔料塗布はない。	①良好 ②10YR 8/4 ③輝石、砂	
第106～ 108図 PL. 83	270	２号 人形土器 頭部	(15.5)	(9.9)	7.6	中実の粘土塊を頭部とし、両目を刳り貫き、粘土貼り付けにより鼻・耳を表現する。鼻梁はやや高いが、鼻孔表現がない。左右の耳には１対の小孔を穿つ。頭頂部に粘土紐を巻き付けており、頭髪か被り物の表現と推測される。 頸部以下は中空の胴部となる。中実の頭部と空洞の胴部を接合する際に、頭部下端を窪ませて上顎とし、粘土貼り付けで下顎をつけて口とする。 胴部上端には粘土紐を貼り付けて左右の肩を表現し、左手は下降ぎみに前方に差し出している。 器面調整は主にユビナデとなる。顔面はナデ、口?接合部内面は指頭痕、胴部以下は工具ナデが観察される。赤彩等の顔料塗布はない。	①良好 ②10YR 8/3 ③輝石、砂	
第106～ 108図 PL. 83	271	２号 人形土器 胴部	最大径 14.5	底径 10.5	高さ (14.6)	壺状を呈す。厚い粘土盤を底部とし粘土の積み上げで胴部を成形する。胴部中位に最大径がある。整形では内外面えナデが看取されるが、特に内面は工具によるナデ痕跡が明瞭に残存する。内底部には工具による刺突痕跡がある。外底部面に線状や粒状の押圧痕が見られる。外面は部分的に赤変色するが顔料の塗布等はない。 胴部上半に残存する端部が看取され、穿孔の可能性が考えられる。	①良好 ②7.5YR 8/4 ③石英、砂	
第108図 PL. 83	272	２号 人形土器 頭部	(3.3)	1.7	1.0	両端が欠失するが、２号人形土器頭頂部にある粘土紐の一部か	①概ね良好 ②7.5YR 8/4 ③輝石、砂	
第108図 PL. 83	273	人形土器 腕部	(9.8)	径 2.0	—	両端を欠失するが、一方の端がゆるやかに湾曲する。他方の端部には指と推定される表現がある。胎土の様相は２号人形土器と似る。	①概ね良好 ②7.5YR 8/4 ③輝石、砂	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第108図 PL. 83	274	弥生土器 壺	—	—	(2.4)	外：折り返し口縁を中位の沈線で上下２段に分割 しキザミを施す。口縁以下はナデ 内：ナデ	①良好　②10YR 7/4 ③黒色粒子、砂	口縁部 破片	

【２号礫床墓】（596E-ST06）

位置　　東区東側北寄りにあり、７号墳の南側周溝外縁に位置する。７号墳周溝により大きく損なわれており、同墳周溝堆積覆土中にも当遺構より崩落したと考えられる礫が認められる。北西に１号礫床墓、南東に３号礫床墓がそれぞれある。

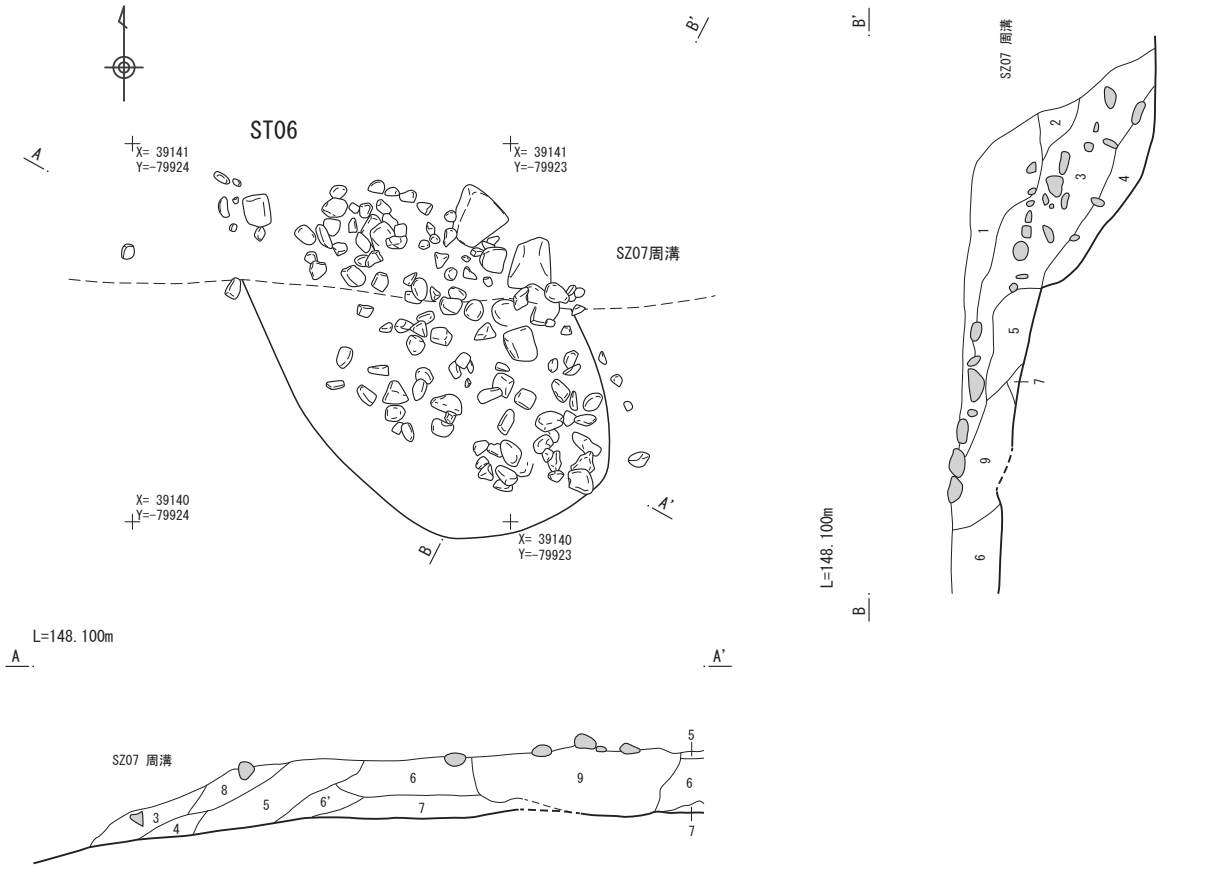
規模　　遺構確認面においてすでに礫床が露出し破壊されているものと考えられるが、関連すると思われる礫が長軸1.4m、短軸0.7mの範囲で集中していた。遺構主軸はＮ－32°－Ｗである。

構造　　詳細は不明である。

掘り方　　７号墳周溝によって北西半分を欠失するが、検出できた範囲で長軸0.7m、短軸0.8mの掘り込みがある。深さは想定される礫床より0.2mを測る。掘り方底面は標高およそ147.7mとなる。

埋土　　礫床より上位の埋土は残存せず詳細は不明であるが、掘り方内の埋土は黒褐色を呈している、しまりが強い土壌である。As-Cの混入は顕著ではない。

出土遺物　　流れ込みと考えられる須恵器片や縄文土器片以外は未検出である。



２号礫床墓(SPA-A',B-B'共通)

1	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色シルトなし。しまり強、粘性弱。
3	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。小礫多く含む。しまり強、粘性弱。
4	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ5～7cm)ブロックを含む。しまりやや強、粘性やや弱。
5	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性弱。
6	黒褐色 (10YR 2/2)	白色粒子含む。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。地山。しまり極めて強、粘性やや弱。
7	黒褐色 (10YR 2/3)	黄褐色シルト(φ2～3mm) 微量。地山。しまり極めて強、粘性やや弱。
8	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性弱。
9	黒褐色 (10YR 2/2)	白色粒子、As-YP含む。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。礫床墓の掘り方か。しまり強、粘性やや弱。

石

0　1:20　1m

（平面図・断面図）

第109図　２号礫床墓　平面図・断面図

第22表　２号礫床墓　使用礫計量表

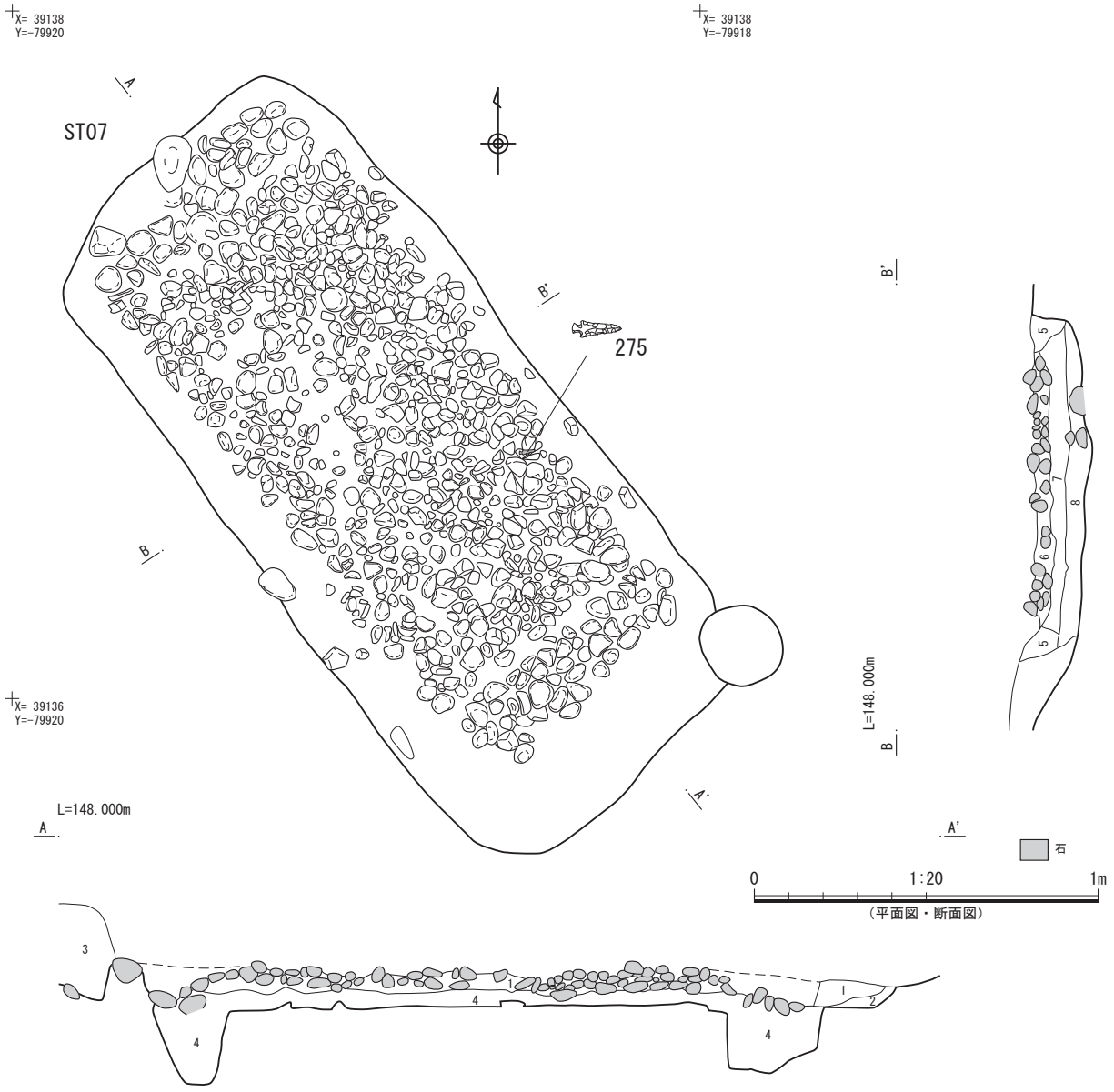
遺構種別	石種	重量					備考
		～20mm	20～50mm	50～100mm	100mm～	合計	
２号礫床墓	安山岩	0.75 kg	6.13 kg	18.60 kg	1.30 kg	26.78 kg	

【３号礫床墓】（596E-ST07）

位置　　東区東側北寄りにあり、８号墳の北西側周溝内で検出した。８号墳周溝により遺構上部が削平されている。北西に２号礫床墓がある。

規模　　長軸2.0m、短軸0.8mの範囲で長方形を呈する礫の集中を検出した。遺構の深さは、遺構検出面から礫床上面まで0.2mであり、標高は147.6mとなる。遺構主軸はＮ－38°－Ｗである。

構造　　径５cm以下の礫を長軸1.5m、短軸0.8m程の範囲に５cm程度の厚みに敷き詰めて礫床としている。また、礫床の両端には礫床面より５cmほど下がり、径５～10cmの礫を敷き詰める小口部を持つ。小口部の規模は長軸方向にそれぞれ0.2～0.25mほどで、幅は礫床幅と同様の0.8mとなる。礫床範囲と遺構の土坑状の掘り込み立ち上がりの間には幅５cm程度の隙間があり、礫の検出は目立って減少する。その痕跡は確認できていないが、有機質の棺材などが設置されたものと推測される。また、遺構の掘り込み外縁付近には10cmを超える



３号礫床墓(SPA-A',SPB-B'共通)

1	黒色（10YR 2/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
2	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量、(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性強。
3	黒褐色（10YR 2/2）	As-YP。軽石状粒子含む。As-Cなし。しまり強、粘性やや弱。
4	暗褐色（10YR 3/3）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。As-YP含む。しまりとても強、粘性やや弱。
5	黒色（10YR 2/1）	黄褐色粒子(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
6	黒褐色（10YR 3/1）	夾雑物少量を含む。しまりやや強、粘性やや弱。
7	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。細かな白色粒子(少量)。しまり強、粘性やや弱。
8	黒褐色（10YR 3/3）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。As-YPを含む。しまりとても強、粘性やや弱。

第110図　３号礫床墓　平面図・断面図

握り拳大の礫が数点確認できる。

掘り方　　長軸2.3m、短軸1.0mの長方形を呈する土坑状の掘り込みとなる。礫床から掘り方底面までは深さ0.2m内外となる。

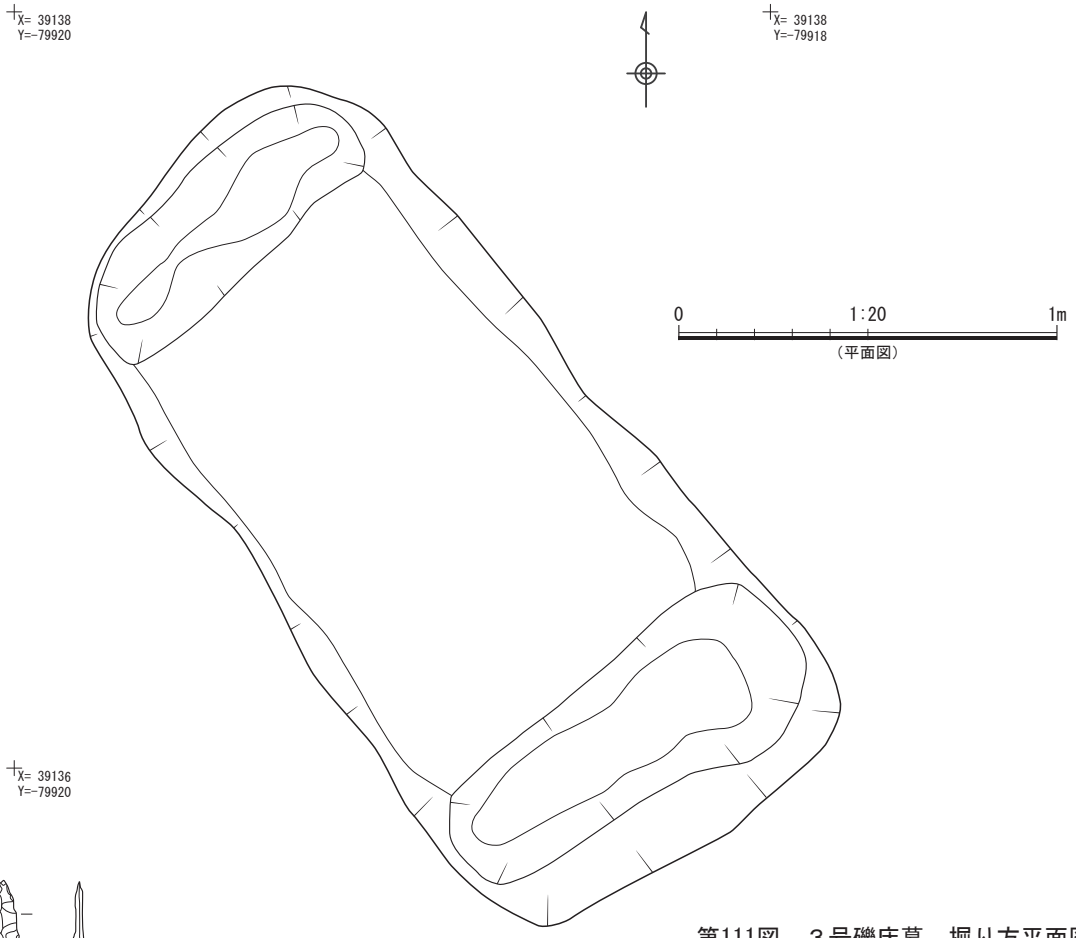
埋土　　わずかに検出した埋土は黒褐色を呈しており、As-Cの混入が確認できない。

出土遺物　　礫床上より有茎打製石鏃１点が出土している。

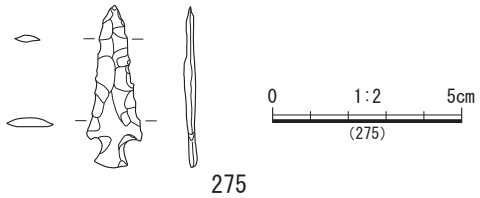
所見　　当遺跡で検出している他の礫床墓と構造そのものは大きく異なるとまでは言えないものの、礫床幅が大きく均整のとれた長方形を呈していること、礫床両端の小口部分が一段下がり、礫床よりやや大振りの礫を敷いている点など一部で差異が認められる。出土遺物は限定的なため、帰属時期等の推定に決め手を欠くものの、概ね弥生時代後期に該当する遺構と考えられる。

第23表　３号礫床墓　使用礫計量表

遺構種別	石種		重量 ～20mm	20～50mm	50～100mm	100mm～	合計	備考
３号礫床墓	安山岩	本体	1.65 kg	43.65 kg	59.60 kg	1.70 kg	106.60 kg	
		小口	kg	0.40 kg	11.60 kg	3.30 kg	15.30 kg	
		小計	1.65 kg	44.05 kg	71.20 kg	5.00 kg	121.90 kg	



第111図　３号礫床墓　掘り方平面図



275

第112図　３号礫床墓　出土遺物実測図

第24表　３号礫床墓　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第112図 PL.84	275	石鏃	4.3	1.4	4.0	1.8	安山岩	有茎石鏃	

【４・５号礫床墓】（596E-ST08・09）

位置　東区中央北寄りに位置している。北に７号墳や１号礫床墓、東に８号墳、南西に２号土坑墓がそれぞれある。本遺構は２基の礫床が並列して構築されており、複数の主体部により構成される同一単位の墓であると考えられるが、本報告では便宜上、西側を４号礫床墓（ST08）、東側を５号礫床墓（ST09）とする。なお、両遺構は近世以降のAs-A処理遺構によりその一部を欠失する。

規模　４号礫床墓では、長軸2.0m、短軸0.6mの範囲で細長い長方形を呈する礫の集中範囲を検出した。遺構の深さは、遺構検出面から礫床上面まで0.15mであり、礫床上面の標高は148.7mとなる。遺構主軸はＮ－37°－Ｗである。

一方、５号礫床墓では、長軸1.5m、短軸0.6mの範囲で長方形を呈する礫の集中を検出した。遺構の深さは、遺構検出面から礫床上面まで0.25mであり、標高は148.6mとなる。遺構主軸はＮ－31°－Ｗである。

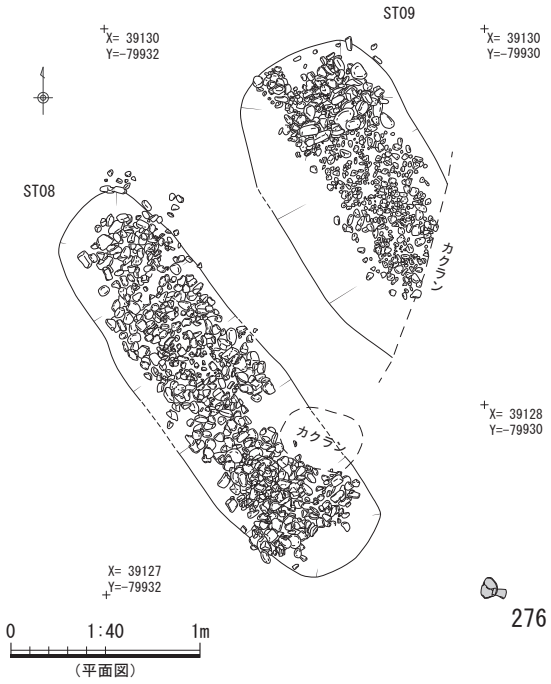
構造　４号礫床墓は、土坑状の掘り込み内部に５cm内外の礫を多量に敷き詰めて床面を形成する。礫床の厚さは10cm程度だが、両端部には５～10cm程の礫が礫床レベルより高く重なっている。５号礫床墓は、土坑状の掘り込み内部に２～３cmの小振りの礫を敷き詰めて床面を形成する。礫床の厚さは10cm内外であり、両端部には５～10cm程の礫が礫床レベルより高く重なっている。両遺構とも木質材等による構造物が想定されたが未検出である。

掘り方　４号礫床墓は、長軸2.4m、短軸0.7mの長方形を呈する土坑状の掘り込みとなる。礫床から掘り方底面までは深さ0.3m内外となる。遺構の小口方向にはそれぞれ楕円形のピットが構築されるが、小口端部ではなく、やや遺構の中程に寄っている。５号礫床墓は、長軸1.4m、短軸0.9mの長方形を呈する土坑状の掘り込みとなる。礫床から掘り方底面までは深さ0.2m程度となる。遺構の北側小口端部には楕円形のピットが構築される。遺構の南半分を欠失するため南側小口ピットは未検出である。

埋土　両遺構に共通して埋土は黒褐色を基調とし、As-Cを混入しない。

出土遺物　遺構内からは縄文土器、弥生土器の小片が少量出土している。遺構外となるが、両遺構の中間線の南東延長線上に赤彩された高坏１点が横位の状態で検出された。

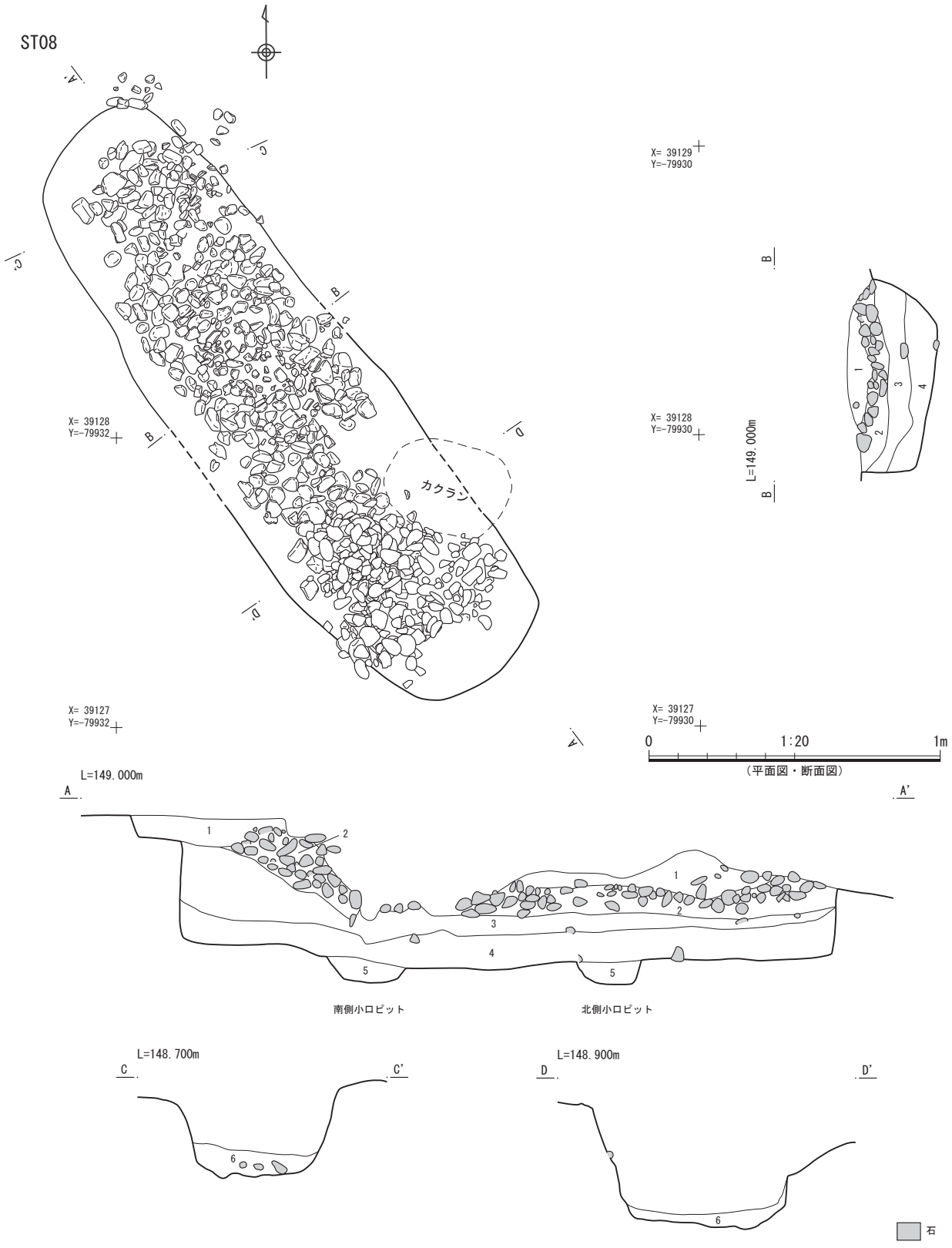
所見　礫床墓の構造や遺構内外の出土遺物の様相から弥生時代後期に属すると考えられる。本遺跡では並列して構築されて礫床墓としては唯一である。



第113図　４・５号礫床墓　検出状況図

第25表　４・５号礫床墓　使用礫計量表

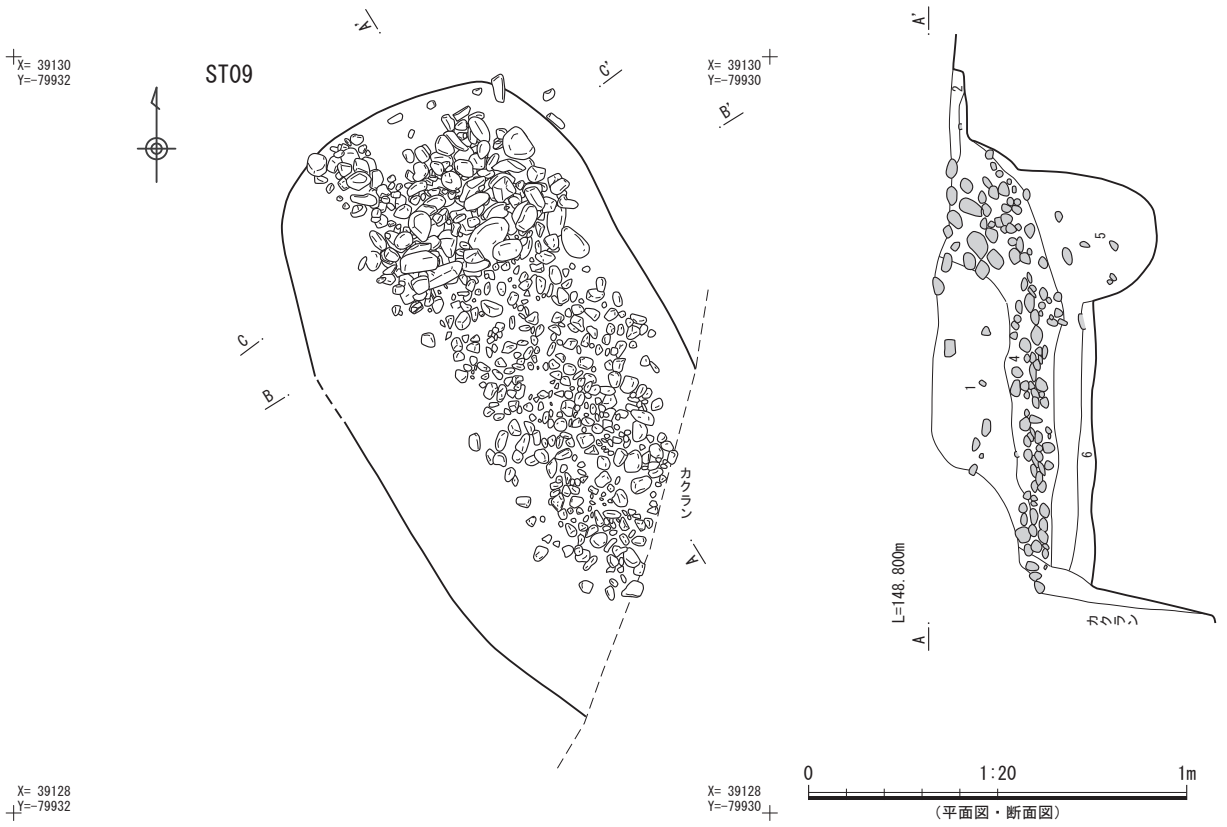
遺構種別	石種		重量 ～20mm	20～50mm	50～100mm	100mm～	合計	備考
４号礫床墓	安山岩	本体	0.85 kg	20.90 kg	101.65 kg	kg	123.40 kg	
		掘方	0.15 kg	3.45 kg	7.30 kg	kg	10.90 kg	
		小計	1.00 kg	24.35 kg	108.95 kg	kg	134.30 kg	
５号礫床墓	安山岩	本体	7.45 kg	36.05 kg	32.10 kg	kg	75.60 kg	
		小口	0.50 kg	4.15 kg	2.30 kg	kg	6.95 kg	
		掘方	0.20 kg	1.65 kg	2.20 kg	kg	4.05 kg	
		小計	8.15 kg	41.85 kg	36.60 kg	kg	86.60 kg	



４号礫床墓(SPA-A',B-B',C-C',D-D'共通)

1	黒褐色 (10YR 2/2)	白色軽石状粒子やや多く含む。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
2	礫層	
3	黒褐色 (10YR 3/2)	粒子の細かな土でφ2～3mmの白色軽石状粒子を含む。As-YP僅かに含む。
4	暗褐色 (10YR 3/3)	ローム微粒子。ローム小ブロックを含む土。白色軽石状粒子を少量含む。As-YP含む。
5	黒褐色 (10YR 2/2)	粒子細かく、白色軽石状粒子(As-YP)を含む黒色土を主体にし、φ1～2cmのロームブロック、褐色土を含む。φ3～4cmの円礫を含む。
6	黒褐色 (10YR 2/2)	粒子細かく、白色軽石状粒子(As-YP)を含む黒色土を主体にし、φ1～2cmのロームブロック、褐色土を含む。φ3～4cmの円礫を含む。

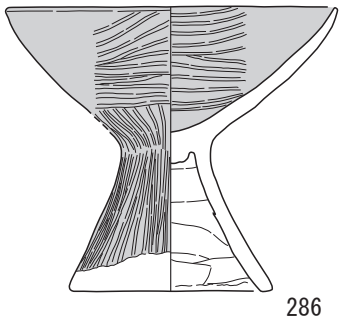
第114図　４号礫床墓　平面図・断面図



５号礫床墓(SPA-A',B-B'共通)
1　黒褐色（10YR 2/2）　軽石状白色粒子(φ2～3mm)少量。As-YP少量を含む。小礫を含む。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　軽石などは未確認。遺構外か。しまり強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 2/2）　As-A混。根っこ。しまりやや弱、粘性弱。
4　礫層
5　暗褐色（10YR 3/3）　粒子細かい土で、黒色土・ローム微粒子(φ2～3mm)の白色粒子含む。φ2～3cmの小円礫含む。小ロピット内はしまりやや弱。
6　にぶい黄褐色（10YR 4/3）ローム微粒子・As-YPを含む。

石

第115図　５号礫床墓　平面図・断面図

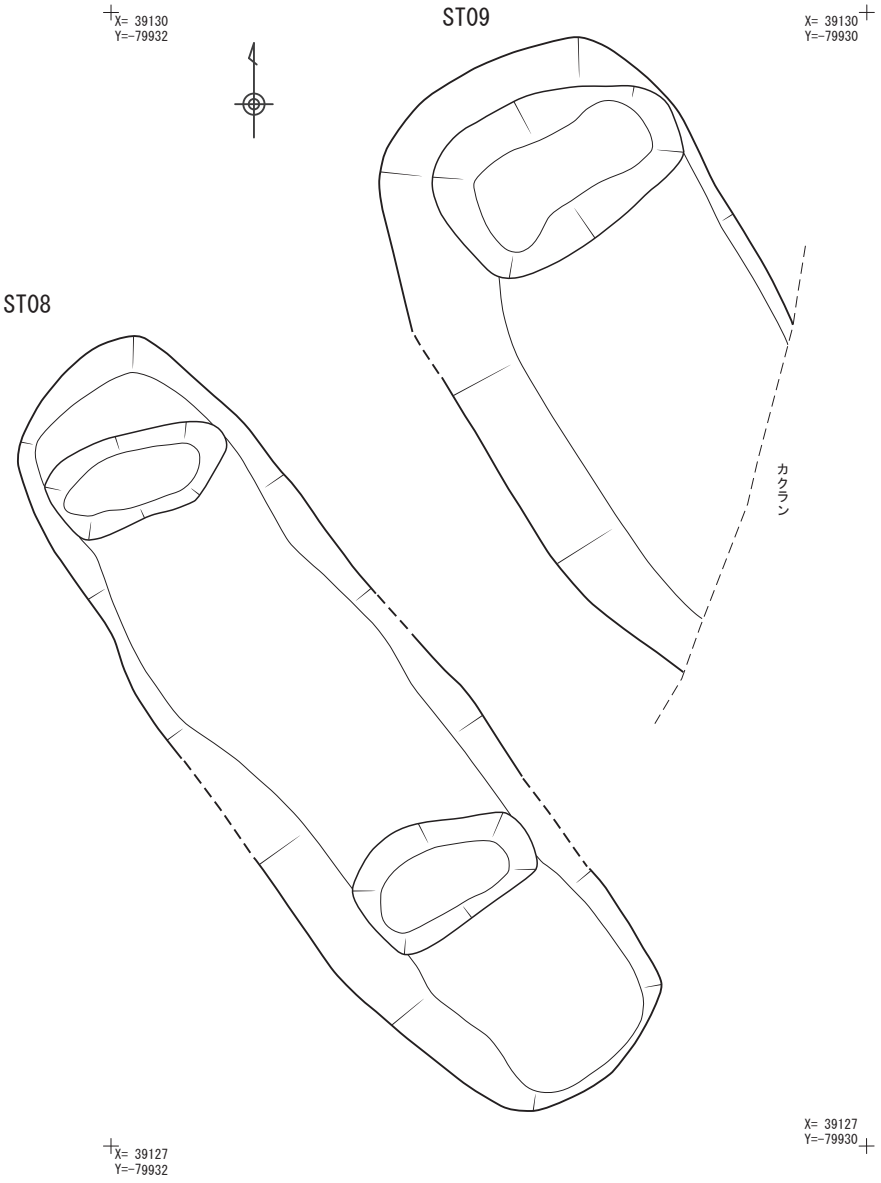


286

第116図　４・５号礫床墓　出土遺物実測図

第26表　４・５号礫床墓　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm)			成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
			口径	底径	器高				
第116図 PL.84	276	弥生土器 高坏	13.2	8.0	11.3	外：坏部は横位、脚部を縦位を中心にミガキがなされ、赤彩される。 内：坏部横位にミガキ、赤彩される。脚部ナデ、非赤彩。接合の臍が観察される	①良好　②10R 4/8 ③白色粒子、砂(多)	2/3	



第117図　４・５号礫床墓　掘り方平面図

【６号礫床墓】（718-ST02）

位置　　北東区西側北寄りに位置する。７号墳南東の周溝外側より検出されており、７号墳構築時に遺構の北西半分を欠失したと考えられる。南に３号礫床墓がある。

規模　　検出した範囲では、長軸0.8m、短軸0.6mで礫が集中する。遺構の北西部を欠失するが、本来の形状は細長い長方形もしくは長楕円形であったことが推測される。遺構の深さは、礫検出の最上位から礫床上面で0.18mであり、標高は147.3mとなる。遺構主軸はＮ－57°－Ｗである。

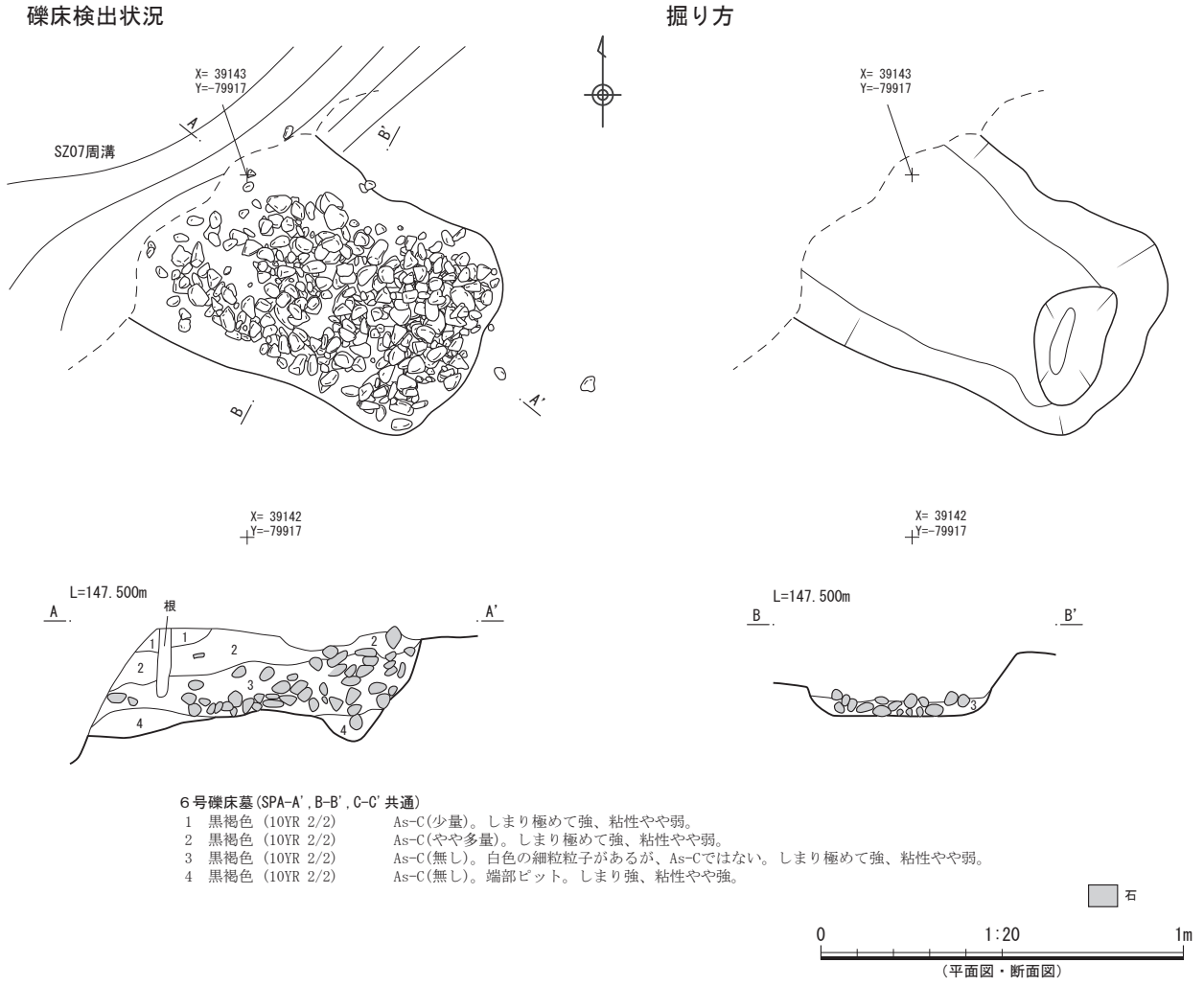
構造　　土坑状の掘り込み内部に２～５cm程度の礫を多量に敷き詰めて床面を形成する。礫床の厚さは５cm程度で、遺構端部では礫床レベルより高く礫が重なっている。木質材等による構造物が想定されたが未検出である。

掘り方　　長軸0.9m、短軸0.7mの長方形を呈する土坑状の掘り込みとなる。礫床から掘り方底面までは浅く、深さ0.1m以内となる。遺構の小口には不整円形のピットが構築される。

埋土　　黒褐色を基調とし、埋土上位層にはAs-Cが含まれる。

出土遺物　　遺構内部から弥生時代後期の樽式期に該当する小型の台付甕や甕、赤彩された鉢や壺口縁の破片などが出土している。

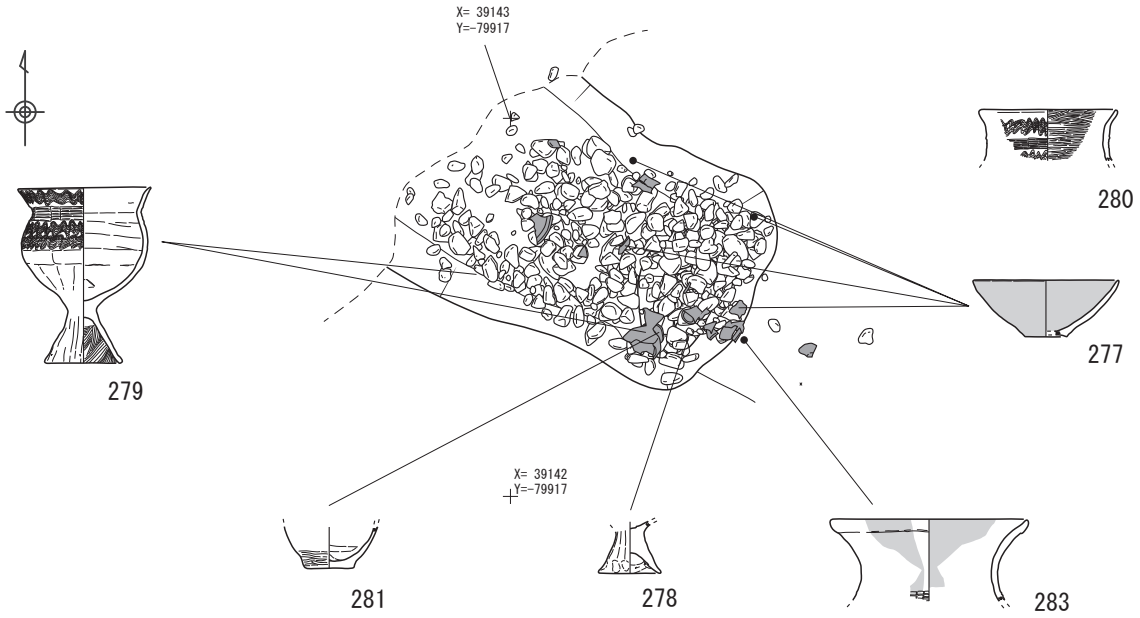
所見　　出土遺物の様相から弥生時代後期に帰属する遺構と考えられる。遺構内出土の遺物は礫床直上ではなく間層を挟むことから、本来は遺構外に置かれたものが流入したものと想定される。



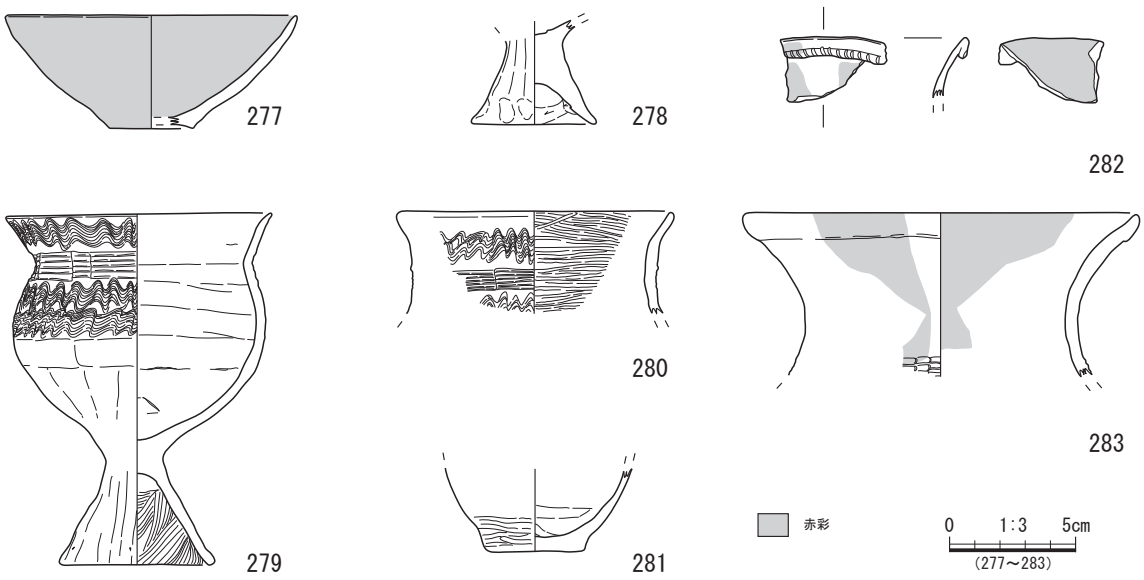
第118図　６号礫床墓　平面図・断面図

第27表　６号礫床墓　使用礫計量表

遺構種別	石種	重量					備考
		～20mm	20～50mm	50～100mm	100mm～	合計	
６号礫床墓	安山岩	0.05 kg	11.75 kg	27.05 kg	kg	38.85 kg	



第119図　６号礫床墓　出土遺物分布図



第120図　６号礫床墓　出土遺物実測図

第28表　６号礫床墓　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第120図 PL.84	277	弥生土器 坏	11.4	3.5	4.5	外：横や斜めミガキ、口縁～体部は赤彩、底面のみ非赤彩 内：横や斜めミガキ、全面赤彩	①良好 ②7.5YR 4/6 ③砂	1/2	
第120図 PL.84	278	弥生土器 台付甕	—	5.0	(4.3)	外：ナデ 内：ナデ	①概ね良好 ②5YR 5/6　③砂	脚部 破片	
第120図 PL.84	279	弥生土器 小型台付甕	10.7	6.4	13.8	外：外傾する口縁には櫛描波状文１単位、頸部に２連止め簾状文、頸部以下に２単位の波状文が施される。胴部～脚部はナデ 内：ハケ状工具によるナデ。脚部内面にも明瞭に残る	①概ね良好 ②7.5YR 5/4 ③輝石、砂	ほぼ完形	
第120図 PL.84	280	弥生土器 甕	【10.2】	—	(4.1)	外：口縁に櫛描波状文、頸部に櫛描簾状文を施文。頸部以下にも波状文がある 内：横にミガキ	①良好 ②5YR 5/3 ③砂	口縁部 破片	
第120図 PL.84	281	弥生土器 壺	—	3.9	(3.8)	外：ミガキ 内：ナデ	①良好　②7.5YR 5/4 ③石英、砂	底部 破片	
第120図 PL.84	282	弥生土器 壺	—	—	—	外：口縁折り返し、口唇端部にキザミ。器面はナデ。口縁端部より一定間隔で縦に筋状の赤彩 内：ミガキ。口縁から頸部全面に赤彩	①良好 ②5YR 5/6 ③砂	口縁部 破片	
第120図 PL.84	283	弥生土器 壺	【15.8】	—	(6.3)	外：口縁折り返し、頸部に櫛描簾状文を施す。器面はナデ。口縁端部より一定間隔で縦に筋状の赤彩 内：ミガキ。口縁から頸部全面に赤彩	①良好 ②5YR 5/6 ③砂	口縁部 破片	

【７号礫床墓】（718-ST03）

位置　　東区東端やや北寄りに位置する。近世以降のAs-A処理遺構に一部を壊される。

規模　　長軸2.0m、短軸0.5mで礫が集中する。細長い長方形もしくは長楕円形を呈している。遺構の深さは、礫検出の最上位から礫床上面で0.15mであり、標高は146.6mとなる。遺構主軸はＮ－57°－Ｗである。

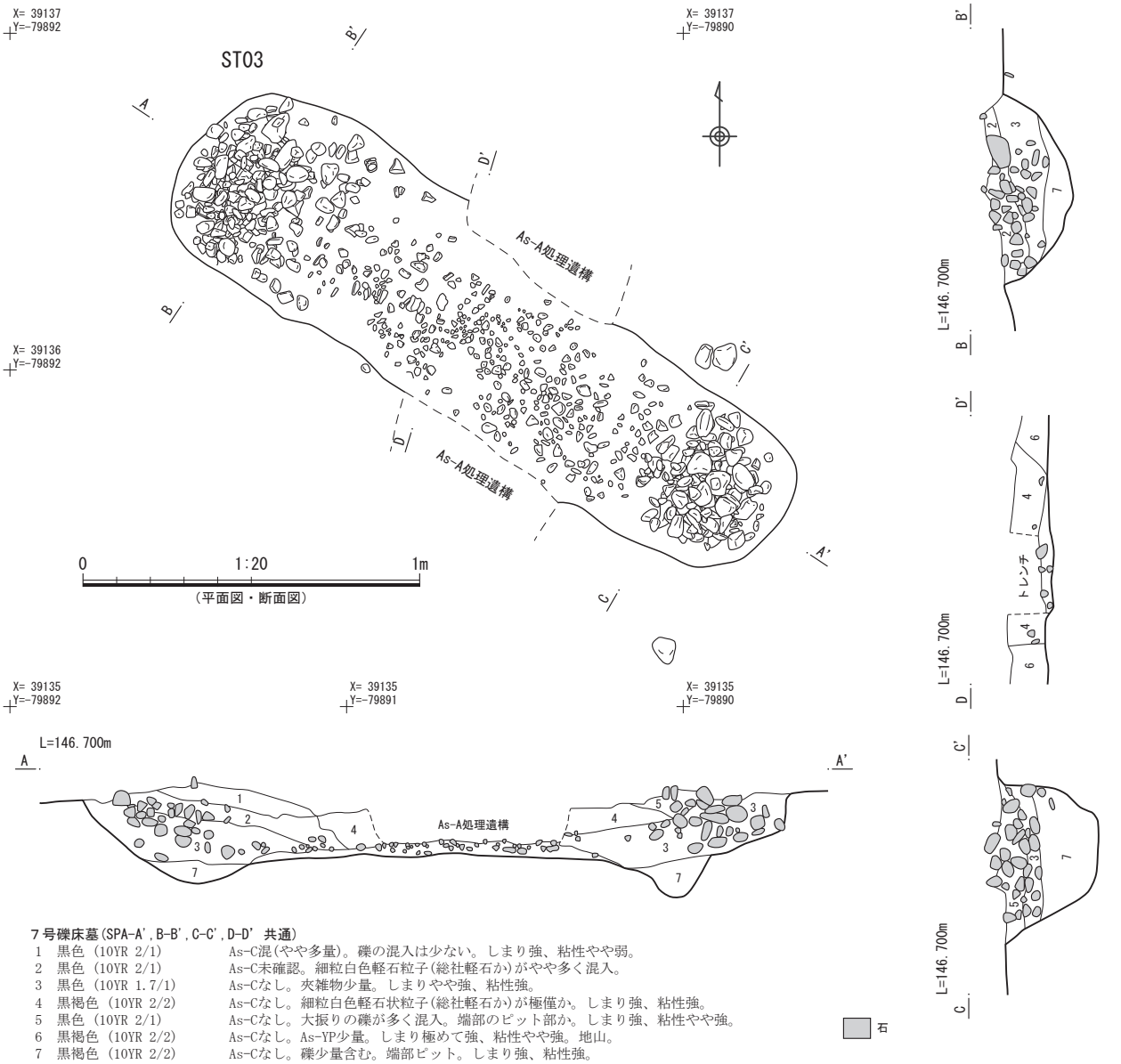
構造　　土坑状の掘り込み内部に５cmに満たない礫を敷き詰めて床面を形成する。礫床の厚さは５cm程度で、遺構両端小口部では、５～10cmの礫を礫床レベルより高く重ねている。木質材等による構造物が想定されたが未検出である。

掘り方　　長軸2.1m、短軸0.6mの長方形を呈する土坑状の掘り込みとなる。礫床から掘り方底面までは浅く、礫床以下はすぐさま地山となる。遺構の両端小口部には不整円形のピットが構築される。

埋土　　黒色および黒褐色を基調とし、最上位層にのみAs-Cがやや多く混入する。

出土遺物　　なし

所見　　遺物の出土はないが、構造の類似などから弥生時代後期に属すと推定される。



７号礫床墓(SPA-A',B-B',C-C',D-D' 共通)

1	黒色（10YR 2/1）	As-C混(やや多量)。礫の混入は少ない。しまり強、粘性やや弱。
2	黒色（10YR 2/1）	As-C未確認。細粒白色軽石粒子(総社軽石か)がやや多く混入。
3	黒色（10YR 1.7/1）	As-Cなし。夾雑物少量。しまりやや強、粘性強。
4	黒褐色（10YR 2/2）	As-Cなし。細粒白色軽石状粒子(総社軽石か)が極僅か。しまり強、粘性強。
5	黒色（10YR 2/1）	As-Cなし。大振りの礫が多く混入。端部のピット部か。しまり強、粘性やや強。
6	黒褐色（10YR 2/2）	As-Cなし。As-YP少量。しまり極めて強、粘性やや強。地山。
7	黒褐色（10YR 2/2）	As-Cなし。礫少量含む。端部ピット。しまり強、粘性強。

第121図　７号礫床墓　平面図・断面図

第29表　７号礫床墓　使用礫計量表

遺構種別	石種	重量					備考
		～20mm	20～50mm	50～100mm	100mm～	合計	
７号礫床墓	安山岩	3.85 kg	34.00 kg	22.05 kg	kg	59.90 kg	

（３）竪穴建物跡

今回の調査では、竪穴建物跡25軒を確認している。時期別に内訳をみると、縄文時代５軒、弥生時代後期２軒、古墳時代前期８軒、中～後期７軒、古代３軒となる。

おおまかには、縄文時代および古代の建物跡は西区に多く見られ、弥生時代ならびに古墳時代は東区に分布する傾向が看取される。

以下では、調査順に付番した遺構毎に詳述する。

【１号竪穴建物跡】（596W-SI01）

位置　西区西側の南端で検出した。近現代の耕作痕により遺構の中央を欠失する。

形状・規模　やや不整な隅丸方形を呈す。長軸3.1m、短軸3.1mを測る。遺構を確認した面においてすでに遺構の床面が露出ないしは一部はすでに削り込まれている状況であった。

主軸　Ｎ－160°－Ｗ

埋土　黒褐色を基調とし、ローム粒子を混入する。全体的にしまりは強く、粘性はやや弱い。

燃焼施設　南西隅にカマドを造り付ける。検出時にはほぼ破壊されており、カマド周囲の床面には焼土が散見された。

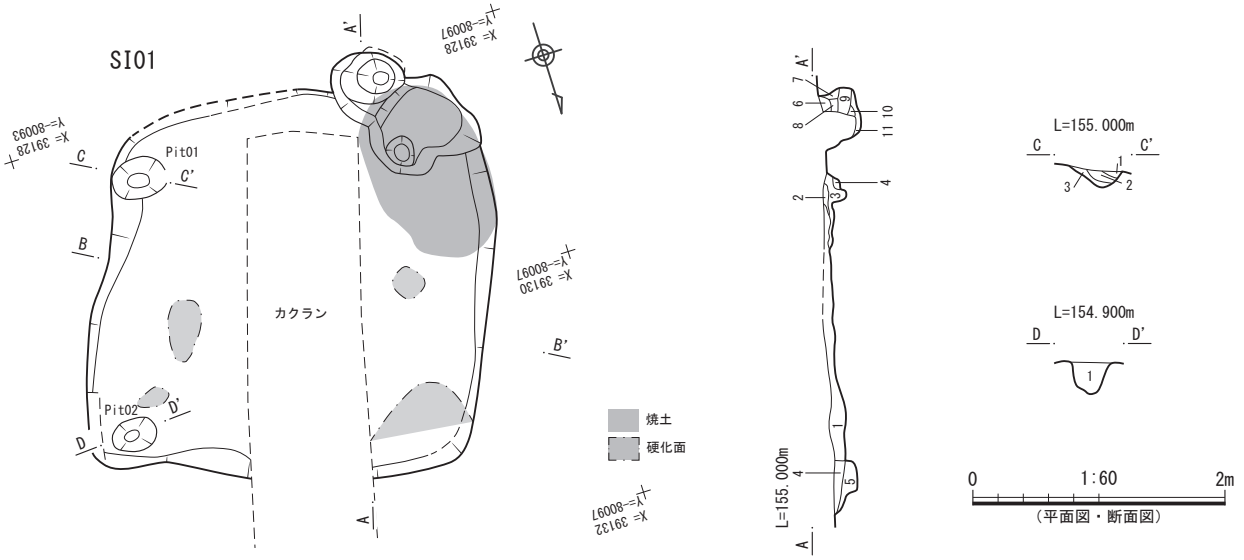
柱穴・土坑　残存は明瞭でないが、遺構内東側でピット１およびピット２を検出した。埋土はいずれも黒色土や黒褐色土であり、ローム粒子が混入していた。

床面　ロームを多量に含む土壌で貼床を施していると考えられ、部分的に硬化面が確認できる。

掘り方　遺構中央が僅かに高く掘り残される。

出土遺物　土師器甕や坏、須恵器の甕などが出土しているほか、流れ込みの縄文土器や黒曜石剥片、弥生土器が散見される。

所見　遺構の残存は良好ではないが、出土遺物の様相から本遺構は６世紀後半に属するものと考えられる。



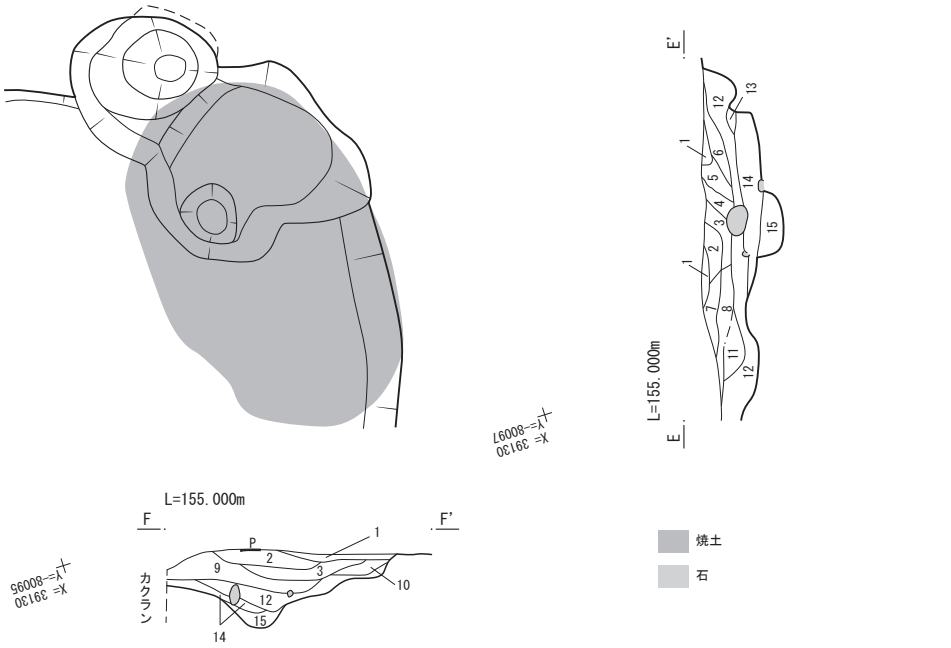
１号竪穴建物跡(SPC-C')
Pit01
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム粒子(φ1～2mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性強。

１号竪穴建物跡(SPD-D')
Pit02
1　黒色（10YR 2/1）　ローム粒子(φ2～5mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや弱。

１号竪穴建物跡(SPA-A')
1　灰黄褐色（10YR 4/2）　As-A混。ローム粒子含む。しまり強、粘性弱。カクラン。
2　黒褐色（10YR 2/2）　ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～3mm)少量、ブロック(φ2～3cm)やや少量。炭化物含む。焼土僅かに含む。しまり強、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 3/1）　ローム粒子(φ2～3mm)やや少量、ブロック(φ2～3cm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。上面が床か。
5　にぶい黄褐色（10YR 5/4）　ローム主体。黒色土混在。掘り方。しまり強、粘性やや弱。
6　褐色（10YR 4/4）　ロームと黒色土が混在。カマド天井の崩落土か。焼土僅かに含む。しまり強、粘性やや弱。
7　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム主体。カマド天井か。しまり強、粘性やや弱。
8　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)少量。焼土(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
9　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～3mm)やや多量。焼土(φ3～5mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
10　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)多量。焼土(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。
11　褐色（10YR 4/6）　ローム主体。しまりやや強、粘性やや強。

１号竪穴建物跡(SPB-B')
1　灰黄褐色（10YR 4/2）　As-A混。カクラン。ロームブロック(φ5cm)含む。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5cm)多量。貼床。しまりやや強、粘性やや弱。

第122図　１号竪穴建物跡　平面図・断面図

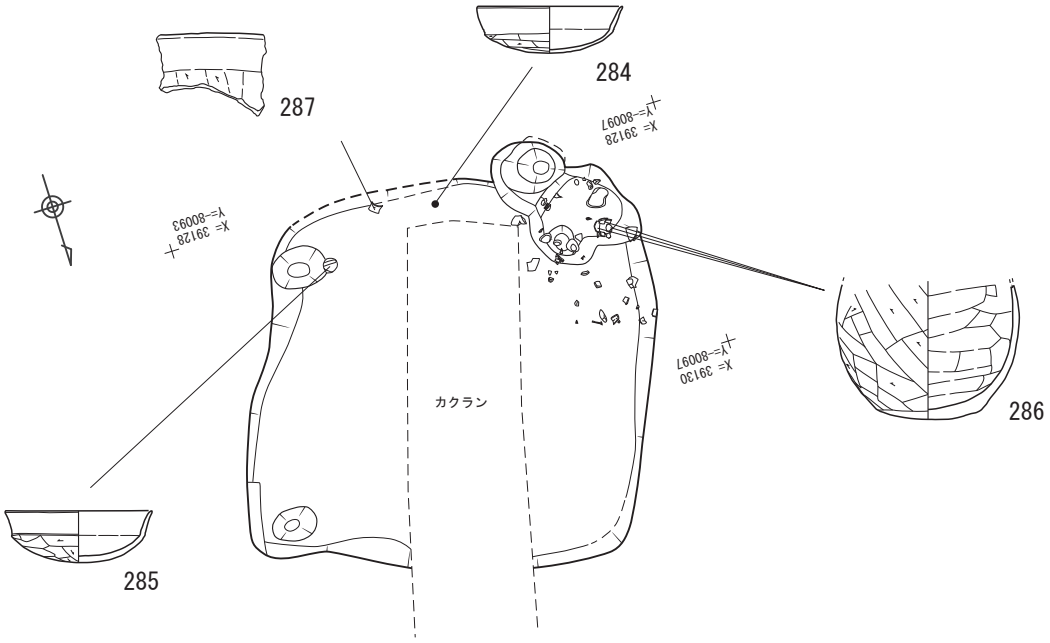


１号竪穴建物跡(SPE-E',F-F'共通)

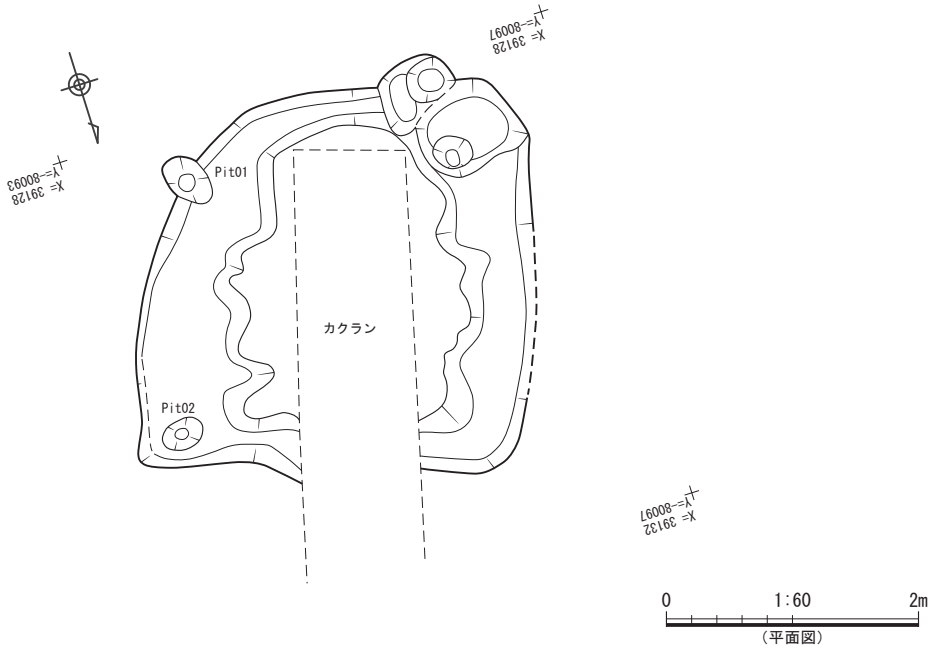
1	灰黄褐色 (10YR 4/2)	As-A混。カクラン。しまりやや強、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	焼土粒子(φ2～3mm)やや多量。ローム粒子(φ3～5mm)少量。しまり強、粘性弱。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	焼土粒子(φ2～3mm)やや多量。炭化物少量を含む。ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
4	黒褐色 (10YR 3/2)	焼土粒子(φ2～3mm)やや少量。ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	焼土粒子(φ3～5mm)やや多量。ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
6	黒褐色 (10YR 3/1)	焼土粒子(φ2～3mm)やや多量。ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性強。
7	黒褐色 (10YR 3/2)	焼土粒子(φ1～2mm)やや多量。ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
8	黒色 (10YR 2/1)	焼土粒子(φ2～3mm)少量。ローム粒子(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
9	黒褐色 (10YR 3/2)	焼土粒子(φ1～2mm)やや多量。ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
10	黒褐色 (10YR 3/2)	焼土粒子(φ3～5mm)少量。ローム粒子(φ3～5mm)少量。しまり強、粘性弱。
11	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	ローム(φ3～5mm、φ2～3cm)多量。しまり強、粘性やや弱。
12	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ2～3mm)やや多量、ブロック(φ3～5cm)やや少量。焼土少量を含む。しまり強、粘性弱。
13	褐色 (10YR 4/6)	ローム主体。しまり強、粘性やや弱。
14	黒褐色 (10YR 3/2)	ロームブロック(φ3～5cm)多量。しまり強、粘性やや弱。
15	暗褐色 (10YR 3/3)	ローム(φ3～5cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。

0　1:30　1m
（炉　平面図・断面図）

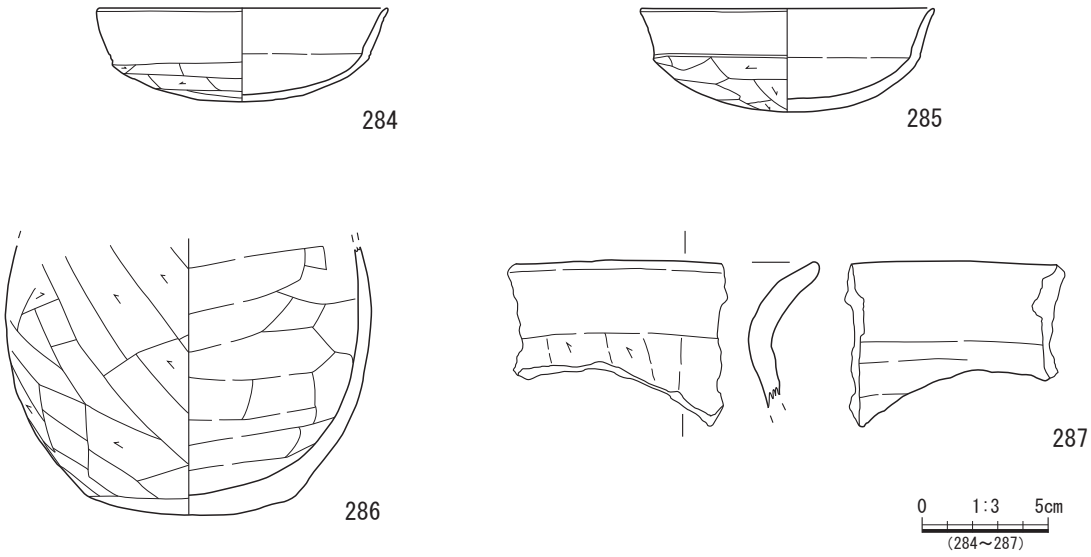
第123図　１号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図



第124図　１号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第125図　１号竪穴建物跡　掘り方平面図



第126図　１号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第30表　１号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第126図 PL.84	284	土師器 坏	11.6	—	3.7	外：口縁ナデ、体～底部ヘラケズリ 内：ナデ	①良好　②5YR 7/8 ③砂	1/2	
第126図 PL.84	285	土師器 坏	11.6	—	4.1	外：口縁ナデ、体～底部ヘラケズリ 内：ナデ	①良好　②5YR 7/6 ③砂	ほぼ完形	
第126図 PL.84	286	土師器 甕	-	8.0	(10.8)	外：胴部ヘラケズリ 内：工具ナデ	①良好　②7.5YR 7/4 ③長石、小礫多い	胴部 破片	
第126図 PL.84	287	土師器 甕	—	—	—	外：口唇～口縁ナデ。頸部以下ケズリ 内：ナデ	①良好　②7.5YR 5/3 ③結晶片岩、長石	口縁部 破片	

【２号竪穴建物跡】（596W-SI02）

位置　　西区中央の南端で検出した。近現代の耕作痕により遺構の中央を欠失する。

形状・規模　　やや不整な隅丸方形を呈している。長軸3.0m、短軸2.8mを測る。遺構確認面から床面までの深さは約0.2mであり、標高は154.4mとなる。

主軸　　Ｎ－38°－Ｅ

埋土　　黒色および黒褐色を基調とし、ローム粒子やAs-C、As-YPを含む。

燃焼施設　　北東壁にカマドを設ける。焼土、炭が検出された。上半分は失われているが、両袖部の基部など一部の残存が認められる。黄色ロームと黒色土壌を混和させたものを主たる構築材としている。西の内壁に設置された直立する礫は煙道の補強を目的としたものであろうか。

貯蔵穴　　カマドの東脇に設けている。

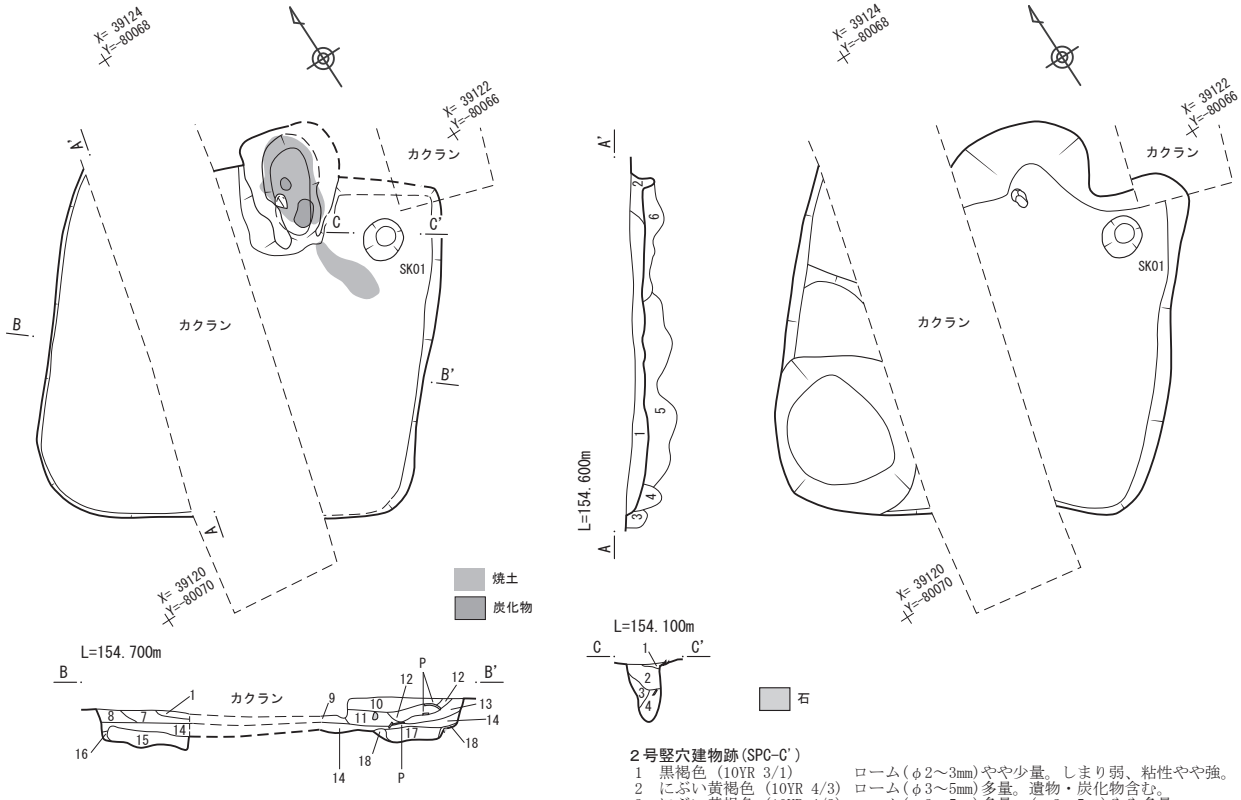
柱穴・土坑　　柱穴は未確認である。

床面　　明瞭な硬化面は未検出だが、黄色ロームと黒色土を混在させる貼床を施している。

掘り方　　床面では認識できなかったが、掘り方面において東壁付近および南西隅で土坑状に窪む箇所が見受けられた。床下土坑であったと考えられる。

出土遺物　　土師器甕や坏、須恵器の蓋坏などが出土している他、流れ込みの縄文土器や黒曜石剥片、弥生土器が散見される。土師器甕は長胴と球胴がある。模倣坏は少し下る可能性があるが、須恵器蓋坏坏身は陶邑編年TK-43並行と考えられる。

所見　　遺構の残存は良好ではないが、出土遺物の様相から本遺構は６世紀後半に属するものと考えられる。



２号竪穴建物跡(SPC-C')

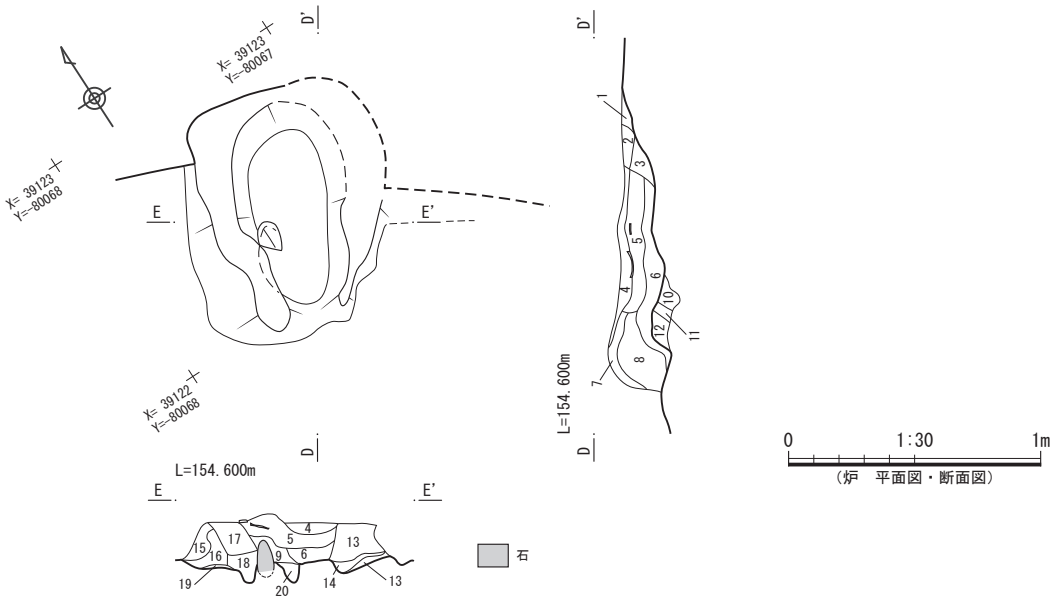
1	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり弱、粘性やや強。
2	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	ローム(φ3～5mm)多量。遺物・炭化物含む。
3	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	ローム(φ3～5mm)多量、(φ2～5cm)やや多量。
4	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ2～3mm)やや多量。遺物含む。

２号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)

1	黒色（10YR 2/1）	ローム粒子(φ3～5mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒褐色（10YR 3/2）	ローム粒子(φ2～3mm)やや多量、ブロック(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性やや弱。
3	黒褐色（10YR 3/2）	ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。掘り方
4	黒褐色（10YR 3/2）	ローム粒子(φ3～5mm)やや多量。礫含む。しまりやや強、粘性やや弱。掘り方
5	黒色（10YR 2/1）	ローム粒子(φ3～5mm)多量、ブロック(φ2～3cm)多量。しまり強、粘性強。掘り方
6	黒褐色（10YR 3/2）	ローム粒子(φ2～3mm)やや多量、ブロック(φ5～7cm)多量。しまり強、粘性弱。
7	黒色（10YR 2/1）	As-C混。ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
8	黒褐色（10YR 3/2）	ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性弱。
9	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
10	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。ローム粒子(φ2～3mm)やや多量、ブロック(φ5～7cm)少量。しまり強、粘性やや強。
11	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。ローム粒子(φ1～2mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
12	黒色（10YR 2/1）	ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。焼土(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
13	黒褐色（10YR 3/1）	ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。As-YP・小礫を含む。しまり強、粘性やや弱。
14	黒色（10YR 2/1）	ローム(φ2～3mm)やや多量、ブロック(φ2～3cm)多量。しまり強、粘性やや強。
15	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ2～3mm)やや多量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや弱。
16	暗褐色（10YR 3/3）	ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。
17	黒褐色（10YR 3/2）	ローム(φ2～3mm)やや多量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。床下土坑か。
18	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	ローム(φ2～3mm)やや少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや弱。

0　1:60　2m
（平面図・断面図）

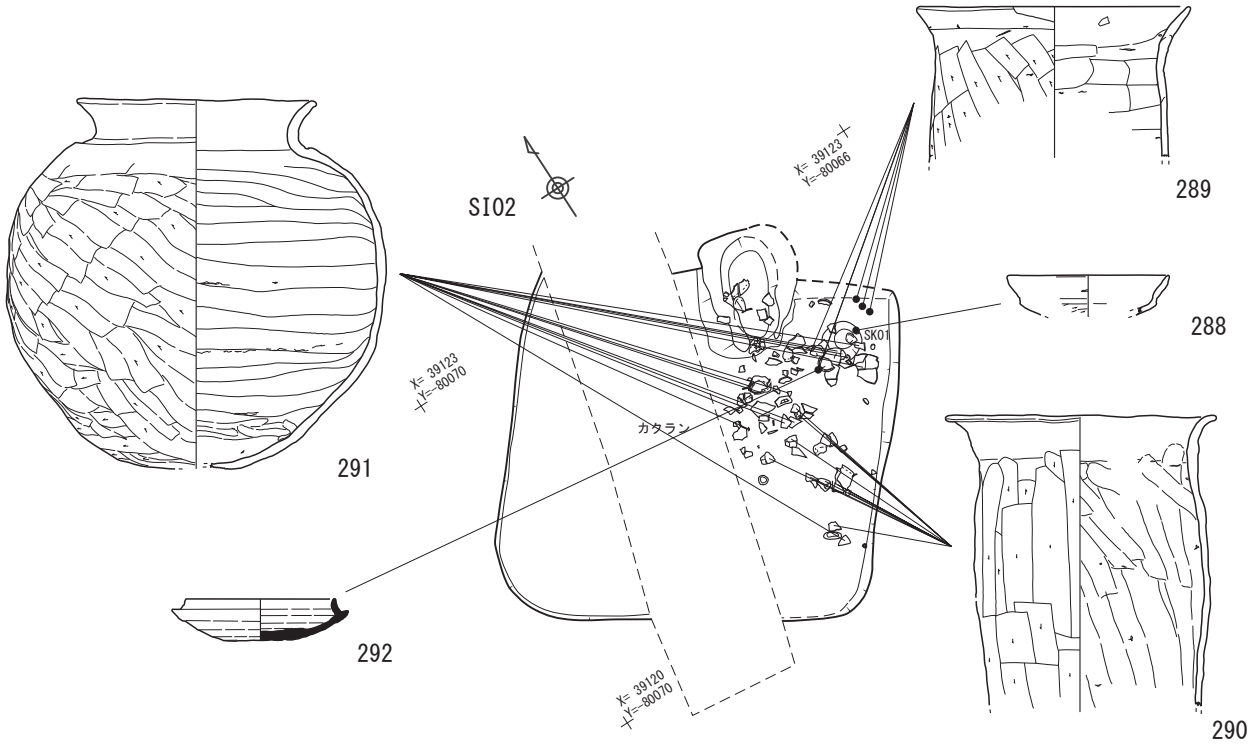
第127図　２号竪穴建物跡　平面図・断面図



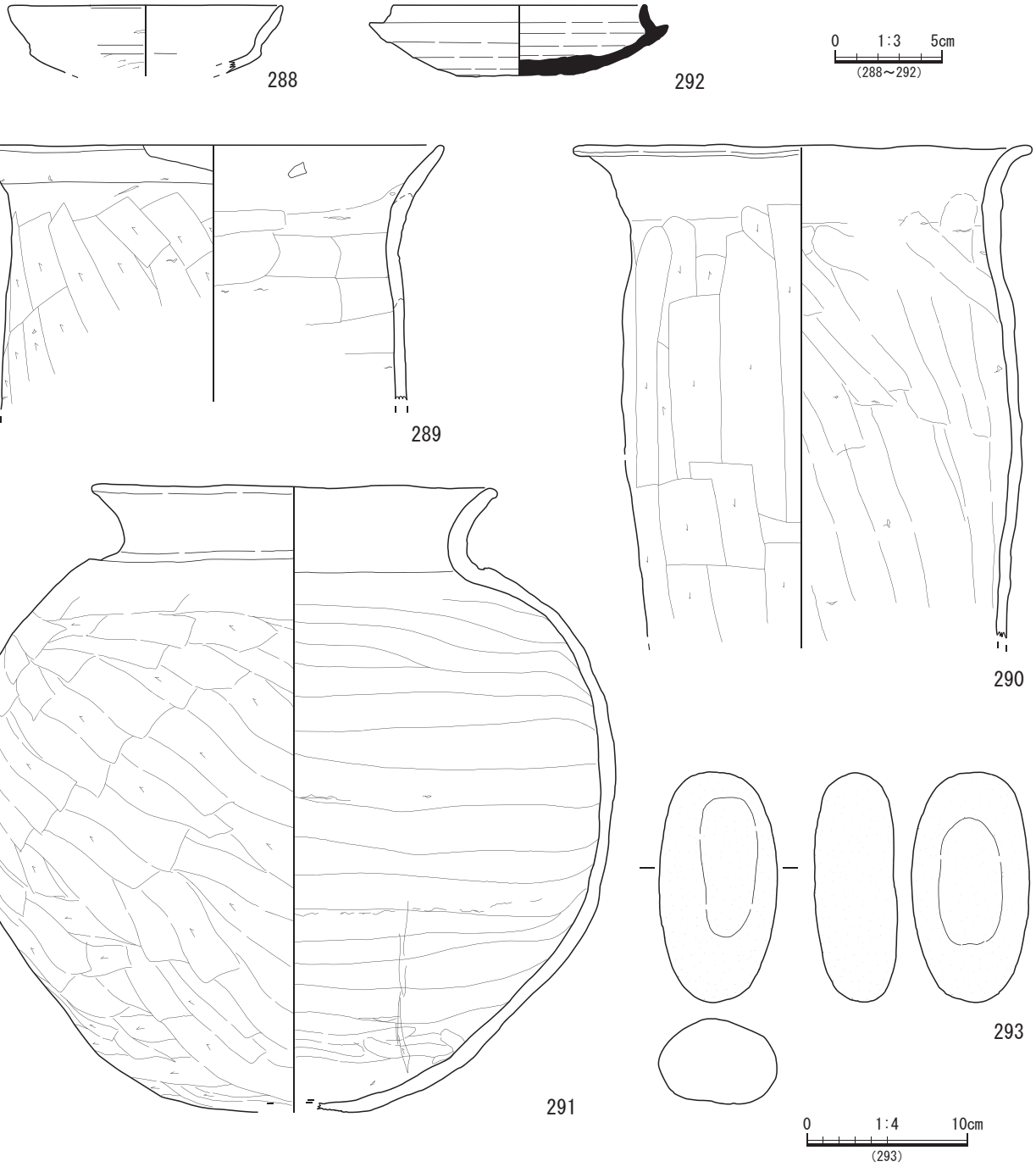
２号竪穴建物跡(SPD-D',E-E'共通)

1	黄褐色 (10YR 5/6)	ローム主体。黒色土僅かに含む。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	焼土(φ1～2mm)少量。炭化物僅かに含む。ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
3	褐色 (10YR 4/4)	ローム多く充填。焼土(φ1～2mm)微量。しまり強、粘性弱。
4	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	焼土(φ2～3mm)やや多量。ローム(φ1～2mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
5	黒褐色 (10YR 3/2)	焼土(φ3～5mm)多量。炭化物少量。灰僅かに含む。ローム(φ1～2mm)微量。しまりやや強、粘性弱。
6	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	焼土(φ1～2mm)微量。ローム(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
7	灰黄褐色 (10YR 4/2)	ローム(φ2～5mm)やや多量。As-YP含む。黒色土含む。しまり強、粘性弱。
8	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
9	黒褐色 (10YR 3/2)	焼土(φ1～2mm)やや少量。ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
10	黒色 (10YR 2/1)	ロームブロック(φ3～5cm)やや多量。焼土(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや強。
11	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム粒子(φ1～2mm)少量。焼土(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
12	黒色 (10YR 2/1)	ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。焼土(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや強。
13	明黄褐色 (10YR 7/6)	ローム主体。As-YP。軽石状粒子。焼土(φ2～3mm)少量含む。しまり強、粘性弱。
14	黒色 (10YR 2/1)	ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
15	褐色 (10YR 4/4)	ローム主体。焼土なし。しまり強、粘性弱。
16	黒褐色 (10YR 3/2)	焼土(φ2～3mm)やや多量。ローム(φ3～5mm)やや少量。炭化物含む。しまり強、粘性やや弱。
17	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	焼土(φ2～3mm)やや多量。ローム(φ1～2mm)少量、ブロック(φ3～5cm)少量。炭化物含む。しまり強、粘性やや弱。
18	暗褐色 (10YR 3/3)	焼土(φ2～3mm)やや多量。ローム(φ2～3mm)少量。炭化物含む。しまり強、粘性弱。
19	褐色 (10YR 4/6)	ローム主体(地山)。しまり強、粘性やや強。
20	黒褐色 (10YR 3/1)	焼土(φ1～2mm)やや多量。ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。

第128図　２号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図



第129図　２号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第130図　２号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第31表　２号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第130図 PL.84	288	土師器 坏	—	—	—	外：口縁ナデ、体～底部ヘラケズリ 内：ナデ	①良好　②7.5YR 5/3 ③輝石、赤色粒子	破片	
第130図 PL.84	289	土師器 長胴甕	21.4	—	(12.4)	外：口縁ナデ、頸部以下はヘラケズリ 内：口縁工具ナデ、頸部以下ユビナデ	①良好　②10YR 7/6 ③砂、小礫多量	口縁部 1/2	
第130図 PL.84	290	土師器 長胴甕	21.5	—	(23.0)	外：口縁ナデ、胴部ヘラケズリ 内：ナデ	①良好　②10YR 6/4 ③輝石、砂礫	口縁～胴部 1/2	
第130図 PL.84	291	土師器 甕	19.0	5.5	29.4	外：口縁ナデ、頸部に沈線状に段が、胴部ヘラケズリ 内：横位にユビナデ	①良好　②5YR 6/6 ③結晶片岩、砂	ほぼ完形	
第130図 PL.84	292	須恵器 坏	12.0	13.0	3.3	外：底部回転ヘラ切り 内：指頭圧痕、ユビナデ	①良好　②10Y 6/1 ③白色粒子	ほぼ完形	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第130図 PL.84	293	こも編み石	14.4	7.4	5.3	729.0	輝石安山岩	両面に擦痕あり	

【３号竪穴建物跡】（596W-SI03）

位置　　西区西端の南寄りで検出した。遺構の東端のみの検出であり、過半は調査区外となる。

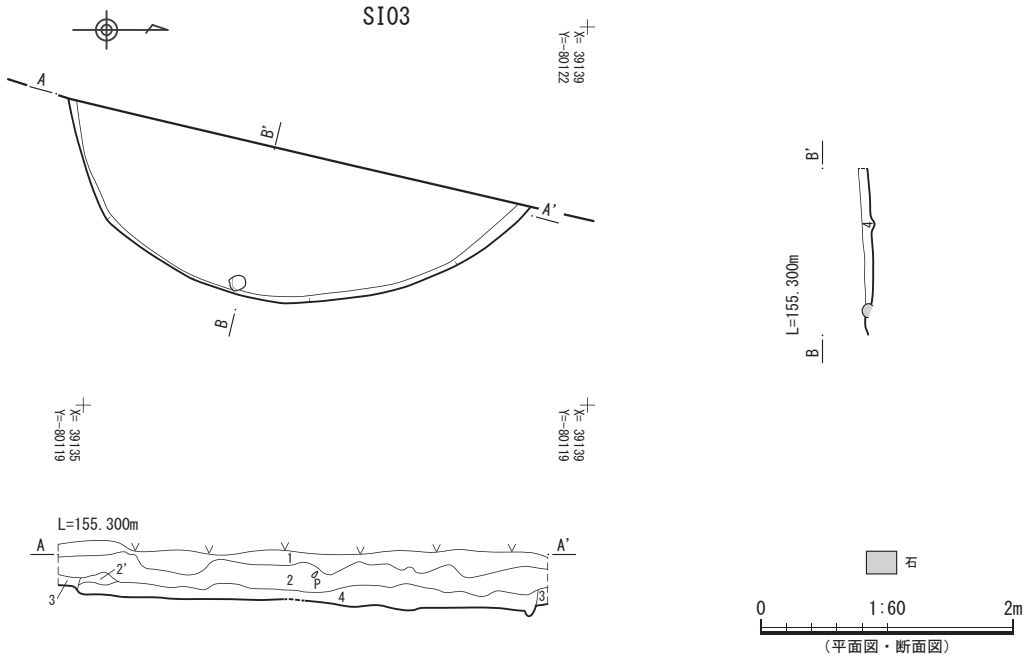
形状・規模　　検出した範囲では遺構は円形を呈しており、径4.6mと想定される。遺構確認面からの深さは0.1m内外となり、床面の標高は154.9mとなる。

埋土　　黒褐色を基調とし、地山ローム粒子を若干含む。しまりは強く、粘性はやや弱い。

付属施設　　炉等の燃焼施設や柱穴、土坑など本遺構に伴うと想定される遺構は未検出である。

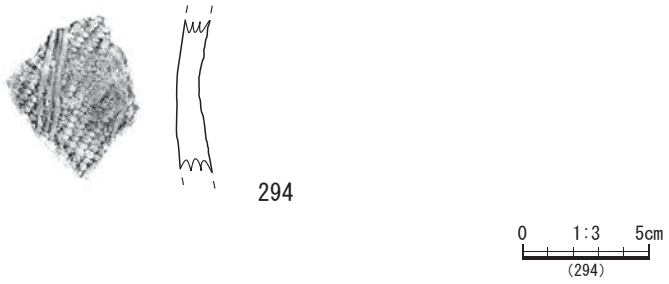
出土遺物　　中期土器群と考えられる深鉢片が１点出土した。

所見　　部分的な検出であることや確認面から遺構底面までが浅いことから本遺構の情報は限定的だが、出土した遺物からは縄文時代中期に属す遺構と判断される。



３号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)
1　黒褐色（10YR 3/2）　表土。As-A混。しまり弱、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　表土。As-A混。遺物を含む。しまり強、粘性弱。
3　黒色（10YR 2/1）　赤褐色、白色粒子(φ1～2mm)少量含む。しまり強、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 3/2）　褐色ブロック(φ2～3cm、ローム)少量。しまり強、粘性やや弱。

第131図　３号竪穴建物跡　平面図・断面図



第132図　３号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第32表　３号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第132図 PL.85	294	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：単節縄文施文後、垂下沈線を施す 内：ナデ	①良好　②7.5YR 5/4 ③砂礫	胴部 破片	

【４号竪穴建物跡】（596W-SI04）

位置　　西区中央のやや南西寄りで検出した。近現代耕作痕の重複により遺構の一部を欠失する。

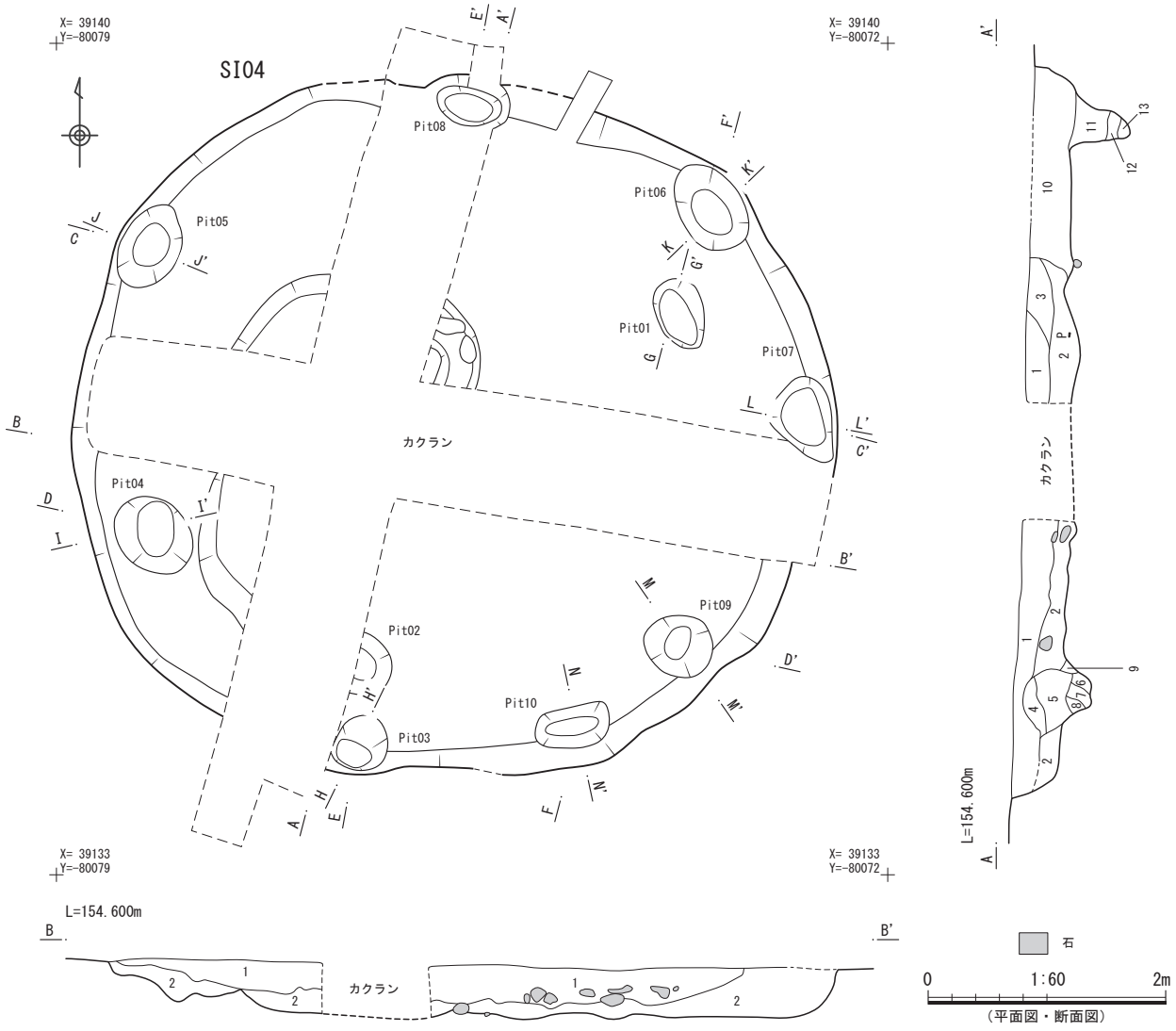
形状・規模　　やや不整の楕円形を呈している。規模は長軸6.3m、短軸5.6mを測る。遺構確認面からの深さは概ね0.5mであり、床面の標高は概ね154.0mとなる。

埋土　　黒色～黒褐色を基調とし、地山ローム粒子が一定量混在する。全体的にしまりは強く、粘性もやや強い傾向にある。

燃焼施設　　遺構中央の土坑状の窪みにわずかな焼土の散布が見られ、炉跡であった可能性が考えられる。

柱穴・土坑　　遺構内には計10基のピットを検出した。そのうち遺構外縁に沿って８基のピットが見られる。床面には若干の高低差が見られるためそれぞれのピットの床面から掘り込まれる深さは一定ではないが、概ね0.3～0.5m内外である。標高値では153.6m前後となる。これらの８基のピットは規則的に配置されているように看取され、屋根等の上部構造に関連したものと考えられる。各ピットは遺構内の対称の位置にあるピットと組を成すものと推測される。一案に、ピット５と７、ピット４と９、ピット３と８、ピット６と10の組み合わせが考えられるだろう。その他遺構内部に２基のピットがあるが、用途は不明である。

床面　　地山のローム漸移層およびローム層まで掘り込んで床面としたと推測される。遺構内の南西側が少し掘り残されるように高くなるため遺構内で部分的に高低差が生じるが、全体としては概ね水平となる。床面の標高はおよそ154.0mとなる。

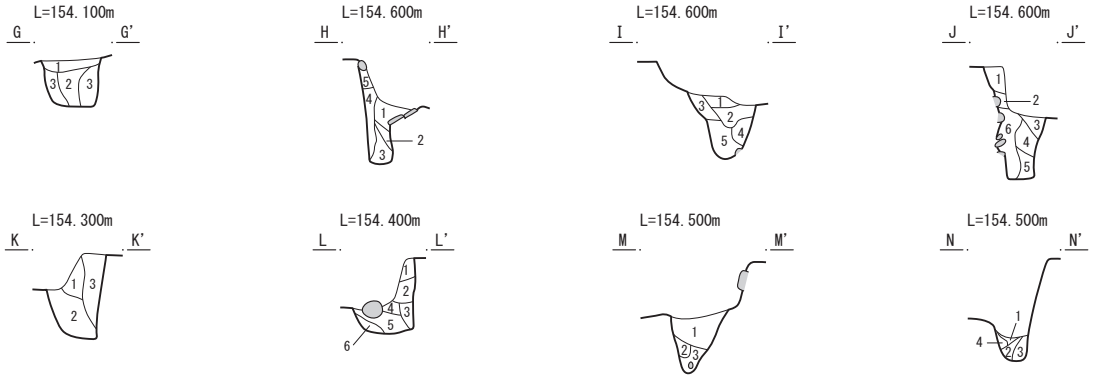


第133図　４号竪穴建物跡　平面図・断面図

出土遺物　遺構内からは土器および礫が多量に出土している。深鉢や浅鉢のほか、ミニチュア土器、耳栓、石皿、石皿転用の多孔石、打製石斧、磨石・敲石、石匙、石棒と考えられる片岩などが得られている。

所見　出土土器には前期諸磯式土器片も含まれるが、加曾利Ｅ系の土器を中心に中期後半土器群が主体となることから、本遺構は縄文時代中期後半に帰属するものと考えられる。

４号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)
1　黒色（10YR 2/1）　ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。拳大～人頭大の礫含む。縄文土器(中期)多量。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。礫含む。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。炭化物少量。しまり強、粘性やや弱。
4　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。小礫、炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
5　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム粒子(φ2～3mm)多量。As-YP含む。しまり強、粘性強。
6　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
7　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)少量。白色粒子(φ3～5mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
8　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
9　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性強。
10　黒褐色（10YR 3/2）　白色粒子(φ1～2mm)やや多量。ローム(φ2～3mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性弱。
11　黒褐色（10YR 3/2）　ロームの混入比率が高まり全体的ににぶい黄褐色味をおびる。ローム(φ3～5mm)多量。白色粒子(φ2～3mm)やや少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性弱。
12　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5mm、φ2～3cm)やや多量。白色粒子(φ1～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
13　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。



Pit01(SPG-G')
1　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ1～3mm)やや多量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
3　にぶい黄褐色（10YR 5/4）　ローム粒子(φ1～5mm)多量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。

Pit03(SPH-H')
1　黒褐色（10YR 3/2）　白色粒子(φ2～3mm)やや少量。ローム(φ1～2mm)やや多量。As-YP含む。炭化物有。しまり強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
4　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ2～3mm)多量、ブロック(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性弱。
5　黒褐色（10YR 3/2）　白色粒子(φ2～3mm)多量。遺構埋没後に堆積した土壌。しまり強、粘性弱。

Pit04(SPI-I')
1　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ3～5mm)やや少量。白色粒子(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量、ブロック(φ3～5cm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
3　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム(φ2～3mm)やや多量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
4　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ2～5mm)多量。しまり強、粘性やや弱。
5　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ1～2mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや弱。

Pit05(SPJ-J')
1　黒褐色（10YR 3/2）　軽石状小粒子(φ1～2mm)やや多量。As-YP含む。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　軽石状小粒子(φ1～2mm)少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム(φ3～5cm)やや多量。As-YP・炭化物含む。しまり強、粘性やや強。
4　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ3～5mm)やや多量。As-YP含む。しまりやや弱、粘性やや強。
5　暗褐色（10YR 3/4）　ローム(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
6　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ1～2mm)少量。As-YP、焼土僅かに含む。しまり強、粘性やや強。

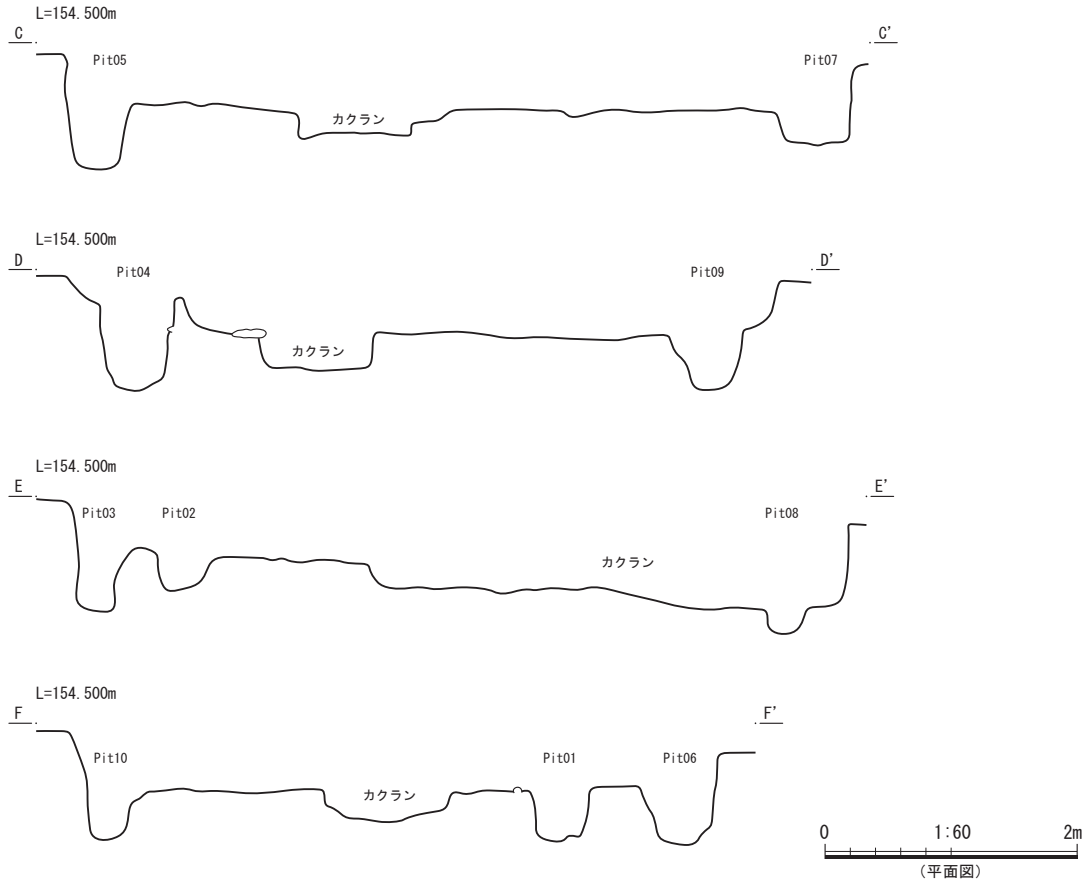
Pit06(SPK-K')
1　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ2～3mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ3～5mm)やや少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。
3　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム(φ2～3mm)多量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや弱。

Pit07(SPL-L')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ1～2mm)少量。炭化物少量。しまり強、粘性弱。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ2～3mm)多量。しまり強、粘性やや弱。
3　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ1～2mm)やや多量。As-YP含む。しまり強、粘性弱。
4　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。
5　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
6　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム(φ3～5mm)多量。しまりやや強、粘性やや強。

Pit09(SPM-M')
1　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ3～5mm)やや多量。白色粒子(φ3mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム多く含む。しまり強、粘性弱。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ3～5mm)少量。礫有り。しまり強、粘性やや強。

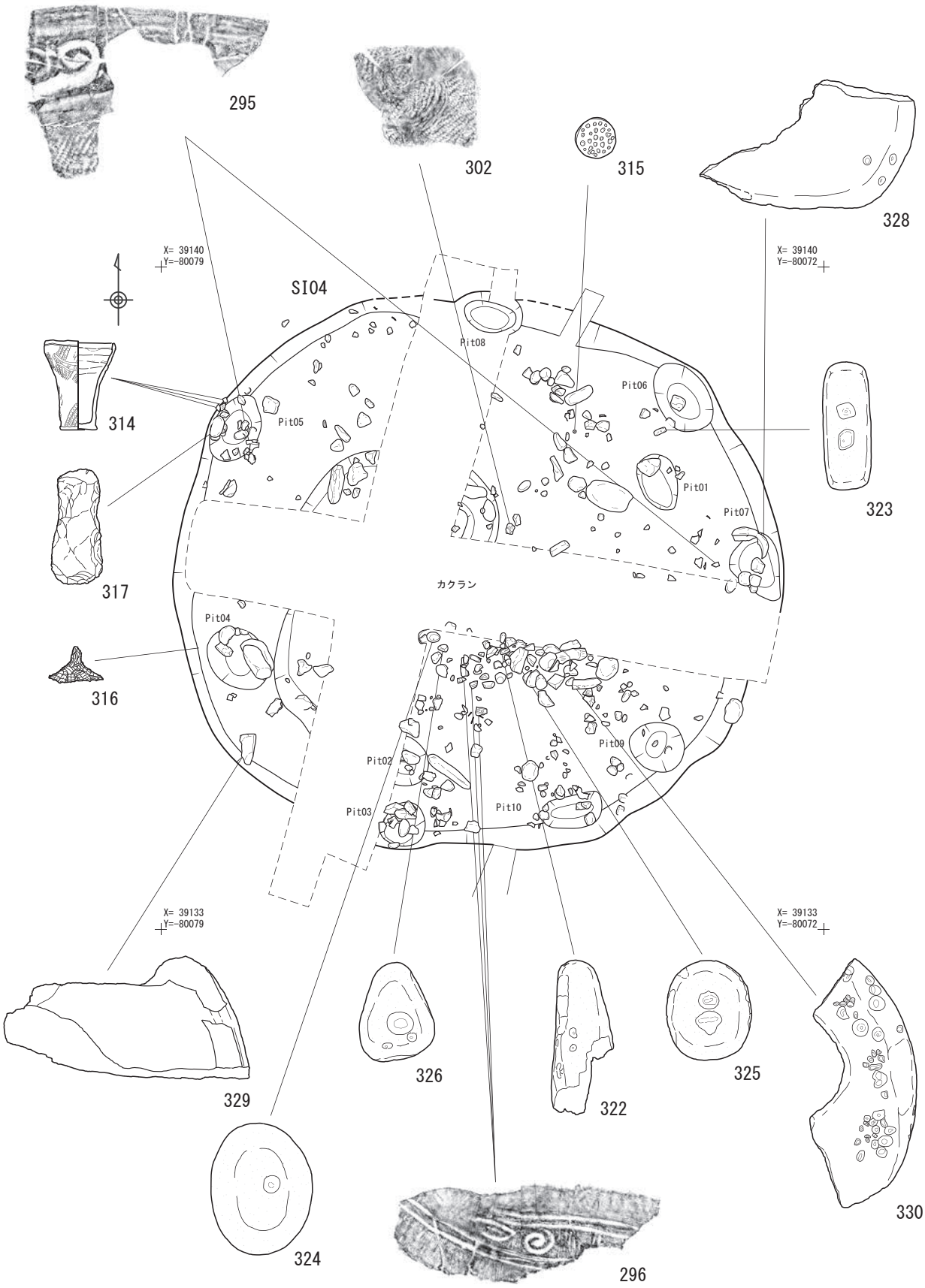
Pit10(SPN-N')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性強。
2　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
3　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
4　明黄褐色（10YR 6/6）　ローム主体。しまり強、粘性やや強。

第134図　４号竪穴建物跡　ピット断面図

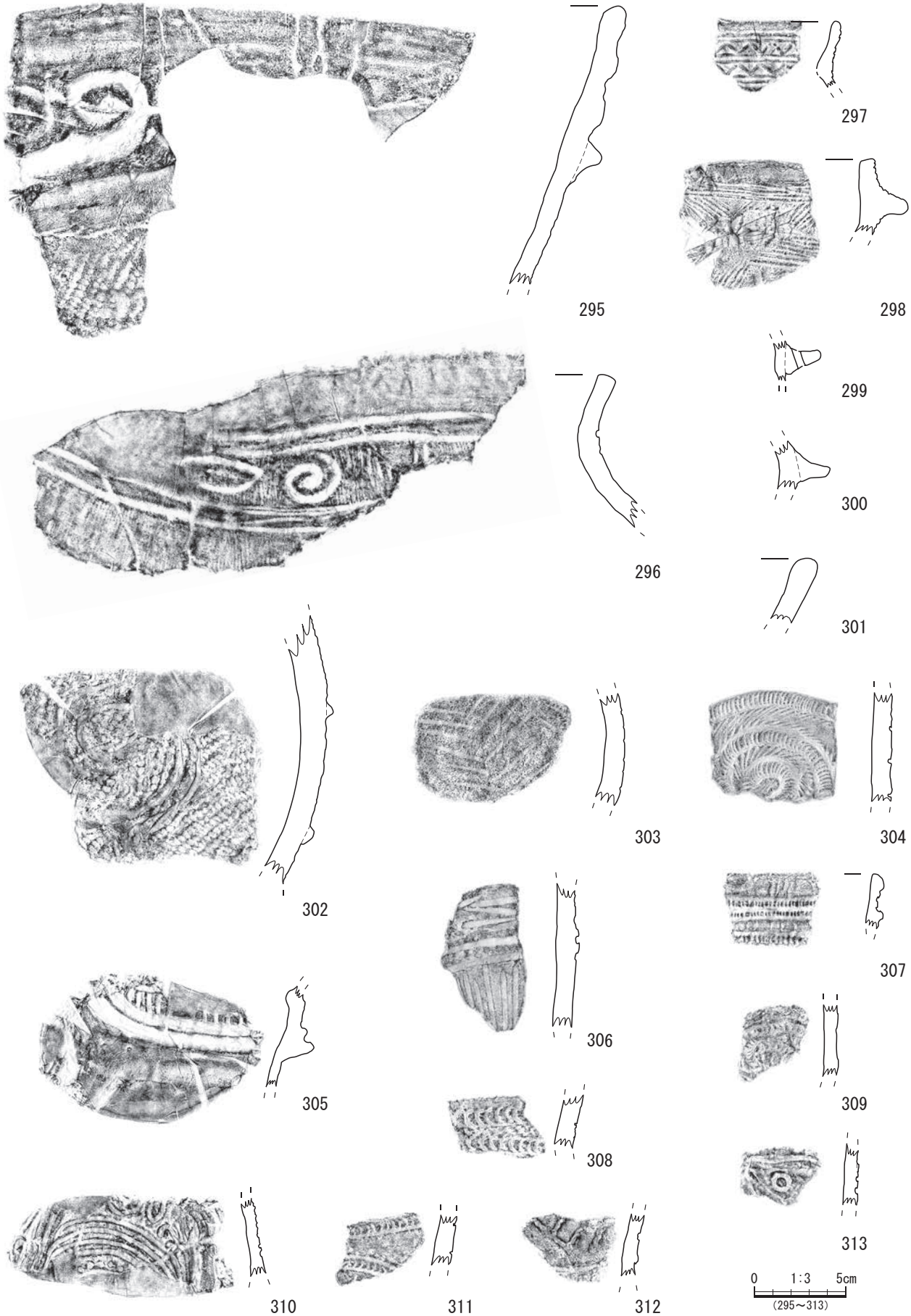


第135図　４号竪穴建物跡　エレベーション図

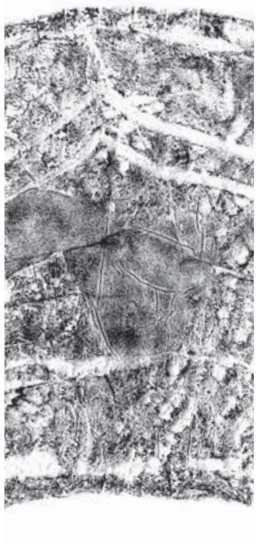
第136図　４号竪穴建物跡　礫検出状況図

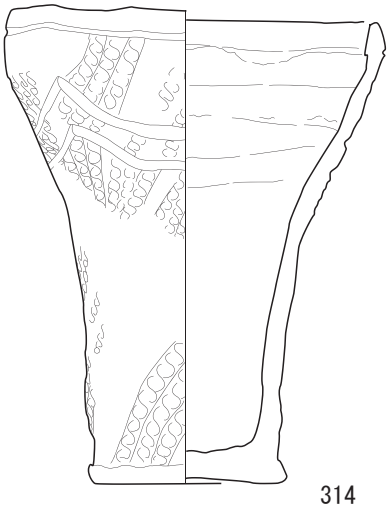


第137図　４号竪穴建物跡　出土遺物分布図

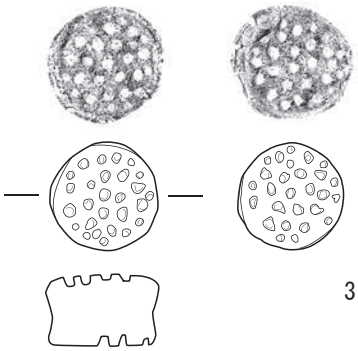


第138図　４号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）





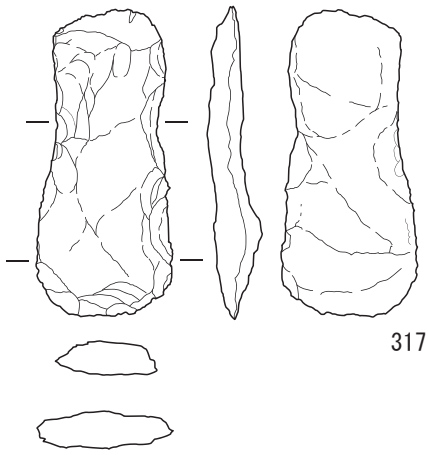
314



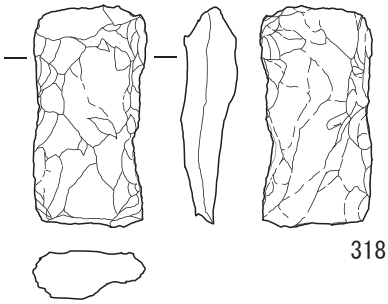
315

316

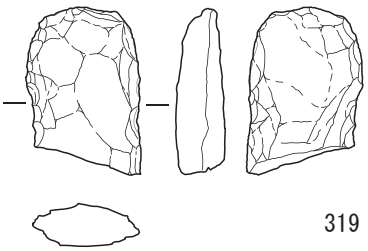
0　1:2　5cm
(314～316)



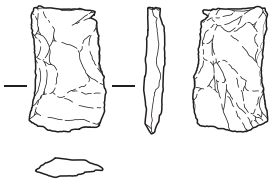
317



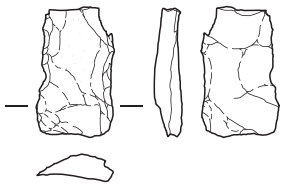
318



319

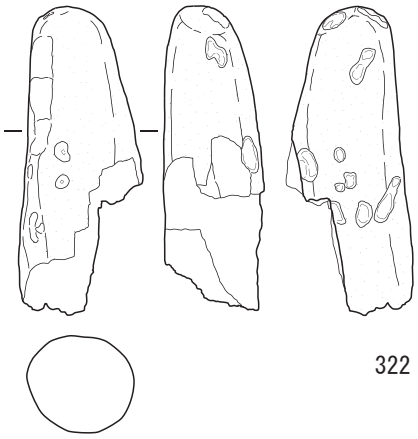


320

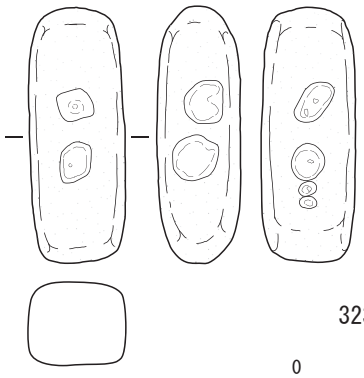


321

0　1:3　5cm
(317～321)



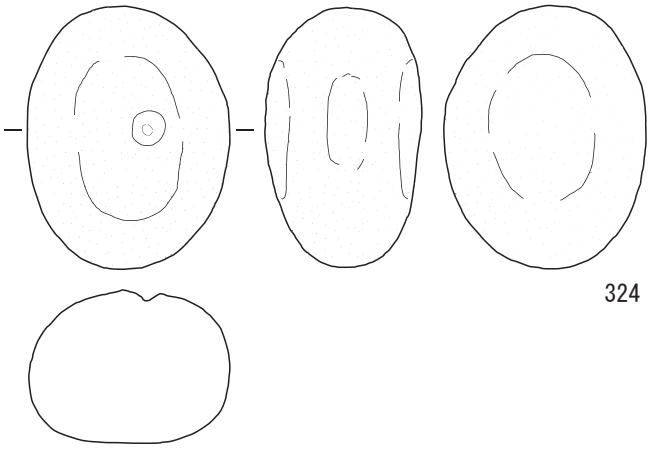
322

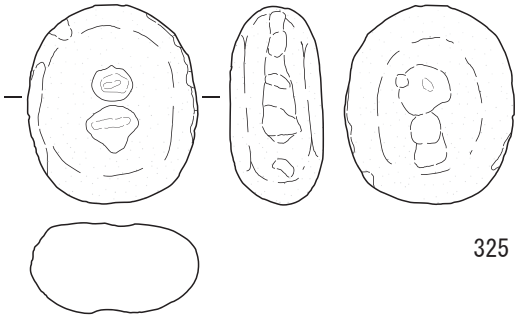


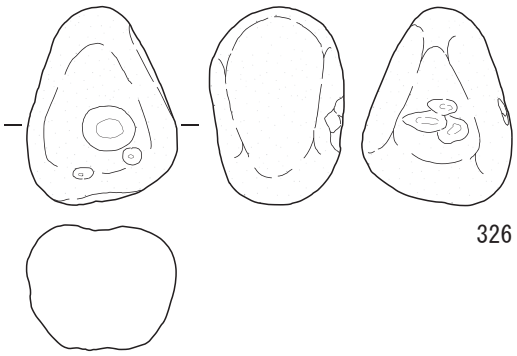
323

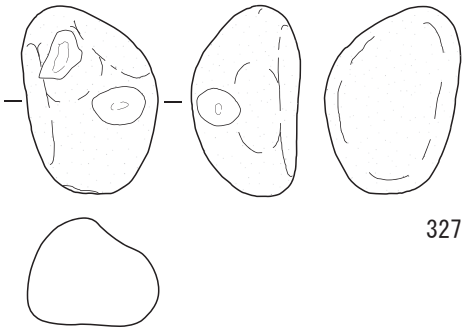
0　1:4　10cm
(322・323)

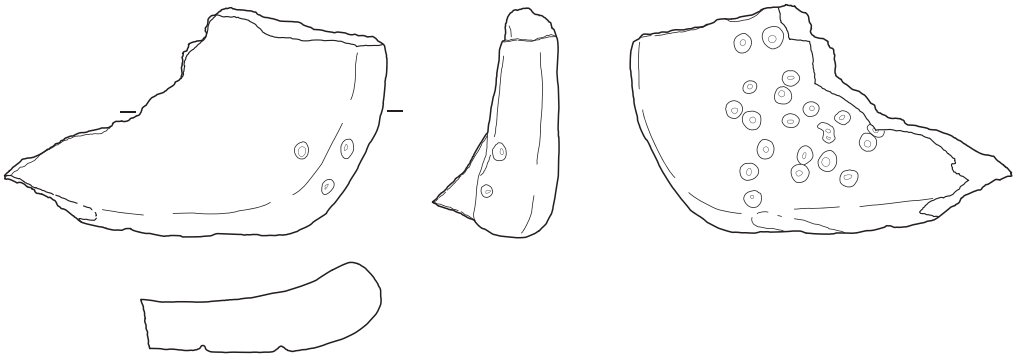
第139図　４号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）

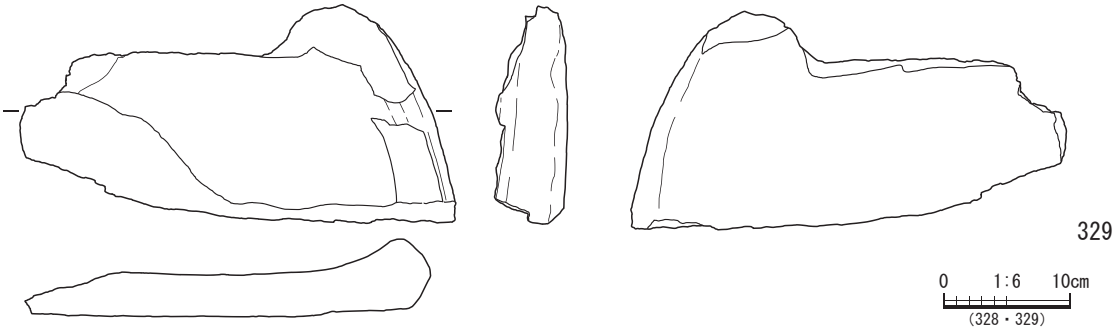




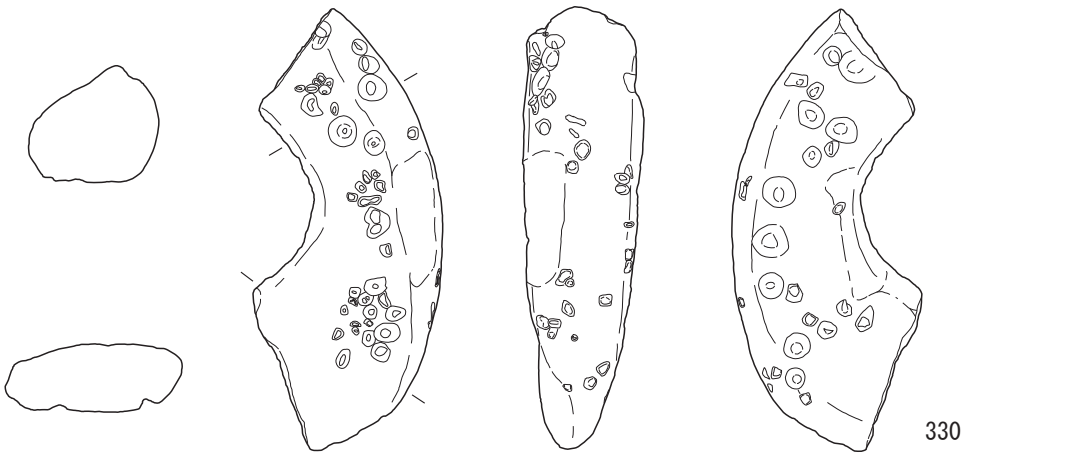








第140図　４号竪穴建物跡　出土遺物実測図（３）



第141図　４号竪穴建物跡　出土遺物実測図（４）

第33表　４号竪穴建物跡　出土遺物観察表（１）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第138図 PL.85	295	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁に無文帯があり、以下に渦巻と台形状区画が接続する。台形状区画内には縄文施文。以下に横位の隆帯があり、隆帯以下は単節縄文を施文する 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 5/6 ③輝石、砂	口縁部 破片	
第138図 PL.85	296	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁に無文帯がある。頸部以下には縦位の沈線を施した後、頸部を横位の二重沈線により区画し、区画内には沈線による渦巻と不整楕円形文を施す 内：横位にナデ	①良好 ②7.5YR 6/6 ③砂	口縁部 破片	
第138図 PL.85	297	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：地文に単節縄文施文後、細い粘土紐の貼り付けによって平行する二重浮線文内に山形浮線文を配す 内：ナデ	①良好 ②10YR 7/4 ③砂、小礫	口縁部 破片	
第138図 PL.85	298	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁付近に突出する貼り付け文。口縁は横位に沈線、口縁以下は矢羽状に沈線を施文 内：ナデ	①良好 ②10YR 7/4 ③砂、小礫	口縁部 破片	
第138図 PL.85	299	縄文土器 鍔付浅鉢	—	—	—	外：鍔が突出し、径6㎜の穿孔あり 内：ナデ	①良好　②7.5YR 7/4 ③砂、小礫	口縁部 破片	
第138図 PL.85	300	縄文土器 鍔付浅鉢	—	—	—	外：鍔が突出し、穿孔と考えられる痕跡あり 内：ナデ	①良好　②10YR 8/4 ③砂	口縁部 破片	
第138図 PL.85	301	縄文土器 浅鉢	—	—	—	外：器面は丁寧にナデ。部分的に赤彩がある 内：口唇上端～内部にかけて丁寧に磨かれる	①良好　②5YR 4/3 ③輝石、石英、砂	口縁部 破片	
第138図 PL.85	302	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：地文は単節縄文。粘土貼り付けによる隆起線で渦巻文を施す 内：ナデ	①良好 ②5YR 4/3 ③砂	破片	
第138図 PL.85	303	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：沈線による綾杉文 内：ナデ	①良好　②10YR 6/4 ③輝石、砂	破片	
第138図 PL.85	304	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：渦巻状に施された並行沈線内を二分し、外周側に半截竹管文、内周側に爪形文状のキザミ目を施す 内：ナデ	①概ね良好 ②7.5YR 6/4 ③長石、小礫	破片	
第138図 PL.85	305	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：沈線を施文する区画文や太い隆起線文を施す 内：ナデ	①良好　②2.5YR 5/4 ③砂	破片	
第138図 PL.85	306	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：並行する隆起線文に区画され、上位は横位に下位は縦位に沈線文が施される 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 6/4 ③長石、輝石、砂	破片	
第138図 PL.85	307	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：厚く盛り上げた口唇と口縁下に施した隆起線文の間に細かいキザミを持つ微隆起線がある 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 5/4 ③砂	口縁部 破片	
第138図 PL.85	308	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：縄文施文後、細い沈線で区画し連続する半截竹管文を施文 内：ナデ	①やや不良 ②10YR 7/4 ③砂	破片	
第138図 PL.85	309	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：連続する半截竹管文を施文 内：ナデ	①良好　②10YR 6/2 ③砂、長石	破片	
第138図 PL.85	310	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：刺突文、沈線による円弧文、粘土紐貼り付けによる隆起文、沈線文などが施文される 内：ナデ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③砂	破片	
第138図 PL.85	311	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：二重沈線内に半截竹管文を施文。ナデ 内：ナデ	①良好　②10YR 6/3 ③砂	破片	
第138図 PL.85	312	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：複節縄文原体による撚糸圧痕文 内：ナデ	①良好　②10YR 6/3 ③長石、石英、雲母	破片	
第138図 PL.85	313	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：粘土紐貼り付けによる隆起線、円形刺突文 内：ナデ	①概ね良好　②7.5YR 6/6 ③片岩か	破片	
第139図 PL.85	314	縄文土器 ミニチュア	9.7	5.2	12.6	外：口唇直下に沈線が巡り、口縁以下には単節縄文を施文。胴部上半には沈線による二重連弧文が施される 内：ナデ	①良好 ②5YR 6/4 ③砂、赤色粒子	2/3	

第34表　４号竪穴建物跡　出土遺物観察表（２）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	高さ	重量 (g)	観察所見	備考
第139図 PL.85	315	耳栓	径 2.9	―	厚 2.0	19.7	表裏面ともに27孔を浅く穿ち、いずれも貫通しない。小孔径1.3～2.1㎜	

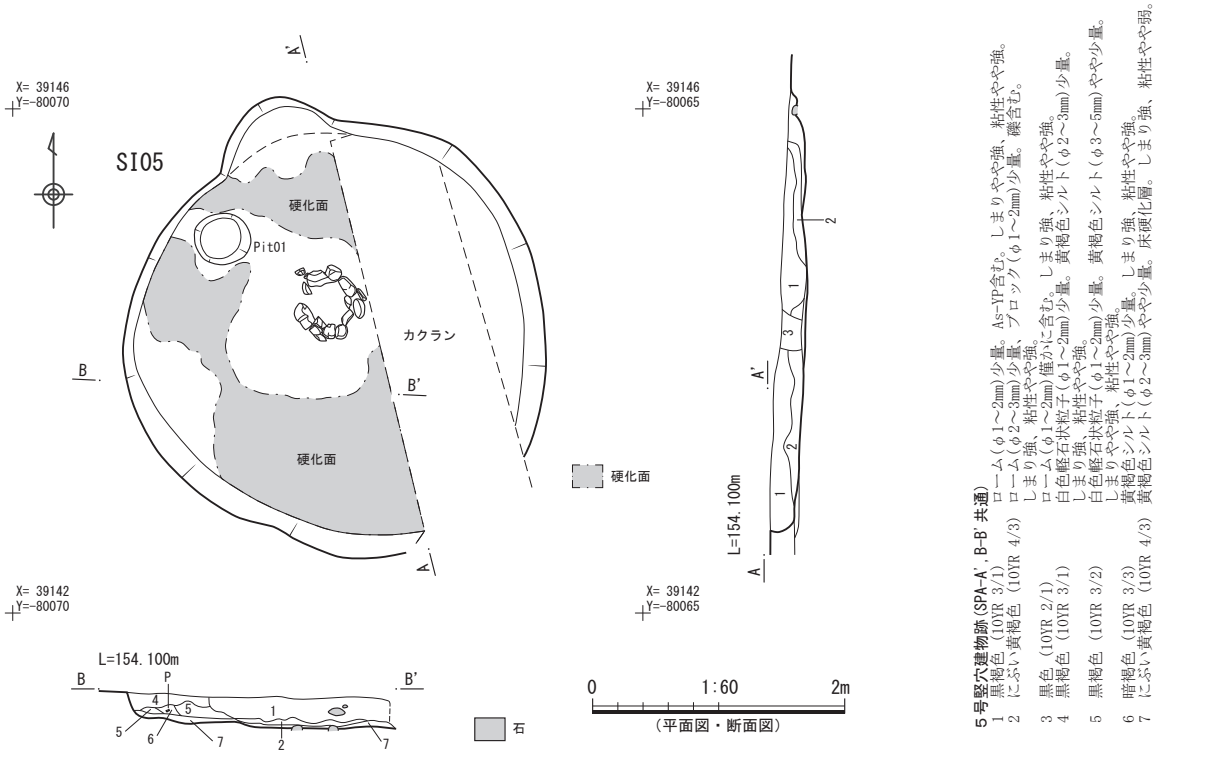
図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第139図 PL.85	316	石匙	3.9	2.5	0.6	4.0	チャート	両刃。刃部の両端が鋭利	
第139図 PL.85	317	打製石斧	12.2	5.4	1.9	121.0	安山岩	裏面の加工は顕著ではない	
第139図 PL.85	318	打製石斧	(8.7)	4.5	1.9	98.0	泥岩	裏面の加工は顕著ではない	
第139図 PL.85	319	打製石斧	(6.7)	4.5	1.7	75.0	安山岩	母岩表皮の一部が残存。一部欠失	
第139図 PL.85	320	打製石斧	(5.0)	3.0	0.8	17.0	安山岩	母岩表皮の一部が残存。一部欠失	
第139図 PL.85	321	打製石斧	(5.1)	3.0	1.0	19.0	泥岩	母岩表皮の一部が残存。一部欠失	
第139図 PL.85	322	石棒か	(16.3)	6.2	4.6	736.0	結晶片岩	一端に向かって狭まる。一部変色あり	
第139図 PL.85	323	敲石／磨石	13.5	5.1	4.4	554.0	輝石安山岩	各面は扁平で断面形状は方形を呈す。複数面に敲打痕。一部赤変色	
第140図 PL.85	324	敲石／磨石	14.0	10.7	8.1	1828.4	輝石安山岩	敲打痕あり	
第140図 PL.85	325	敲石／磨石	10.5	9.0	4.8	703.0	安山岩	扁平。磨滅して滑らかな箇所のほか、敲打痕が看取される	
第140図 PL.85	326	敲石	10.5	7.9	7.1	692.0	輝石安山岩	敲打痕あり	
第140図 PL.85	327	敲石	10.0	7.0	5.7	583.0	輝石安山岩	敲打痕あり	
第140図 PL.86	328	石皿	30.2	18.2	6.3	4145.0	結晶片岩	内定面は擦られて滑らか。外底面に多数の小孔が穿たれる	
第140図 PL.86	329	石皿	34.5	17.3	5.6	3835.0	結晶片岩	内底面は擦られて滑らか	
第141図 PL.86	330	石皿	35.0	14.8	9.5	3570.0	安山岩	中央には孔があき、器面全体に小孔が穿たれている	

【５号竪穴建物跡】（596W-SI05）

位置　　西区中央付近で検出した。遺構の東側はカクランにより欠失する。

形状・規模　　北側に少し張り出しを持つ不整の円形を呈している。径はおよそ3.3mとなる。

主軸　　遺構が円形を呈するため主軸の向きは判然としないが、遺構内床面で検出した燃焼施設の設置主軸を加味すると、Ｎ－45°－Ｗと想定することができる。



第142図　５号竪穴建物跡　平面図・断面図

埋土　　黒色および黒褐色を基調とし、地山ローム粒子を混入する。しまりや粘性は概ね強い。

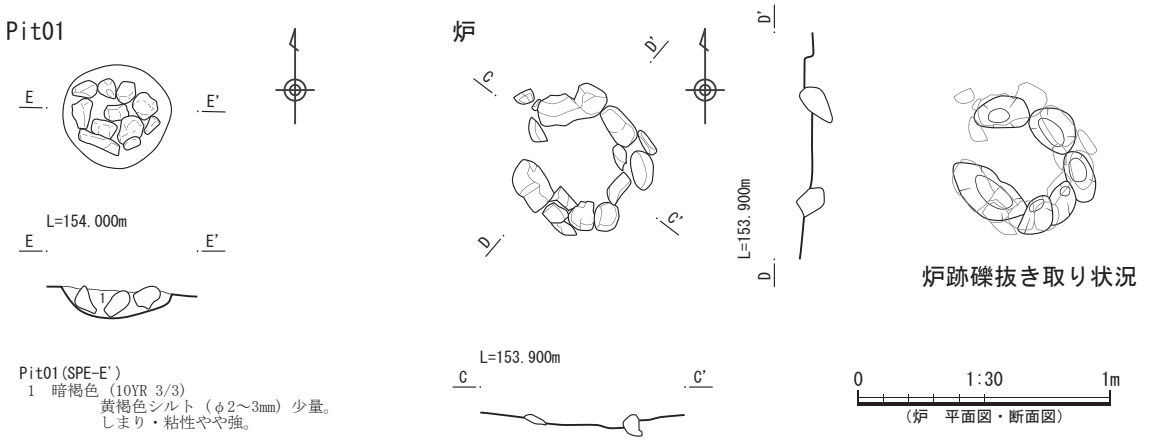
床面　　掘り方は地山ローム漸移層まで掘り込まれている。床面は一部硬化が見られ、掘り方底面を遺構機能面としていたと推測される。

燃焼施設　　遺構底面やや北西寄りの位置で、拳大の礫をおおよそ方形に並べた「石囲炉」を検出した。周辺よりわずかに焼土を検出している。

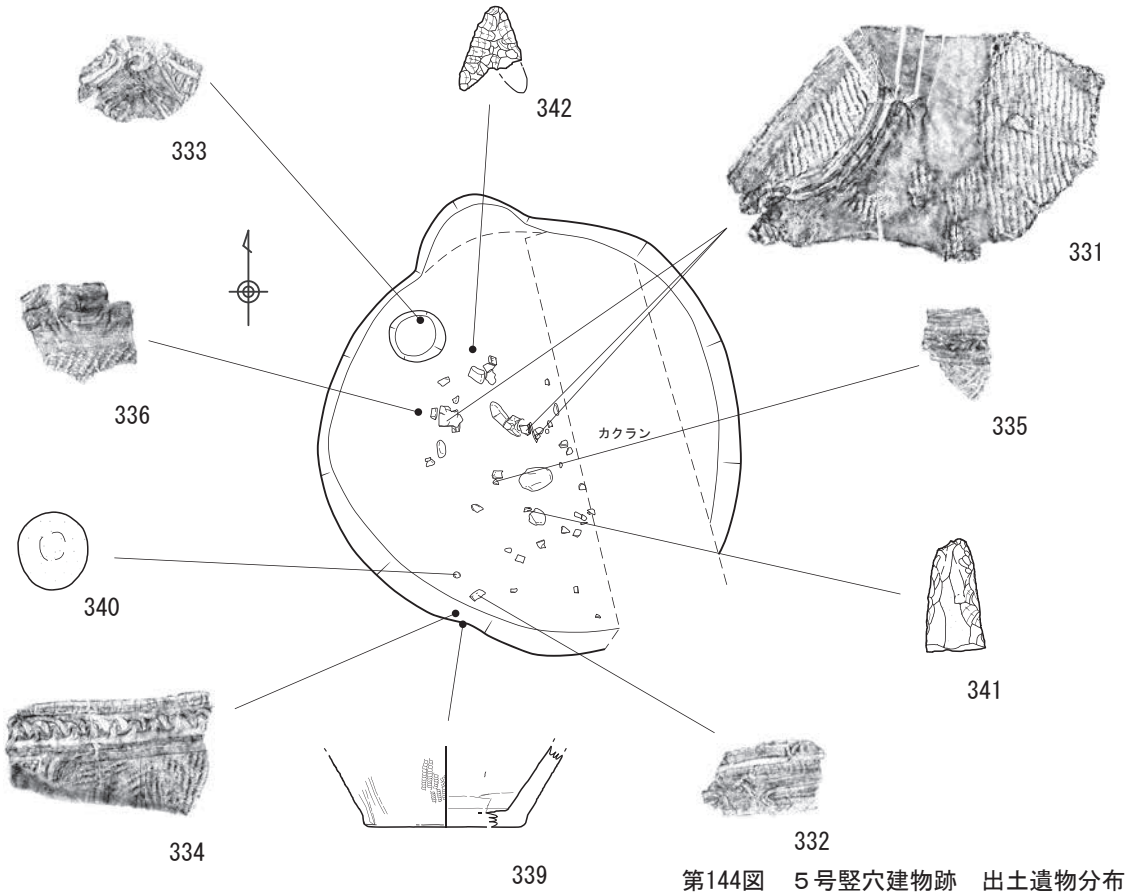
土坑　　燃焼施設北西の壁沿いでピット１を検出した。ピット１は礫が充填されているが、焼土や被熱面は確認できず、用途不明である。その他、上部構造を成す柱穴等は未検出である。

出土遺物　　深鉢や赤彩のある浅鉢、赤色頁岩製石鏃、磨石・敲石、打製石斧のほか、黒曜石のフレイクなどが出土している。

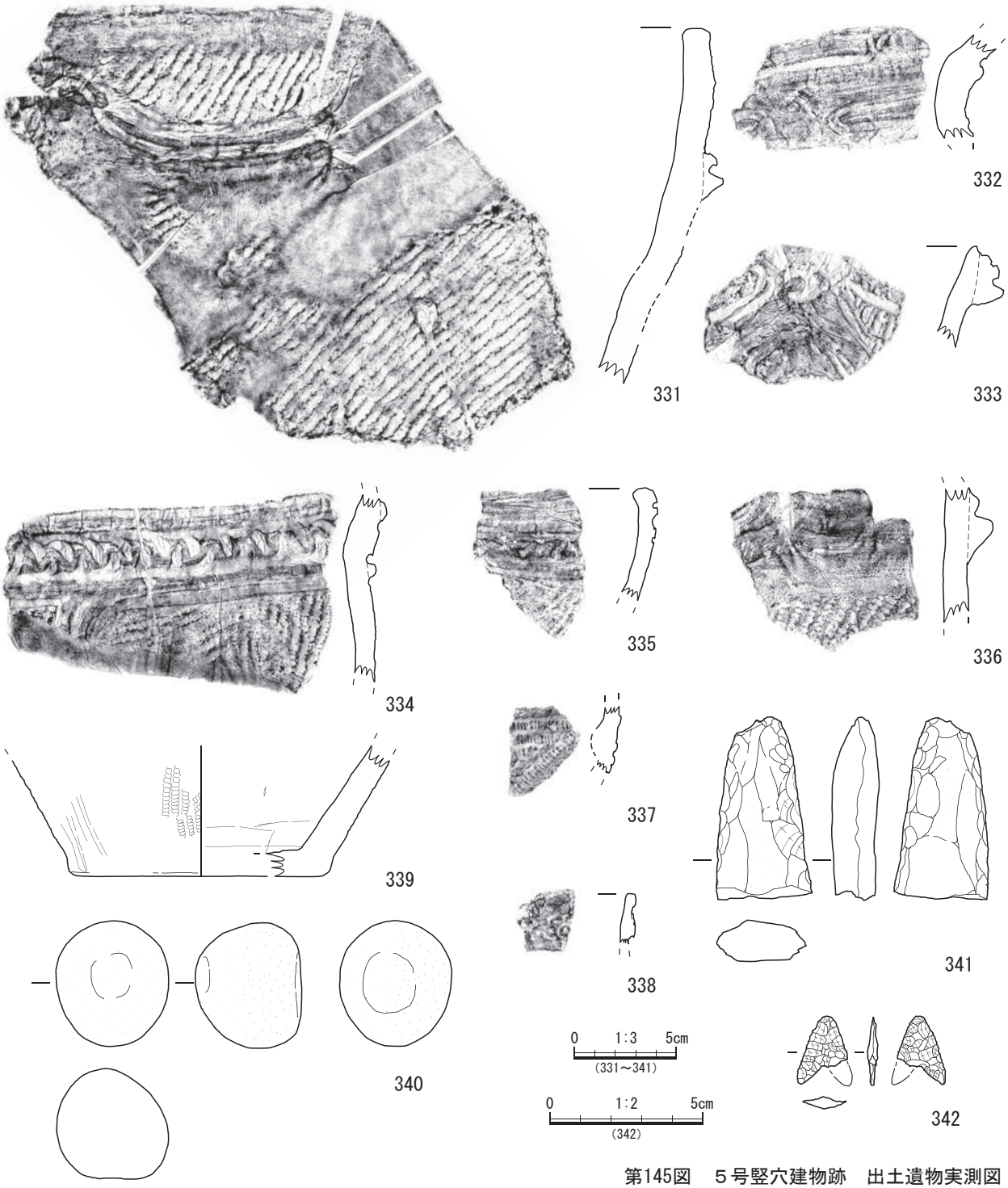
所見　　出土土器の様相から、本遺構は縄文時代中期を主体とする時期と考えられる。



第143図　５号竪穴建物跡　ピットおよび炉跡平面図・断面図



第144図　５号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第145図　５号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第35表　５号竪穴建物跡　出土遺物観察表（１）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第145図 PL. 86	331	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁には無文帯。粘土貼り付けによる波状の隆起線で区画し、区画内に単節縄文を充填する。胴部は単節縄文を施文 内：丁寧にナデ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③緻密。夾雑物少ない	口縁～胴部 破片	
第145図 PL. 86	332	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：隆起線文や沈線文を施し、赤彩 内：ナデ	①良好　②5YR 5/3 ③砂多い	口縁部 破片	
第145図 PL. 86	333	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：粘土貼り付けによる波状の隆起線で区画し、区画内に縦位の沈線文を施す。胴部以下は縄文施文 内：丁寧にナデ	①やや不良 ②2.5YR 5/6 ③砂、赤色粒子	口縁部 破片	
第145図 PL. 86	334	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：並行する隆起線文により区画された中をC字形の沈線を連続して施す。垂下する隆起線文は二重となり、胴部地文は単節縄文を施文 内：ナデ	①良好 ②5YR 5/4 ③砂	破片	
第145図 PL. 86	335	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁に沈線と半截竹管による連続刺突文、以下に縄文施文 内：ナデ	①良好 ②5YR 5/3 ③長石、砂	口縁部 破片	

第36表　５号竪穴建物跡　出土遺物観察表（２）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第145図 PL.86	336	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：粘土貼り付けによる隆起線文、以下に単節縄文を施文 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 5/4 ③長石、輝石	口縁部 破片	
第145図 PL.86	337	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：地文の単節縄文施文後、半截竹管による爪形文を持つ粘土貼り付けの隆起線文が施される 内：ナデ	①良好 ②5YR 5/4 ③砂	破片	
第145図 PL.86	338	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁と並行する隆起線文に区画された中にドーナツ状の円形貼り付け文を２段に施す 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 6/4 ③砂	口縁部 破片	
第145図 PL.86	339	縄文土器 深鉢	—	【13.0】	(6.4)	外：垂下する二重の隆起線文、地文単節縄文 内：ナデ	①概ね良好　②5YR 6/6 ③長石、砂	底部 破片	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第145図 PL.86	340	磨石	6.2	5.5	5.4	279.0	輝石安山岩	一面が著しく平坦	
第145図 PL.86	341	打製石斧	8.9	4.6	2.3	123.0	泥岩	表裏面に一部母岩が残存する	
第145図 PL.86	342	石鏃	2.3	1.7	0.4	1.0	珪質頁岩	無茎で基部は内くぼみとなる	

【６号竪穴建物跡】（596W-SI06）

位置　　西区中央の南端で検出した。遺構の南半分は調査区外となる。

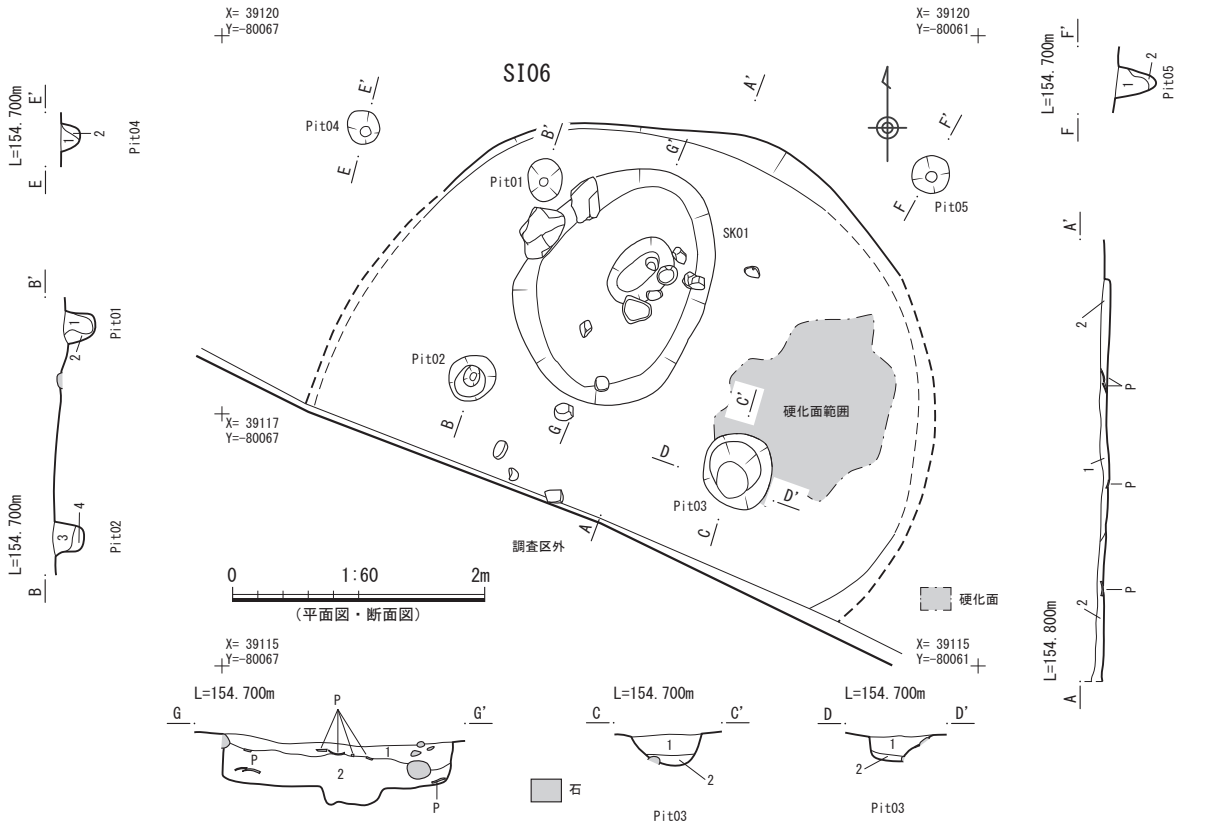
形状・規模　　円形を呈しており、径は約5.2mと推定される。遺構確認面からの深さは５～10cm程度と浅く、底面の標高は154.6mとなる。

主軸　　遺構が円形を呈するため主軸の向きは判然としないが、遺構内に配置されたピットや土坑の向きを加味して、Ｎ－66°－Ｅほどと推定される。

埋土　　黒色もしくは黒褐色土であり、地山のローム粒子が混在する。しまりは強いが、粘性は概ね弱い。

床面　　遺構検出面から遺構底面までは極めて浅く、遺構の残存状態も良好とは言い難いが、遺構内東側の一部で硬化面を検出した。

柱穴・土坑　　ピット３基と土坑１基を検出した。ピット３は１・２と比較すると規模が一定しないが、いずれのピットも底面が標高値で154.4mほど



第146図　６号竪穴建物跡　平面図・断面図

６号竪穴建物跡(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/1）　炭化物・As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。

Pit01・02(SPB-B')
1　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ2～3mm)少量。As-Cなし。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性強。
3　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ3～5cm)多量。As-Cなし。しまりやや弱、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)多量。しまり強、粘性強。

Pit03(SPC-C',D-D'共通)
1　黒色（10YR 2/1）　As-Cなし。ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm、φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性強。

Pit04(SPE-E')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)多量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒色（10YR 2/1）　夾雑物少量を含む。しまり強、粘性やや強。

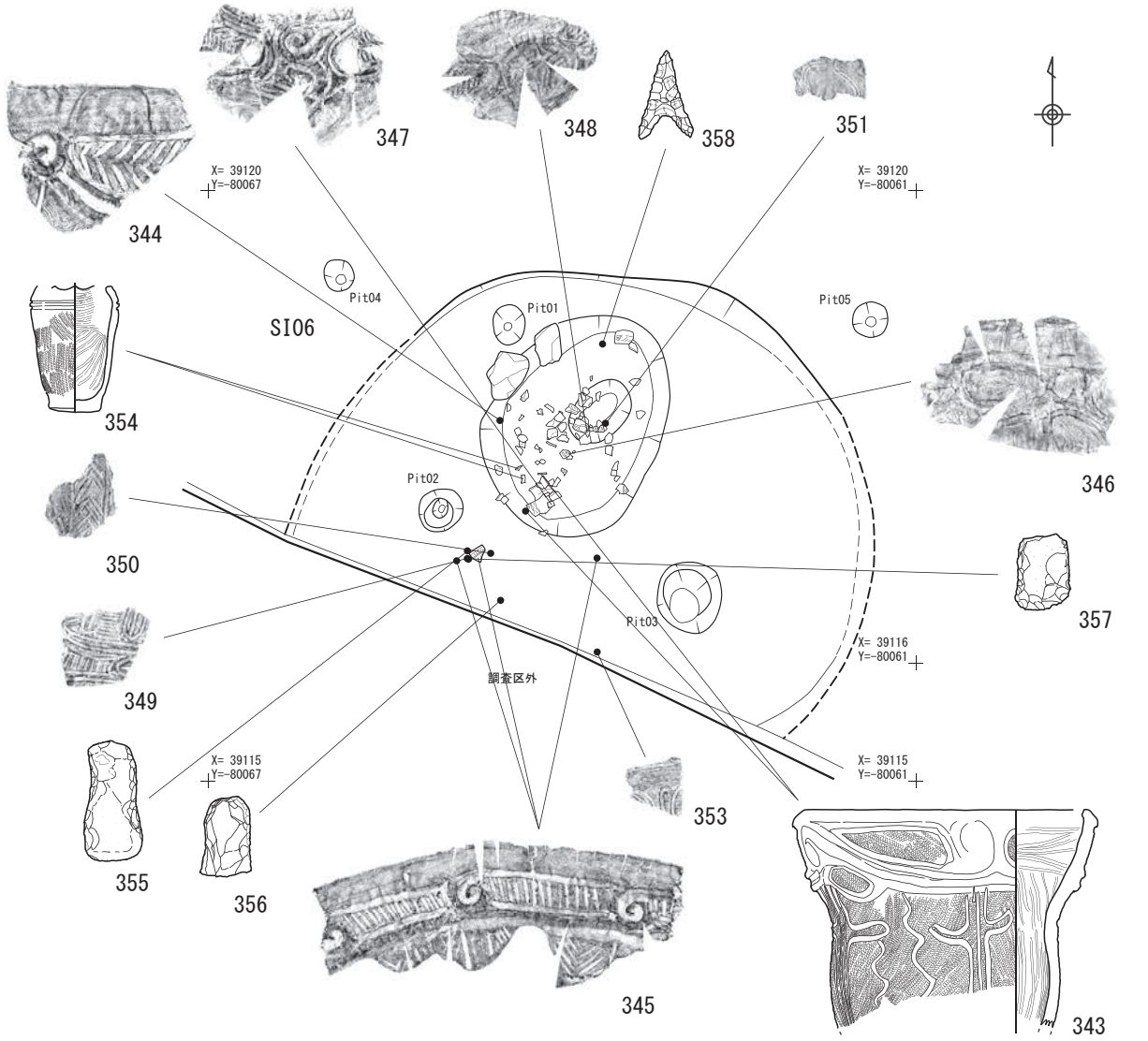
Pit05(SPF-F')
1　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ2～5cm)少量を含む。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～5mm)多量に含む。しまり強、粘性強。

SK01(SPG-G')
1　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ1～2mm)少量。As-YP・遺物含む。しまり強、粘性やや強。
2　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ2～3mm)やや少量。As-YP・遺物含む。しまり強、粘性強。

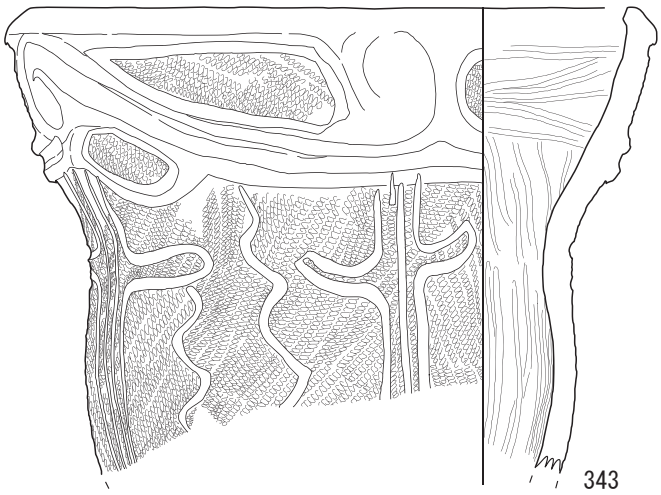
となり、概ね揃っている。配置に規則性が見出せるため、上部構造の柱穴と考えられる。土坑は規模が長軸1.9m、短軸1.1mの楕円形を呈しており、底面中央が小さく窪む。確認面である床面からは深さ0.4mを測る。土坑内からは礫と共に多数の土器が出土している。

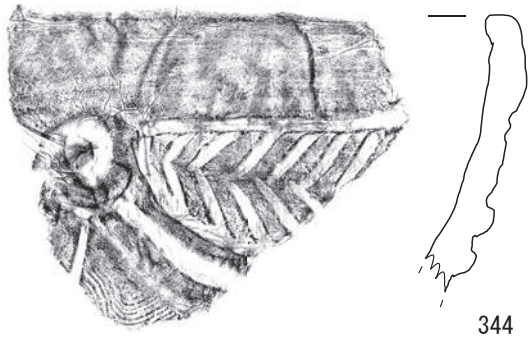
出土遺物　深鉢を中心に浅鉢やミニチュア土器、赤色頁岩製石鏃、打製石斧などが出土している。

所見　出土土器には前期諸磯式土器片も含まれるが、中期後半土器群を主体とすることから、本遺構は縄文時代中期に属するものと考えられる。

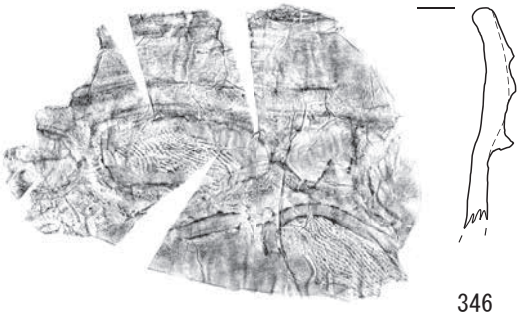


第147図　６号竪穴建物跡　出土遺物分布図


343

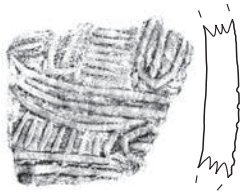

344

345


346

347

348


349

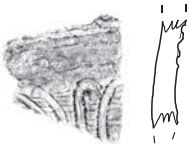
0　1:3　5cm
(343～353)

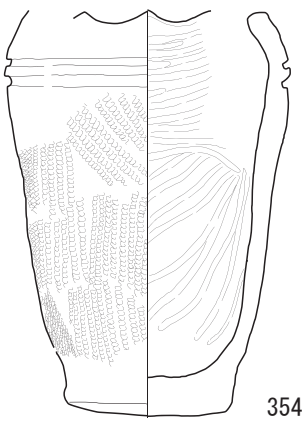
0　1:2　5cm
(354)

350

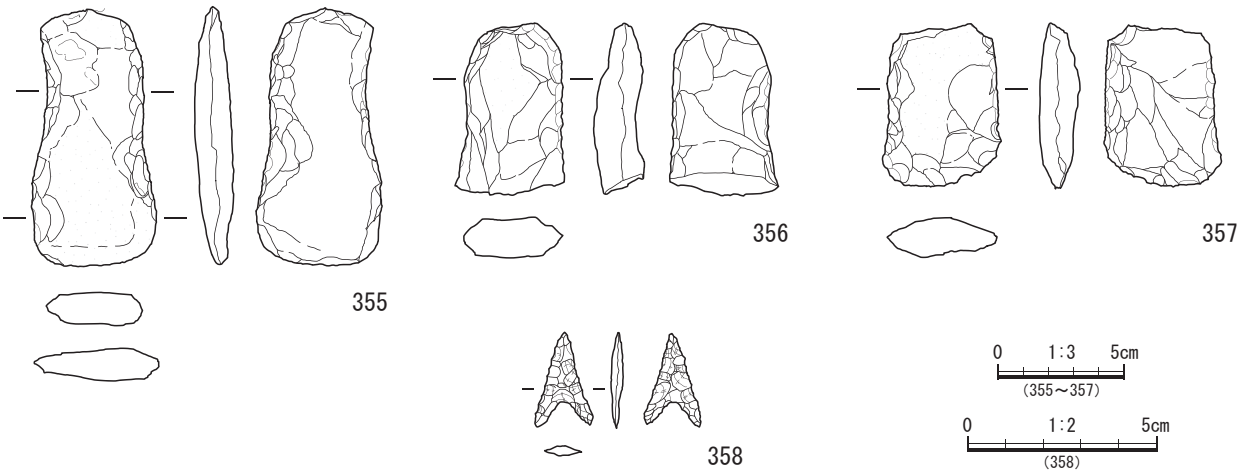
351

352


353


354

第148図　６号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）



第149図　６号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）

第37表　６号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第148図 PL.87	343	縄文土器 深鉢	25.8	—	(18.5)	外：口縁には粘土貼り付けによる隆起線文や沈線文で区画された不整形の楕円区画および渦巻き文が配され、区画の中は縄文が充填される。胴部には地文の単節縄文が施文されたのち、垂下する多重沈線や波状文による加飾がある 内：ナデ	①やや不良 ②2.5YR 6/6 ③赤色粒子、小礫、砂	1/4	
第148図 PL.87	344	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁直下は無文帯。粘土貼り付けによる二重の隆起線文によりやや不整形の楕円区画があり、区画内は沈線で矢羽文を施したのち沈線で内縁を縁取る。隆起線文の波頂には渦巻文がある。区画以下は櫛歯状工具による施文 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 5/3 ③砂、小礫	口縁部 破片	
第148図 PL.87	345	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁直下の無文帯を経て、粘土貼り付けの隆起線による区画文様帯に至る。区画は要所で渦巻文で区切られ、区画内は沈線で充填される。胴部は二重沈線が渦巻文より垂下し、区画外には沈線による矢羽文を施している。区画内は磨り消す 内：ナデ。赤変色が看取される	①やや良好 ②5YR 5/6 ②石英、小礫	口縁部 破片	
第148図 PL.87	346	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁直下に無文帯があり、丁寧にナデる。以下粘土貼り付けによる隆起線および沈線により楕円区画と渦巻文を施す。楕円区画内は単節縄文を施文。胴部は垂下する二重沈線の区画および単節縄文を施す 内：比較的丁寧なナデ	①やや不良 ②10YR 5/1 ③砂	口縁部 破片	
第148図 PL.87	347	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：粘土貼り付けによる把手。沈線や隆起線文で渦巻文を施す。器面には刺突状の沈線による矢羽文がある 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 7/6 ③砂	口縁部 破片	
第148図 PL.87	348	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：粘土貼り付けによる隆起線文で楕円区画をつくる。区画内は単節縄文が充填されるものと無文のものがある。区画外は丁寧なナデ 内：丁寧なナデ。器面は光沢のある黒色を呈する	①良好 ②7.5YR 4/2 ③砂、赤色粒子	破片	
第148図 PL.87	349	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：二重沈線による区画、ならびに区画内が充填 内：ナデか	①やや不良　②7.5YR 6/4 ③長石、輝石	破片	
第148図 PL.87	350	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：垂下する沈線間に沈線による矢羽文を施文 内：ナデ	①やや不良　②5YR 6/6 ③砂	破片	
第148図 PL.87	351	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：櫛歯状工具で波状文を施文 内：ナデ	①やや不良　②5YR 5/6 ③砂多い	破片	
第148図 PL.87	352	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：半截竹管による連続する爪形文 内：ナデ	①概ね良好　②2.5Y 8/3 ③砂、小礫	破片	
第148図 PL.87	353	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：垂下する二重隆起線文、縦位に沈線を施したのち、横位に二重沈線文を施文 内：ナデ	①やや不良 ②10YR 7/4 ③砂	破片	
第148図 PL.87	354	縄文土器 ミニチュア	【6.2】	4.4	10.7	外：波状口縁下に横位の二重沈線が施され、胴部は単節縄文が施文される 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 6/3 ③長石、石英、砂	1/2	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第149図 PL.87	355	打製石斧	10.2	5.0	1.4	97.0	泥岩		
第149図 PL.87	356	打製石斧	(6.8)	4.3	1.7	83.0	緑色岩か		
第149図 PL.87	357	打製石斧	(6.5)	4.6	1.5	62.0	泥岩		
第149図 PL.87	358	石鏃	2.5	1.6	0.3	1.0	珪質頁岩	無茎で基部は内くぼみとなる	

【７号竪穴建物跡】（596W-SI07）

位置　　西区中央の南端で検出した。

形状・規模　　遺構の掘り込みは未検出であり、一定範囲内に複数のピットが集中していることから建物跡と想定している。埋甕２基を中心と仮定すると、関連するピットは径４ｍの範囲内に集中する。

埋土　　ピットや土坑など８基を検出している。いずれの遺構も埋土は黒色および黒褐色土であり、地山ローム粒子を少量含んでいる。

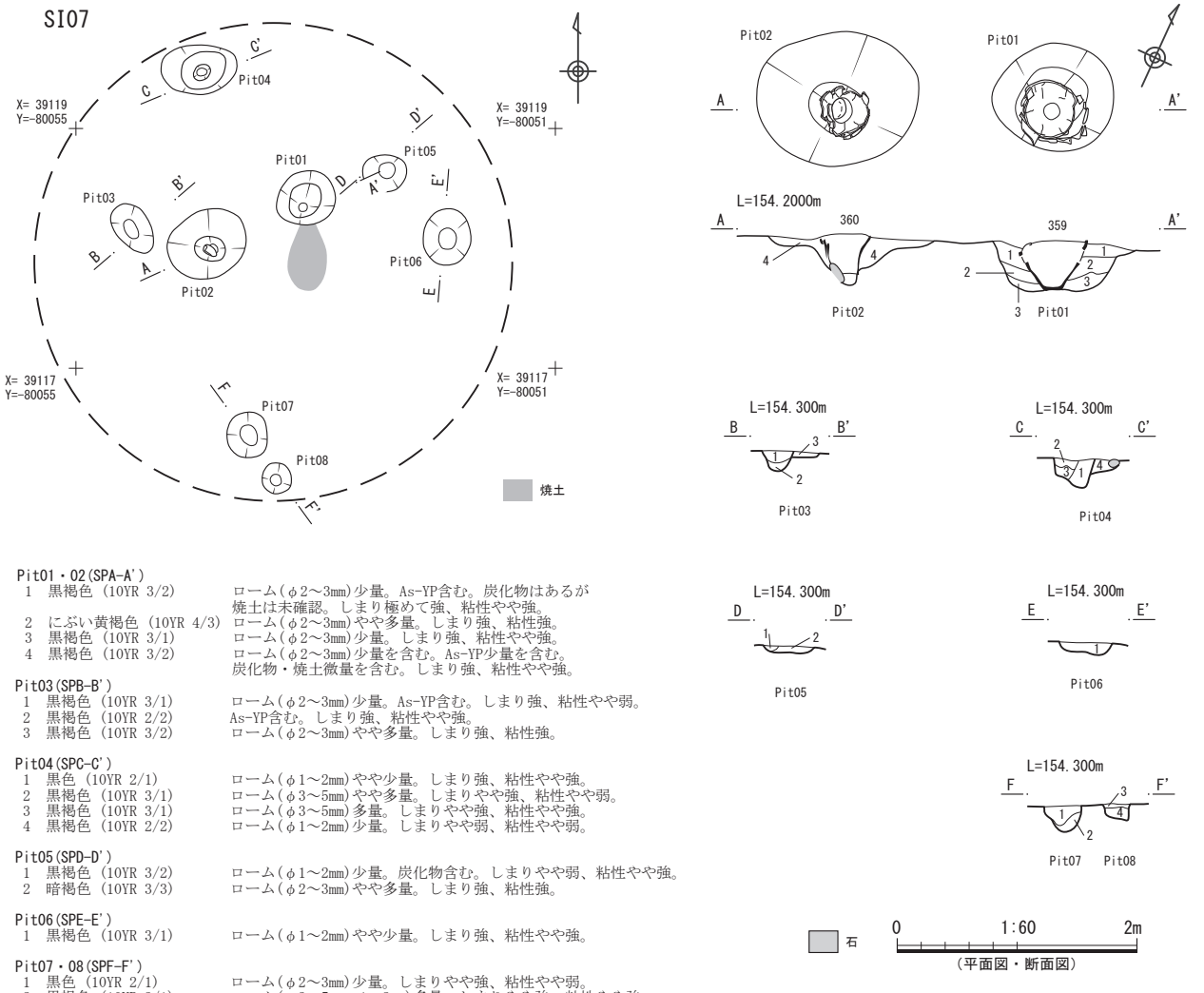
燃焼施設　　ピット１の南側において焼土がわずかに看取される。しかし、明確な掘り込みを伴わず、焼土密度は低く被熱面も確認できない。したがってこの場所が燃焼施設に該当するかどうかは不確かである。

柱穴　　ピット３～８まで数基のピットが、深鉢の設置されたピット１・２を取り巻くように検出されたため、ピット１・２を中心に遺構範囲が展開するものと考えられる。

出土遺物　　ピット１から第152図359、ピット２から同360がそれぞれ出土した。

所見　　ピット１では口縁を欠失した深鉢の下半分を検出した。同一レベルにおいてピット２では口縁の一部と胴部下半がそれぞれ欠失した深鉢が出土している。検出レベルや遺構の掘り込み底面高に明確な差が看取されないため、ピット２の深鉢は設置当初から胴部下半を欠失したものと考えられる。ピット１が埋甕、ピット２はあるいは埋甕炉など埋設目的や使途が異なっていた可能性が考えられよう。

いずれの土器も中期土器群と考えられるため、本遺構は縄文時代中期後半に属すものと考えられる。



Pit01・02(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)少量。As-YP含む。炭化物はあるが焼土は未確認。しまり極めて強、粘性やや強。
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)少量を含む。As-YP少量を含む。炭化物・焼土微量を含む。しまり強、粘性やや強。

Pit03(SPB-B')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 2/2）　As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性強。

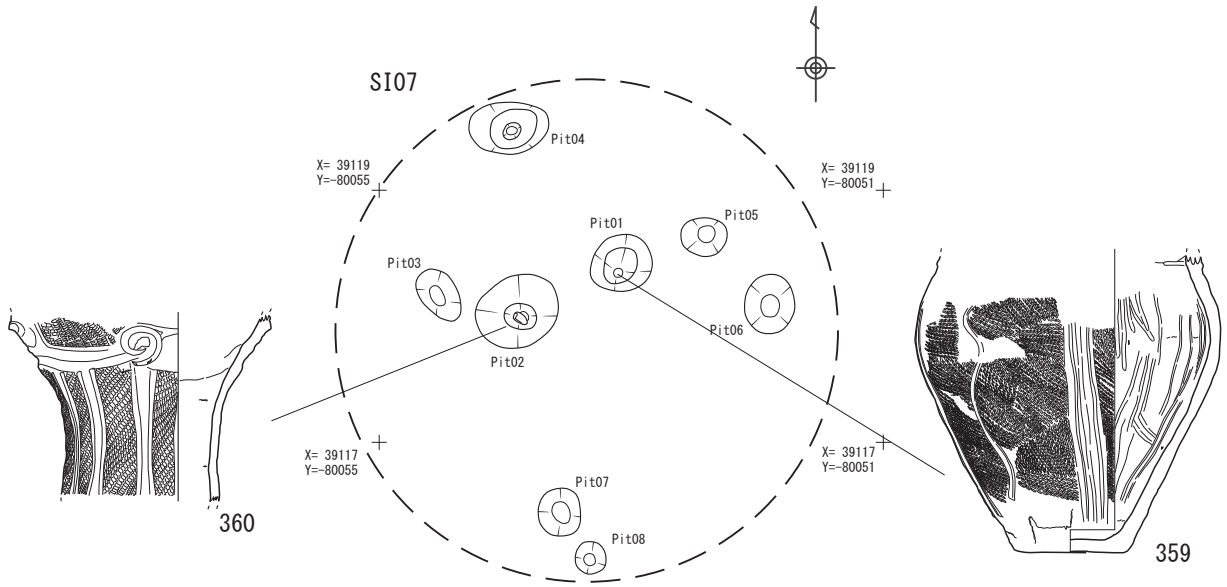
Pit04(SPC-C')
1　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5mm)多量。しまりやや強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。

Pit05(SPD-D')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ1～2mm)少量。炭化物含む。しまりやや弱、粘性やや強。
2　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性強。

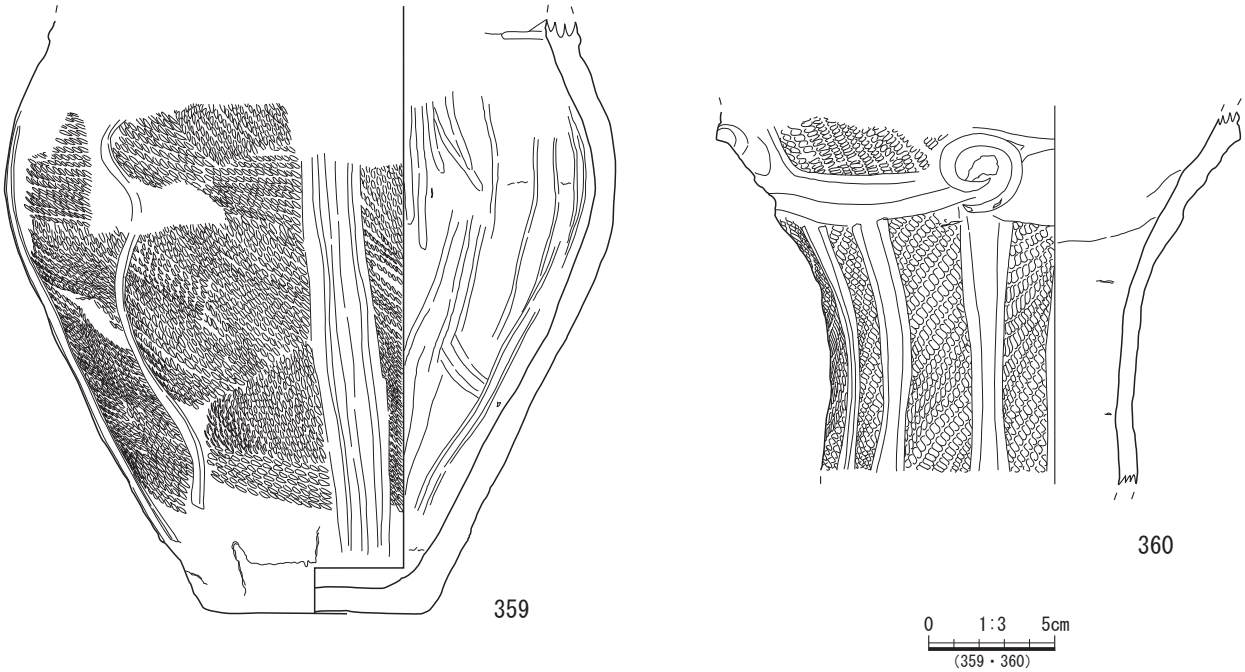
Pit06(SPE-E')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。

Pit07・08(SPF-F')
1　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5mm、1～2cm)多量。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや強。
4　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム混。掘り過ぎか。しまり強、粘性強。

第150図　７号竪穴建物跡　平面図・断面図



第151図　７号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第152図　７号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第38表　７号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第152図 PL.87	359	縄文土器 深鉢	—	9.0	(23.5)	外：絡条体による圧痕を地文とし、粘土貼り付けによる隆起線文で垂下する二重線文や波状文を施文。頸部にも横位の隆起線文と沈線がある 内：ナデ	①良好 ②5YR 6/6 ③砂	2/3	１号ピット埋甕
第152図 PL.87	360	縄文土器 深鉢	—	—	(14.8)	外：粘土貼り付けによる隆起線文で楕円形区画および渦巻文を施し、区画内は単節縄文で充填する。口縁文様帯より垂下する二重沈線を施文する。胴部には単節縄文を施文するが、沈線間は磨り消す 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 7/6 ③砂多い	1/3	２号ピット埋甕

【８号竪穴建物跡】（596W-SI08）

位置　　西区東側の南端で検出した。９号竪穴建物跡と重複する。

形状・規模　　やや不整な隅丸方形を呈している。長軸4.0m、短軸3.9mを測る。遺構確認面から床面までの深さはおよそ0.3m、掘り方面まではおよそ0.4mである。床面付近での標高は概ね153.8mとなる。

主軸　　Ｎ－53°－Ｗ

埋土　　黒褐色を基調とし、黄褐色ローム粒子を混入する。全体的にしまりは強く、粘性はやや強い。

燃焼施設　　北西壁のほぼ中央にカマドを造り付ける。残存はあまり良好でないが、両袖石が残存しており、焚き口付近には土師器甕の破片が散乱していた。袖石間の距離は40cmで、袖石から奥行き30cmで一段高くなる。

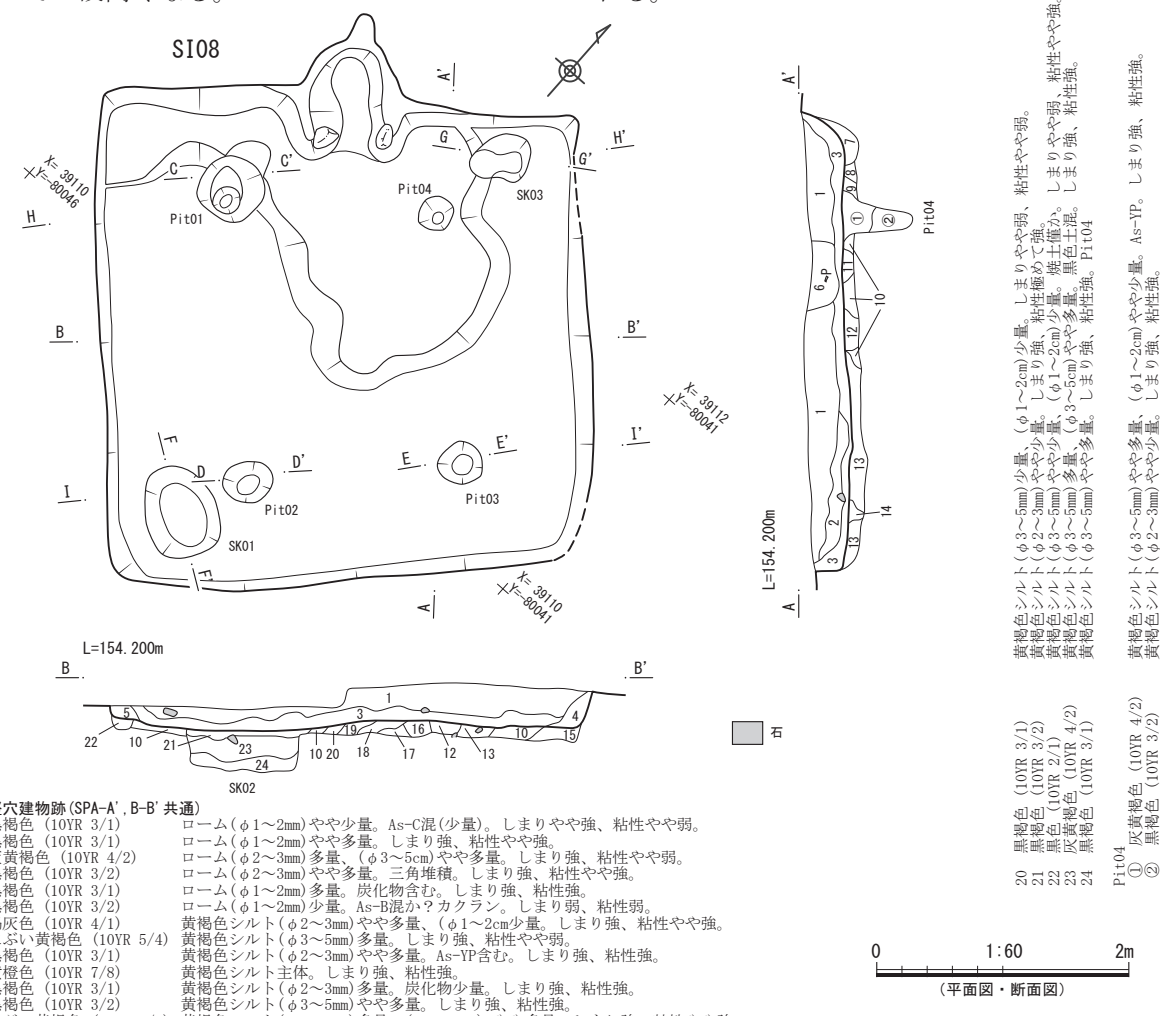
貯蔵穴　　建物跡の南隅にSK01がある。カマドの脇となる北隅にはSK03がある。SK03はやや小振りな土坑だが、SK01とともに貯蔵穴であった可能性が考えられる。

柱穴・土坑　　主柱穴はピット１～４の４基である。南隅にSK01があり、ピット１と２の中間には床下土坑のSK02がある。

掘り方　　ローム上位の漸移層を掘り抜いたところまで掘削されており、西壁寄りがやや高く、北側の一部や東～南側にかけて深くなる。

出土遺物　　土師器甕や坏類、須恵器甕が出土している。その他、流れ込みの縄文土器や弥生土器がある。弥生土器は重複する９号竪穴建物跡の遺物である可能性が考えられる。

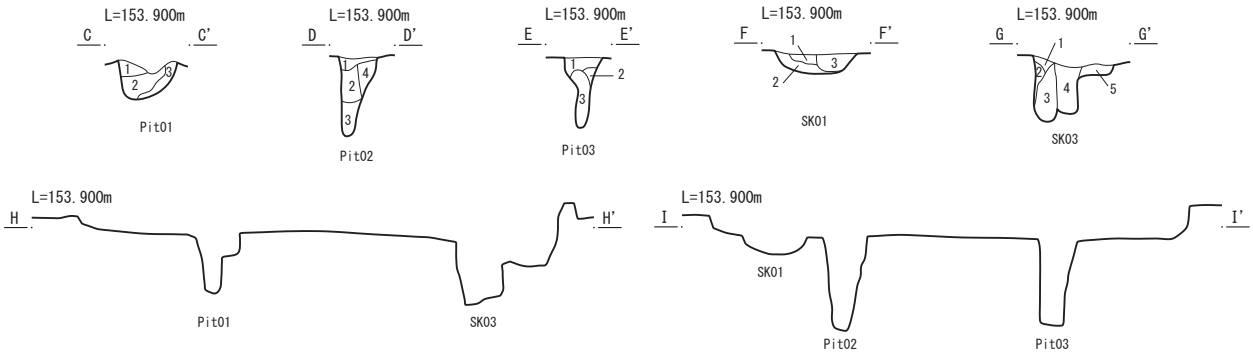
所見　　出土土器の様相から７世紀前半と想定される。



８号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)

1	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ1～2mm)やや少量。As-C混(少量)。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
3	灰黄褐色（10YR 4/2）	ローム(φ2～3mm)多量、(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
4	黒褐色（10YR 3/2）	ローム(φ2～3mm)やや多量。三角堆積。しまり強、粘性やや強。
5	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ1～2mm)多量。炭化物含む。しまり強、粘性強。
6	黒褐色（10YR 3/2）	ローム(φ1～2mm)少量。As-B混か？カクラン。しまり弱、粘性弱。
7	褐灰色（10YR 4/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm少量。しまり強、粘性やや強。
8	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性やや弱。
9	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。As-YP含む。しまり強、粘性強。
10	黄橙色（10YR 7/8）	黄褐色シルト主体。しまり強、粘性強。
11	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。炭化物少量。しまり強、粘性強。
12	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性強。
13	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ1～2cm）やや多量。しまり強、粘性やや強。
14	黒色（10YR 2/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、（φ1～2cm少量。根っこ。しまりやや弱、粘性やや強。
15	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性強。
16	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性強。
17	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性極めて強。
18	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ1～2cm)やや少量。しまり強、粘性強。
19	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。しまり強、粘性強。
20	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ1～2cm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
21	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性極めて強。
22	黒色（10YR 2/1）	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量、(φ1～2cm)少量。姫土堆か。しまりやや弱、粘性やや強。
23	灰黄褐色（10YR 4/2）	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ3～5cm)やや多量。黒色土混。しまり強、粘性強。
24	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性強。Pit04
Pit04 ①	灰黄褐色（10YR 4/2）	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。As-YP。しまり強、粘性強。
Pit04 ②	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性強。

第153図　８号竪穴建物跡　平面図・断面図



Pit01(SPC-C')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性強。
3　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。しまり強、粘性強。

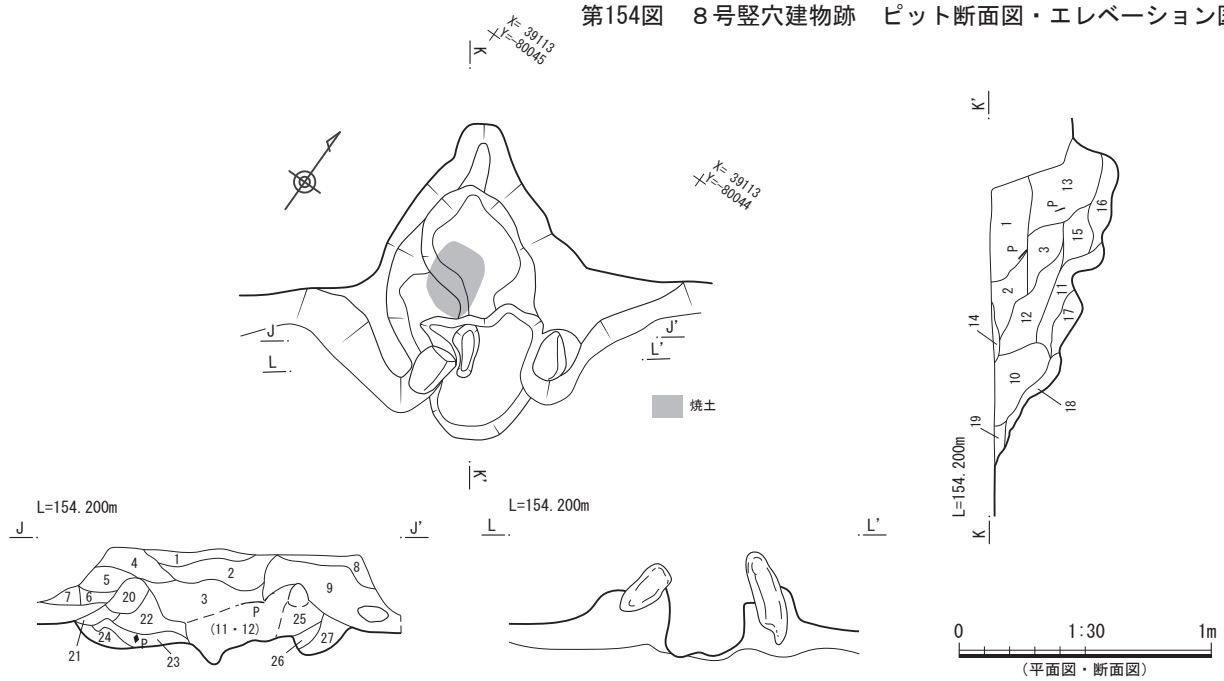
Pit02(SPD-D')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性強。
3　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ2～3mm)多量。しまりやや弱、粘性やや弱。
4　明黄褐色（10YR 6/6）　ローム(多量)。しまり強、粘性強。

Pit03(SPE-E')
1　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ1～2mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性強。

SK01(SPF-F')
1　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ3～5mm)少量。炭化物僅かに含む。しまりやや強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ3～5mm)多量、(φ3～5cm)やや多量。炭化物やや多量。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。炭化物なし。しまりやや強、粘性やや強。

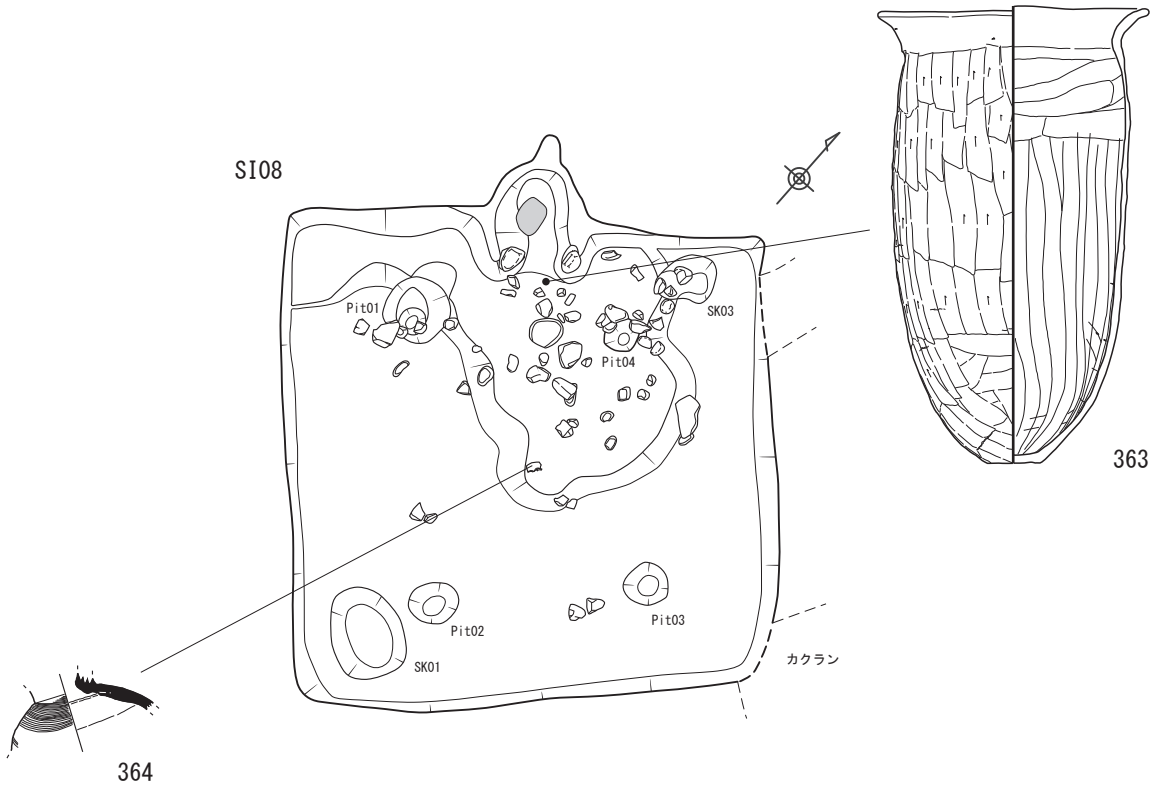
SK03(SPG-G')
1　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ2～3mm)多量。As-YP。しまり強、粘性やや強。
2　黄橙色（10YR 8/6）　地山ローム崩落？ローム主体。しまりやや弱、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)少量、(φ3～5mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
5　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ3～7cm)やや多量。しまり強、粘性強。

第154図　８号竪穴建物跡　ピット断面図・エレベーション図

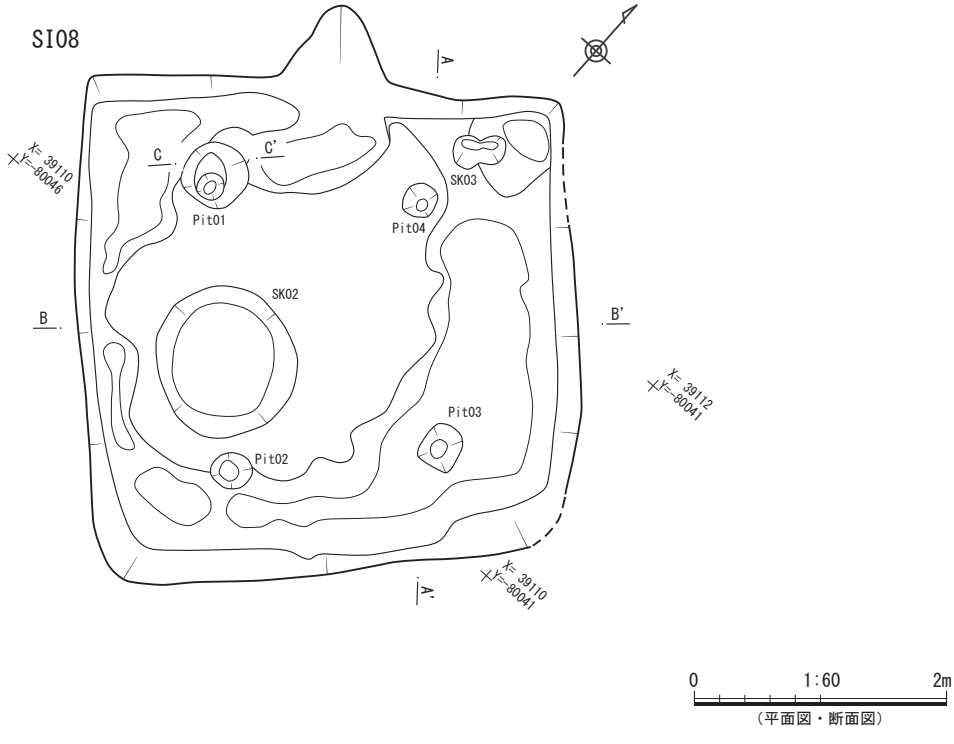


８号竪穴建物跡(SPJ-J',K-K'共通)
1　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混。焼土(φ1～2mm)少量。炭化物微量。ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
2　暗褐色（10YR 3/3）　焼土(φ1～2mm)やや少量。As-YP。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　焼土(φ1～2mm)やや少量。ローム(φ1～2mm)少量。As-YP。しまり強、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 3/2）　焼土(φ2～3mm)少量。ローム(φ2～3mm)やや多量。As-YP。しまり強、粘性弱。
5　黒褐色（10YR 3/1）　焼土(φ3～5mm)少量。ローム(φ2～3mm)やや少量。As-YP少量。しまりやや強、粘性弱。
6　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
7　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
8　暗褐色（10YR 3/3）　焼土(φ1～2mm)少量。ローム(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性弱。
9　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
10　褐色　（10YR 4/4）　ローム(φ2～3mm)少量。As-YP少量。焼土(φ2～3mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。炭化物僅か。しまり強、粘性やや強。
11　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム(φ2～3mm)やや多量。焼土(φ3～5mm)やや多量。炭化物・灰(僅か)。しまり強、粘性強。
12　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ3～5mm)やや多量。焼土(φ2～3mm)多量、(φ1～2cm)やや少量。炭化物少量。しまり強、粘性やや弱。
13　黒褐色（10YR 2/2）　As-C混。ローム(φ1～2mm)少量。As-YP少量。焼土少量。しまり強、粘性やや強。
14　黒褐色（10YR 3/1）　As-A混。しまり強、粘性なし。
15　暗褐色（10YR 3/3）　焼土・炭化物少量。黄褐色ローム被熱ブロック(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
16　黒色（10YR 2/1）　焼土、炭化物なし。黄褐色ローム被熱ブロック(φ2～3cm)少量。ローム(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
17　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　焼土少量。被熱ロームブロック(φ1～2cm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
18　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ3～5cm)少量。しまり強、粘性やや弱。
19　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3cm)少量。焼土僅か。しまり強、粘性やや弱。
20　褐灰色（10YR 4/1）　明黄褐色シルト多量。カマド構築材か。しまり強、粘性やや強。
21　黒褐色（10YR 3/1）　As-YP多量。褐色シルト混。しまり強、粘性強。
22　暗褐色（10YR 3/3）　黒色土ブロック混(φ2～3cm)。As-YP。黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量。焼土少量。しまり強、粘性やや強。
23　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。As-YP。しまりやや強、粘性やや強。
24　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
25　暗褐色（10YR 3/3）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。焼土少量。As-YP。しまり強、粘性やや強。
26　にぶい黄褐色（10YR 5/4）　黄褐色シルト主体。焼土少量。しまり強、粘性強。
27　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。焼土少量。しまり強、粘性強。

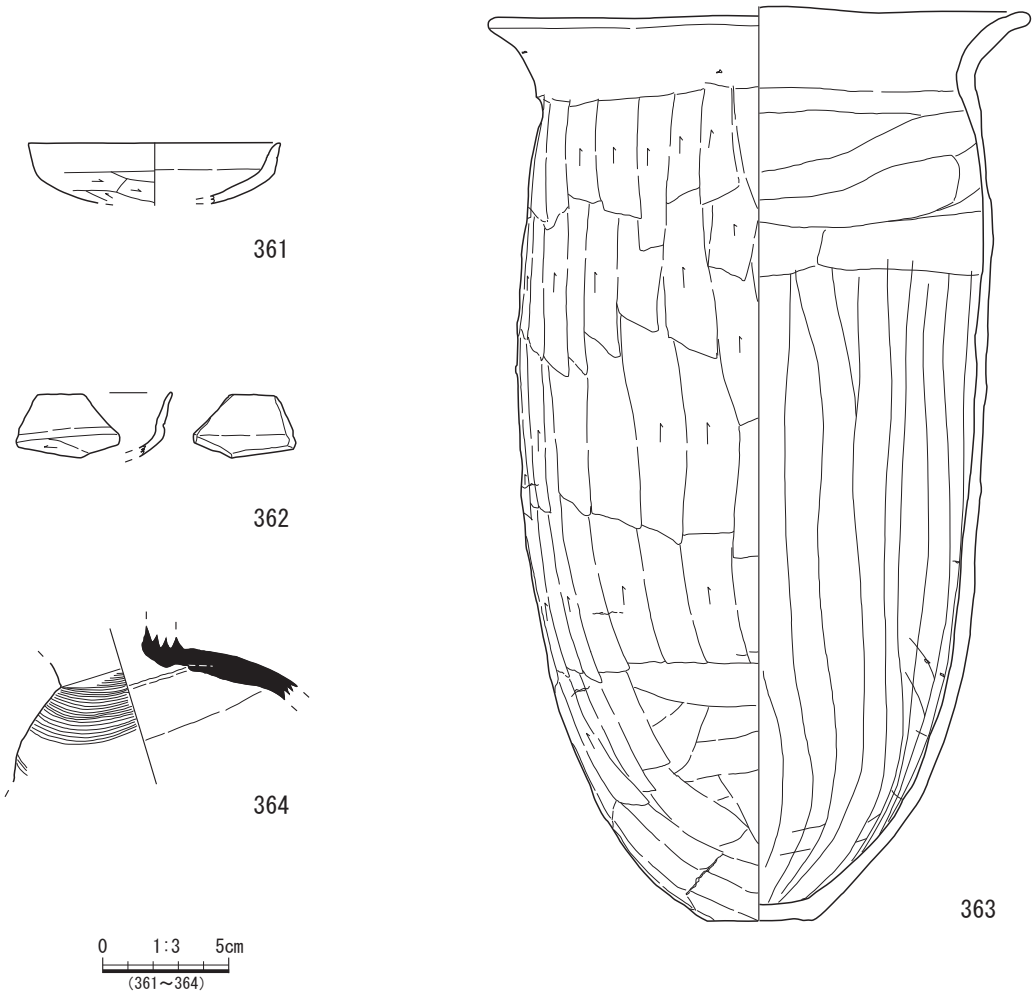
第155図　８号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図



第156図　８号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第157図　８号竪穴建物跡　掘り方平面図



第158図　８号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第39表　８号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第158図 PL.88	361	土師器 坏	【10.0】	—	(2.4)	外：口縁は外反ぎみに直立し、体部と境に稜線を有する。口縁ナデ、体部ヘラケズリ 内：ナデか	①良好 ②7.5YR 7/6 ③長石、輝石	破片	
第158図 PL.88	362	土師器 坏	—	—	—	外：口縁は外反、体部と境に稜線がある。口縁ナデ、体部ヘラケズリ 内：ナデか	①良好 ②5YR 6/6 ③砂	破片	
第158図 PL.88	363	土師器 壺	21.5	4.2	36.2	外：口縁ナデ、胴部ヘラケズリ 内：ナデ	①良好　②7.5YR 6/6 ③長石、片岩	ほぼ完形	
第158図 PL.88	364	須恵器 平瓶	—	—	—	外：カキメ 内：指頭圧痕	①良好　②10YR 6/1 ③砂	破片	

【９号竪穴建物跡】（596W-SI09）

位置　　西区東側の南端で検出した。北側を８号竪穴建物跡、南側が調査区外へと延びるため、全体の一部のみの調査に留まった。

形状・規模　　東西軸はおよそ6.3mである。南北軸は1.4mほどの検出に留まっている。遺構確認面から遺構底面までは0.3mで、標高は154.0付近となる。

主軸　　Ｎ－21°－Ｅ

埋土　　黒色や黒褐色を基調とし、埋土上～中位層にはAs-Cが混入するが、下位層には顕著ではない。また、下位層には炭化物や焼土が含まれており、柱穴と考えられるピットからも炭化物が検出される。遺構埋没の初期段階において上述の炭化物類が混入した様子が窺える。しまりや粘性は概ね強い。

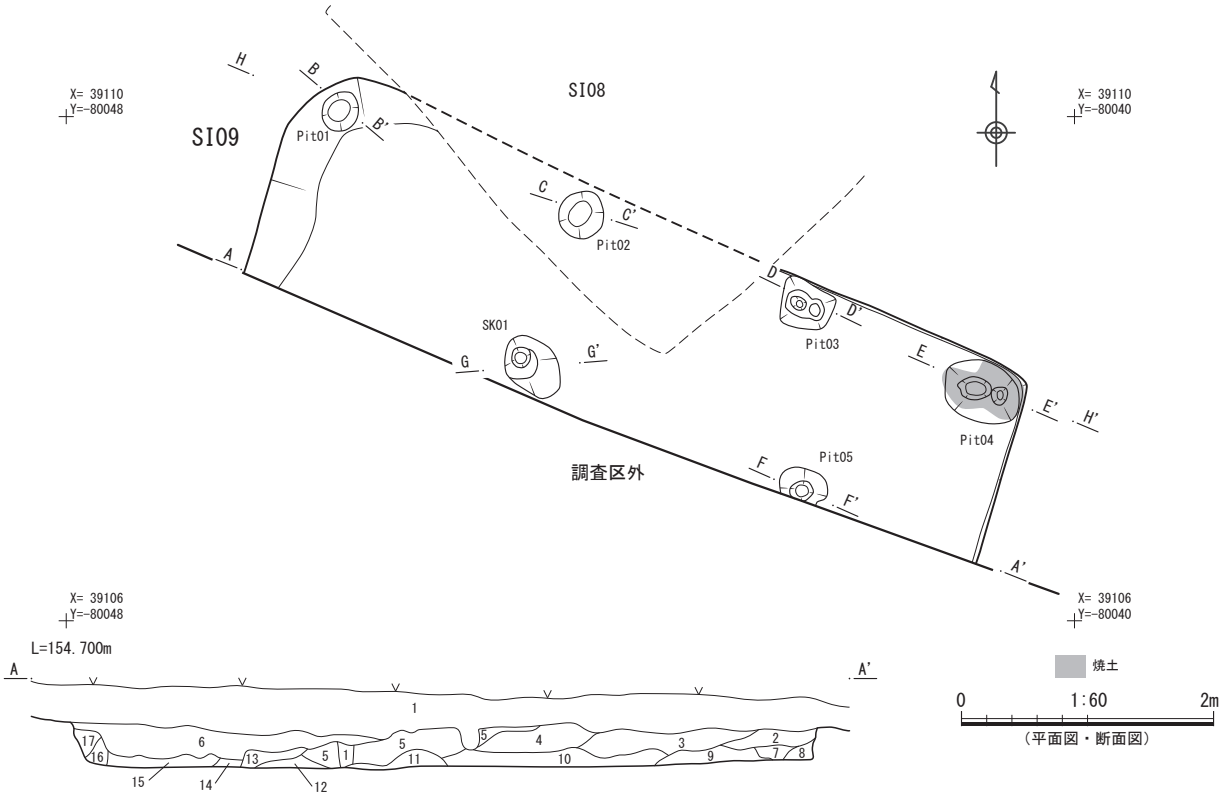
燃焼施設　　未検出である。

貯蔵穴　　未検出である。

柱穴・土坑　　遺構の北壁に沿って４基のピットが配され、遺構中寄りに並行して２基のピットがある。

出土遺物　　樽式土器の甕や壺片が出土している。そのほか流れ込みと考えられる縄文土器少量を検出している。

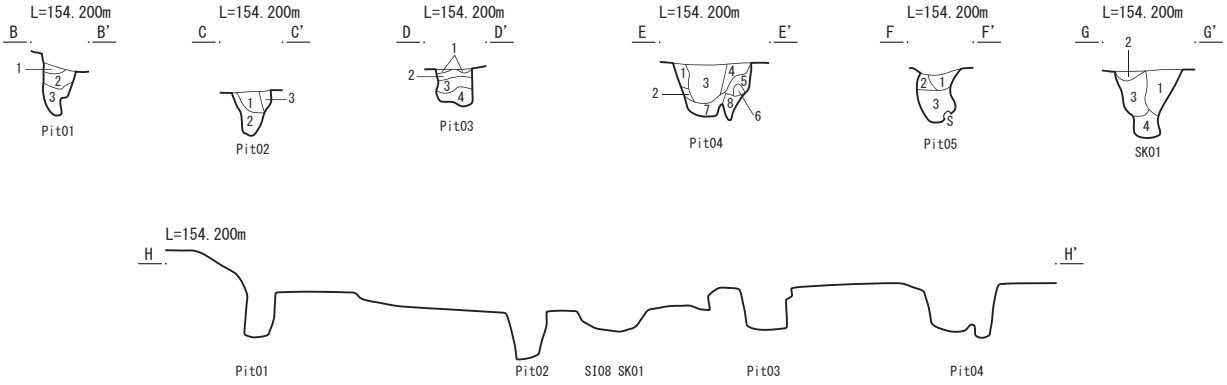
所見　　堆積埋土の下位層に混入する炭化物や焼土は、本遺構が焼失した可能性を示唆するものである。埋土下位層にはAs-Cが混入しないことから遺構構築はAs-C降下前と想定される。遺構の全容は不明だが、出土遺物から弥生時代後期に属するものと推測される。



９号竪穴建物跡(SPA-A')

1	黒褐色（10YR 2/2）	表土。しまりやや強、粘性弱。
2	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混。炭化物やや少量。ローム(φ1～2mm)少量。焼土僅か。しまり強、粘性やや弱。
3	黒褐色（10YR 2/3）	As-C混(多量)。ローム(φ1～2mm)少量。炭化物やや少量。焼土少量。遺物含む。しまり強、粘性弱。
4	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(少量)。ローム(φ2～3mm)少量。炭化物少量。焼土僅か。しまり強、粘性やや弱。
5	黒色（10YR 2/1）	As-C混(少量)。ローム(φ1～2mm)少量。炭化物少量。焼土僅か。しまり強、粘性やや強。
6	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(少量)。As-YP少量。ローム(φ1～2mm)少量。炭化物、焼土僅か。しまりやや強、粘性やや弱。
7	黒色（10YR 2/1）	ローム(φ2～3mm少量、(φ1～2cm)少量。炭化物(材)やや多量。焼土少量。しまり強、粘性やや強。As-Cの混入は顕著ではない。
8	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ3～5mm)やや多量、(φ3～5cmやや多量。炭化物少量。焼土僅か。しまり強、粘性やや弱。As-Cなし。
9	黒褐色（10YR 2/2）	ローム(φ3～5mm)多量。炭化物(材)多量。焼土僅か。しまりやや強、粘性やや強。As-Cなし。
10	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ1～2mm)やや多量、(φ3～5cm)やや多量。炭化物やや多量。焼土僅か。しまり強、粘性やや強。As-Cなし。
11	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ2～3mm)少量。As-YP含む。炭化物、焼土少量。しまり強、粘性やや強。As-Cなし。
12	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ1～2mm)少量。As-YP含む。炭化物、焼土僅か。しまり強、粘性強。As-Cなし。
13	黒褐色（10YR 3/2）	ローム(φ2～3mm)やや少量。炭化物、焼土僅か。しまりやや強、粘性強。As-Cなし。
14	黄橙色（10YR 7/8）	ローム主体(ブロック)。しまり強、粘性強。
15	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ2～3mm)やや少量。炭化物(材)やや多量。焼土(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性強。As-Cなし。
16	灰黄褐色（10YR 4/2）	ローム(φ2～3mm)多量。As-YP含む。炭化物やや多量。焼土少量。しまりやや強、粘性やや弱。As-Cなし。
17	褐灰色（10YR 4/1）	ローム(φ3～5mm)As-YP含む。炭化物やや少量。焼土少量。しまりやや強、粘性やや弱。As-Cなし。

第159図　９号竪穴建物跡　平面図・断面図



Pit01(SPB-B')
1　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ1～2mm)少量。As-YP、炭化物少量。しまりやや弱、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや多量。As-YP含む。しまりやや弱粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)多量。As-YP、炭化物含む。しまりやや弱、粘性やや弱。

Pit02(SPC-C')
1　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性強。

Pit03(SPD-D')
1　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ1～2mm)少量。炭化物やや多量。焼土少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ3～5mm)多量。炭化物、焼土僅か。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性強。
4　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや強。

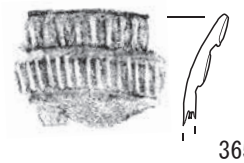
Pit04(SPE-E')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。炭化物少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム充填。地山ローム崩落。しまりやや強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ3～5cm)少量。炭化物極めて多量。焼土なし。しまりやや弱、粘性やや強。
4　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ1～2mm)やや多量、(φ2～3cm)やや少量。 炭化物含む。焼土なし。しまりやや強、粘性やや弱。
5　明黄褐色（10YR 6/6）　ローム充填。しまり強、粘性強。
6　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ1～2mm)少量。炭化物少量。しまりやや強、粘性やや強。
7　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量。炭化物少量。しまりやや強、粘性強。
8　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ1～2mm)多量。炭化物少量。しまり強、粘性強。

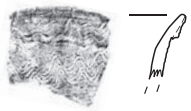
Pit05(SPF-F')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。炭化物、焼土少量。しまり強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。焼土少量。しまり強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。炭化物、焼土やや多量。しまり強、粘性強。

SK01(SPG-G')
1　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ1～2mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。As-C混。炭化物含む。しまり強、粘性やや強。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ1～2mm)多量。炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量、(φ1～2cm)少量。炭化物なし。しまり強、粘性強。
4　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ2～3mm)多量。炭化物少量。しまり強、粘性強。

0　1:60　2m
（断面図）

第160図　９号竪穴建物跡　ピット断面図・エレベーション図


365


366

0　1:3　5cm
（365・366）

第161図　９号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第40表　９号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第161図 PL.88	365	弥生土器 壺	—	—	—	外：折り返し口縁は２段となり、各段にキザミをもつ 内：ナデ。器面の風化が著しい	①良好 ②7.5YR 8/6 ③砂多い	口縁部 破片	
第161図 PL.88	366	弥生土器 甕	—	—	—	外：折り返し口縁。口縁に櫛描による波状文が施される 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 5/3 ③砂	口縁部 破片	

【10号竪穴建物跡】（596W-SI10）

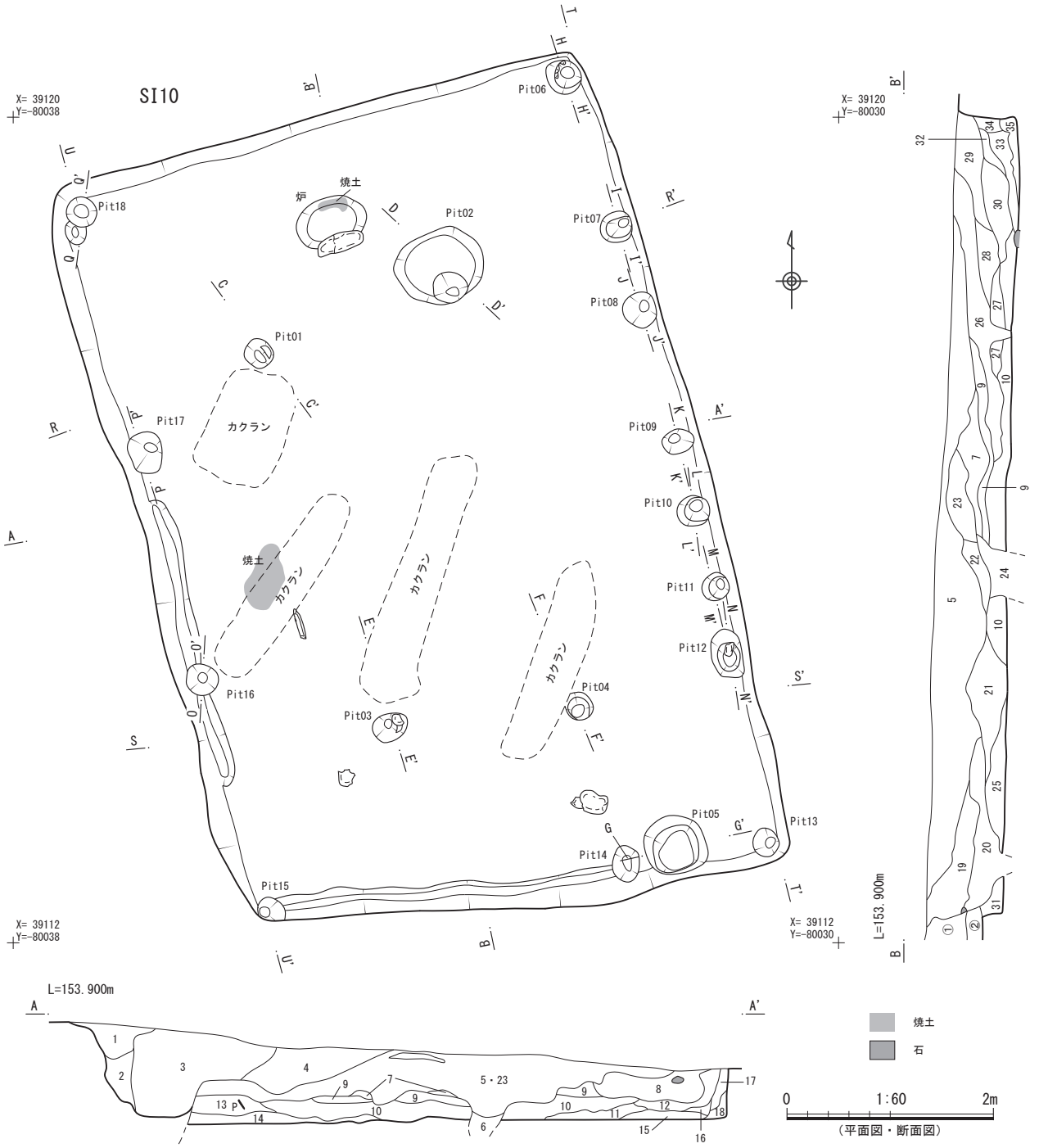
位置　　西区東側の南寄りで検出した。小型重機と思われるカクランにより遺構の一部が損なわれている。

形状・規模　　やや不整だが、南北に長い長方形を呈する。長軸は7.9m、短軸5.5mを測り、遺構確認面からの深さはおよそ0.7mとなる。遺構底面付近の標高は152.9mとなる。

主軸　　Ｎ－16°－Ｗ

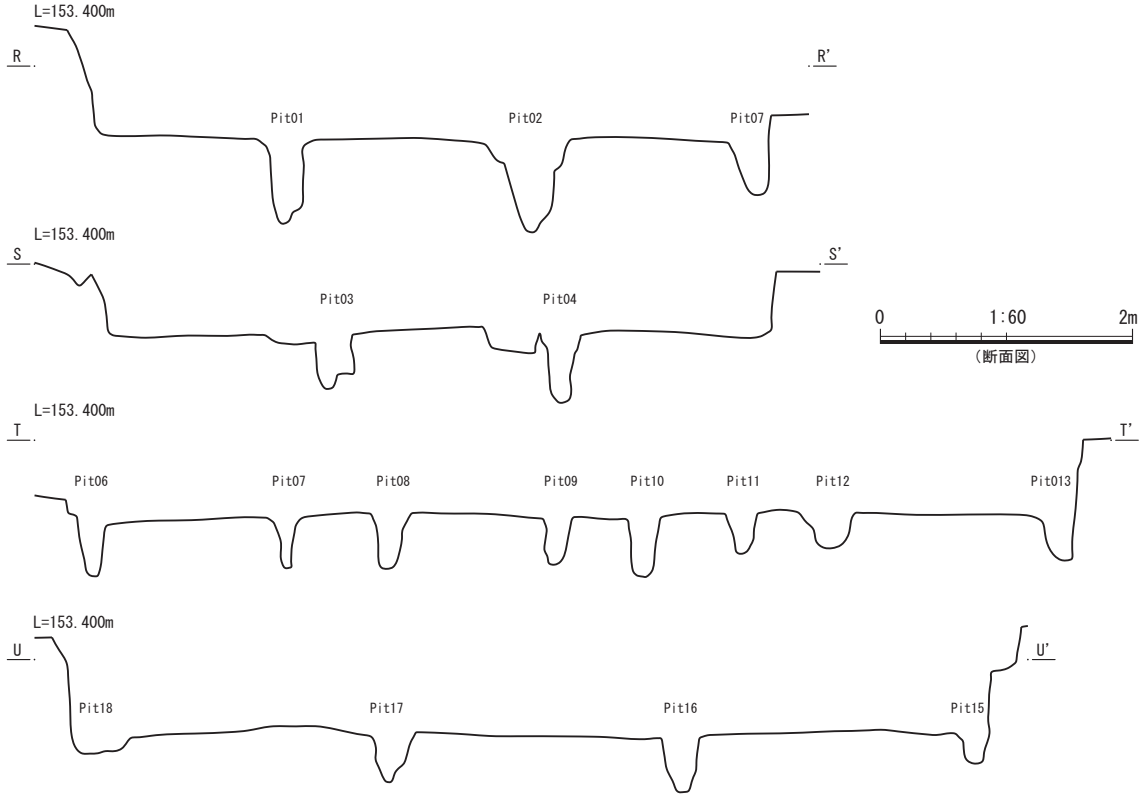
埋土　　概ね黒色および黒褐色を基調とする。上～下位層の多くにAs-Cを混入するが、遺構壁際のいわゆる「三角堆積」層にはAs-Cの混入は顕著でない。また、最下層には焼土や炭化材が集中しており、しまりや粘性は概ね強い。

燃焼施設　　遺構中央北寄りの床面に土坑状に浅く掘り窪めた燃焼施設を検出した。掘り込みの南側にやや大振りの細長い礫を据えている。炉として使用したものと考えられる。



第162図　10号竪穴建物跡　平面図・断面図

10号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)
1　黒褐色（10YR 2/2）　ビニールゴミ。As-A混。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ロームブロック(φ20cm)多量。しまり弱、粘性弱。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ビニールゴミ。しまりやや強、粘性弱。
4　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ5～10cm)やや多量。しまりやや強、粘性弱。
5　黒褐色（10YR 3/2）　As-B混。埋土ブロック(As-C、ローム)少量。しまりやや強、粘性やや強。
6　黒褐色（10YR 3/1）　As-C混。ロームブロック(φ3～5cm)少量。炭化物少量を含む。しまりやや強、粘性強。
7　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ10～15cm)やや多量。焼土少量を含む。しまり強、粘性強。
8　黒褐色（10YR 3/1）　As-B混。ローム、As-C含む。しまりやや強、粘性やや強。
9　黒色（10YR 2/1）　As-C混。ローム(φ2～3mm)少量。炭化物少量を含む。しまり強、粘性強。
10　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混(多量)。ローム(φ1～2mm)少量。炭化物多量に含む。しまり強、粘性強。
11　灰黄褐色（10YR 4/2）　As-C混(多量)。ローム(φ2～3mm)やや多量。炭化物やや多量。しまりやや強、粘性強。
12　黒色（10YR 2/1）　As-C混(少量)。ローム(φ1～2mm)少量。しまり極めて強、粘性やや強。
13　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)少量。焼土・炭化物少量。しまりやや強、粘性強。
14　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ3～5cm)やや多量。焼土・炭化材多量。しまりやや強、粘性強。
15　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ2～3mm)多量。焼土、炭化物微量。しまり極めて強、粘性強。
16　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ1～2mm)やや少量。焼土少量。しまり強、粘性強。
17　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)多量。ロームブロック含む。焼土少量含む。しまり極めて強、粘性強。
18　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ1～2mm)多量、(φ3～5cm)少量。焼土(φ5cm)含む。炭化物やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
19　黒褐色（10YR 3/1）　埋土ブロック(As-C、ローム)多量。しまりやや強、粘性やや弱。
20　黒褐色（10YR 3/2）　埋土ブロック(As-C、ローム)少量。しまりやや強、粘性強。
21　黒褐色（10YR 3/1）　埋土ブロック(As-C、ローム、炭化物、焼土)主体。しまり強、粘性強。
22　黒色（10YR 2/1）　ロームブロック(φ3～5cm)やや多量。しまりやや弱、粘性弱。
23　黒褐色（10YR 2/2）　As-B混。しまり弱、粘性弱。
24　黒褐色（10YR 2/2）　As-B混。ローム(φ2～3cm)少量。しまり弱、粘性やや弱。
25　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混(多量)。炭化物多量。焼土少量。ローム(φ2～3mm)多量、ブロック(φ3～5cm)少量。しまりやや強、粘性強。
26　黒色（10YR 2/1）　As-C混(多量)。炭化物・焼土やや少量。ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性強。
27　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混(多量)。炭化物多量。ローム(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
28　黒褐色（10YR 3/1）　As-C混(多量)。焼土少量。ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性強。
29　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混(多量)。焼土少量。ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
30　黒褐色（10YR 3/1）　As-C混(多量)。一部5cm程度のブロック状に混入。焼土、炭化物少量。ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
31　灰黄褐色（10YR 4/2）　As-Cなし。ローム(φ3～5mm)、(1～2cm)多量。焼土・炭化物含む。三角堆積。しまり強、粘性強。
32　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
33　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。焼土微量。しまりやや強、粘性やや強。
34　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ1～2mm)多量、(φ2～3cm)少量。　焼土少量。三角堆積。しまり強、粘性強。
35　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。焼土・炭化材集中層。しまりやや強、粘性強。
①　黒褐色（10YR 3/1）　地山ロームブロック(φ10～15cm)と黒褐色土(10YR 3/1)が混じる。しまりやや強、粘性弱。カクラン。
②　黒褐色（10YR 3/1）　As-YP、ローム(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性強。カクラン。



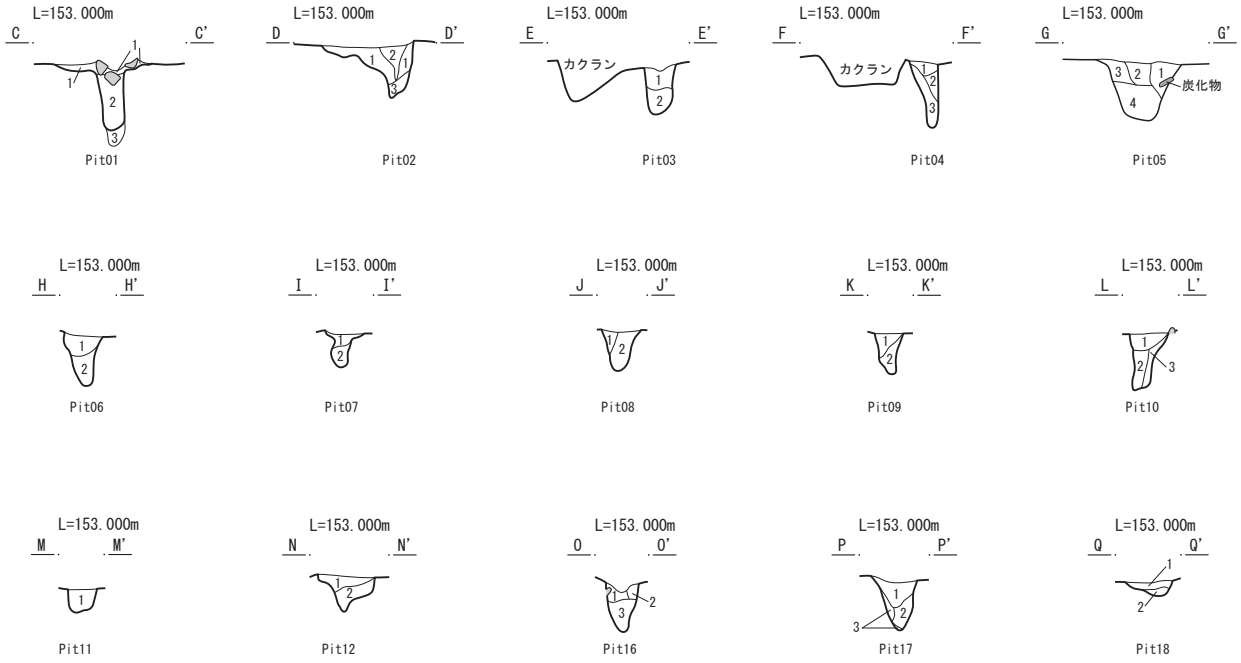
第163図　10号竪穴建物跡　エレベーション図

柱穴・土坑　遺構の中央付近には主柱穴４基（Pit01～04）があり、東西両壁を中心に13基のピット（Pit06～18）がある。また、南東隅近くの南壁際に貯蔵穴と考えられる土坑（Pit05）がある。

壁周溝　南壁および西壁中央付近の一部でそれぞれ検出があった。

出土遺物　樽式土器の壺、甕、高坏などが出土している。

所見　堆積埋土の下位層には炭化物や焼土が集中し、遺構底面から炭化材の検出があることから本遺構は焼失した可能性が示唆される。また、埋土全般にはAs-Cの混入が認められるものの三角堆積層に含まれないことから、遺構の廃絶はAs-C降下前と想定される。出土遺物から弥生時代後期に属するものと考えられる。



Pit01(SPC-C')
1　灰黄褐色（10YR 4/2）　As-C(多量)。炭化物有り。焼土少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム・炭化物やや多量。しまりやや弱、粘性やや強。
3　明黄褐色（10YR 7/6）　ローム。しまりやや強、粘性やや強。

Pit02(SPD-D')
1　にぶい黄褐色（10YR 5/3）　As-C混。ローム(φ3～5mm)やや多量。炭化物やや多量。焼土極僅か。しまりやや強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　As-C混。炭化物・焼土僅か。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 2/2）　As-C混。ローム(φ3～5mm)少量。炭化物少量。しまりやや弱、粘性強。

Pit03(SPE-E')
1　にぶい黄褐色（10YR 5/4）　As-C混。ローム(φ3～5mm)多量。炭化物多量。しまり強、粘性やや強。
2　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ3～5mm)多量。炭化物やや多量。しまり強、粘性強。

Pit04(SPF-F')
1　褐灰色（10YR 4/1）　As-C混。ローム(φ3～5mm)少量。炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　As-C混。炭化物やや多量。しまりやや強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　As-Cは原則含まない。炭化物。ローム(φ3～5mm)やや少量。しまり強、粘性強。

Pit05(SPG-G')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。炭化物（材）含む。焼土僅か。しまりやや弱、粘性やや弱。As-Cなし。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。As-Cなし。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5mm)極めて多量。炭化物少量。しまりやや強、粘性やや強。As-Cなし。
4　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや少量。炭化物多量。しまりやや弱、粘性やや弱。As-Cなし。

Pit06(SPH-H')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。炭化物やや多量。焼土なし。しまりやや弱、粘性やや強。
2　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ3～5mm)多量。炭化物やや少量。しまりやや強、粘性やや強。

Pit07(SPI-I')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや少量。炭化物多量。焼土なし。しまりやや弱、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～3mm)少量。炭化物・焼土なし。しまりやや強、粘性やや強。

Pit08(SPJ-J')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ1cm)少量。炭化物・焼土僅か。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5mm)やや多量。炭化物やや多量。しまりやや強、粘性やや強。

Pit09(SPK-K')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)多量。炭化物・焼土少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム(φ1～2mm)やや少量。炭化物少量。しまりやや強、粘性強。

Pit10(SPL-L')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)やや多量。炭化物やや多量。焼土少量。しまり強、粘性強。
2　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ2～3mm)少量。炭化物少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)少量。炭化物少量。しまりやや弱、粘性やや弱。

Pit11(SPM-M')
1　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ3～5mm)多量。炭化物少量。焼土僅か。しまり強、粘性やや強。

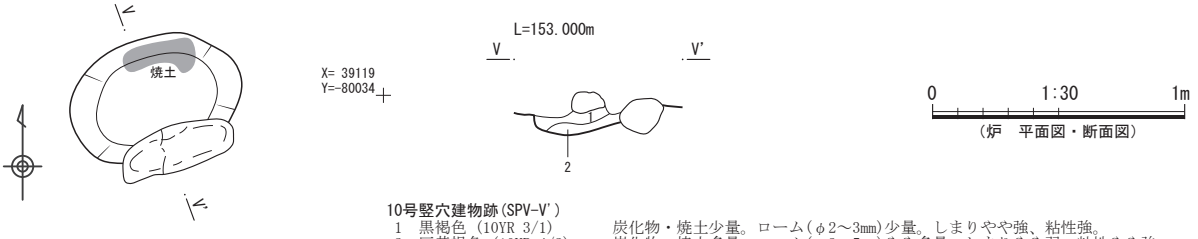
Pit12(SPN-N')
1　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。炭化物少量。焼土僅か。しまり強、粘性やや強。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ1～2mm)やや少量。しまりやや強、粘性強。

Pit16(SPO-O')
1　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量。焼土(φ3～5mm)少量。炭化物含む。しまり強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。炭化物多量。しまりやや強、粘性やや強。
3　褐色（10YR 4/4）　ローム含む。炭化物少量。しまり強、粘性やや強。

Pit17(SPP-P')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)多量、(φ1～2cm)少量。焼土(φ2～3mm)やや多量、(φ1～3cm)少量。炭化物やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量。焼土少量。炭化物少量。しまりやや強、粘性強。
3　にぶい黄橙色（10YR 6/4）　地山ローム崩落。しまりやや強、粘性強。

Pit18(SPQ-Q')
1　黒褐色（10YR 2/2）　ローム（φ3～5mm)多量。炭化物多量。しまりやや弱、粘性弱。
2　黒色（10YR 2/1）　ローム（φ1～2mm)少量。炭化物・焼土なし。しまり弱、粘性弱。

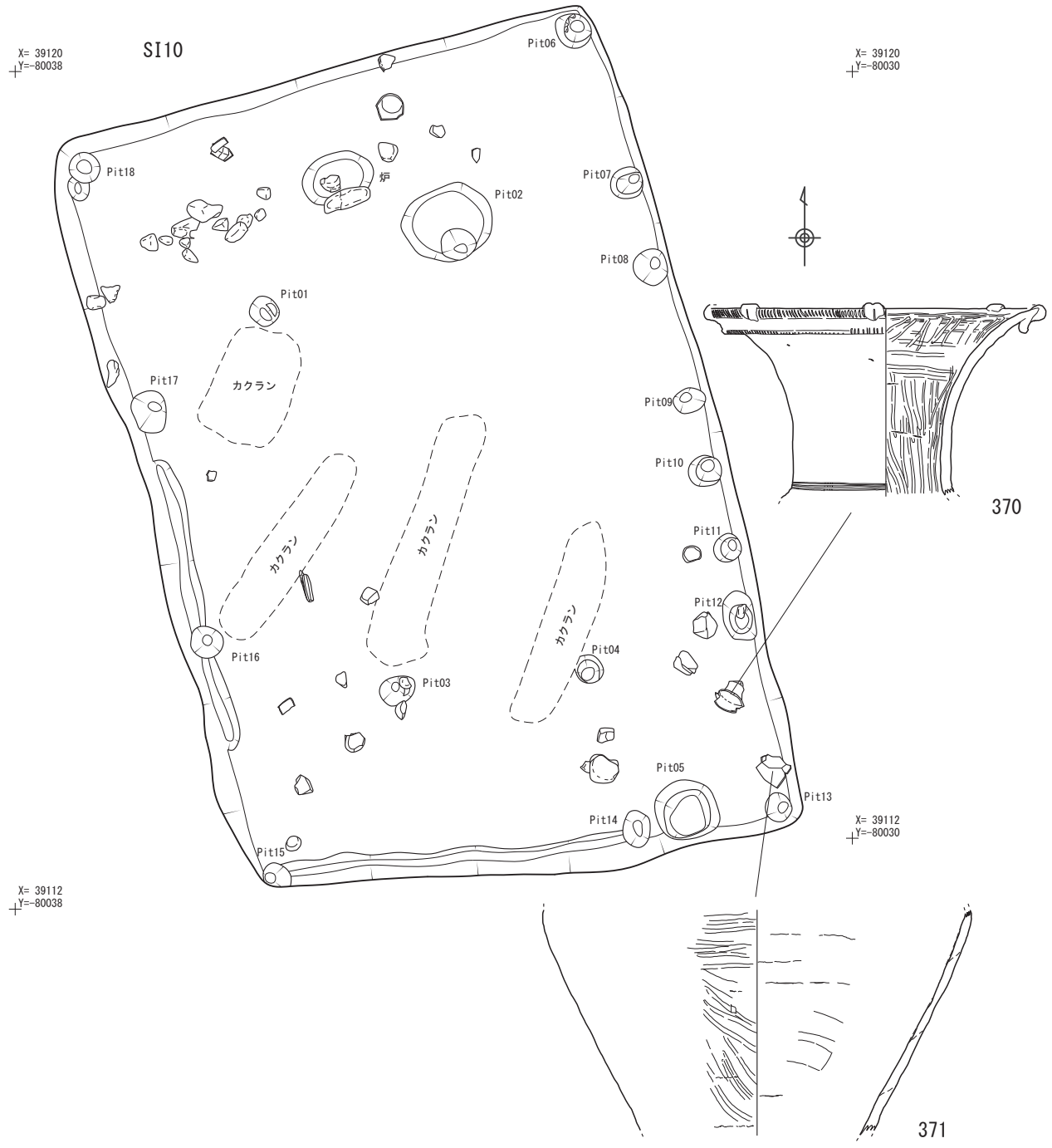
第164図　10号竪穴建物跡　ピット断面図



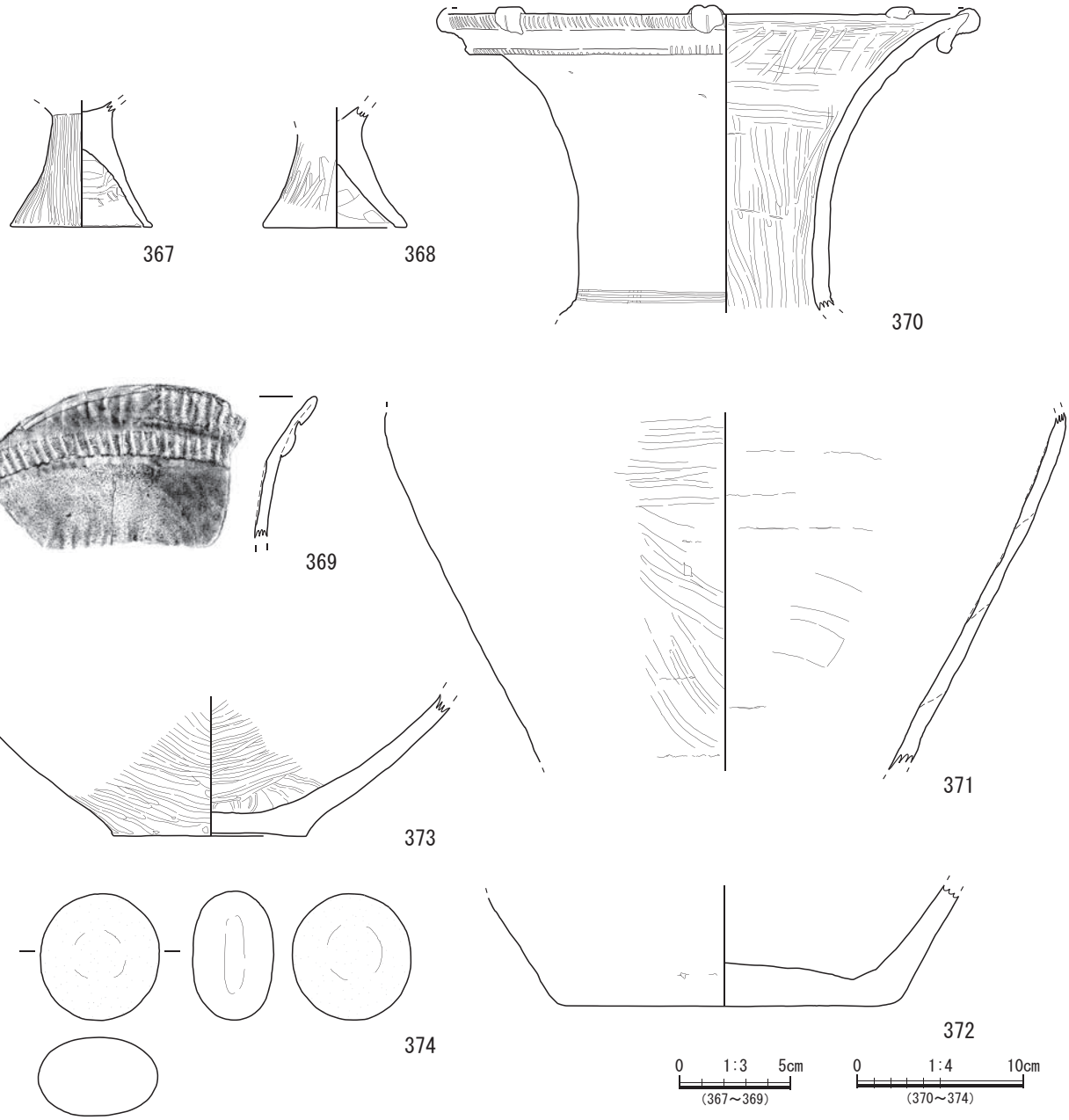
10号竪穴建物跡(SPV-V')
1　黒褐色（10YR 3/1）　炭化物・焼土少量。ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性強。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　炭化物・焼土多量。ローム(φ3～5cm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや強。

X= 39118
Y=-80035
X= 39118
Y=-80034

第165図　10号竪穴建物跡　炉跡平面図・断面図



第166図　10号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第167図　10号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第41表　10号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第167図 PL.88	367	弥生土器 高坏	—	6.4	(5.7)	外：ナデ 内：工具ナデ	①良好　②2.5YR 5/6 ③輝石、石英	脚部 4/5	
第167図 PL.88	368	弥生土器 高坏	—	【6.4】	(5.3)	外：ナデ 内：ナデ	①良好　②5YR 6/8 ③砂	脚部 2/3	
第167図 PL.88	369	弥生土器 壺	—	—	—	外：折り返し口縁は２段となり、各段にキザミをもつ 内：ナデ。器面の一部が剥離	①良好 ②7.5YR 7/6 ③砂	口縁部 破片	
第167図 PL.88	370	弥生土器 壺	32.6	—	(18.5)	外：有段折り返し口縁の上下両端に連続するキザミを施す。口唇端には一定間隔で粘土貼り付けによる突起をつける。口縁以下は無文だが頸部には簾状文が看取される。器面はナデ 内：ナデ	①良好 ②10YR 8/4 ③輝石、石英、砂	口縁部 3/4	
第167図 PL.88	371	弥生土器 壺	—	—	(21.0)	外：丁寧なナデ。 内：ナデ。器面の風化が著しい	①概ね良好　②10Y 8/2 ③小礫	胴部 破片	
第167図 PL.88	372	弥生土器 壺	—	20.2	(7.2)	外：ナデ 内：ナデ。底部に指頭圧痕	①良好　②2.5Y 8/3 ③輝石、砂多い	底部	
第167図 PL.88	373	弥生土器 壺	—	8.6	(5.8)	外：丁寧なナデ。斑点状に赤色顔料が付着 内：丁寧なナデ	①良好　②7.5YR 7/4 ③胎土は緻密。砂少量	底部 破片	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第167図 PL.88	374	磨石	7.7	7.2	4.8	396.7	輝石安山岩	平面形状はわずかに楕円だがほぼ円形。擦過痕から磨石と判断	

【11号竪穴建物跡】（596W-SI11）

位置　　西区東側の南端付近で検出した。１号礫槨墓（ST01）および58号土坑と重複するほか、近現代の耕作痕により遺構の一部を欠失する。

形状・規模　　ほぼ正方形を呈する。長軸8.4m、短軸8.0mを測る。遺構検出面から遺構床面まではおよそ0.2mほどで、床面付近の標高は153.2mとなる。

主軸　　Ｎ－21°－Ｅ

埋土　　黒褐色を基調とし、ローム粒子が混入する。しまりは概ね強いが、粘性はやや弱い。

燃焼施設　　遺構北壁中央に一定の焼土範囲が認められ、カマドなどの燃焼施設が想定された。調査の結果、カマドと想定しうる痕跡を見出せず、本来的に燃焼施設があったとしても調査時にはすでに失われたものと判断した。

床　　遺構の中央を中心に硬化面が認められた。土層を観察すると黒色土と黄褐色ロームを混和させており、貼床を施したものと考えられる。

貯蔵穴　　南東隅に、東に張り出しを持つ方形の土坑（SK01）を検出した。58号土坑と重複しているため詳細が不明であるが、遺構確認面から深さ0.8mであり、底面付近の標高は152.6mとなる。埋没埋土より土師器の坏、甕、高坏、須恵器坏、鬲など多種な遺物が多く出土した。

柱穴・土坑　　22基の小穴を検出した。そのうちピット２～４、13、21、22の６基が主柱穴となると考えられる。北西隅のピット22および北東隅のピット13では底面の標高レベルが152.55mとなり、北中央のピット21の152.7mとは0.15mほどの高低差がある。同様に、南西隅のピット４および南東隅のピット２はいずれも152.68mほどで、南中央のピット３の152.9m前後と比較して0.2mほどの高低差がある。いずれも東西両端の柱穴より中央の柱穴が浅い構造となる。ピット２と13の間およびピット４と22の間では柱穴を検出していないことから、ピット３と21は棟持柱の柱穴痕であろうか。その他のピットは床面で検出したものが多いが、性格については不明である。

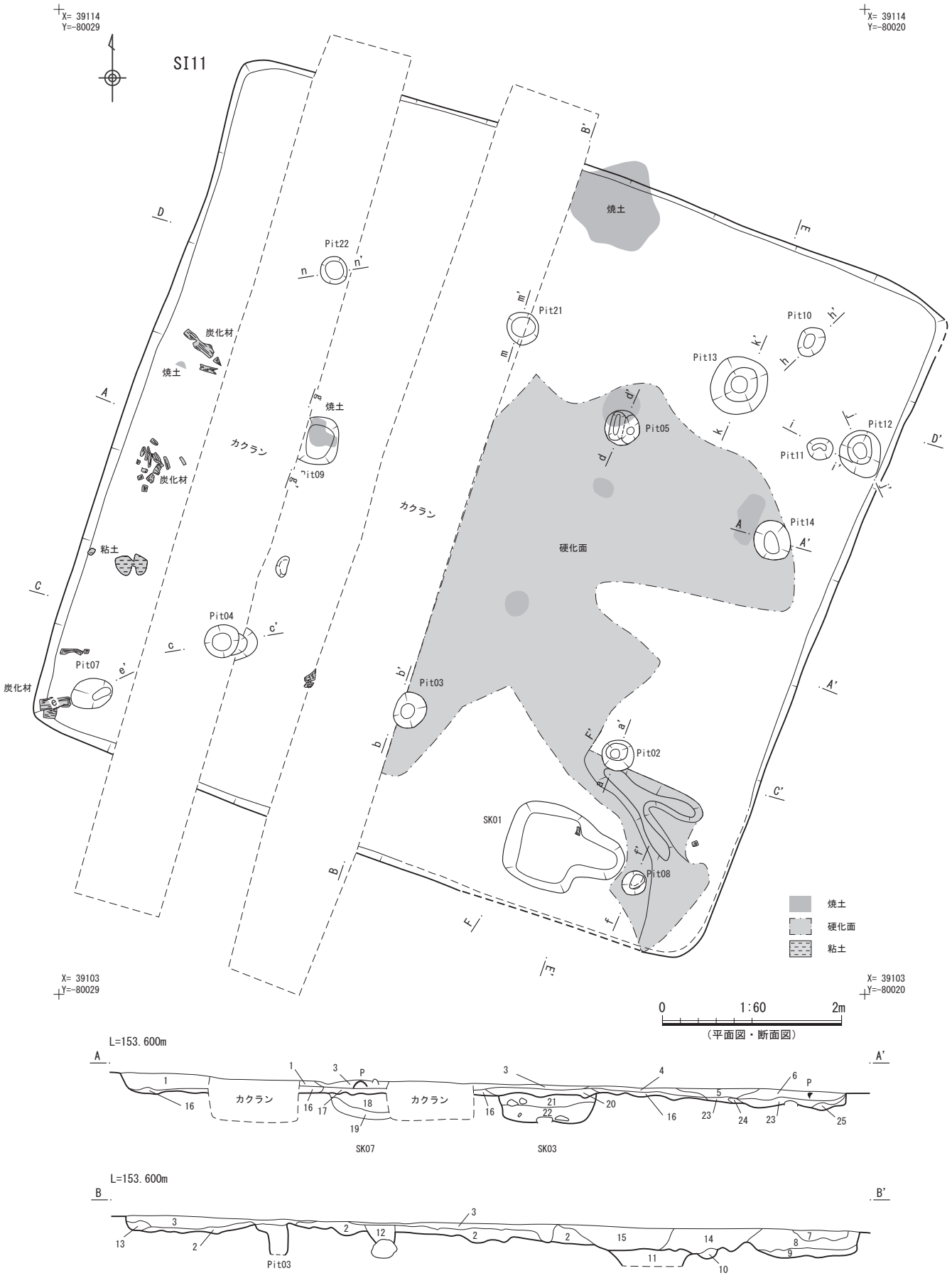
床硬化面下より床下土坑４基（SK02、03、05、07）を検出した。SK02は当初不整円形と想定していたが、調査の結果、平面形はほぼ円形の土坑であり、東側を方形の別遺構と重複していたことが判明した。埋土の状況から、方形土坑が先行していると判断される。SK02は地山ロームブロックを多量に含み、土坑の埋没は短期間であったことを示唆する。本遺構のほぼ中央にあるSK03は土師器坏などの遺物を出土し、埋土中位層には焼土が看取される。SK06は小規模な土坑で、埋土には焼土が混入する。

壁周溝　　南壁付近など部分的に検出。

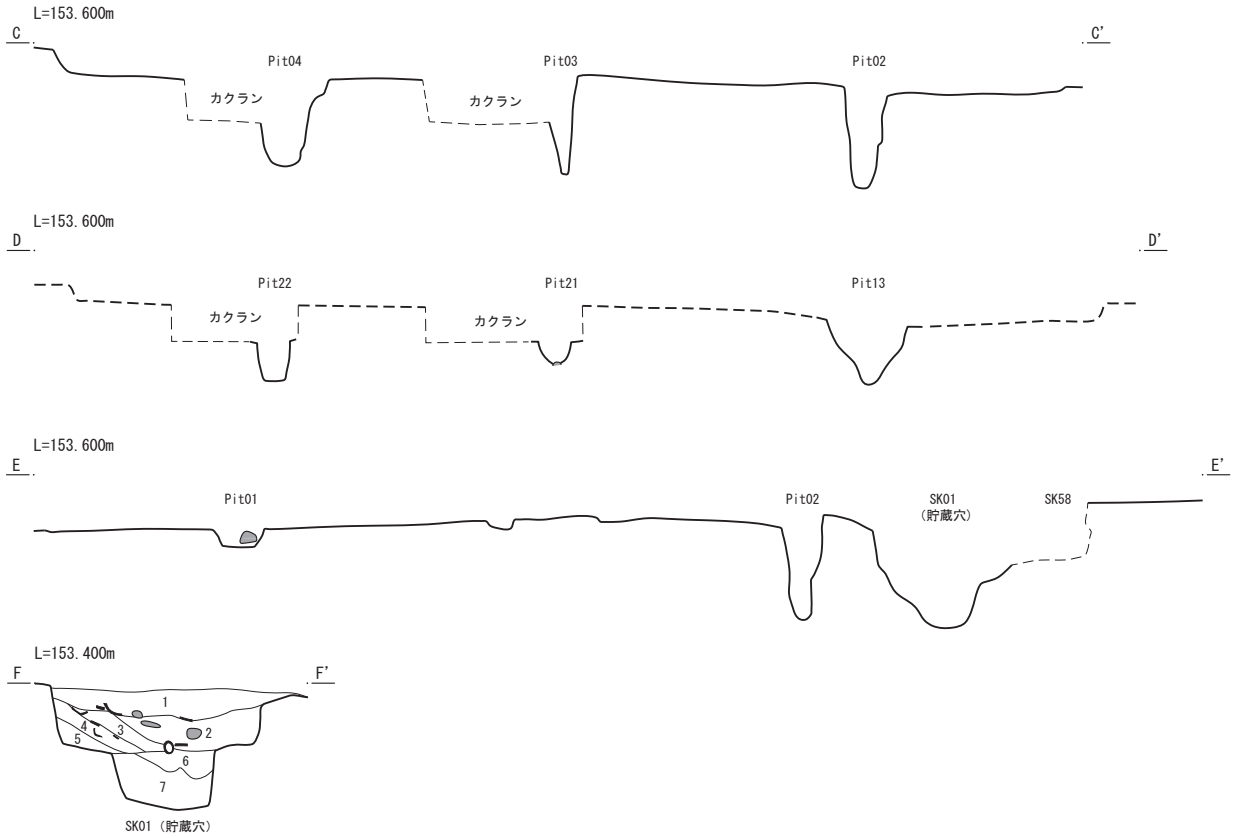
掘り方　　黄褐色ローム層まで掘り込みが及ぶ。概ね平坦だが、局所的に高低差が見受けられる。

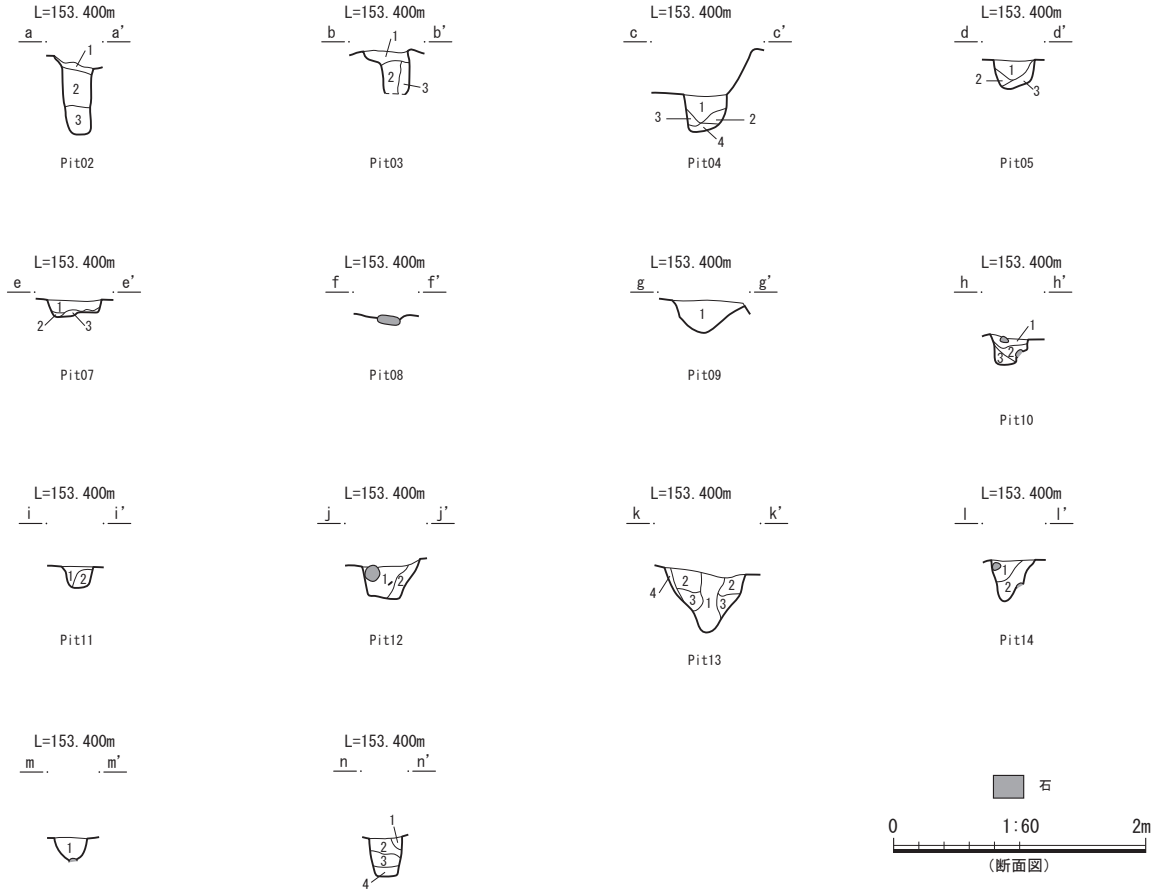
出土遺物　　土師器坏、高坏、丸底壺、甑、甕、手捏ね土器、須恵器蓋坏、高坏、鬲、刀子や釘などの金属製品、滑石製装飾品（勾玉、管玉、臼玉）や紡錘車などの石製品も豊富に出土した。また、鞴の羽口片や焼成粘土塊など生産に関わることが想定される遺物の出土も見られた。その他、流れ込みと考えられる縄文土器や弥生土器などもある。

土師器高坏は、坏部口縁が内斜し、まるで内斜口縁坏に脚部をつけたようなタイプ、同様に坏部口縁が内斜するが小振りのタイプのほか、坏部下端に貼付け粘土を突帯状につまみだす「垂下突帯付高坏」タイプがある。特に、内斜口縁坏に脚部をつけたようなタイプは、諸要素からいくつかのグループに分けることが可能である。第一群は相対的に小型で、坏部内底面に一条の線刻がつき、脚高が低く内面も浅い脚部をもつ。脚部の裾も少し膨らんで、端部は内反りとなる（第175図399・400）。第二群は、坏部内底面の線刻が十字であり、坏部外面上位に稜線が残存するほどケズリが顕著である。脚部はやや高くなり、内面も深くなる。脚部端部は直となる（同図401・402）。第三群は、相対的に大型品で、坏部内底面に線刻を持たない。器面の暗文状ミガキが、外面では脚部のみならず坏部まで施されている。坏部と脚部の接合では臍が顕著であり、脚部は内面はナデの後、ケズリを施す。脚端部はやや外反りである（同図403・404）。脚部を欠失するが、坏部外面にミガキを施す点では405、406についても同群の可能性がある。各群は出土位置にも偏りがあり、第一群は貯蔵穴の脇、第二群は貯蔵穴の底部付近、第三群は遺構中央やや西寄りの床面にてそれぞれ確認している。出土位置の違いについては不明だが、各群の諸属性の特徴の差異は、製作者が異なっていたことを示唆するものと考えられる。



第168図　11号竪穴建物跡　平面図・断面図





第169図　11号竪穴建物跡　断面図

11号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)
1　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ2～3mm)やや多量。焼土・炭化物混。層下位には炭化材も観察される。しまりやや弱、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～5cm)多量。炭化物や焼土は原則含まれない。貼床構成土。しまり強(固い)、粘性やや強。
3　黒色（10YR 2/1）　As-C(少量)。炭化物・焼土少量。ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
5　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性強。
6　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ3～5mm)やや少量、(φ2～3cm)少量。炭化物僅か。しまりやや強、粘性強。
7　黒色（10YR 2/1）　褐色土ブロック混。焼土(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
8　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)少量、(φ2～3cm)少量。焼土少量。As-C混。しまりやや強、粘性やや弱。
9　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。褐色の粘質土ブロックに焼土混。カマド材のブロックか。しまり強、粘性やや弱。
10　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
11　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)多量、(φ3～5cm)やや多量。焼土僅か。炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
12　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ1～2cm)やや少量。焼土僅か。しまりやや強、粘性やや弱。
13　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)多量、(φ2～3cm)少量。焼土僅か。しまり強、粘性強。
14　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ1～2mm)やや多量。As-C、As-YP含む。しまりやや強、粘性弱。
15　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ1～2mm)少量。炭化物少量。しまりやや強、粘性弱。
16　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルト主体。黒褐色土混。しまり強、粘性やや弱。床。
17　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量、(φ5～7cm)やや多量。炭化物・焼土少量。しまり極めて強、粘性やや弱。床。
18　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量、(φ5～7cm)やや多量。炭化物少量。しまり強、粘性やや弱。SK04
19　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。SK04
20　黒褐色（10YR 2/3）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。焼土少量。しまり極めて強、粘性やや弱。床。
21　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。焼土少量。しまり極めて強、粘性やや強。SK03。
22　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。焼土(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性やや強。SK03。
23　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量、(φ2～3cm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
24　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルト主体。黒褐色土混。しまり強、粘性やや弱。
25　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm) 多量。しまりやや強、粘性やや強。

SK01(SPF-F')
1　黒色（10YR 2/1）　As-C混。ローム(φ3～5cm)少量。焼土(φ2～3mm)やや多量。炭化物少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　As-C混。ローム(φ3～5mm)やや多量。炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3cm)少量。炭化物多量。しまりやや強、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや少量。焼土(φ2～3mm)少量。炭化物少量。しまりやや強、粘性やや強。
5　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
6　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ3～5mm)やや少量。焼土・炭化物少量。しまり強、粘性強。
7　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ2～3cm)少量。炭化物少量。しまりやや弱、粘性強。

Pit02(SPa-a')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
2　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
3　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。

Pit03(SPb-b')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)多量、(φ1～2cm)少量。炭化物少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。焼土僅か。炭化物やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
3　にぶい黄褐色（10YR 5/3）　ローム(φ3～5mm)多量。炭化物やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。

Pit04(SPc-c')
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量、(φ5～7cm)少量。焼土・炭化物少量を含む。しまりやや強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。焼土少量を含む。しまりやや強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土や黒褐色土が硬質化したブロック混(床か)。しまり強、粘性やや強。

Pit05(SPd-d')
1　黒色（10YR 2/1）　As-C混。ローム(φ1～2mm)少量。焼土(φ1～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
3　褐色（10YR 4/4）　焼土多く含む。ローム(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。

Pit07(SPe-e')
1　褐灰色（10YR 4/1）　As-C混。焼土少量を含む。炭化物やや多量。ローム(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
2　褐灰色（10YR 4/1）　As-C混。ローム(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
3　明黄褐色（10YR 6/6）　地山ローム。しまり強、粘性強。掘り過ぎ。

Pit09(SPg-g')
1　黒褐色（10YR 3/1）　As-C混。焼土・炭化物含む。ローム(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性強。

Pit10(SPh-h')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量、(φ2～3cm)少量。炭化物少量。しまり強、粘性やや弱。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
3　明黄褐色（10YR 6/6）　シルト。しまりやや強、粘性強。

Pit11(SPi-i')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　黄褐色シルト(φ2～3cm)やや多量。しまり強、粘性強。

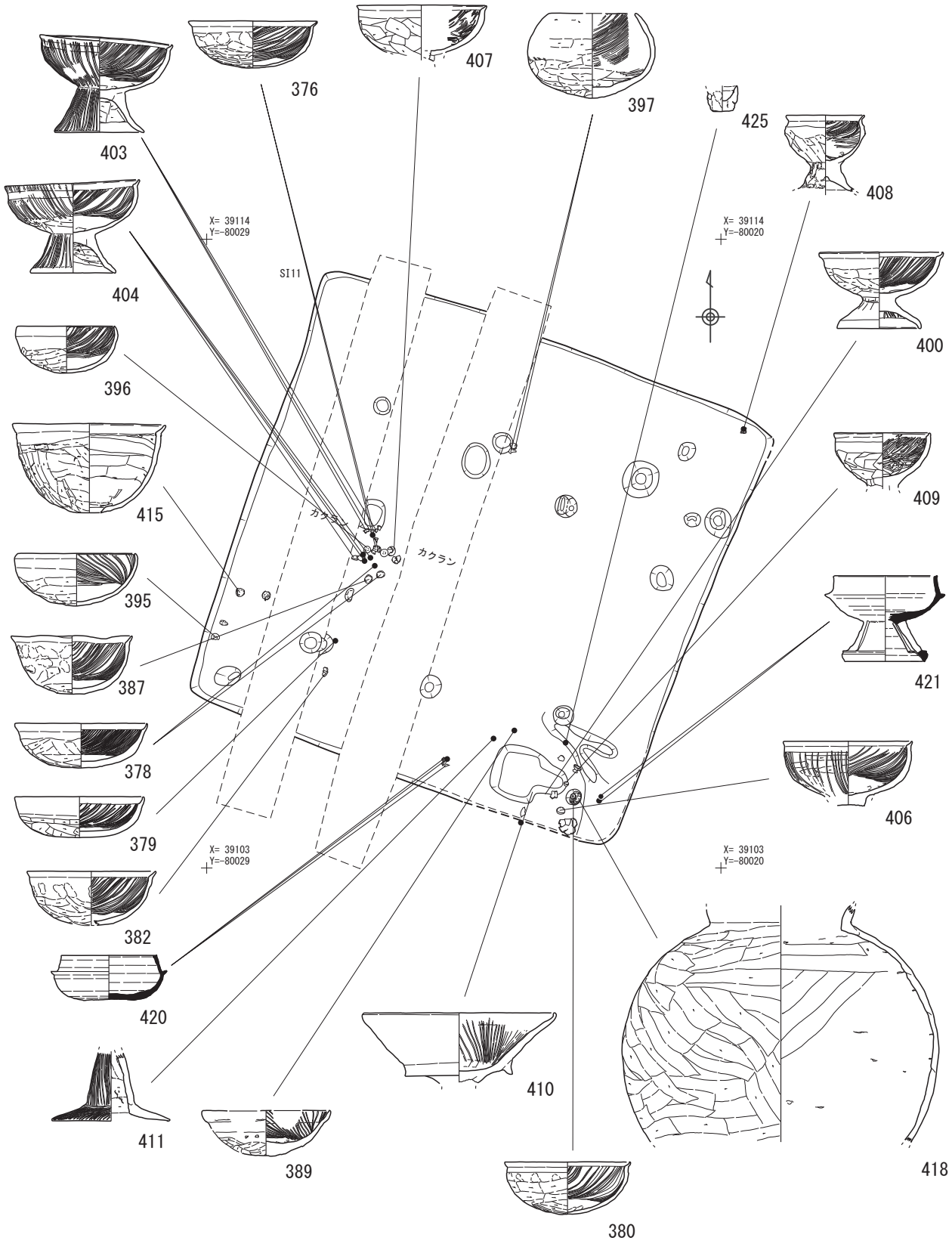
Pit12(SPj-j')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。

Pit13(SPk-k')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量、(φ1～2cm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)やや多量。しまり極めて強、粘性やや弱。
3　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量、(φ2～3cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性強。

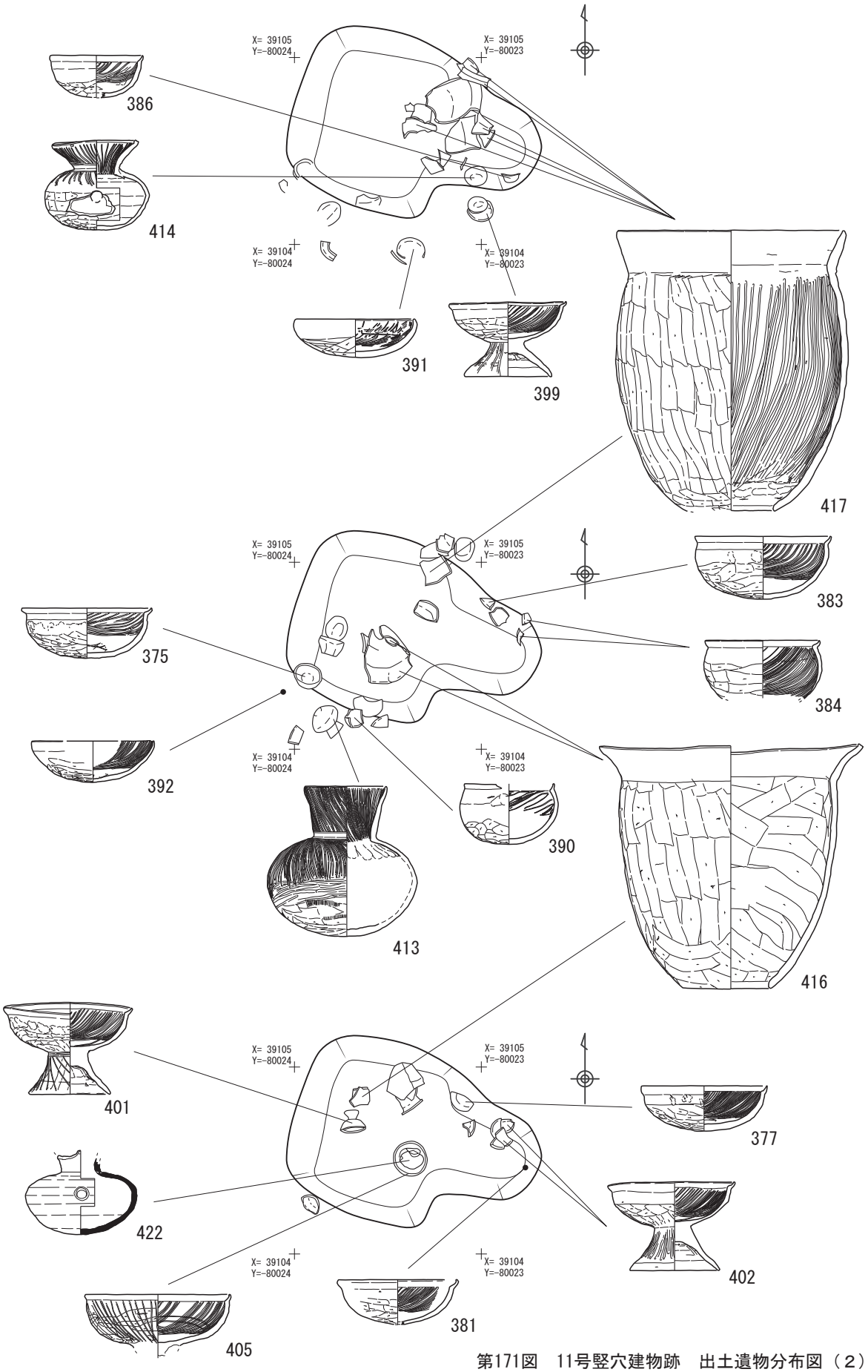
Pit14(SPl-l')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性やや強。

Pit21(SPm-m')
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、（φ2～3cm)少量。焼土少量。しまり強、粘性やや強。

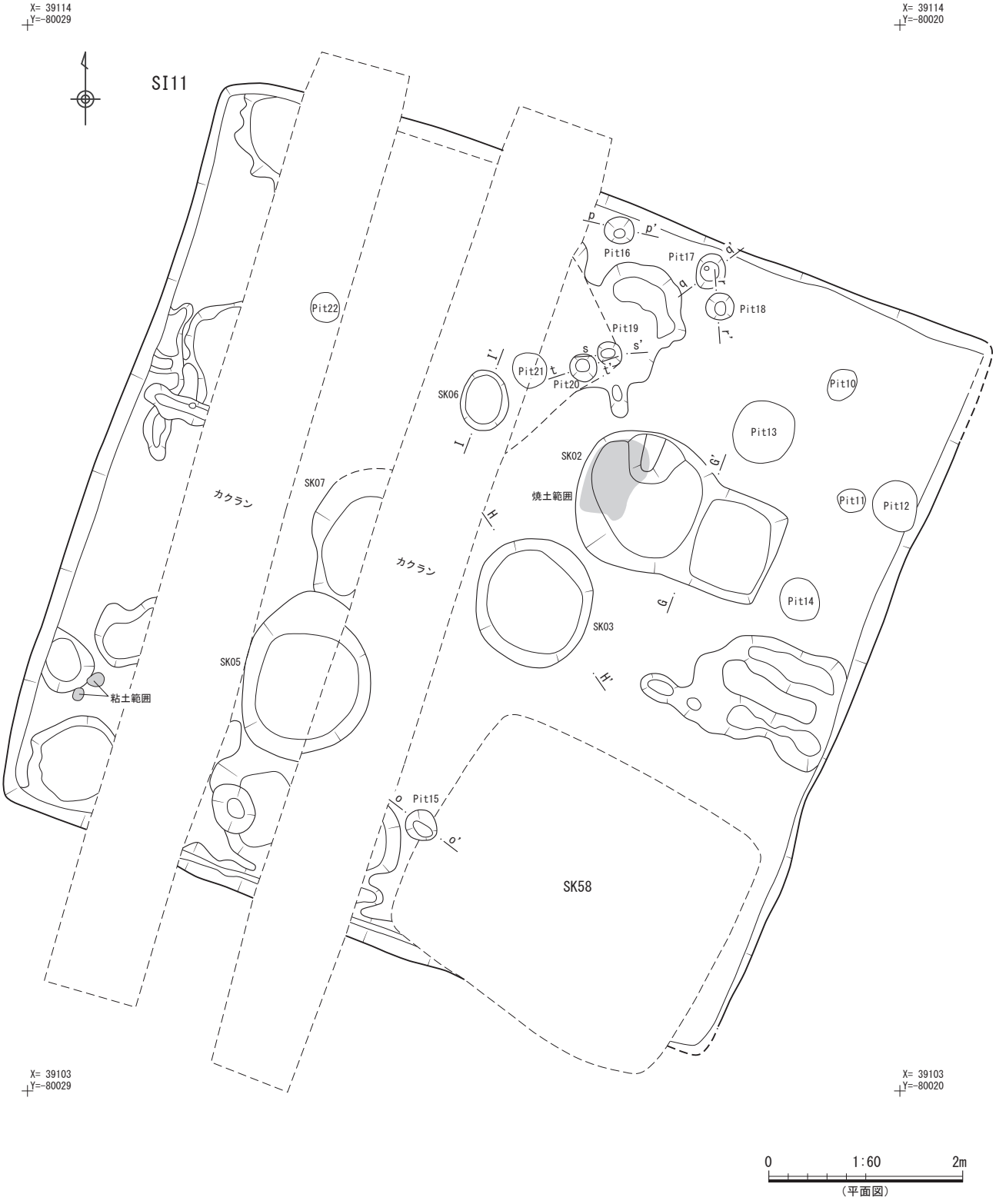
Pit22(SPn-n')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量、（φ2～3cm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性強。
3　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり極めて強、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ1～2cm)やや少量。しまり極めて強、粘性やや弱。



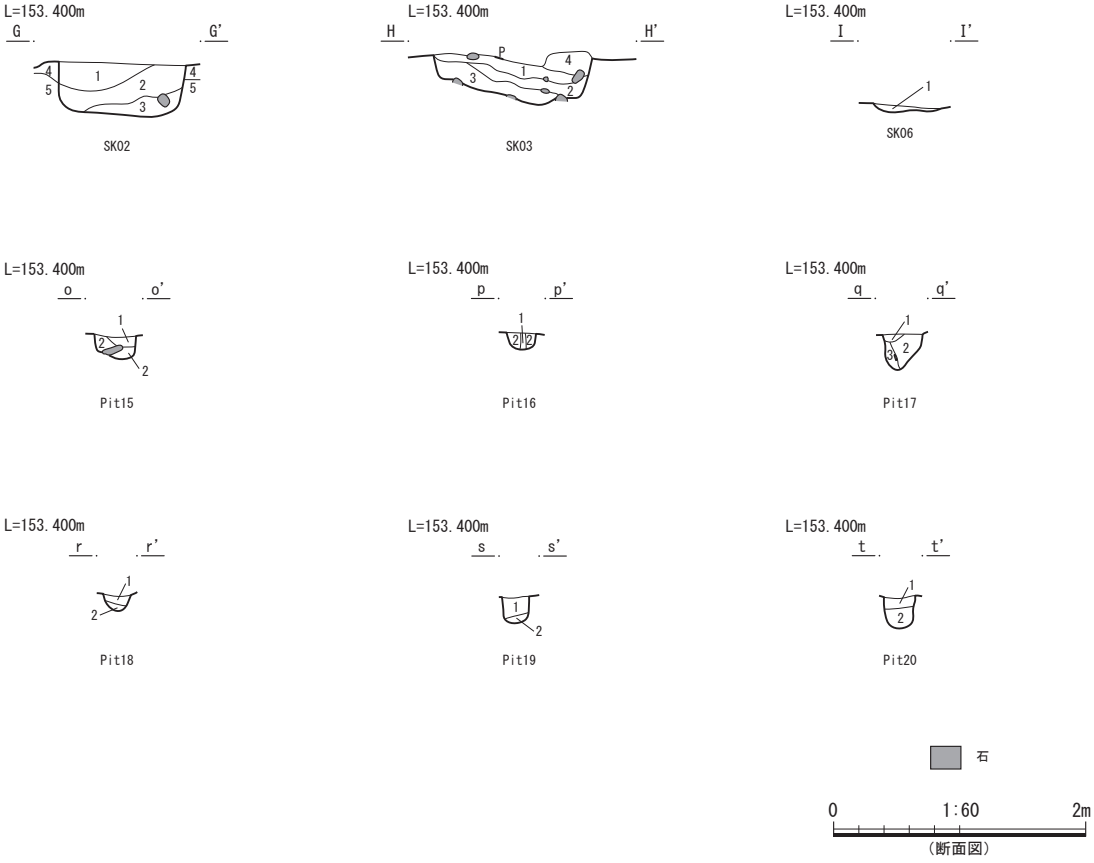
第170図　11号竪穴建物跡　出土遺物分布図（１）



第171図　11号竪穴建物跡　出土遺物分布図（２）



第172図　11号竪穴建物跡　掘り方平面図



SK02(SPG-G')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)やや少量。しまり極めて強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ5～7cm)多量。しまり強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。しまりやや弱、粘性弱。
4　褐灰色（10YR 4/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり極めて強、粘性強。
5　明黄褐色（10YR 6/8）　黄褐色シルト。地山。しまり強、粘性強。

SK03(SPH-H')
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。焼土少量。しまり極めて強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。焼土(φ3～5mm)やや多量。炭化物少量。しまり強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土・炭化物少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)少量、(φ2～3cm)少量。焼土僅か。しまり強、粘性やや強。

SK06(SPI-I')
1　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　黄褐色シルト主体。焼土(φ2～3mm)多量。しまり強、粘性強。

Pit15(SPo-o')
1　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性やや弱。

Pit16(SPp-p')
1　明黄褐色（10YR 6/6）　黄褐色シルト主体。しまり強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。

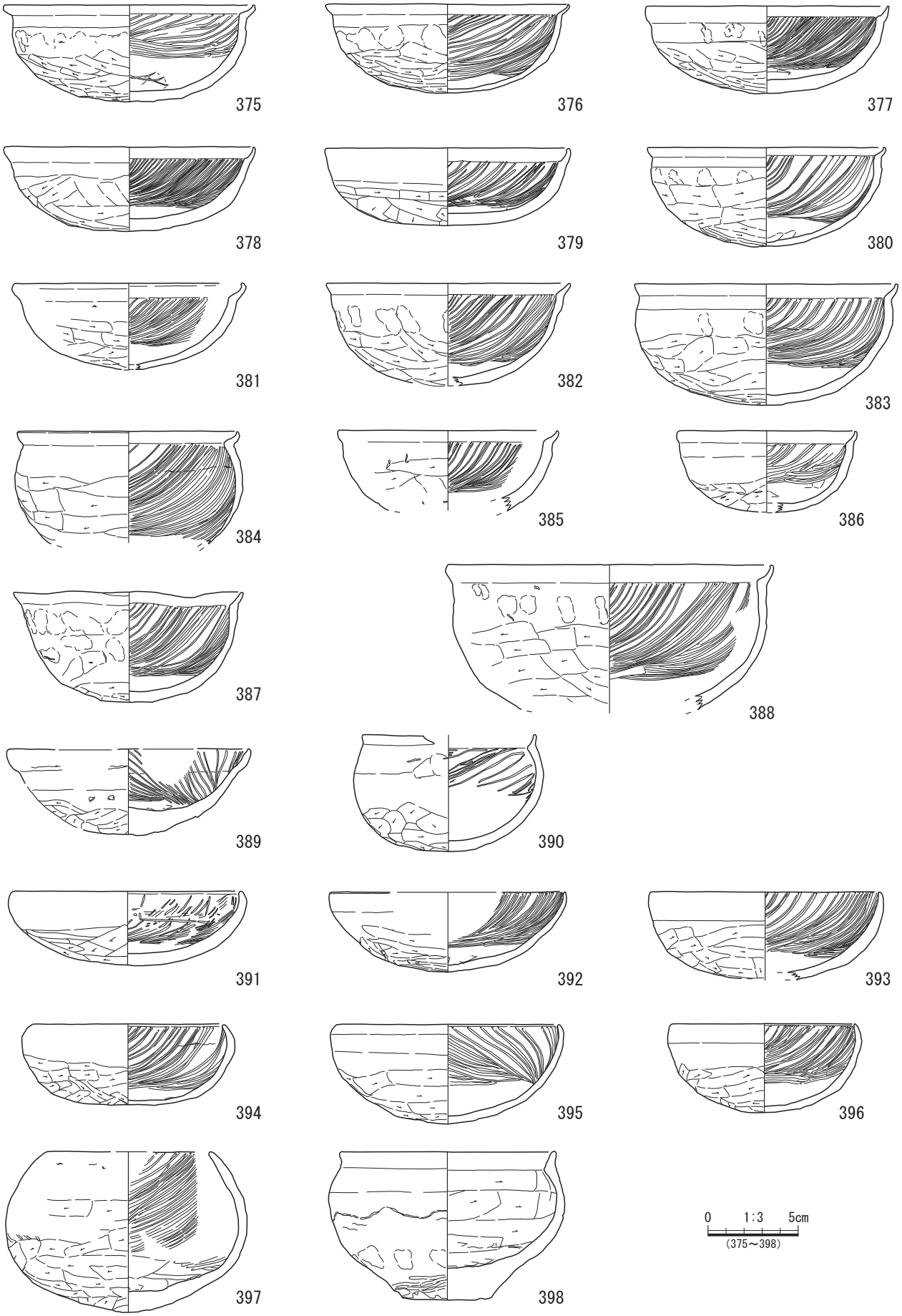
Pit17(SPq-q')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)僅か。焼土僅か。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。遺物含む。しまり強、粘性強。

Pit18(SPr-r')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黄褐色（10YR 5/8）　黒褐色土混。しまり強、粘性強。

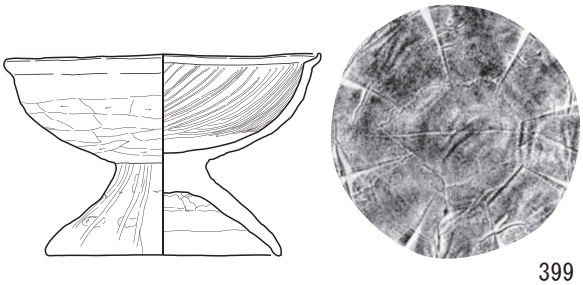
Pit19(SPs-s')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性強。
2　にぶい黄褐色（10YR 5/4）　黄褐色シルト主体。しまり強、粘性やや弱。

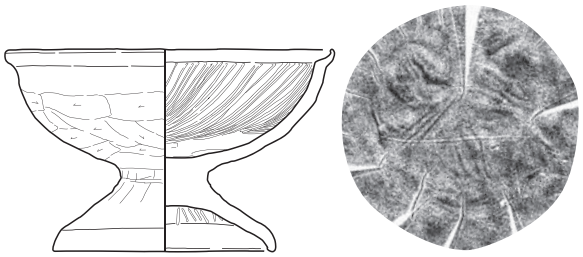
Pit20(SPt-t')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量、(φ1～2cm)少量。焼土少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、(φ1～2cm)少量。焼土少量。しまり極めて強、粘性やや強。

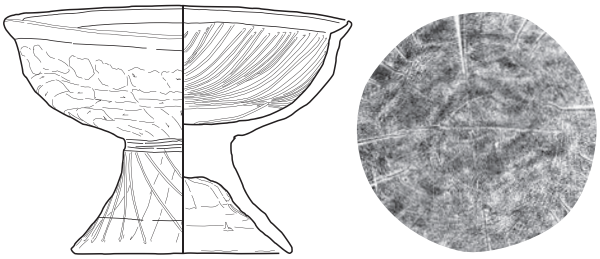
第173図　11号竪穴建物跡　掘り方断面図

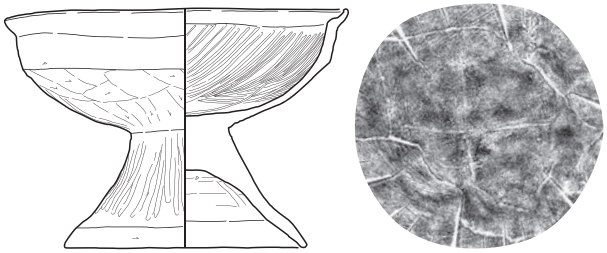


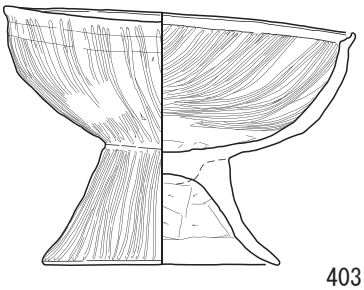
第174図　11号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）

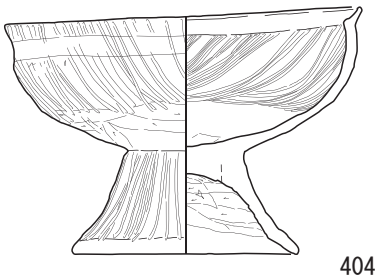

399

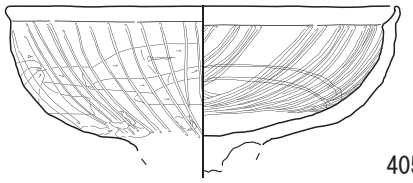

400

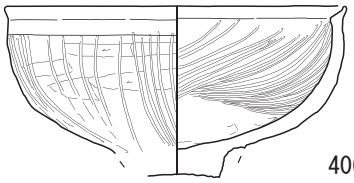

401

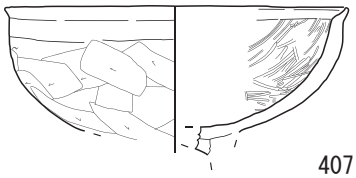

402

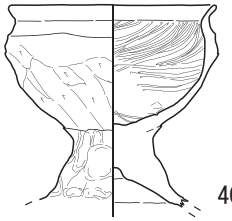

403

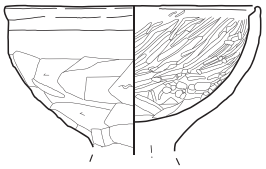

404

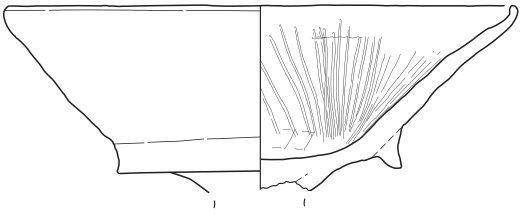

405

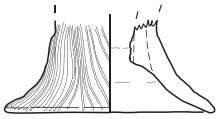

406

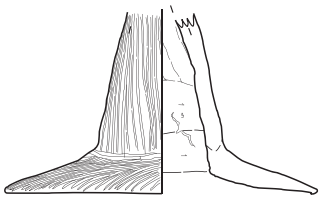

407

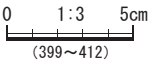

408


409

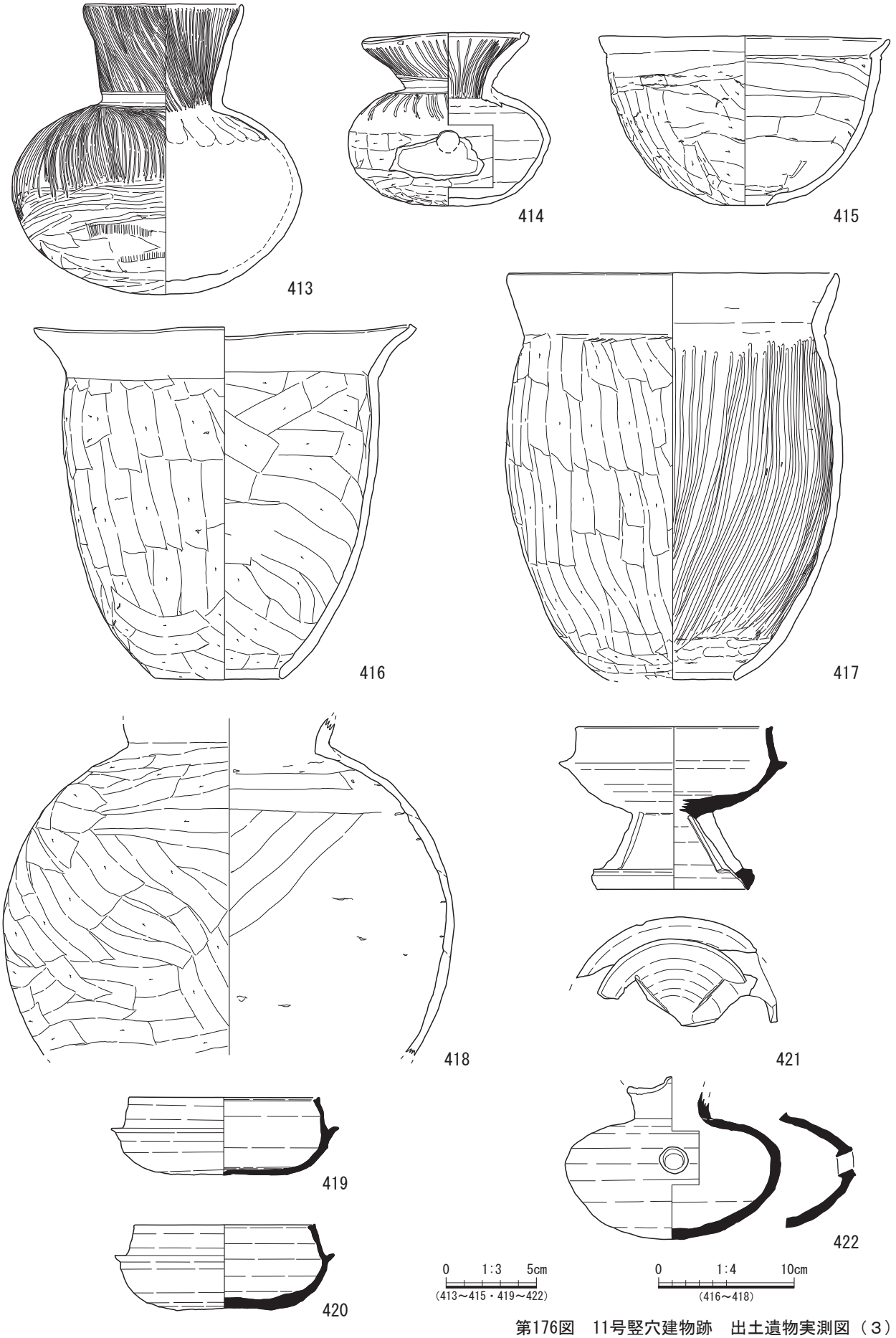

410


411

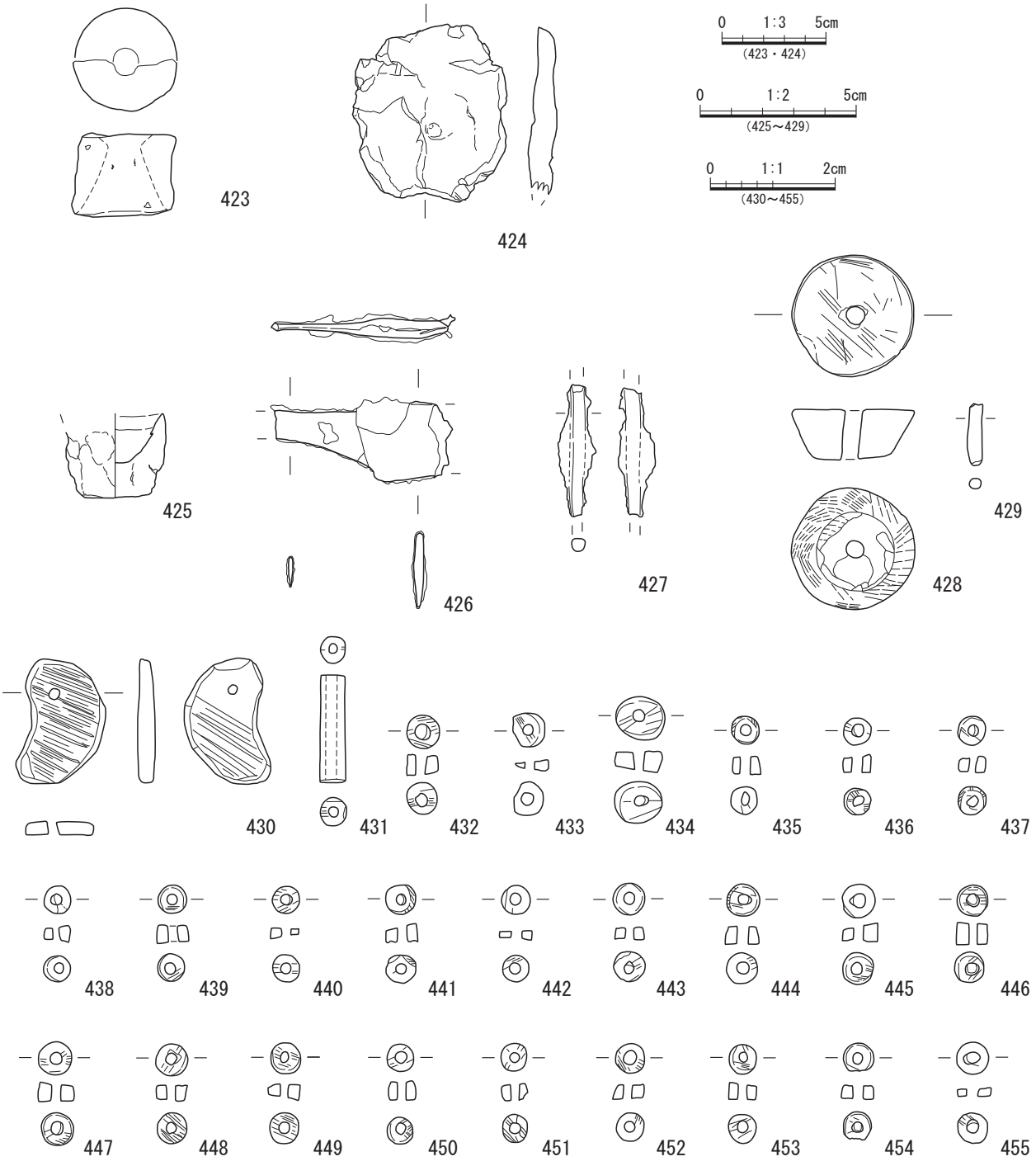

412



第175図　11号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）



第176図　11号竪穴建物跡　出土遺物実測図（３）



第177図　11号竪穴建物跡　出土遺物実測図（４）

第42表　11号竪穴建物跡　出土遺物観察表（１）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第174図 PL. 89	375	土師器 坏	14.0	—	5.4	外：口縁が外反する。口縁部ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、体部上半暗文状ミガキ、底部ナデ	①良好 ②5YR 6/8 ③輝石、砂	完形	
第174図 PL. 89	376	土師器 坏	13.5	—	4.9	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。口縁に赤色付着物（顔料か） 内：ナデ、体部暗文状ミガキ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③砂	完形	
第174図 PL. 89	377	土師器 坏	13.5	—	4.8	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ、底部に工具痕	①良好 ②5YR 6/8 ③砂	完形	
第174図 PL. 89	378	土師器 坏	13.9	—	4.7	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。口縁に赤色付着物（顔料か） 内：ナデ、体部暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、砂	ほぼ完形	
第174図 PL. 89	379	土師器 坏	【13.8】	—	3.8	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ。底部に工具痕	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、砂、白色粒子	3/5	

第43表　11号竪穴建物跡　出土遺物観察表（２）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第175図 PL.89	380	土師器 坏	13.2	—	5.5	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。赤色付着物（顔料か） 内：ナデ、体部暗文状ミガキ、体部下半に赤変色	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、砂	完形	
第175図 PL.89	381	土師器 坏	【14.5】	—	4.8	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ。内面黒色処理	①良好 ②7.5YR 6/3 ③砂	1/6	
第175図 PL.89	382	土師器 坏	13.5	—	5.7	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。口縁に赤色付着物（顔料か） 内：ナデ、体部暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 6/6 ③砂	3/4	
第175図 PL.89	383	土師器 坏	【14.7】	—	6.7	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。口縁に赤色付着物（顔料か） 内：ナデ、体部暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 6/6 ③長石、砂、小礫	1/2	
第175図 PL.89	384	土師器 坏	【13.2】	—	(6.2)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 7/6 ③砂、白色粒子	1/4	
第175図 PL.89	385	土師器 坏	【12.6】	—	(4.5)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 5/3 ③砂	1/3	
第175図 PL.89	386	土師器 坏	9.9	—	4.5	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 5/2 ③砂	1/2	
第175図 PL.89	387	土師器 坏	12.7	—	6.1	外：口縁の歪みなど全体的に粗雑。口縁ナデ、体部未調整、底部のみ粗いヘラケズリ 内：ナデ、体部にやや乱れた暗文状ミガキ、底部に工具痕	①良好 ②5YR 6/6 ③砂	ほぼ完形	
第175図 PL.89	388	土師器 坏	【18.8】	—	(8.0)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ。底面に工具押圧痕。内面黒色処理	①良好 ②5YR 5/4 ③長石、砂	1/5	
第175図 PL.89	389	土師器 坏	【13.7】	—	4.8	外：口縁ナデ、体部未調整、底部粗雑なヘラケズリ。器厚が厚い 内：ナデ、体部暗文状ミガキ（左回転）、底部に工具痕	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、砂、小礫	1/2	
第175図 PL.89	390	土師器 坏	9.9	—	6.5	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ、底部に工具痕	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、砂、小礫	ほぼ完形	
第175図 PL.89	391	土師器 坏	12.8	—	4.1	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ、底部に工具痕	①良好 ②5YR 6/6 ③石英、砂	完形	
第175図 PL.89	392	土師器 坏	【13.3】	—	4.8	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ、底部に工具痕	①良好 ②5YR 6/3 ③砂、小礫	1/2	
第175図 PL.89	393	土師器 坏	13.4	—	4.9	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。口縁に炭化物付着 内：ナデ、体部暗文状ミガキ。底部は打ち欠きか。口縁に炭化物付着	①良好 ②5YR 6/6 ③角閃石、砂	ほぼ完形	
第175図 PL.89	394	土師器 坏	【11.0】	—	4.5	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ、底部に工具痕	①良好 ②5YR 6/6 ③砂、小礫	3/4	
第175図 PL.89	395	土師器 坏	12.6	—	5.5	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。 内：ナデ、体部暗文状ミガキ（左回転）	①良好 ②5YR 6/8 ③砂	ほぼ完形	
第175図 PL.89	396	土師器 坏	10.3	—	4.9	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。赤色付着物（顔料か） 内：ナデ、体部暗文状ミガキ、底部に工具痕	①良好 ②2.5YR 5/6 ③輝石、砂	完形	
第175図 PL.89	397	土師器 坏	9.7	—	8.9	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部中央～底部ヘラケズリ 内：ナデ、体部暗文状ミガキ。底部に工具痕	①良好 ②5YR 6/6 ③砂、小礫	4/5	
第175図 PL.89	398	土師器 鉢	12.1	5.3	8.2	外：口縁ヨコナデ、胴部最大径以下ユビナデ。口縁は外反し、底部は安定感のある厚底。 内：口縁～胴部ヘラミガキ、底部に工具痕	①良好 ②5YR 6/6 ③砂多量、小礫	9/10	
第175図 PL.90	399	土師器 高坏	12.8	9.5	8.0	外：坏部口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。脚部ナデ 内：坏部ナデ、体部暗文状ミガキ、底部に線刻１条。脚部ナデ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、砂	完形	
第175図 PL.90	400	土師器 高坏	12.9	8.7	7.8	外：坏部口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。口縁に赤色付着部（顔料か）。脚部ナデ 内：坏部ナデ、体部暗文状ミガキ、底部に線刻１条。脚部ナデ、工具痕	①良好 ②2.5YR 6/6 ③砂、小礫	完形	
第175図 PL.90	401	土師器 高坏	13.7	8.9	9.8	外：坏部口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。脚部ナデ 内：坏部ナデ、体部暗文状ミガキ、底部に線刻十字。脚部ナデ、工具痕	①良好 ②2.5YR 6/6 ③砂、小礫	完形	
第175図 PL.90	402	土師器 高坏	13.9	9.7	9.5	外：坏部口縁ナデ、体部上半未調整、強い稜を持つ。体部下半～底部ヘラケズリ。脚部ナデ 内：坏部ナデ、体部暗文状ミガキ、底部に線刻十字。脚部ナデ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③長石、輝石、砂	ほぼ完形	
第175図 PL.90	403	土師器 高坏	13.8	9.6	10.3	外：坏部口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラナデ。脚部ナデ。体部～脚部暗文状ミガキ 内：坏部ナデ、体部暗文状ミガキ、脚部ナデ、ヘラケズリ	①良好 ②2.5YR 6/8 ③長石、砂	完形	
第175図 PL.90	404	土師器 高坏	14.2	8.9	9.4	外：坏部口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラナデ。脚部ナデ。体部～脚部暗文状ミガキ 内：坏部ナデ、体部暗文状ミガキ、脚部ナデ、ヘラケズリ	①良好 ②2.5YR 6/8 ③砂	4/5	
第175図 PL.90	405	土師器 高坏	15.7	—	(6.9)	外：坏部口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。暗文状ミガキを粗く施す 内：坏部ナデ、暗文状ミガキ、内黒処理	①良好 ②5YR 6/6 ③石英、砂、小礫	坏部 ほぼ完形	脚部欠損
第175図 PL.90	406	土師器 高坏	13.6	—	(7.1)	外：坏部口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。暗文状ミガキを粗く施す 内：坏部ナデ、暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 7/6 ③石英、砂	坏部 完形	脚部欠損

第44表　11号竪穴建物跡　出土遺物観察表（３）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第175図 PL.90	407	土師器 高坏	13.9	—	(6.3)	外：坏部口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。暗文状ミガキを粗く施す 内：坏部ナデ、暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 6/8 ③石英、砂	坏部 4/5	脚部欠損
第175図 PL.90	408	土師器 高坏	【8.4】	—	8.1	外：坏部口縁～体部上半ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ、脚部ユビオサエ、ユビナデ 内：坏部ナデ、暗文状ミガキ、脚部工具ナデ	①良好 ②7.5YR 6/4 ③砂	1/2	
第175図 PL.90	409	土師器 高坏	10.3	—	(5.9)	外：坏部口縁ナデ、体部～底部ヘラケズリ 内：坏部ナデ、粘土紐積み上げ痕、暗文状ミガキ	①良好　②5YR 6/6 ③砂	坏部 ほぼ完形	脚部欠損
第175図 PL.90	410	土師器 高坏	20.3	—	(7.8)	外：坏部ナデ、体部下端部に粘土紐を貼り付けて、突帯状につまみ出す。垂下突帯付高杯（前原2020）と称される一群の高坏 内：坏部ナデ、暗文状ミガキ、底部工具痕	①良好 ②2.5YR 6/6 ③砂、小礫	坏部 ほぼ完形	脚部欠損
第175図 PL.90	411	土師器 高坏	—	8.3	(3.9)	外：暗文状ミガキ、裾端部は丸い。脚は坏部のホゾに巻き付けて成形 内：ナデ	①良好 ②5YR 6/6 ③砂	脚部 1/2	
第175図 PL.90	412	土師器 高坏	—	12.7	(7.0)	外：ナデ、暗文状ミガキ 内：ナデ	①良好　②2.5YR 5/4 ③砂	脚部 1/3	
第176図 PL.91	413	土師器 小型壺	8.8	最大径 16.1	16.1	外：口縁ナデ後に暗文状ミガキ。頸部接合部にナデ。胴部上半ナデ後に暗文状ミガキ。胴部下半～底部ヘラケズリ 内：口縁ナデ後に暗文状ミガキ。頸部接合点で胴部側にユビオサエ。以下は未調整	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、石英、砂	完形	
第176図 PL.91	414	土師器 甕	9.2	—	9.6	外：口唇に工具等の押圧痕が複数ある。口縁～頸部ヨコナデ後、縦位に暗文状ミガキを施す。頸部に全周するミガキ、胴部上半はナデ後暗文状ミガキ、最大径以下はヘラケズリ。胴部最大径に焼成前穿孔あり。 内：口縁～頸部ナデ後、暗文状ミガキを施す。胴部ナデ、輪積み痕を残す	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、砂	ほぼ完形	
第176図 PL.91	415	土師器 甑	15.9	穿孔 径2.0	9.4	外：口縁ナデ、胴部ヘラケズリ。底部に穿孔 内：ナデ	①良好　②2.5YR 6/6 ③石英、砂	1/2	
第176図 PL.91	416	土師器 甑	28.2	孔径 8.9	26.1	外：口縁ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内：ナデ	①良好　②5YR 3/1 ③砂	ほぼ完形	
第176図 PL.91	417	土師器 甑	24.5	孔径 11.6	30.6	外：口縁ナデ、頸部以下ヘラケズリ。口縁の一部に赤色付着物（顔料か） 内：口縁ナデ、頸部以下ヘラケズリ、ヘラナデ。口縁内部に赤色付着物少量	①良好 ②5YR 7/6 ③砂、小礫	ほぼ完形	
第176図 PL.92	418	土師器 甕	—	—	(24.4)	外：口縁ナデ、頸部以下はケズリ 内：ナデ。器面の風化が著しい	①良好 ②2.5YR 6/6 ③長石、片岩、砂多量、小礫	1/2	
第176図 PL.92	419	須恵器 坏	10.9	—	4.3	口縁立ち上がりはやや内傾し端部に稜がある。受部は外上方に張り出し、口縁との間に沈線がある。底部は平たい。底部外面は回転ヘラケズリ	①良好 ②N 6/0 ③砂少量、小礫	ほぼ完形	
第176図 PL.92	420	須恵器 坏	10.0	—	4.4	口縁立ち上がりはやや内傾し端部に平坦面がある。受部は外上方に張り出し、口縁との間に浅い沈線がある。底部は平たい。底部外面は回転ヘラケズリ	①概ね良好 ②N 7/0 ③砂、赤色粒子	1/2	
第176図 PL.92	421	須恵器 高坏	【11.2】	【9.2】	8.8	直立する口縁、強い稜線のある受部、段のある脚 裾部。二箇所の方形透かし窓が確認できる	①良好　②N 6/0 ③砂	1/2	
第176図 PL.92	422	須恵器 甕	最大径 11.9	—	(9.4)	外：短く開く口縁はナデ。最大径は胴部上半、穿孔は最大径の稜線上にある。底部に指頭圧痕 内：成形痕が残る。底部に指頭圧痕	①良好 ②10Y 5/1 ③砂、小礫	ほぼ完形	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	高さ	重量 (g)	観察所見	備考
第177図 PL.92	423	輪の羽口	外径 5.0	内径 2.5～1.0	(3.8)	36.7	孔が漏斗状に窄まる	
第177図 PL.92	424	焼成粘土塊	8.2	7.5	厚 1.0	87.3	手捏ねによる粘土塊。扁平だが不整形で、焼成される	
第177図 PL.92	425	ミニチュア	径 3.9	—	2.7	26.0	手捏ねで不整形、指頭圧痕が看取される	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	観察所見	備考
第177図 PL.92	426	刀子	5.6	2.6	0.9	処理後 10.6	刀身根元と茎の一部	
第177図 PL.92	427	鉄釘	4.2	0.7	—	処理後 4.4	断面方形。両端欠損	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	材質	作成技法等の特徴	備考
第177図 PL.92	428	紡錘車	最大径 3.9	最小径 2.6	1.7	35.6	滑石	全面に擦過痕が多い。中央の穿孔は径0.7cm	
第177図 PL.92	429	紡錘車 軸棒	2.0	径0.5	—	0.2	木	紡錘車（428）中心の穿孔内に木製の軸が残存。紡錘車の端部よりわずかに露出する程度であった。残存範囲では加工痕跡は未確認	
第177図 巻頭図版7	430	勾玉	2.0	1.3	0.3	1.6	滑石	勾玉形状を呈する。成形時の擦痕が顕著。表裏の両面や端部などほぼ全面に赤彩が残存。穿孔径0.1mm	
第177図 巻頭図版7	431	管玉	1.8	径 0.5	—	0.8	滑石	穿孔径0.2mm。器面は滑らか。両端部の径に差がなく、均整のとれた円筒形状	

第45表　11号竪穴建物跡　出土遺物観察表（４）

図版	番号	種別 器種	法量(mm) 直径	孔径	厚さ	重量 (g)	材質	観察所見	備考
第177図 巻頭図版7	432	臼玉	0.6	0.3	0.4	0.2	滑石	側面がよく研磨される	
第177図 巻頭図版7	433	臼玉	0.6	0.2	0.2	0.1	滑石	側面がよく研磨される。片面が欠損	
第177図 巻頭図版7	434	臼玉	0.8	0.2	0.4	0.4	滑石	端部に製作時の擦痕	
第177図 巻頭図版7	435	臼玉	0.5	0.2	0.4	0.3	滑石	側面に製作時の擦痕が顕著	
第177図 巻頭図版7	436	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	側面に製作時の擦痕が顕著。孔内面に赤色顔料付着か	
第177図 巻頭図版7	437	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	側面に製作時の擦痕が顕著	
第177図 巻頭図版7	438	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	側面に製作時の擦痕が顕著	
第177図 巻頭図版7	439	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	側面に製作時の擦痕	
第177図 巻頭図版7	440	臼玉	0.5	0.2	0.2	0.1	滑石	側面に製作時の擦痕	
第177図 巻頭図版7	441	臼玉	0.5	0.2	0.4	0.1	滑石	側面に製作時の擦痕。一部欠損	
第177図 巻頭図版7	442	臼玉	0.5	0.2	0.2	0.1	滑石	側面がよく研磨される。一部欠損	
第177図 巻頭図版7	443	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.2	滑石	側面に製作時の擦痕。一部欠損	
第177図 巻頭図版7	444	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	側面に製作時の擦痕が顕著	
第177図 巻頭図版7	445	臼玉	0.6	0.2	0.3	0.2	滑石	側面に製作時の擦痕が顕著	
第177図 巻頭図版7	446	臼玉	0.5	0.2	0.4	0.2	滑石	側面に製作時の擦痕	
第177図 巻頭図版7	447	臼玉	0.6	0.2	0.4	0.2	滑石	側面に製作時の擦痕	
第177図 巻頭図版7	448	臼玉	0.6	0.2	0.3	0.1	滑石	側面に製作時の擦痕	
第177図 巻頭図版7	449	臼玉	0.5	0.1	0.3	0.1	滑石	側面に製作時の擦痕。一部欠損	
第177図 巻頭図版7	450	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	一部欠損	
第177図 巻頭図版7	451	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	一部欠損	
第177図 巻頭図版7	452	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	一部欠損	
第177図 巻頭図版7	453	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	側面に製作時の擦痕。一部欠損	
第177図 巻頭図版7	454	臼玉	0.5	0.2	0.3	0.2	滑石	側面に製作時の擦痕。一部欠損	
第177図 巻頭図版7	455	臼玉	0.5	0.2	0.2	0.1	滑石	側面がよく研磨される	

所見　本遺構は、８m四方の大型の建物跡となる。上部構造を支える柱を据えた痕と想定されるピットは６基を検出した。いずれのピットも柱痕跡は未確認だが、ピットの掘り込みは深く、据えられた柱は相応の規模であったものと想定され、建物規模に見合う上部構造が設けられていたものと考えられる。燃焼施設は確認していないが、建物南東隅には貯蔵穴と考えられ土坑を検出している。貯蔵穴中からは土師器や須恵器が多量に出土するほか、建物中央やや西寄りの床面には土師器坏や高坏が集中する。この土器集中付近の土壌を選別したところ、勾玉形や管玉、臼玉などの滑石製品を多く検出した。また、建物の南西隅床面では、出土した甑の破片を取り上げたところ、破片内面に白色粘土塊が貼り付いていた。土器の内部に白色粘土塊を保管したものと推測される。その他、鞴羽口の破片が出土している。鉄滓や鍛造剥片など、金属および金属製品の生産過程に生じる残滓は未確認であるが、鞴羽口の破片が出土していることから金属に関わる生産活動が示唆される。用途が不明だが不整形状の焼成粘土塊がある。

須恵器坏や瑞はTK-208型式並行、須恵器高坏はTK-23型式並行と考えられることから、須恵器は５世紀前半の特徴を有すると考えられるが、土師器は５世紀後半の様相がある。これらのことから、本遺構は５世紀後半に帰属するものと考えられる。

【12号竪穴建物跡】（596W-SI12）

位置　西区東側の中央付近で検出した。カクランにより遺構の一部を欠失する。

形状・規模　ほぼ正方形を呈する。長軸4.5m、短軸4.3mを測り、遺構確認面から床面までの深さは概ね0.2mとなる。床面付近の標高は152.67mである。

主軸　Ｎ－114°－Ｅ

埋土　黒褐色土を基調に黄褐色ローム粒子が混入する。

燃焼施設　東壁にカマドが造り付けられる。袖の構築材には地山のロームと黒色土を使用している。袖石２石が残存するが、土圧などの上位からの影響によるものか、共に北側へ傾いている。また、袖石の後方には袖石より小規模な礫がそれぞれ１石ずつ据えられている。カマド内壁の補強であっただろうか。袖石よりわずか後方のカマド中央より土師器甕が出土した。

貯蔵穴　遺構南東隅、カマドに向かって右側に貯蔵穴と考えられる土坑（SK01）を検出した。

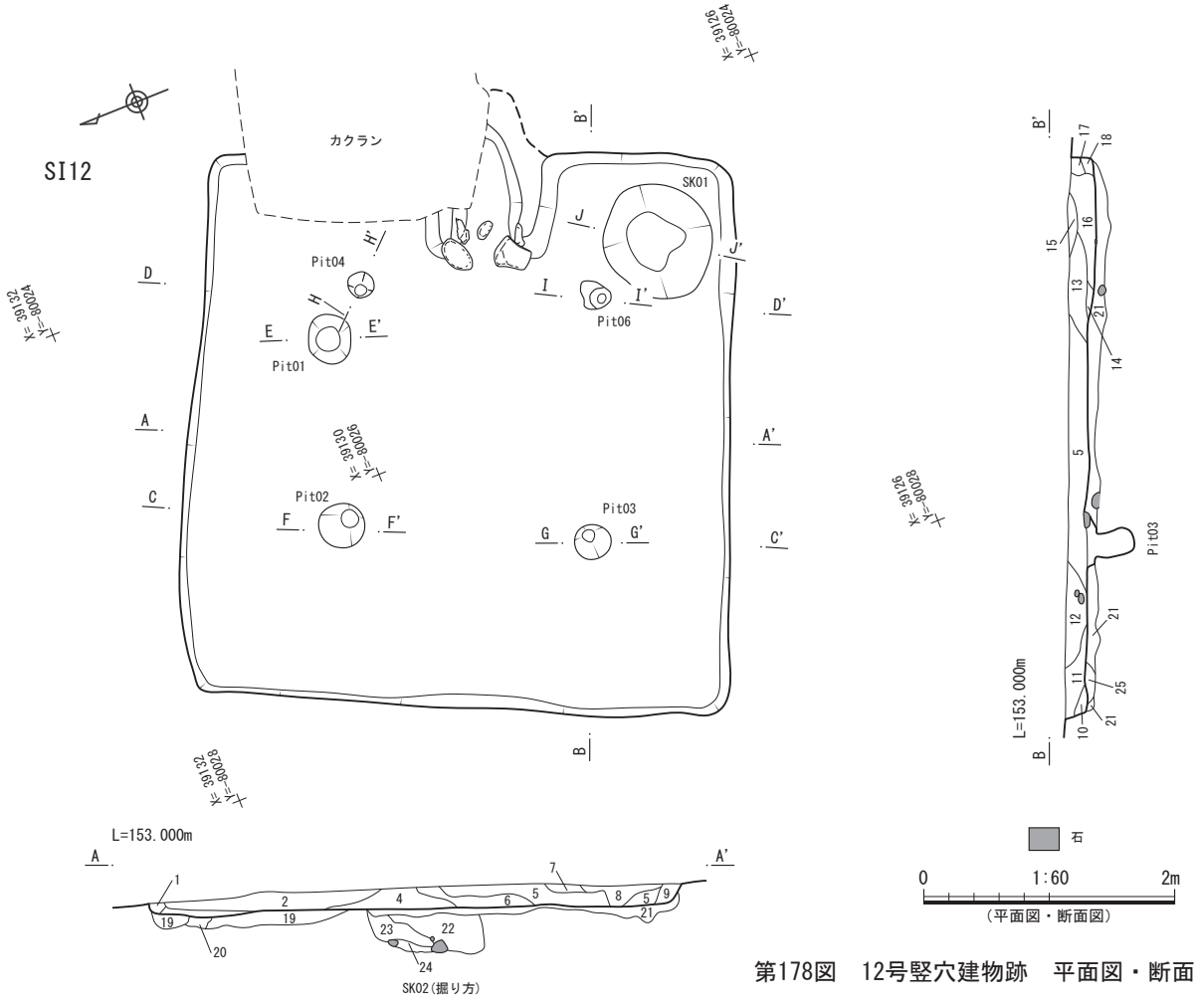
柱穴・土坑　主柱穴と考えられるピット４基（Pit02～04、06）を検出した。また、床下土坑（SK02、03）を検出した。SK02はほぼ正円で、カマド正面の遺構中央に構築されている。床面では黒いシミとして認識できた。断面は深い皿状を呈している。SK03は不整形である。

床面　明瞭な硬化面は未検出だが、黄褐色ロームを多量に含む黒色土による貼床が施されている。

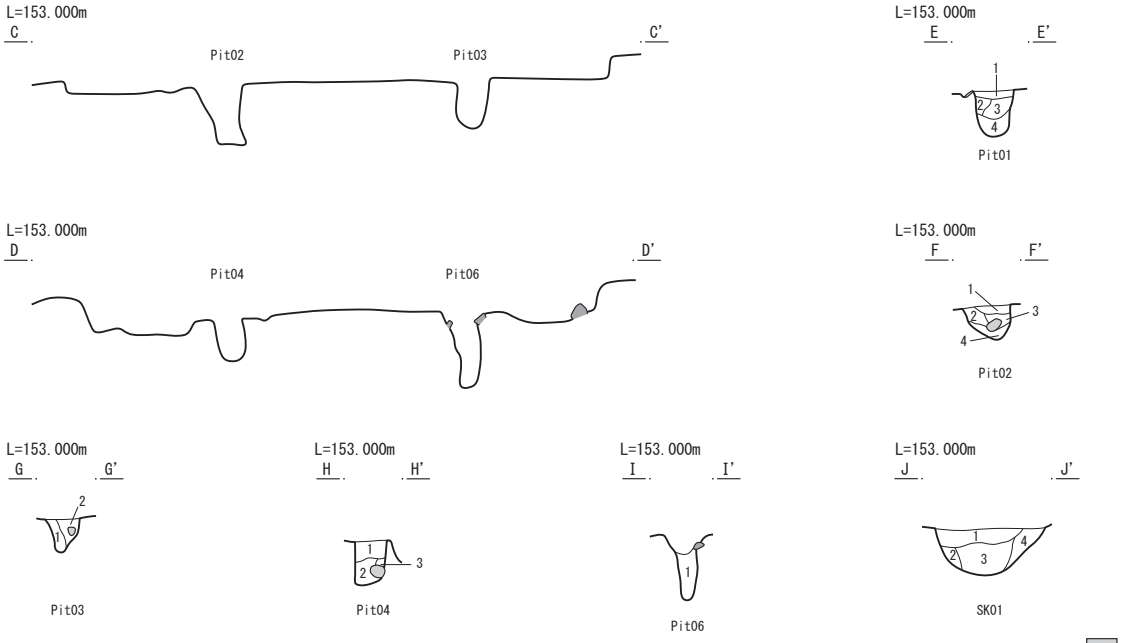
掘り方　掘り込みは黄褐色ローム層に達する。遺構中央がやや高く掘り残され、壁面内縁が下がる。

出土遺物　土師器が主体となる。坏類は口縁形態が内斜および内湾の両者が見られ、高坏、甕、甑、片口土器などがある。床面付近から滑石製紡錘車が出土している。その他では、流れ込みの縄文土器や黒曜石製石鏃や剥片、弥生土器が散見される。

所見　出土遺物の様相から５世紀後半～６世紀前半と考えられる。



第178図　12号竪穴建物跡　平面図・断面図



12号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)少量。しまり弱、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。焼土・炭化物やや少量。遺物含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ3～5mm)多量。焼土・炭化物僅か。貼床土。しまりやや強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)やや少量。焼土・炭化物少量。しまりやや強、粘性やや弱。
5　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。焼土少量。炭化物やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
6　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。炭化物少量。しまりやや強、粘性やや強。
7　黒色（10YR 2/1）　As-C混。ローム(φ2～3mm)少量。炭化物少量。しまりやや強、粘性弱。
8　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混。ローム(φ1～2mm)少量。焼土・炭化物少量。しまりやや強、粘性やや弱。
9　黒色（10YR 2/1）　As-C混。ローム(φ2～3mm)やや少量、(φ2～3cm)やや多量。炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
10　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
11　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)やや少量、(φ1～2cm)やや多量。焼土・炭化物少量。しまり強、粘性やや弱。
12　黒褐色（10YR 3/1）　As-C混。ローム(φ2～3mm)やや多量。焼土やや少量。炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
13　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。焼土やや少量。炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
14　黒褐色（10YR 2/2）　ローム(φ2～3mm)少量、(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
15　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ1～2mm)少量。焼土少量。しまり極めて強、粘性強。
16　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混。ローム(φ2～3mm)やや少量、(φ1～2cm)少量。炭化物やや多量。焼土少量。しまり強、粘性やや強。
17　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。焼土やや少量。しまり強、粘性やや強。
18　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)少量、(φ3～5cm)少量。焼土少量。しまり強、粘性強。
19　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。焼土・炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
20　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)多量。しまり強、粘性やや弱。
21　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。焼土・炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
22　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ3～5cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
23　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。炭化物少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや弱。
24　暗褐色（10YR 3/3）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまりやや強、粘性強。
25　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。

Pit01(SPE-E')
1　褐灰色（10YR 4/1）　ローム(φ1～2mm)少量。焼土(φ1～2mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　黒褐色土少し混在。ローム(φ2～3mm)多量。しまり強、粘性やや強。
3　褐色（10YR 4/4）　ローム(φ2～3mm)やや少量。礫含む。しまり強、粘性やや強。
4　明黄褐色（10YR 6/6）　ローム主体。しまり強、粘性強。

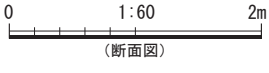
Pit02(SPF-F')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ3～5mm)少量。焼土少量。As-Cか。しまり強、粘性やや弱。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ1～2mm) 少量。As-Cか。しまり強、粘性やや強。
4　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。

Pit03(SPG-G')
1　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
2　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ1～2mm)多量。焼土少量。しまりやや弱、粘性やや弱。

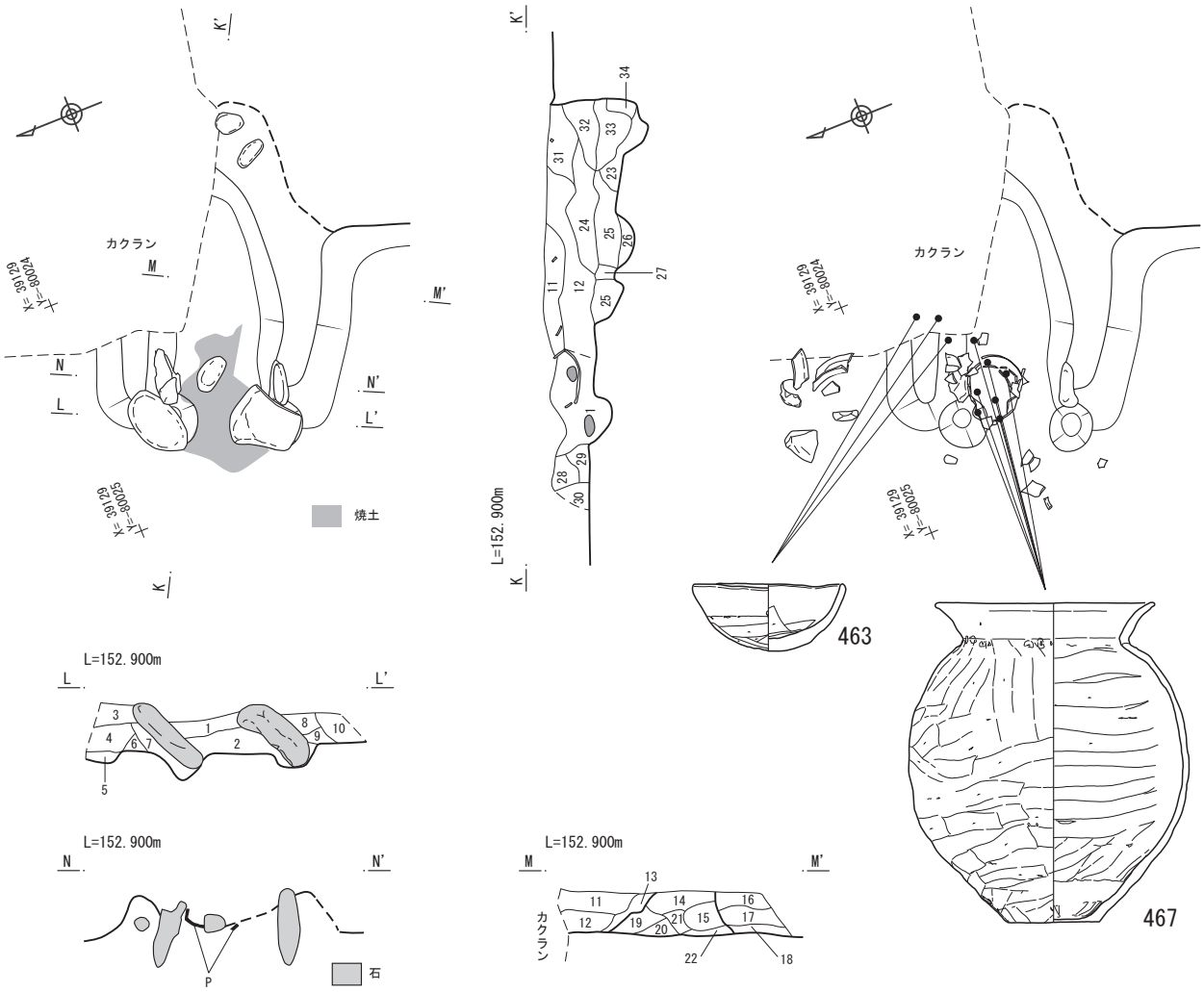
Pit04(SPH-H)
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。As-YP含む。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ3～5cm)少量。しまり弱、粘性やや弱。
3　黄褐色（10YR 5/6）　黄褐色シルト主体。しまりやや強、粘性やや弱。

Pit06(SPI-I')
1　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性強。

SK01(SPJ-J')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。As-Cか。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ1～2mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)やや多量。焼土少量。As-Cか。しまりやや弱、粘性弱。
3　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ1～2mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。



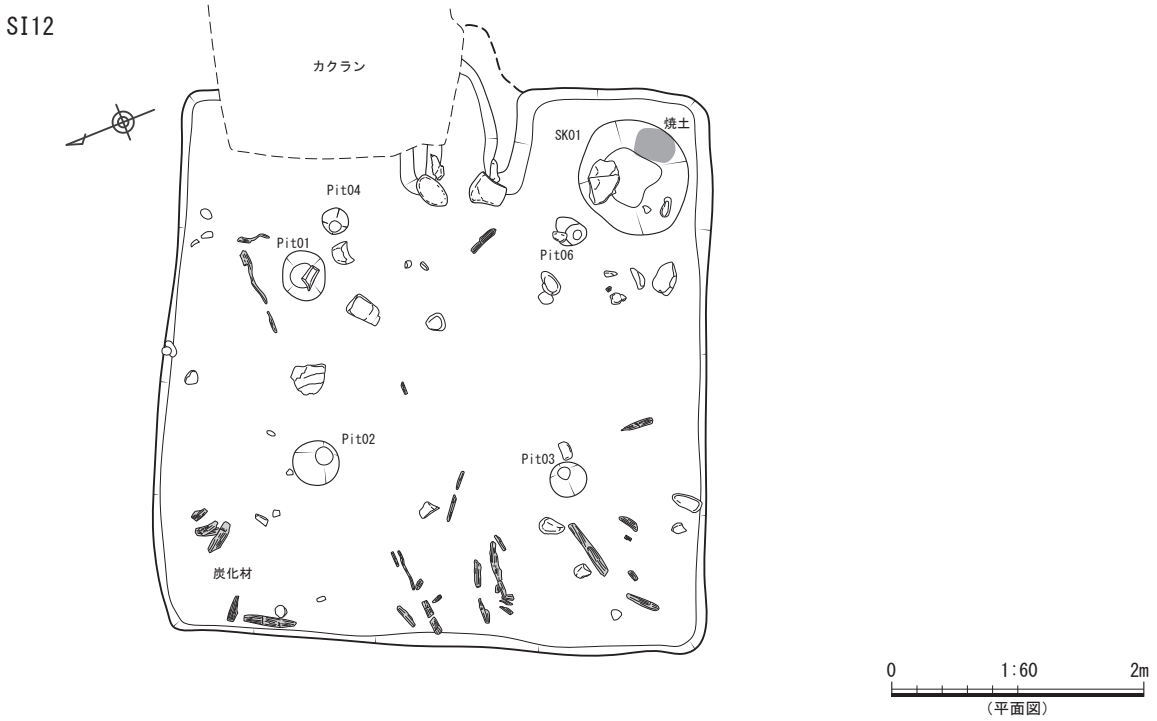
第179図　12号竪穴建物跡　ピット断面図・エレベーション図



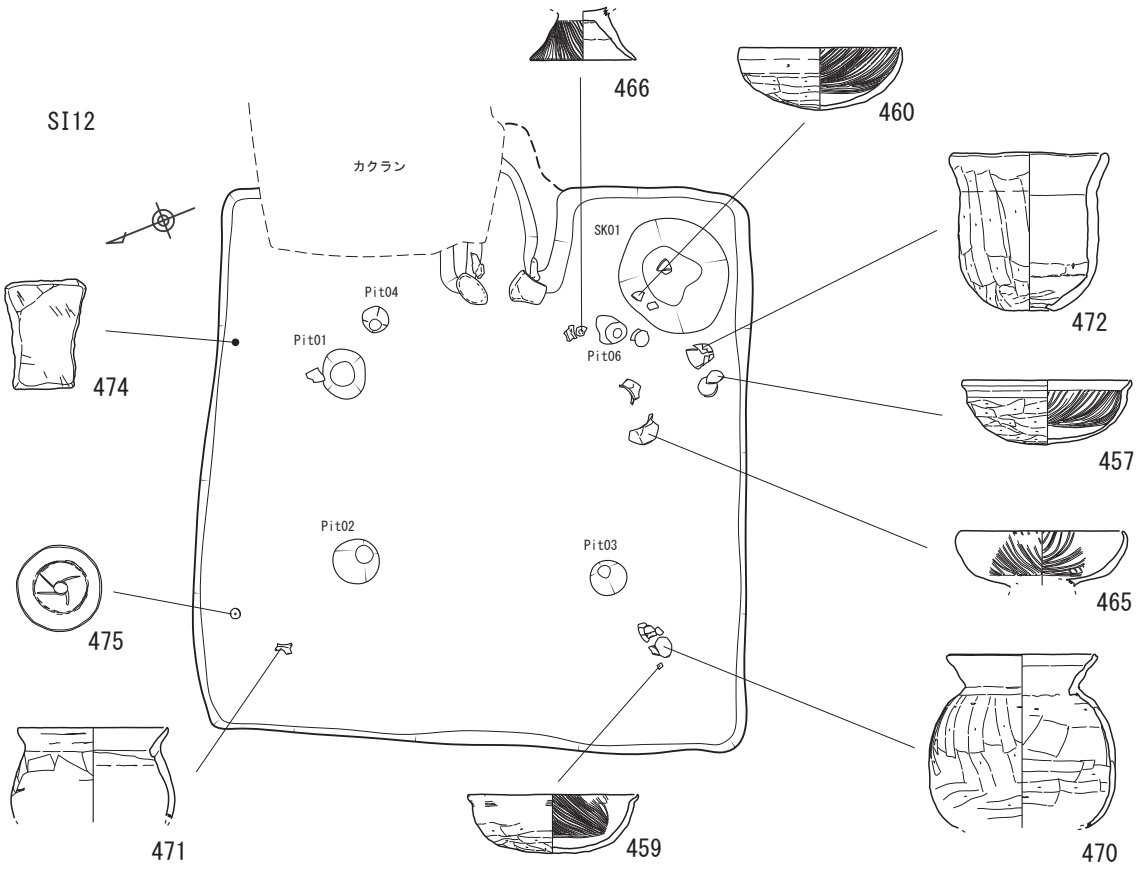
12号竪穴建物跡(SPK-K',L-L',M-M' 共通)

1	黒褐色 (10YR 2/2)	ローム(φ1～2mm)やや少量。焼土(φ1～2mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2	暗褐色 (10YR 3/3)	ローム(φ2～3mm)やや多量。焼土(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
3	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C。ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C。ローム(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ1～2mm)少量。焼土(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。袖石抜き取り痕か。
6	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
7	黒褐色 (10YR 2/2)	ローム(φ2～3mm)やや多量。焼土(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
8	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ1～2mm)少量。焼土(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
9	黒色 (10YR 2/1)	ローム(φ1～2mm)少量。焼土(φ1～2mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
10	黒褐色 (10YR 2/2)	ローム(φ3～5mm)やや多量。焼土(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
11	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)やや少量、(φ2～3cm)少量。焼土僅か。しまり極めて強、粘性弱。
12	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ2～3mm)多量。焼土(φ1～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
13	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ3～5mm)多量。焼土少量。しまり強、粘性弱。
14	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ3～5mm)多量。焼土少量。しまり強、粘性弱。
15	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。ローム(φ2～3mm)やや少量。焼土僅か。しまり強、粘性弱。
16	暗褐色 (10YR 3/3)	As-C混。炭化物含む。ローム(φ1～2mm)やや少量。焼土僅か。しまりやや強、粘性弱。
17	暗褐色 (10YR 3/3)	As-C混。ローム(φ1～2mm)少量。焼土少量。しまりやや強、粘性弱。
18	暗褐色 (10YR 3/3)	ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
19	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量。焼土(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性やや弱。
20	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性強。
21	明黄褐色 (10YR 6/6)	黄褐色シルト主体。しまり強、粘性強。
22	暗褐色 (10YR 3/3)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。焼土(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性強。
23	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ3～5mm)多量。焼土(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
24	黒褐色 (10YR 2/2)	ローム(φ2～3mm)多量、(φ3～5cm)少量。焼土(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
25	黒色 (10YR 2/1)	ローム(φ2～3mm)やや少量、(φ3～5cm)やや多量。焼土(φ1～2cm)少量。しまり極めて強、粘性弱。
26	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	ローム(φ3～5mm)多量。焼土(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
27	明黄褐色 (10YR 6/6)	ローム主体に黒色土混在。焼土(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。根っこの痕か。
28	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
29	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)やや少量。焼土(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
30	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ1～2mm)少量。焼土(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
31	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	ローム(φ2～3mm)充填、(φ1cm)少量。焼土(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
32	褐色 (10YR 4/4)	ローム(φ2～3mm)充填。焼土(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性弱。
33	暗褐色 (10YR 3/3)	ローム(φ3～5mm)やや多量。焼土(φ3～5mm)多量。炭化物多量。しまりやや強、粘性やや弱。
34	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)やや少量。焼土(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。

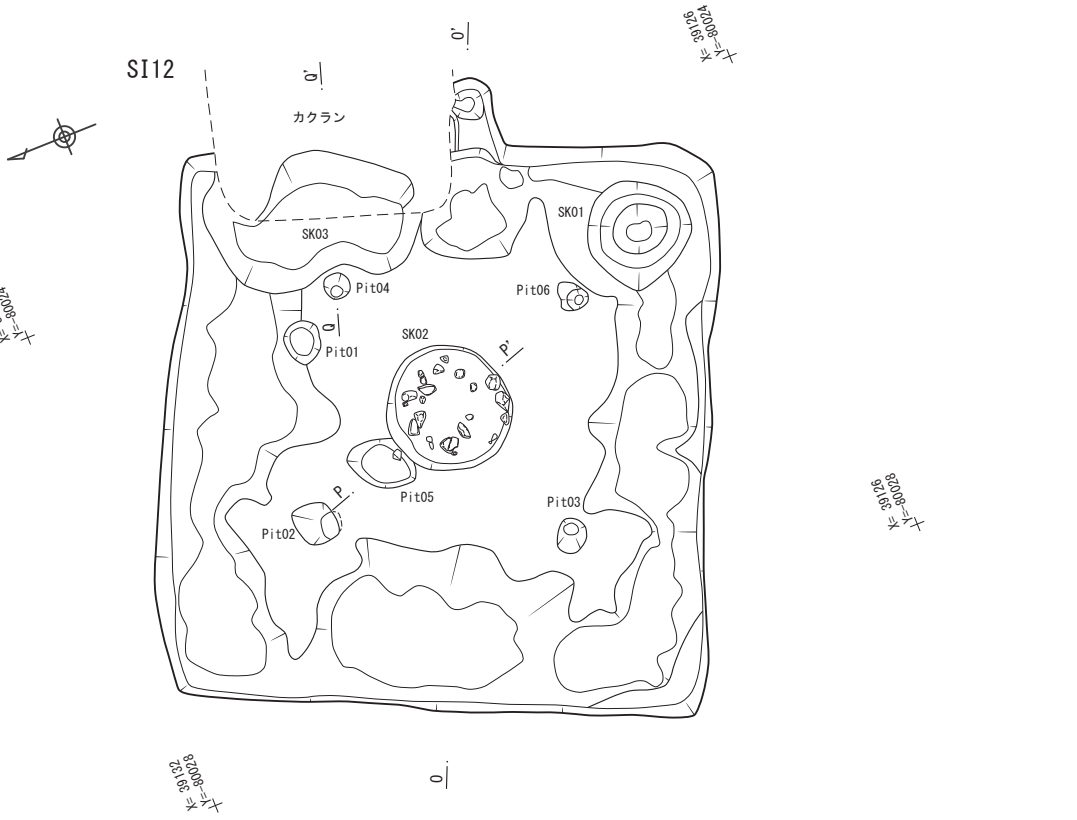
第180図　12号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図



第181図　12号竪穴建物跡　炭化物検出状況図



第182図　12号竪穴建物跡　出土遺物分布図



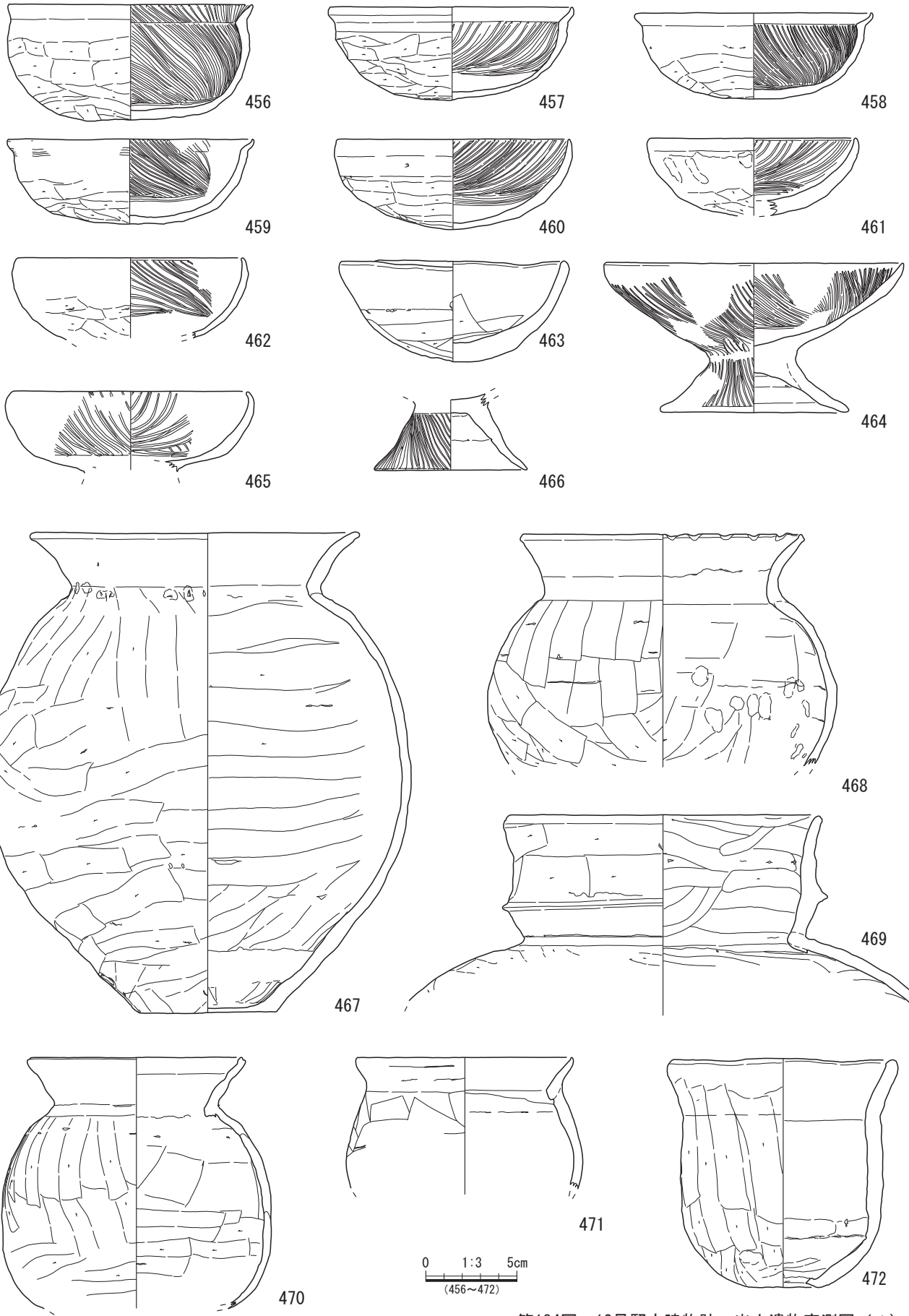
Pit05・SK02(SPP-P')

1	黒褐色 (10YR 3/2)	焼土(φ2～3mm)多量、(φ1～2cm)やや多量。炭化物やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
2	暗褐色 (10YR 3/3)	焼土(φ1～2mm)やや少量。炭化物少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR 2/2)	焼土(φ2～3mm)少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性強。
4	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。白色軽石状粒子(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性強。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)やや多量。白色軽石状粒子(φ2～3mm)やや量。しまり強、粘性やや強。
6	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。

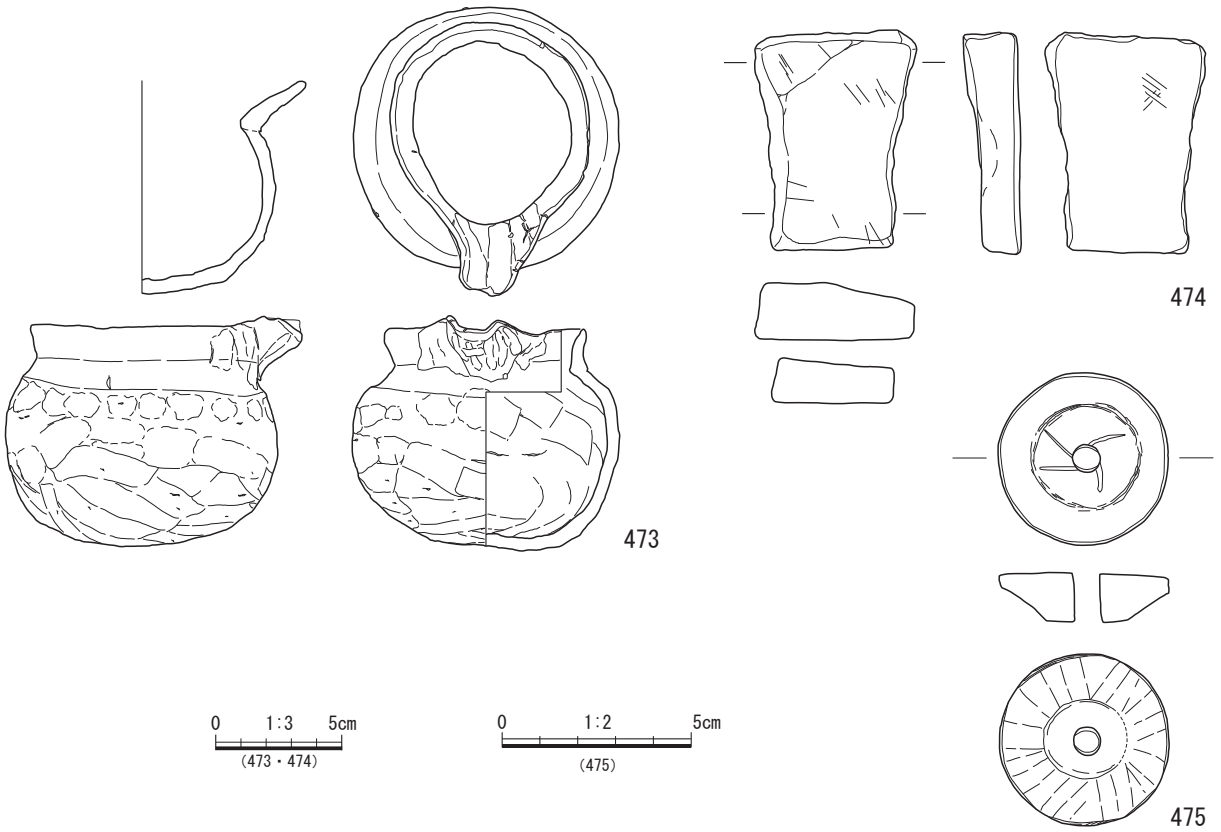
SK03(SPQ-Q')

1	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ5～7cm)やや少量。焼土少量。しまり強、粘性強。
2	黄褐色 (10YR 5/6)	黄褐色シルト主体。焼土僅か。しまり強、粘性強。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性強。

第183図　12号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図



第184図　12号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）



第185図　12号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）

第46表　12号竪穴建物跡　出土遺物観察表（１）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第184図 PL.92	456	土師器 坏	13.4	—	6.3	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ後、暗文状ミガキ(左回り)。暗文状ミガキ下端を一周するナデ、底部にミガキによる十字記号	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、砂	ほぼ完形	
第184図 PL.92	457	土師器 坏	13.5	—	5.1	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ後、暗文状ミガキ。底部指頭圧痕。器面は敲打されたような小さな凹凸	①概ね良好 ②5YR 5/6 ③長石、小礫	ほぼ完形	
第184図 PL.92	458	土師器 坏	【13.1】	—	(5.0)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ後、暗文状ミガキ(左回り)。暗文状ミガキ下端を一周するナデ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、砂、小礫	1/4	
第184図 PL.92	459	土師器 坏	13.6	—	4.7	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ後、暗文状ミガキ(左回り)。暗文状ミガキ下端を一周するナデ、底部にミガキによる十字記号。内黒処理	①良好 ②2.5YR 6/6 ③砂	2/3	
第184図 PL.92	460	土師器 坏	【13.8】	—	(4.2)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ後、暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、石英、砂	1/4	
第184図 PL.92	461	土師器 坏	【12.4】	—	(4.2)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部粗いヘラケズリ。底部は厚い 内：ナデ後、暗文状ミガキ	①良好 ②2.5YR 5/6 ③砂	1/4	
第184図 PL.92	462	土師器 坏	【13.8】	—	(4.5)	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ後、暗文状ミガキ(左回り)	①良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、長石、砂	1/6	
第184図 PL.92	463	土師器 坏	12.7	—	5.8	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部粗いヘラケズリ。底部は厚い 内：口縁ナデ。体部ヘラナデ、底部に線刻状に工具痕残る	①良好 ②5YR 6/6 ③石英、砂、白色粒子	4/5	
第184図 PL.92	464	土師器 高坏	【16.5】	10.3	8.1	外：坏部口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ。斜位に暗文状ミガキ。脚部ナデ後、斜位に暗文状ミガキ 内：坏部ナデ後、暗文状ミガキ(左回り)。暗文状ミガキ下端を一周するナデ。底部刻線１条。脚部ナデ	①良好 ②2.5YR 6/6 ③砂	1/3	
第184図 PL.92	465	土師器 高坏	【13.0】	—	(4.5)	外：口縁ナデ。体部未調整に暗文状ミガキ。底部との境に強い稜をもち、以下ヘラケズリ 内：ナデ後、暗文状ミガキ	①良好 ②5YR 6/6 ③砂	坏部 破片	
第184図 PL.92	466	土師器 高坏	—	【8.8】	(4.4)	外：脚部斜位暗文状ミガキ 内：坏部ナデ、内黒処理。脚部ナデ	①概ね良好 ②5YR 6/6　③砂	脚部 1/2	
第184図 PL.93	467	土師器 甕	【17.2】	7.8	26.4	外：口縁ナデ。胴部上半はあまり明瞭でないが、胴部下半～底部ヘラケズリ 内：ヘラナデ。底部工具痕あり	①概ね良好 ②5YR 6/6 ③砂、小礫	4/5	
第184図 PL.93	468	土師器 甕	【17.2】	—	(13.3)	外：口縁～頸部ヨコナデ、頸部付近はタテナデ。胴部ヘラケズリ。口唇端部に工具押圧痕 内：ナデ。指頭圧痕	①概ね良好 ②5YR 6/4 ③砂	口縁～胴部 破片	
第184図 PL.93	469	土師器 甕	17.4	—	(10.9)	外：直立気味の口縁の下位に突帯状の張り出し。口縁～頸部ナデ 内：工具ナデ	①良好 ②5YR 6/6 ③砂	口縁部	

第47表　12号竪穴建物跡　出土遺物観察表（２）

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第184図 PL.93	470	土師器 甕	【12.5】	—	(13.9)	外：口縁ナデ、胴部ヘラケズリ 内：ヘラナデ	①良好　②5YR 6/6 ③石英、砂、小礫	口縁～胴部 破片	
第184図 PL.93	471	土師器 甕	【11.8】	—	(7.2)	外：口縁ナデ、胴部ヘラケズリ 内：ナデ	①概ね良好　②5YR 6/4 ③砂	口縁部 破片	
第184図 PL.93	472	土師器 甑	【12.8】	—	12.7	外：口縁ナデ、以下ヘラケズリ。底部に径2.9cmの穿孔あり。穿孔時に孔周囲を粗く削りとる 内：ナデ	①良好 ②5YR 5/3 ③輝石、砂	3/5	
第185図 PL.92	473	土師器 片口	8.0	—	8.7	外：口縁ナデ、胴部工具ナデ。口縁成形後、注ぎ口を粘土貼り付け。底部粗いヘラケズリ 内：ナデ。底部に工具痕	①良好 ②5YR 7/6 ③輝石、砂	完形	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第185図 PL.93	474	砥石	8.7	6.0	2.5	216.9	輝石安山岩	不整台形を呈している。平面が平滑だが擦痕は顕著でない。	
第185図 PL.93	475	紡錘車	4.6	—	1.3	37.7	滑石	上下面ならびに端部に擦過痕が顕著	

【13号竪穴建物跡】（596E-SI13）

位置　　東区西側の南端で検出した。遺構の南半は調査区外となる。

形状・規模　　全容は不確かだが、方形を呈するものと推測される。遺構の大半は調査区外となるため未確認だが、調査区内では北壁3.1m、東壁1.8mを検出している。遺構確認面から床面までの深さは0.5mであり、標高では151.7m前後となる。

主軸　　N－77°－E

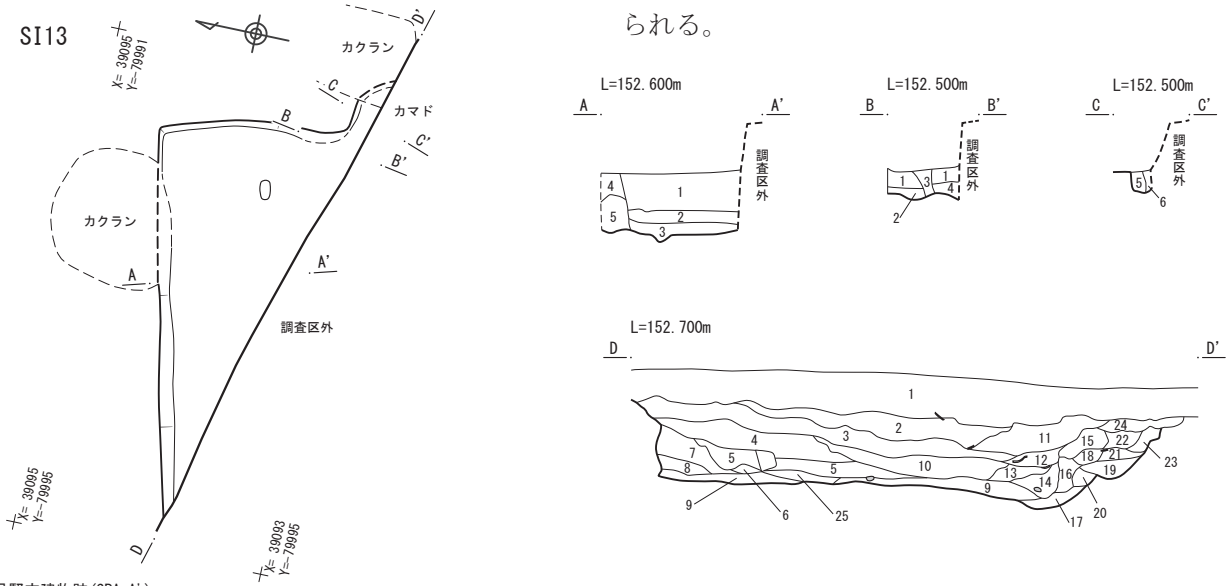
埋土　　黒色土および黒褐色土を基調とし、黄色や黄褐色ロームを混在する。

燃焼施設　　東壁にカマドが造り付けられている。調査区境のため北半分のみの調査となった。

掘り方　　掘り込みは黄褐色ローム層に達する。掘削痕状の小さな窪みが多数確認できた。

出土遺物　　土師器甕や坏、滑石製紡錘車が出土している。

所見　　遺構は部分的な検出に留まり、出土遺物も限定的であることから年代決定の決め手を欠くが、出土遺物の様相から古墳時代後期以降と考えられる。



13号竪穴建物跡(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 2/3）　黄褐色シルト(φ1～3mm)少量。シルト質。黄色ロームのブロックを僅かに含む。しまりやや弱、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 2/2）　床面。シルト質。黄色ロームブロックを僅かに含む。しまり弱、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　貼床構成土層。黄褐色シルト(φ3～5cm)多量。しまりやや強、粘性やや強。
4　褐灰色（10YR 4/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
5　黄橙色（10YR 8/6）　黄褐色シルト地山。しまり強、粘性やや弱。

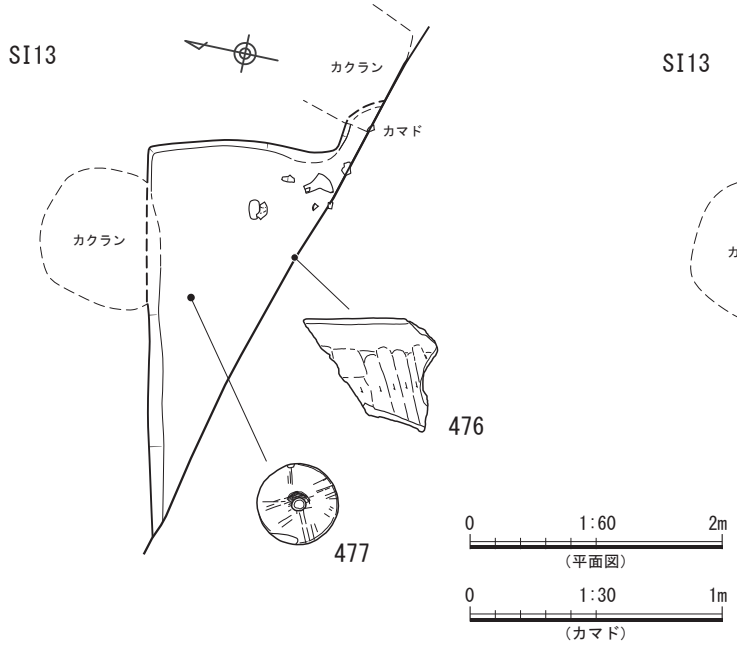
カマド(SPB-B',C-C')
1　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ1～3mm)少量。シルト質。しまり弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　シルト質。黄色ロームブロックを僅かに含む。しまりやや弱、粘性やや弱。
3　黒色（10YR 2/1）　シルト質。黄色ロームブロックをやや多く含む。しまり弱、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 2/2）　黄色ロームを少し含む。焼土をブロック状に微量を含む。しまりやや弱、粘性やや強。
5　黒褐色（10YR 3/2）　シルト質。焼土を僅かに含む。しまりやや強、粘性やや弱。
6　にぶい黄褐色（10YR 5/3）　シルト質。黄色ロームと黒色土の混土層。焼土をブロック状に少し含む。しまりやや弱、粘性やや弱。

0　1:60　2m
（平面図・断面図）

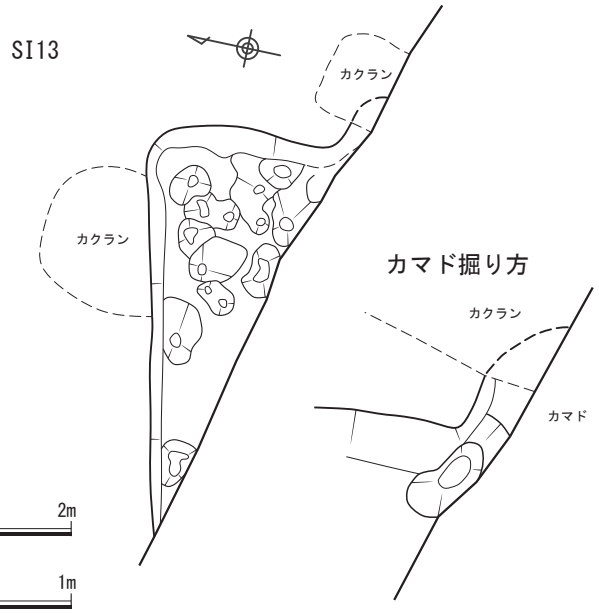
第186図　13号竪穴建物跡　平面図・断面図

13号竪穴建物跡(SPD-D')

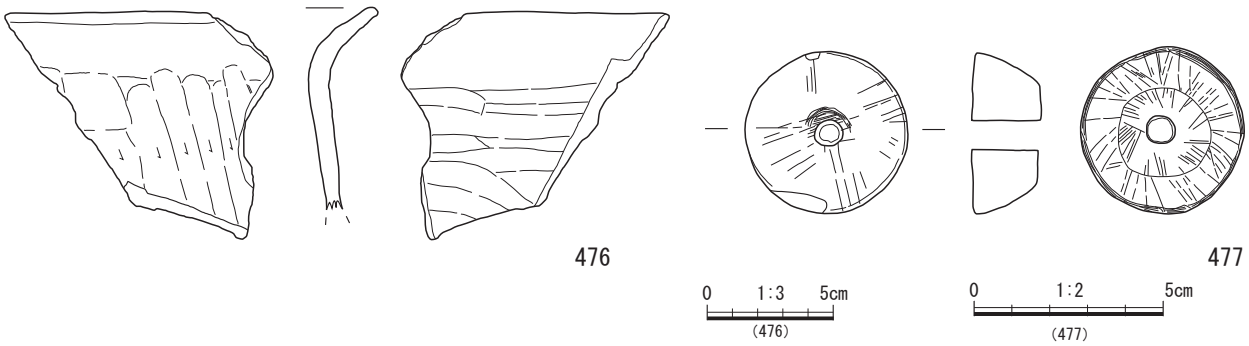
1　黒褐色（10YR 3/1）　As-A混。表土層。しまりやや弱、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 2/2）　As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 2/2）　As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
4　黒色（10YR 2/1）　As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性強。
5　黒褐色（10YR 2/2）　As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性強。
6　黒色（10YR 1.7/1）　As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
7　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量、(φ1cm)少量。焼土少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
8　黒色（10YR 2/1）　As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性強。
9　明黄褐色（10YR 6/6）　黄褐色シルト主体に黒色土混。貼床。しまり強、粘性強。
10　黒色（10YR 2/1）　As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量、(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性やや弱。
11　黒褐色（10YR 3/1）　As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。焼土少量。しまりやや強、粘性やや強。
12　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ3～5cm)やや多量。焼土(φ1～2cm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
13　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。焼土少量。しまりやや強、粘性やや強。
14　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。黒色土混。焼土少量を含む。しまり強、粘性強。
15　にぶい黄褐色（10YR 5/4）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ1～2cm)やや少量。黒色土混。焼土僅か。しまりやや強、粘性弱。
16　にぶい黄橙色（10YR 6/4）　シルト主体。黒色土混。焼土少量。しまり強、粘性強。
17　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量、(φ2～3cm)少量。焼土僅か。しまり強、粘性強。
18　灰黄褐色（10YR 4/2）　黒色土混在。黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。焼土少量。しまり強、粘性強。
19　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)やや少量。焼土・炭化物含む。しまりやや弱、粘性やや弱。
20　にぶい黄褐色（10YR 5/3）　黄褐色シルト主体。しまりやや弱、粘性強。
21　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。焼土(φ2～3cm)多量。灰・炭化物含む。しまりやや強、粘性やや弱。
22　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。焼土やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
23　にぶい黄橙色（10YR 6/4）　黄褐色シルト主体。焼土(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
24　黒褐色（10YR 3/2）　As-C混。焼土少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
25　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。しまり強、粘性強。



第187図　13号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第188図　13号竪穴建物跡　掘り方平面図



第189図　13号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第48表　13号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第189図 PL.93	476	土師器 長胴甕	—	—	—	外：口縁ナデ、以下ヘラケズリ 内：口縁ナデ、以下工具ナデ	①良好　②5YR 6/6 ③長石、小礫	口縁部 破片	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第189図 PL.93	477	紡錘車	径 4.3	—	1.8	51.9	滑石	両面に擦痕あり	

【14号竪穴建物跡】（596E-SI14）

位置　東区西側の南端で検出した。遺構は現代の耕作痕によって一部を欠失する。

形状・規模　ほぼ正方形を呈している。規模はおよそ3.7m四方である。遺構確認面から床面までの深さは0.4mであり、標高では151.6m前後となる。

主軸　N－33°－W

埋土　黒褐色土を基調とし、黄褐色土粒子やブロックを少量混入させる。

燃焼施設　壁面や床面等において焼土など燃焼施設を想定しうる痕跡は未確認である。

貯蔵穴　未検出である。

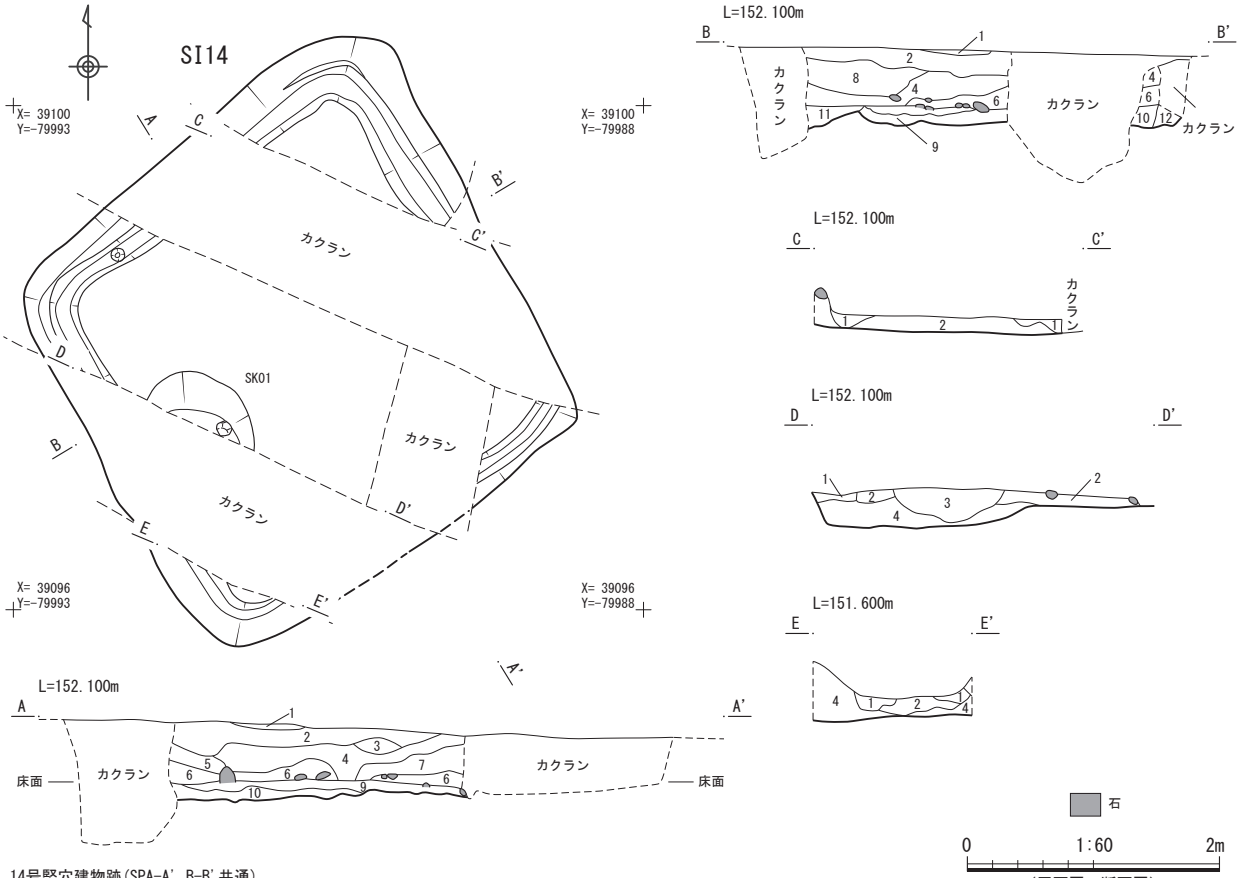
柱穴・土坑　床面において黒いシミとして認識できた土坑（SK01）がある。床面構築後の掘削であるが、遺構廃絶後の埋土堆積前には床面と同等に平坦であることから、遺構廃絶時までには埋没していた可能性が考えられる。

壁周溝　カクランで途中を分断されるが、四壁で確認している。

掘り方　黄褐色ローム層まで掘り込んでいる。掘り方面は掘削痕と考えられる小さな窪みが多数検出された。

出土遺物　須恵器蓋や土師器甕、坏が出土している。その他、縄文土器や打製石斧、弥生土器などが流入する。

所見　遺物の様相から７世紀後半～８世紀前半頃と推定される。



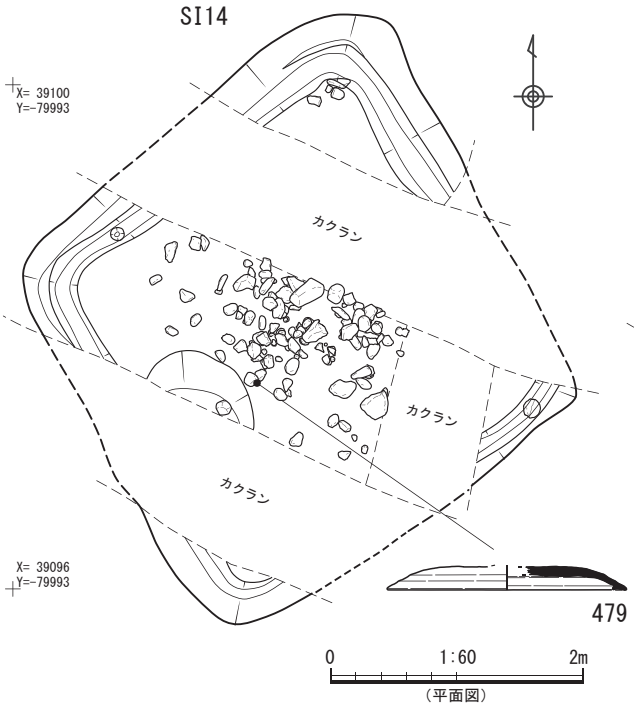
14号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)

1	灰黄褐色（10YR 4/2）	黄褐色粒子(φ1～3mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色（10YR 3/1）	白色粒子(φ1～3mm)やや少量、(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
3	灰黄褐色（10YR 4/2）	黄褐色粒子(φ1～3mm)少量。黄褐色土をブロック状にやや含む。しまり強、粘性弱。
4	黒褐色（10YR 2/2）	橙色粒子(φ1～3mm)少量。黄褐色粒子(φ1～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
5	暗褐色（10YR 3/3）	橙色粒子(φ1～2mm)少量。黄褐色粒子(φ1～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
6	黒褐色（10YR 3/2）	橙色粒子(φ1～2mm)少量。局所的に黄褐色土をブロック状に含む。しまりやや強、粘性やや弱。
7	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	橙色粒子(φ1～3mm)やや少量、(φ4～5mm)少量。全体的に黄褐色土を薄く含む。しまり強、粘性やや弱。
8	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色粒子(φ1～3mm)やや多量。黄褐色土を所々に含む。しまりやや強、粘性やや弱。
9	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
10	灰黄褐色（10YR 4/2）	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm) 少量。しまりやや強、粘性やや強。
11	黒色（10YR 2/1）	黄褐色シルト(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。床下土坑埋土。
12	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	地山。黒褐色土とロームの漸移層。しまりやや強、粘性やや強。

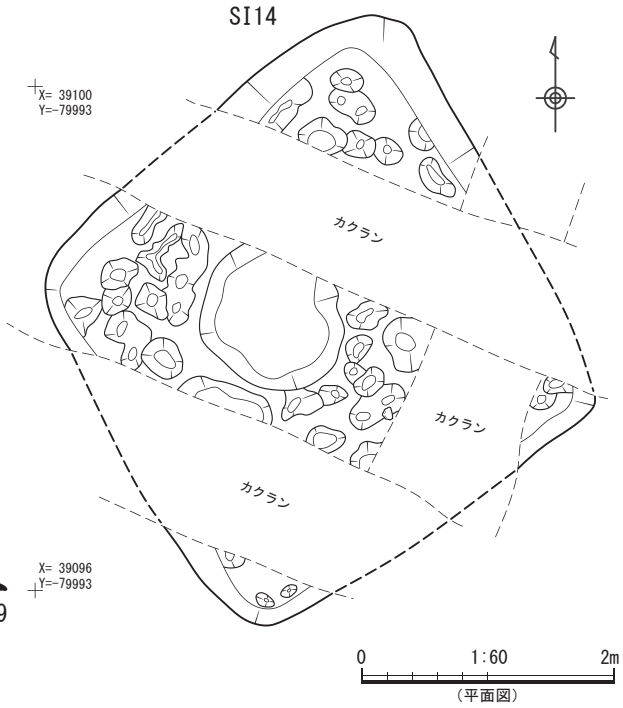
14号竪穴建物跡(SPC-C',D-D',E-E'共通)

1	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色粒子(φ1～3mm)少量。しまりやや弱、粘性弱。周溝の埋土か。
2	褐色（10YR 4/4）	白色粒子(φ1～3mm)少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。黄褐色土と黒色土がまだらに混合。竪穴建物の床面か。しまり強、粘性やや強。
3	黒色（10YR 2/1）	白色軽石(φ1cm程度)少量。局所的に黄褐色土をブロック状に含む。しまりやや強、粘性やや弱。
4	黄橙色（10YR 7/8）	全体的に黄色ローム層であるが、局所的に黒色土をブロック状に含む。しまり強、粘性やや強。

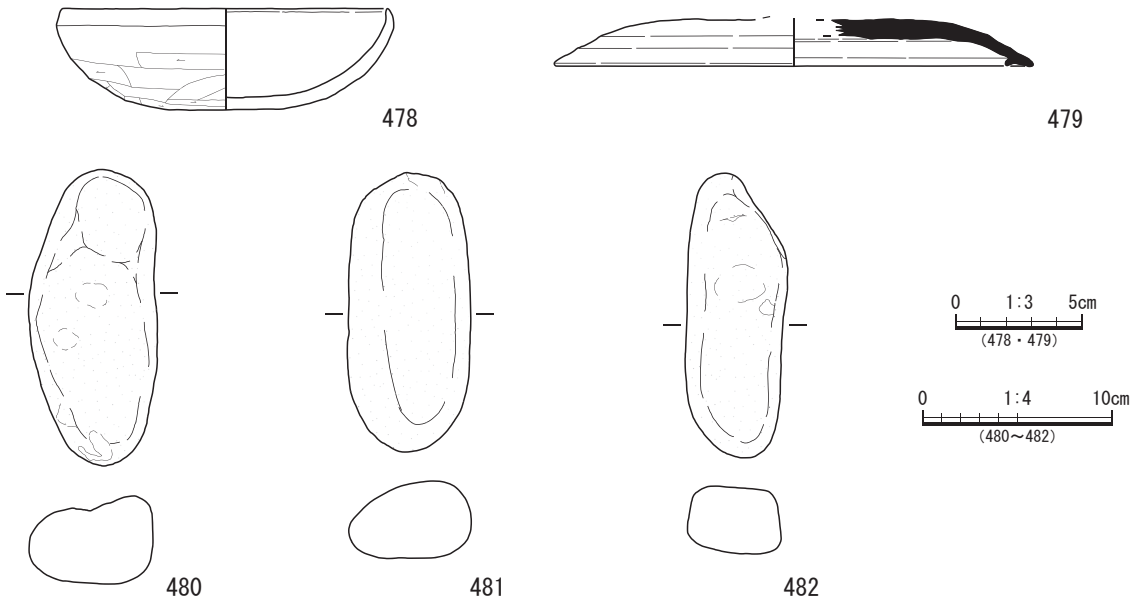
第190図　14号竪穴建物跡　平面図・断面図



第191図　14号竪穴建物跡　礫・出土遺物分布図



第192図　14号竪穴建物跡　掘り方平面図



第193図　14号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第49表　14号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第193図 PL. 93	478	土師器 坏	【13.0】	—	4.0	外：口縁ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ 内：ナデ	①やや良好　②5YR 5/6 ③砂粒子	1/2	
第193図 PL. 93	479	須恵器 坏蓋	【19.0】	—	1.8	外：自然釉付着。摘みは欠落 内：低いカエリがつく	①良好　②N 7/0 ③長石、砂粒子	1/4	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第193図 PL. 93	480	こも編み石	15.6	6.8	4.3	783.0	安山岩	一部敲打痕あり	
第193図 PL. 93	481	こも編み石	14.7	6.5	4.1	649.0	輝石安山岩	敲打や擦過の痕あり	
第193図 PL. 93	482	こも編み石	15.1	5.3	3.5	527.0	安山岩	各面が平滑	

【15号竪穴建物跡】（596E-SI15）

位置　東区西側の南西寄りで検出した。遺構は現代の耕作痕によって一部を欠失する。

形状・規模　長方形を呈している。長軸は4.5m、短軸は3.5mを測る。遺構確認面から床面までの深さは0.4mであり、標高では151.7m前後となる。

主軸　Ｎ－55°－Ｅ

埋土　黒色土や黒褐色土を基調とし、As-Cが混入する。

燃焼施設　東壁にカマドを造り付ける。カクランによりカマド前面を欠失するが、両袖部の一部を確認した。

貯蔵穴　カマドの南東に貯蔵穴がある。貯蔵穴の周囲は地山を掘り残して床面より高くなるが、貯蔵穴の上端は蓋の受け口状に一段下がる。

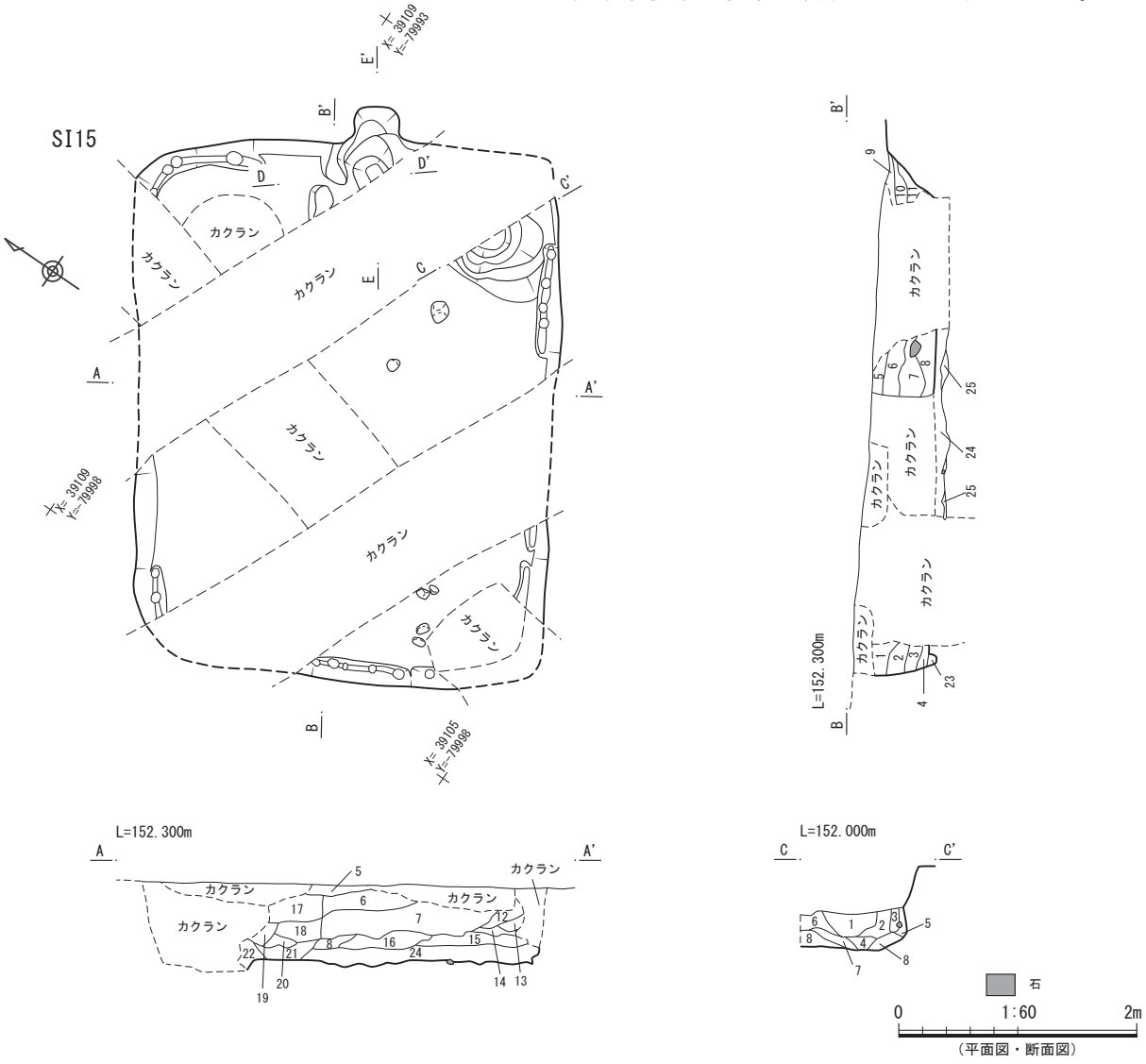
柱穴・土坑　未確認である。

壁周溝　北東隅から南壁、西壁に沿って壁周溝が設けられている。

掘り方　黄褐色ローム層まで掘削し掘り方とする。土坑状に窪む箇所があるが、多くは掘削痕のような小さな窪みである。

出土遺物　土師器甕、須恵器甕や坏の小片が出土した。その他、縄文土器や黒曜石剥片、弥生時代土器が流入する。

所見　遺構はカクランの影響を大きく受けるが、カマドや貯蔵穴の一部が確認できた。遺物の出土は限定的であるため年代決定には決め手を欠くが、遺構形状や主軸の傾きなどの共通点から17号竪穴建物と近接した時期と想定され、本遺構は古墳時代中期後半～後期に属するものと考えられる。



第194図　15号竪穴建物跡　平面図・断面図

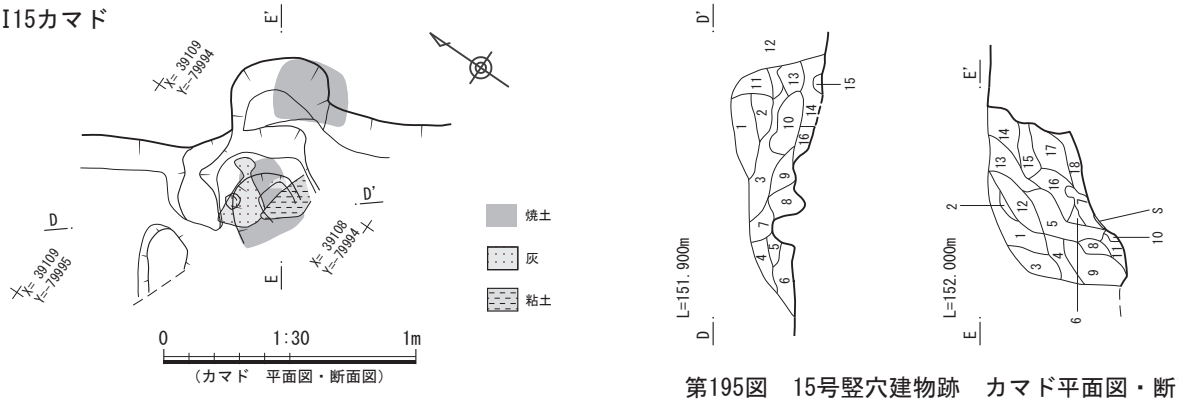
15号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)

1	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。As-YP含む。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C少量。黄褐色シルト(φ2～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C。黄褐色(φ2～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
4	黒色 (10YR 2/1)	As-C僅かに含む。黄褐色(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性弱。
6	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色(φ2～3mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや強。
7	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。黄褐色(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)多量。しまり強、粘性やや強。
8	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。As-YP含む。しまり強、粘性強。
9	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。焼土(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
10	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
11	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性やや強。
12	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ1～2cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
13	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
14	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性強。
15	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C僅か。黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
16	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C少量。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量、(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性強。
17	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。しまりやや弱、粘性強。
18	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや弱。
19	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
20	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
21	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまりやや弱、粘性やや強。
22	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
23	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや強。
24	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黒色土と黄色ローム混土層。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまり弱、粘性やや弱。
25	黄褐色 (10YR 5/8)	黄色ローム層。しまり強、粘性やや強。

15号竪穴建物跡(SPC-C')

1	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ1～2mm)多量。焼土僅か。しまりやや強、粘性やや強。貯蔵穴埋土。
2	黄褐色 (10YR 5/6)	黄褐色シルトに黒褐色土が混。焼土僅か。しまり強、粘性強。貯蔵穴埋土。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。貯蔵穴埋土。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。焼土やや少量。しまり弱、粘性やや強。貯蔵穴埋土。
5	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	黒褐色土混。焼土少量。しまり強、粘性強。
6	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	黒褐色土混。貼床構成土。しまり強、粘性強。
7	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト混。しまりやや強、粘性やや強。
8	黄褐色 (10YR 5/8)	地山シルト層。しまり強、粘性強。

SI15カマド



（カマド　平面図・断面図）

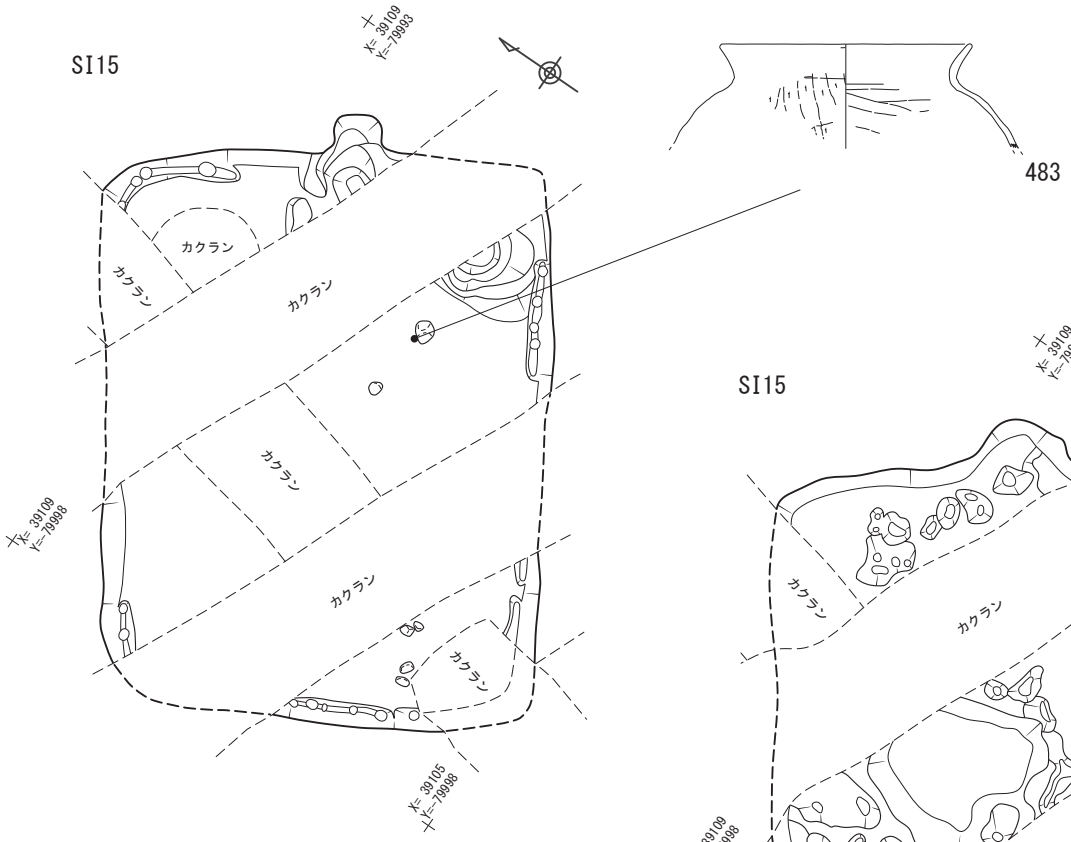
第195図　15号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図

15号竪穴建物跡(SPD-D')

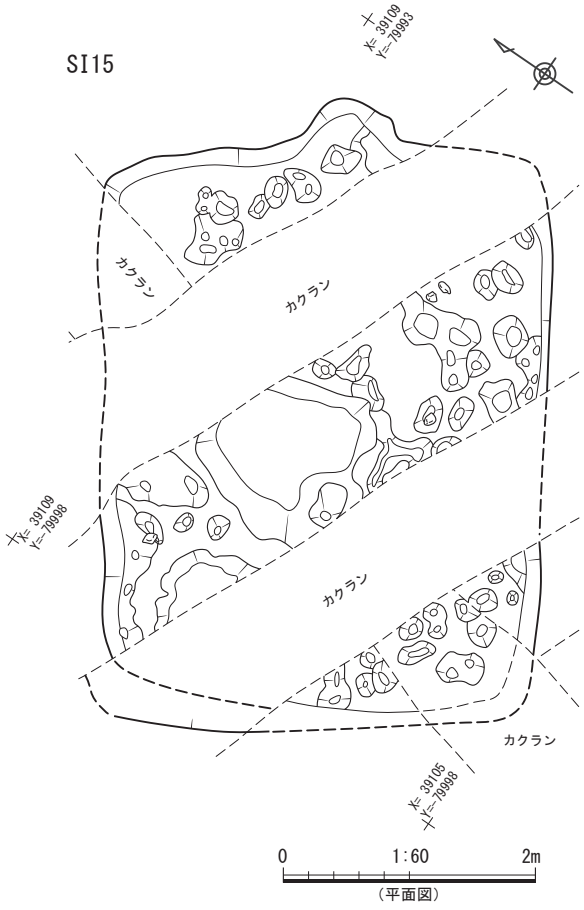
1	黒褐色 (10YR 3/1)	焼土(φ3～5mm)やや多量。黄褐色シルト(φ5～7mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、(φ2～3cm)少量。焼土(φ2～3mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。焼土(φ2～3mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
5	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ1～2cm)少量。焼土(φ1～2mm)しまりやや強、粘性やや弱。
6	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土(φ1～2mm)僅か。しまりやや強、粘性やや弱。
7	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。焼土(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、しまりやや弱。
8	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。焼土(φ3～5mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
9	明黄褐色 (10YR 6/6)	黄褐色シルト主体。焼土(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
10	灰黄褐色 (10YR 6/2)	粘土主体。焼土僅か。しまり強、粘性強。
11	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。焼土(φ1～2cm)少量。しまり弱、粘性弱。
12	明黄褐色 (10YR 6/6)	黄褐色シルト主体。焼土僅か。しまりやや強、粘性やや強。
13	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。焼土少量。しまりやや強、粘性弱。
14	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土少量。しまりやや強、粘性弱。
15	黄褐色 (10YR 5/6)	黄褐色シルト主体。焼土少量。しまり強、粘性やや強。
16	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、ブロック(φ5～7cm)少量。焼土(φ2～3mm)多量。灰含む。しまりやや弱、粘性弱。
17	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。焼土(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。

15号竪穴建物跡(SPE-E')

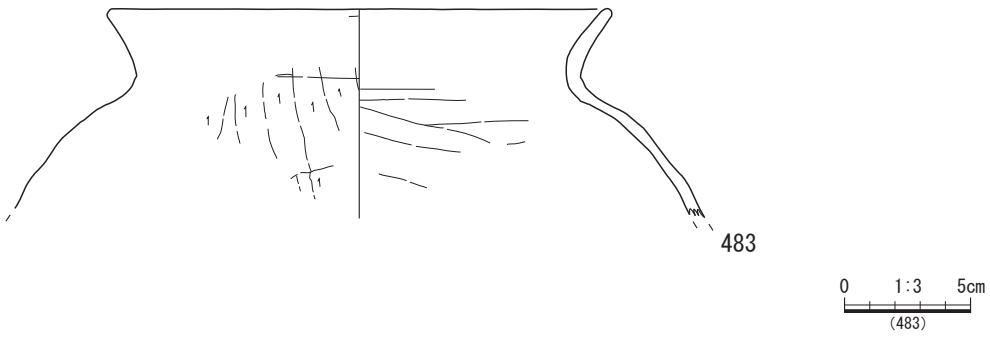
1	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。焼土(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黄褐色 (10YR 5/6)	主体に焼土(φ2～3cm)やや多量。しまりやや弱、粘性弱。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。焼土(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。焼土僅か。しまりやや弱、粘性弱。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3cm)やや多量。焼土(φ3～5mm)やや多量。粘土ブロック有り。しまりやや弱、粘性弱。
6	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。焼土(φ3～5mm多量、(φ1～2cm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
7	褐灰色 (10YR 4/1)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。焼土(φ2～3mm)やや少量、(φ1～2cm)やや多量。灰含む。しまりやや強、粘性やや弱。
8	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	黄褐色シルト(φ2～3cm)やや多量。焼土(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
9	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)やや少量。焼土(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
10	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
11	褐色 (10YR 4/4)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。焼土(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
12	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	黄褐色シルト主体に黒褐色土ブロック(φ5～7cm)少量。焼土(φ3～5mm)やや少量、(φ2～3cm)少量。しまりやや強、粘性弱。
13	にぶい赤褐色 (2.5YR 4/4)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土(φ2～3mm)多量、(φ5～7mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
14	赤褐色 (2.5YR 4/6)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土(φ2～3mm)多量、(φ1～2cm)やや多量。しまり強、粘性弱。
15	暗赤灰色 (2.5YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性やや弱。
16	赤褐色 (2.5YR 4/6)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土(φ2～3mm)多量、(φ1～2cm)多量。灰含む。しまりやや強、粘性弱。
17	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
18	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。焼土なし。しまりやや強、粘性やや強。



第196図　15号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第197図　15号竪穴建物跡　掘り方平面図



第198図　15号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第50表　15号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第198図 PL.93	483	土師器 甕	【20.0】	—	(8.2)	外：口縁ナデ、頸部以下ヘラケズリ 内：工具ナデ	①良好　②5YR 6/6 ③輝石、小礫	口縁部 破片	

【16号竪穴建物跡】（596E-SI16）

位置　　東区西側の北寄りで検出した。現代の耕作痕によって遺構の一部を欠失する。

形状・規模　　ほぼ正方形を呈している。長軸は3.4m、短軸は3.3mを測る。遺構確認面から床面までの深さは0.6mであり、標高では150.9m前後となる。

主軸　　Ｎ－58°－Ｅ

埋土　　黒褐色土を基調とし、As-C、黄褐色ロームが混入する。全体的にはしまりが強く、粘性はやや弱い。

燃焼施設　　東壁の南寄りにカマドを造り付ける。袖石２石と倒落した天井石を検出した。灰の検出はなく、カマド埋土中に混入する焼土も少量であった。

貯蔵穴　　建物跡の南東隅、カマドの南脇に円形の貯蔵穴がある。

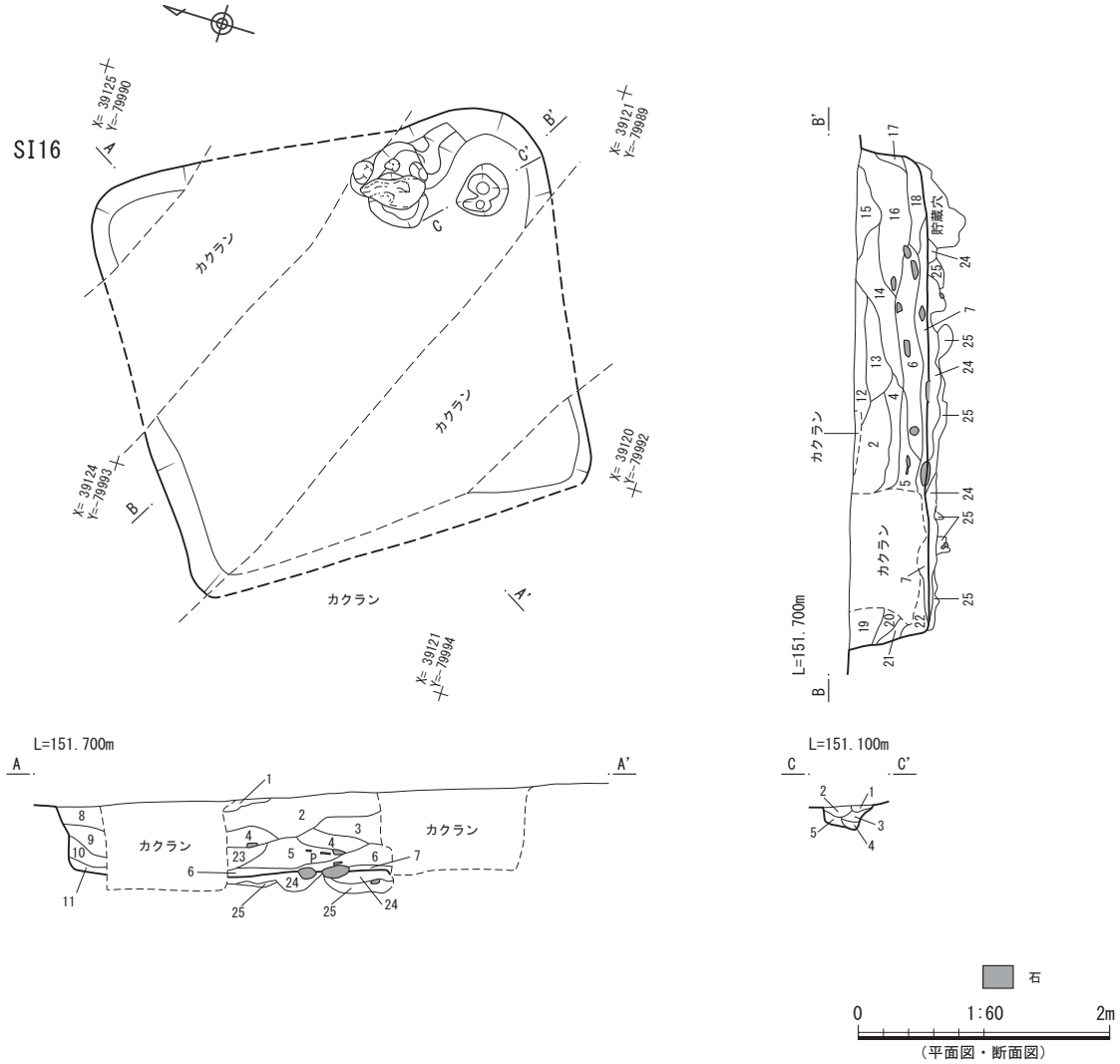
柱穴・土坑　　未検出である。

壁周溝　　未検出である。

掘り方　　黄褐色ローム層まで掘り込んで掘り方とする。掘り方面には掘削痕と考えられる小さな窪みが多数ある。

出土遺物　　土師器甕や坏類、須恵器甕や坏、菰編み石が出土した。その他、縄文土器や黒曜石剥片が流入する。

所見　　出土遺物の様相から８世紀代と想定される。



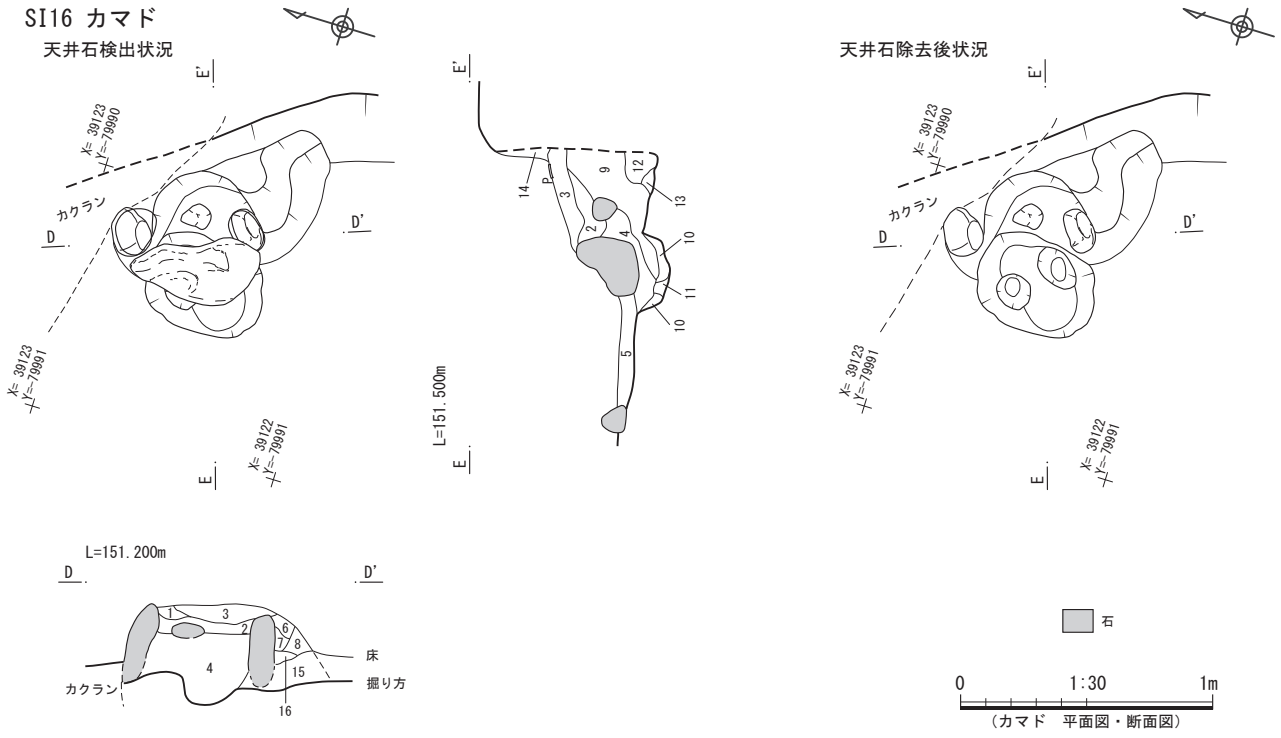
第199図　16号竪穴建物跡　平面図・断面図

16号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)

1	黒色 (10YR 2/1)	粘質黒色土。直上にAs-B。しまりやや強、粘性強。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。炭化物少量を含む。しまりやや強、粘性やや強。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。しまり強、粘性やや強。
4	黒色 (10YR 2/1)	As-C混(少量)。炭化物少量を含む。しまり強、粘性強。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。As-YP・礫・遺物含む。しまりやや強、粘性やや強。
6	褐灰色 (10YR 4/1)	As-C混(少量)。As-YP含む。焼土少量を含む。しまり極めて強、粘性強。
7	褐灰色 (10YR 5/1)	As-C混(微量)。焼土少量を含む。しまり強、粘性強。
8	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混(少量)。焼土少量を含む。しまりやや強、粘性やや弱。
9	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混(やや少量)。しまりやや強、粘性やや弱。
10	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
11	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性やや弱。
12	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。As-YP僅かに含む。しまりやや強、粘性やや弱。
13	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。炭化物少量を含む。しまり強、粘性やや強。
14	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。As-YP・焼土含む。しまり強、粘性やや弱。
15	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混。焼土少量を含む。しまりやや強、粘性弱。
16	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。As-YP・焼土少量を含む。しまり強、粘性強。
17	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
18	黒色 (10YR 2/1)	As-C(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。焼土少量を含む。しまりやや強、粘性やや弱。
19	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
20	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C(少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
21	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C(少量)。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
22	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、(φ3～5cm)少量。しまりやや弱、粘性弱。
23	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。

16号竪穴建物跡(SPC-C')

1	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。しまり強、粘性強。
2	灰黄褐色 (10YR 5/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。しまり強、粘性強。
3	褐灰色 (10YR 4/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ5～7cm)少量。しまり強、粘性強。
4	褐灰色 (10YR 4/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性強。
5	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性強。

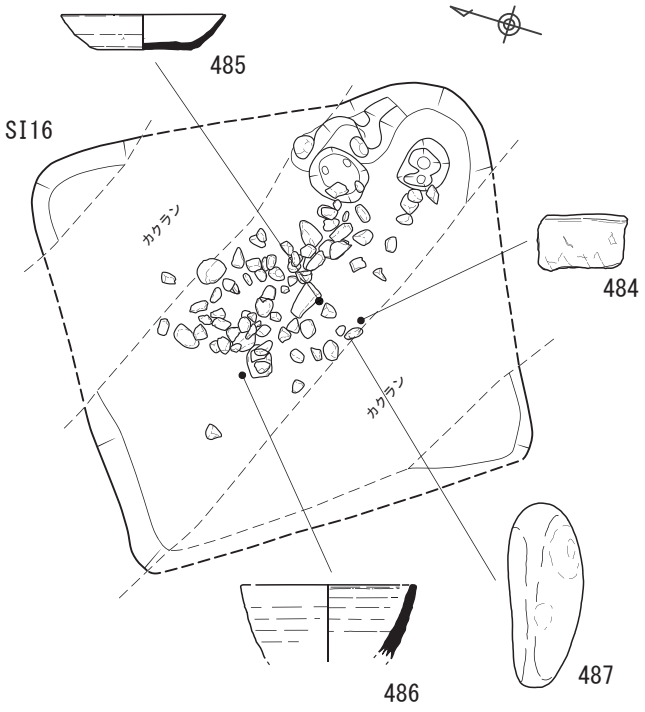


（カマド　平面図・断面図）

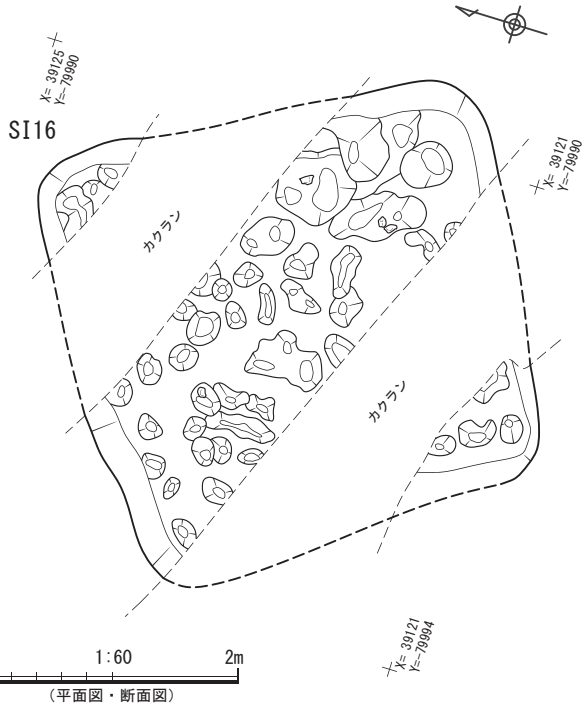
16号竪穴建物跡(SPD-D',E-E'共通)

1	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	焼土(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
2	褐色 (10YR 4/4)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。焼土僅かに含む。しまり強、粘性強。
3	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
4	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。焼土(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性強。
5	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土僅かに含む。しまりやや弱、粘性やや強。
6	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量。しまりやや弱、粘性強。
7	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ1～2mm)多量。しまり弱、粘性やや弱。
8	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
9	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。焼土少量を含む。しまりやや強、粘性強。
10	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
11	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	黄褐色シルト主体。焼土僅かに含む。しまり強、粘性強。
12	明黄褐色 (10YR 6/8)	黄褐色シルト主体。しまり強、粘性やや強。地山。
13	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
14	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5cm)少量。地山。しまり強、粘性やや弱。
15	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
16	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量、ブロック(φ5～7cm)少量。 しまりやや弱、粘性やや弱。

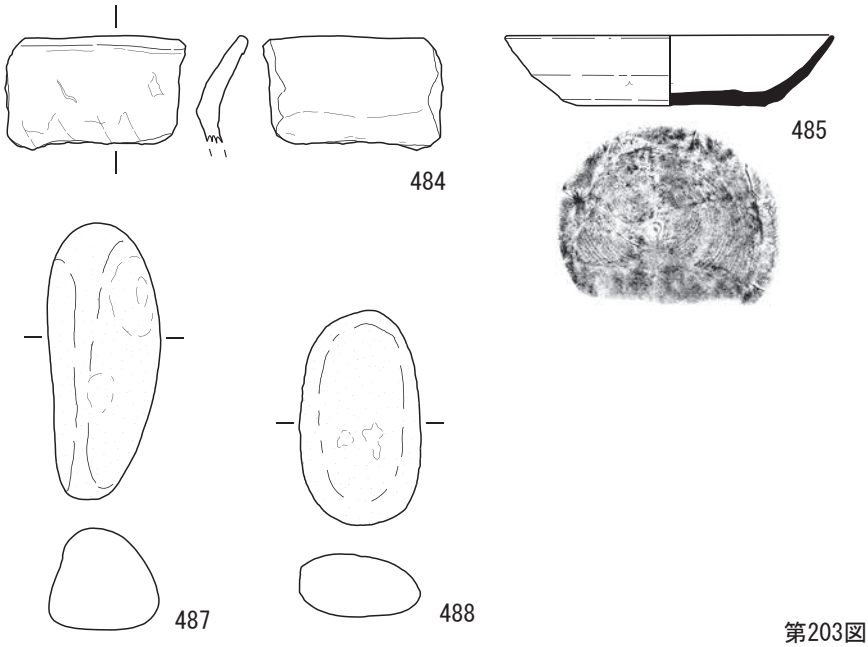
第200図　16号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図



第201図　16号竪穴建物跡　礫・出土遺物分布図



第202図　16号竪穴建物跡　掘り方平面図



第203図　16号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第51表　16号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第203図 PL. 93	484	土師器 甕	—	—	—	外：口縁ナデ、以下の器面の様子からケズリ？ 内：ナデ	①良好　②5YR 3/6 ③砂、小礫	口縁部 破片	
第203図 PL. 93	485	須恵器 坏	【13.0】	2.8	7.4	外：底部回転糸切り後未調整	①良好　②5Y 8/1 ③角閃石	1/2	
第203図 PL. 93	486	須恵器 鉢	【14.0】	—	(5.8)	外：成形痕、自然釉付着 内：口縁以下は施釉か	①概ね良好　②N 8/0 ③砂	口縁部 破片	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第203図 PL. 93	487	こも編み石	14.6	5.9	5.3	674.0	輝石安山岩	平滑な面がある	
第203図 PL. 93	488	こも編み石	11.3	6.3	3.3	382.0	輝石安山岩	扁平。敲打痕が認められる	

【17号竪穴建物跡】（596E-SI17）

位置　　東区西側の北端で検出した。現代の耕作痕によって遺構の一部を欠失する。

形状・規模　　長方形を呈する。長軸5.3m、短軸3.8mを測る。遺構確認面から床面までの深さは0.3mであり、標高では151.0m前後となる。

主軸　　Ｎ－50°－Ｅ

埋土　　黒色土、黒褐色土を基調とし、As-C、黄褐色ロームを混入する。全体的にしまりは強く、粘性や弱い。

燃焼施設　　東壁の南寄りにカマドを造り付ける。現代の耕作痕によって一部が破壊されており、袖石などの残存は確認できなかった。

貯蔵穴　　南壁際中央付近で貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。土坑内よりほぼ完形の土師気坏類などが出土している。

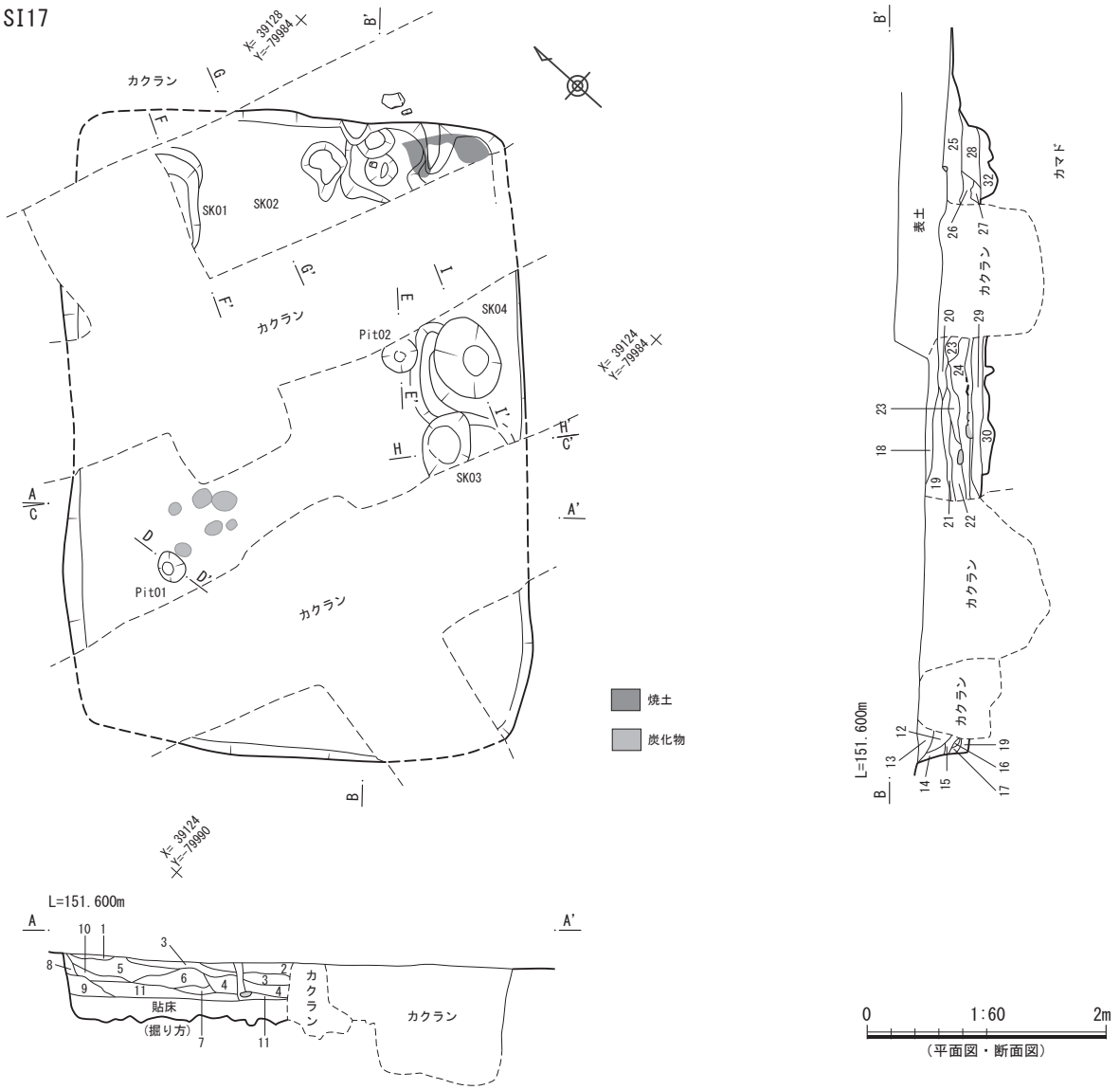
柱穴・土坑　　現代の耕作痕により床面の大部分が欠失するが、柱穴と考えられるピット１およびピット２が確認できた。

壁周溝　　未検出である。

掘り方　　黄褐色ローム層まで掘り込んで掘り方とする。東壁際に床下土坑状の窪みがある他は、掘削痕と推定される小さな窪みを多数検出した。

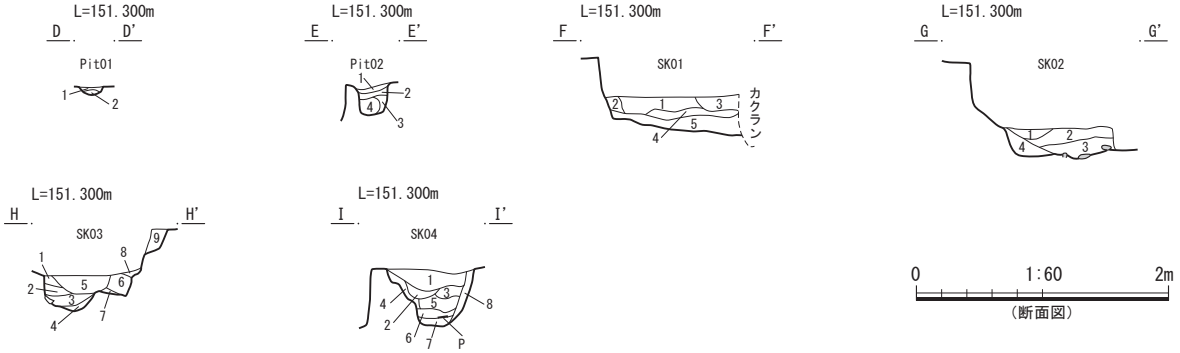
出土遺物　　土師器甕、坏類、高坏、小型丸底壺を中心に、縄文土器や黒曜石片などの流入遺物が若干ある。

所見　　遺構形状からは時期がより下る印象も受けるが、出土遺物の様相から、本遺構は５世紀後半～６世紀前半に帰属するものと考えられる。



第204図　17号竪穴建物跡　平面図・断面図

17号竪穴建物跡(SPA-A',B-B',C-C' 共通)
1　にぶい黄褐色（10YR 4/3）黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。表土。カクラン。しまり強、粘性弱。
2　黒色（10YR 2/1）As-C混。炭化物含む。黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 3/1）As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。焼土僅かに含む。しまり強、粘性やや弱。
4　黒色（10YR 2/1）As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性弱。
5　黒色（10YR 2/1）As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。焼土僅かに含む。しまりやや強、粘性弱。
6　黒色（10YR 2/1）As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
7　黒色（10YR 2/1）As-C少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土僅かに含む。しまり強、粘性弱。
8　黒褐色（10YR 3/1）As-C少量。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
9　黒褐色（10YR 3/1）As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。炭化物・焼土やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
10　黒色（10YR 2/1）As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性弱。
11　黒褐色（10YR 3/1）As-C少量。黄褐色シルト(φ2～3mmやや多量、(φ1～2cm)少量。焼土少量を含む。しまりやや強、粘性やや弱。
12　黒色（10YR 2/1）As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。炭化物含む。焼土僅かに含む。しまり強、粘性弱。
13　黒色（10YR 2/1）As-C少量。黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。炭化物含む。しまりやや強、粘性やや弱。
14　黒褐色（10YR 3/1）As-C少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性強。
15　黒色（10YR 2/1）As-C少量。黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまり弱、粘性弱。
16　黒褐色（10YR 3/2）As-YP含む。炭化物少量。しまりやや強、粘性強。
17　黒褐色（10YR 3/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
18　黒褐色（10YR 3/2）As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
19　黒色（10YR 2/1）As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。炭化物含む。しまり強、粘性やや弱。
20　黒色（10YR 2/1）As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
21　暗褐色（10YR 3/3）As-C混。黄褐色シルト(φ2～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
22　黒色（10YR 2/1）As-C少量。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
23　黒色（10YR 2/1）As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
24　黒色（10YR 2/1）As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。しまり強、粘性強。
25　黒褐色（10YR 3/1）As-Cやや多量。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。焼土(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
26　にぶい黄褐色（10YR 4/3）As-C少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土(φ2～3mm)やや多量。炭化物少量。しまり強、粘性やや弱。
27　明赤褐色（2.5YR 5/8）焼土集中層。As-C・炭化物僅かに含む。しまりやや弱、粘性弱。
28　にぶい黄褐色（10YR 4/3）As-C少量。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。焼土(φ3～5mm)やや多量。炭化物含む。しまりやや強、粘性弱。
29　黒褐色（10YR 3/1）黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ3～5cm)やや多量。焼土少量。しまり強、粘性やや強。
30　黒褐色（10YR 2/2）黄褐色シルト(φ5～7mm)少量、(φ2～3cm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
31　にぶい黄褐色（10YR 4/3）黄褐色シルト主体。黒色土少量。しまり強、粘性やや強。
32　黒褐色（10YR 3/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。



第205図　17号竪穴建物跡　ピット断面図

Pit01(SPD-D')
1　にぶい黄褐色（10YR 4/3）黒色土と黄色土の混土。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや強。
2　にぶい黄褐色（10YR 5/4）1層目よりも黄褐色土の割合が高い。橙色粒子(φ1～2mm)極少量。しまり強、粘性強。

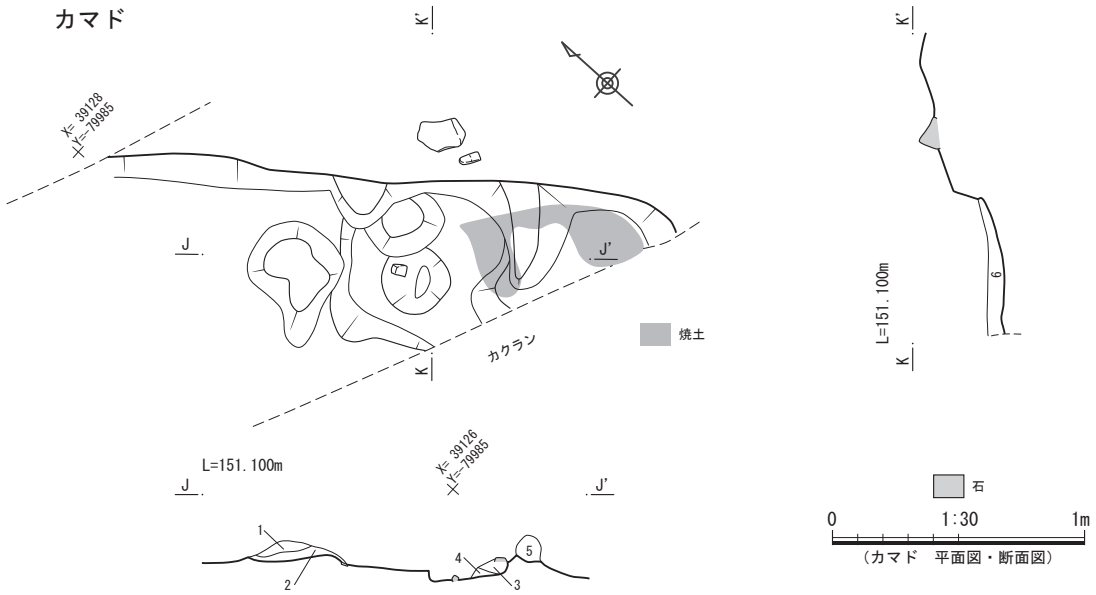
Pit02(SPE-E')
1　黒褐色（10YR 3/2）焼土をブロック状に少し含む。しまり弱、粘性やや強。
2　にぶい黄褐色（10YR 5/4）黄色土を多く含む。しまりやや弱、粘性やや強。
3　黄褐色（10YR 5/6）黄色ロームか。シルト質。しまり弱、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 3/1）黒色土と黄褐色土の混合土。橙色粒子(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性弱。

SK01(SPF-F')
1　黒色（10YR 2/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。焼土僅か。しまりやや強、粘性やや強。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
3　黒褐色（10YR 3/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、(φ3～5cm)少量。小礫。しまり強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 3/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
5　黄橙色（10YR 7/8）地山ローム。しまり強、粘性やや強。

SK02(SPG-G')
1　黒褐色（10YR 3/2）黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量、(φ1～2cm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや強。
2　黒色（10YR 2/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、(φ2～3cm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性強。
4　黒色（10YR 2/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)少量、(φ2～3cm)やや多量。褐色土ブロック。しまりやや強、粘性やや強。

SK03(SPH-H')
1　黒色（10YR 2/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土僅か。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒色（10YR 2/1）黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒色（10YR 2/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土僅か。坏有り。しまりやや強、粘性やや弱。
4　黒色（10YR 2/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。焼土(φ3～5cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
5　黒褐色（10YR 3/1）黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。炭化物含む。しまりやや弱、粘性やや弱。
6　灰黄褐色（10YR 4/2）黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
7　黒色（10YR 2/1）黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。炭化物含む。しまり弱、粘性やや弱。
8　黒褐色（10YR 3/2）黄褐色シルト(φ2～3mm)少量、(φ2～3cm)少量。炭化物含む。しまりやや強、粘性やや強。
9　黒褐色（10YR 3/2）As-YP含む。地山。しまり強、粘性やや強。

SK04(SPI-I')
1　黒褐色（10YR 3/1）黄褐色シルト(φ1～3mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　にぶい黄褐色（10YR 5/4）黄褐色土に黒色土を少量混。シルト質。しまり弱、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）黒色土に黄褐色土が少量混。しまり弱、粘性やや弱。
4　にぶい黄褐色（10YR 5/4）焼土のブロックを少量含む黄褐色土。しまりやや弱、粘性やや弱。
5　黒色（10YR 2/1）黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。サラサラとした黒色土。しまり弱、粘性弱。
6　明黄褐色（10YR 6/6）黄色ロームをブロック状に含む。シルト質。土器片を含む。しまり弱、粘性やや強。
7　灰黄褐色（10YR 4/2）灰色土に黄褐色を少し含む。シルト質。しまりやや弱、粘性強。
8　明黄褐色（10YR 6/8）黄色ローム。しまり強、粘性強。

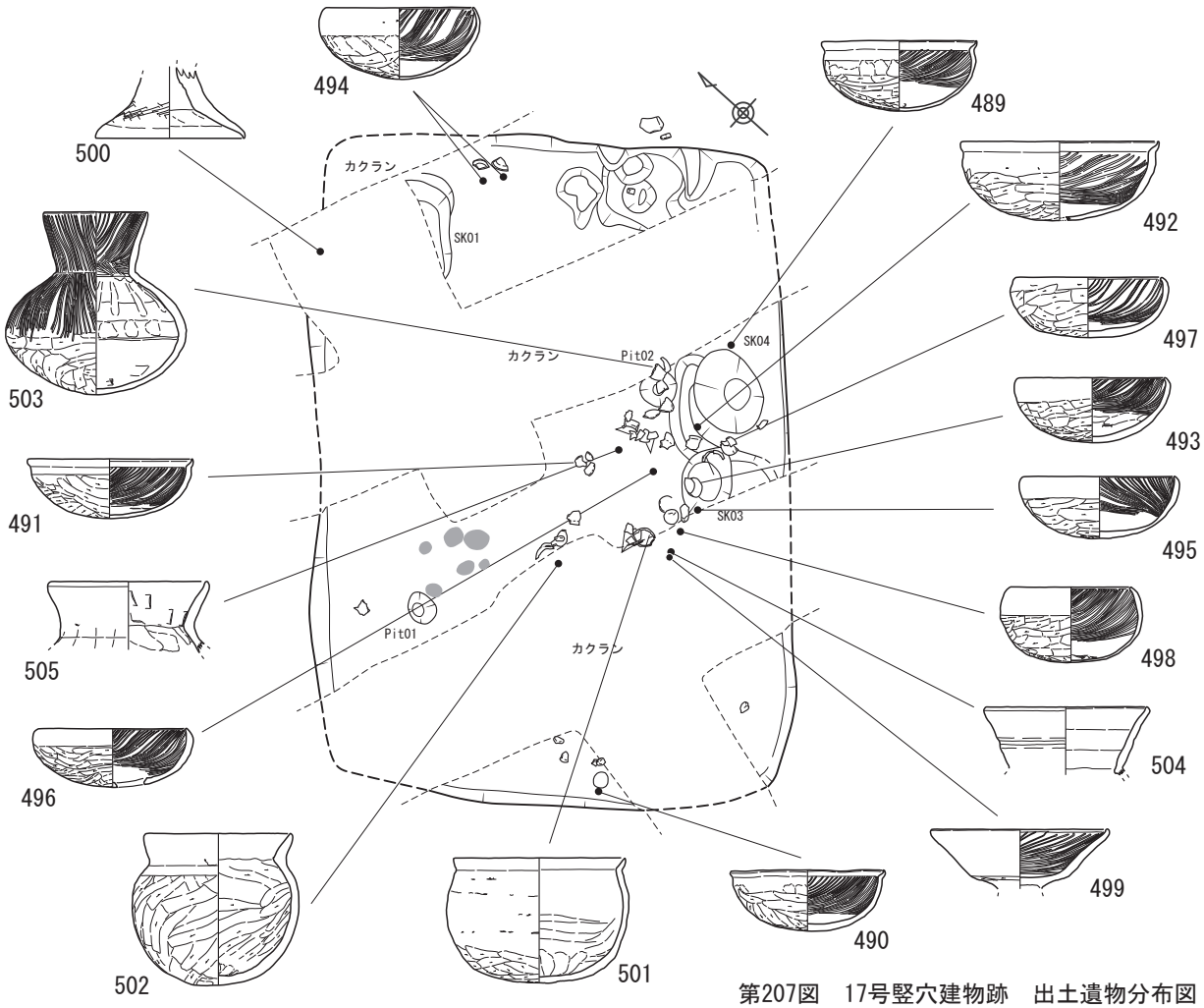


（カマド　平面図・断面図）

カマド(SPJ-J',K-K' 共通)

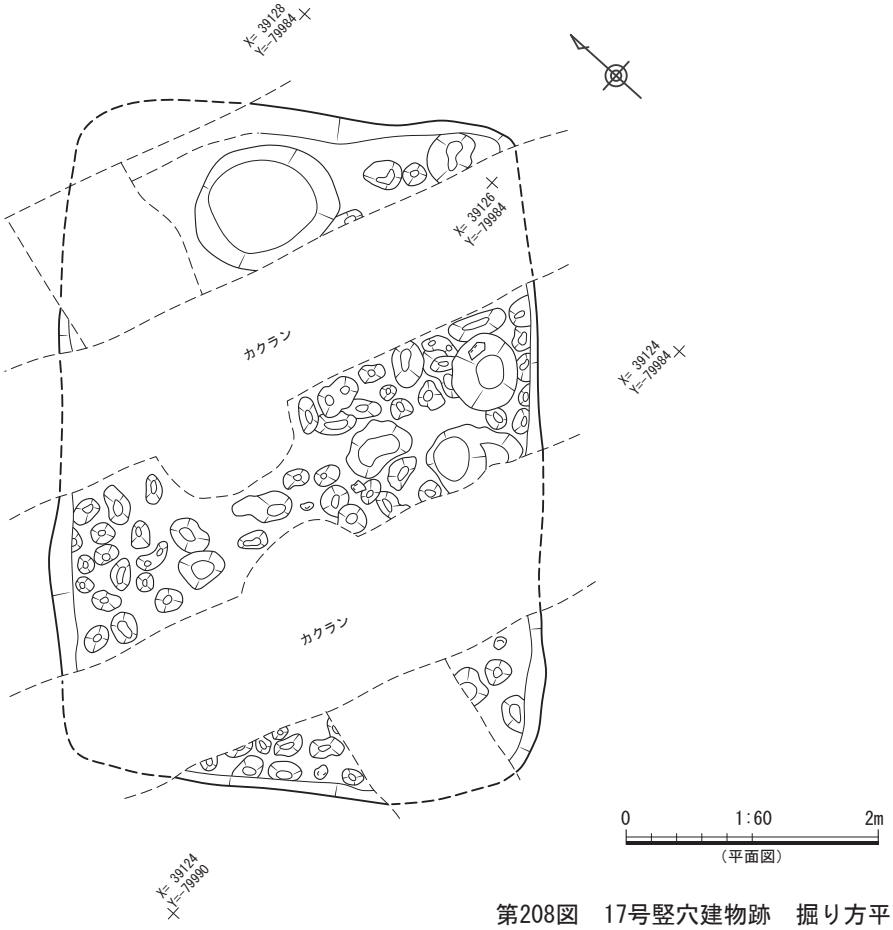
1	明黄褐色（10YR 6/8）	黄褐色ローム。焼土を少量含む。しまりやや強、粘性やや強。
2	褐色（10YR 4/6）	焼土。しまり強、粘性やや強。
3	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性強。
4	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	黄褐色土を多量に含む。しまり強、粘性強。
5	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	カマド右袖部か？黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性強。
6	黒褐色（10YR 3/1）	黒色土と黄褐色土の混土。黄褐色シルト(φ1～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。

第206図　17号竪穴建物跡　カマド平面図・断面図

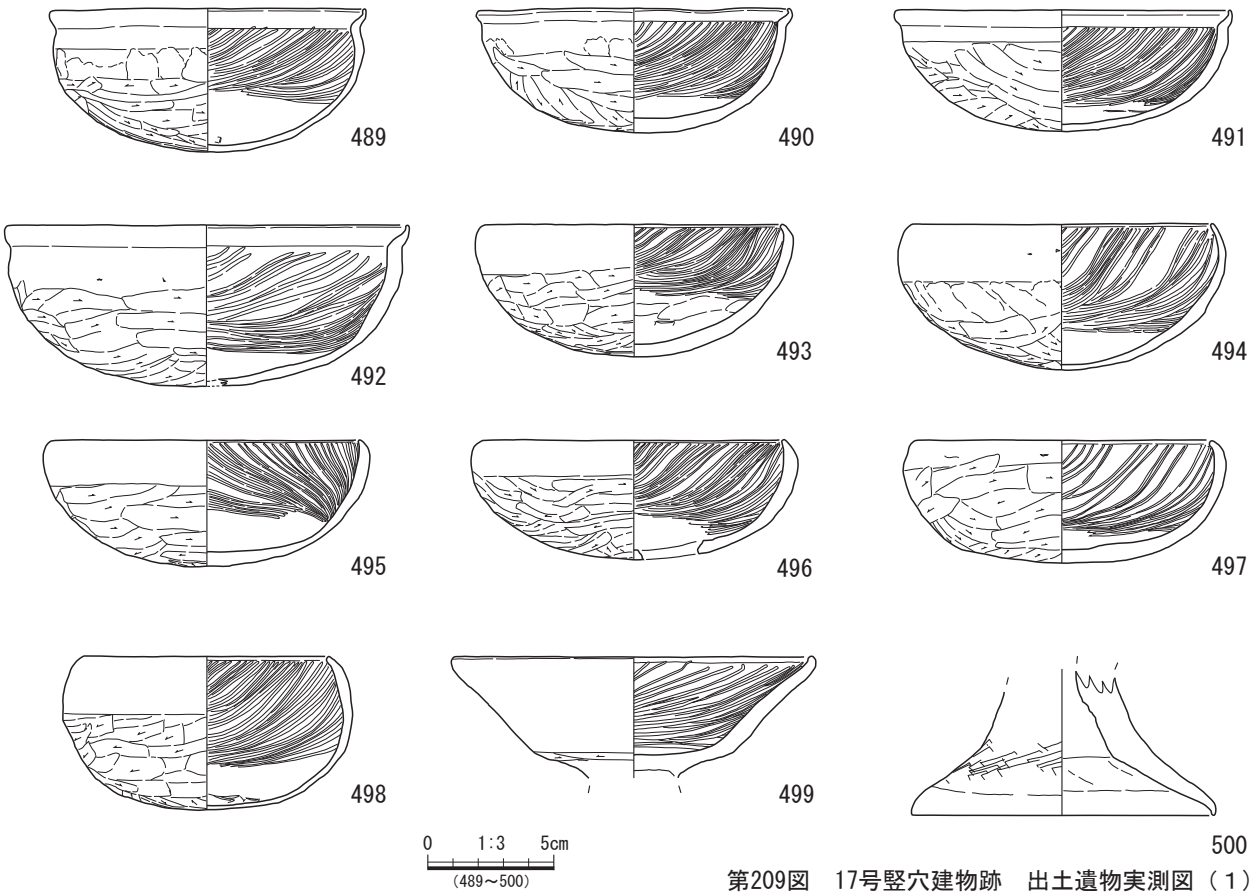


第207図　17号竪穴建物跡　出土遺物分布図

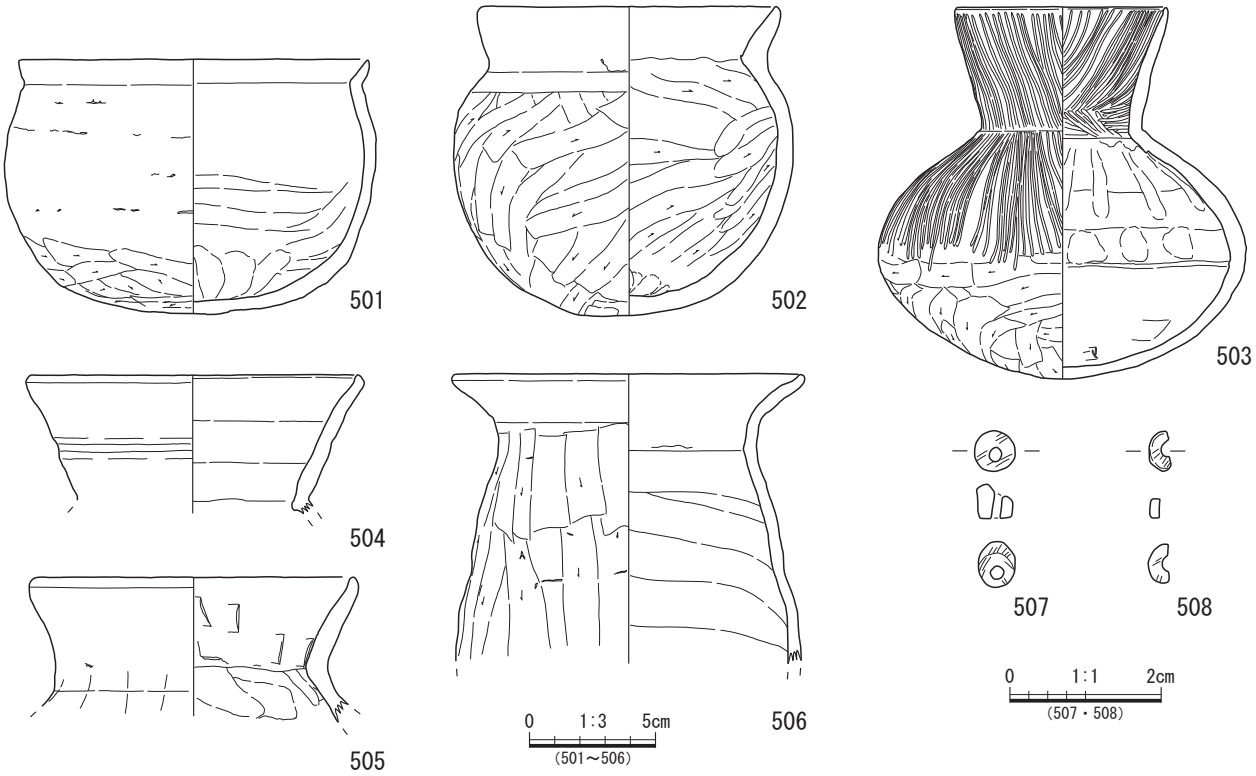
掘り方



第208図　17号竪穴建物跡　掘り方平面図



第209図　17号竪穴建物跡　出土遺物実測図（１）



第210図　17号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）

第52表　17号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第209図 PL.94	489	土師器 坏	12.6	—	5.7	外：口唇ナデ、口縁ユビオサエ、体部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、体部暗文状ミガキ	①良好　②7.5YR 7/6 ③砂、小礫	完形	
第209図 PL.94	490	土師器 坏	12.6	—	4.9	外：口縁ナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、体部暗文状ミガキ、ヘラ調整	①良好　②5YR 6/6 ③砂、小礫	完形	
第209図 PL.94	491	土師器 坏	13.4	—	4.8	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体～底部ヘラケズリ 内：体部暗文状ミガキ、ヘラ調整	①良好　②5YR 7/8 ③砂、小礫	ほぼ完形	
第209図 PL.94	492	土師器 坏	16.0	—	6.4	外：口縁ナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、体部暗文状ミガキ、ヘラ調整	①良好　②2.5YR 6/6 ③砂、小礫	ほぼ完形	
第209図 PL.94	493	土師器 坏	12.0	—	5.2	外：口縁ナデ、体～底部ヘラミガキ 内：口縁ナデ、体部暗文状ミガキ	①良好　②2.5YR 6/6 ③砂、小礫	完形	
第209図 PL.94	494	土師器 坏	12.0	—	5.8	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体～底部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、体部暗文状ミガキ	①良好　②2.5YR 6/6 ③砂、小礫	ほぼ完形	
第209図 PL.94	495	土師器 坏	【12.4】	—	5.0	外：口縁ナデ、体～底部ヘラケズリ 内：口縁～体部暗文状ミガキ(反時計回り)、ヘラナデ。	①良好　②5YR 6/6 ③小礫	1/4	
第209図 PL.94	496	土師器 坏	12.0	—	4.7	外：口縁～体部上半ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、体部暗文状ミガキ、底部ヘラ調整	①良好　②2.5YR 6/6 ③石英、砂、小礫	ほぼ完形	
第209図 PL.94	497	土師器 坏	12.0	—	4.8	外：口縁ナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、体部暗文状ミガキ、底部ヘラ調整	①良好　②5YR 5/4 ③砂、小礫	ほぼ完形	
第209図 PL.94	498	土師器 坏	10.0	—	6.1	外：口縁～体部上半ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ 内：口縁ナデ、体部暗文状ミガキ、底部にヘラ状工具痕。口縁付近の斑状剥離が顕著。	①良好　②7.5YR 3/1 ③砂、小礫	完形	内黒処理
第209図 PL.94	499	土師器 高坏	【14.4】	—	(4.8)	外：口縁～体部ナデ、体部～脚接合部ヘラケズリ 内：口縁～体部ナデ、暗文状ミガキ。底部はユビナデ、ユビオサエ	①良好　②2.5YR 6/6 ③小礫	坏部 1/2	
第209図 PL.94	500	土師器 高坏	—	12.0	(5.8)	外：ヘラ調整 内：ユビナデ	①良好　②5YR 5/4 ③輝石、砂	脚部	
第210図 PL.94	501	土師器 坏	【13.9】	—	10.1	外：口縁ナデ、底部ヘラケズリ。体部に粘土紐成形痕 内：口縁～体部ナデ、底部ヘラナデ	①良好　②5YR 6/8 ③石英、輝石、小礫	約1/2	
第210図 PL.94	502	土師器 小型甕	12.0	—	12.3	外：口縁ナデ、頸部以下ヘラケズリ 内：口縁ナデ、胴部上半ヘラケズリ、下半ナデ	①良好　②5YR 6/6 ③砂、小礫	ほぼ完形	
第210図 PL.94	503	土師器 小型丸底壺	8.4	—	14.8	外：やや外反するが直立ぎみの口縁にヨコナデ後、斜位の暗文状ミガキ。胴部は算盤玉状を呈し、最大径は胴部中央にある。口縁部から連続する暗文状ミガキは胴の最大径まで施され、以下はヘラケズリ。 内：口縁ヨコナデ後、頸部まで斜位暗文状ミガキ。頸部と胴部の接合部には粘土塊が付着。頸部から胴部最大径までユビオサエ、最大径付近の段以下ナデ。	①良好 ②5YR 6/6 ③よく洗練された土。砂が混入する	ほぼ完形	
第210図 PL.94	504	土師器 甕	13.0	—	(5.6)	外：口縁ナデ。口縁部中位に沈線 内：口縁ナデ	①良好　②5YR 5/8 ③石英、砂	口縁部	
第210図 PL.94	505	土師器 甕	【12.6】	—	(5.1)	外：口縁ナデ 内：口縁ナデ、頸部ユビオサエ、ユビナデ	①良好　②5YR 6/4 ③小礫	口縁部 破片	
第210図 PL.94	506	土師器 甕	14.0	—	(11.5)	外：口縁ナデ、頸部以下ヘラナデ。粘土紐成形痕も明瞭 内：ヘラナデ	①良好　②5YR 5/6 ③砂、小礫	口縁～胴部 1/3	

図版	番号	種別 器種	法量(mm) 直径	孔径	厚さ	重量 (g)	材質	観察所見	備考
第210図 巻頭図版8	507	臼玉	5.1	1.8	3.6	0.1	滑石	一部破損	
第210図 巻頭図版8	508	臼玉	5.1	1.8	2.2	0.1以下	滑石	半分破損	

【18号竪穴建物跡】（596E-SI18）

位置　東区の中央付近で検出した。近世以降の復旧痕と重複し、遺構の一部を欠失する。

形状・規模　やや不整な長方形を呈する。長軸は4.9m、短軸4.0mを測る。遺構確認面から床面までの深さは0.1m未満であり、床面付近の標高は149.4m前後となる。

主軸　Ｎ－２°－Ｅ

埋土　黒褐色土を基調とし、As-Cを混入する。しまりは強く、粘性は弱い。

燃焼施設　北寄りの床面に地床炉と考えられる浅い掘り込みがある。炉内の堆積土や直近周辺には焼土が散布している。

貯蔵穴　未検出である。

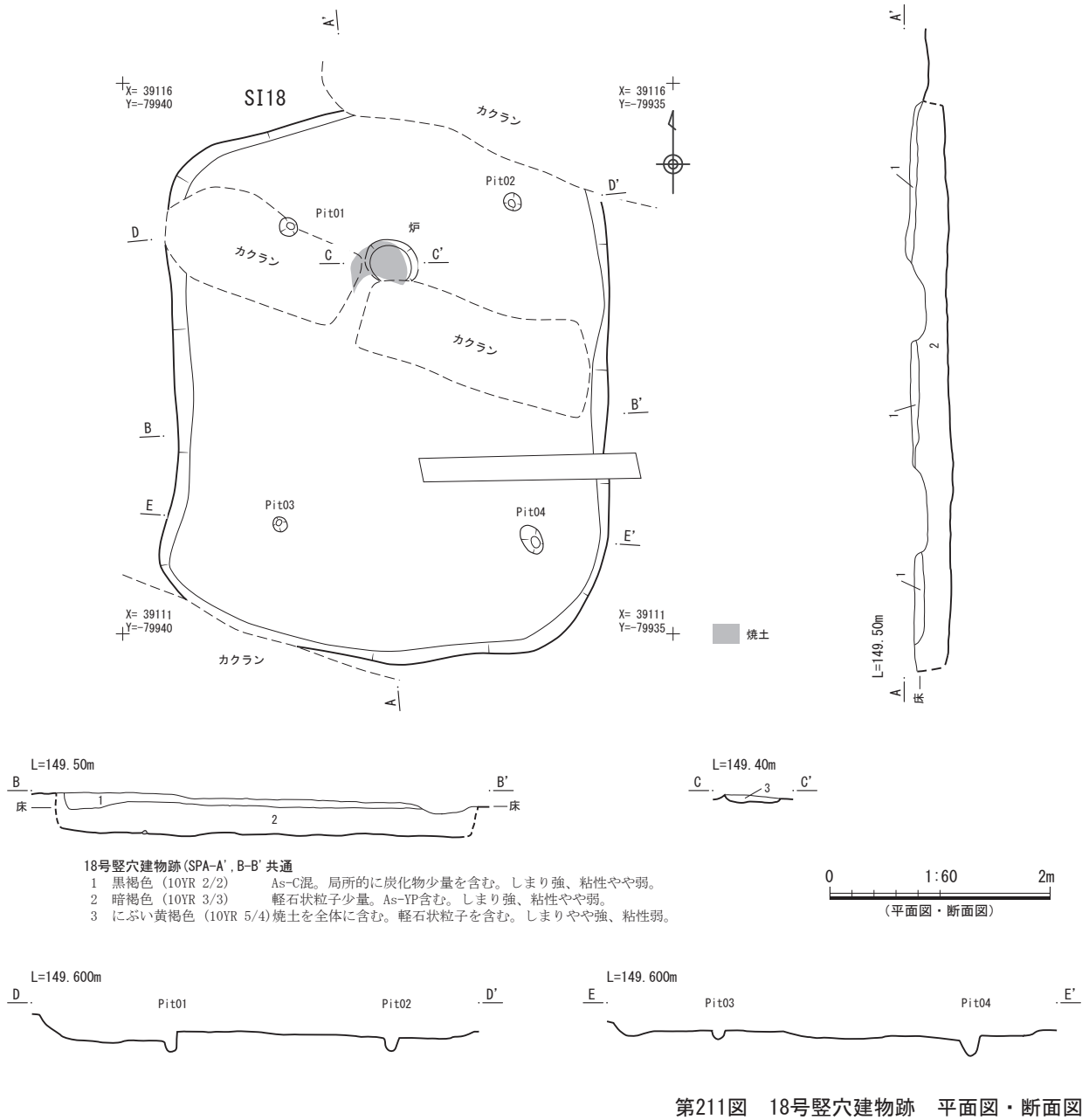
柱穴・土坑　柱穴と考えられる小穴４基を検出した。

壁周溝　未検出である。

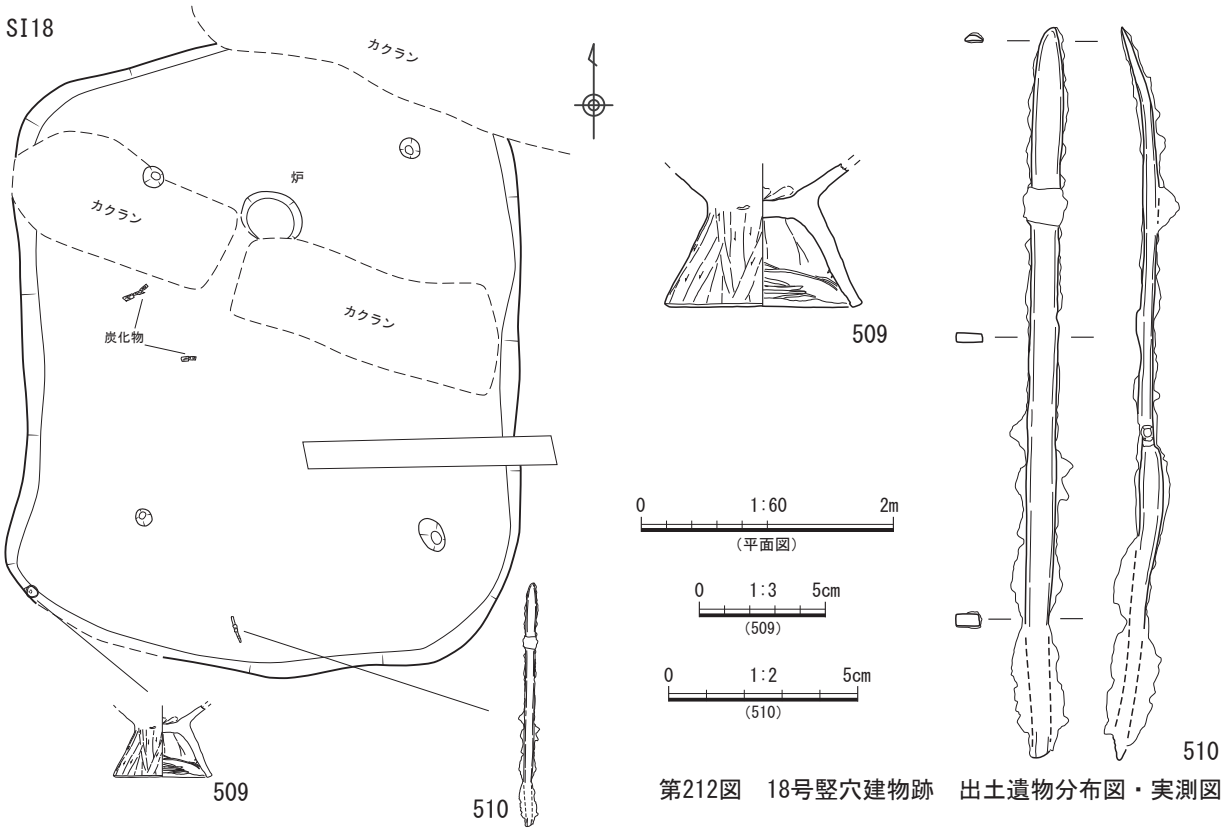
掘り方　貼床は認められず、掘り方面を床面として使用していたものと推測される。掘り方の掘削はAs-Cを含まない暗褐色土層に及ぶ。

出土遺物　古式土師器の甕や台付甕、金属製品などを出土する。

所見　遺構の残りが浅いため不明な点も多いが、これら遺構の様相や少量の出土遺物より、本遺構は古墳時代前期と推定される。



第211図　18号竪穴建物跡　平面図・断面図



第212図　18号竪穴建物跡　出土遺物分布図・実測図

第53表　18号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第212図 PL.94	509	土師器 台付甕	－	7.8	(5.7)	外：ヘラナデか 内：ヘラナデ	①良好　②10YR 7/4 ③砂	台部	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	観察所見	備考
第212図 PL.94	510	鉈	(19.3)	0.7	0.2	26.0	鉄製。切っ先が若干湾曲している	

【19号竪穴建物跡】（596E-SI19）

位置　東区の中央やや南寄りで検出した。４号墳の周溝と重複する。

形状・規模　長方形を呈する。長軸5.3m、短軸4.6mを測る。遺構確認面から床までの深さは0.7mとなり、床面付近の標高は148.7m前後となる。

主軸　Ｎ－24°－Ｅ

埋土　黒色や黒褐色土を基調とし、As-Cや黄褐色ローム粒子が混入する。遺構壁際の床面付近の堆積土にAs-Cが混入しない層が看取されるが、堆積土層中にAs-Cの一次堆積層はないため、本遺構はAs-C降下後の構築と推定される。しまりは強く、粘性は弱い。

燃焼施設　遺構中央やや西寄りの床面に、炉と考えられる掘り込みを検出した。炉の中央には鉛直方向に埋め込まれた状態の扁平な礫を検出した。

貯蔵穴　遺構南東隅の近くに貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。

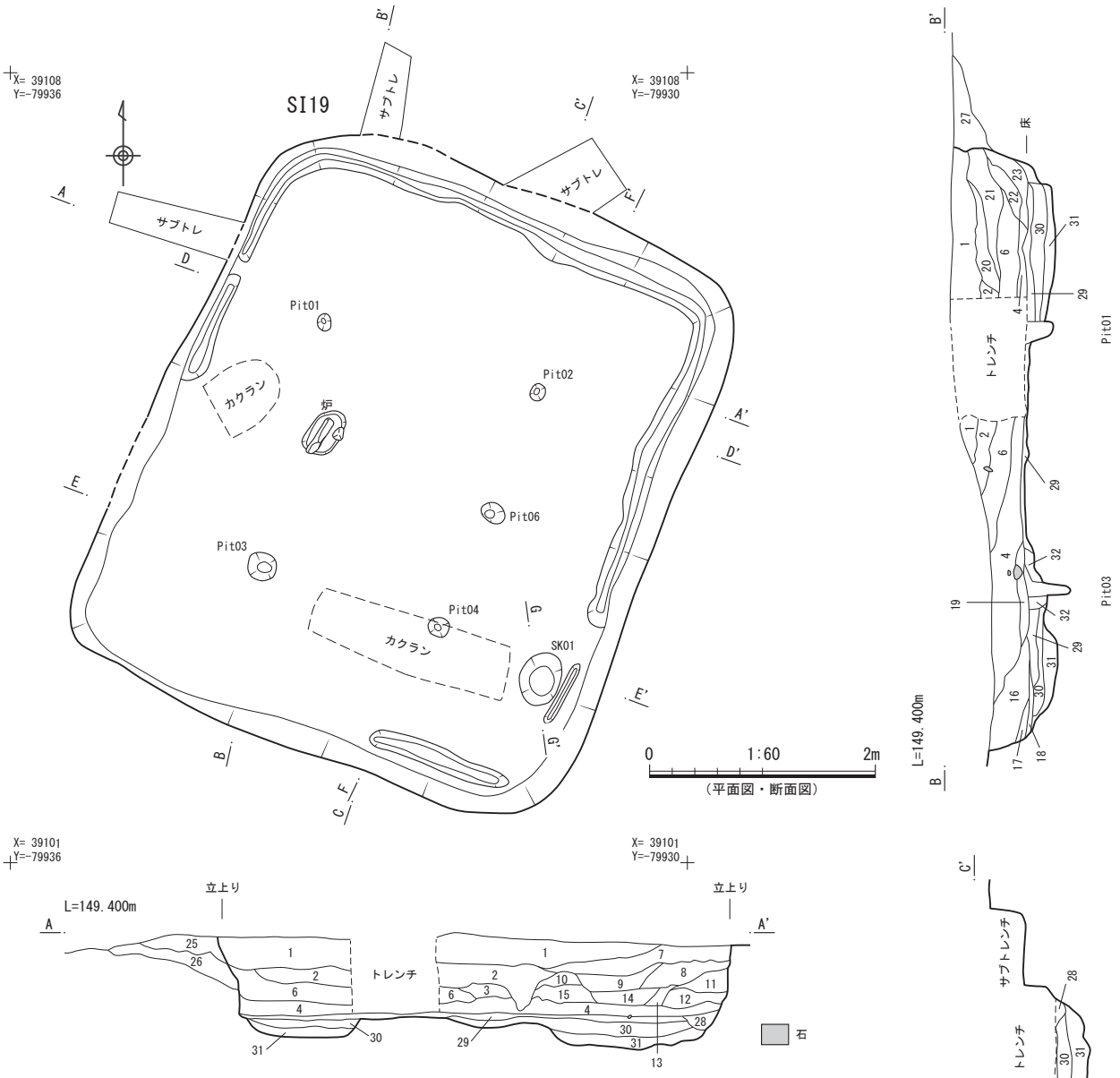
柱穴・土坑　床面において柱穴と思われる小穴ピット１～４を検出した。

壁周溝　西壁の北半分から北壁、東壁の半分ほどまで壁際の床面にて壁周溝を検出した。そのほか、貯蔵穴際でも一部検出した。

掘り方　黄褐色ローム層まで掘り込んで掘り方とする。掘り方は遺構の四壁の内側を溝状に深く掘り下げており、そのため中央部分が島状に高く掘り残される。屋根を支えた柱の柱穴が一段高く掘り残した中央部分に収まる。なお、床面では確認できなかったが、掘り方検出段階でSP02とSP04の中間に新たな柱穴SP06を検出した。

出土遺物　古式土師器台付甕や器台、高坏、坏などを中心に、鉄鏃や縄文・弥生土器などが出土している。

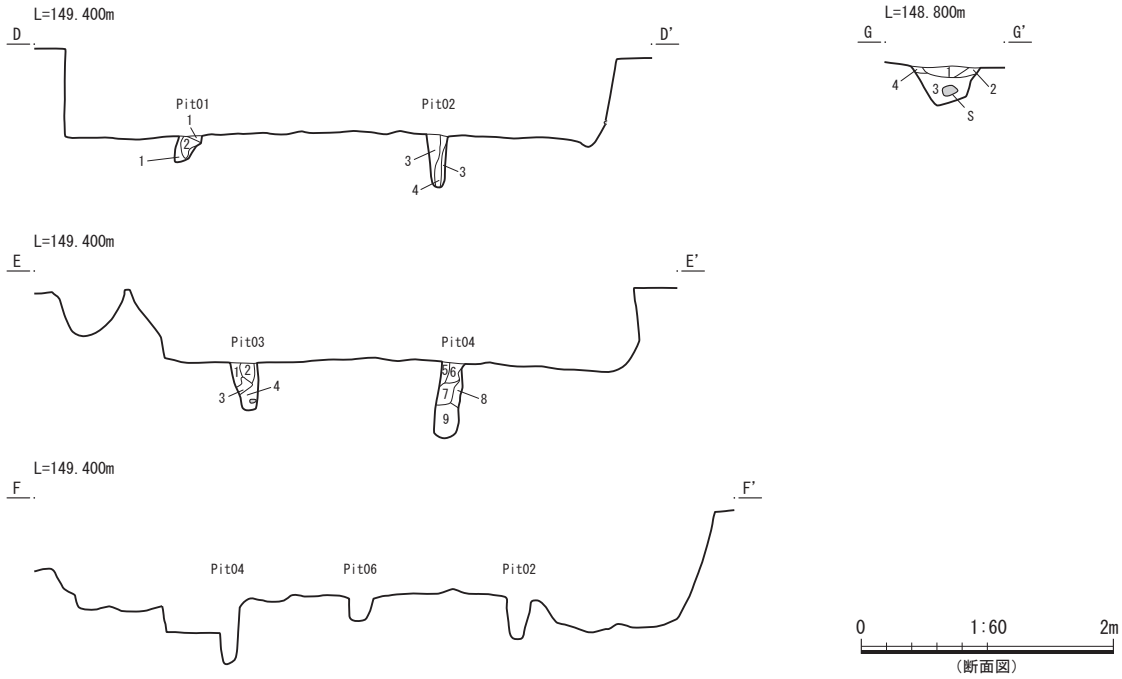
所見　出土遺物の様相から古墳時代前期と推定される。



19号竪穴建物跡(SPA-A',B-B',C-C'共通)

1	黒色（10YR 2/1）	As-C混(多量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。焼土僅かに含む。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(多量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。焼土僅かに含む。しまりやや強、粘性弱。
3	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性弱。
4	黒色（10YR 2/1）	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。炭化物少量を含む。しまり強、粘性やや弱。
5	黒色（10YR 2/1）	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや強。
6	黒色（10YR 2/1）	As-C混(やや多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。炭化物含む。しまりやや強、粘性やや弱。
7	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
8	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(やや多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
9	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(やや少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。 炭化物含む。しまりやや強、粘性やや強。
10	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(少量)。黄褐色シルト（φ1～2mm）少量。しまり強、粘性弱。
11	黒褐色（10YR 2/2）	As-Cほぼなし。As-YP少量を含む。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
12	黒褐色（10YR 3/2）	As-Cほぼなし。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
13	黒褐色（10YR 3/1）	As-Cほぼなし。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや強。
14	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。焼土微量に含む。しまりやや強、粘性やや弱。
15	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。 しまり強、粘性やや弱。
16	黒褐色（10YR 2/2）	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
17	黒色（10YR 2/1）	As-Cなし。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
18	黒褐色（10YR 3/2）	As-Cなし。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量、(φ2～3cm)やや多量。貼床か。しまり強、粘性やや強。
19	黒褐色（10YR 2/2）	As-Cなし。黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。焼土(φ3～5cm)少量。炭化物含む。しまり強、粘性やや弱。
20	黒褐色（10YR 3/1）	As-C混(多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
21	黒褐色（10YR 3/2）	As-C混(やや多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
22	黒色（10YR 2/1）	As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
23	黒色（10YR 2/1）	As-Cほとんどなし。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。しまり強、粘性やや強。
24	黒褐色（10YR 2/2）	As-B、As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。カクラン。しまり強、粘性やや強。
25	黒褐色（10YR 2/2）	As-Cほとんど含まない。しまり強、粘性弱。
26	黒褐色（10YR 3/2）	As-C含まない。しまり強、粘性やや強。
27	黒褐色（10YR 3/2）	As-Cほとんど含まない。しまり強、粘性弱。
28	黒色（10YR 2/1）	壁周溝の埋土。
29	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ1～3cm)やや少量。貼床。しまり極めて強、粘性弱。
30	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、（φ2～3cm)少量。しまり強、粘性弱。
31	黒色（10YR 2/1）	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量、（φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
32	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、（φ1～2cm)やや多量。 焼土・炭化物僅かに含む。しまりやや強、粘性弱。

第213図　19号竪穴建物跡　平面図・断面図



Pit01・02(SPD-D')

1	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)多量、(φ3cm)少量。しまり強、粘性やや強。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量、(φ2～5cm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
4	暗褐色 (10YR 3/3)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや弱。

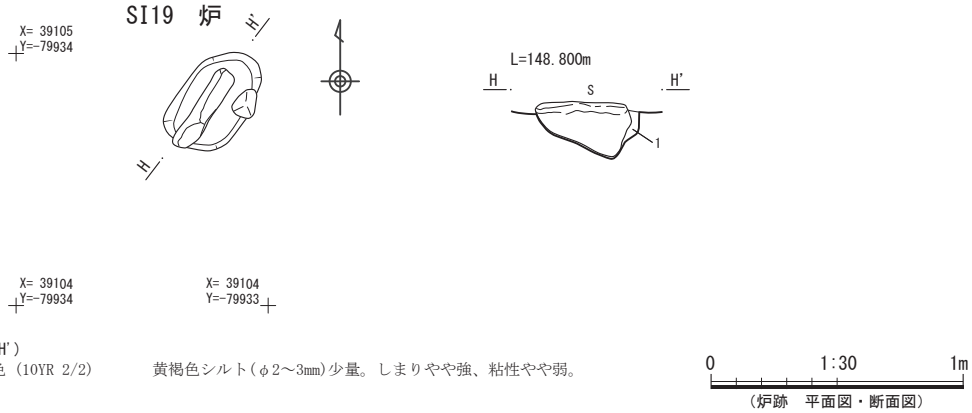
Pit03・04(SPE-E')

1	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。 焼土僅かに含む。しまり強、粘性やや強。
2	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性やや強。
4	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。 しまり強、粘性強。
5	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
6	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、 (φ2～3cm)少量。しまり強、粘性やや弱。
7	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、 (φ1～2cm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
8	明黄褐色 (10YR 6/6)	黄褐色シルト主体。しまりやや強、粘性やや強。
9	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。 しまり弱、粘性やや弱。

SK01(SPG-G')

1	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混か(少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
2	黒色 (10YR 2/1)	As-C混か(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混か(少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性やや強。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。貼床か。しまり強、粘性やや強。

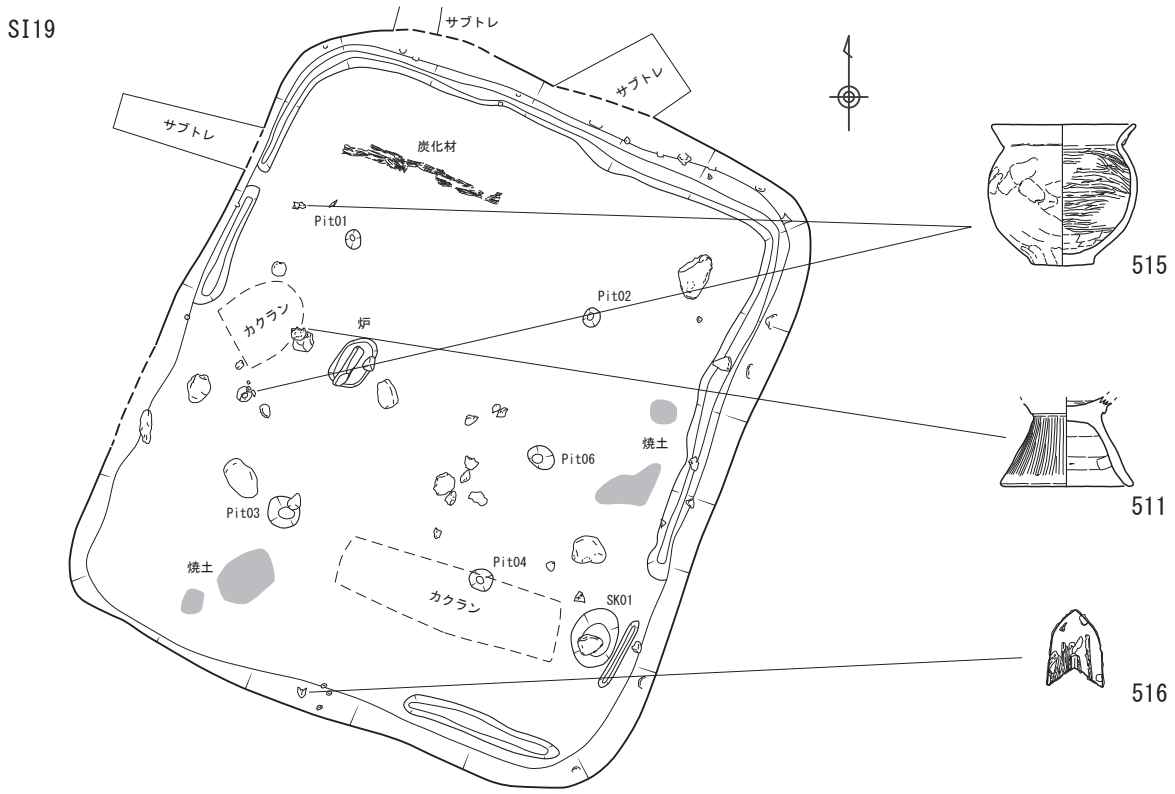
第214図　19号竪穴建物跡　ピット断面図



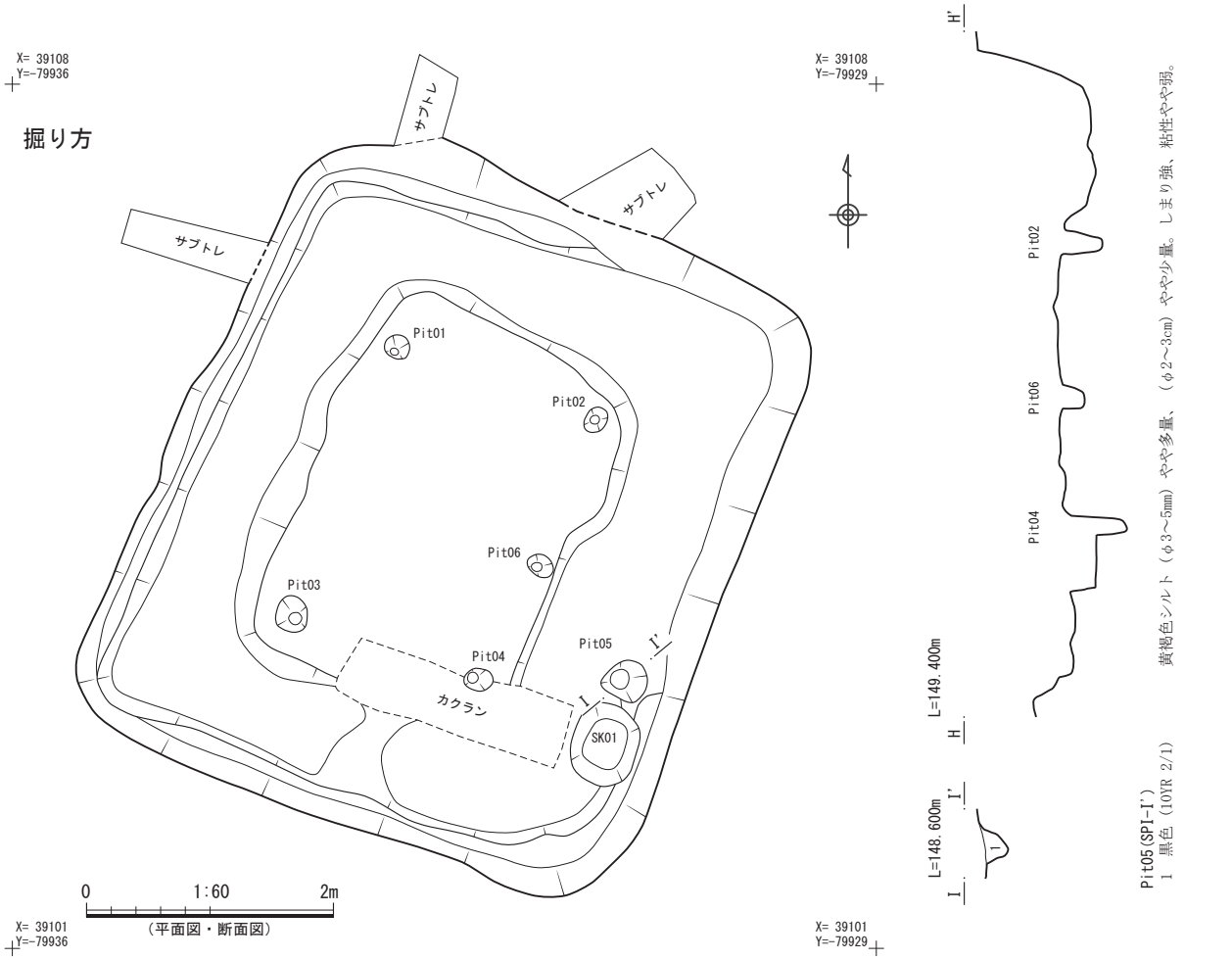
炉跡(SPH-H')

1	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。

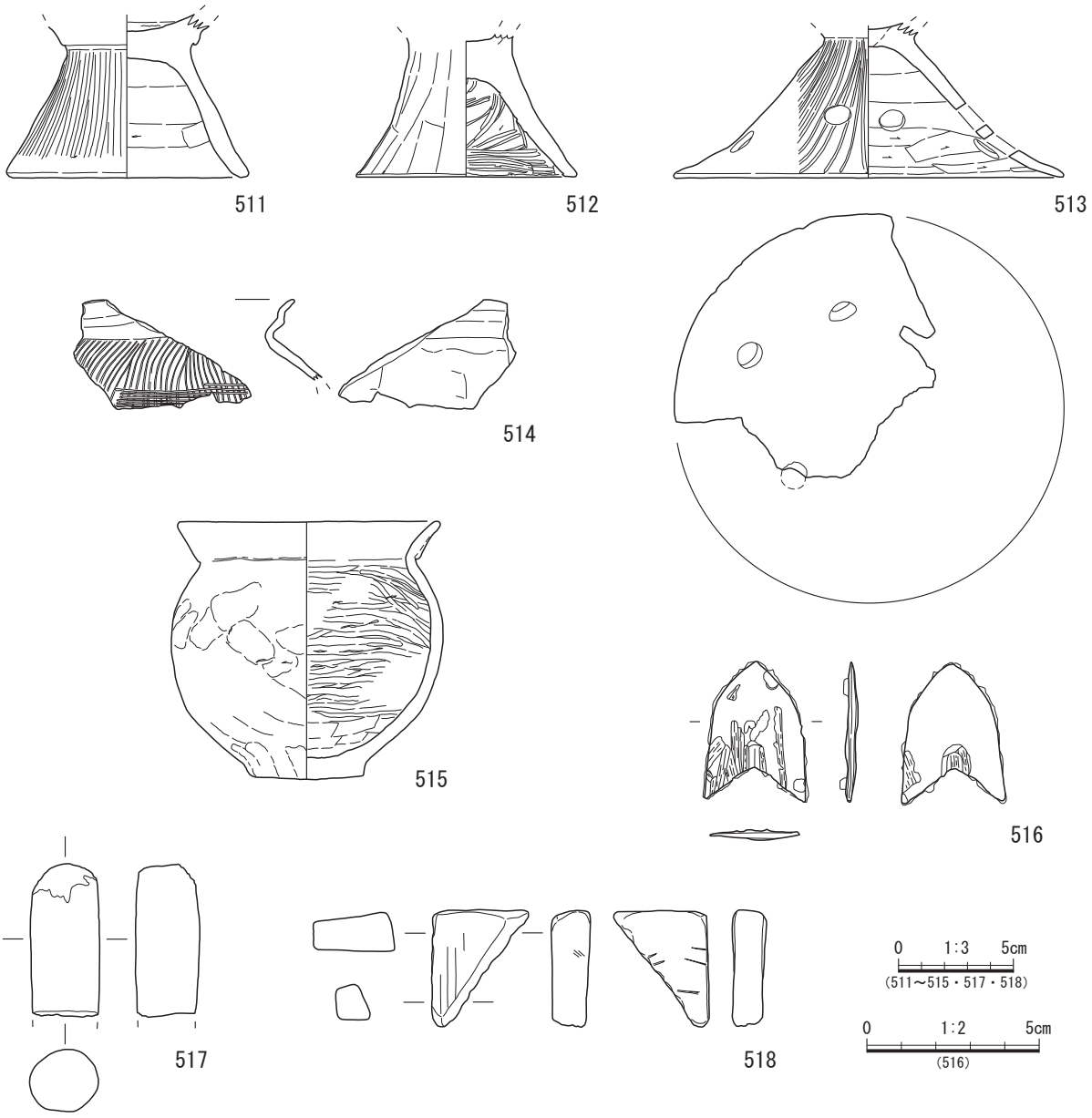
第215図　19号竪穴建物跡　炉跡平面図・断面図



第216図　19号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第217図　19号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図



第218図　19号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第54表　19号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第218図 PL.95	511	土師器 台付甕	—	10.5	(7.1)	外：台部ハケメ、端部ナデ 内：ヘラナデ	①概ね良好　②10YR 6/2 ③砂多い	台部	
第218図 PL.95	512	土師器 高坏	—	9.8	(6.2)	内外：ヘラ状工具によるナデ	①良好　②2.5Y 8/3 ③砂	脚部	
第218図 PL.95	513	土師器 高坏	—	17.0	(6.7)	外：緩やかに外反する裾部。器面は工具によるナデ。 透孔３孔穿孔 内：ヘラナデ	①良好　②10YR 7/4 ③砂、小礫	脚部 破片	
第218図 PL.95	514	土師器 台付甕	—	—	—	S字状口縁台付甕 外：口縁ナデ、頸部以下ナナメハケ 内：口縁ナデ、頸部以下未調整	①概ね良好　②10YR 5/2 ③砂	口縁部 破片	
第218図 PL.95	515	土師器 小型甕	【11.4】	5.0	11.3	外：口縁はナデ。球胴を呈する胴部は未調整 内：口縁は丁寧なナデ。頸部以下ヘラナデ。底部煤付着	①概ね良好　②10YR 6/3 ③砂、小礫	3/5	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	観察所見	備考
第218図 PL.95	516	鉄鏃	4.0	3.1	0.2	6.0	表裏面に木質残留物が残存	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第218図 PL.95	517	敲石か	(6.6)	3.0	2.7	79.2	泥岩	先端に敲打痕あり。外面が黒変色	
第218図 PL.95	518	砥石	5.1	4.1	1.6	35.0	砥沢石	三角形状。両面に擦痕あり	

【20号竪穴建物跡】（596E-SI20）

位置　東区東側のやや南寄りで検出した。２号墳の周溝と重複する。

形状・規模　正方形に極めて近い長方形を呈する。長軸4.9m、短軸4.5mを測る。２号墳の墳丘下となるが、遺構確認面から床までの深さは0.6mとなり、床面付近の標高は147.9m前後となる。

主軸　Ｎ－58°－Ｗ

埋土　黒褐色土を基調とし、多くの層にAs-Cを含む。黄褐色ロームを混入する。

燃焼施設　古墳周溝により削られているが、北壁寄りの床面で検出した、焼土が多く混入する浅い掘り込みが炉であったと考えられる。

貯蔵穴　遺構南東隅で貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。

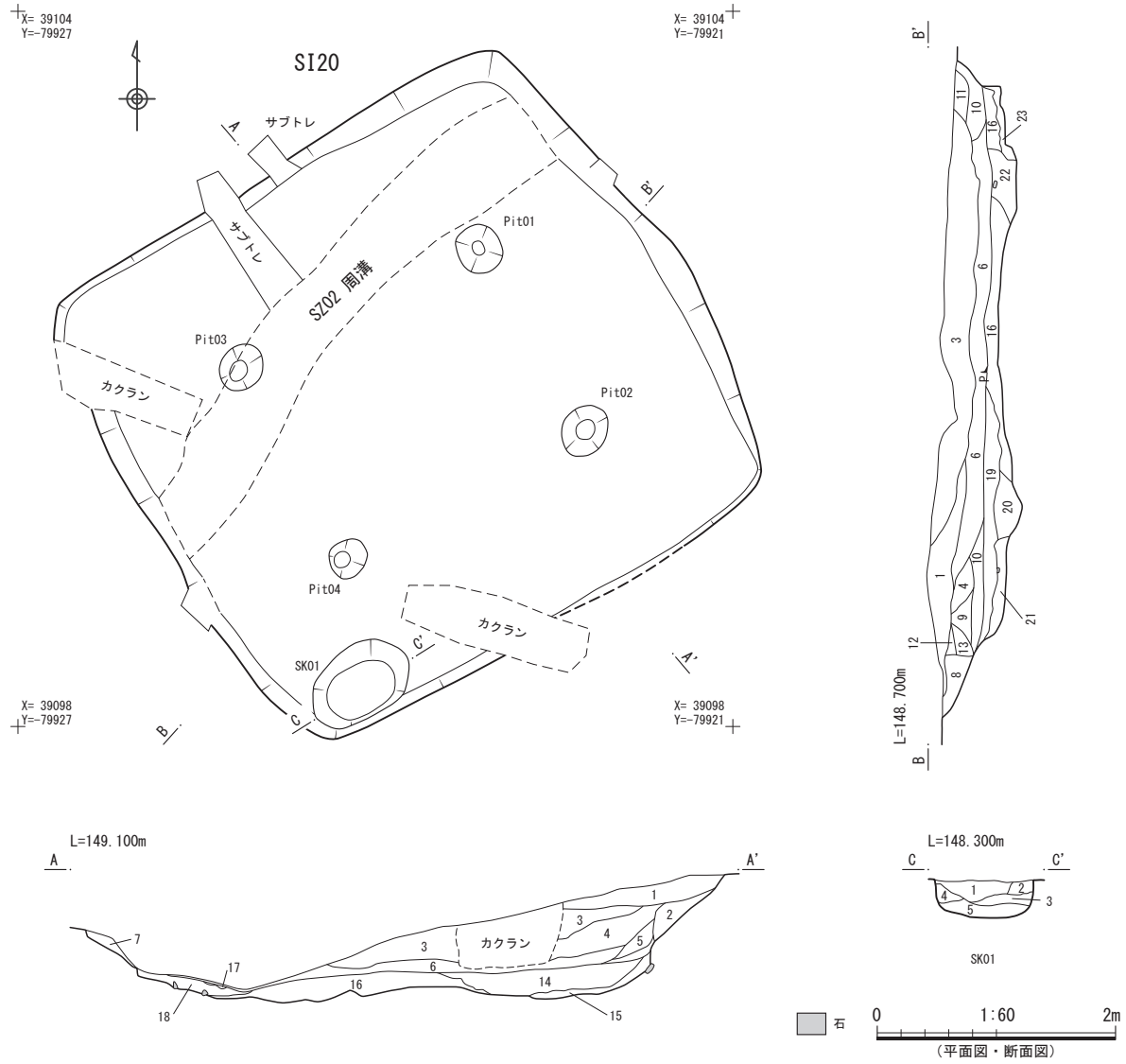
柱穴・土坑　床面においてはあまり明確には判断できなかったが、掘り方段階で柱穴と考えられるピット１～４を検出した。

壁周溝　未検出である。

掘り方　黄褐色ローム層まで掘り込み掘り方とする。遺構中央が三角形の島状に高く掘り残され、その外周が一段深くなる。

出土遺物　古式土師器の甕、器台、高坏、菰編み石などが出土した。

所見　後期円墳の下層より検出し、埋土にAs-Cを含むこと、出土した遺物の様相から古墳時代前期と考えられる。



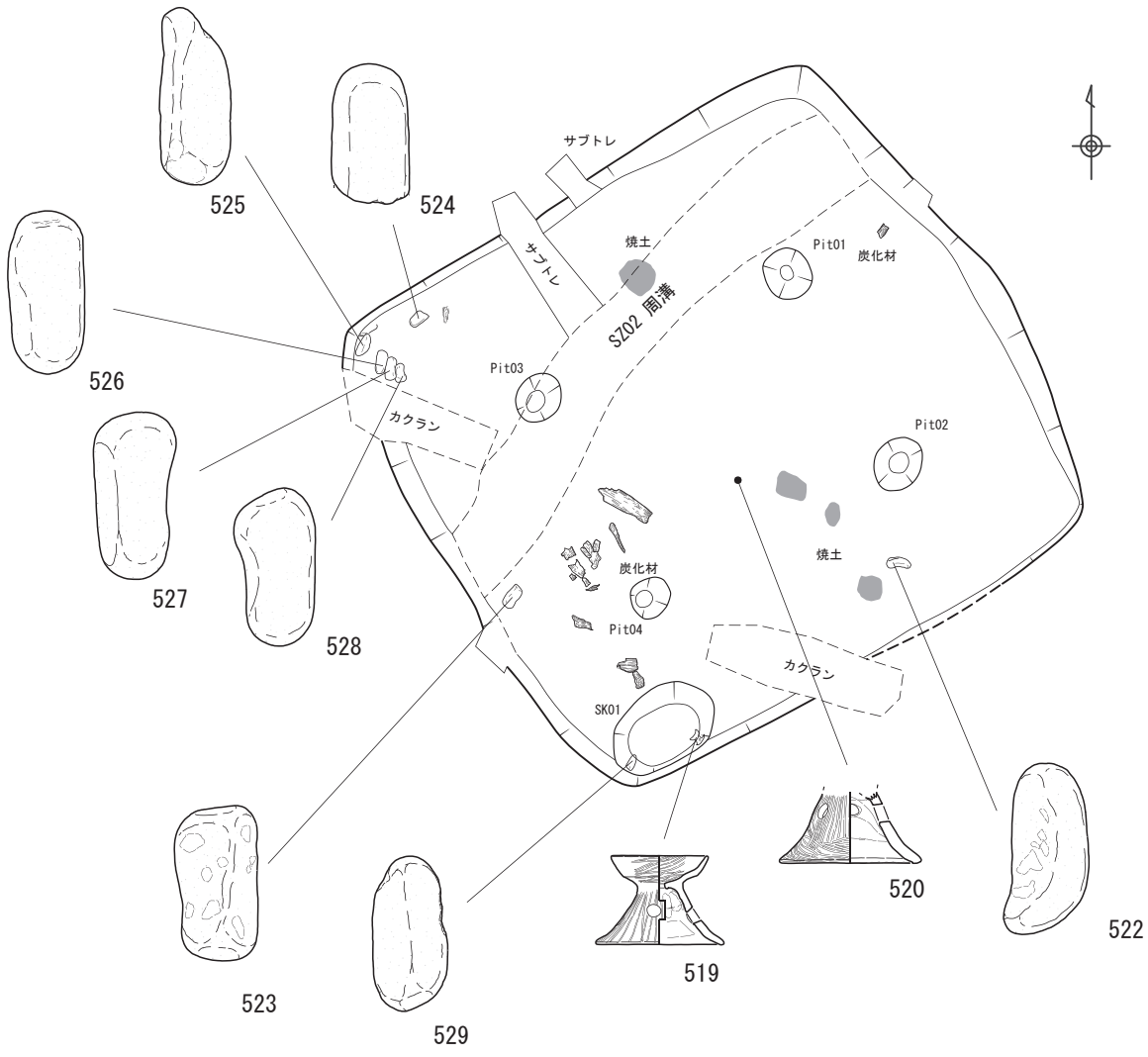
第219図　20号竪穴建物跡　平面図・断面図

20号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)

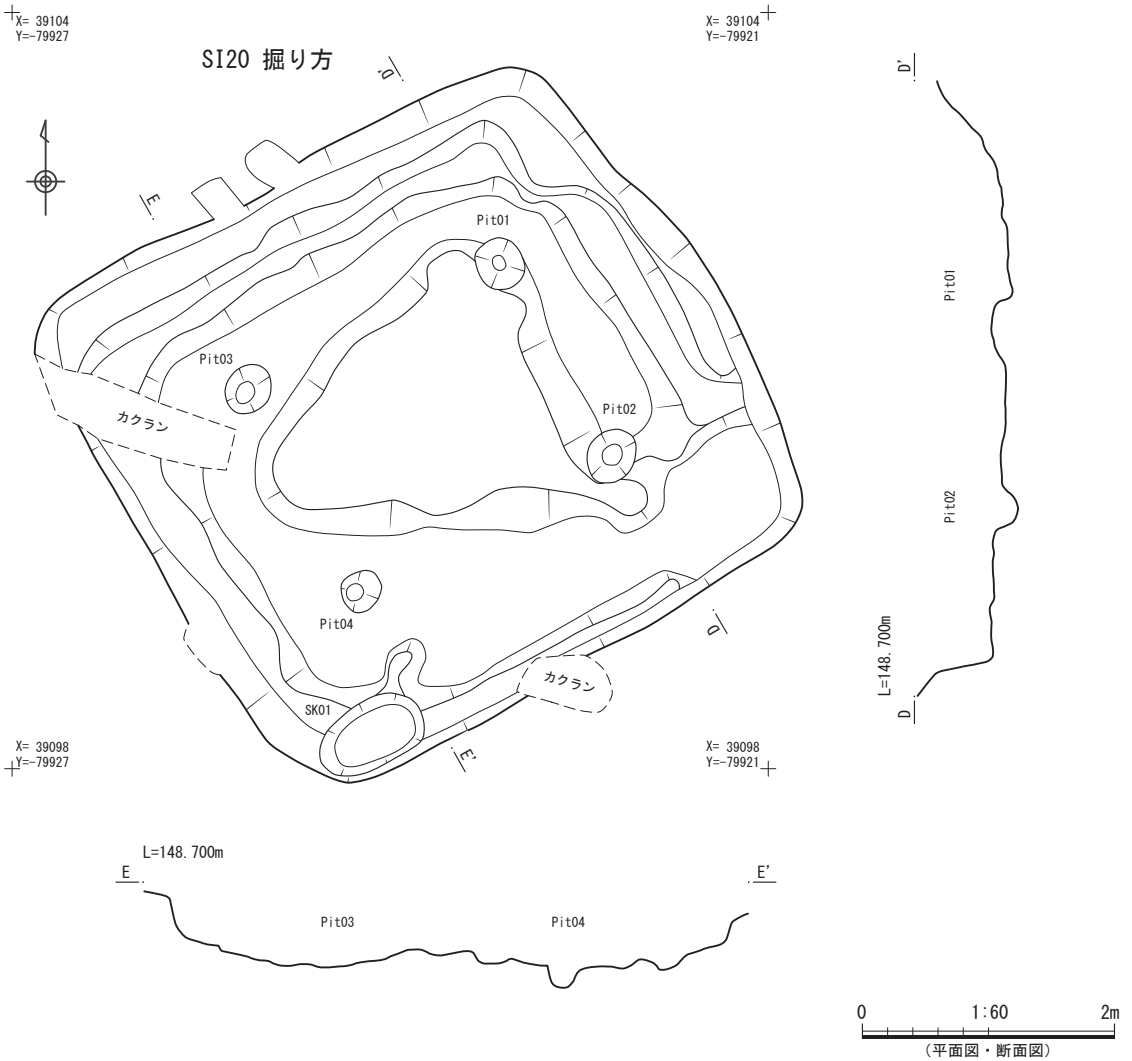
1	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)やや少量が全体的に混入。しまりやや強、粘性やや強。
2	黒色 (10YR 2/1)	As-C見られず。白色粒子(φ1～2mm)やや少量。地山か。しまり強、粘性強。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C(φ1～3mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや強。
4	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや強。
5	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C(φ1～3mm)少量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり弱、粘性やや弱。
6	暗褐色 (10YR 3/3)	白色粒子(φ1～2mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。炭化材少量を含む。しまりやや強、粘性強。
7	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	白色粒子(φ1～3mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。地山か。しまり強、粘性強。
8	褐色 (10YR 4/4)	黒色土中に黄褐色土がブロック状に混入。白色粒子(φ1～3mm)やや多量。地山か。しまりやや強、粘性やや強。
9	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C(φ1～2mm)少量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性強。
10	暗褐色 (10YR 3/3)	白色粒子(φ1～2mm)やや多量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。黄褐色土が層状に混入。炭火材がブロック状に混入。しまり強、粘性やや弱。
11	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C(φ1～3mm)やや多量。橙色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
12	黒褐色 (10YR 3/2)	白色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
13	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	黒色土中に黄褐色土のブロックが全体的に混入。白色粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
14	黒色 (10YR 2/1)	白色軽石状粒子含む。黄褐色シルト(φ2～5mm)やや少量。貼床。しまり強、粘性やや強。
15	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ1～2cm)少量。貼床。しまりやや強、粘性やや強。
16	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ5～7mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。貼床。しまり強、粘性弱。
17	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。焼土含む。炉。しまりやや弱、粘性やや弱。
18	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり弱、粘性やや弱。
19	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量、(φ2～3cm)やや少量。炭化物含む。貼床。しまり強、粘性弱。
20	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。炭化物含む。しまり強、粘性弱。
21	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや多量。しまり強、粘性弱。
22	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
23	暗褐色 (10YR 3/3)	黄褐色シルト(φ5～7cm)多量。しまり強、粘性やや弱。

SK01(SPC-C')

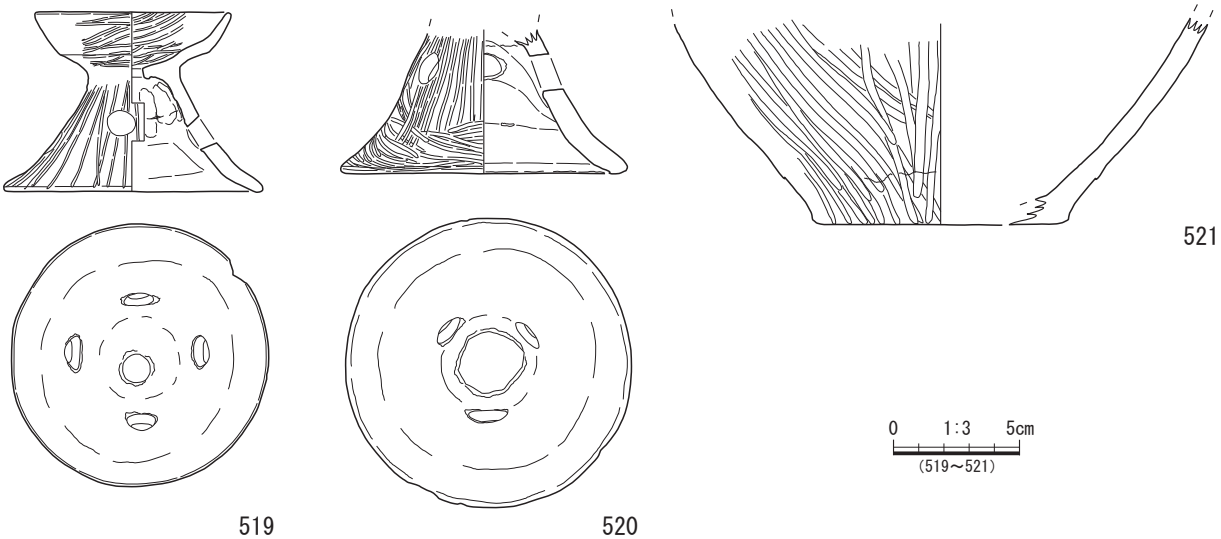
1	黒色 (10YR 2/1)	As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量、(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性強。
5	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。炭化物含む。As-YP。しまり強、粘性強。



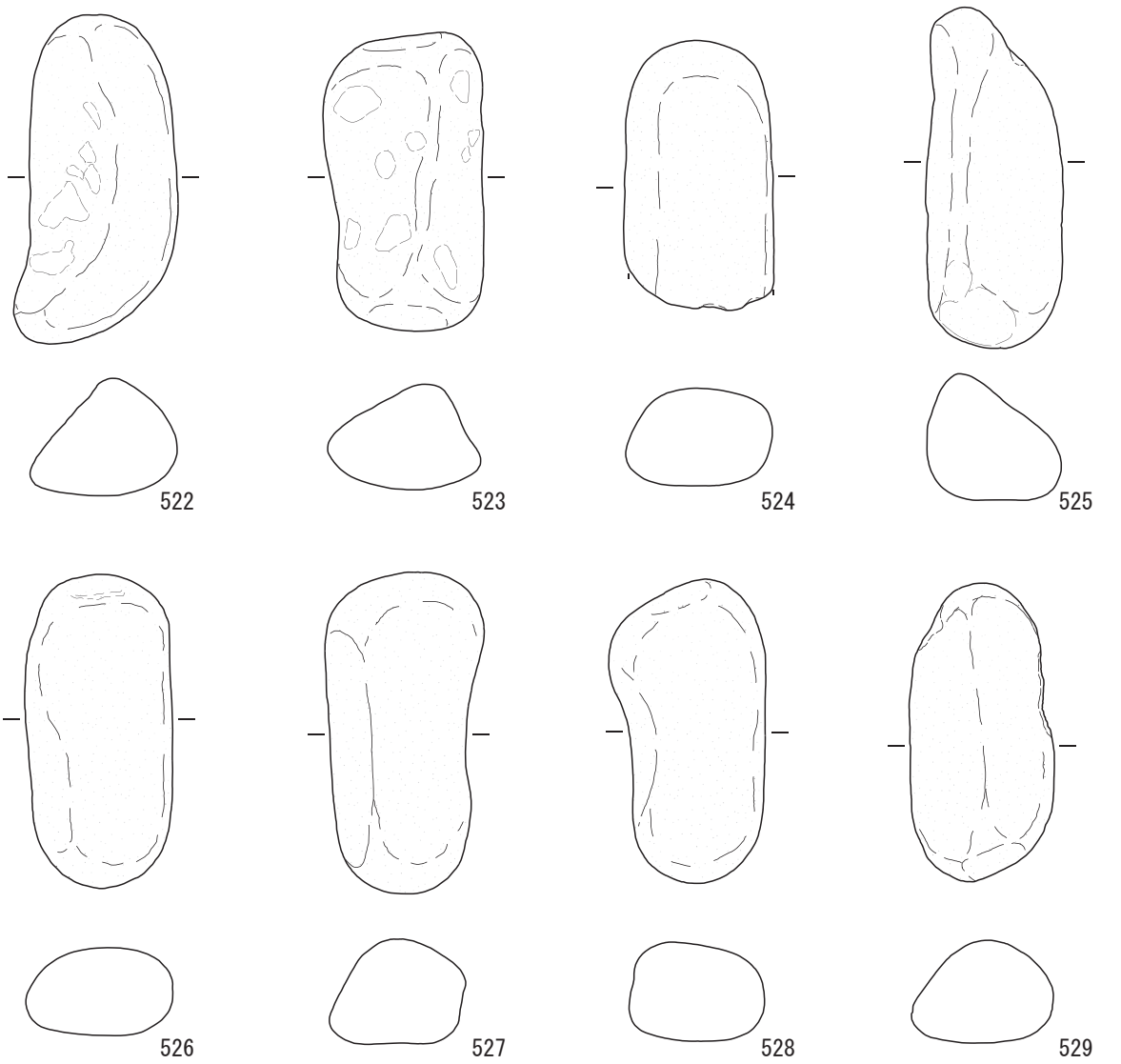
第220図　20号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第221図　20号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図



第222図　20号竪穴建物跡 出土遺物実測図（１）



第223図　20号竪穴建物跡　出土遺物実測図（２）

第55表　20号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第222図 PL.95	519	土師器 器台	7.8	10.3	7.1	外：器面全体ヘラミガキ。脚部に透孔４孔、受け部底面に１孔がそれぞれ穿孔される。 内：ナデ	①良好　②7.5YR 7/6 ③砂、小礫	4/5	
第222図 PL.95	520	土師器 器台か	—	11.4	(5.7)	外：ヘラミガキ。透孔３孔 内：裾端部ナデ、内面ヘラナデ	①良好　②7.5YR 7/6 ③砂	脚部	
第222図 PL.95	521	土師器 甕・壺	—	10.2	(8.2)	外：胴部下半ヘラミガキ。底面は剥離か未調整 内：器面全体が剥離している	①良好　②5YR 6/8 ③長石、輝石、砂、礫	底部	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第223図 PL.95	522	こも編み石	18.4	8.2	6.5	1470.0	安山岩	不整形だが平滑な面を持ち、端部には敲打痕あり	
第223図 PL.95	523	こも編み石	16.4	8.4	5.9	1444,0	安山岩	平滑な面が見られ、端部には磨り面や敲打痕あり	
第223図 PL.95	524	こも編み石	(14.9)	8.2	5.4	1263.0	輝石安山岩	片面は平滑で、端部には磨り面や敲打痕あり	
第223図 PL.95	525	こも編み石	19.0	7.6	5.9	1390.0	輝石安山岩	平滑な面を持ち、端部には敲打痕あり	
第223図 PL.95	526	こも編み石	17.4	8.1	4.9	1218.0	輝石安山岩	平滑な面を持ち、端部には敲打痕あり	
第223図 PL.95	527	こも編み石	17.8	7.7	5.8	1587.0	輝石安山岩	平滑な面を持ち、端部には敲打痕あり	
第223図 PL.95	528	こも編み石	16.9	7.2	5.4	1298.0	輝石安山岩	片面は平滑で、端部は磨り面や敲打痕あり	
第223図 PL.95	529	こも編み石	16.6	8.0	5.7	1085.0	安山岩	片面は平滑。表面の磨滅や欠けが随所にあり	

【21号竪穴建物跡】（596E-SI21）

位置　東区の中央やや南寄りで検出した。２号墳の墳丘下にあり、古墳周溝と重複する。

形状・規模　長方形を呈する。長軸5.1m、短軸4.1mを測る。遺構確認面から床までの深さは0.9mとなり、床面付近の標高は148.3m前後となる。

主軸　Ｎ－47°－Ｅ

埋土　黒色土、黒褐色土を基調とし、床面までの堆積土にAs-Cが比較的多量に混入する。

燃焼施設　焼土等は見られなかったものの、北壁寄りの床面で検出された扁平な礫が炉に使用されていた可能性が考えられる。

貯蔵穴　遺構南東隅に貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。

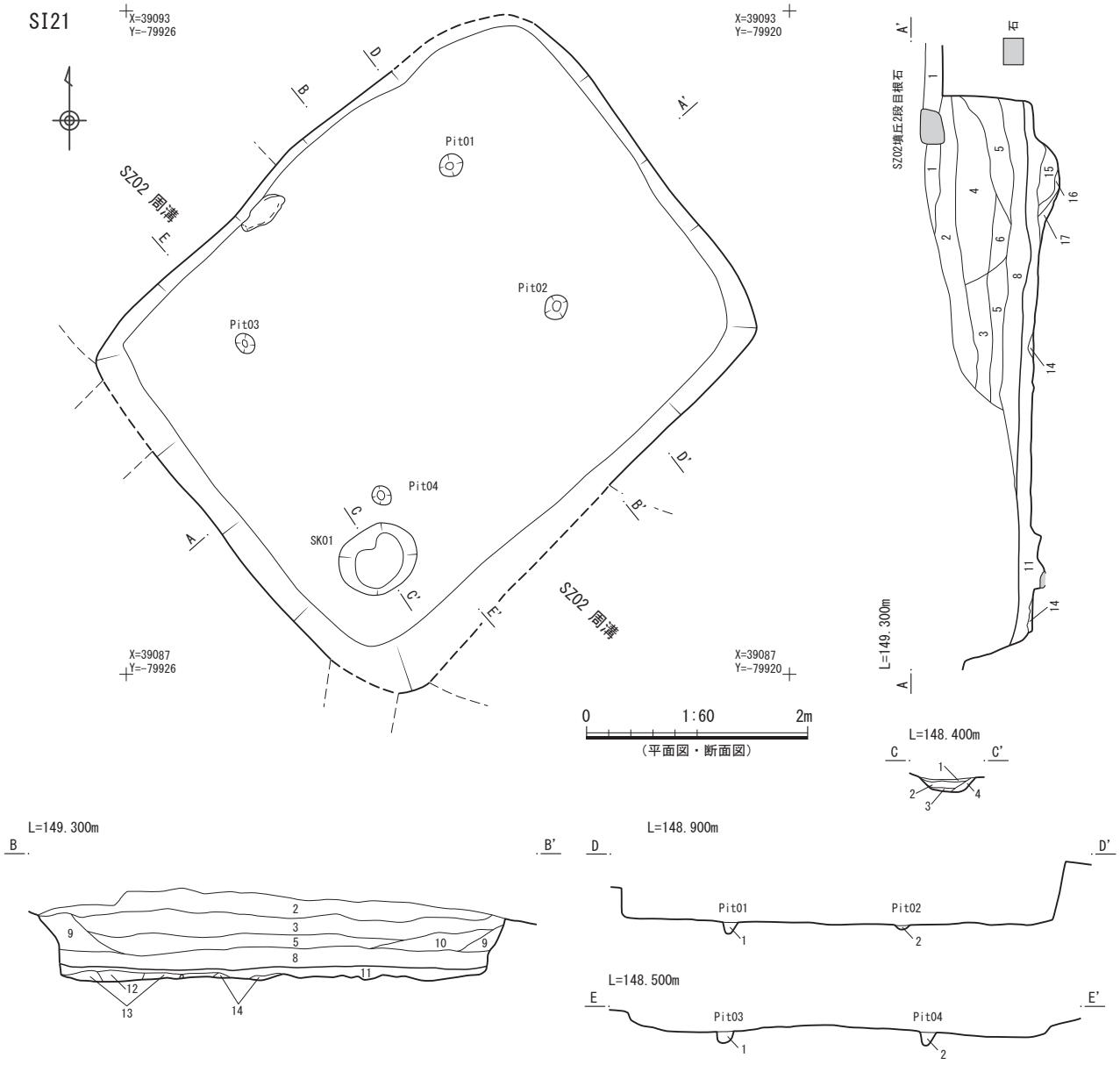
柱穴・土坑　床面において柱穴と考えられる小穴ピット１～４を検出した。

壁周溝　未検出である。

掘り方　黄褐色ローム層まで掘り込んで掘り方としている。北壁から中央へと大きく張り出すように高く掘り残し、その他三方の壁際は一段深く掘り下げている。掘り方面で小穴数基を検出した。

出土遺物　古式土師器の台付甕、坏、高坏のほか、流入遺物として縄文土器や黒曜石製石鏃、打製石斧などがある。

所見　後期円墳の下層より検出し、埋土にAs-Cを含むこと、出土した遺物の様相から古墳時代前期と考えられる。



第224図　21号竪穴建物跡　平面図・断面図

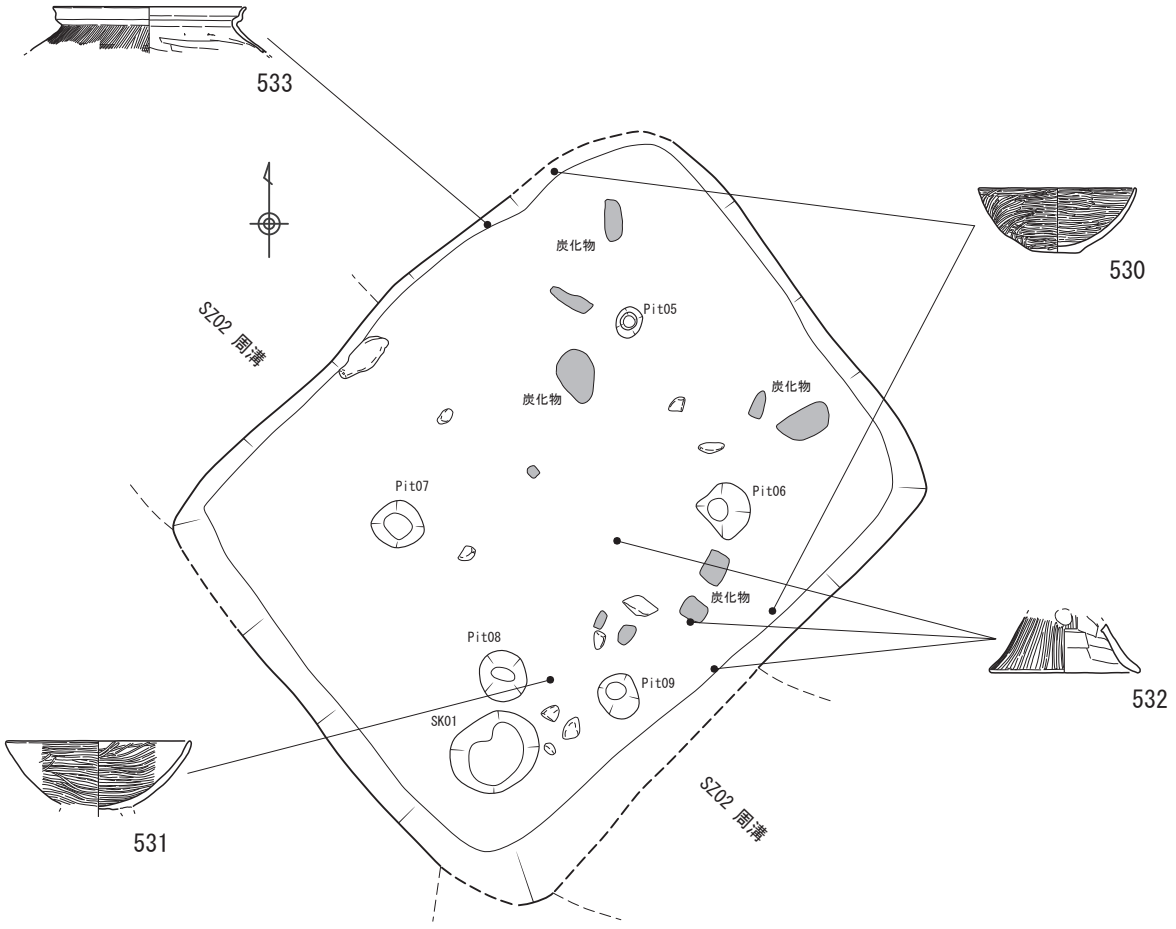
21号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)
1　灰黄褐色（10YR 4/2）　As-C(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)やや少量。 SZ02墳丘。しまり強、粘性やや強。
2　褐色（10YR 4/4）　As-C(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)やや多量。 黒色土中に赤茶色土が混入。SZ02墳丘。しまり強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　As-C(φ1～3mm)やや少量。やや粘質土。竪穴建物の埋土か。しまり強、粘性強。
4　黒色（10YR 2/1）　As-C(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)やや少量、(φ8～10mm)やや少量。竪穴建物の埋土か。しまり強、粘性やや強。
5　黒色（10YR 2/1）　As-C(φ1～2mm)多量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。埋土。しまりやや強、粘性強。
6　黒褐色（10YR 2/2）　As-C(φ1～3mm)やや多量、(φ4～7mm)やや少量。橙色粒子(φ1～3mm)少量。ややシルト質。埋土。しまりやや弱、粘性やや弱。
7　黒褐色（10YR 3/1）　As-C(φ1～3mm)多量、(φ4～7mm)やや多量。埋土。しまり強、粘性やや強。
8　黒褐色（10YR 3/2）　As-C(φ1～3mm)多量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。局所的に炭化材を含む。埋土。しまり弱、粘性弱。
9　にぶい黄褐色（10YR 4/3）As-C(φ1～3mm)やや少量、(φ4～7mm)やや少量。埋土。しまりやや弱、粘性弱。
10　灰黄褐色（10YR 4/2）　As-C(φ1～3mm)やや多量、(φ8～10mm)少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。埋土。しまりやや強、粘性やや弱。
11　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。貼床。しまり強、粘性やや弱。
12　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。焼土少量を含む。しまり強、粘性やや弱。
13　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや多量。しまり強、粘性弱。
14　黄褐色（10YR 5/6）　黄褐色シルト主体の地山。しまりやや強、粘性やや弱。
15　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ3～5cm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
16　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
17　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ5～7mm) 多量。しまり強、粘性やや強。

21号竪穴建物跡(SPC-C')
1　黒褐色（10YR 3/1）　白色粒子(φ1～2mm)少量。橙色粒子(φ1～3mm)やや少量。粘質土。しまりやや弱、粘性強。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　粘質土。しまりやや強、粘性強。
3　にぶい黄褐色（10YR 5/3）粘質土。2層目よりやや硬い。しまりやや強、粘性強。
4　灰黄褐色（10YR 6/2）　地山。しまり強、粘性やや弱。

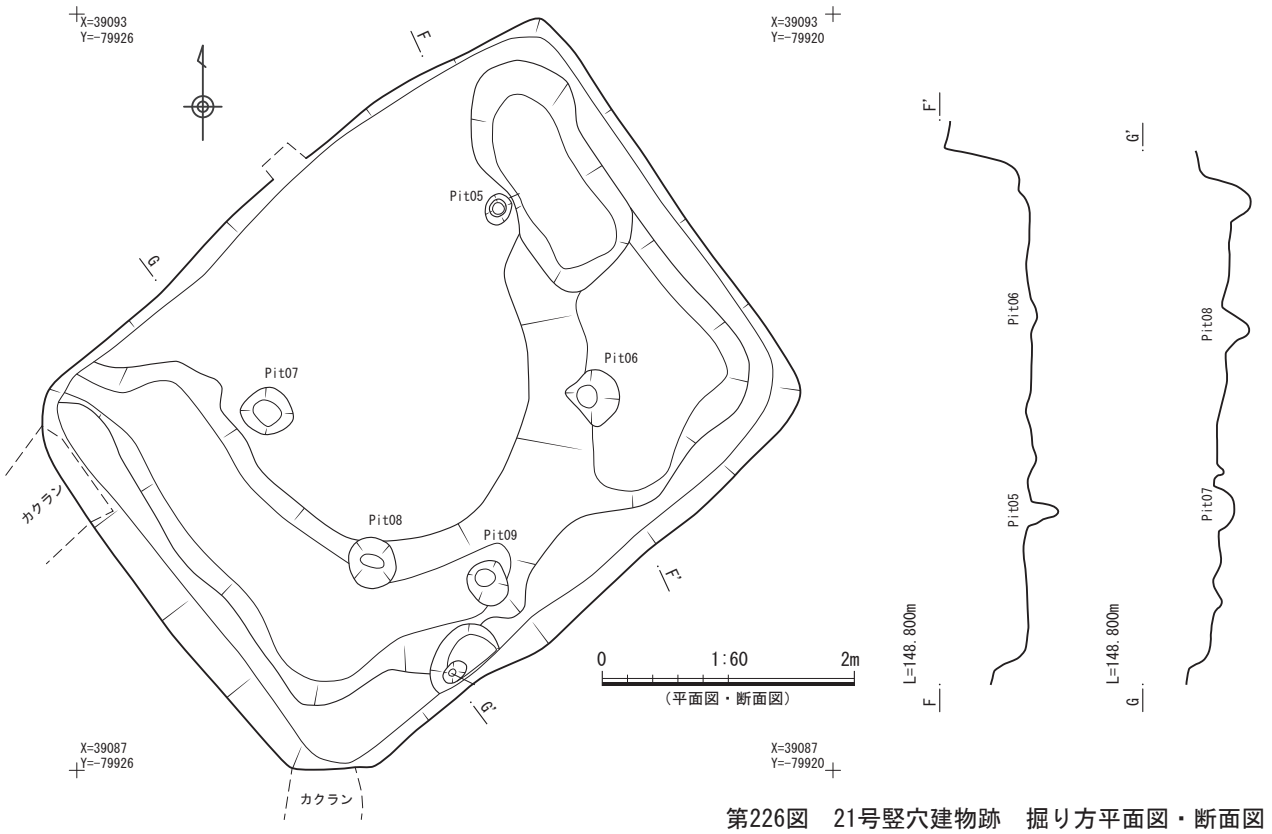
Pit01・02(SPD-D')
1　にぶい黄褐色（10YR 4/3）黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性弱。

Pit03・04(SPE-E')
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。

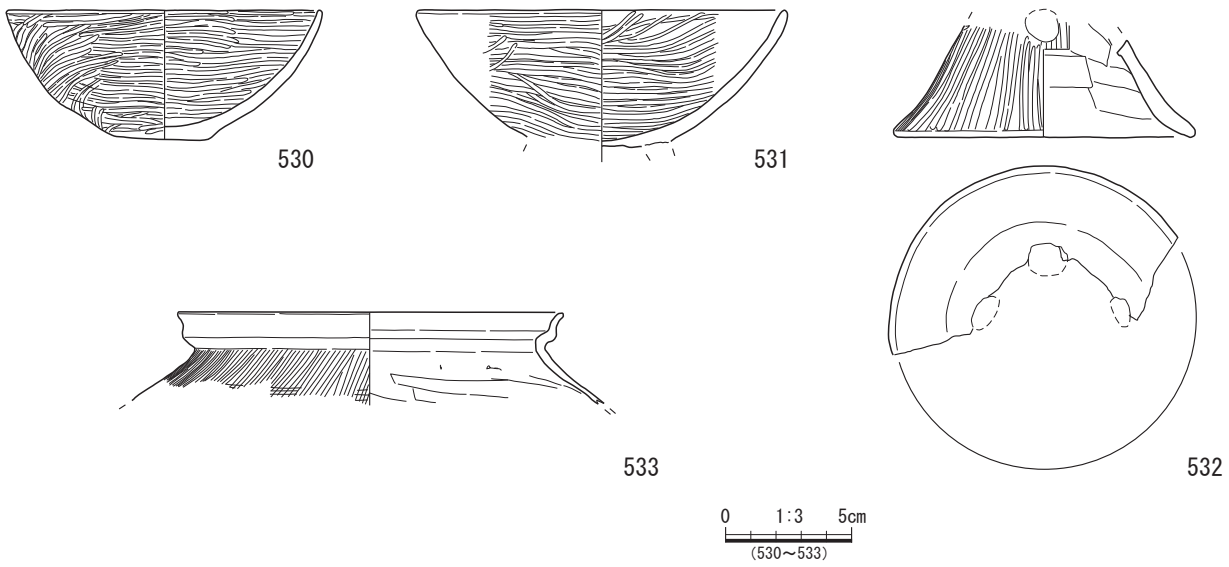
SI21



第225図　21号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第226図　21号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図



第227図　21号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第56表　21号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第227図 PL.96	530	土師器 坏	12.6	3.8	5.1	外：丁寧なヘラミガキ 内：丁寧なヘラミガキ。斑状の赤変色あり	①概ね良好　②7.5YR 6/6 ③砂	3/4	
第227図 PL.96	531	土師器 高坏	14.8	—	(5.4)	外：ヘラミガキ。口縁ナデ 内：ヘラミガキ	①良好　②2.5YR 8/2 ③砂	坏部	
第227図 PL.96	532	土師器 高坏	—	12.0	4.6	外：ヘラミガキ、透かし３孔 内：工具ナデ	①良好　②7.5YR 7/6 ③砂	脚部 破片	
第227図 PL.96	533	土師器 台付甕	15.2	—	3.6	S字状口縁台付甕 外：口縁ナデ、頸部以下ナナメハケ 内：口縁ナデ、頸部以下未調整	①良好　②10YR 5/2 ③長石、砂	口縁部	

【22号竪穴建物跡】（596E-SI22）

位置　東区の中央やや南寄りで検出した。遺構の南端は４号墳の墳丘下にあり、中央から北側が古墳周溝と重複する。

形状・規模　長方形を呈する。長軸5.1m、短軸4.0mを測る。４号墳の墳丘下となるが、遺構確認面から床までの深さは0.5mとなり、床面付近の標高は149.2m前後となる。

主軸　Ｎ－29°－Ｅ

埋土　黒褐色土を基調とし、As-C、黄褐色ロームを混入する。

燃焼施設　未検出

貯蔵穴　Pit04、05が該当する可能性あり

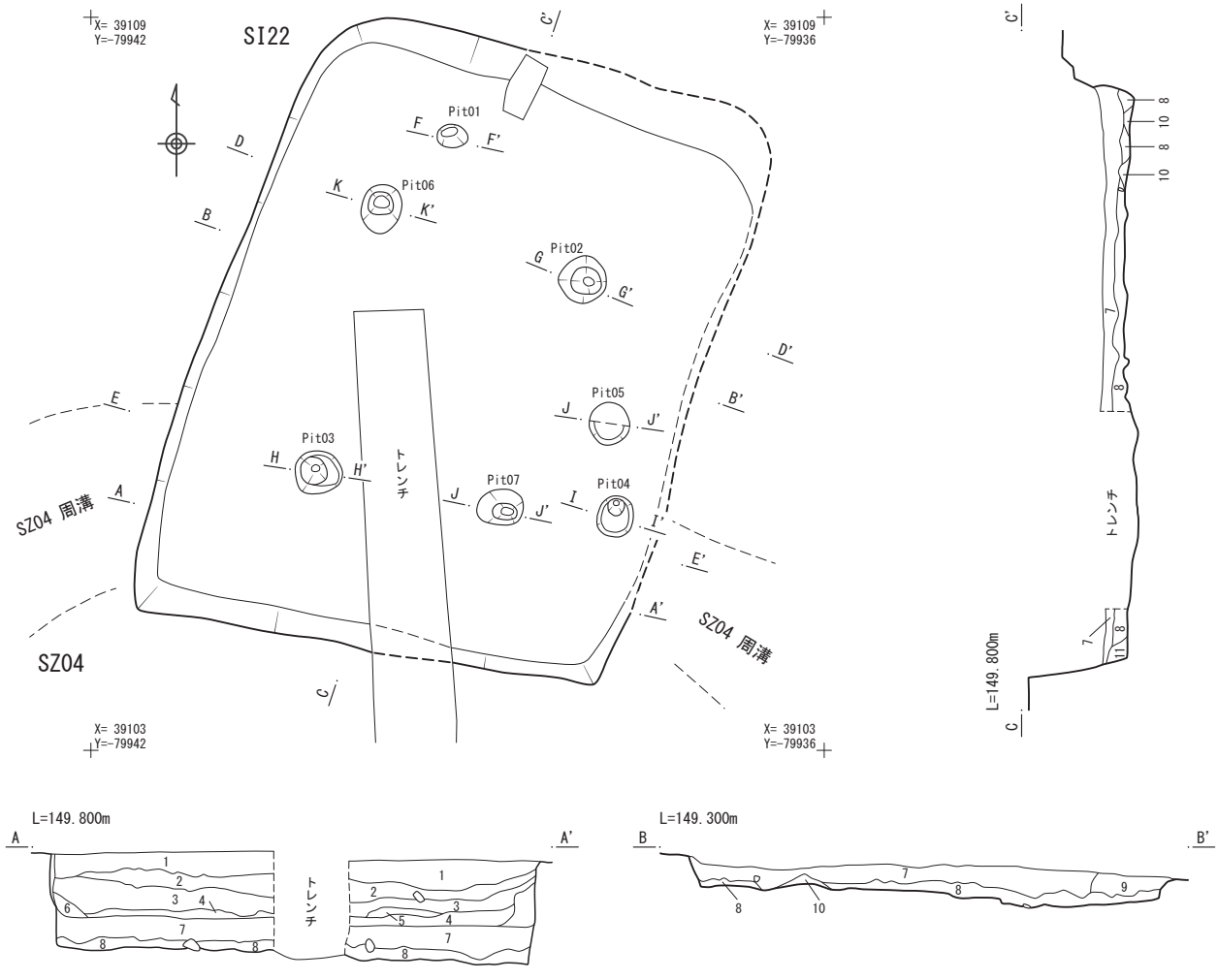
柱穴・土坑　柱穴はピット２、３、６、７の４基である。

壁周溝　未検出

掘り方　黄褐色ローム層まで掘り込んで掘り方とする。顕著な高低差は認められないものの、遺構中央がわずかに高く掘り残され、壁際がやや低くなる傾向が看取される。

出土遺物　古式土師器の高坏や壺類を中心に、台付甕片などが出土している。

所見　後期円墳の下層より検出し、埋土にAs-Cを含むこと、出土した遺物の様相から古墳時代前期と考えられる。

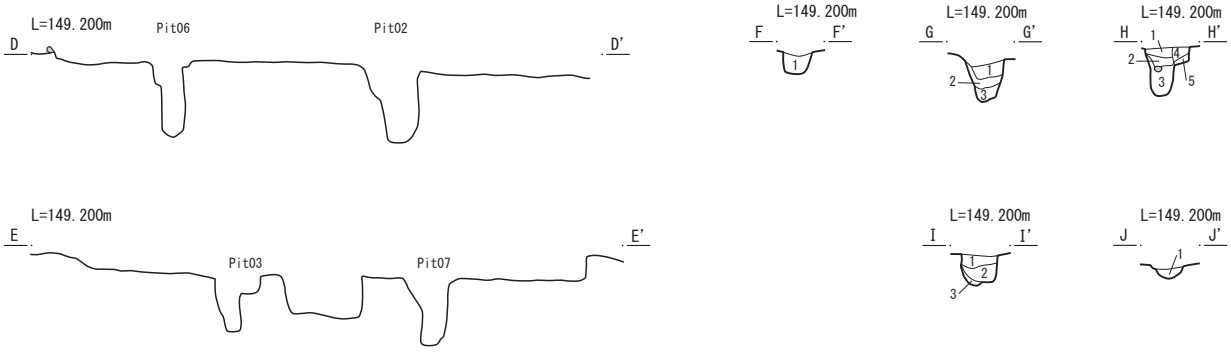


22号竪穴建物跡(SPA-A',B-B',C-C'共通)

1	黒色（10YR 2/1）	As-C(多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり極めて強、粘性弱。
2	黒褐色（10YR 2/2）	As-C(多量)。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。炭化物少量。しまり強、粘性やや弱。
3	黒色（10YR 2/1）	As-C(やや多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
4	黒褐色（10YR 3/1）	As-C(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
5	黒褐色（10YR 3/2）	As-C(微量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。焼土僅かに含む。しまり強、粘性やや弱。
6	黒褐色（10YR 2/2）	As-C(少量)。黄褐色シルトほとんどなし。しまり強、粘性やや弱。
7	黒褐色（10YR 2/2）	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。As-YP含む。貼床か。しまり極めて強、粘性弱。
8	暗褐色（10YR 3/3）	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)多量。As-YP含む。貼床か。しまり極めて強、粘性やや弱。

0　1:60　2m
（平面図・断面図）

第228図　22号竪穴建物跡　平面図・断面図



Pit01(SPF-F')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3cm)少量。しまりやや強、粘性やや強。

Pit02(SPG-G')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～5mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～2cm)やや多量。しまり強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5cm)多量。しまりやや強、粘性やや強。

Pit03(SPH-H')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
5　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。地山。しまり強、粘性やや強。

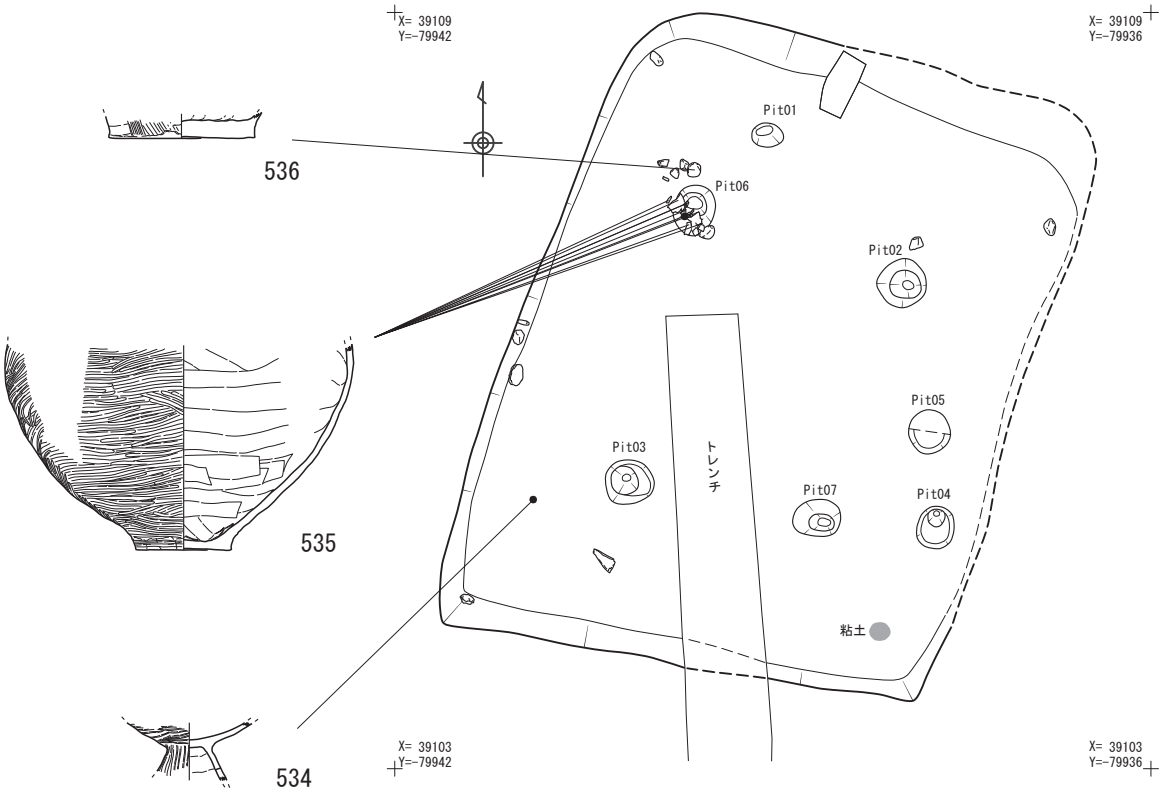
Pit04(SPI-I')
1　黒褐色（10YR 3/1）　しまり・粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。地山。しまり極めて強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。地山。しまり極めて強、粘性やや弱。

Pit05(SPJ-J')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。

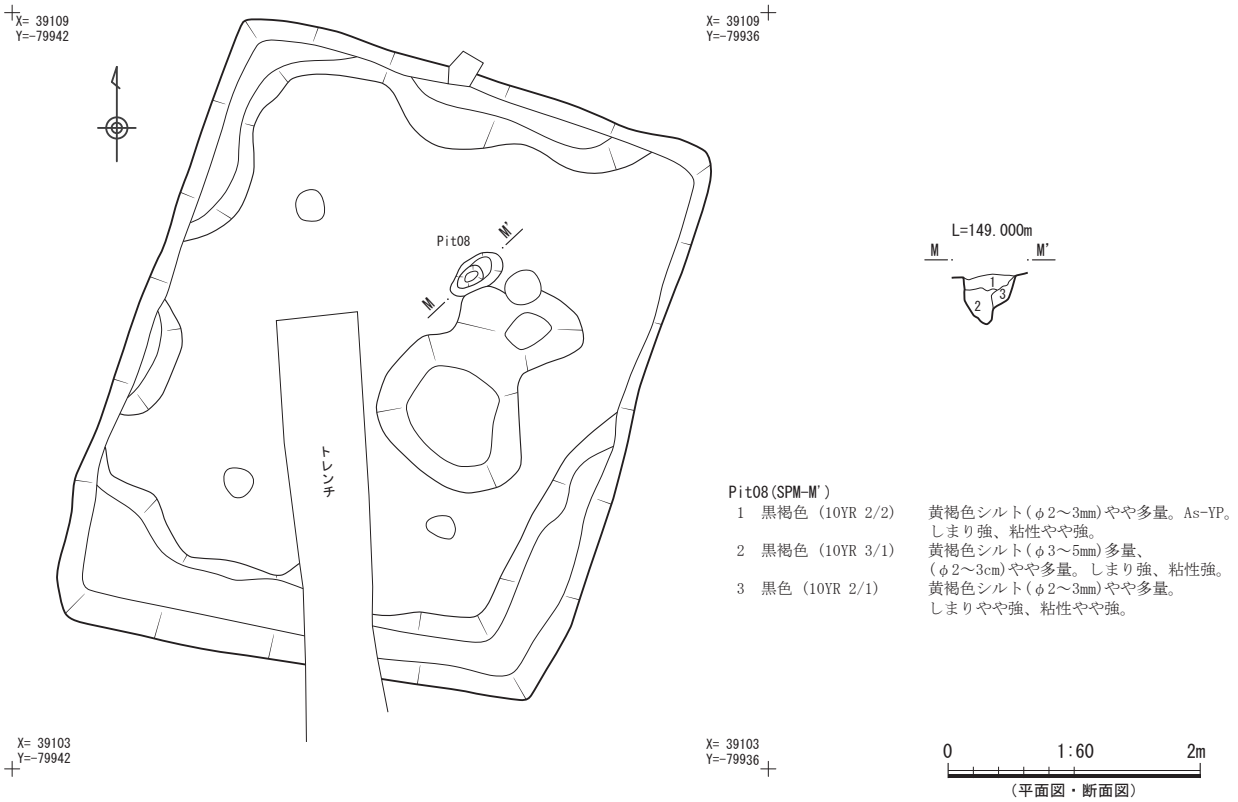
Pit06(SPK-K')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)少量、(φ1～2cm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。炭化物含む。しまりやや弱、粘性やや弱。

Pit07(SPL-L')
1　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性弱。
2　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性弱。
3　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。

第229図　22号竪穴建物跡　ピット断面図



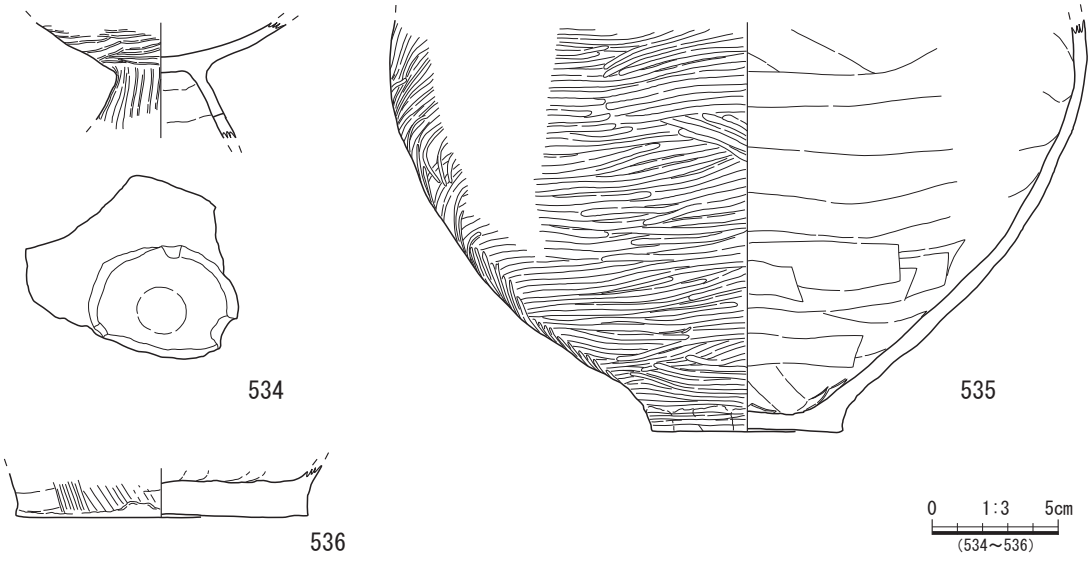
第230図　22号竪穴建物跡　出土遺物分布図



Pit08(SPM-M')

1	黒褐色（10YR 2/2）	黄褐色シルト（φ2～3mm）やや多量。As-YP。しまり強、粘性やや強。
2	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト（φ3～5mm）多量、（φ2～3cm）やや多量。しまり強、粘性強。
3	黒色（10YR 2/1）	黄褐色シルト（φ2～3mm）やや多量。しまりやや強、粘性やや強。

第231図　22号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図



第232図　22号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第57表　22号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第232図 PL.96	534	土師器 高坏	—	—	(4.6)	外：ヘラミガキ 内：脚部ナデ。透かし３孔	①良好　②10YR 6/4 ③石英、輝石	基部 破片	
第232図 PL.96	535	土師器 壺	—	7.6	(27.7)	外：ヘラミガキ。底面未調整 内：ヘラナデ	①良好　②7.5YR 7/6 ③輝石、砂	胴～底部	
第232図 PL.96	536	土師器 壺	—	11.6	(2.1)	外：ヘラナデ 内：指頭圧痕。一部赤変色	①良好　②10YR 7/6 ③長石、砂、小礫	底部	

【23号竪穴建物跡】（596E-SI23）

位置　　東区東側の南寄りで検出した。４号墳の墳丘下にあり、古墳周溝と重複する。

形状・規模　　正方形に近い長方形を呈する。長軸6.1m、短軸5.5mを測る。遺構確認面から床までの深さは0.5mとなり、床面付近の標高は147.8m前後となる。

主軸　　Ｎ－40°－Ｅ

埋土　　黒褐色土を基調とし、堆積埋土の多くにAs-Cが混入する。

燃焼施設　　未検出

貯蔵穴　　東壁寄りの床面に貯蔵穴と考えられる土坑（SK01）がある。

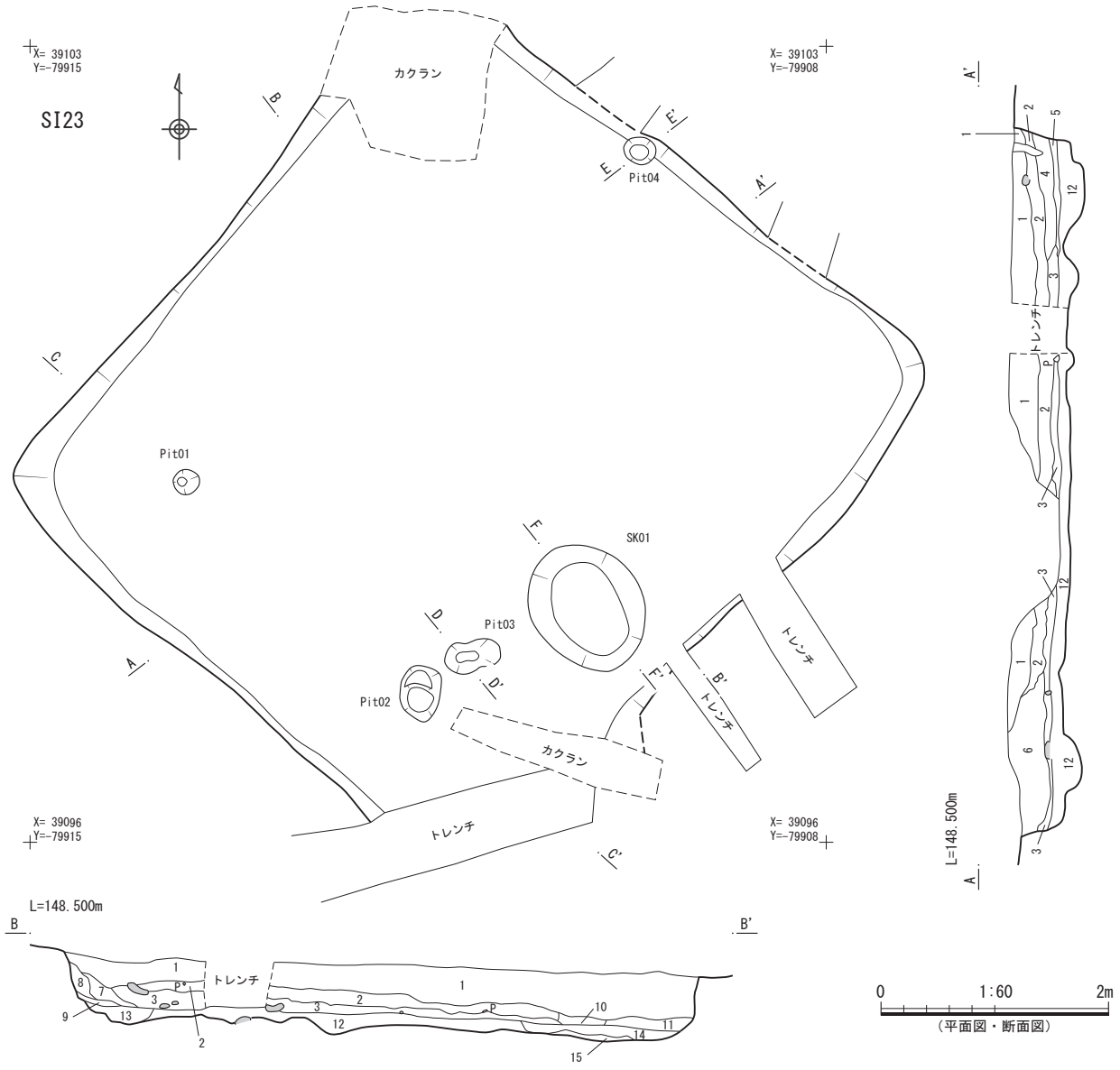
柱穴・土坑　　床面では明確にし難かったが、掘り方調査時に検出した小穴を併せて考えると、ピット３および６～８が主たる柱穴とであったと推測される。

壁周溝　　未検出

掘り方　　黄褐色ローム層まで掘削し掘り方とする。壁際を溝状にやや深めに掘削し、遺構中央部が舞台状に掘り残される。

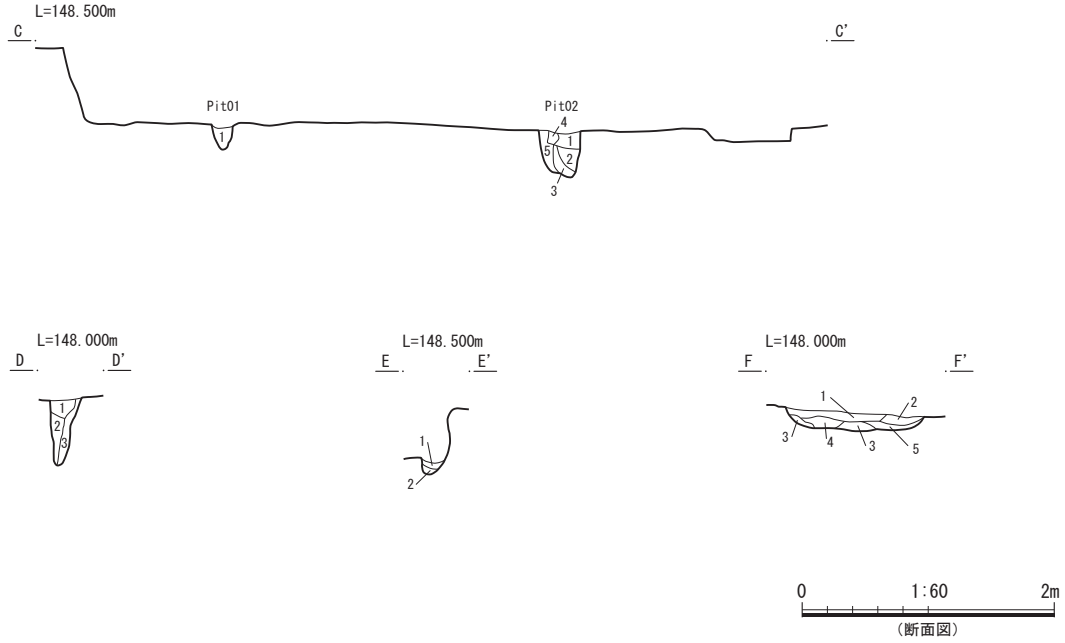
出土遺物　　弥生土器片少量および古式土師器の台付甕や壺、高坏などが出土している。

所見　　埋土にAs-Cが混入することから当該軽石降下後の埋没であることが考えられる。遺物の様相などから本遺構は古墳時代前期と推測される。



第233図　23号竪穴建物跡　平面図・断面図

23号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)
1　黒色（10YR 2/1）　As-C(多量)。黄褐色シルトほとんどなし。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　As-C(やや多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
3　暗褐色（10YR 3/3）　As-C(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 3/2）　As-C(やや少量)。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
5　黒褐色（10YR 3/2）　As-Cなし。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量、(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性弱。
6　黒褐色（10YR 3/1）　As-C(多量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)微量。しまり強、粘性弱。
7　黒褐色（10YR 3/1）　As-C(やや少量)。 黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
8　黒褐色（10YR 3/1）　As-Cほとんどなし。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
9　黒褐色（10YR 3/2）　As-Cなし。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
10　黒色（10YR 2/1）　軽石状白色粒子を少量含む。黄褐色シルト(φ1～2mm)微量。しまり強、粘性やや強。
11　黒色（10YR 2/1）　軽石状白色粒子を少量含む。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性やや強。
12　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルトと黒褐色土が混。しまり強、粘性やや弱。
13　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性弱。
14　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
15　明黄褐色（10YR 7/6）　シルト。しまり強、粘性やや強。
16　黒色（10YR 2/1）　As-C(多量)。黄褐色シルト(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性やや弱。
17　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性強。



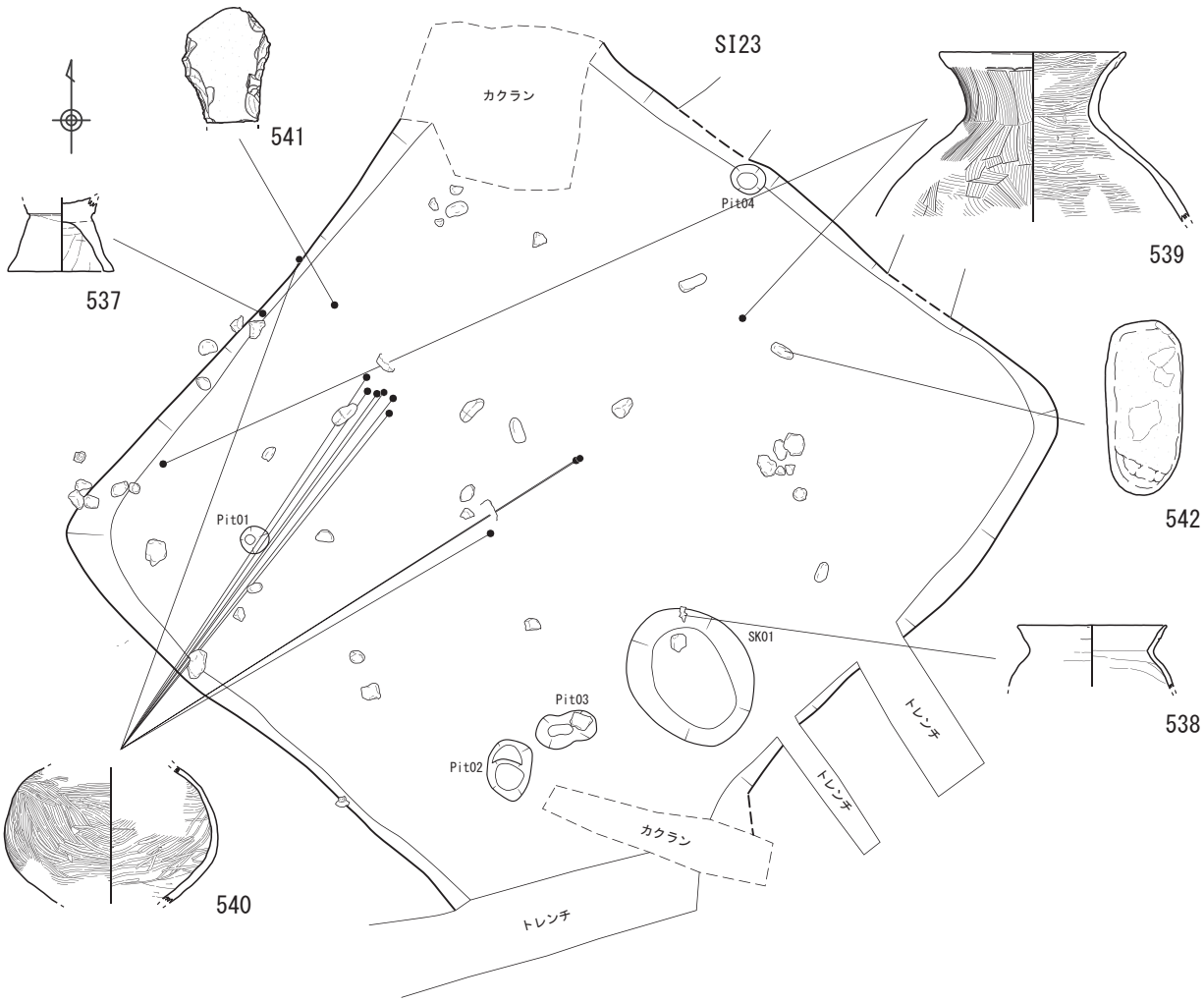
Pit01・02(SPC-C')
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ2～3cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　軽石状粒子を少量含む。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや弱、粘性弱。
3　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　黄褐色シルト(φ2～3mm)多量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。しまり強、粘性強。
5　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)やや少量。しまり強、粘性強。

Pit03(SPD-D')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり弱、粘性弱。
2　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
3　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量、(φ1～2cm)少量。炭化物含む。しまり弱、粘性やや弱。

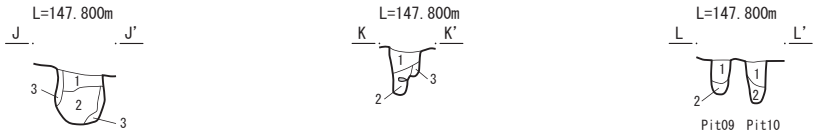
Pit04(SPE-E')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。炭化物・焼土を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。

SK01(SPF-F')
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量、(φ2～3cm)やや少量。焼土を少量含む。しまりやや強、粘性やや強。
3　黄褐色（10YR 5/6）　黄褐色シルト主体。黒色土混。しまり強、粘性強。
4　暗褐色（10YR 3/3）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性強。
5　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性強。

第234図　23号竪穴建物跡　ピット断面図



第235図　23号竪穴建物跡　出土遺物分布図



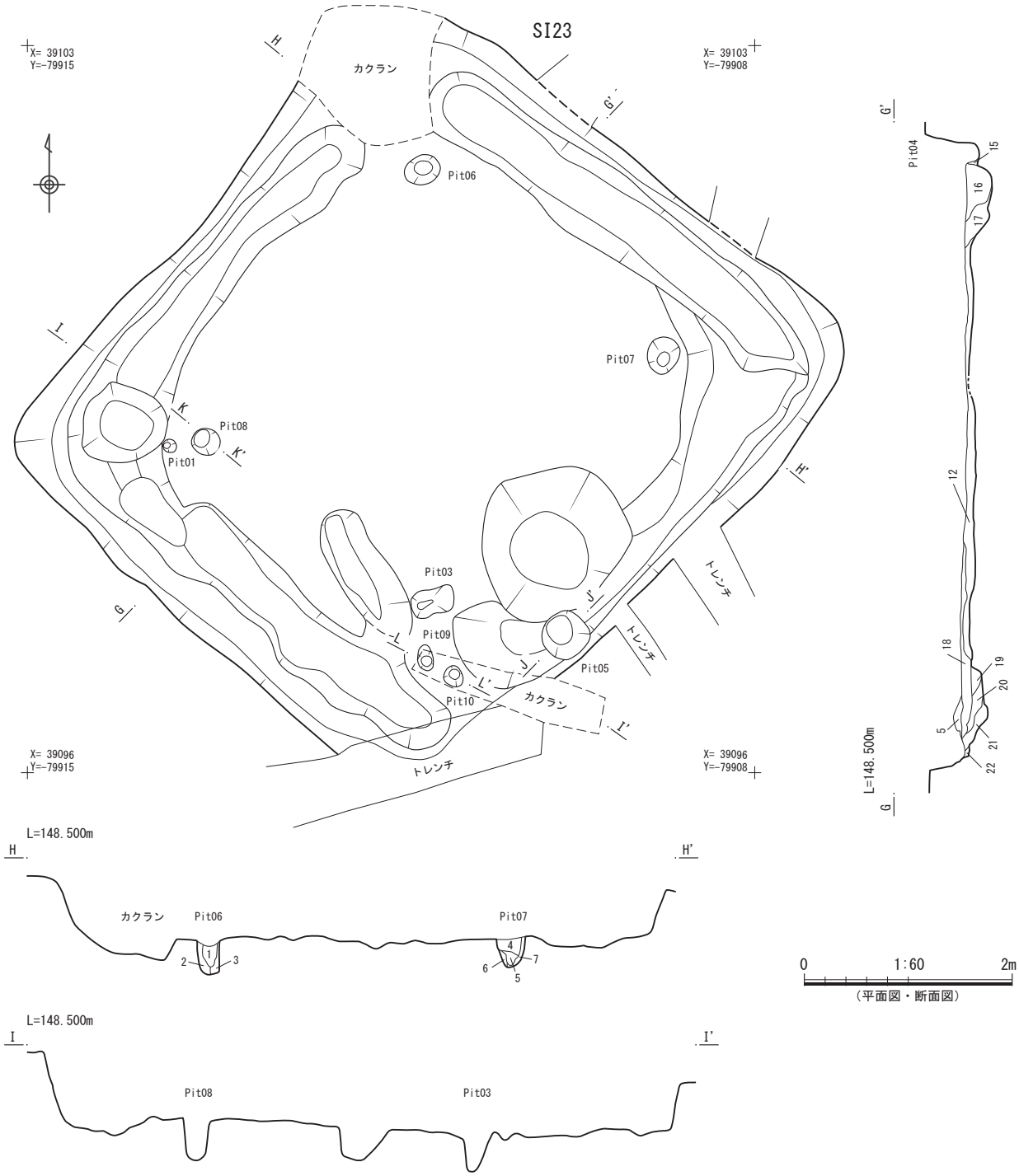
Pit05(SPJ-J')
1　黒褐色（10YR 3/1）　As-C(少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)やや多量。炭化物を少量含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。遺物有り。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～3mm)多量。しまりやや強、粘性やや強。

Pit08(SPK-K')
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや弱。
3　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。

Pit09・10(SPL-L')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)やや少量。しまり弱、粘性弱。
2　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)多量。しまりやや弱、粘性やや弱。

0　1:60　2m
（断面図）

第236図　23号竪穴建物跡　掘り方検出ピット断面図



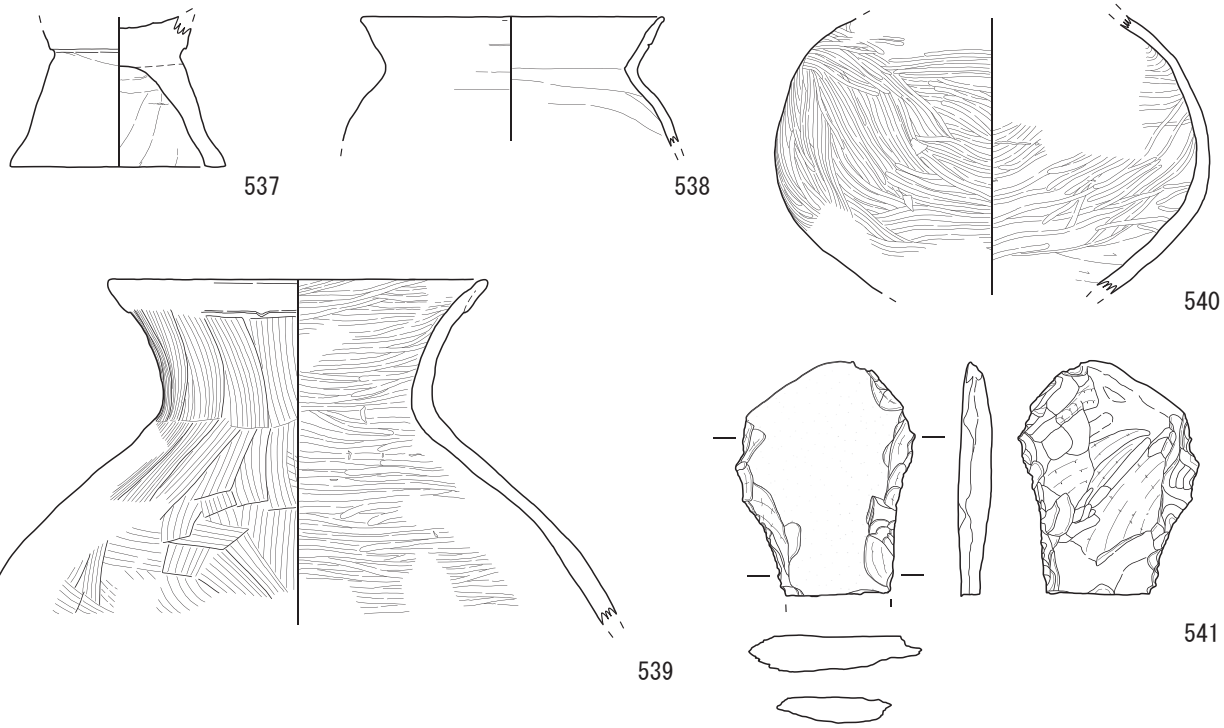
23号竪穴建物跡(SPG-G')

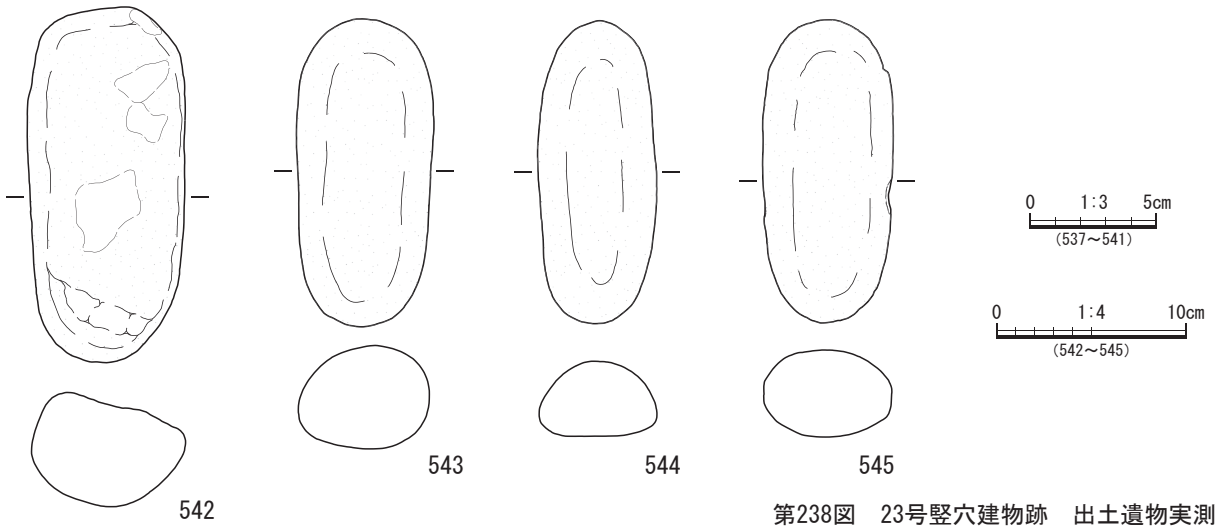
5	黒褐色 (10YR 3/2)	As-Cなし。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量、(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性弱。
12	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色シルトと黒褐色土が混。しまり強、粘性やや弱。
15	明黄褐色 (10YR 7/6)	シルト。しまり強、粘性やや強。
16	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、(φ3～5cm)やや多量。焼土含む。しまり強、粘性やや強。
17	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ3～5cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
18	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量、(φ3～5cm)やや少量。As-YP含む。しまり極めて強、粘性弱。
19	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ3～5cm)多量。しまり強、粘性やや強。
20	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量、(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性やや強。
21	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性強。
22	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。

Pit06・07(SPH-H')

1	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
3	灰黄褐色 (10YR 4/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ1～2cm)やや多量。しまりやや弱、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)多量、(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
5	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
6	明黄褐色 (10YR 6/6)	黄褐色シルト主体。しまりやや強、粘性やや弱。
7	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。

第237図　23号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図





第238図　23号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第58表　23号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第238図 PL.96	537	土師器 高坏	—	【8.6】	(6.0)	外：工具ナデ 内：工具ナデ	①良好　②5YR 6/4 ③砂	脚部	
第238図 PL.96	538	弥生土器 小型甕	【12.0】	—	(5.1)	口縁部に粘土紐積み上げ痕を残す。内外面はナデを施す	①良好　②7.5YR 5/3 ③砂	口縁部 破片	
第238図 PL.96	539	土師器 壺	15.0	—	(13.2)	外：折り返し口縁、ナデ。口縁以下ハケ状工具による縦位のハケメ。胴部中位よりハケメ方向が斜位となる 内：工具ナデ	①良好　②7.5YR 8/4 ③輝石、長石、砂	口縁～胴部 上半	
第238図 PL.96	540	土師器 小型壺	—	—	(11.1)	外：丁寧な斜位のヘラミガキ 内：ヘラ状工具による幅広なナデ後、幅狭のナデを施す	①良好　②7.5YR 7/6 ③小礫(やや多い)	胴部 1/3	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	法量(cm) 幅	法量(cm) 厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第238図 PL.96	541	打製石斧	9.2	6.7	1/4	128.8	泥岩	いわゆる石鍬。一部未加工	
第238図 PL.96	542	こも編み石	18.8	8.2	5.3	1545.0	安山岩	平な面を持ち、一部敲打痕あり	
第238図 PL.96	543	こも編み石	16.3	7.3	5.4	1096.0	輝石安山岩	やや扁平。端部には敲打痕あり	
第238図 PL.96	544	こも編み石	16.0	6.3	3.8	608.0	安山岩	片面が平坦で他方の面がややまるい	
第238図 PL.96	545	こも編み石	16.0	6.9	4.6	885.0	輝石安山岩	扁平。端部に敲打痕。部分的に赤変色	

【24号竪穴建物跡】（596E-SI24）

位置　　東区東側の中央付近で検出した。

形状・規模　　正方形に近い長方形を呈する。長軸5.2m、短軸4.9mを測る。遺構確認面から床までの深さは0.4mとなり、床面付近の標高は148.2m前後となる。

主軸　Ｎ－６°－Ｗ

埋土　　黒褐色土を基調とし、床面より上の堆積埋土にAs-Cが混入する。

燃焼施設　　やや北寄りの遺構床面にて焼土や炭化物を含む土坑状の掘り込みがあり、炉であったと考えられる。

貯蔵穴　　遺構南西隅で貯蔵穴と考えられる土坑（SK01）を検出した。

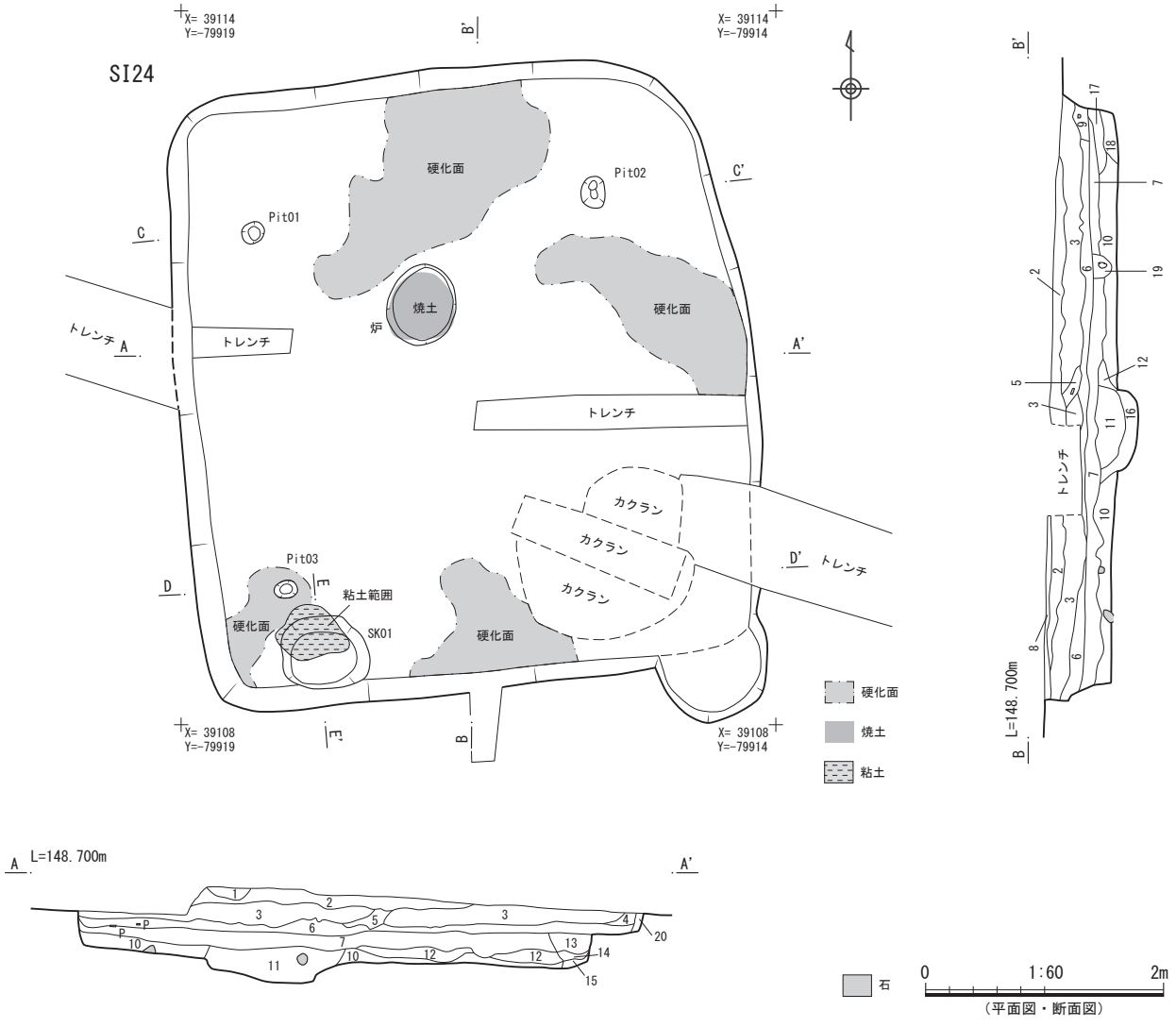
柱穴・土坑　　床面で検出したピット１～３が主たる柱穴となると考えられるが、遺構南東部はカクランが多く、想定された４基目の柱穴は確認できなかった。

壁周溝　　未検出

掘り方　　黄褐色ローム層まで掘削し掘り方とする。掘り方面は概ね平坦で、中央のみ土坑状にやや下がる傾向にある。

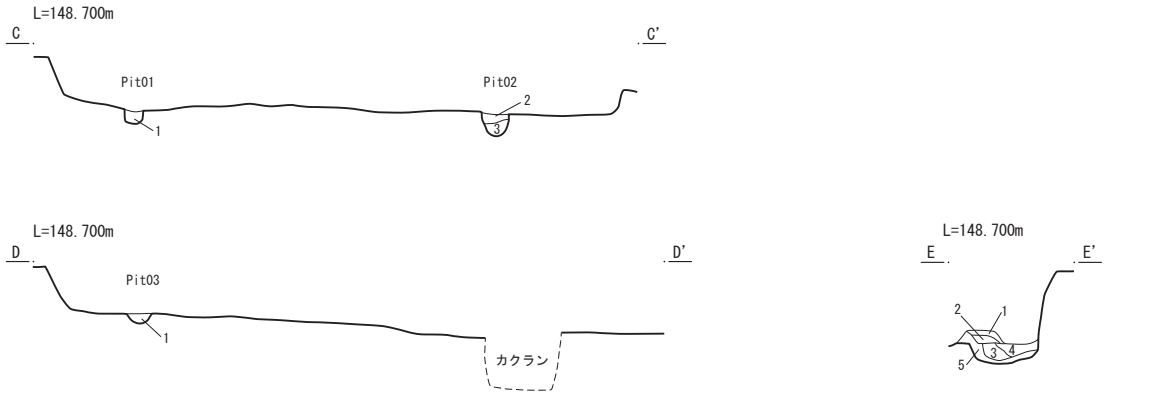
出土遺物　　弥生土器や古式土師器を中心に、縄文土器や黒曜石剥片、打製石斧などの流入遺物が見られる。

所見　　埋土にAs-Cが混入することから当該軽石降下後の埋没であることが考えられる。本遺構は弥生時代末～古墳時代前期と推測される。



第239図　24号竪穴建物跡　平面図・断面図

24号竪穴建物跡(SPA-A',B-B'共通)
1　黒褐色（10YR 3/2）　As-B、As-C混。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。カクラン。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 2/2）　As-C(やや多量)。その他夾雑物少量を含む。しまり強、粘性弱。
3　黒色（10YR 2/1）　As-C(多量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性弱。
4　黒褐色（10YR 3/1）　As-C(やや少量)。黄褐色シルト(φ1～2mm)微量。しまり強、粘性弱。
5　黒色（10YR 2/1）　As-C(微量)。しまり強、粘性やや弱。
6　黒褐色（10YR 3/2）　As-C(微量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)微量。しまりやや強、粘性やや強。
7　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　軽石状白色粒子(φ2～3mm)少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。掘り方。しまり強、粘性やや強。
8　黒褐色（10YR 3/2）　As-B混。しまりやや強、粘性弱。
9　黒褐色（10YR 3/1）　軽石状白色粒子(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
10　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　As-YP、As-C(少量)。しまり強、粘性やや弱。
11　黒褐色（10YR 3/1）　As-YP。粘土(φ3～5mm)多量、(φ2～5cm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
12　暗褐色（10YR 3/3）　軽石粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
13　黒褐色（10YR 3/1）　As-Cか(やや少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
14　黒褐色（10YR 3/2）　As-C(微量)。しまりやや強、粘性弱。
15　黒褐色（10YR 3/1）　As-Cなし。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性強。
16　黒色（10YR 2/1）　As-C(φ3～5mm)やや多量。粘土含む。しまり極めて強、粘性やや弱。
17　黒褐色（10YR 3/2）　As-C(やや多量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
18　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　As-C(少量)。As-YP含む。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性弱。
19　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。礫含む。しまり強、粘性やや弱。
20　黒色（10YR 2/1）　軽石状白色粒子(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。



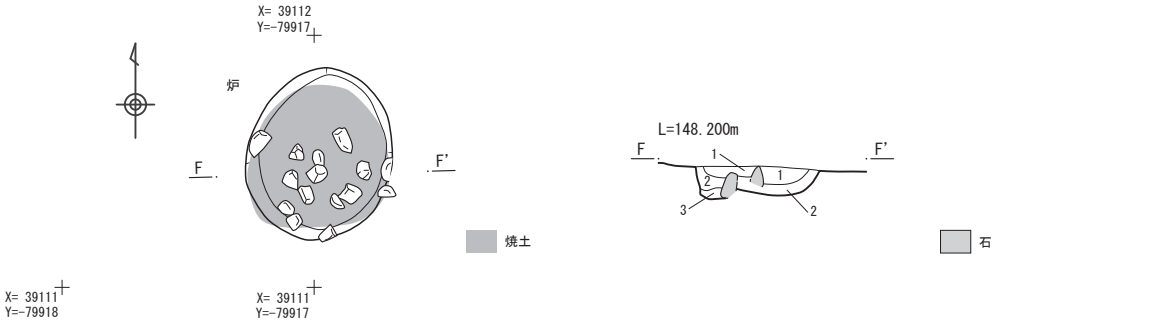
Pit01・02(SPC-C')
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
2　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。
3　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。As-YP含む。しまりやや弱、粘性やや強。

Pit03(SPD-D')
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量、(φ1～2cm)少量。黒色土ブロック含む。しまりやや弱、粘性やや強。

SK01(SPE-E')
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色粘土(φ3～5cm)やや多量。しまり極めて強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色粘土(φ1～2mm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
3　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。As-Cか(少量)。しまり強、粘性やや弱。
4　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
5　褐色（10YR 4/4）　黄褐色シルト(φ3～5mm)多量。しまり強、粘性やや強。

0　1:60　2m
（断面図）

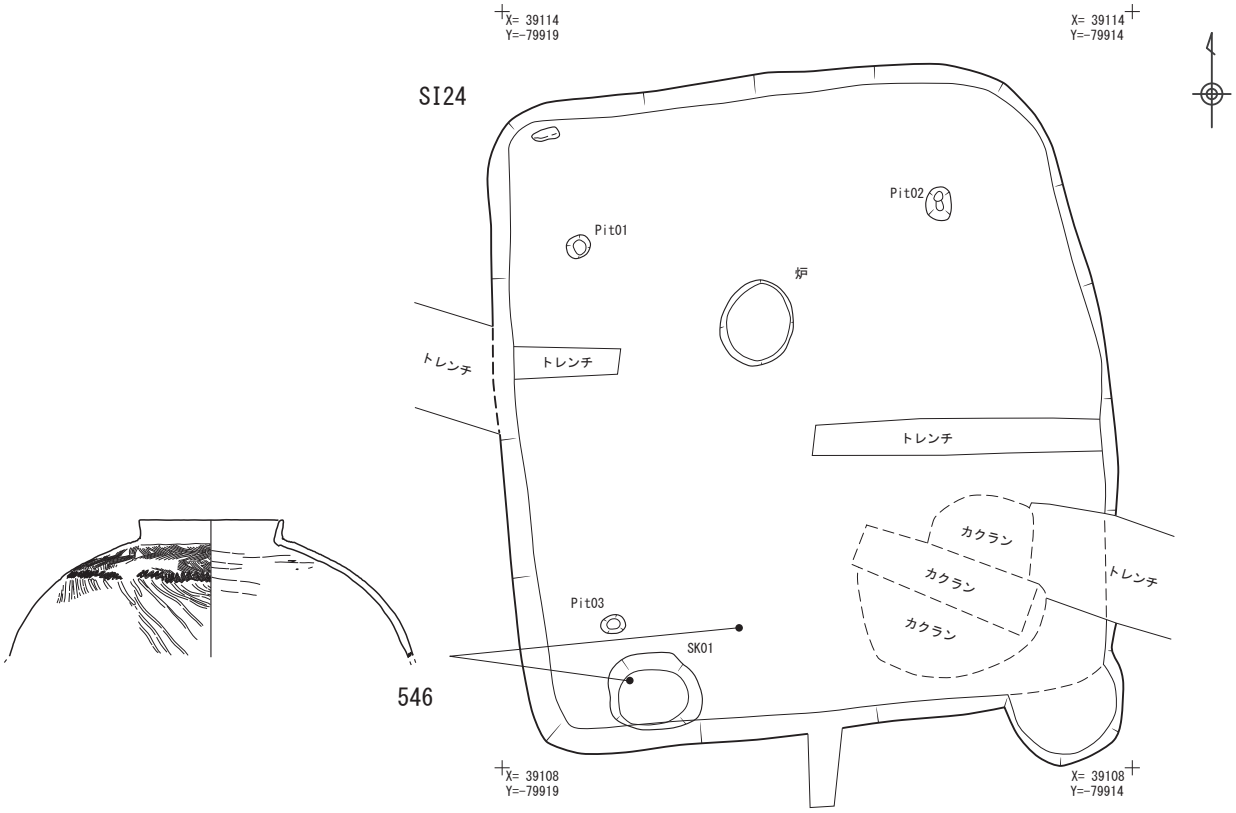
第240図　24号竪穴建物跡　ピット断面図



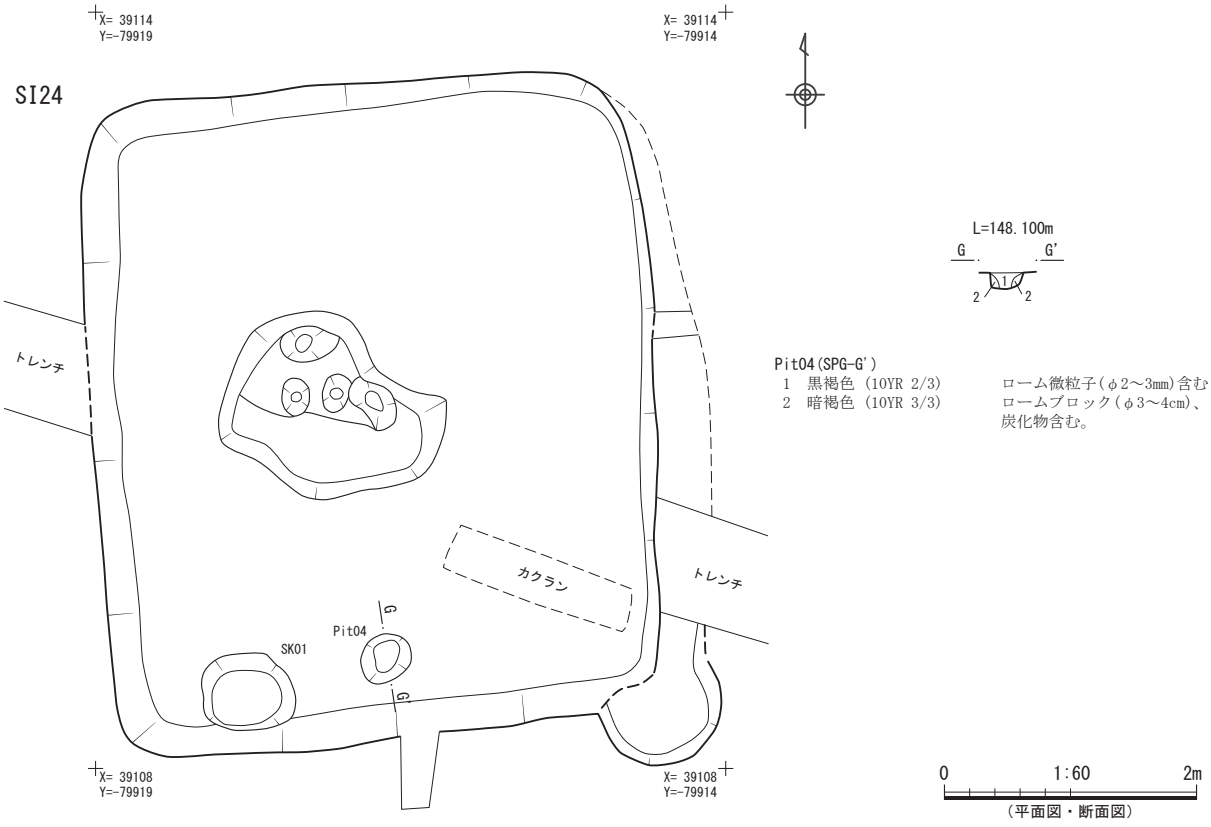
炉跡(SPF-F')
1　褐色（10YR 4/4）　焼土(φ2～3cm)やや多量。炭化物含む。しまりやや強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　焼土(φ1～2mm)少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
3　黒褐色（10YR 3/2）　焼土(φ3～5mm)微量。貼床。しまりやや強、粘性弱。

0　1:30　1m
（炉跡　平面図・断面図）

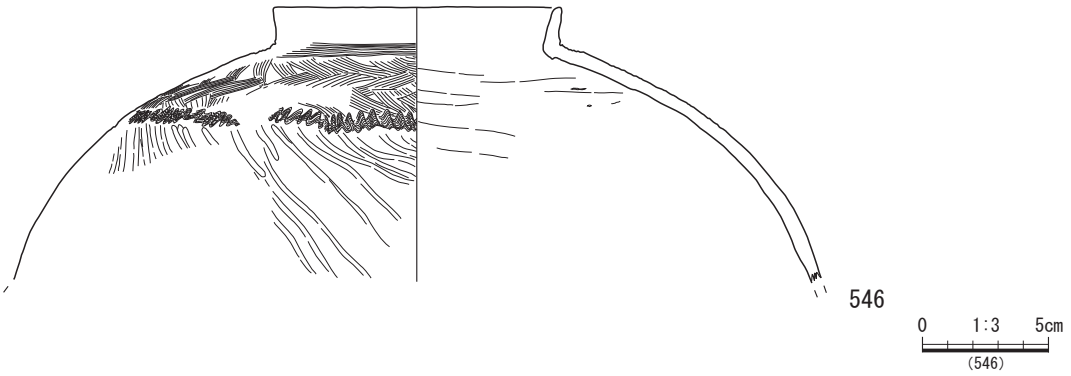
第241図　24号竪穴建物跡　炉跡平面図・断面図



第242図　24号竪穴建物跡　出土遺物分布図



第243図　24号竪穴建物跡　掘り方平面図・断面図



第244図　24号竪穴建物跡　出土遺物実測図

第59表　24号竪穴建物跡　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第244図 PL.96	546	弥生土器 甕	【11.4】	—	(10.9)	外：やや外反する短い口縁が立ち上がる。口縁ナデ、口縁直下に横位の櫛描。下位に並行して櫛描波状文を施し、その間を櫛描羽状文で充填する。以下胴部はヘラナデ。 内：口縁ナデ。頸部内面に口縁接合時の粘土痕が残存。胴部ヘラナデ。	①良好 ②7.5YR 6/6 ③長石、小礫	口縁～胴部 1/8	

【25号竪穴建物跡】（718-SI01）

位置　東区東端やや南寄りで検出した。５号墳と重複し、５号墳埋葬主体部や近世期以降のカクランにより遺構の大部分を欠失する。

形状・規模　確認できた範囲では南北長4.7mであり、東西長4.9m以上となる。東西にやや長い長方形と想定される。遺構確認面から床面までの深さは0.3mであり、標高は147.2mほどとなる。

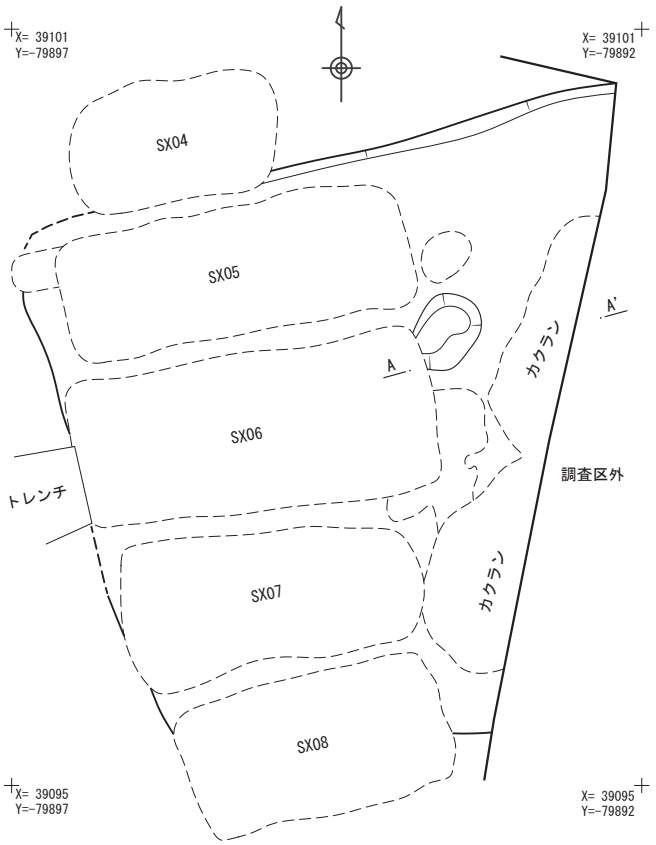
主軸　Ｎ－16°－Ｗ

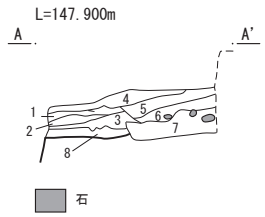
埋土　黒～黒褐色を基調とし、As-Cの混入は顕著でない。埋土は全体的にはしまるが、粘性は弱い。

燃焼施設　遺構中央やや北寄りの床面に浅い掘り込みの炉跡が検出された。

柱穴・土坑　貯蔵穴などを含め、柱穴や土坑は未検出である。

掘り方　黄褐色ローム層上位の漸移層まで掘り込んで掘り方とする。掘り方面は凹凸があるものの、概ね平坦である。





25号竪穴建物跡(SPA-A')

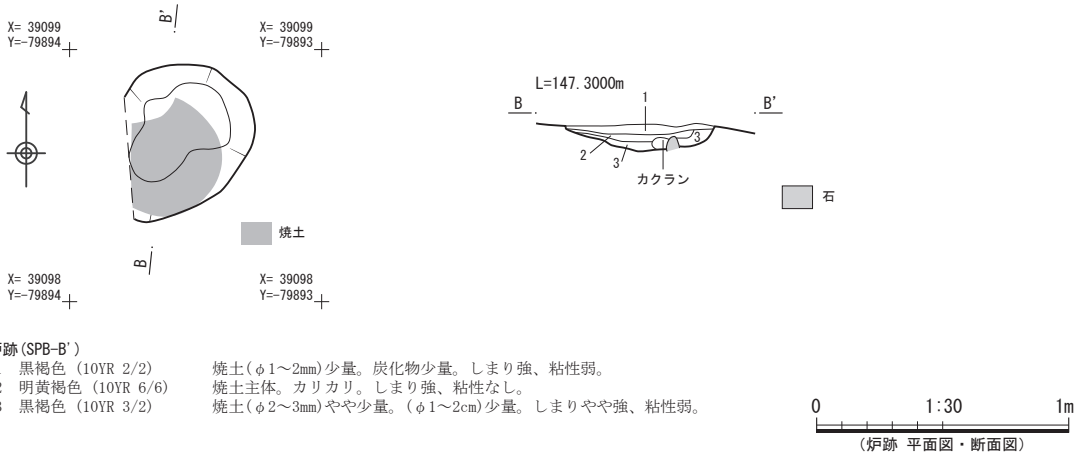
1	黒色（10YR 2/1）	As-C(少量)。炭化物少量。しまり強、粘性やや弱。竪穴建物埋土
2	黒褐色（10YR 2/2）	As-C(やや多量)。黄褐色ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。竪穴建物埋土
3	黒色（10YR 2/1）	As-C(少量)。しまりやや強、粘性やや強。竪穴建物埋土
4	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色ローム(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性弱。
5	黒色（10YR 2/1）	黄褐色ローム(φ5～7mm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
6	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色ローム(φ3～5mm)多量。しまりやや弱、粘性弱。
7	灰黄褐色（10YR 4/2）	礫が充填された隙間に入る。しまり、粘性なし。
8	黒褐色（10YR 3/2）	焼土粒子僅か。As-Cはなし。しまり強、粘性弱。貼床。

0　1:60　2m
（平面図・断面図）

第245図　25号竪穴建物跡　平面図・断面図

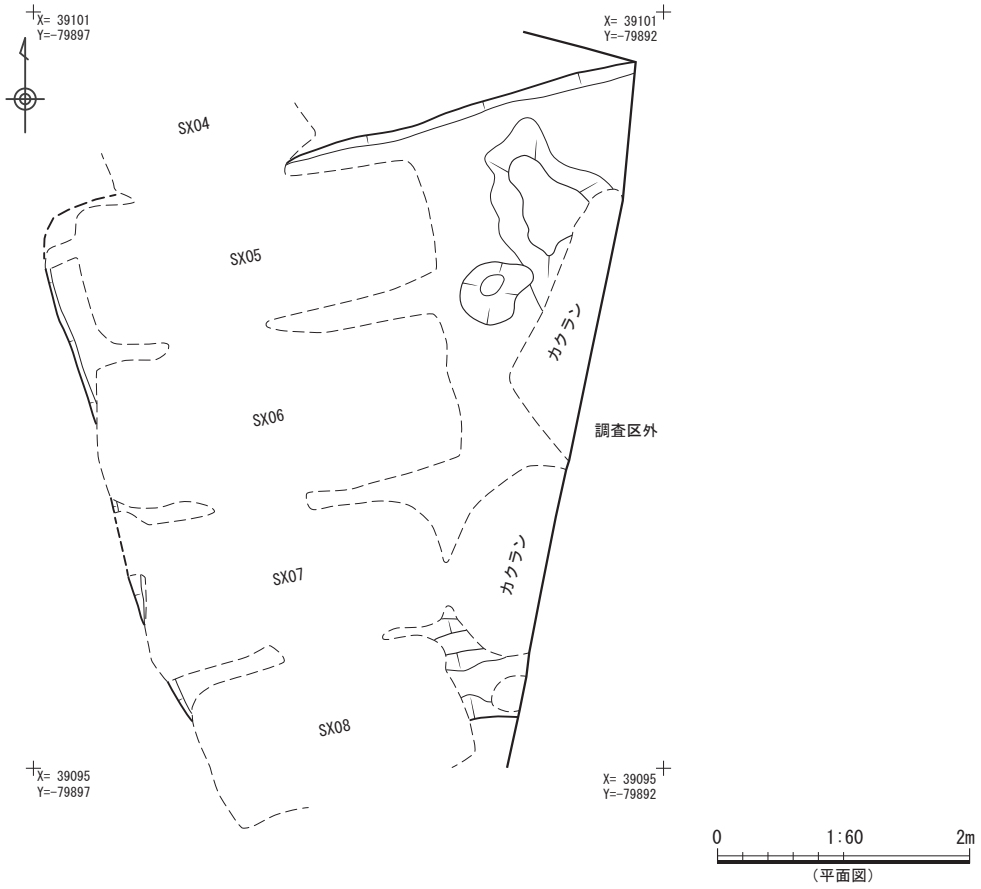
出土遺物　　未検出である。

所見　　５号墳および後世の礫廃棄坑により本遺構の大部分が失われており、遺構の全容は不明である。遺構範囲内からは遺物も出土していない。６世紀代に構築された５号墳の墳丘下層よりの検出であること、燃焼施設に炉を構築することから、古墳時代前期もしくは当該期以前の構築と考えられる。



炉跡(SPB-B')
1　黒褐色（10YR 2/2）　焼土(φ1～2mm)少量。炭化物少量。しまり強、粘性弱。
2　明黄褐色（10YR 6/6）　焼土主体。カリカリ。しまり強、粘性なし。
3　黒褐色（10YR 3/2）　焼土(φ2～3mm)やや少量。(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性弱。

第246図　25号竪穴建物跡　炉跡平面図・断面図



第247図　25号竪穴建物跡　掘り方平面図

（４）溝

今回の調査では、合計６条の溝を検出した。いずれの遺構も西区に分布している。

１号溝（SD01）は、西区の中央西寄りで検出した。北側へと下降する傾斜面に並行して東西に走向する。検出長は19.0mで、幅は概ね0.9～1.3mとなる。掘り込みの深さは遺構確認面から0.3mである。埋土にAs-Aを混入するため、As-Aが降下した天明三（1783）年以降の遺構である。

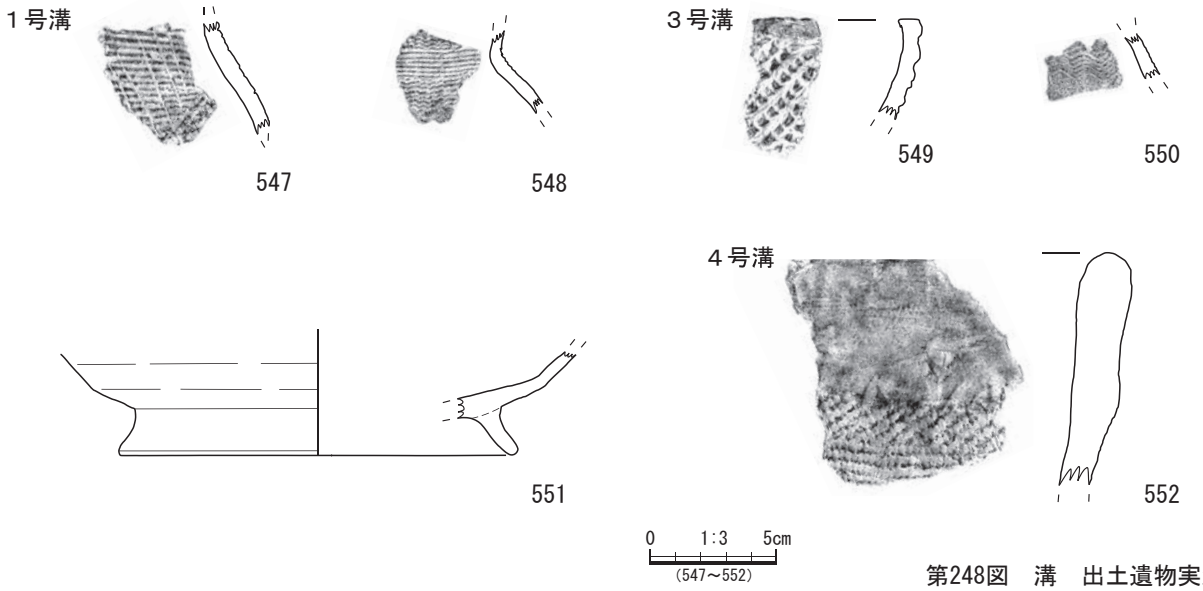
２号溝（SD02）は、西区の北西隅で検出した。南西から北東に主軸を持つ。検出長20.5m、幅0.5～1.2mを測り、深さは0.1m内外と浅い。埋土上位には、一次堆積層ではないが混土化の進行していないAs-B層が載る。埋土中にはAs-Bが観察されないため、本遺構がAs-B降下の天仁元（1108）年以前に埋没したものと考えられる。本遺構が立地する斜面は小さな谷状の窪みとなるが、本遺構はその小谷地地形と台地上をつなぐ通路として利用された痕跡と推定される。

３号溝（SD03）は、西区の北側西寄りで検出した。北西へと下降する傾斜面に直交するように南北に走向する。検出長は11.2m、幅0.9～1.6mを測る。遺構の深さは0.2～0.3mである。埋土中にAs-Bが混入するため、天仁元年より新しい遺構と考えられる。

４～６号溝は、西区の中央で検出した。いずれも部分的に重複する。４号溝（SD04）は２箇所でほぼ直角に屈折するクランク状を呈する。総延長は約40mを検出し、幅0.8～1.0m、深さは遺構確認面から0.6mを測る。埋土にはAs-Aが混入するため、近世期以降の溝と考えられる。

５号溝（SD05）は、検出長11.2m、幅0.5～0.7m、深さは0.1～0.2mを測る。４号溝に切られるが、埋土にAs-Aが含まれており、As-A降下後の所産であろう。

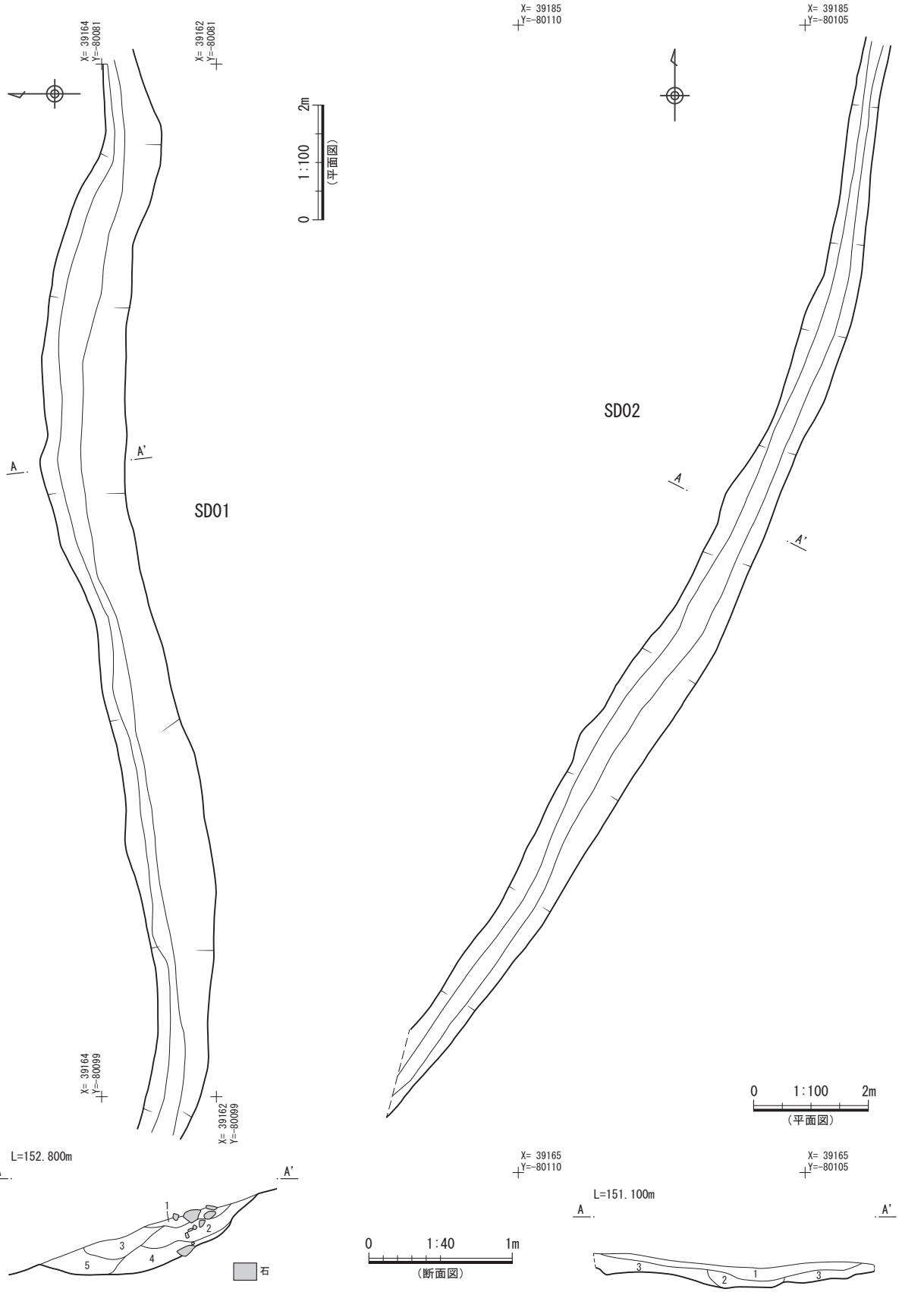
６号溝（SD06）は、検出長9.9m、幅1.9mを測り、深さは遺構確認面から0.3mである。埋土にはAs-Cが混入するがAs-BおよびAs-Aが観察されないため、As-B降下以前の遺構であろう。



第248図　溝　出土遺物実測図

第60表　溝　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第248図 PL.97	547	縄文土器 深鉢	－	－	－	外：細い沈線が斜位に重なり、格子状を呈す 内：丁寧なナデ	①良好　②5YR 5/4 ③砂やや多	破片	１号溝
第248図 PL.97	548	弥生土器 甕	－	－	－	外：頸部に櫛描簾状文、上下に櫛描波状文を施文 内：ナデ	①やや不良　②10YR 7/4 ③輝石、長石	破片	１号溝
第248図 PL.97	549	縄文土器 深鉢	－	－	－	外：隆起線文に半截竹管によるキザミ状の文様 内：ナデ	①良好　②5YR 6/4 ③長石、石英	破片	３号溝
第248図 PL.97	550	弥生土器 甕	－	－	－	外：櫛描波状文 内：ナデ	①良好　②10YR 7/4 ③輝石、黒・白色粒子	破片	３号溝
第248図 PL.97	551	須恵器 高台付碗	－	－	－	成形後、粘土による高台貼り付け	①良好　②2.5Y 7/2 ③黒色粒子	破片	３号溝
第248図 PL.97	552	縄文土器 深鉢	－	－	－	外：口唇下無文帯、以下に単節縄文を横位斜位に施文 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 7/4 ③輝石、砂礫	口縁部 破片	４号溝



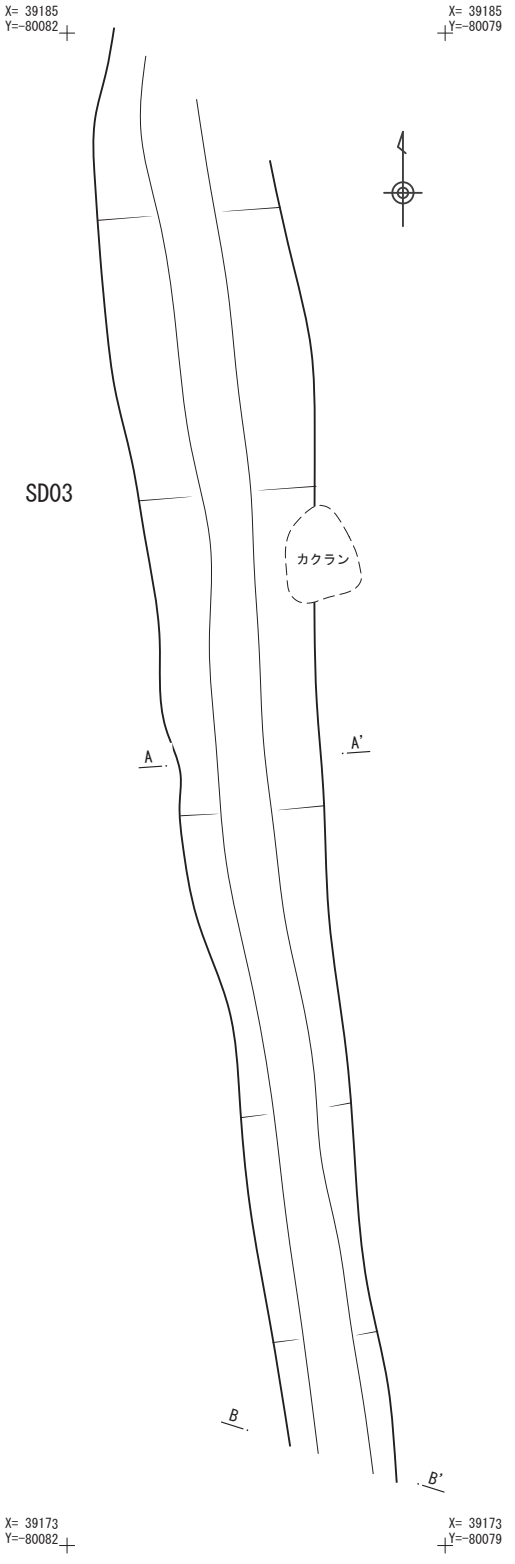
１号溝(SPA-A')

1	黒褐色 (10YR 3/2)	As-A(少量)。礫含む。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	As-A(少量)。礫多量。ローム粒子(φ1～2mm)わずか。しまり強、粘性弱。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	As-A(密に含む)。しまり弱、粘性弱。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	As-A(少量)。ロームブロック(φ5～7cm)少量。しまりやや強、粘性弱。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	As-A(少量)。ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性弱。

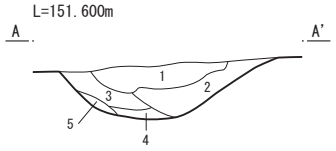
２号溝(SPA-A')

1	オリーブ黒色 (5Y 3/1)	As-B (一次推積ではないが純度は高い)。しまりやや弱、粘性弱。
2	暗赤灰色 (2.5YR 3/1)	鉄分の沈着による影響か、やや赤色味を帯びる。しまり強、粘性やや弱。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。しまり強、粘性やや弱。

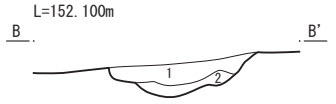
第249図　１・２号溝　平面図・断面図



0　1:60　2m
（平面図）



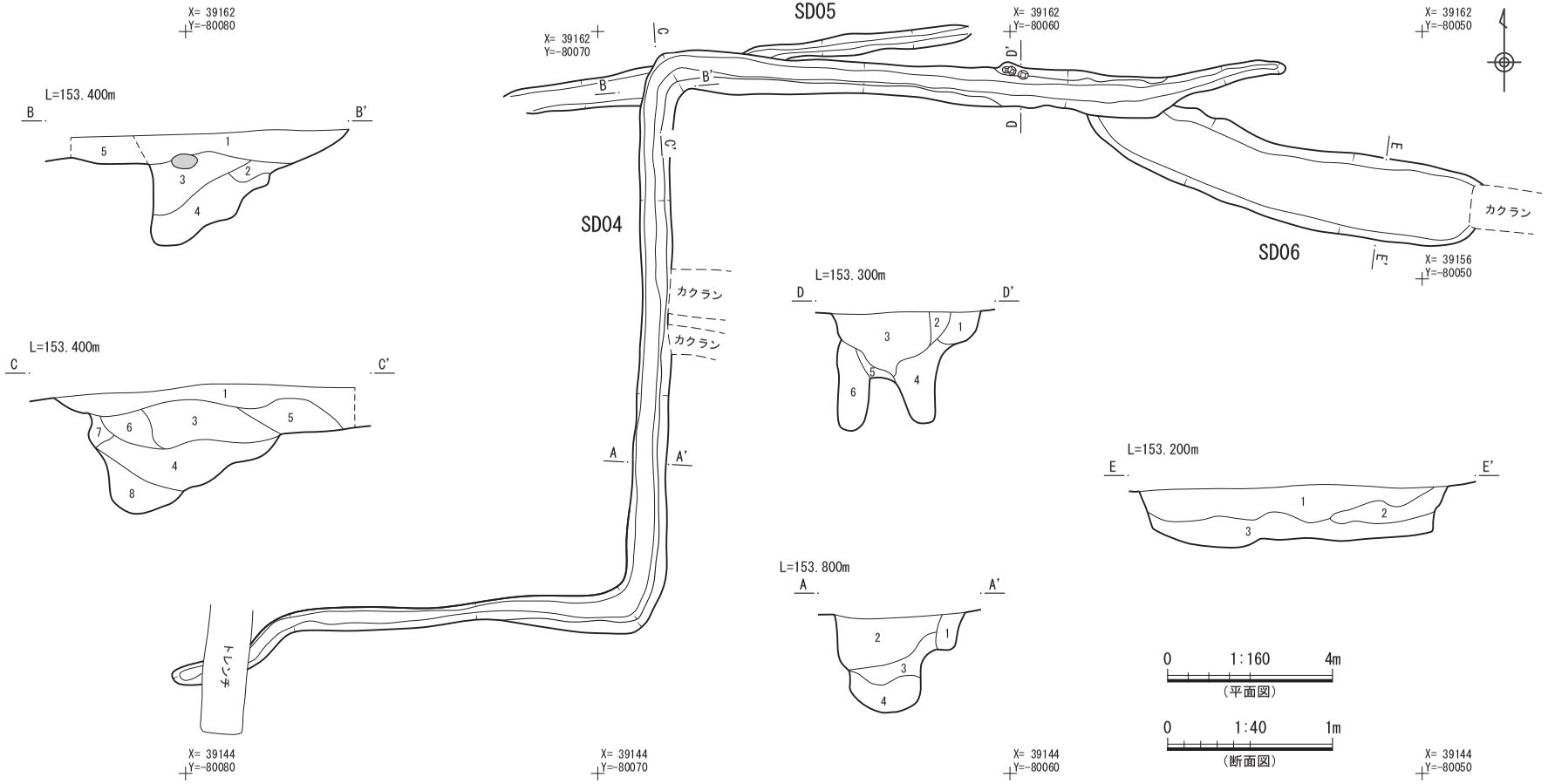
３号溝(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　層上位にAs-Aが混入。ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　As-B混。ローム(φ1～2mm)微量。しまりやや強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ1～2mm)微量。しまり弱、粘性やや弱。
5　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。



３号溝(SPB-B')
1　黒褐色（10YR 3/2）　やや砂質。層上位にAs-Aか。ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　As-B混。ローム(φ1～2mm)微量。しまり強、粘性弱。

0　1:40　1m
（断面図）

第250図　３号溝　平面図・断面図



４号溝(SPA-A')

1	黒褐色 (10YR 3/2)	As-A混。ローム(φ1～2mm)やや少量。しまり弱、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	As-A混。ローム(φ3～5mm)やや多量、(φ2～3cm)少量。しまりやや強、粘性弱。
3	明黄褐色 (10YR 7/6)	ローム主体。黒色土混。As-A混。しまり強、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR 3/2)	As-A混。ローム(φ2～3mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。しまり弱、粘性弱。
5		As-A混。しまり、粘性弱。

４・５号溝(SPB-B',C-C'共通)

1	褐灰色 (10YR 4/1)	As-A混。ローム(φ2～3mm)少量。しまり極めて強、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	As-A混。ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
3	黒褐色 (10YR 3/2)	As-A混。ローム(φ2～3mm)やや多量。しまり極めて強、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	As-A混。ローム(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	As-A混。ローム(φ1～2mm)多量、(φ1～2cm)やや多量。しまり強、粘性弱。
6	黒褐色 (10YR 3/2)	As-A混。ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
7	黄褐色 (10YR 5/6)	ローム主体。しまり強、粘性やや弱。
8	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	ローム主体。黒褐色土混。しまりやや強、粘性やや強。

４号溝(SPD-D')

1	黒褐色 (10YR 3/1)	As-A混。ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
2	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	As-A混。ローム主体。しまりやや強、粘性弱。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	As-A混。ローム(φ2～3mm)やや少量、(φ3～5cm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
4	黒褐色 (10YR 3/2)	As-A混。ローム(φ1～2mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
5	明黄褐色 (10YR 7/6)	ローム主体。黒色土わずかに混。しまりやや強、粘性やや弱。As-Aなし。
6	黒色 (10YR 2/1)	ローム(φ1～2mm)少量、(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性弱。

６号溝(SPE-E')

1	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。As-C混。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。As-C混。しまりやや弱、粘性弱。
3	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	黄褐色シルト主体。地山漸移層。しまりやや強、粘性弱。

第251図　４～６号溝　平面図・断面図

（５）土坑

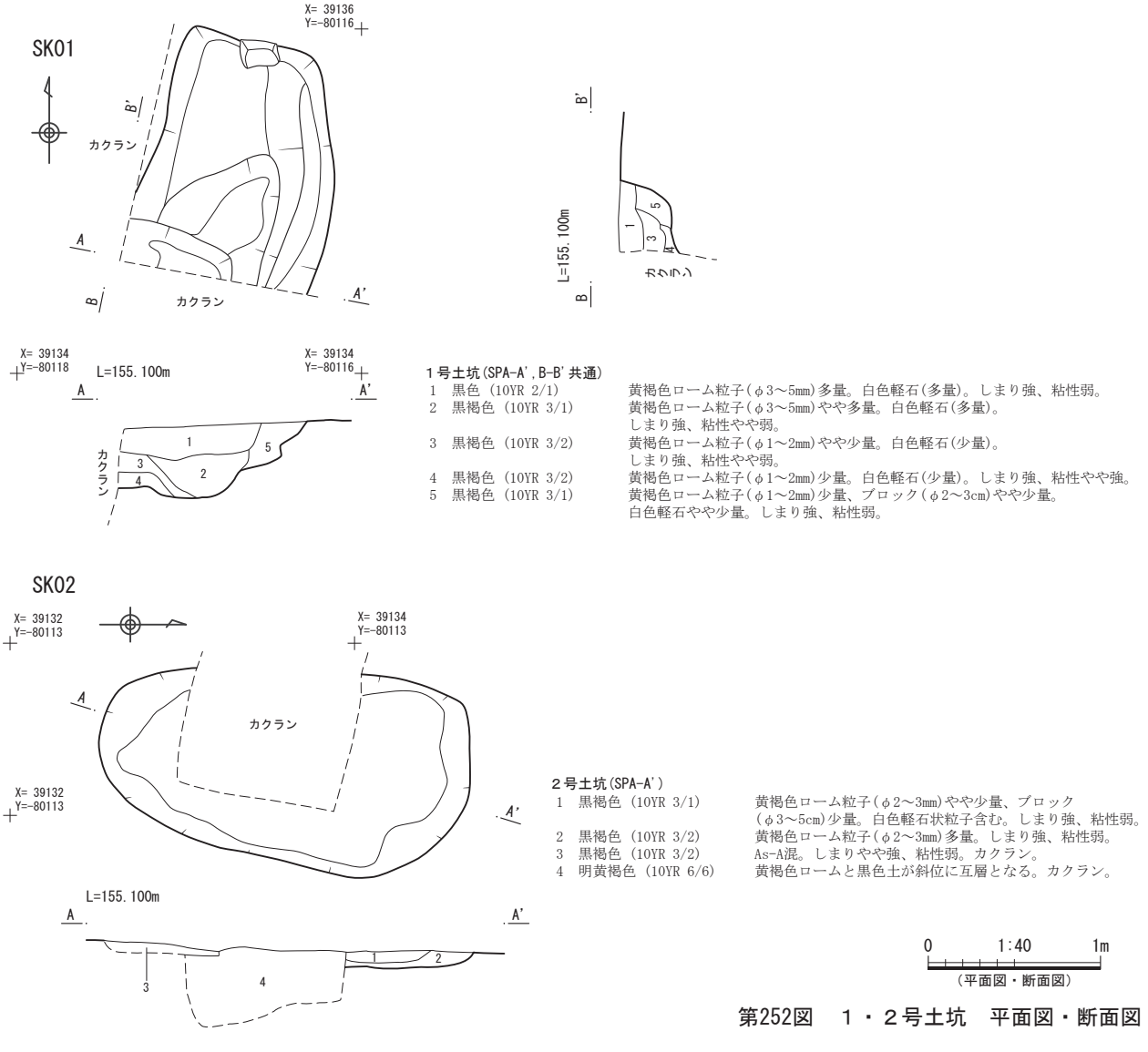
今回の調査では、合計65基の土坑を検出した。土坑の多くは西区に分布する傾向が看取される。平面形状は不定形のものが多く、また、出土遺物としては縄文土器を含む遺構が顕著である。竪穴建物跡を含む縄文時代遺構が西区に多いことと連動していることが考えられる。

第61表　土坑　一覧表（１）

遺構名称	調査区	形状	主軸方位	規模(m)			出土遺物	備考
				長軸	短軸	深さ		
１号土坑	西区	長方形	N－12°－E	1.4	1.1	0.6		埋土にはAs-Bが含まれない。南側未検出
２号土坑	西区	楕円形	N－ 8°－E	2.1	1.2	0.1	縄文土器	
３号土坑	西区	不整楕円形	N－29°－E	2.5	1.0	0.2	縄文中期土器、黒曜石片	
４号土坑	西区	不整形	N－32°－W	1.7	1.1	0.3	縄文中期土器、須恵器甕	
５号土坑	西区	楕円形	N－40°－W	1.3	0.7	0.2		
６号土坑	西区	楕円形	N－46°－E	0.5	0.4	0.5	弥生中期後半土器	土器棺墓。伏せた甕と壺底部が出土
７号土坑	西区	不整楕円形	N－59°－E	0.6	0.4	0.3	縄文土器	8号土坑と重複
８号土坑	西区	不整形	N－14°－W	1.2	0.7	0.1	縄文土器	7号土坑と重複
９号土坑	西区	楕円形	N－32°－E	1.3	1.0	0.2		10号土坑と重複
10号土坑	西区	楕円形	N－42°－E	1.0	0.6	0.1		9号土坑と重複
11号土坑	西区	不整円形	N－20°－E	0.5	0.5	0.3		
12号土坑	西区	円形	N－18°－E	1.1	0.8	0.2		
13号土坑	西区	不整円形	N－59°－E	1.0	0.8	0.2	縄文土器、黒曜石片	拳大の礫が多量
14号土坑	欠番	－	－	－	－	－	－	
15号土坑	欠番	－	－	－	－	－	－	
16号土坑	西区	不整円形	N－69°－W	1.2	0.8	0.1	縄文土器	
17号土坑	西区	円形	N－44°－W	1.5	0.9	0.5	縄文中期土器、黒曜石片	
18号土坑	西区	円形	N－ 5°－E	0.8	0.8	0.2		
19号土坑	西区	楕円形	N－76°－W	0.8	0.5	0.2	縄文土器	
20号土坑	西区	円形	N－60°－E	1.1	1.0	0.2		
21号土坑	西区	不整形	N－57°－E	1.5	1.4	0.1		
22号土坑	西区	不整円形	N－27°－E	1.1	1.0	0.1		
23号土坑	西区	不整形	N－14°－E	1.1	0.2	0.4	縄文土器、須恵器坏蓋	
24号土坑	西区	不整円形	N－83°－W	0.6	0.5	0.4		
25号土坑	西区	不整形	N－39°－W	0.6	1.2	0.2	縄文土器	
26号土坑	西区	卵形	N－71°－W	1.4	0.8	0.1	縄文土器、打製石斧	
27号土坑	西区	不整楕円形	N－24°－E	1.7	1.0	0.3	縄文土器	
28号土坑	西区	不整円形	N－46°－E	0.7	0.6	0.3		
29号土坑	西区	円形	N－14°－E	1.0	0.4	0.2	縄文土器	
30号土坑	西区	円形	N－15°－E	1.0	0.7	0.2	縄文土器	
31号土坑	西区	円形	N－28°－E	0.5	0.5	0.1	縄文土器	
32号土坑	西区	不整円形	N－28°－E	0.9	0.6	0.2		
33号土坑	西区	不整円形	N－21°－W	0.9	0.8	0.2	縄文土器、黒曜石片	
34号土坑	西区	不整楕円形	N－35°－E	1.6	1.3	0.1		
35号土坑	西区	不整楕円形	N－75°－E	0.8	0.6	0.1	縄文土器	
36号土坑	西区	不整円形	N－15°－W	0.5	0.4	0.2		
37号土坑	西区	不整長方形	N－66°－W	1.3	0.6	0.2	縄文土器、打製石斧、黒曜石片	
38号土坑	西区	楕円形	N－75°－E	2.5	1.5	0.6	黒曜石石核	
39号土坑	西区	不整楕円形	N－19°－W	1.6	0.9	0.3	縄文土器、土師質須恵器	
40号土坑	西区	不整形	N－46°－E	1.0	0.6	0.2	縄文土器	
41号土坑	西区	楕円形	N－37°－E	1.5	0.8	0.2		
42号土坑	西区	円形	N－76°－W	1.0	1.0	0.2	縄文土器	
43号土坑	西区	不整円形	N－57°－W	2.3	2.1	0.3	縄文土器、ミニチュア、打製石斧、黒曜石片	礫や遺物が多く出土
44号土坑	西区	不整形	N－ 8°－E	1.0	0.4	0.3	縄文土器	
45号土坑	西区	円形	N－56°－W	0.6	0.6	0.5		
46号土坑	西区	不整円形	N－56°－W	1.0	0.9	0.2		
47号土坑	西区	円形	N－88°－E	1.3	1.1	0.4	縄文土器	
48号土坑	西区	円形	N－21°－E	0.6	0.6	0.5	縄文土器、黒曜石片	
49号土坑	西区	不整形	N－59°－E	1.8	1.7	0.4	縄文土器	
50号土坑	西区	楕円形	N－59°－W	2.0	0.9	0.4		

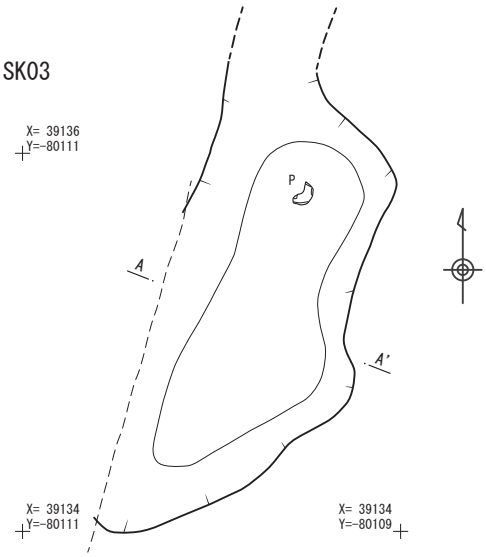
第62表　土坑　一覧表（２）

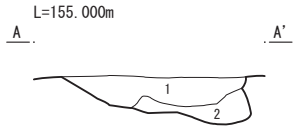
遺構名称	調査区	形状	主軸方位	規模(m)			出土遺物	所見
				長軸	短軸	深さ		
51号土坑	西区	円形	N－23°－E	2.0	1.9	0.4	縄文土器、土師器甕	
52号土坑	西区	楕円形	N－27°－E	2.9	1.0	0.4	縄文土器	
53号土坑	西区	円形	N－59°－W	0.7	0.6	0.2		
54号土坑	西区	円形	N－89°－E	0.6	0.6	0.2	縄文土器	
55号土坑	西区	長方形	N－83°－E	3.2	1.7	0.6	縄文土器、土師器甕、陶器片	56号土坑と重複
56号土坑	西区	長方形	N－26°－W	4.8	2.5	1.1	縄文土器	55号土坑と重複
57号土坑	西区	円形	N－25°－E	1.0	0.9	0.1		
58号土坑	西区	長方形	N－58°－W	3.2	2.7	0.5	縄文土器、弥生土器、土師器甕、黒曜石片	11号竪穴建物跡と重複
59号土坑	東区	不整楕円形	N－37°－E	2.7	1.5	0.4		
60号土坑	東区	楕円形	N－ 4°－W	1.0	0.6	0.5	須恵器大甕、砥石、金属製品	礫が多量
61号土坑	東区	円形	N－42°－E	0.5	0.4	0.3		
62号土坑	東区	長方形	N－71°－W	1.3	0.9	0.1	縄文土器、陶磁器片	
63号土坑	東区	不整楕円形	N－49°－W	3.9	1.4	0.3	弥生土器	
64号土坑	欠番	－	－	－	－	－	－	
65号土坑	欠番	－	－	－	－	－	－	
66号土坑	東区	不整長方形	N－ 3°－W	1.0	0.6	0.1		
67号土坑	東区	不整円形	N－22°－E	0.8	0.5	0.2		焼土が多量に分布
68号土坑	東区	楕円形	N－65°－E	3.9	1.1	0.2	内斜口縁坏	人頭大の礫数石が並ぶ
69号土坑	東区	不整形	N－54°－E	1.3	1.1	0.8	土師器片	拳大の礫が多量



第252図　１・２号土坑　平面図・断面図

SK03

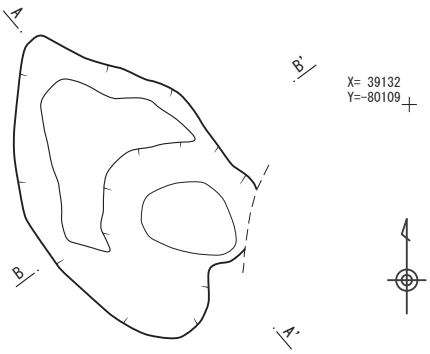


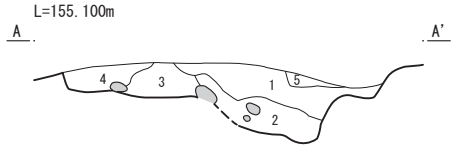


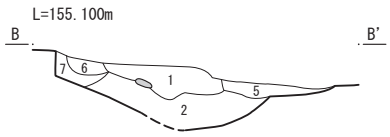
３号土坑(SPA-A')

1	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
2	黄褐色（10YR 5/6）	ローム主体。黒色土混じる。しまりやや強、粘性やや弱。

SK04

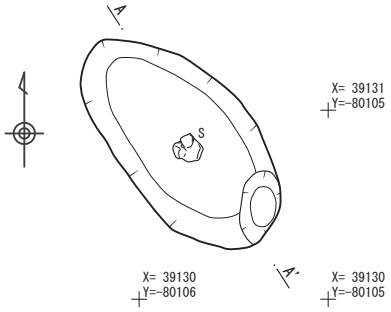


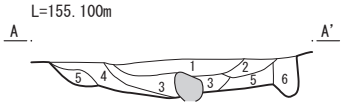




石

SK05





５号土坑(SPA-A')

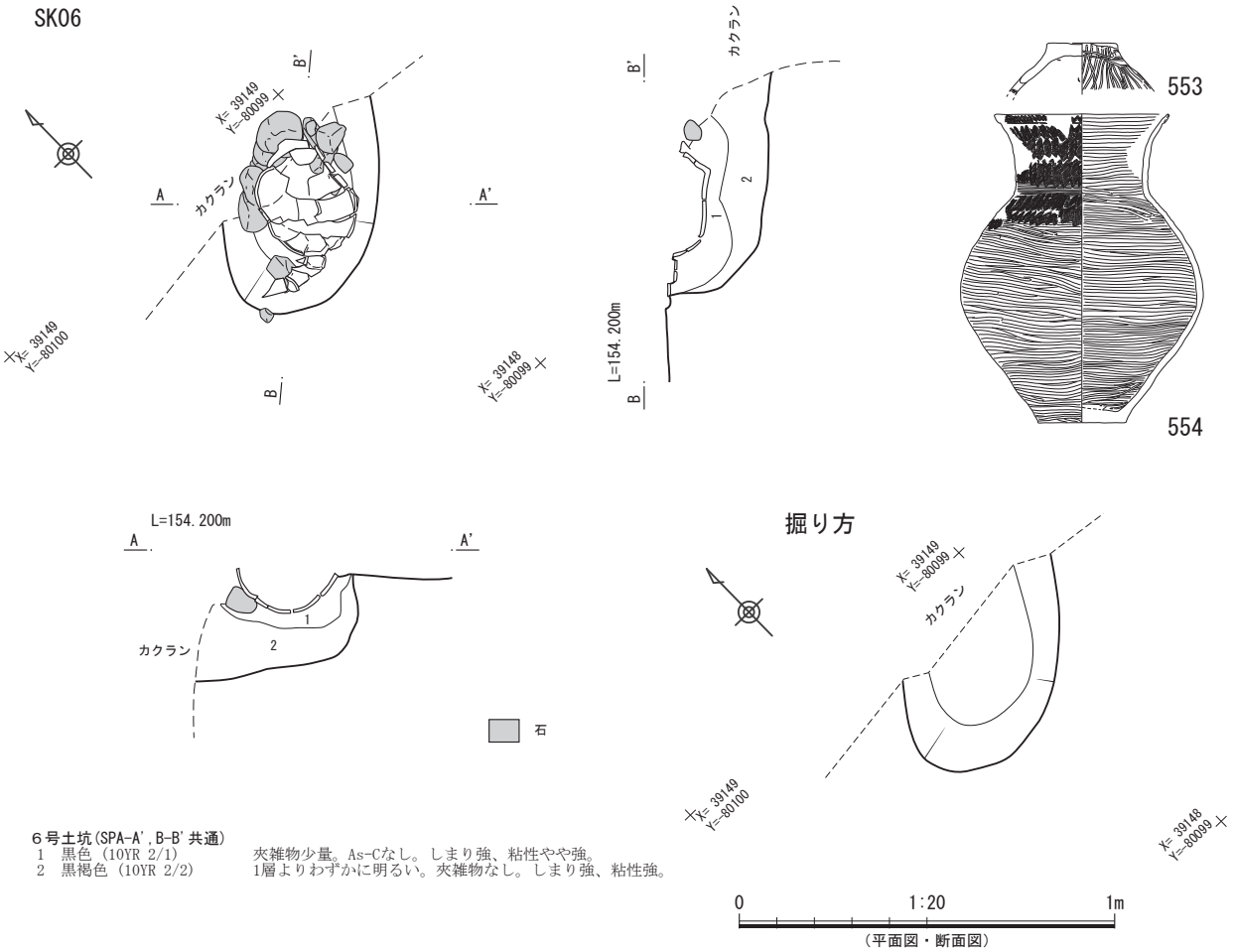
1	黒色（10YR 2/1）	ローム粒子(φ1～2mm)少量。As-YP含む。白色軽石やや多量。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色（10YR 3/1）	As-YP少量。ローム混。しまり強、粘性弱。
3	灰黄褐色（10YR 4/2）	軽石(φ5cm)少量。ローム混。しまりやや強、粘性やや弱。
4	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	しまりやや強、粘性やや強。
5	黄褐色（10YR 5/6）	ローム主体。しまりやや強、粘性やや強。
6	褐灰色（10YR 4/1）	土がボソボソ。木の根か。しまり弱、粘性弱。

４号土坑(SPA-A',B-B'共通)

1	黄褐色（10YR 5/6）	ローム主体に黒色土混。As-YP粒子含む。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色ローム粒子(φ3～5mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
3	明黄褐色（10YR 6/6）	黒褐色土混。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
4	黒褐色（10YR 3/1）	ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。炭化物、焼土含む。しまり強、粘性弱。
5	黒褐色（10YR 3/1）	ロームブロック(φ3～5cm)やや多量。しまりやや弱、粘性弱。カクラン。
6	黒褐色（10YR 3/2）	黒色土ブロック(φ10cm)含む。ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
7	明黄褐色（10YR 6/8）	ローム主体。しまりやや強、粘性やや強。

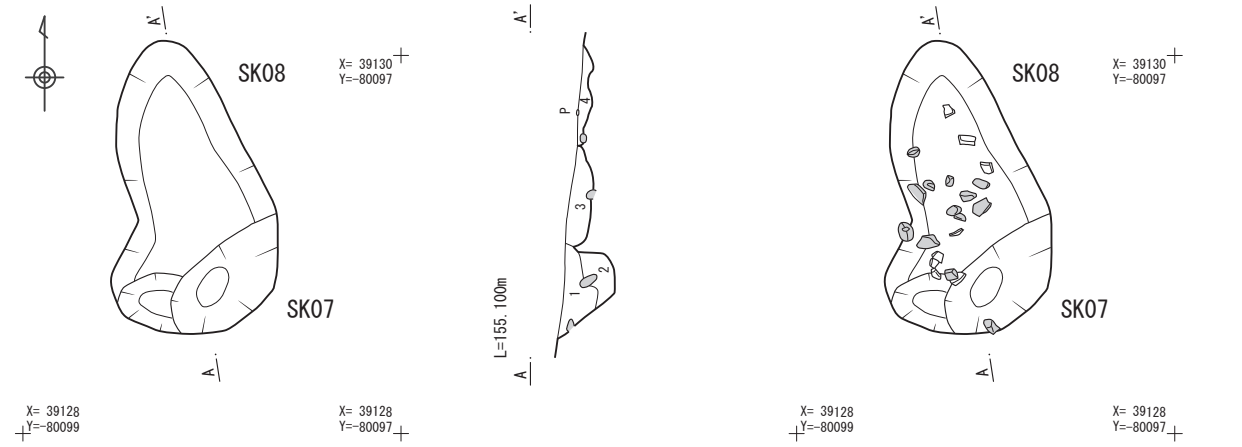
0　1:40　1m
（平面図・断面図）

第253図　３～５号土坑　平面図・断面図



６号土坑(SPA-A',B-B'共通)

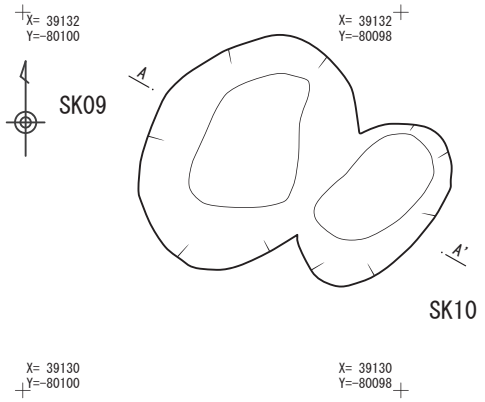
1	黒色（10YR 2/1）	夾雑物少量。As-Cなし。しまり強、粘性やや強。
2	黒褐色（10YR 2/2）	1層よりわずかに明るい。夾雑物なし。しまり強、粘性強。

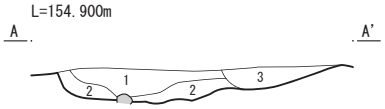


７・８号土坑(SPA-A')

1	黒褐色（10YR 3/1）	ローム粒子(φ1～2mm)少量。炭化物含む。しまり強、粘性やや強。
2	黒褐色（10YR 3/2）	ローム粒子(φ2～3mm)全体的に混じる。礫含む。しまり強、粘性強。
3	黒褐色（10YR 3/1）	ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
4	黒色（10YR 2/1）	軽石含む。しまり強、粘性弱。

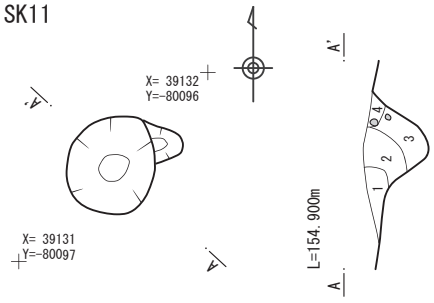
第254図　６～８号土坑　平面図・断面図



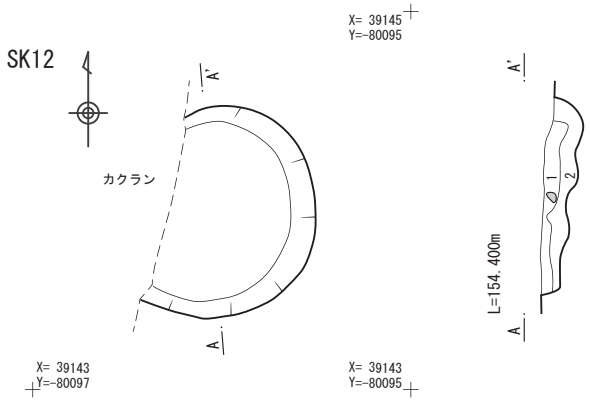


９号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。As-YP含む。しまり強、粘性弱。
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム粒子、ブロック多く混じる。しまり強、粘性やや強。

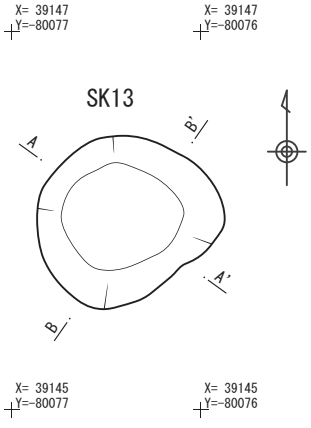
10号土坑(SPA-A')
3　灰黄褐色（10YR 4/2）　ロームブロック(φ3～5cm)やや少量。黒色土混。しまり強、粘性やや弱。

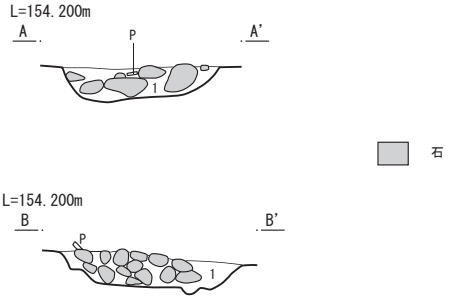


11号土坑(SPA-A')
1　明黄褐色（10YR 6/6）　ロームを主体とし、黒色土が混じる。
2　暗褐色（10YR 3/3）　夾雑物少量。
3　暗褐色（10YR 3/3）　白色小粒子(軽石か)少量混じる。
4　暗褐色（10YR 3/3）　ローム(φ2～3mm)やや少量。礫含む。

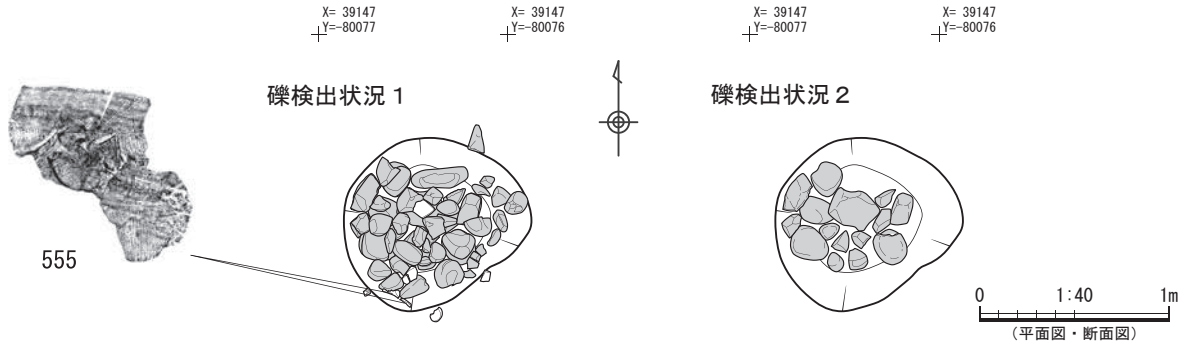


12号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 2/2）　ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム粒子(φ2～3mm)少量、ブロック(φ3～5cm)やや少量。しまり強、粘性やや強。

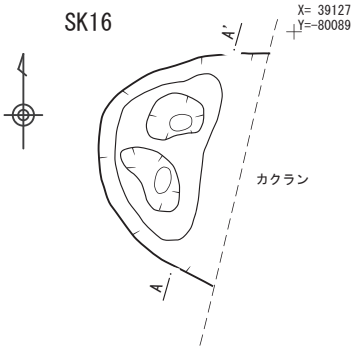


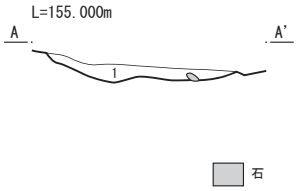


13号土坑(SPA-A',B-B'共通)
1　黒色（10YR 2/1）　ローム、軽石類は含まない。しまり弱、粘性やや弱。全体的にボソボソする。

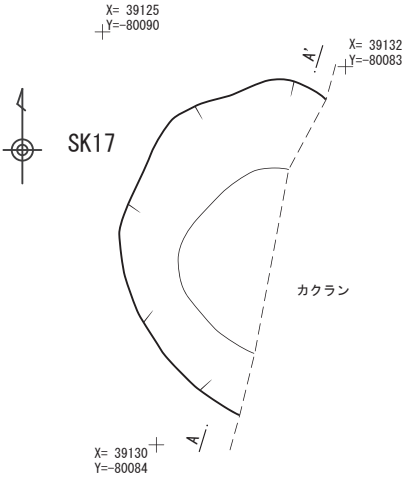


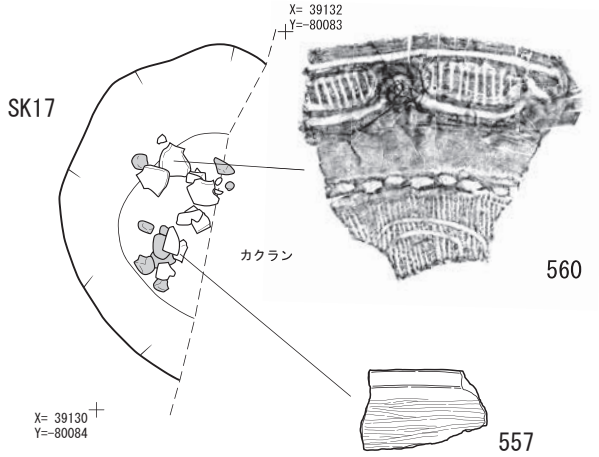
第255図　９～13号土坑　平面図・断面図

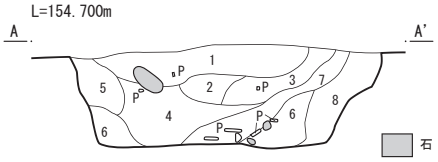




16号土坑(SPA-A')
1　暗褐色（10YR 3/3）　ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。

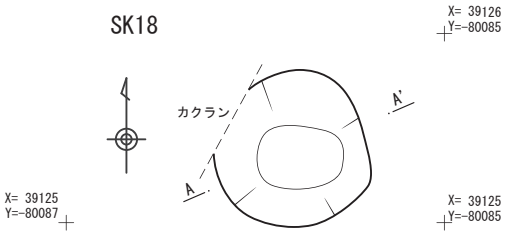


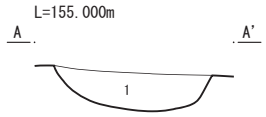




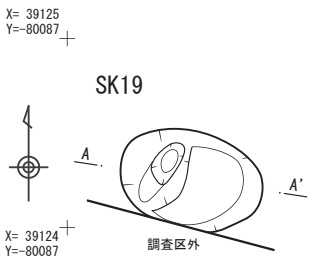
17号土坑(SPA-A')

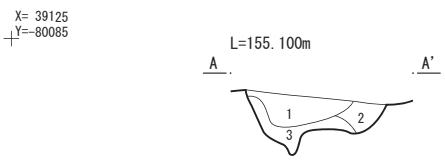
1	黒色（10YR 2/1）	ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。小礫含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒褐色（10YR 3/1）	焼土が集中。しまりやや強、粘性やや弱。
3	黒色（10YR 2/1）	ローム粒子(φ1～2mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
4	黒褐色（10YR 3/1）	ローム粒子(φ2～3mm)多量。礫、遺物含む。しまり強、粘性やや強。
5	灰黄褐色（10YR 4/2）	ローム粒子(φ2～3mm)多量。しまり強、粘性やや強。
6	灰黄褐色（10YR 4/2）	ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。赤褐色粒子(φ2～3mm)微量。しまり強、粘性強。
7	黒褐色（10YR 3/1）	ローム粒子(φ3～5mm)やや少量。遺物多く含む。しまり強、粘性やや強。
8	黄褐色（10YR 5/6）	ローム主体。赤褐色粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。



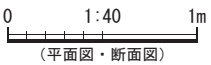


18号土坑(SPA-A')
1　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。ブロック(φ1～2cm)少量。小礫含む。しまりやや強、粘性弱。

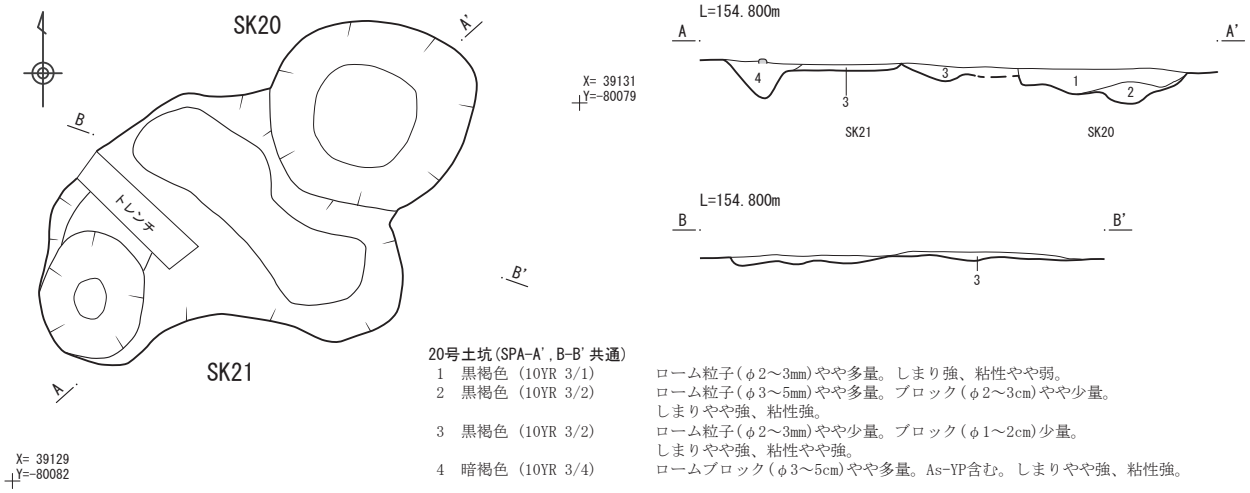




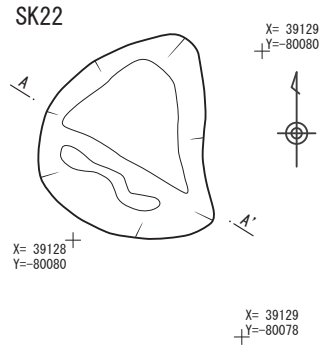
19号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ1～2mm)多量。炭化物含む。しまり強、粘性やや強。
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ロームブロック(φ2～3cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
3　褐色（10YR 4/4）　ローム多く混じる。しまり強、粘性やや強。



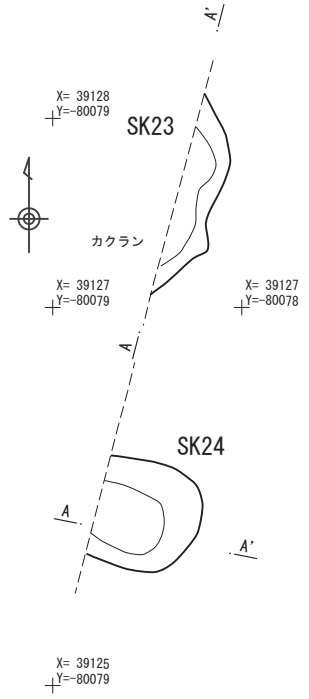
第256図　16～19号土坑　平面図・断面図



20号土坑(SPA-A',B-B'共通)
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ3～5mm)やや多量。ブロック(φ2～3cm)やや少量。しまりやや強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。ブロック(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
4　暗褐色（10YR 3/4）　ロームブロック(φ3～5cm)やや多量。As-YP含む。しまりやや強、粘性強。



22号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム粒子(φ1～2mm)全体的に混じる。しまり強、粘性弱。
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム粒子(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
3　明黄褐色（10YR 6/6）　ローム主体。しまり強、粘性やや強。
4　明黄褐色（10YR 7/6）　ローム主体。赤褐色粒子少量。しまりやや強、粘性やや強。

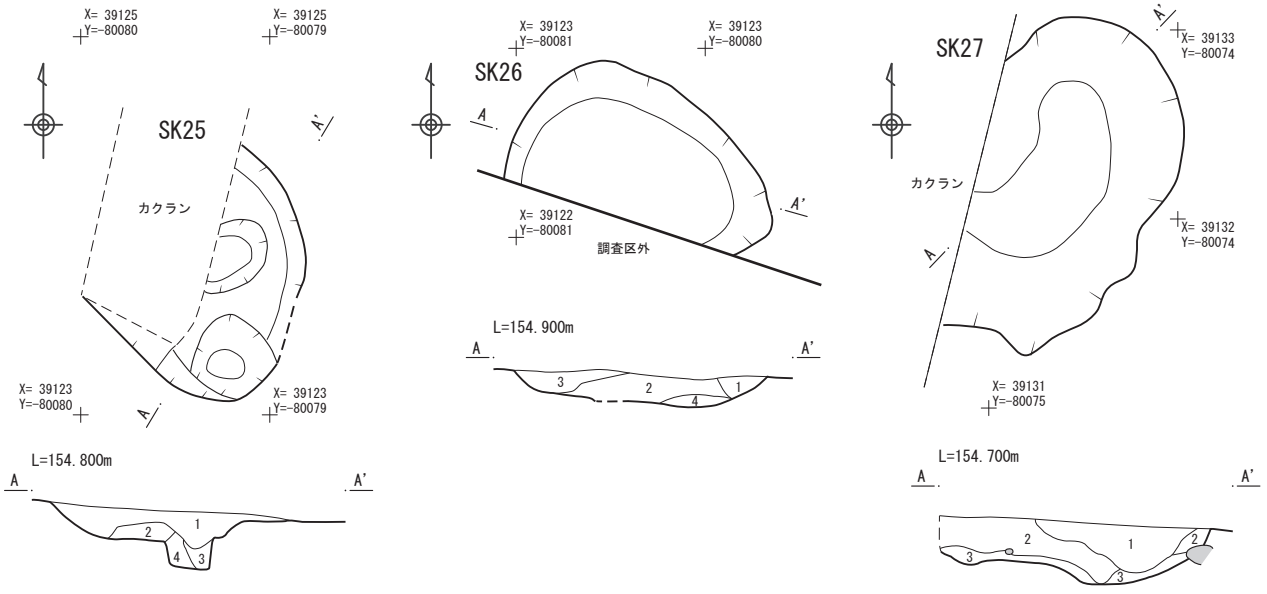


23号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～5mm)多量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ3～5mm)やや多量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
3　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム粒子(φ3～7mm)多量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。

24号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。礫含む。しまり強、粘性強。
2　暗褐色（10YR 3/3）　ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性強。

0　1:40　1m
（平面図・断面図）

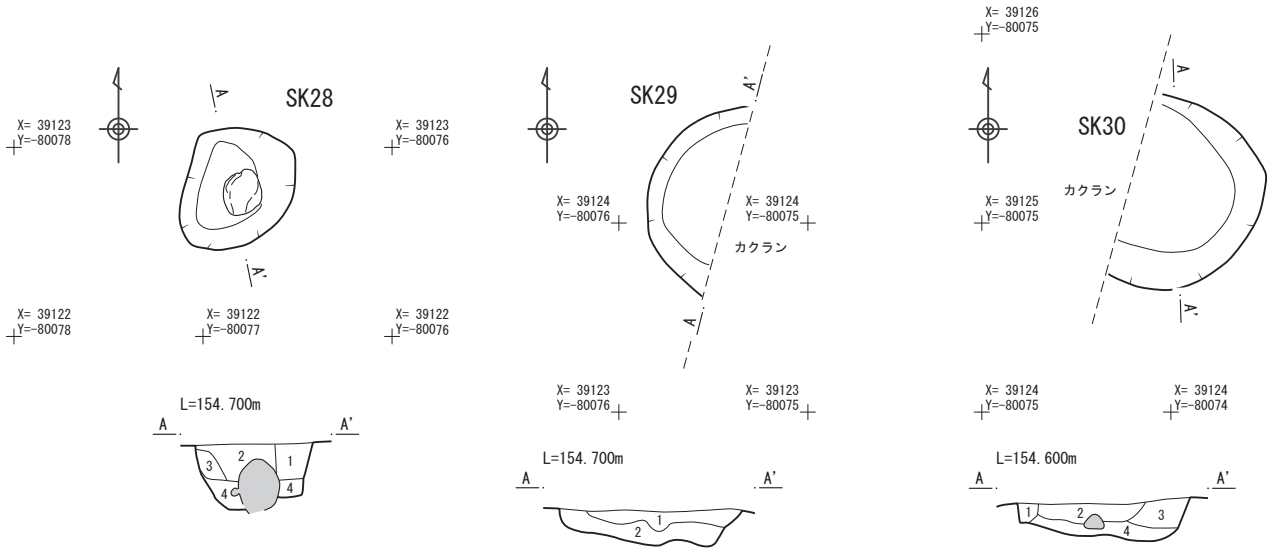
第257図　20～24号土坑　平面図・断面図



25号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム粒子(φ1～2mm)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ1～2mm)全体的に混じる。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性強。
4　黒褐色（10YR 3/2）　ロームブロック(φ3～5cm)やや多量。しまりやや強、粘性強。

26号土坑(SPA-A')
1　褐色（10YR 4/4）　軽石状粒子、炭化物含む。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～3mm)やや多量、ブロック(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
4　明黄褐色（10YR 6/6）　ローム主体。しまり強、粘性やや強。

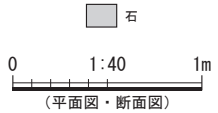
27号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 2/2）　ローム粒子(φ2～3mm)少量。赤褐色粒子(φ3～5mm)少量。小礫含む。しまり強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ1～2mm)やや少量。赤褐色粒子(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
3　黄褐色（10YR 5/6）　ローム主体。しまりやや強、粘性弱。



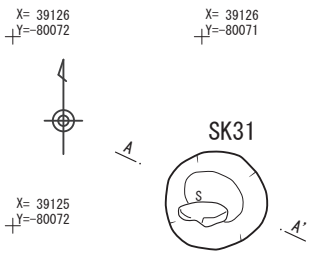
28号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 2/2）　ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
3　暗褐色（10YR 3/3）　ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性弱。
4　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。赤褐色粒子含む。しまり強、粘性強。

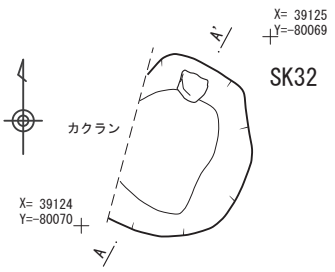
29号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム粒子(φ3～5mm)、ブロック(φ5～7cm)少量。しまり強、粘性強。

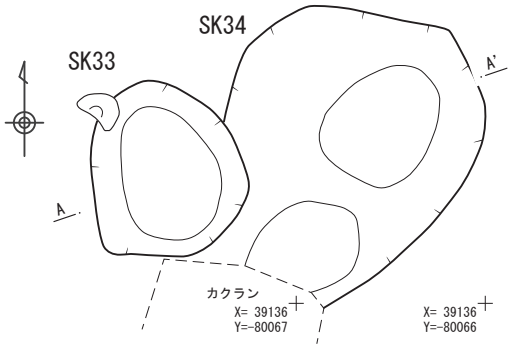
30号土坑(SPA-A')
1　褐灰色（10YR 4/1）　ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまり弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 2/2）　ローム粒子(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム粒子(φ2～3mm)やや多量、ブロック(φ3～5cm)やや多量。赤褐色粒子含む。しまりやや強、粘性やや強。
4　黒褐色（10YR 3/1）　ローム充填。黒色土が混じる。しまりやや強、粘性やや強。

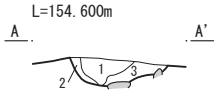


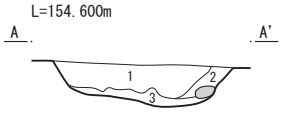
第258図　25～30号土坑　平面図・断面図

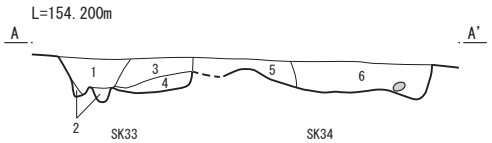












31号土坑(SPA-A')

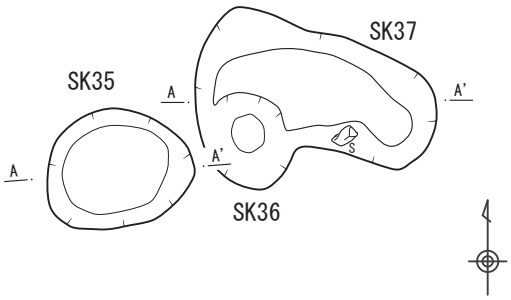
1	灰黄褐色 (10YR 4/2)	ローム粒子(φ2～3mm)多量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。ローム粒子(φ3～5mm)やや少量。しまり強、粘性弱。
3	灰黄褐色 (10YR 4/2)	As-C混。ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。

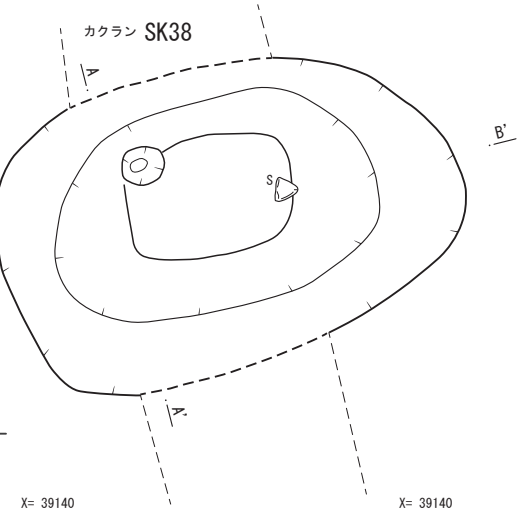
32号土坑(SPA-A')

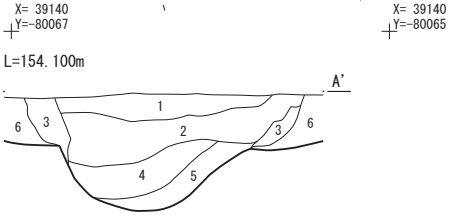
1	黒褐色 (10YR 3/2)	As-Aか。ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
2	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	As-A混。ローム主体。しまりやや強、粘性やや弱。
3	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	ローム混。しまりやや強、粘性やや強。

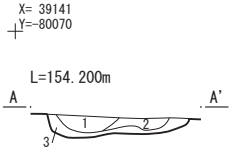
33・34号土坑(SPA-A')

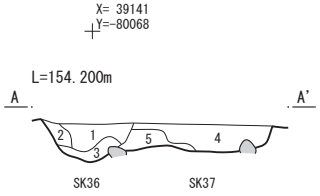
1	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。
2	明黄褐色 (10YR 6/8)	ローム主体。しまり強、粘性弱。掘り過ぎ。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。炭化物含む。しまり強、粘性やや強。
4	灰黄褐色 (10YR 4/2)	ローム粒子(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
5	暗褐色 (10YR 3/3)	ローム全体に混。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
6	黒褐色 (10YR 3/1)	As-A混。As-YP、礫含む。しまり強、粘性弱。

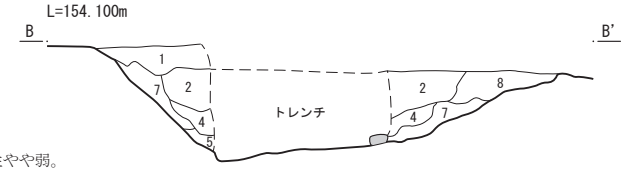












35号土坑(SPA-A')

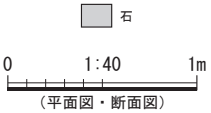
1	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)少量、ブロック(φ3～5cm)少量。礫含む。しまりやや強、粘性やや強。
2	黒褐色 (10YR 2/2)	ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
3	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	ロームブロック(φ2～3cm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。

36・37号土坑(SPA-A')

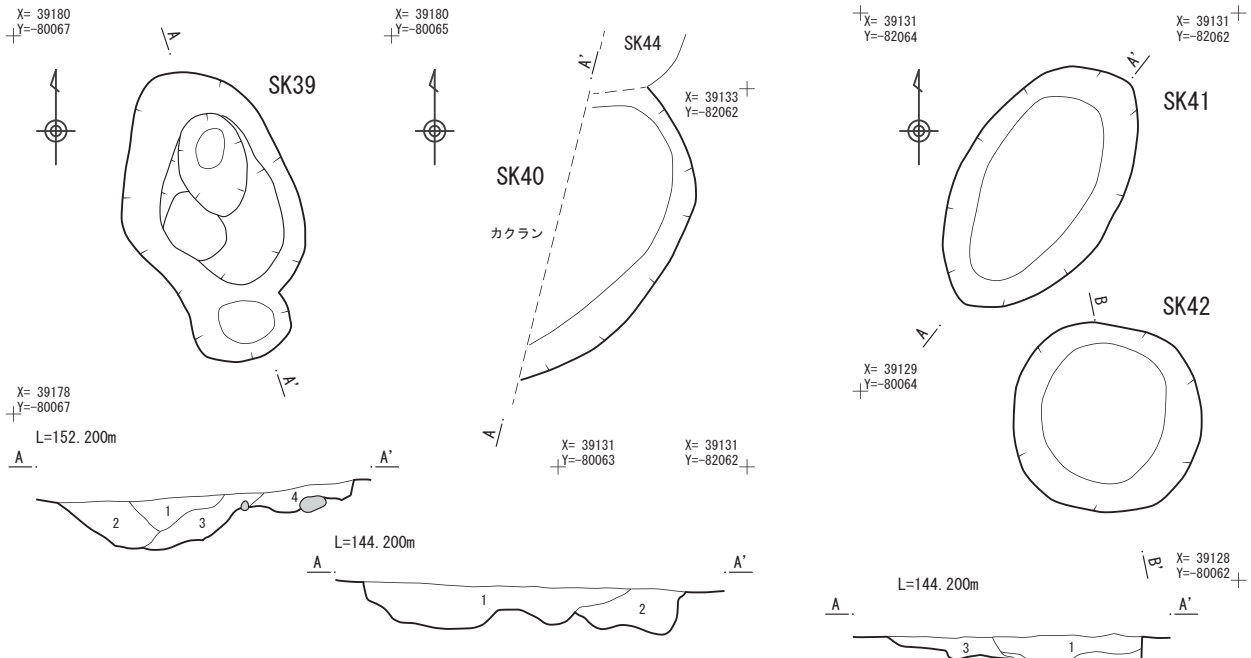
1	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性強。
2	灰黄褐色 (10YR 4/2)	ローム(φ1～2mm)微量。しまり強、粘性やや強。
3	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	ローム混じる。拳大の礫含む。しまり強、粘性やや強。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)やや少量、ブロック(φ1～2cm)少量。As-YP、礫含む。しまり強、粘性やや弱。
5	黒色 (10YR 2/1)	ロームブロック(φ5～7cm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。

38号土坑(SPA-A',B-B'共通)

1	黒褐色 (10YR 2/2)	ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ3～5mm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
3	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	ローム多く混じる。しまりやや強、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ1～2cm)やや多量。礫、As-YP含む。しまり強、粘性弱。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ3～5cm)多量。しまり強、粘性やや強。
6	褐色 (10YR 4/4)	地山。ローム。しまり強、粘性強。
7	灰黄褐色 (10YR 4/2)	ローム(φ3～5cm)やや多量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。
8	灰黄褐色 (10YR 4/2)	ローム(φ1～2cm)少量。礫、As-YP少量。しまり強、粘性やや強。



第259図　31～38号土坑　平面図・断面図

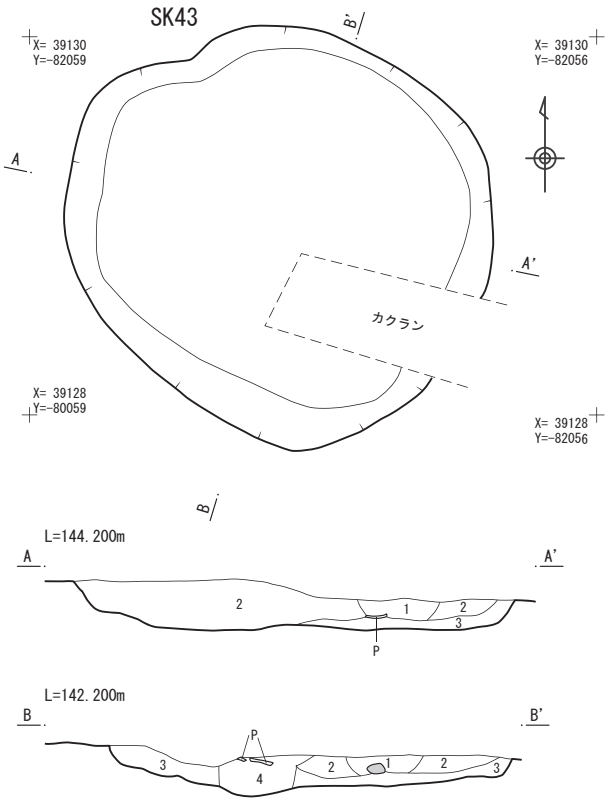


39号土坑(SPA-A')

1	灰黄褐色 (10YR 4/2)	ローム(φ2～3mm)少量。As-YP、黒色土ブロック混。しまり極めて強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ1～2mm)少量、(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性やや強。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)やや多量。As-YP含む。しまり極めて強、粘性やや強。
4	灰黄褐色 (10YR 4/2)	ローム(φ1～2mm)やや少量。As-YP含む。しまり極めて強、粘性やや強。

40号土坑(SPA-A')

1	黒色 (10YR 2/1)	軽石状の粒子含む。ローム(φ2～3cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。



43号土坑(SPA-A',B-B'共通)

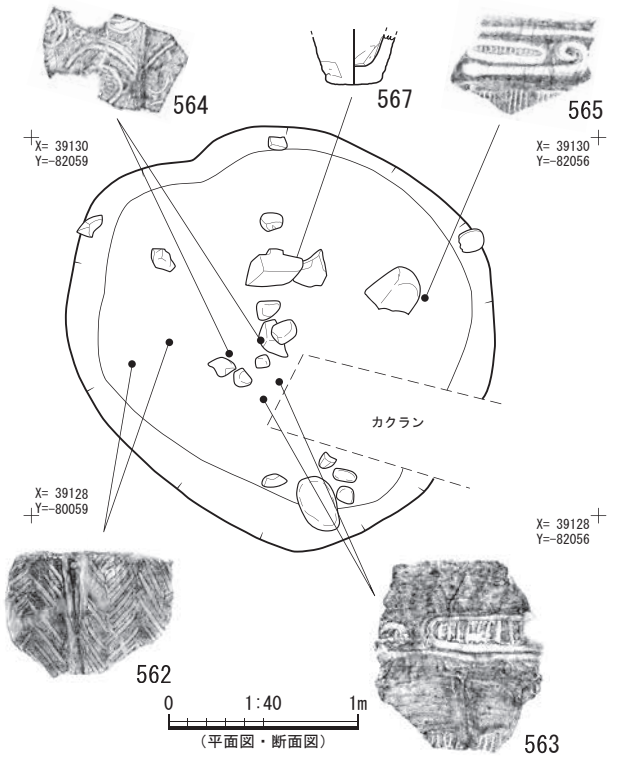
1	黒色 (10YR 2/1)	カクラン。ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ1～2mm)少量。As-YP。しまり強、粘性やや強。
3	黒褐色 (10YR 2/2)	ローム(φ1～2mm)僅か。しまり強、粘性やや強。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	カクラン。しまり弱、粘性弱。

41号土坑(SPA-A')

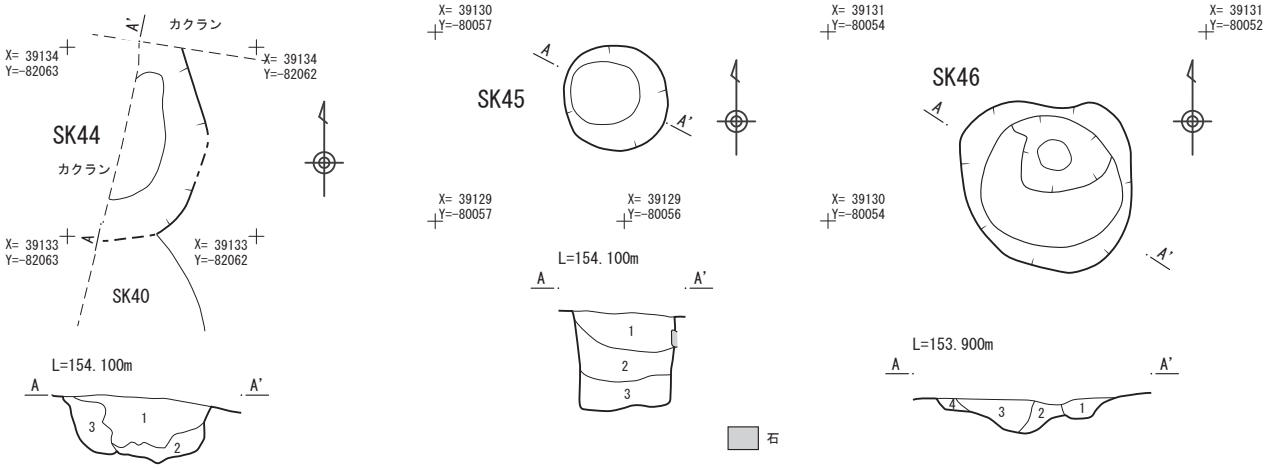
1	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)、軽石状粒子含む。しまり強、粘性やや強。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ3～5cm)少量。しまりやや強、粘性強。
3	暗褐色 (10YR 3/3)	ローム(φ3～5mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。

42号土坑(SPB-B')

1	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)少量。礫含む。しまり強、粘性やや強。
2	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	ローム(φ2～5mm)多量。しまり強、粘性やや弱。



第260図　39～43号土坑　平面図・断面図



44号土坑(SPA-A')

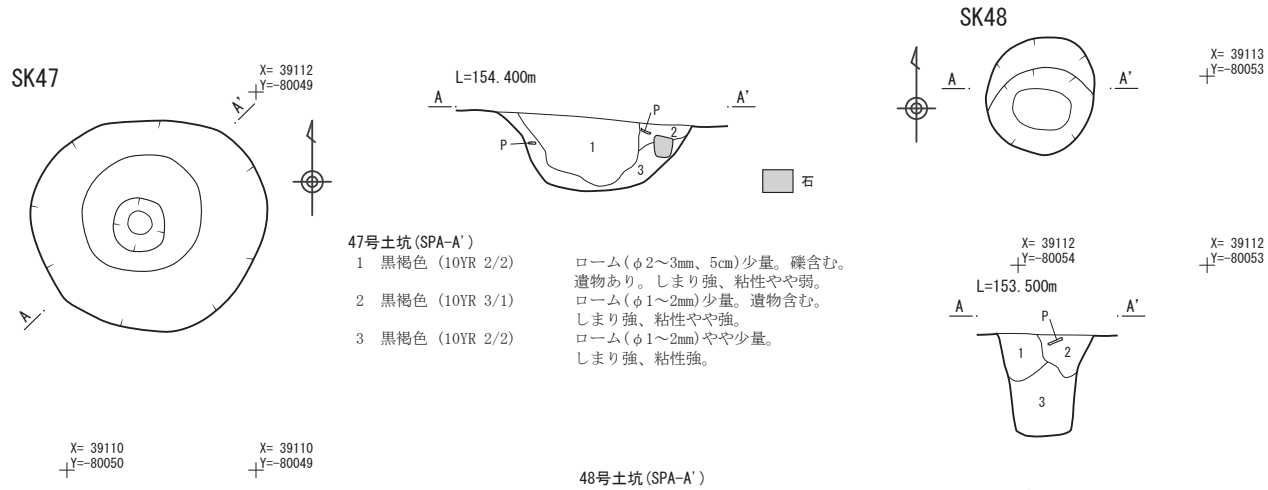
1	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)少量。As-YP少量。しまり強、粘性やや弱。
2	灰黄褐色 (10YR 4/2)	ローム(φ2～3mm)多量。しまりやや強、粘性やや強。
3	灰黄褐色 (10YR 4/2)	ローム(φ3～5mm)多量。しまりやや強、粘性やや弱。

45号土坑(SPA-A')

1	黒褐色 (10YR 2/3)	ローム(φ2～3mm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
2	黒褐色 (10YR 2/2)	ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
3	黒色 (10YR 2/1)	ローム(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性強。

46号土坑(SPA-A')

1	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性強。
2	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	ローム(φ2～3mm)多量。しまり強、粘性強。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)、ブロック(φ1～2cm)やや少量。しまり強、粘性強。
4	黒色 (10YR 2/1)	As-YPブロック含む。しまりやや弱、粘性やや弱。

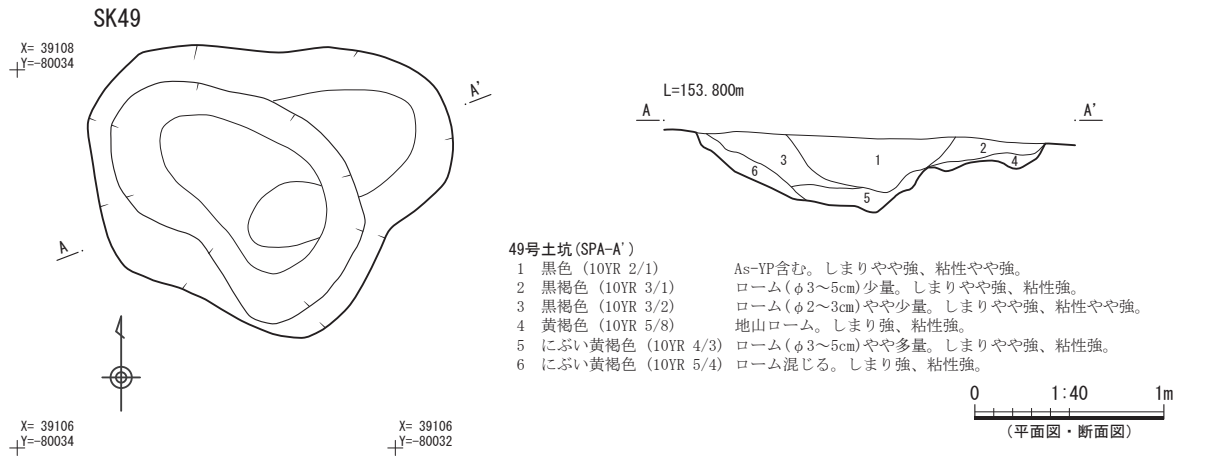


47号土坑(SPA-A')

1	黒褐色 (10YR 2/2)	ローム(φ2～3mm、5cm)少量。礫含む。遺物あり。しまり強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ1～2mm)少量。遺物含む。しまり強、粘性やや強。
3	黒褐色 (10YR 2/2)	ローム(φ1～2mm)やや少量。しまり強、粘性強。

48号土坑(SPA-A')

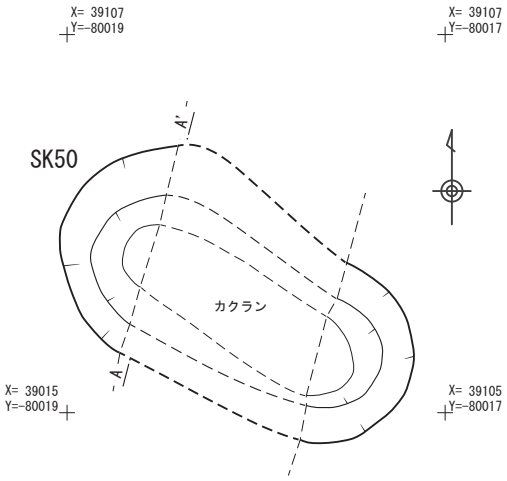
1	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ1～2mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ1～2mm)少量。赤色粒子。しまりやや強、粘性弱。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ2～3mm)少量。As-YP少量。しまり強、粘性強。

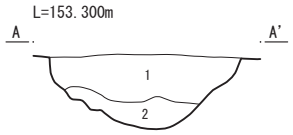


49号土坑(SPA-A')

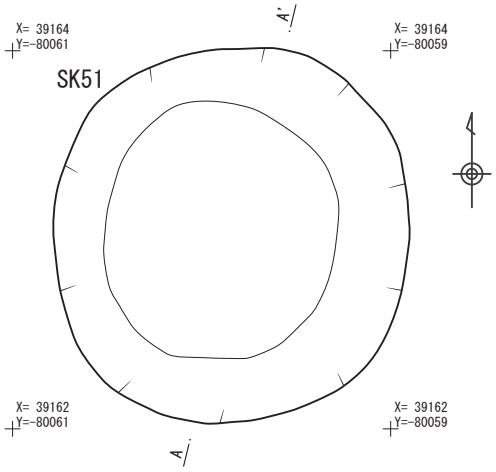
1	黒色 (10YR 2/1)	As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ3～5cm)少量。しまりやや強、粘性強。
3	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ2～3cm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
4	黄褐色 (10YR 5/8)	地山ローム。しまり強、粘性強。
5	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	ローム(φ3～5cm)やや多量。しまりやや強、粘性強。
6	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	ローム混じる。しまり強、粘性強。

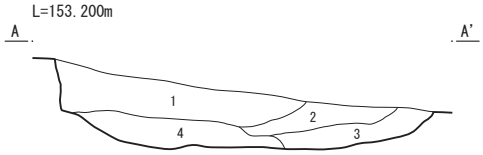
第261図　44～49号土坑　平面図・断面図



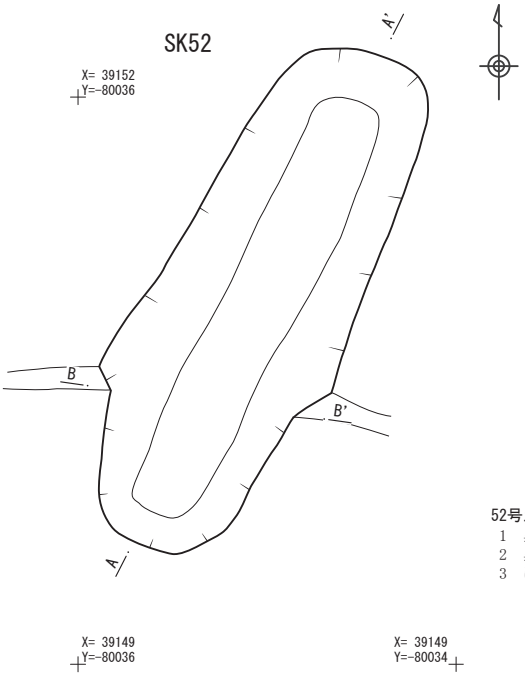


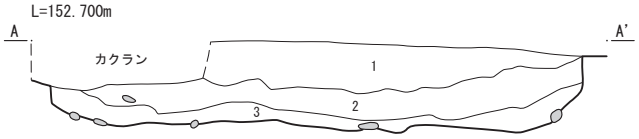
50号土坑(SPA-A')
1　黒色（10YR 2/1）　As-C混。As-YP含む。しまりやや強、粘性強。
2　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ1～2mm)やや少量、(φ3～5cm)やや多量。しまりやや強、粘性強。

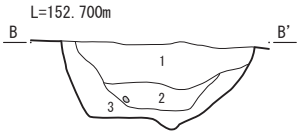




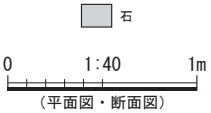
51号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　白色軽石状粒子(φ2～3mm)多量。ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　白色軽石状粒子(φ2～3mm)少量。ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性強。
4　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ3～5mm)やや多量。白色軽石含む。しまり極めて強、粘性やや強。



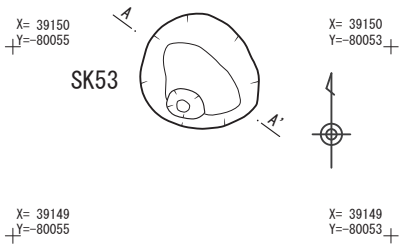


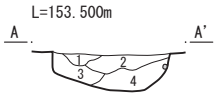


52号土坑(SPA-A',B-B'共通)
1　黒色（10YR 2/1）　As-C混。ローム(φ2～3mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　As-C混。ローム(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや弱。
3　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム(φ3～5mm)やや多量、(φ3～5cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。



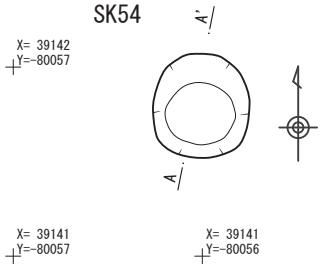
第262図　50～52号土坑　平面図・断面図

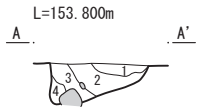




53号土坑(SPA-A')

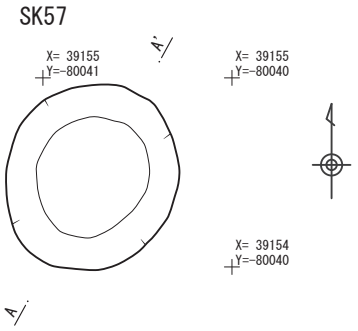
1	黒褐色（10YR 3/1）	As-YP。ローム(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
2	灰黄褐色（10YR 4/2）	ローム(φ1～2mm)少量。しまり極めて強、粘性強。
3	灰黄褐色（10YR 4/2）	ローム(φ5～10cm)少量。しまり強、粘性強。
4	黒褐色（10YR 3/2）	ローム(φ1～2mm)少量。しまり極めて強、粘性強。

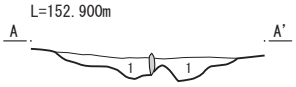




54号土坑(SPA-A')

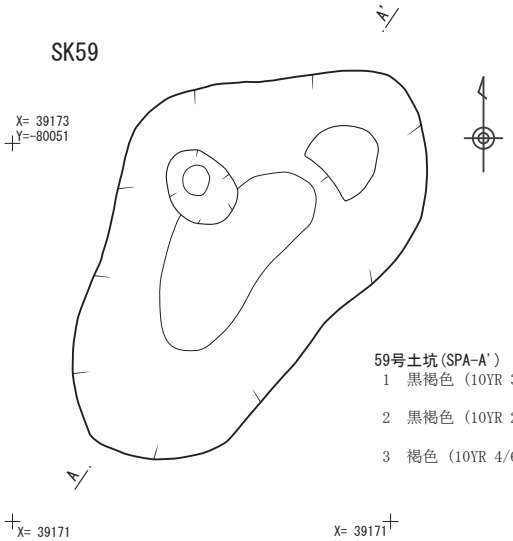
1	黒色（10YR 2/1）	ローム(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
2	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ3～5mm)やや多量、(φ10cm)少量。しまり極めて強、粘性強。
3	黒褐色（10YR 3/1）	ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性強。
4	灰黄褐色（10YR 4/2）	ローム主体。しまり極めて強、粘性強。

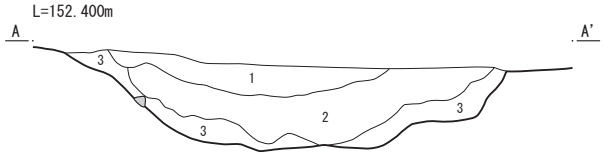




57号土坑(SPA-A')

1	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色シルト(φ2～3cm)少量。しまり強、粘性強。





59号土坑(SPA-A')

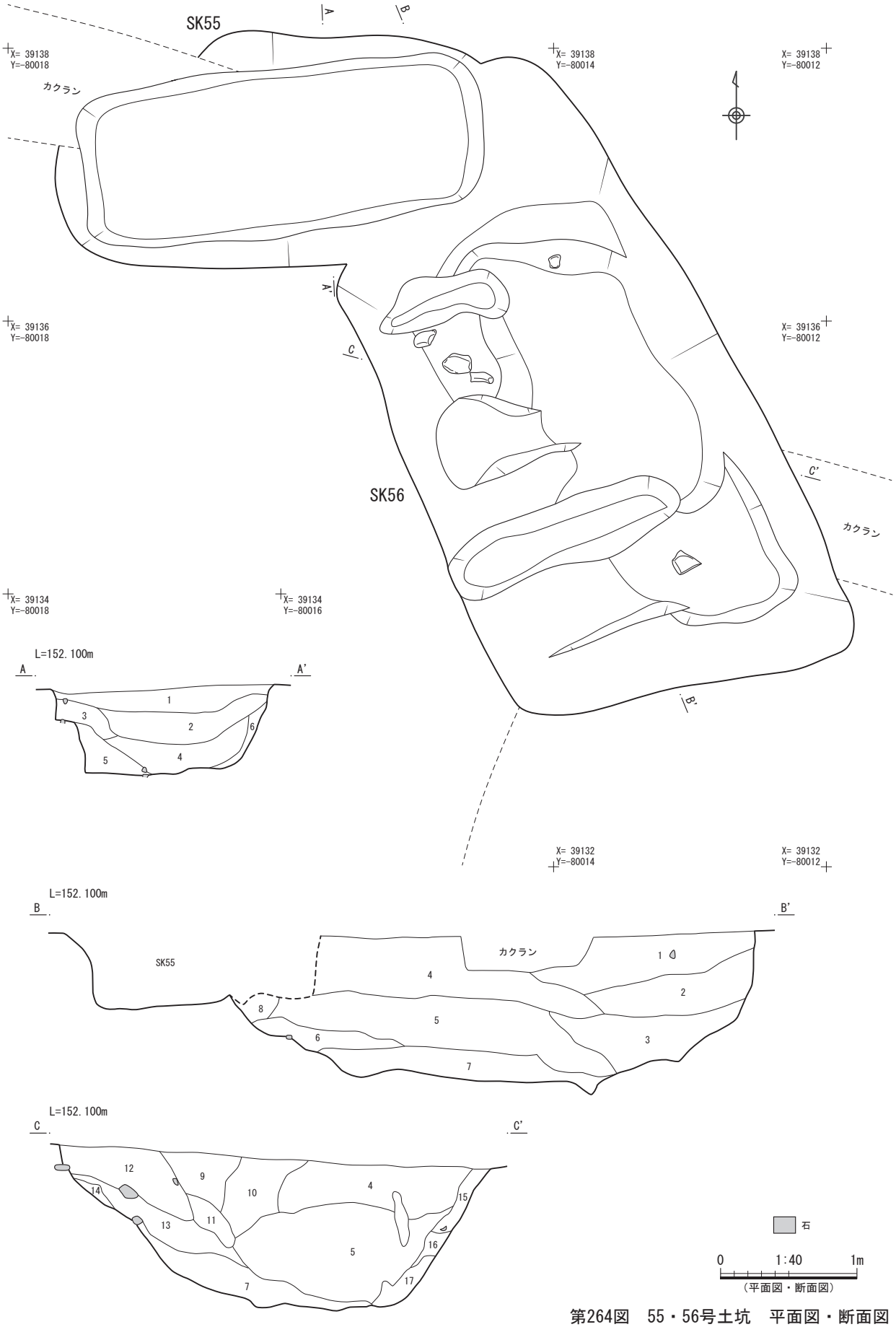
1	黒褐色（10YR 3/1）	白色軽石状粒子(φ1～2mm)やや少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量、(φ1cm)少量。しまり強、粘性やや弱。
2	黒褐色（10YR 2/2）	白色軽石状粒子(φ1～2mm)やや少量。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、ブロック(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
3	褐色（10YR 4/6）	黄褐色シルト主体。しまり強、粘性やや強。

石

0　1:40　1m

（平面図・断面図）

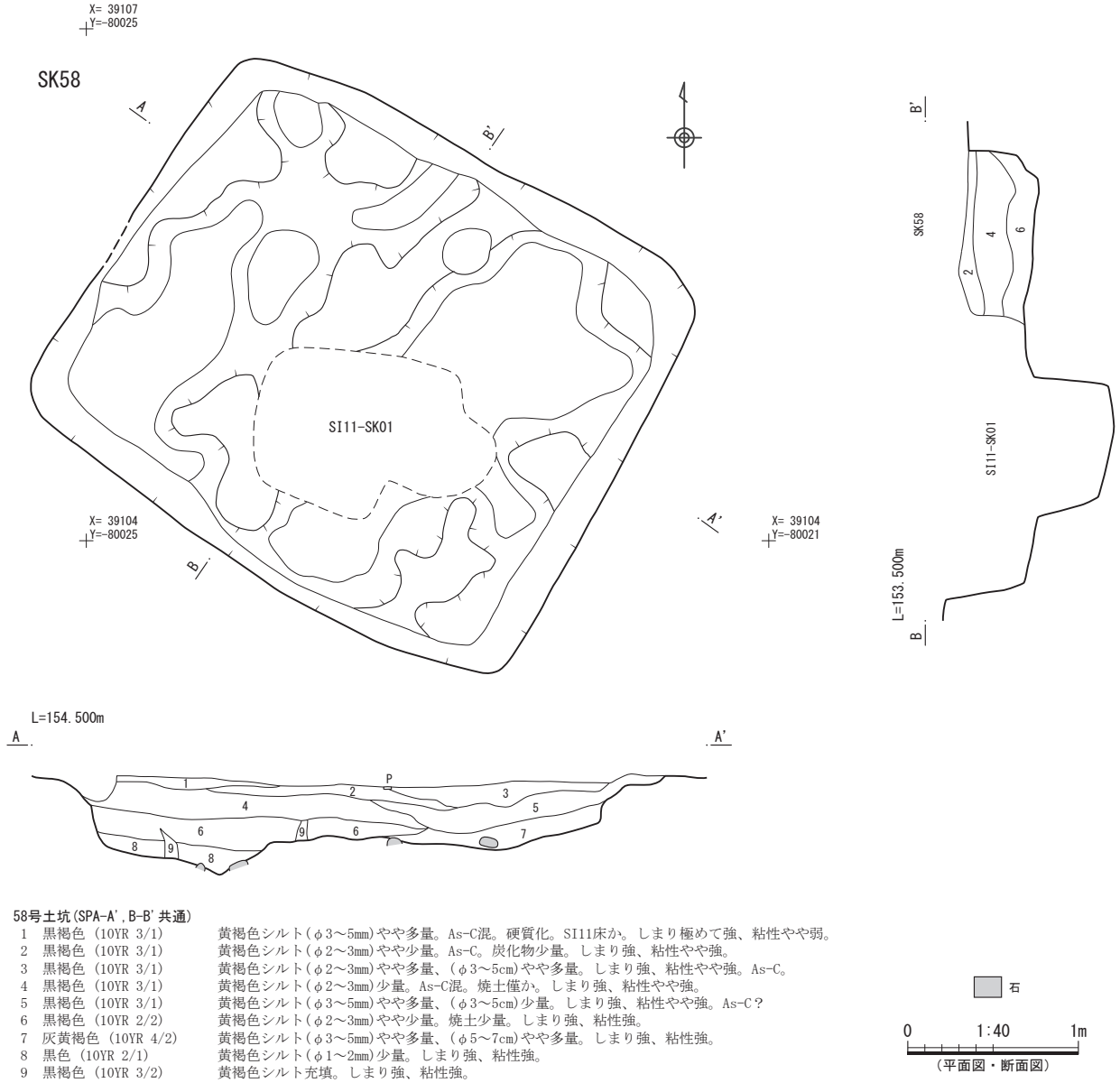
第263図　53・54・57・59号土坑　平面図・断面図



第264図　55・56号土坑　平面図・断面図

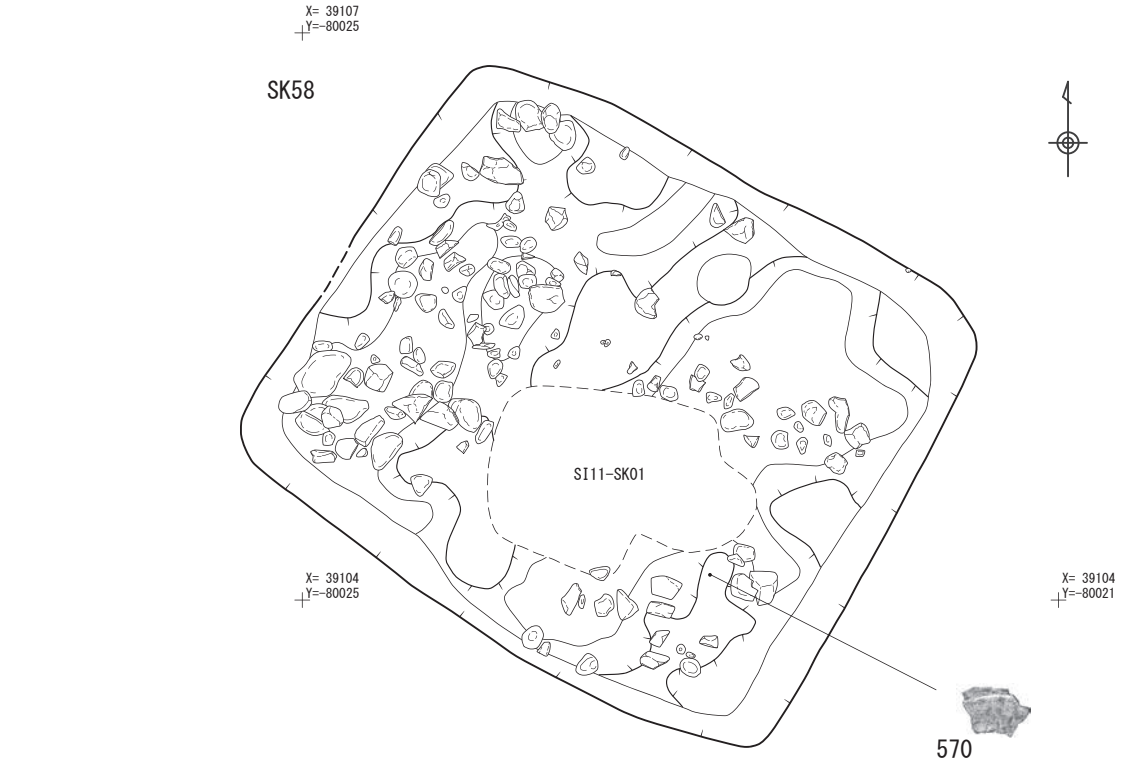
55号土坑(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/1）　As-B混(カクラン溝と重複）。黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
2　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや弱。
3　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性強。
4　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量、(φ3～5cm)少量。しまり強、粘性やや強。
5　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、(φ3～5cm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。
6　灰黄褐色（10YR 4/2）　地山シルト漸移層か。しまりやや強、粘性強。

56号土坑(SPB-B',C-C'共通)
1　黒褐色（10YR 3/1）　白色軽石状粒子(やや多量)。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。褐色土ブロック(φ5～10cm)斑状にやや少量。As-YP含む。炭化物少量。しまり強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　白色軽石状粒子(やや多量)。褐色土ブロック(φ5～10cm)やや多量。As-YP含む。炭化物少量。しまり強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　白色軽石状粒子(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。褐色土ブロック(φ3～5cm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性強。
4　褐灰色（10YR 4/1）　白色軽石状粒子(やや少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。褐色土ブロック(φ5～10cm)多量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
5　黒色（10YR 2/1）　白色軽石状粒子(少量)。As-YP含む。褐色土ブロック(φ10～15cm)少量。ローム(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
6　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ3～5mm)多量、ブロック(φ3～5cm)やや少量。しまり強、粘性強。As-YP。
7　黒色（10YR 2/1）　As-YP、ローム(φ3～5mm)やや多量、ブロック(φ3～5cm)少量。しまり極めて強、粘性強。
8　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルトブロック(φ15～20cm)含む。黒色土混じる。しまり強、粘性強。
9　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
10　褐色（10YR 4/4）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。褐色土ブロック(φ5cm)やや多量。As-YP、遺物含む。しまり強、粘性強。
11　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)多量、(φ1～2cm)少量。褐色土混じる。しまり強、粘性やや強。
12　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。褐色土ブロック(φ5cm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや弱。
13　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量、ブロック(φ2～3cm)少量。礫、As-YP含む。しまり強、粘性強。
14　黄褐色（10YR 5/8）　黄褐色シルト主体。しまり強、粘性強。
15　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5cm)多量。As-YP含む。しまり強、粘性強。
16　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性強。
17　にぶい黄褐色（10YR 5/4）　黄褐色シルト(φ5～7cm)多量。しまり強、粘性強。



58号土坑(SPA-A',B-B'共通)
1　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。As-C混。硬質化。SI11床か。しまり極めて強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。As-C。炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量、(φ3～5cm)やや多量。しまり強、粘性やや強。As-C。
4　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。As-C混。焼土僅か。しまり強、粘性やや強。
5　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ3～5cm)少量。しまり強、粘性やや強。As-C？
6　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3mm)やや少量。焼土少量。しまり強、粘性強。
7　灰黄褐色（10YR 4/2）　黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ5～7cm)やや多量。しまり強、粘性強。
8　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
9　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト充填。しまり強、粘性強。

第265図　58号土坑　平面図・断面図（１）

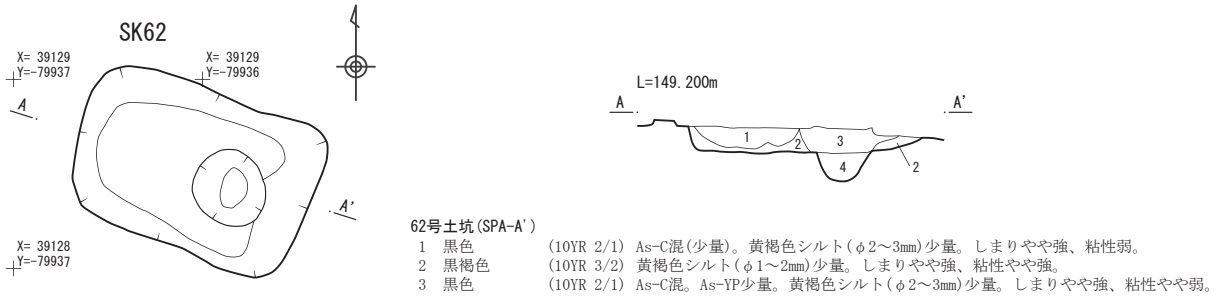


60 号土坑（SPA-A'）

1　灰黄褐色（10YR 6/2）　　As-B のような砂粒子主体。しまり弱、粘性なし。

61号土坑(SPA-A')

1　黒褐色　(10YR 2/2)　As-C混なし。褐色シルト少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒色　　(10YR 2/1)　夾雑物少量。しまりやや強、粘性やや弱。

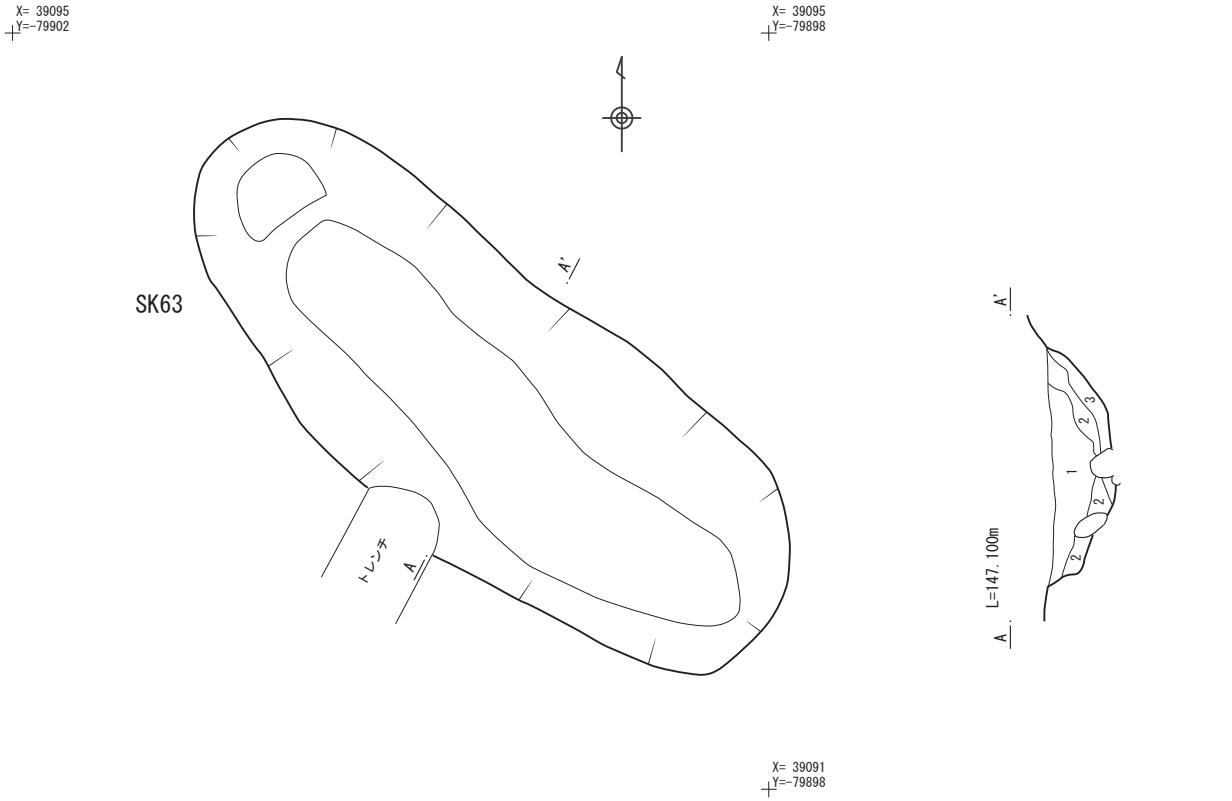


62号土坑(SPA-A')

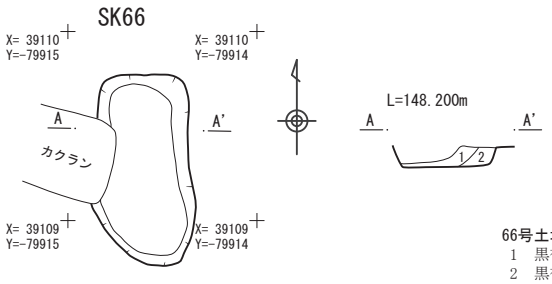
1　黒色　　(10YR 2/1)　As-C混(少量)。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
2　黒褐色　(10YR 3/2)　黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
3　黒色　　(10YR 2/1)　As-C混。As-YP少量。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
4　黒色　　(10YR 2/1)　As-C混。黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。

0　1:40　1m
（平面図・断面図）

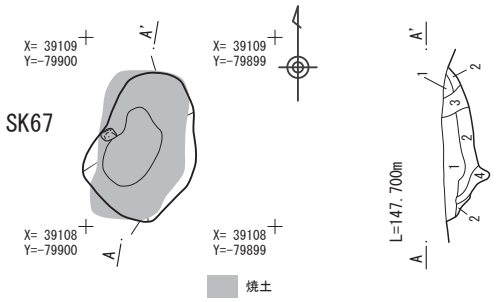
第266図　58（２）・60～62号土坑　平面図・断面図



63号土坑(SPA-A')
1　黒色　(10YR 2/1) As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色　(10YR 3/1) As-C混。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
3　にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 黒褐色土混。黄褐色シルト主体。As-C混なし。しまり強、粘性強。



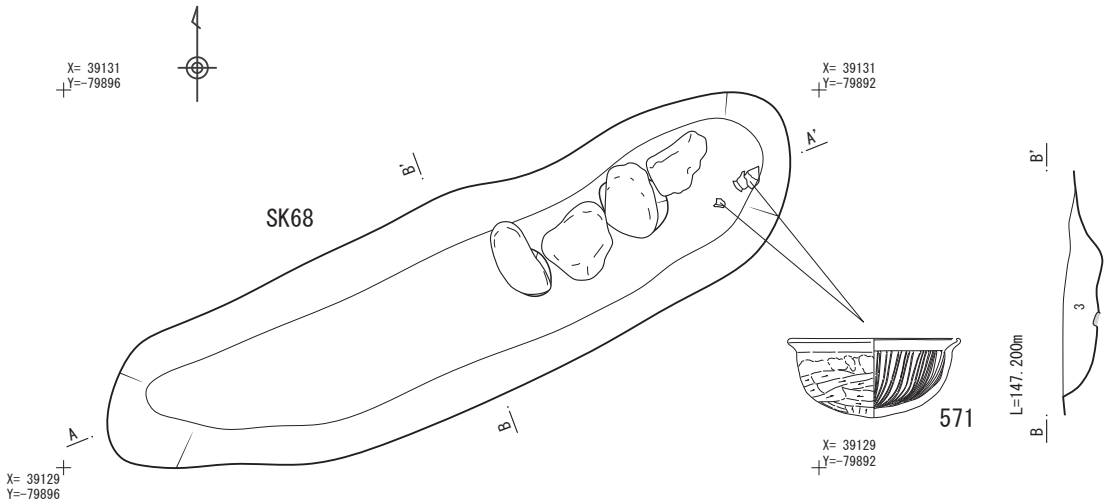
66号土坑(SPA-A')
1　黒褐色 (10YR 3/1)　粒子細かい土でφ1～2mmのAs-Aを含む。
2　黒褐色 (10YR 3/2)　粒子細かく、1層より明るい色調。φ2～3mmのAs-Cを含む。



67号土坑(SPA-A')
1　黒褐色 (10YR 2/2)　As-Cの混入はない。焼土粒子(φ1～3mm)やや多量。
　　焼土ブロック(φ2～3cm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　にぶい黄褐色 (10YR 4/3) As-Cの混入はない。焼土粒子(φ1～3mm)多量。
　　しまり強、粘性やや弱。
3　黒褐色 (10YR 3/2)　木の根痕。しまりやや弱、粘性弱。
4　明黄褐色 (10YR 6/6)　ローム粒子主体。しまり弱、粘性やや弱。

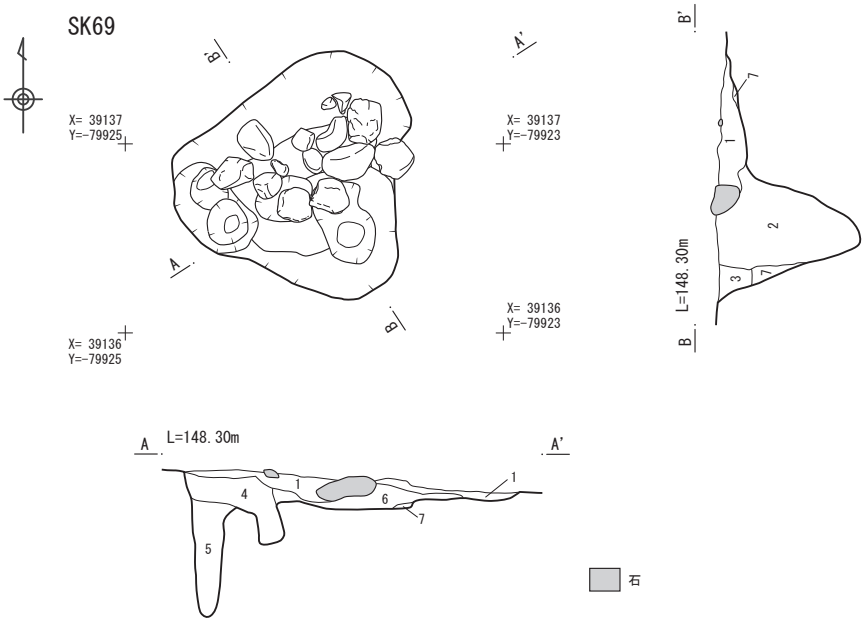
0　1:40　1m
（平面図・断面図）

第267図　63・66・67号土坑　平面図・断面図



68号土坑(SPA-A',B-B'共通)

1	黒色 (10YR 1.7/1)	As-C(やや多量)。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒色 (10YR 2/1)	As-C(やや少量)。As-YP僅かに含む。しまり強、粘性やや弱。
3	黒色 (10YR 2/1)	As-C(少量)。しまり強、粘性やや弱。
4	黒色 (10YR 2/1)	As-C(やや少量)。しまりやや強、粘性やや弱。
5	黒褐色 (10YR 3/1)	土がパサパサ。As-B混。木の根も多い。カクランか。しまりやや弱、粘性弱。
6	黒色 (10YR 2/1)	As-C(少量)。しまり強、粘性やや強。
7	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C無し。しまりやや強、粘性やや弱。



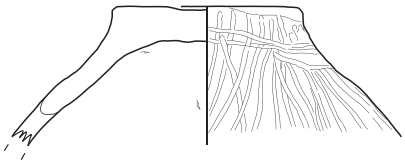
69号土坑(SPA-A',B-B'共通)

1	灰黄褐色 (10YR 4/2)	As-B混。しまりやや強、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	As-A混。黄褐色シルト(φ3～5mm)やや多量、(φ1～2cm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
3	暗褐色 (10YR 3/3)	黄褐色シルト(φ2～3mm)ほとんどなし。地山。しまり強、粘性弱。
4	黒褐色 (10YR 3/1)	As-B混。黄褐色シルトブロックが全般的に混じる。しまりやや弱、粘性やや弱。
5	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。
6	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性弱。
7	褐色　(10YR 4/4)	地山。しまり強、粘性やや弱。

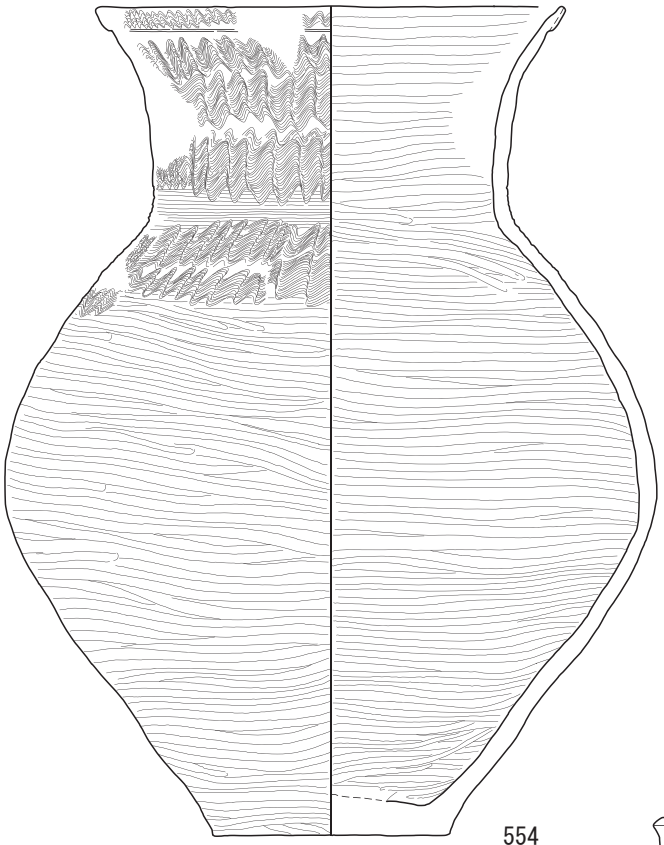
0　1:40　1m
（平面図・断面図）

第268図　68・69号土坑　平面図・断面図

６号土坑

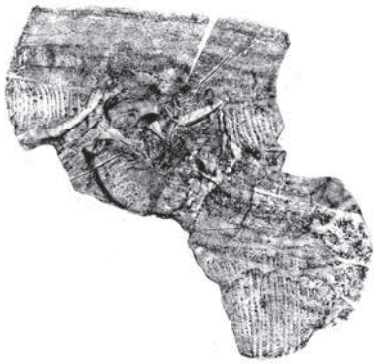


553



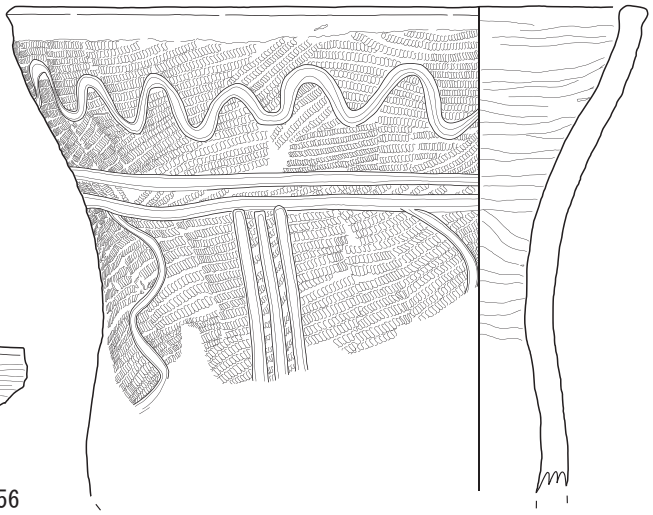
554

13号土坑



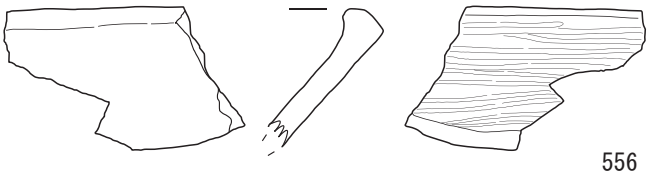
555

0　1:3　5cm
（553～559）

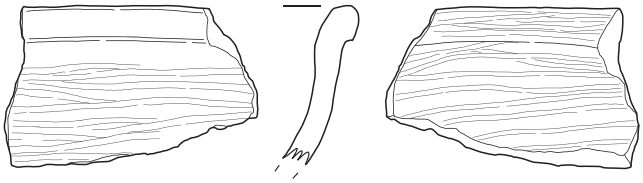


558

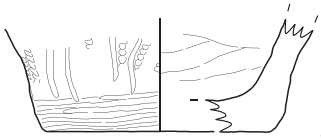
17号土坑



556



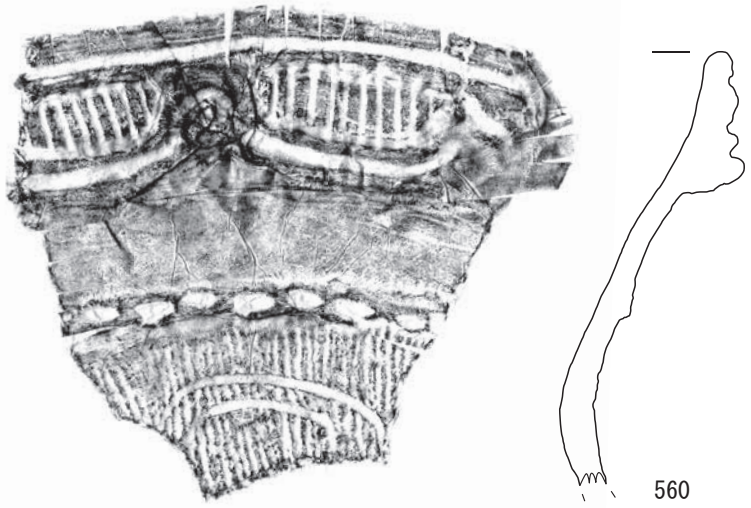
557



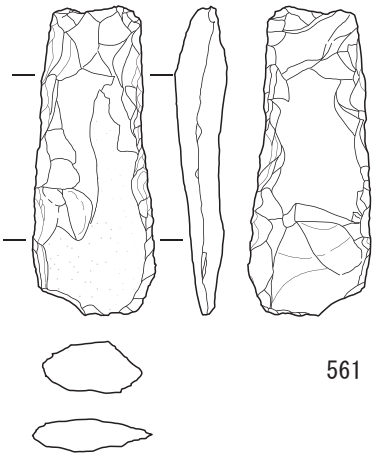
559

第269図　土坑　出土遺物実測図（１）

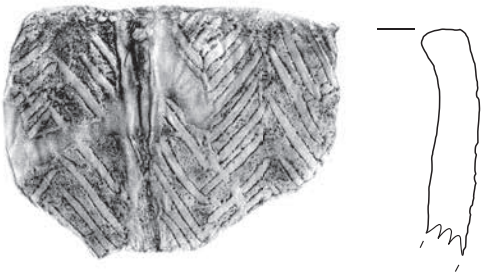
17号土坑

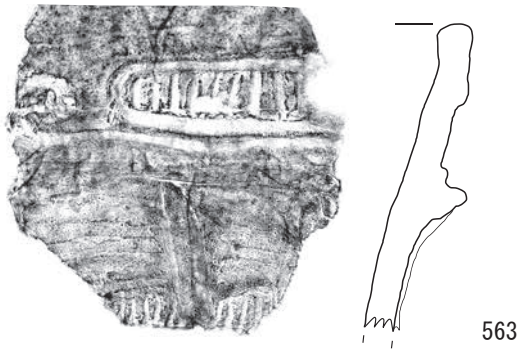


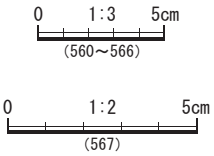
37号土坑

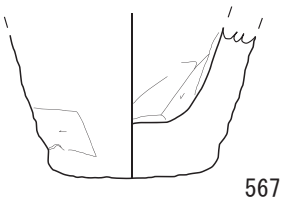


43号土坑



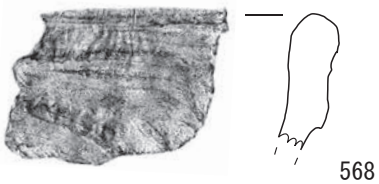






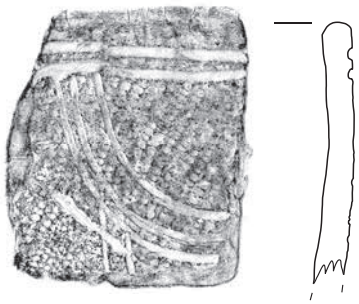
第270図　土坑　出土遺物実測図（２）

55号土坑



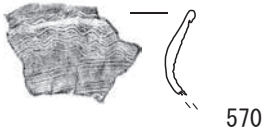
568

56号土坑



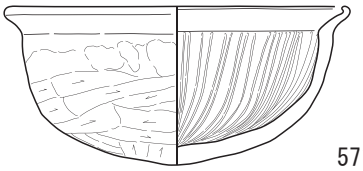
569

58号土坑

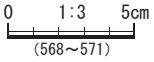


570

68号土坑



571



第271図　土坑　出土遺物実測図（３）

第63表　土坑　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第269図 PL.97	553	弥生土器 壺	—	【7.6】	(5.5)	外：ヘラ状工具によるミガキ 内：ナデ	①良好　②2.5YR 5/4 ③輝石、砂	底部 1/3	6号土坑
第269図 PL.97	554	弥生土器 甕	【18.6】	9.4	32.9	外：口縁端部は折り返し。端部側面および口縁部に櫛描波状文、頸部に櫛描簾状文、胴部上位に櫛描波状文がそれぞれ施される。以下胴部は丁寧なヨコミガキ 内：ほぼ全面ヨコミガキ	①良好 ②5YR 7/4 ③長石、砂	3/5	6号土坑
第269図 PL.97	555	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口唇直下は無文、粘土貼り付けによる隆起線文で楕円形区画を設け、区画間の結節点に立体的な渦巻文、区画内には縦位の沈線を施す。区画文帯以下は縦位の沈線 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 7/6 ③輝石、石英、砂礫	口縁部 破片	13号土坑
第269図 PL.97	556	縄文土器 浅鉢	—	—	—	器面は内外面ともにナデ	①概ね良好　②7.5YR 5/4 ③砂礫	口縁部 破片	17号土坑
第269図 PL.97	557	縄文土器 深鉢	—	—	—	器面は内外面ともに比較的丁寧なナデ	①良好　②10YR 7/4 ③輝石、長石、砂礫	口縁部 破片	17号土坑
第269図 PL.97	558	縄文土器 深鉢	25.4	—	(19.2)	外：口唇直下は無文、以下に単節縄文を施文。口縁には並行沈線による横位の波状文が施文される。頸部に半截竹管による並行沈線が２条巡り、下方の沈線より垂下する沈線文や波状文が施される 内：ナデ	①良好 ②2.5YR 5/6 ③輝石、砂	口縁～胴部 2/3	17号土坑
第269図 PL.97	559	縄文土器 深鉢	—	【9.0】	(4.4)	外：縄文施文後、垂下する二重沈線による区画。 外底面に網代痕 内：ナデ	①やや不良 ②7.5YR 5/3 ③砂礫	底部 破片	17号土坑
第270図 PL.97	560	縄文土器 深鉢	【25.8】	—	(17.2)	外：口縁下に粘土紐による楕円形区画を設け、区画間の結節点に渦巻文、区画内は縦位の沈線を施す。区画帯以下にはナデのみの無文帯、頸部に刺突のある隆帯１条が巡る。隆帯以下には撚糸を施文、二重沈線により加飾する 内：ナデ	①やや不良 ②5YR 4/4 ③輝石、砂	口縁部 破片	17号土坑
第270図 PL.98	562	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：粘土紐貼り付けによる垂下する隆起線と綾杉状沈線により施文 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 4/1 ③長石、礫	口縁部 破片	43号土坑
第270図 PL.98	563	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁直下無文、沈線による渦巻文と楕円形区画文。区画内は縦位の沈線。以下には大振りな隆帯があり、下端より粘土紐による垂下する隆起線文を貼り付ける。隆帯下は横位のナデだが、以下には撚糸押圧がある 内：ナデ	①良好 ②5YR 6/4 ③長石、赤色粒子	口縁部 破片	43号土坑
第270図 PL.98	564	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：垂下する隆起線から派生する沈線を施す隆起線文により渦巻状の区画を設ける。区画内は沈線で綾杉文や斜文、渦巻文などが施される 内：ナデ	①良好 ②5YR 6/4 ③砂礫	胴部 破片	43号土坑
第270図 PL.98	565	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：地文撚糸文施文後、粘土貼り付けと沈線により渦巻文や楕円形区画文が施される。区画内には撚糸が押圧される 内：ナデ	①良好 ②5YR 7/6 ③輝石、砂	口縁部 破片	43号土坑
第270図 PL.98	566	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：沈線による楕円形区画文、区画内は縄文施文 内：ナデ	①概ね良好　②2.5Y 5/1 ③砂	口縁部 破片	43号土坑
第270図 PL.98	567	縄文土器 ミニチュア	—	4.4	(4.0)	外：垂下する二重沈線、縄文施文 内：ナデ	①概ね良好　②7.5YR 5/4 ③長石、石英	底部 破片	43号土坑
第271図 PL.98	568	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：粘土貼り付けによる隆起線文、単節縄文施文 内：ナデ	①やや不良　②7.5YR 6/6 ③輝石、砂	口縁部 破片	55号土坑
第271図 PL.98	569	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：地文の単節縄文を施文後、口縁に二重沈線を巡らし、以下に三重沈線による円弧や垂下する二重沈線を施文 内：ナデ	①良好 ②5YR 5/4 ③砂	口縁部 破片	56号土坑
第271図 PL.98	570	弥生土器 甕	—	—	—	外：折り返し口縁。折り返した口唇端部を含めて口縁に櫛描波状文を施文。頸部には櫛描簾状文がある 内：ナデ	①概ね良好 ②10YR 6/4 ③輝石、砂	口縁部 破片	58号土坑
第271図 PL.98	571	土師器 坏	【13.8】	—	7.4	外：口縁ナデ、体部上半未調整、体部下半～底部ヘラケズリ 内：器面ナデ後、暗文状ミガキを底部中心に向かって垂直に施す	①概ね良好 ②2.5YR 6/6 ③輝石、石英、砂	1/2	68号土坑

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第270図 PL.98	561	打製石斧	12.2	4.8	2.0	135.0	頁岩	一部母岩が残存する	26号土坑

（６）ピット

今回の調査では、計38基のピットを検出した。ピットの多くは西区で検出した。これらピットは単独のものが多く、規則的な配置を取るものは認められないことから、掘立柱建物跡などの遺構と認定できるものはなかった。

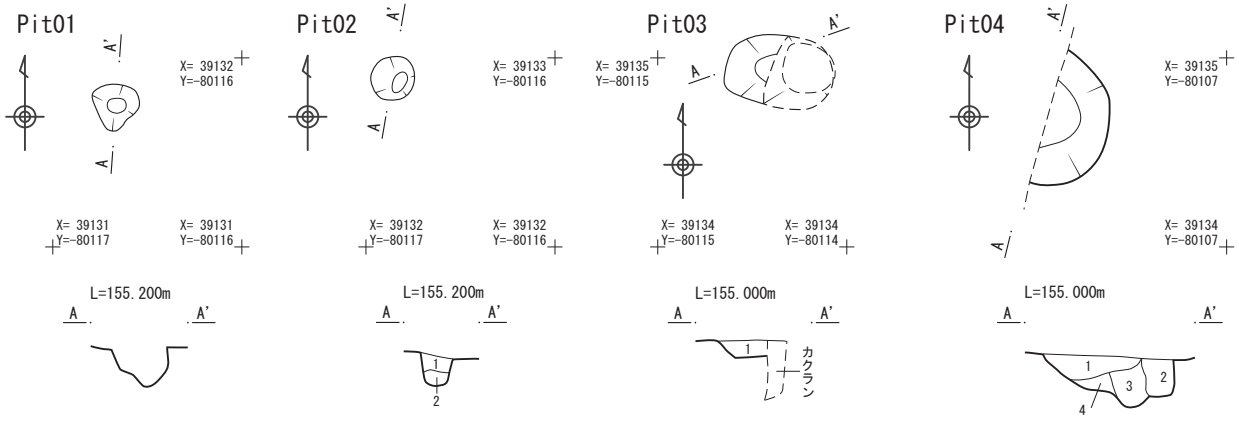
21号ピットには縄文時代中期の深鉢が据えられていた。深鉢は口唇端部こそ欠損しているが口縁付近は残存している一方、胴部下半を欠失している。同遺構内より接合する破片は出土していないことから、土器下半を打ち欠いた深鉢を意図的にピットに設置したものと考えられる。21号ピット周囲には関連が想定される別のピットや掘り込みなどは看取されず、竪穴建物跡などの遺構に伴うものではなく、検出状況から判断する限りでは、同ピットは単独で存在している。

23号ピットは、破片ではあるものの一定量の土器の出土が見られたが、遺構の掘り込みとしては極めて浅い。

そのほかのピットでは遺物の出土は多くはないが、縄文土器の小片を含む遺構が一定数認められるため、これらのピットの多くは縄文時代に属すものと推測される。

第64表　ピット　一覧表

遺構名称	調査区	形状	主軸方位	規模（m）			出土遺物	備考
				長軸	短軸	深さ		
１号ピット	西区	不整円形	Ｎ－19°－Ｅ	0.3	0.2	0.2		
２号ピット	西区	円形	Ｎ－34°－Ｅ	0.3	0.2	0.2		
３号ピット	西区	楕円形	Ｎ－79°－Ｗ	0.6	0.4	0.1		
４号ピット	西区	円形	Ｎ－16°－Ｅ	0.7	0.3	0.3		
５号ピット	西区	円形	Ｎ－88°－Ｅ	0.6	0.6	0.2	縄文土器	
６号ピット	西区	円形	Ｎ－26°－Ｅ	0.3	0.3	0.2		
７号ピット	西区	円形	Ｎ－76°－Ｅ	0.4	0.4	0.1		
８号ピット	西区	円形	Ｎ－55°－Ｗ	0.4	0.4	0.2	縄文土器	
９号ピット	西区	不整円形	Ｎ－32°－Ｗ	0.5	0.5	0.3		
10号ピット	西区	円形	Ｎ－52°－Ｗ	0.4	0.4	0.2	縄文土器	
11号ピット	西区	楕円形	Ｎ－76°－Ｗ	0.6	0.3	0.3	縄文土器	
12号ピット	西区	円形	Ｎ－25°－Ｅ	0.4	0.4	0.1		
13号ピット	西区	円形	Ｎ－12°－Ｅ	0.3	0.3	0.1		
14号ピット	西区	円形	Ｎ－26°－Ｗ	0.4	0.4	0.2		
15号ピット	西区	楕円形	Ｎ－89°－Ｗ	0.3	0.2	0.1		
16号ピット	西区	円形	Ｎ－75°－Ｗ	0.4	0.4	0.2		
17号ピット	西区	円形	Ｎ－35°－Ｅ	0.5	0.5	0.2		
18号ピット	西区	円形	Ｎ－10°－Ｗ	0.4	0.4	0.1		
19号ピット	西区	円形	Ｎ－15°－Ｅ	0.3	0.3	0.1	縄文土器	
20号ピット	西区	円形	Ｎ－73°－Ｗ	0.5	0.5	0.2	縄文土器	
21号ピット	西区	円形	Ｎ－72°－Ｗ	0.6	0.6	0.2	縄文土器（埋甕）	下半を欠く深鉢を検出
22号ピット	西区	円形	Ｎ－21°－Ｅ	0.5	0.5	0.3	縄文土器	
23号ピット	西区	円形	Ｎ－42°－Ｅ	0.6	0.5	0.1	縄文土器	浅い掘り込みから遺物多数出土
24号ピット	西区	円形	Ｎ－36°－Ｅ	0.5	0.5	0.7		
25号ピット	西区	円形	Ｎ－59°－Ｅ	0.5	0.4	0.4		
26号ピット	西区	円形	Ｎ－72°－Ｗ	0.5	0.4	0.1		
27号ピット	西区	円形	Ｎ－78°－Ｗ	0.3	0.3	0.6		
28号ピット	東区	円形	Ｎ－25°－Ｅ	0.2	0.2	0.2		
29号ピット	東区	不整円形	Ｎ－31°－Ｅ	0.3	0.2	0.3		
30号ピット	東区	円形	Ｎ－ 2°－Ｗ	0.3	0.3	0.3		
31号ピット	東区	円形	Ｎ－28°－Ｅ	0.2	0.2	0.8		
32号ピット	東区	楕円形	Ｎ－37°－Ｗ	0.4	0.3	0.1		
33号ピット	東区	円形	Ｎ－48°－Ｅ	0.2	0.2	0.1		
34号ピット	東区	円形	Ｎ－57°－Ｗ	0.2	0.2	0.2		
35号ピット	東区	円形	Ｎ－13°－Ｗ	0.3	0.2	0.3		
36号ピット	東区	円形	Ｎ－ 1°－Ｅ	0.2	0.2	0.2		
37号ピット	東区	円形	Ｎ－86°－Ｗ	0.2	0.2	0.3		
38号ピット	東区	円形	Ｎ－ 3°－Ｗ	0.3	0.3	0.2		



２号ピット(SPA-A')

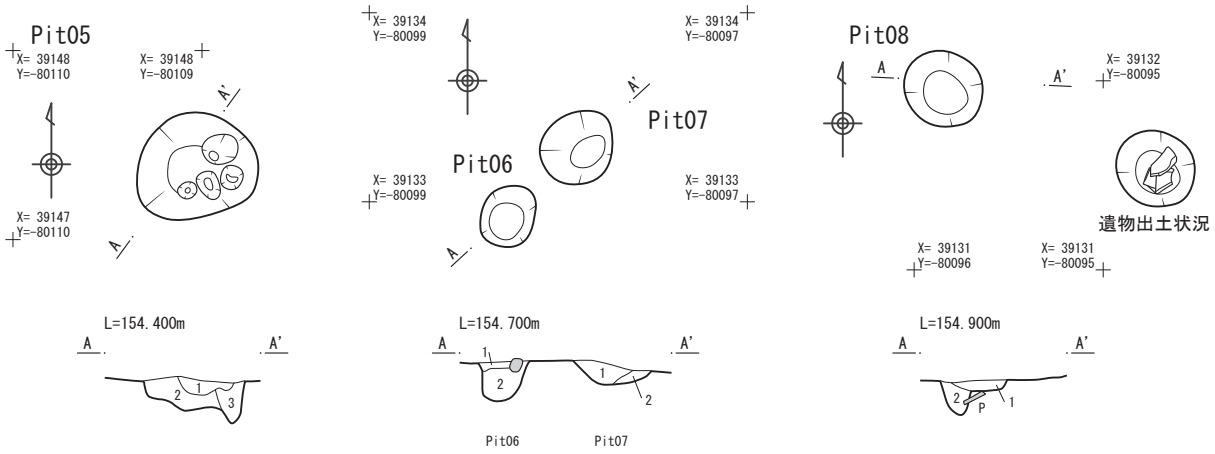
1	黒色（10YR 2/1）	黄褐色ローム粒子含む。しまりやや弱、粘性やや弱。
2	黄褐色（10YR 5/6）	ローム主体。黒褐色土混。しまりやや強、粘性やや弱。

３号ピット(SPA-A')

1	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色ローム粒子含む。しまりやや強、粘性やや強。

４号ピット(SPA-A')

1	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色ローム粒子(φ1～2mm)含む。しまりやや強、粘性やや弱。
2	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色ロームブロック(φ2～3cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
3	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
4	黒褐色（10YR 3/1）	黄褐色ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。しまりやや強、粘性弱。

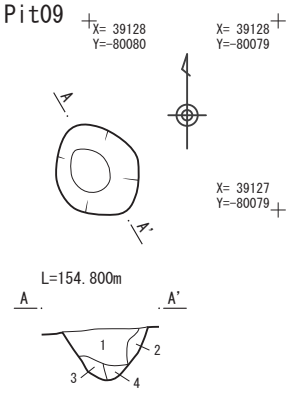


５号ピット(SPA-A')

1	黒色（10YR 2/1）	黄褐色ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性弱。
2	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
3	黒褐色（10YR 3/2）	黄褐色ロームブロック(φ2～3cm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。

６号ピット(SPA-A')

1	黒褐色（10YR 3/1）	ローム粒子(φ1～2mm)、赤褐色粒子(φ1～2mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	ローム粒子(φ2～3mm)やや多量。As-YP含む。しまりやや強、粘性やや強。



７号ピット(SPA-A')

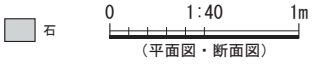
1	灰黄褐色（10YR 4/2）	ローム粒子(φ1～2mm)少量。小礫(軽石）含む。しまり強、粘性弱。
2	にぶい黄褐色（10YR 5/4）	ローム粒子充填。炭化物含む。しまり強、粘性やや弱。

８号ピット(SPA-A')

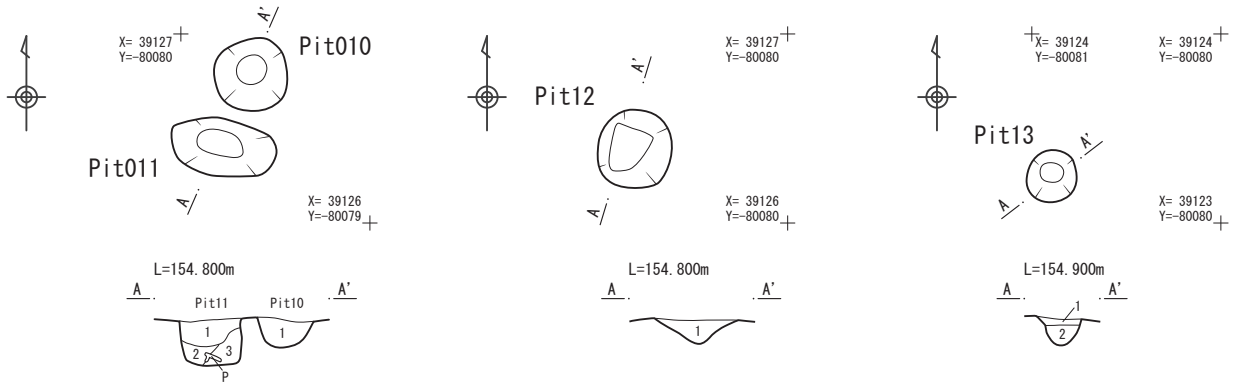
1	黒褐色（10YR 3/1）	ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
2	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	ローム粒子(φ3～5mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。

９号ピット(SPA-A')

1	黒褐色（10YR 3/2）	ローム粒子(φ1～2mm)やや少量。As-YP、炭化物含む。しまり強、粘性弱。
2	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	ローム粒子混。As-YP含む。しまり強、粘性強。
3	黒褐色（10YR 3/2）	ローム粒子(φ1～2mm)少量。赤褐色粒子少量。しまり強、粘性強。
4	黒褐色（10YR 2/2）	ロームはほとんどなく、As-YP微量。しまり強、粘性強。



第272図　１～９号ピット　平面図・断面図

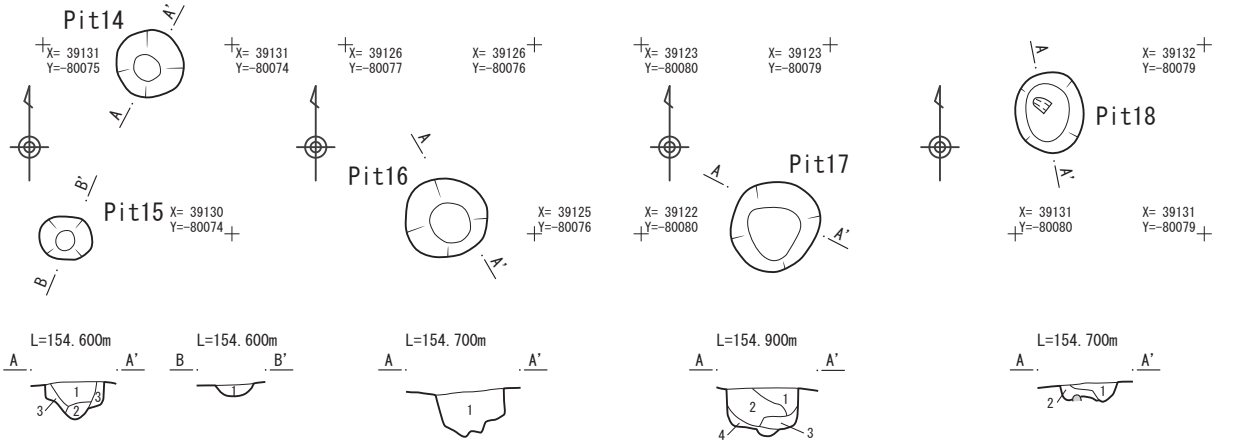


10号ピット(SPA-A')
1　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム粒子(φ2～3mm)多量。焼土、炭化物僅か。しまり強、粘性やや弱。

11号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。ブロック(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ロームブロック(φ2～3cm)少量。しまりやや弱、粘性強。
3　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム粒子(φ2～3mm)多量。しまりやや強、粘性強。

12号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。

13号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ロームブロック(φ2～3cm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
2　黒色（10YR 1.7/1）　ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。



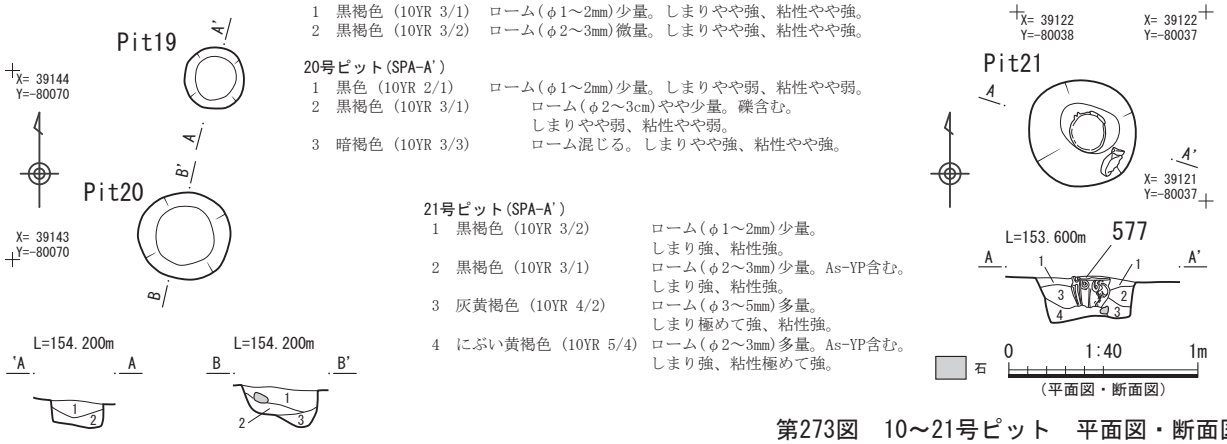
14号ピット(SPA-A')
1　黒色（10YR 2/1）　ローム粒子(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ロームブロック(φ2～3cm)多量。しまり弱、粘性やや弱。
3　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム粒子(φ1～2mm)少量。地山か。しまり強、粘性やや強。

15号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 2/2）　ローム粒子(φ2～3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。

16号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ1～3mm)多量、ブロック(φ1～2cm)少量。しまり強、粘性やや強。

17号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム粒子(φ2～3mm)多量、ブロック(φ1～2cm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒色（10YR 2/1）　ローム粒子(φ1～2mm)やや多量。As-YP含む。しまり強、粘性強。
3　黒褐色（10YR 3/1）　ローム粒子(φ2～3mm)多量。しまりやや強、粘性強。
4　にぶい黄褐色（10YR 4/3）　ローム主体。しまり強、粘性やや弱。

18号ピット(SPA-A')
1　黒色（10YR 2/1）　ローム粒子(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3cm)少量。しまりやや弱、粘性やや強。

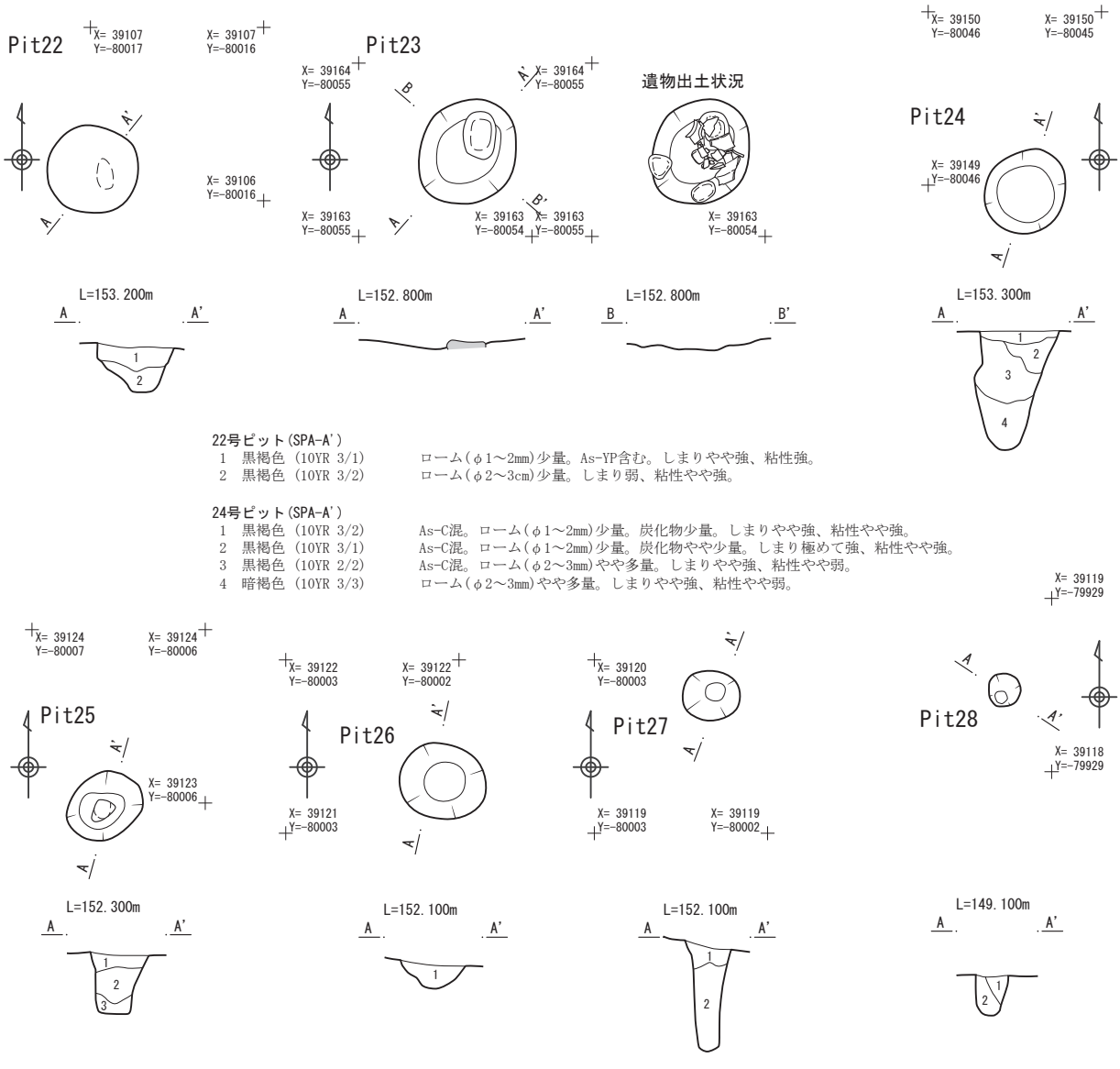


19号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
2　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ2～3mm)微量。しまりやや強、粘性やや強。

20号ピット(SPA-A')
1　黒色（10YR 2/1）　ローム(φ1～2mm)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3cm)やや少量。礫含む。しまりやや弱、粘性やや弱。
3　暗褐色（10YR 3/3）　ローム混じる。しまりやや強、粘性やや強。

21号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　ローム(φ1～2mm)少量。しまり強、粘性強。
2　黒褐色（10YR 3/1）　ローム(φ2～3mm)少量。As-YP含む。しまり強、粘性強。
3　灰黄褐色（10YR 4/2）　ローム(φ3～5mm)多量。しまり極めて強、粘性強。
4　にぶい黄褐色（10YR 5/4）　ローム(φ2～3mm)多量。As-YP含む。しまり強、粘性極めて強。

第273図　10～21号ピット　平面図・断面図



22号ピット(SPA-A')

1	黒褐色 (10YR 3/1)	ローム(φ1～2mm)少量。As-YP含む。しまりやや強、粘性強。
2	黒褐色 (10YR 3/2)	ローム(φ2～3cm)少量。しまり弱、粘性やや強。

24号ピット(SPA-A')

1	黒褐色 (10YR 3/2)	As-C混。ローム(φ1～2mm)少量。炭化物少量。しまりやや強、粘性やや強。
2	黒褐色 (10YR 3/1)	As-C混。ローム(φ1～2mm)少量。炭化物やや少量。しまり極めて強、粘性やや強。
3	黒褐色 (10YR 2/2)	As-C混。ローム(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。
4	暗褐色 (10YR 3/3)	ローム(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや弱。

25号ピット(SPA-A')

1	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ1～2mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
2	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまりやや強、粘性強。
3	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ3～5mm)やや少量。しまりやや強、粘性やや強。

26号ピット(SPA-A')

1	黒褐色 (10YR 3/1)	褐色土混。しまり強、粘性強。

27号ピット(SPA-A')

1	黒褐色 (10YR 3/2)	しまり強、粘性やや弱。
2	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量、(φ3～5cm)少量。しまりやや弱、粘性強。

28号ピット(SPA-A')

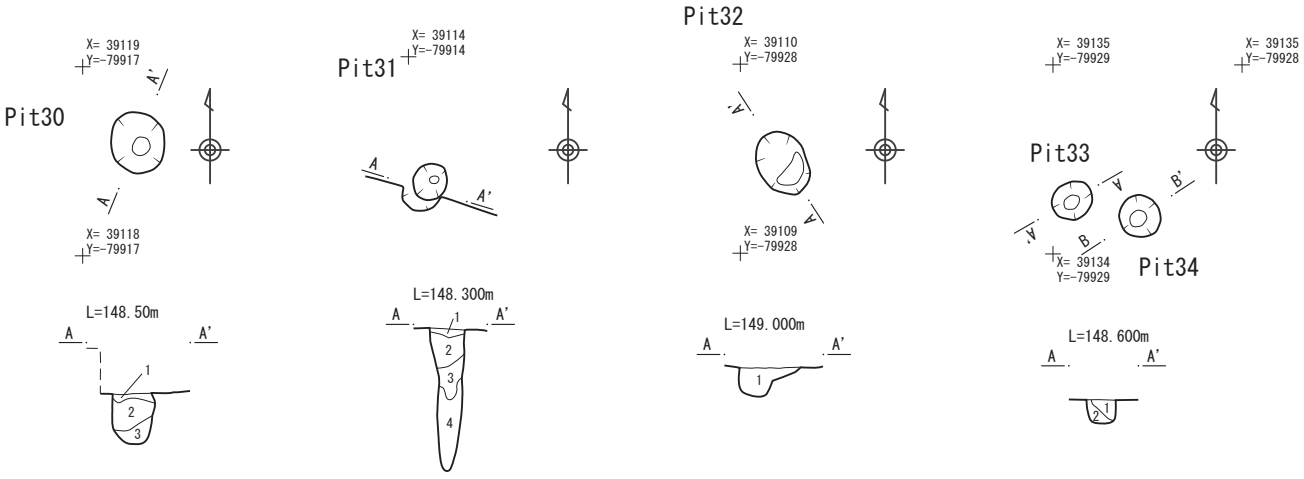
1	黒色 (10YR 2/1)	夾雑物少量。しまり弱、粘性弱。
2	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量、(φ5～7cm)少量。しまり強、粘性やや強。

29号ピット(SPB-B')

1	黒褐色 (10YR 3/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)微量。しまり弱、粘性弱。
2	黒色 (10YR 2/1)	黄褐色シルト(φ2～3mm)少量。しまり弱、粘性弱。
3	黒褐色 (10YR 3/2)	黄褐色シルト(φ3～5mm)少量。しまりやや強、粘性やや弱。
4	黒褐色 (10YR 2/2)	黄褐色シルト(φ2～3mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。

石　0　1:40　1m
（平面図・断面図）

第274図　22～29号ピット　平面図・断面図



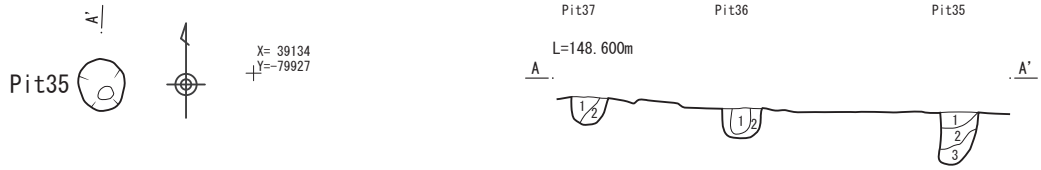
30号ピット(SPA-A')
1　黒色（10YR 2/1）　夾雑物少量を含む。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ1～2㎜)少量。しまりやや弱、粘性弱。
3　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3㎜)少量。しまりやや弱、粘性やや弱。

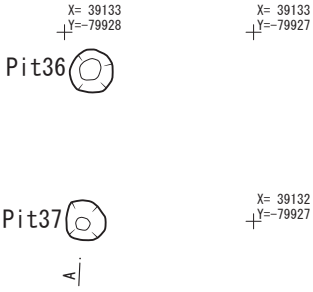
31号ピット(SPA-A')
1　黒色（10YR 2/1）　軽石状粒子混。しまり強、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 2/2）　軽石状粒子少量。黄褐色シルト(φ1～2㎜)少量。しまり強、粘性やや弱。
3　黒色（10YR 2/1）　軽石状粒子少量。しまり強、粘性やや強。

32号ピット(SPA-A')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ2～3㎜)少量。As-YP。しまりやや強、粘性やや強。

33号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/1）　As-Cなし。しまりやや強、粘性弱。
2　黒色（10YR 2/1）　夾雑物なし。しまりやや強、粘性やや弱。

34号ピット(SPB-B')
1　黒褐色（10YR 3/1）　As-YP微量。しまりやや強、粘性弱。
2　黒色（10YR 2/1）　As-YP微量。しまりやや強、粘性やや強。

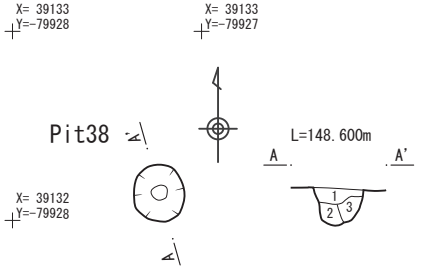




35号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ1～2㎜)やや少量。しまりやや強、粘性弱。
2　黒褐色（10YR 3/1）　黄褐色シルト(φ1～2㎜)微量。しまりやや弱、粘性弱。
3　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ1～2㎜)少量。しまりやや弱、粘性弱。

36号ピット(SPA-A')
1　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ3～5㎜)やや少量。しまりやや弱、粘性やや弱。
2　黒褐色（10YR 3/2）　夾雑物少量。しまりやや強、粘性弱。

37号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 3/2）　黄褐色シルト(φ2～3㎜)少量。しまり強、粘性やや弱。
2　黒色（10YR 2/1）　夾雑物少量。しまりやや弱、粘性やや強。



38号ピット(SPA-A')
1　黒褐色（10YR 2/2）　黄褐色シルト(φ2～3㎜)少量。しまり強、粘性やや弱。
2　黒色（10YR 2/1）　夾雑物少量。しまり弱、粘性やや弱。
3　黒色（10YR 2/1）　黄褐色シルト(φ1～3㎜)微量。しまりやや強、粘性やや弱。

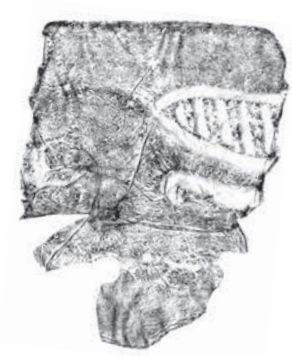
0　1:40　1m
（平面図・断面図）

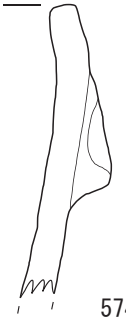
第275図　30～38号ピット　平面図・断面図

８号ピット

572

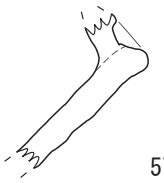
573





574

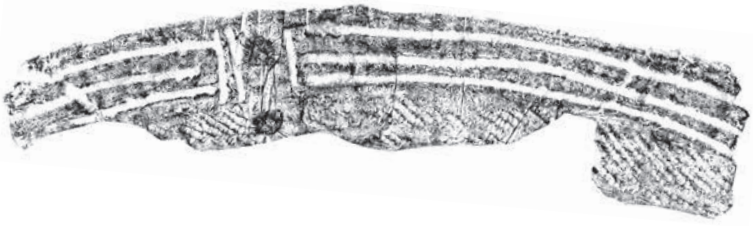
11号ピット



575

576

23号ピット



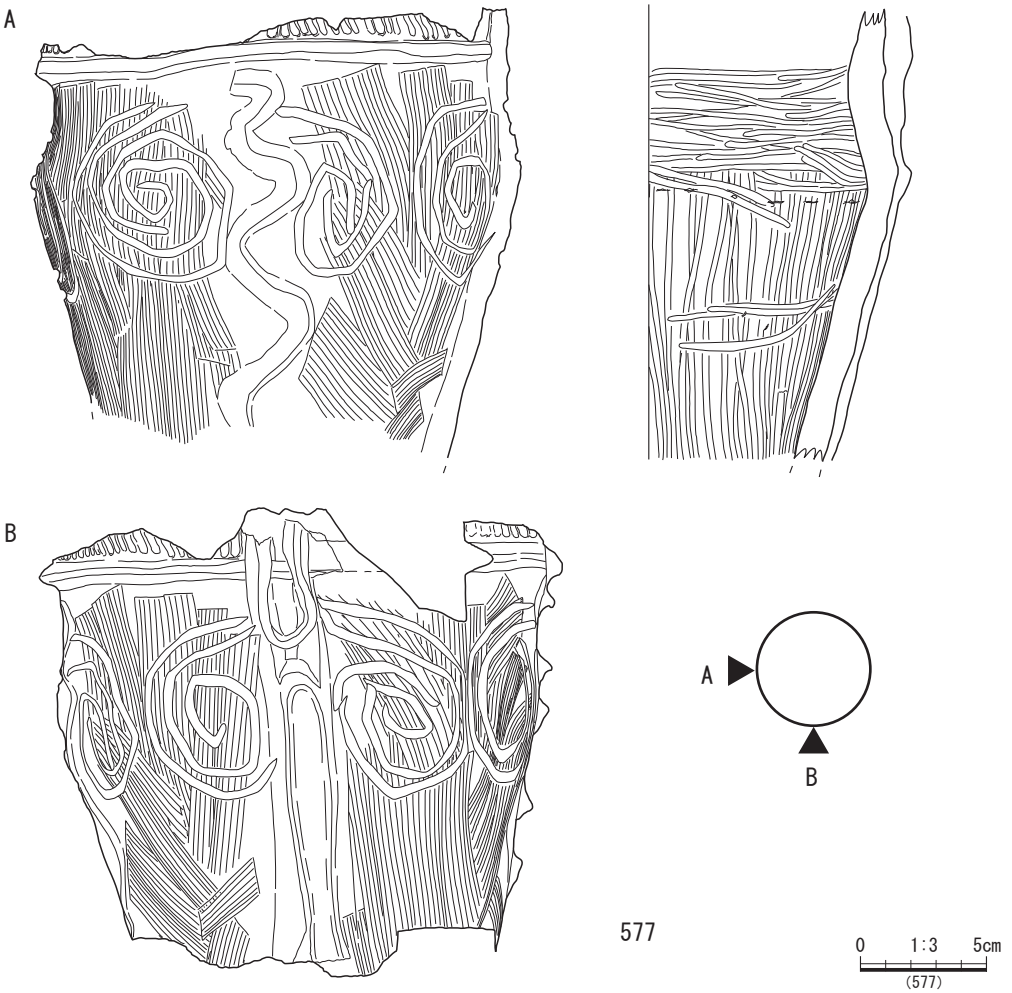
578

579

0　1:3　5cm
（572～576・578・579）

第276図　ピット　出土遺物実測図（１）

21号ピット



第277図　ピット　出土遺物実測図（２）

第65表　ピット　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第276図 PL.98	572	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：粘土貼り付けによる把手。隆起線や沈線が施される渦巻文や沈線に縁取られた孔がある。胴部に単線縄文および平行沈線が施文される 内：ナデ	①良好 ②5YR 5/4 ③砂、片岩	口縁部 破片	８号ピット
第276図 PL.98	573	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：粘土貼り付けの隆起線や沈線の組み合わせによる口縁文様帯があり、区画内は縦位の沈線を施す 内：ナデ	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、石英、砂礫	口縁部 破片	８号ピット
第276図 PL.98	574	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：口縁文様帯には隆起線や沈線を組み合わせた渦巻文や楕円形区画があり、区画内には縦位に沈線を施す 内：ナデ	①良好 ②7.5YR 7/6 ③輝石、砂礫	口縁部 破片	８号ピット
第276図 PL.98	575	縄文土器 浅鉢	—	—	—	外：口縁が二段になり、端部に粘土紐で加飾 内：ナデ	①概ね良好 ②7.5YR 7/6 ③長石、砂礫	口縁部 破片	11号ピット
第276図 PL.98	576	縄文土器 深鉢	—	—	—	外：地文単節縄文施文後、沈線や粘土貼り付けによる隆起文を施文 内：ナデ	①概ね良好 ②5YR 5/8 ③砂礫	破片	11号ピット
第277図 PL.98	577	縄文土器 深鉢	胴部 最大径 19.6	—	(17.8)	外：器面はハケ状工具により整形されたのち、粘土貼り付けにより横位に巡る頸部の隆帯から、二重に粘土紐を貼り付けた垂下する隆起線文一対が対角の位置に施され、間隙には粘土貼り付けによる波状文一対がやはり対角に施される。垂下する４条の隆起線文および波状文からはそれぞれ左右に沈線による渦巻文が施文される。また一箇所のみだが渦巻文より垂下する並行沈線文が看取される。頸部隆帯より上位にはキザミ状の連続沈線がある 内：胴部最大径より上位はユビナデ、最大径以下は工具による比較的丁寧なナデ	①良好 ②5YR 7/6 ③輝石、赤色粒子、砂、石英	1/2	21号ピット 埋甕
第276図 PL.98	578	縄文土器 深鉢	【14.5】	—	(6.2)	外：口縁は短く外反する。頸部より上位は縄文の施文はなく、沈線により区画した中を横位の沈線１条を施す。沈線による区画の間隙には瘤状の貼付文が上下２段で施される。頸部以下の胴部は単節縄文を施文 内：ナデ	①良好 ②5YR 4/3 ③砂、小礫	口縁部 破片	23号ピット
第276図 PL.98	579	縄文土器	—	—	—	外：頸部から短い口縁が直立する。単節縄文施文 内：ナデ。炭化物付着か	①やや不良 ②2.5YR 6/6 ③砂礫	破片	23号ピット

（７）畠跡・As-A処理遺構

各調査区では、As-BおよびAs-Aに関わる畠状遺構および降下軽石の処理を目的としたことが推測される連続土坑や溝状の掘り込みが随所に確認されている。

As-B降下後の畠跡　東区３、４号墳の周溝やその周辺でAs-Bの一次堆積層を検出したが、この軽石層の上面において、いわゆるサク状を呈する連続した溝を確認した（A）。軽石層の上位層は現代耕作土や表土層となるため、サク状の溝の掘り込みの本来の深さは不明であるが、検出した各溝の掘り込みは浅いために軽石層を掘り抜いておらず、軽石層を除去すると痕跡が残らない。

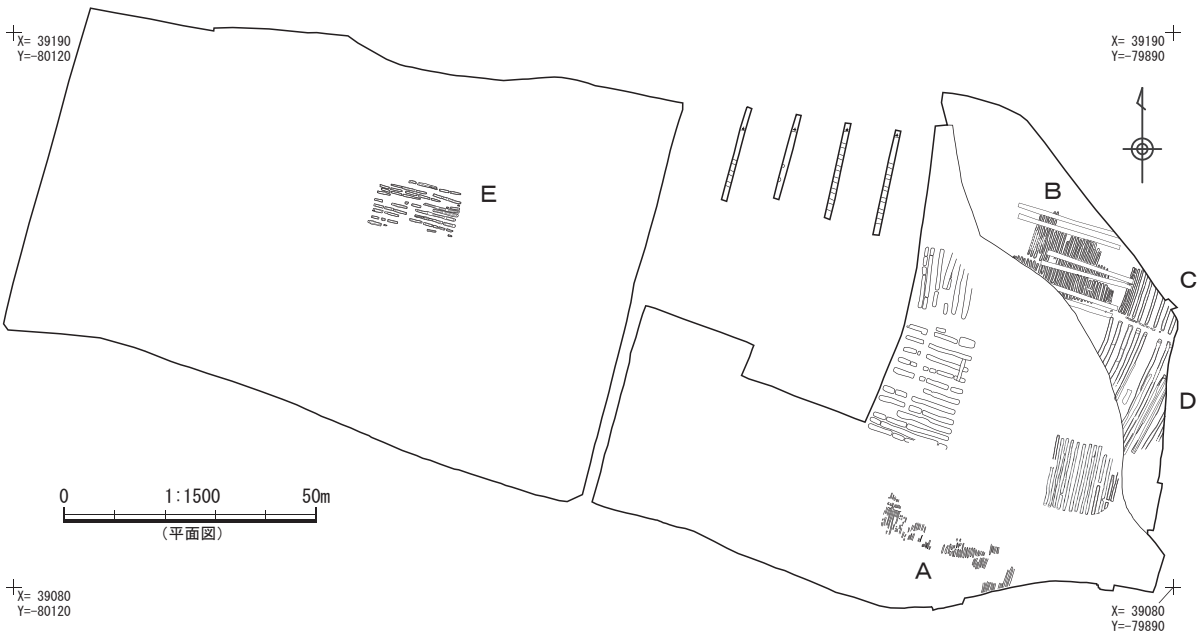
これらの溝の検出はAs-B層が残存する範囲に限定されるが、３、４号墳の墳丘上では掘り込みを確認できなかったため、溝掘削の際には墳丘を回避したものと推測される。掘削時期は不明であるが、As-B降下後の掘削であることから、平安時代後期以降の遺構と考えられる。

As-A降下前の畠跡　北東区北端付近では、As-Aに覆われた、連続する溝状遺構を検出した（B）。サク状を呈することから畠跡と想定している。調査区壁面で確認した断面では、As-A一次堆積層と考えられるため、As-A降下前に機能した近世の畠跡であろう。

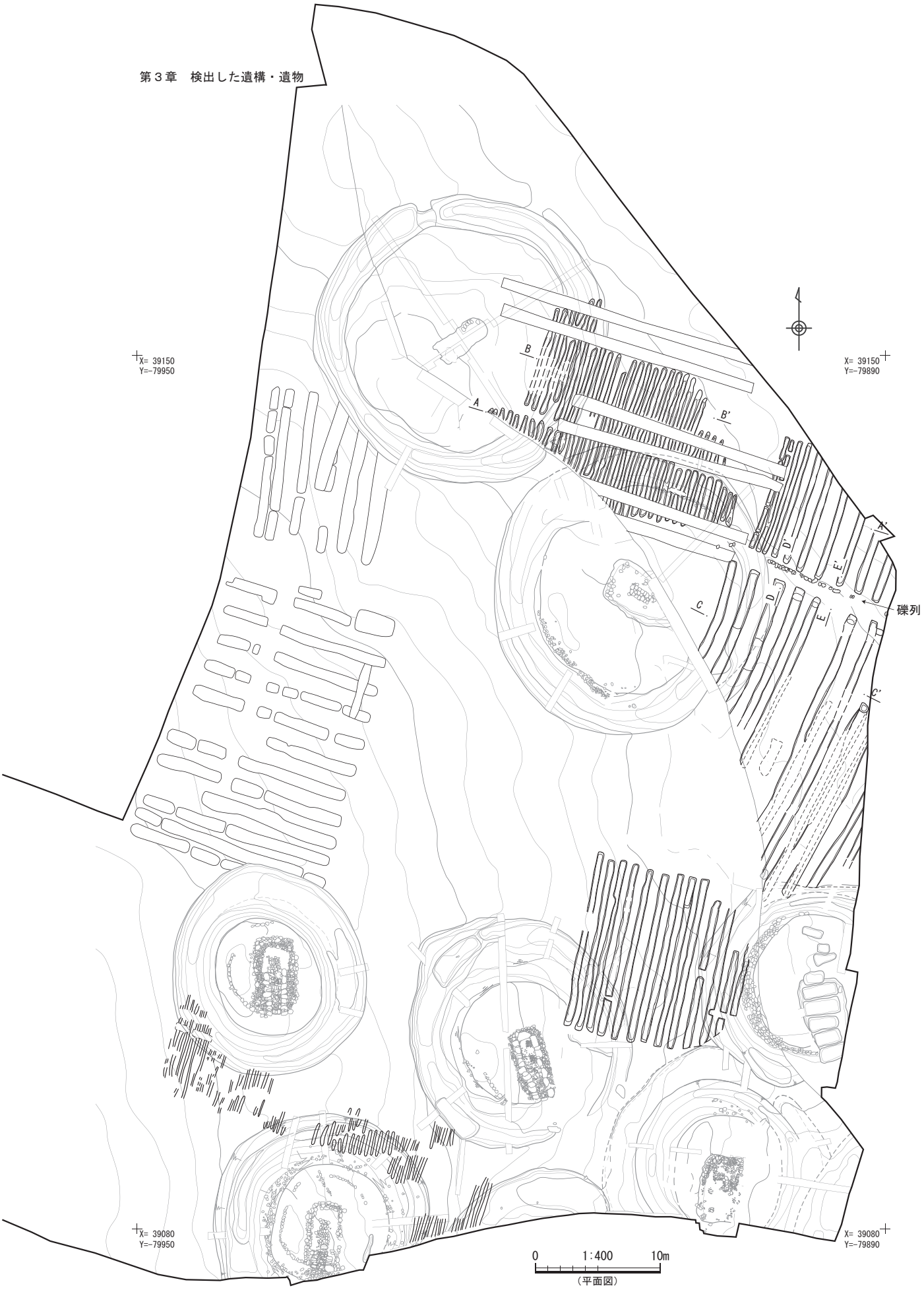
As-A降下後の処理遺構　西区の中央付近および東区中央、ならびに北東区にかけて、As-Aが充填された土坑や溝状の連続する遺構群を複数箇所で確認している（C～E）。いずれの遺構でもAs-Aが高い密度で含まれているが、降下時の一次堆積層ではなく降下後に二次的に移動したものと考えられる。

北東区東側で検出した、やや東に傾きを持つ南北走向の溝群では、北側の一群（C）と南側の一群（D）の間では遺構が連続せずに途切れる。その両群の間には、東西方向に人頭大の礫が列をなして設置されており、両群の境界を示すものと推測できる。南北の各群が位置する区画の所有者もしくは耕作者等が異なる地境であっただろうか。

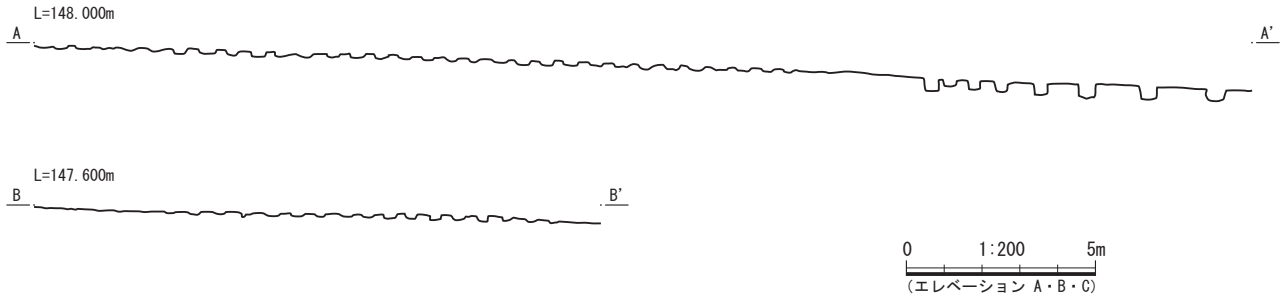
これらAs-Aを多量に含む遺構群は、浅間山の火山噴出物により罹災した耕作地復旧に伴う軽石廃棄のための処理遺構と想定され、同様の遺構が市内の複数の遺跡で確認されている。As-Aは、天明三（1783）年とされる浅間山の噴火に伴う火山噴出物であるため、これらの遺構は天明三年以降の掘削であることが理解される。

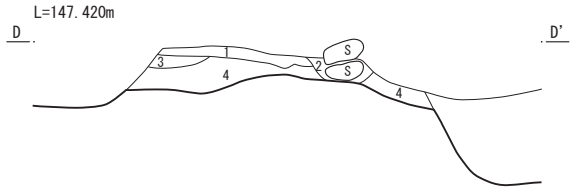


第278図　畠跡・As-A処理遺構配置図



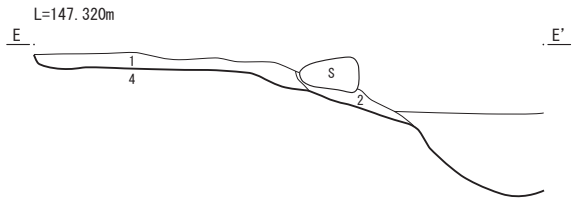
第279図　畠跡・As-A処理遺構　平面図・断面図（１）



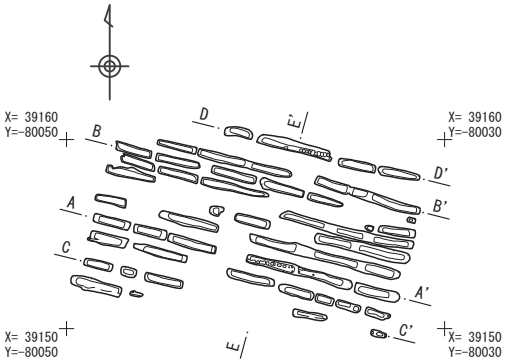


As-A処理遺構(SPD-D',E-E'共通)

1	黒色（10YR 2/1）	As-A混。しまり弱、粘性弱。
2	灰黄褐色（10YR 4/2）	As-A混。石を据えた痕。しまり弱、粘性弱。
3	黒褐色（10YR 3/1）	As-A混。竹の根の影響か。しまり弱、粘性弱。
4	黒色（10YR 2/1）	地山。As-A混入しない。As-C混。 しまり強、粘性やや強。

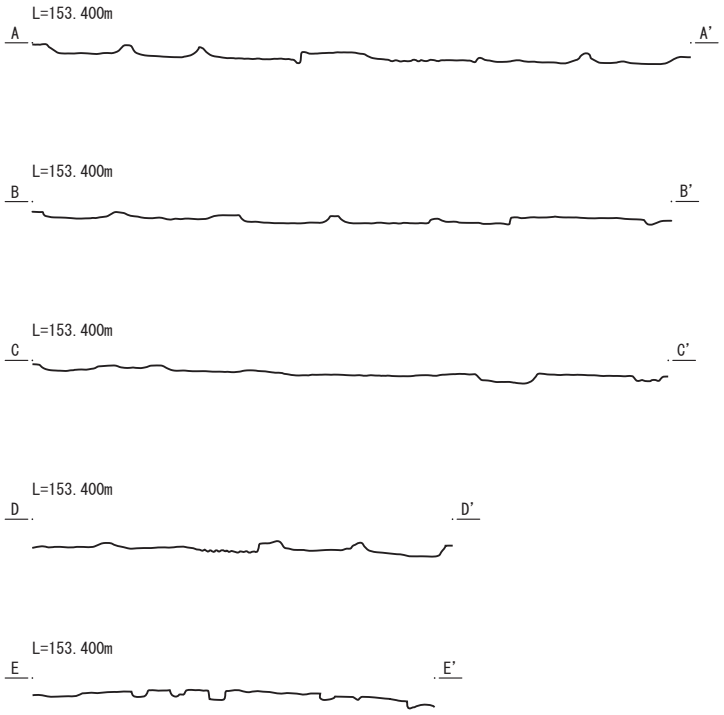


0　1:40　1m
（断面図 D・E）



0　1:400　10m
（平面図）

0　1:200　5m
（断面図）

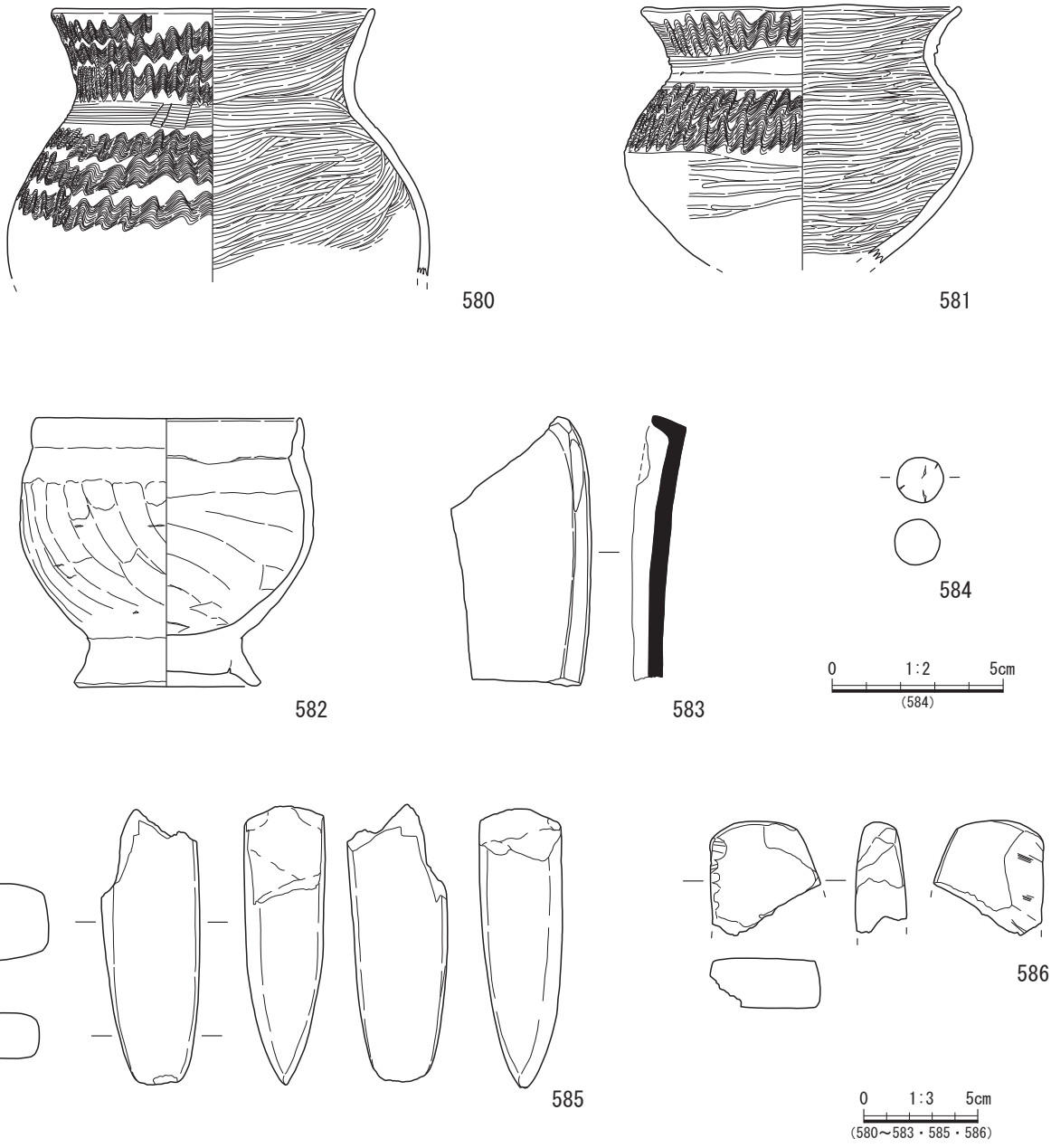


第280図　畠跡・As-A処理遺構　平面図・断面図（２）

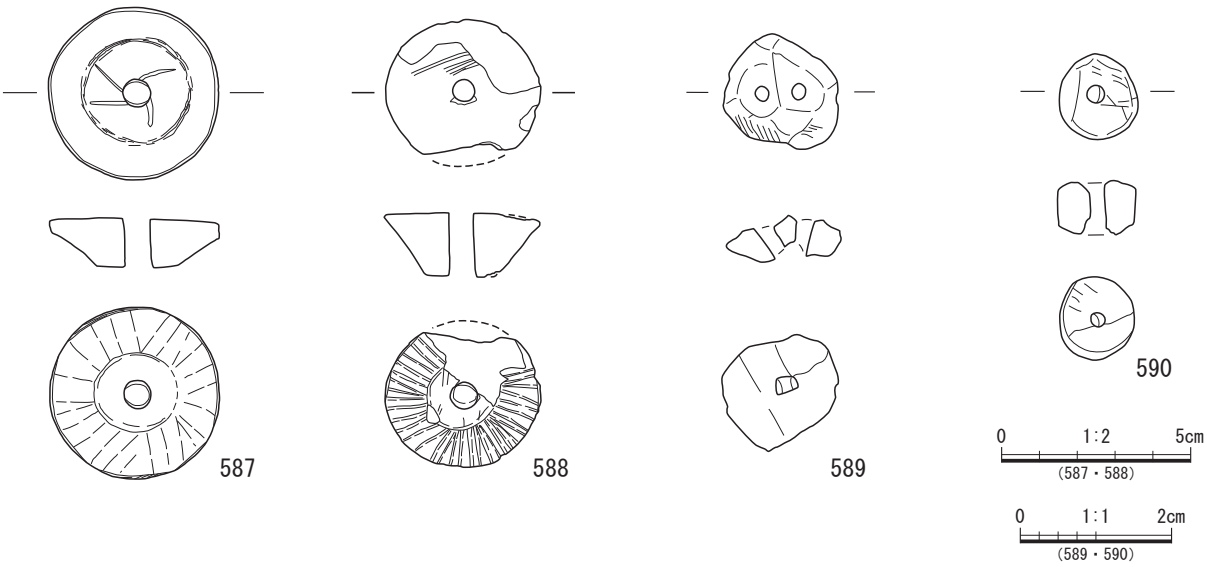
（８）遺構外出土遺物

今回の調査では、近現代の耕作痕が広範囲に展開することにより一部の遺構が大きく損壊していたが、これらの耕作痕内の埋土より出土した遺物がある。これらの遺物は帰属する遺構を明確にはし難いが、特徴的なものを中心に一部を掲載する。

583は風字硯である。584は鉛製の鉄砲玉と考えられる。狭い範囲でやや平坦な面が看取されるため、射出されたものである可能性が考えられる。585は蛇紋岩製の片刃石斧で、刃部は磨製である。586も同様に蛇紋岩製で、一部を欠失するが玉斧と推定される。589は滑石の未成品である。本遺跡内では滑石製品の製作に関連する遺構は未確認であるが、あるいは滑石の製作を担う集団が付近に存在した可能性が考えられる。



第281図　遺構外　出土遺物実測図（１）



第282図　遺構外　出土遺物実測図（２）

第66表　遺構外　出土遺物観察表

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 口径	底径	器高	成形・整形技法等の特徴 （器形・文様の特徴）	①焼成　②色調 ③胎土	残存	備考
第281図 PL.99	580	弥生土器 甕	14.2	—	(11.7)	外：頸部櫛描簾状文を境に、口縁波状文３単位、胴部上位波状文３単位が施され、以下無文となる。簾状文は反時計回りで施文される 内：口縁～胴部上位に至るまで、ヨコーナナメのヘラミガキを施す	①良好 ②7.5YR 5/3 ③緻密。砂	1/2	
第281図 PL.99	581	弥生土器 小型甕	14.1	—	(11.3)	外：口縁に櫛描波状文１単位、頸部櫛歯状工具による平行線、最大径までの胴部上位に２ないし３単位の波状文を施文。胴部最大径以下は無文で、ヘラミガキを施す 内：横位を中心に、ヘラナデ（ミガキ）が比較的丁寧に施される	①概ね良好 ②2.5YR 5/6 ③白色・黒色粒子、小礫、砂(やや多)	4/5	
第281図 PL.99	582	土師器 台付鉢	【11.8】	8.2	11.8	外：口縁～頸部ナデ。胴部以下は未調整。付け台部は指頭圧痕 内：ナデ	①良好 ②5YR 6/6 ③輝石、石英、長石	2/3	
第281図 PL.99	583	須恵器 風字硯	長(11.8)	幅(6.1)	厚(1.6)	陸を中心に炭化物付着。脚は欠損。	①良好 ②7.5Y 7/1 ③長石	1/2	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	観察所見	備考
第281図 巻頭図版8	584	鉛玉	1.4	1.3	1.4	9.9	一部にわずかな平坦面がある。	

図版	番号	種別 器種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	備考
第281図 PL.99	585	石斧	12.2	4.3	3.5	266.0	蛇紋岩	柱状片刃石斧。磨製。	
第281図 PL.99	586	玉斧	5.1	5.0	2.3	83.3	蛇紋岩	器面はすべて磨かれている	
第282図 PL.99	587	紡錘車	4.6	—	1.3	37.7	滑石	上下面ならびに端部に擦過痕が顕著	
第282図 PL.99	588	紡錘車	4.0	—	1.7	31.1	滑石	器面の擦痕が著しい	
第282図 PL.99	589	石製模造品	1.4	1.4	0.7	1.9	滑石	未製品。外面から穿たれた小さな孔２孔が内部で一つになる。 孔内壁に残存する穿孔痕が観察できる	

図版	番号	種別 器種	法量(mm) 直径	孔径	厚さ	重量 (g)	材質	観察所見	備考
第282図 巻頭図版8	590	臼玉	11.2	2.6	8.3	1.6	滑石	一部欠損	

第４章　成果と課題

第１節　若田坂上遺跡の古墳について

１．概要

今回の調査では、８基の円墳（周溝のみ検出の１基を含む）を確認した。ここでは各古墳の特徴を踏まえながら、本遺跡古墳群の様相を検討する。

今回の調査で検出した古墳はいずれも既知のものではなく、昭和10年代に実施された県下古墳の悉皆調査成果である「上毛古墳綜覧（以下、「綜覧」と称す）」には記載されていない古墳となる。本遺跡南の若田浄水場内で検出した若田金堀塚遺跡１号墳も綜覧に記載はなく、本遺跡東では、剣崎長瀞西古墳を除き、剣崎長瀞西遺跡調査で確認した多数の古墳も、小学校東斜面に現在も僅かな高まりを残す各古墳も綜覧未記載となる。

一方で、本遺跡西の八幡霊園内には、若田大塚古墳をはじめ３基の古墳が現存するが、綜覧にはかつて調査された若田Ａ・Ｂ号墳と共に、すでに消失した古墳８基の記載がある。以上のように、綜覧記載の有無に関わらず、本遺跡周囲は多数の古墳が所在する古墳密集域であることが理解される。

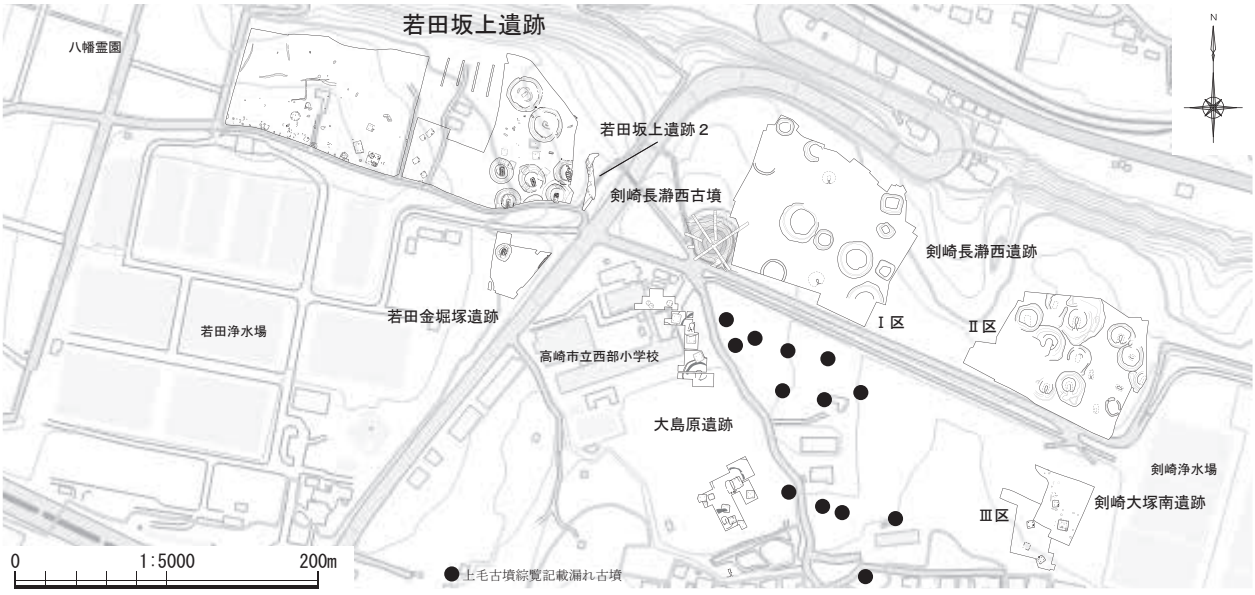
２．諸属性による分類

墳丘の情報が得られた７基の各属性のうち、墳丘規模と立地から、北側の７、８号墳と、南側の１～５号墳（および６号墳）に大別できる。さらに、埴輪樹立の有無や葺石の様相より南グループから５号墳を分離して、都合三つのグループに分類できる。すなわち、本遺跡内で相対的に規模が大きく、円筒や各種形象等の埴輪を樹立し、主体部主軸が一定しない７、８号墳による一群（Ａ）、墳丘こそ小規模だが葺石が丁寧に設置されており、出土状況から埴輪を樹立した可能性が考えられる５号墳（Ｂ）、そして墳丘規模が小規模かつ葺石の設置が不徹底で埴輪の樹立がなく、開口方向が南を指向する横穴式石室を持つ１～４号墳の一群（Ｃ）に分けることができよう。

３．時期変遷の推定

各古墳の属性をもとに、本古墳群内の変遷を検討する。埴輪樹立の有無から構築時期の推移を考えるならば、Ａ・Ｂ→Ｃの順が妥当である。墳丘規模の変化から見ると、Ａは大規模な墳丘を持ち、Ｂ・Ｃは小規模となるため、埴輪を樹立し大規模な墳丘を持つＡがＢ・Ｃに先行し、埴輪を持つが墳丘規模が縮小されるＢを経て、埴輪を採用しない小規模墳丘のＣという変遷が想定される。

続いて各グループ内の前後関係である。Ａでは７、８号墳共に馬形埴輪が出土しているため、群馬県出土資料を中心に検討された三浦茂三郎氏の分類案（三浦2017）を援用すると、７号墳馬Ａはf字形鏡板を持ち、タテガミは円筒状の突起部と板状部が別造りとなることがⅢ期的要素と考えられる一方、額革の十字飾りなどはⅣ期でも見られ



第283図　若田坂上遺跡周辺の古墳分布図

るため、本資料はⅢ期に軸足を置きつつⅣ期への過渡的要素を含むと推定できよう。７号墳馬Ｂは環状鏡板を付け、口先は開放、切り込みを持つ。また、Ⅲ期では少ないとされる顎の穿孔があることからⅣ期の要素があると考えられる。ただし、引手を持たないことや障泥など赤彩はあるが線刻や列点などの装飾性に欠くことなどはやや古い要素と考えられよう。８号墳の馬形埴輪はあまり残存が良好でないため分類材料に乏しいが、額革と項革の接点の辻金具の位置にやや大振りの粘土円盤を貼り付けていることはⅣ期的要素と言えよう。

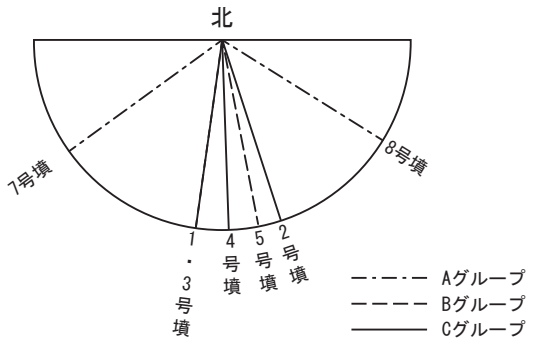
７号墳の馬形埴輪ＡはⅢ期、同馬形埴輪ＢはⅢ～Ⅳ期の要素を持つと考えられが、埴輪の胎土や焼成色調など特徴が類似することから両者に近接した時期の製作・樹立を考えるならば、Ⅲ期後半～Ⅳ期前半という過渡的段階を想定しえよう。比定年代とすれば６世紀中葉となろうか。８号墳の馬形埴輪はⅣ期に該当するものと考えられ、比定年代としては６世紀後半となるだろうが、墳丘規模や埴輪の樹立など共通する要素が多い両墳は築造時期に大きな隔たりを想定しにくいため、８号墳は６世紀後半でも比較的早い段階を想定できるのではないだろうか。

いまひとつ、埋葬主体部のあり方にも特徴が見られる。７号墳で検出した主体部は、８号墳をはじめいずれの古墳主体部と比較しても極めて小規模となっている。抜き取り痕から復元される構造も、竪穴系とも横穴系とも即断し難い不明瞭なものであり、横穴系主体部である蓋然性が高いものの竪穴系主体部の可能性についても検討を要するであろう。前章でも触れたが、７号墳の西500ｍに位置する若田大塚古墳の主体部はやはり竪穴系と横穴系のいずれの可能性も含んだ曖昧な評価となっているが、主体部の様相のみならず墳丘規模や埴輪の樹立などの諸要素から若田大塚古墳との類似性を認定しうるならば、本墳には６世紀初頭に築造されたとされる若田大塚古墳に近似した構築時期を想定することができ、ゆえに本墳が本遺跡古墳群中においてはもっとも先行する可能性が考えられる。また、８号墳の石室が、後続する１～４号墳の横穴式石室と同様の構造を取ることを加味すると、墳丘規模や埴輪の樹立など７号墳と同様の要素を保持しながら後出の主体部構造を持つことから、８号墳が７号墳に後続するとみなすことが可能である。このことは埴輪から導かれた年代観と齟齬をきたさない。

続くＢグループは５号墳のみとなっている。埴輪は樹立した状態は確認されていないが、７、８号墳の埴輪とは様相の異なる埴輪片が出土していることから本墳にも埴輪が採用されたものと考える。また、主体部の大部分は近世以降の礫廃棄坑により破壊されていたため、浅く残存した掘り方の掘り込みが僅かに認識できる程度であったが、掘り方の規模は８号墳と類似している。ただし、墳丘規模は顕著に縮小されており、後出のＣグループと類似することから８号墳とＣグループの間に位置づけられるものと推定した。

Ｃグループは墳丘規模が類似する１～４号墳である。いずれも埴輪を伴わず、開口方向が南を指向する横穴式石室を持つ。葺石については、２段目墳丘の裾を巡ったと想定される葺石根石列が２～４号墳で検出されているため、少なくとも上段には葺石が葺かれていた可能性があるが、葺石を丁寧に葺いた５号墳と比較するとＣグループでは小振りの礫を漫然と並べる印象である。周溝内から検出される転落礫も限定的なため、葺石の敷設は部分的だった可能性が考えられる。

主体部は横穴式石室で、２、４号墳については壁体が２～３段分残存していた。両墳は西側に袖を持つ右片袖形の横穴式石室であり、袖部付近には閾石を設置し羨道と玄室を区分している。３号墳は羨門付近の羨道壁体が僅かばかり残存するのみで、構築材の大部分は抜き取られていた。したがって袖部の有無が確認できないが、やはり閾石を設置していたと考えられる抜き取り痕があり、さらに残存する舗石の様相から２、４号墳と同様の構造であったことが推測される。１号墳に至っては裏込め石や礫床下の舗石の一部が残存するの



第284図　若田坂上遺跡古墳群の主体部主軸の傾き

みであるが、石室掘り方規模や裏込め石の様相などから、２～４号墳と共通する形態の石室であった可能性が高いと考える。

さて、Ｃグループで見られる石室羨門の礫に取り付いた２段目墳丘の葺石根石列は、その残存状況から２段目墳丘裾を石室後方へと巡らされていたと推定される。一部の礫に不規則な配置があったり、礫列が正円を呈していないため各古墳で若干の差異は見受けられるものの、羨門を起点に石室後方の葺石列のカーブを結んだ円は、羨門が確認されている２～４号墳の３基においては同規模となる。すなわち２段目墳丘の規模が３基において極めて近似したものであったことが推定される。

一方で、微細ながらも２、４号墳と３号墳には差異が見られる。一例に、上述したとおり想定される２段目墳丘の中心は２、４号墳では玄室中央に来ることに対して３号墳は玄室奥壁寄りになる。これは３号墳の石室全長が縮小しているためと考えられる。また、石室の構成石材が２、４号墳に比して３号墳がやや小規模となる傾向がある。さらに、石室開口方向では、２、４号墳では僅かに東に振れる南南東に対して３号墳は僅かに西に振れる南南西である。先行する円墳の石室主軸が８号墳の大きく東に振れる南東から、続く５号墳の少し東に振れる南東へと変化する変遷を考慮すると、主軸を僅かながら南西に向ける３号墳は後出するものと仮定して、Ｃグループのなかでは２、４号墳から３号墳という新旧関係が想定されうる。

以上のように、２～４号墳については共通する要素が多く３基の構築時期に大きな隔たりはない中で、僅かな差から３者の前後関係が読み解けるものと考えられる。なお、１号墳は検討する材料が少ないため位置付けが困難であるが、石室主軸の変遷という視点では後出すると仮定した３号墳と同じであることから、Ｃグループ内ではより新段階にあるものと推測する。

それぞれのグループの年代観としては、Ａグループは馬形埴輪の特徴から６世紀中葉～後半、Ｂグループは須恵器蹴の様相から概ね６世紀後半が想定される。Ｃグループについては、４号墳より出土した瓢形環状鏡板付轡（次項にて詳述）は６世紀後半に盛行するものの県内の類例が少なく、その分布の中心は中国地方に求められる希少な資料であるが、Ｃグループが埴輪を樹立しない傾向も考慮して６世紀後葉～７世紀前半を想定しておきたい。

４．地形的展開

本遺跡古墳群を各属性により３つに大別し、さらにおおまかな構築年代の推定をおこなった。さらに各円墳の立地に目を向けると、遺跡地内北端に７、８号墳があり、Ｂ・Ｃグループは南側に分布することが看取される。改めて本遺跡の地形を考えると、本遺跡は八幡台地北縁にあたり、台地下と比高およそ20mの高台上にある。遺跡のすぐ東には南北に台地を縦断する県道前橋安中富岡線が走向し、本遺跡周辺では切り通し状に窪む小谷地状地形を通る。また、調査区南東には「飢渇谷津」の小字名が残る低地が南東へと展開する。今回の調査区では、北東や東へと緩やかに標高が下がる傾斜地となっており、検出した円墳はこれらの傾斜地の落ち際付近にあることが理解される。

先述した構築時期の変遷を加味すると、本古墳群中でも最古相を呈する７号墳が八幡台地北縁に最接近しており、南東に隣接して８号墳が立地する。ともに北東傾斜の斜面地上にあり、高崎市街地を見下ろす台地縁辺部に占地する。やや空間を空けた南東には５号墳が構築され、その西に２、４号墳が並ぶように位置する。さらに南隣して１、３（および６）号墳が立地する。今ひとつ付け加えると、本遺跡に南接する若田金堀塚遺跡に１号墳（７世紀後半）がある。これらの状況から、古墳の変遷と立地の推移には相関関係があり、台地北縁の７号墳を皮切りに、時期が下るとともに古墳群は南へ展開していったことが読み取れる。

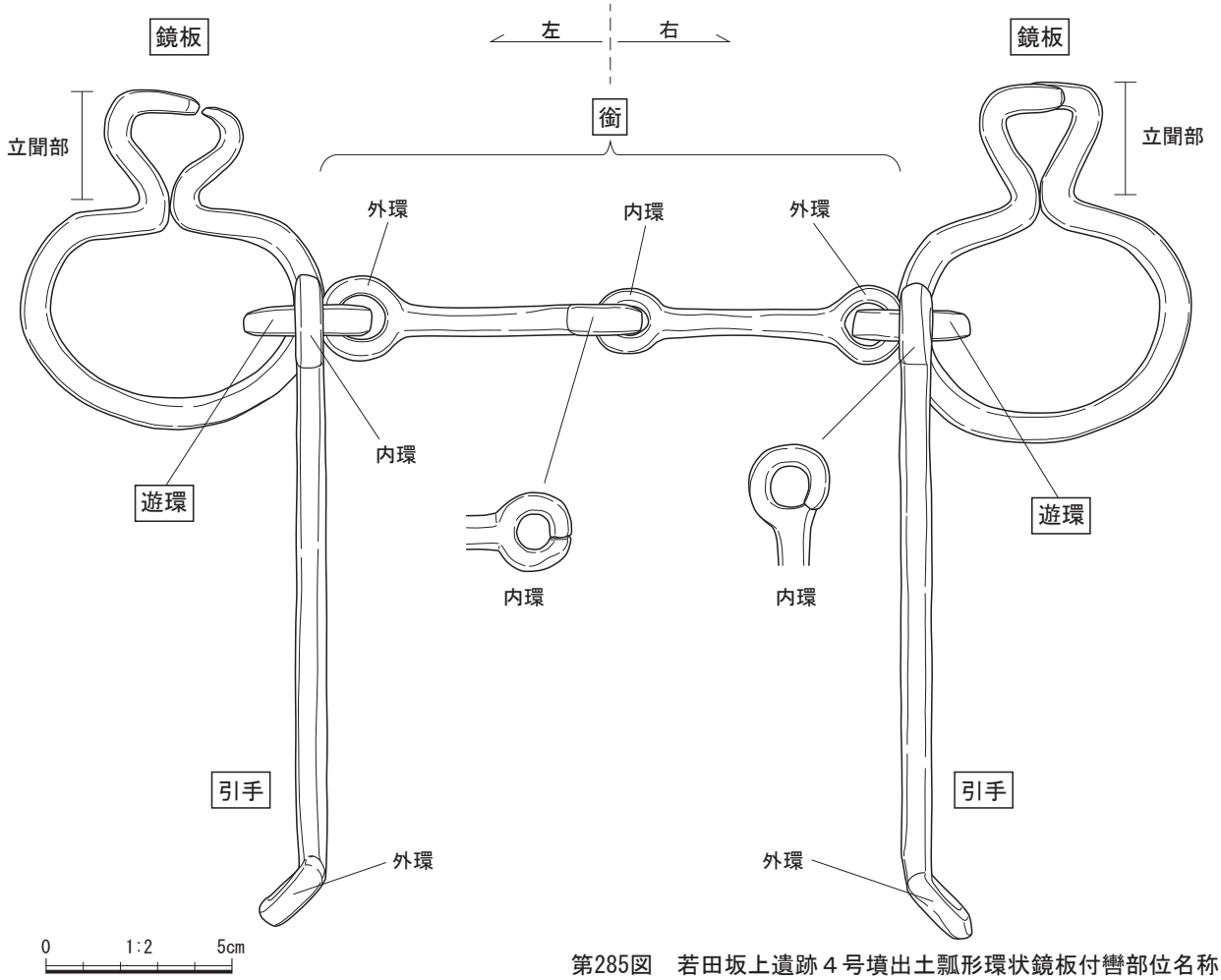
５．若田坂上遺跡古墳群の特徴

以上、ここまでの検討を整理すると、遺跡地西にある若田大塚古墳に後出すると推測される７号墳を皮切りに、墳丘規模を減じながら南へと展開する本古墳群は、６世紀後半～７世紀前半に片袖形の横穴式石室を採用するに至る。高崎市内でも片袖形の横穴式石室を持つ古墳は限られており、本遺跡２～４号墳のように同一古墳群で集中的に採用された事実は興味深い。なお、若田金堀塚遺跡１号墳は両袖の横穴式石室であるため、若田坂上遺跡にみる片袖横穴式石室採用の伝統は、次代には継承されなかったと考えられる。

６．４号墳出土瓢形環状鏡板付轡について

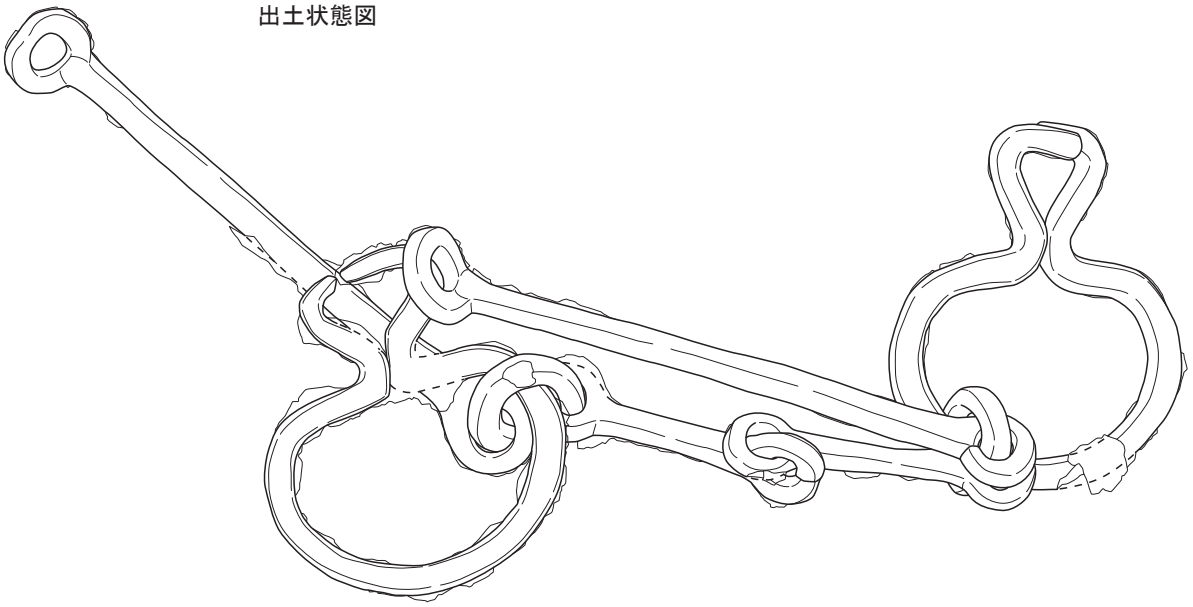
若田坂上遺跡においては、６世紀中葉から７世紀初頭頃を中心とした横穴式石室を有する古墳群が確認された。このうち若田坂上遺跡４号墳からは瓢形環状鏡板付轡（第45図91）・鉸具（同図92）・鉄製飾金具（同図93、94）が出土しており、本遺跡唯一の馬具副葬古墳となっている。瓢形環状鏡板付轡とは、鏡板環の一部を絞ることによって立聞部を造り出し、瓢箪形となった環状鏡板を有する轡である。群馬県内の出土事例は本資料が２例目であり（初例は伊勢崎市蟹沼東13号墳）、各部位が完存するものとしては初の事例である。ここでは瓢形環状鏡板付轡の形態的・属性的特徴を整理し、若田古墳群中の馬具出土古墳をおさえつつ当資料が本遺跡から出土した意義を検討したい。また、解説に使用する部位名称については研究者間で若干の相違があるため、今回使用する名称については第285図のとおりとしたい。

瓢形環状鏡板付轡は若田坂上遺跡４号墳の玄室床面の入り口寄りから、ほぼ完形の状態で出土した。まず形態的特徴を整理すると、鏡板・引手・銜・遊環によって構成されており、引手・銜は遊環を介して連結される。鏡板は左が長さ9.1cm・幅8.2cm、立聞部の長さ約３cm・幅3.7cm、右が長さ9.7cm・幅7.9cm、立聞部の長さ約３cm・幅3.3cmであり、断面はいずれも８mm程度である。端部は立聞頂部で鍛接されているが完全に接着しきってはおらず、特に左の鏡板は左右に開いて外れてしまっている。比較的形状を保っている右の鏡板立聞部の法量から、面繋に使用した帯は幅1.5～２cmほどであったと推測される。引手はいわゆるくの字引手であり、左が長さ17.5cm、外環径2.3cm、内環径2.3cm、右が長さ17.6cm、外環径2.5cm、内環径2.2cmである。軸部の断面はいずれも８mm程度である。環部成形技法については明瞭でないが、右の引手内環は端部を屈曲させ環部の根元に鍛接させるように成形している。銜は二連であり、左が長さ8.7cm、外環径2.3cm、内環径2.1cm、軸部断面7.5～８mm、右が長さ8.4cm、外環径2.1cm、内環径1.8cm、軸部断面７mmである。

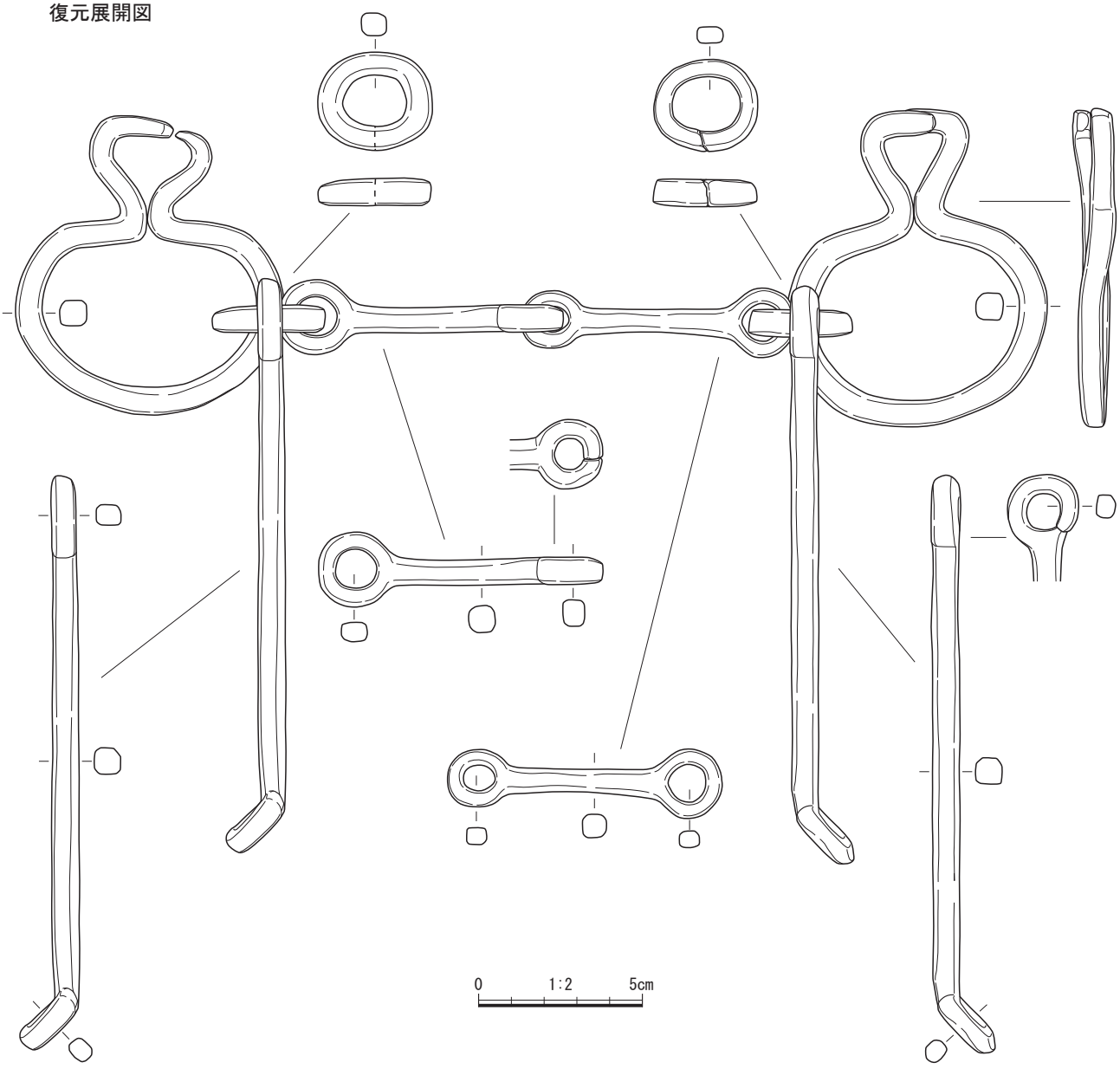


第285図　若田坂上遺跡４号墳出土瓢形環状鏡板付轡部位名称

出土状態図



復元展開図



第286図　若田坂上遺跡４号墳出土瓢形環状鏡板付轡

環部成形技法については明瞭でないが、左の銜内環は端部をＴ字状に整形した後に屈曲させ、環部の先端で鍛接させるように成形している。復元展開図から銜の全長は約15cm、馬が銜える部分（顎の幅）は約11cmと推測される。遊環は左が3.5×3.0cm、断面約８mm、右が3.1×2.8cm、断面５～８mmであり、左の遊環の方がやや大ぶりである。右の遊環では端部の鍛接痕が明瞭に認められるが、左の遊環では確認できない。

次に鋲具と鉄製飾金具について触れておく。92の鋲具は長さ5.9cm、幅３cmであり、基部で両端を重ねるだけで鍛接を行っていない簡素なつくりである。刺金は本体に巻き付ける形で取り付けられ、この部分は扁平に加工されている。法量から接続する帯幅は２cm程度と考えられる。鉄製飾金具は２点出土しており、93は破損・変形が著しいが幅約2.8cmの方形を呈し、鋲が４箇所に穿たれる。鋲の間隔は１～1.5cm程度と思われる。裏面に革・布等の痕跡は認められない。94は長辺約3.4cm、短辺３cmの長方形を呈し、鋲が４箇所に穿たれる。鋲の間隔は長辺が1.7cm、短辺が1.5cm程度である。裏面に革・布等の痕跡は認められない。先ほど想定した面繋の帯幅（1.5～２cm）に符号するのは鋲具と93の鉄製飾金具であり、面繋を構成するものである可能性が高い。これに対し、94の鉄製飾金具の法量はそれより若干大ぶりであり、帯幅も２～３cmが想定される。こちらについては尻繋に用いられた可能性も想定しておきたい。

ここで瓢形鏡板付轡の諸特徴や分布傾向についてみておきたい。瓢形鏡板付轡は全国的に見ても出土事例は少なく、環状鏡板付轡全体では1000例以上が確認されている中で50例ほどにとどまる（大谷2008）。その分布状況も特徴的で、吉備地域に分布が集中しており、畿内からの出土例はほとんどない。また、鉄・鉄器生産遺跡との関連性が強いともされており、渡来系工人の介在が想定されている。吉備地域に生産の中心がありながらも全国的に展開しており、鍛冶関連遺跡との関連性が想定されることから、吉備地域で生産されたものが鍛冶技術者集団同士の交流によって流通した可能性が指摘されている。

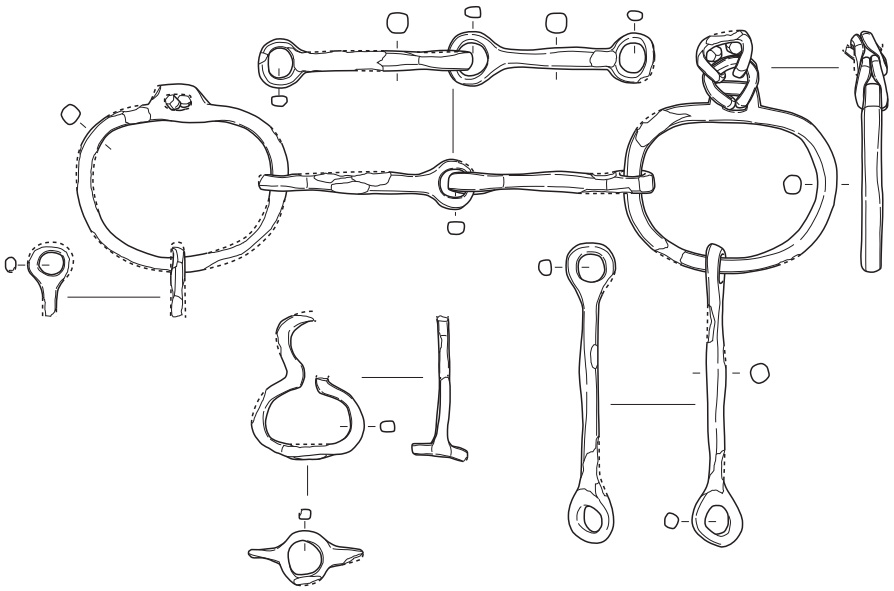
瓢形鏡板付轡が出現する時期は、環状鏡板付轡の成立からやや遅れた６世紀中葉頃（TK10型式期）と考えられ、続く６世紀後半（TK43～TK209型式期）に最盛期を迎え、TK217型式期にはほぼ衰退していく。形態的特徴の変遷をみると、まず鏡板・引手・銜の連結方法は他の環状鏡板付轡と同様に別連結のものが最初に出現し、TK43型式期には遊環連結や共連結の事例が加わる。遊環連結の技法については概ねTK43型式期に集約されるようである。鏡板については、時期が下るにつれて小型化する傾向があり、特にTK209型式期以降には８cm以下のものが出現し、中には５cm程度のものも存在する。また、TK209型式期になると引手・銜の環部が蕨手状になる事例が認められる。若田坂上遺跡４号墳出土の瓢形鏡板付轡の形態的特徴と照らし合わせると、本資料の製作時期はTK43～TK209型式期の範囲内と考えられる。

これらの諸特徴を考慮すると、若田坂上遺跡４号墳出土の瓢形鏡板付轡は６世紀後半頃に吉備地域で生産されたものが技術者間の交流を通じて流通してきた可能性があり、鍛冶関連遺跡との関わりも想定される。周辺地域における６世紀後半の鍛冶関連資料としては、烏川を挟んで対岸側にあたる麻干原遺跡16号住居跡から出土した羽口がある（榛名町誌編さん委員会2010）。現在のところ同一台地上では確認されていないが、５世紀後半には剣崎長瀞西遺跡112号住居跡において羽口が確認されている（黒田2002）。６世紀以降も継続して鍛冶技術が継承されていた可能性は考えられるかもしれないが、明確な痕跡が見出せないのが現状である。

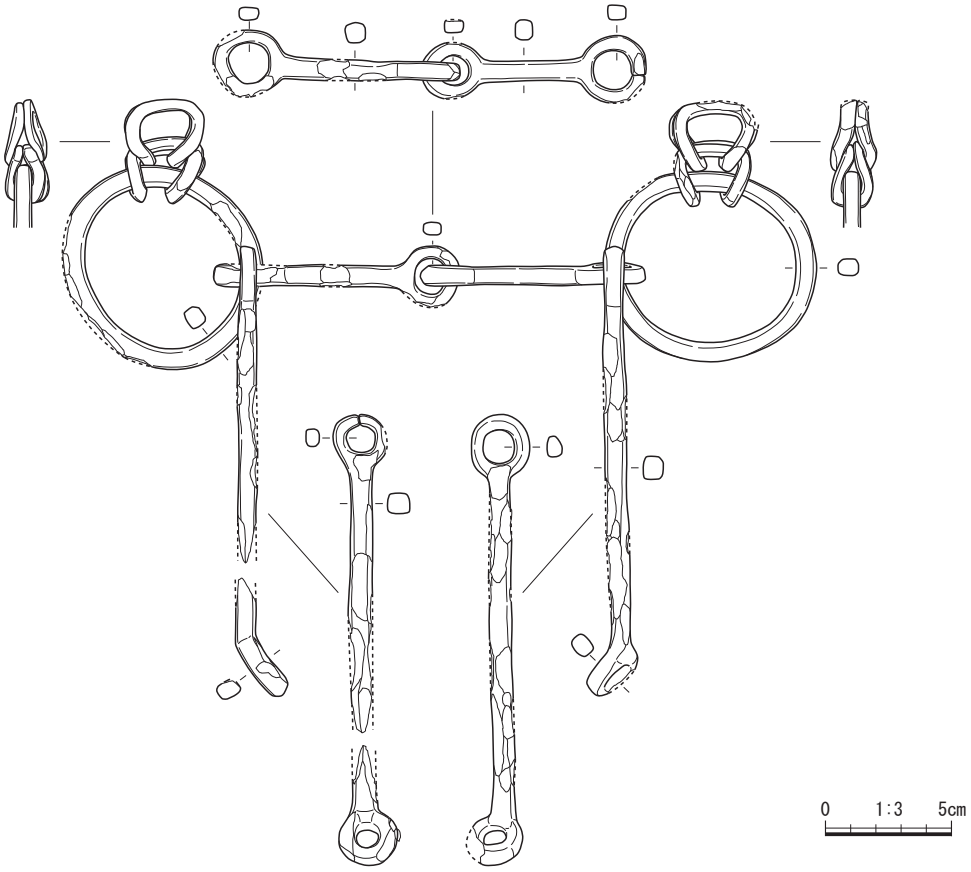
最後に若田古墳群における馬具出土古墳についてまとめておきたい。まずここで扱う若田古墳群の範囲についてであるが、八幡台地北端部に位置する古墳群は、若田遺跡と剣崎長瀞西遺跡との間に位置する南北方向の谷によって隔てられているが、これより東部に分布する古墳群を剣崎長瀞西古墳群および大島原古墳群、西部に分布する古墳群を若田古墳群とする。

若田古墳群において確認されていた馬具出土古墳は若田大塚古墳と若田Ｂ号古墳であり、それぞれ古墳群の形成初期と最終段階に属する古墳である。若田大塚古墳については記載が乏しく詳細不明だが、若田Ｂ号古墳からは長方形鏡板や毛彫杏葉など、終末期においては上位層が所有する馬具の出土が確認されている。若田坂上遺跡４号墳は６世紀末頃の築造であり、両者の間の時間軸に位

兵庫鎖付小型矩形立聞環状鏡板付轡



兵庫鎖立聞環状鏡板付轡



第287図　若田古墳群出土環状鏡板付轡

置付けられる。また、平成29年度の観音塚考古資料館第29回企画展である「小さな古墳の物語―群馬の群集墳を考える―」において、若田遺跡出土とされる環状鏡板付轡が２点紹介されている（第287図）。一つは第287図上段に示した兵庫鎖付小型矩形立聞環状鏡板付轡であり、企画展図録において「環状鏡板付轡２」とされたものである。引手・銜は別連結、兵庫鎖は少なくとも三連以上、引手は直線柄で短い。また、別造りの引手壺も確認されている。同様の規格を持つ環状鏡板付轡は６世紀前半に比較的多くみられ、いずれも別造りの引手壺を有することが多いことから、接合箇所はないものの当資料に伴う部品であると推定される。

もう一つは第287図下段に示した兵庫鎖立聞環状鏡板付轡であり、企画展図録において「環状鏡板付轡１」とされたものである。引手・銜は共連結、兵庫鎖は二連、引手はくの字引手である。鏡板の形状や連結技法から、先ほどの資料より後出する資料と思われ、若田坂上４号墳の瓢形環状鏡板付轡に近い６世紀後半頃の製作と推定される。これらの資料は残念ながら出土地点が不明であるが、６世紀代に帰属すると考えられる重要な資料である。

以上の情報を整理すると、若田古墳群中出土馬具の推移は以下のようになる。

・６世紀初頭：若田大塚古墳（馬具詳細不明）
・６世紀初頭～前半：出土古墳不明（兵庫鎖付小型矩形立聞環状鏡板付轡）
・６世紀後半：若田坂上遺跡４号墳（瓢形環状鏡板付轡・飾金具・鋲具）、出土古墳不明（兵庫鎖立聞環状鏡板付轡）
・７世紀後半：若田Ｂ号古墳（長方形鏡板付轡・毛彫杏葉・飾金具・鋲具）

このように、若田古墳群では７世紀前半を除いて各段階に馬具出土古墳が認められるようである。７世紀前半については現在のところ当古墳群においては古墳の存在自体が希薄である。これに対し、南北の谷を隔てた東側に所在する剣崎長瀞西遺跡の終末期古墳群は、７世紀前半段階から造営が開始された群集墳であり、ここでは７世紀前半の馬具出土古墳も確認されている（31・35号墳）。さらに南に近接する大島原遺跡の古墳群もほぼ同時期のものであり、一連の古墳群と理解される。今後はこれらの古墳群や、さらに南方に位置する八幡遺跡の古墳群なども含めた分析が必要であり、若田坂上４号墳出土の瓢形鏡板付轡はこれに大きく貢献する貴重な資料であると考える。（大野）

第２節　礫床墓について

１．概要

本遺跡において、弥生時代後期の礫床墓７基を検出した。[※1] これら礫床墓は、県内では渋川市有馬遺跡をはじめ、同有馬条里遺跡、同中村遺跡、高崎市新保田中村前遺跡など多くの遺跡で知られており、西毛～北毛地域に色濃く分布する弥生時代後期に顕著な埋葬施設の一形態である。本遺跡周辺では八幡遺跡、下里見宮谷戸遺跡、少林山台遺跡などに検出例がある。

２．礫床墓の立地・遺構主軸

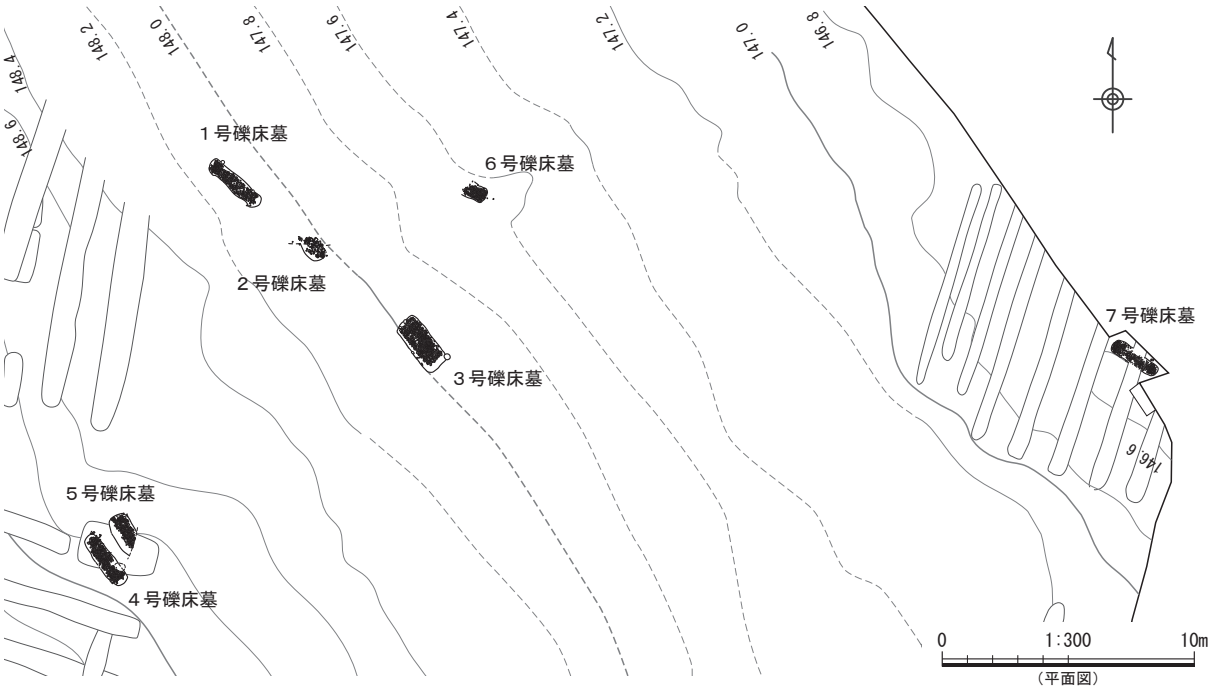
本遺跡検出の７基の礫床墓は、遺跡北東に限定された一定の範囲内で近接して立地しており、同一の墓域を形成していると考えられる。八幡台地北縁に最接近した立地であり、比高20m以上の台地下へと下降する北向きの斜面地に展開している。高崎市街地を一望できる好立地である。

各礫床墓の主軸方向は、大きく見ると北西－南東であるが、平面図上で計測するとＮ－31～57°－Ｗと遺構間で若干の幅がある。遺構主軸を特定の方位に揃える意図よりも、コンターに平行する主軸が優先されたと考えられる。すなわち、各礫床墓の構築に際してその主軸方向の設定原理は方位に強く規定されず、墓域として設定された傾斜地の自然地形に沿ったと考えられる（第288図）。

有馬遺跡や中村遺跡では、埋葬主体部である礫床部が複数基群在する傾向がみられ、主体部群の周囲には溝を巡らせて区画することが知られている。本遺跡の礫床墓では、並列して検出された４・５号礫床墓のみ主体部が群在しており、その他の礫床墓はいずれも単独で構築されている。また、どの礫床墓も周囲を囲繞する周溝状の遺構は伴っていない。同一の墓域を形成しているとはいえ遺構の密集度はさほど過密ともいえず、それぞれ礫床墓を周溝で区画する必然性が欠如していたとも考えられるが、あるいは自然地形である傾斜地が要因であった可能性もあるだろう。

３．礫床墓の遺構配置

標高に目を向けると、礫床墓の占地は、４・５号礫床墓がもっとも高く、７号礫床墓が低い。一方、遺構主軸をもとに礫床墓の平面的な分布を勘案すると、１～３号礫床墓がほぼ直線上に構築されていることが看取される。１～３号礫床墓を中心軸に南西に４・５号礫床墓、北東に６号礫床墓、少し離れて東に７号礫床墓がそれぞれ展開している。この配置規則に則れば、１号礫床墓は、標高の最高所こそ４・５号礫床墓に譲るものの傾斜面の高い立地にあり、見晴らしの良い台地北縁が近い場所にあることが理解される。



第288図　若田坂上遺跡　礫床墓分布図

４．礫床墓の構造

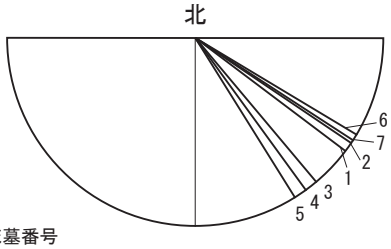
礫床墓の構造を概観する。検出状況から判断するに、土坑状の掘り込みを墓坑本体とし、掘り込み上端付近に拳大の礫を設置する。墓坑底面上には親指大の小礫を敷き詰めることを基本としている。特に１号および４～７号礫床墓が構造や形態の上で多く共通しているが、３号礫床墓のみやや様相が異なっている。[※2] 前者については、遺構長軸の両端部において、礫床レベルより下位でピット状の掘り込みが確認される。墓坑内部の堆積埋土中において端部ピットの位置には礫が集中する傾向があり、墓坑中央の礫床部分とは構造上の差異が推定される。後者の３号礫床墓については、その他の礫床墓と比べて平面形状が異なっている。長軸方向に短く、短軸方向に広くなることで、より正方形に近い形状となる。また、長軸両端部のピットは円形や楕円形ではなく、やや不整の長方形を呈している。さらに、長軸両端部は礫床レベルより一段下がる幅20cmほどの帯状の掘り込みがある。帯状の掘り込みの下面には、礫床の礫よりやや大振りの礫が敷き詰められており、幅や構造からこの端部の掘り下がり部に棺材が設置されたものと推測される。同時に、両側部でも礫床外縁に10cm内外と幅狭の掘り込みがみられるため、長軸側部の壁面にも棺材が設置されて四壁を構成したものと想定される。

閉塞構造については不明な点も多いが、礫床が保全され、礫床上で遺物が出土したことを勘案すると、被葬者埋葬後には主体部は塞がれる構造であったことが推測される。埋葬空間を塞いだと思われる蓋材だが、本遺跡では、主体部空間内や墓坑外周辺から棺蓋や被覆構造に使用したと想定される礫は見られない。そのため、棺を塞ぐ蓋状の閉塞施設は、やはり調査時には遺存しなかった有機質素材によるものと考える。

さらに、有馬遺跡では一部で盛土によるマウンドが確認されているため、本遺跡でもマウンド構造が推定された。特に古墳時代後期円墳（７号墳）の墳丘下層より検出した１号礫床墓については、マウンドを構成する盛土層や礫床墓本来の構築面の検出が期待された。７号墳の遺構確認面には埴輪の樹立痕跡が認められたため、遺構確認面が７号墳１段目上面にほぼ相当している。７号墳の墳丘断ち割り断面において古墳盛土層は認定できず、墳丘の１段目は地山削り出しで造られていると想定できるため、１段目以下は古墳築造前の旧状を留めているものと考えられた。

そこで１号礫床墓の被覆構造の検出を試みたが、７号墳遺構確認面においてすでに礫床墓の端部礫群（礫床面より高いレベルで検出される）が露出する状況であったため、１号礫床墓に伴うマウンドは７号墳築造時、もしくはそれ以前に失われていたと結論付けざるをえなかった。その他の礫床墓についても、遺構上部は軒並み削平されており、いずれの遺構でも被覆構造やマウンドを想起させる盛土層の確認はできなかった。

なお、盛土層を直接検出していないが、礫床墓のマウンドを想定するにあたっての参考として、４・５号礫床墓の墓坑外にあった高坏の出土位置が興味深い。４・５号礫床墓は礫床２基が並列するが、遺構の端部より南東80cmの地点に赤彩された高坏が臥位で検出された。出土位置は４・５号礫床墓の中間の延長線上にあり、両遺構より南側には他の礫床墓が存在しないことから４・５号礫床墓へと供されたものとの理解に無理はない。この高坏が原位置から大きく離れていないとすると、土器は礫床墓の墓坑外に設置されたものとすることができる。この高坏の検出の高さが礫床墓検出面とほぼ同一であり、礫床面からは10cmほど高い。礫床墓の上部構造は一部欠失していることから被覆構造もすでに削平されていた可能性が高いが、遺構確認面と同じ高さで出土した点を勘案すると、高坏はマウンド状構造の上に配置したものと考えにくい。高坏の設置位置がマウンド外の旧地表面上であったと考えるならば、当該礫床墓のマウンドは、礫床端部から高坏設置位置までのわずか80cmの距離の中で完結する小規模なものであったことが考えられる。ただし、結論付けるには情報の不足は否めず、さらなる検討のためにも、残存状況の良い遺構が今後検出される事に期待したい。



※数字は礫床墓番号

第289図　礫床墓主体部主軸の傾き

５．礫床墓出土の遺物

礫床墓内部からの遺物の出土は極めて限定的である。１号礫床墓は礫床直上で鉄釧１点、３号礫床墓は有茎石鏃１点、６号礫床墓より赤彩された高坏や小型台付甕など数点の土器が出土するのみである。また、遺構外ではあるが、１号礫床墓の東側端部付近で１号人形土器頭部、南西側で２号人形土器がそれぞれ検出され、４・５号礫床墓の南東側端部付近で、両遺構の中間の延長線上の位置で残存状態が比較的良好な赤彩高坏１点が出土している。なお、２、７号礫床墓は墓坑内外において出土遺物はない。

墓坑内より土器が出土した６号礫床墓では、検出された小型台付甕が横倒しの状態であり、礫床面との間には厚さ10cmの堆積土層がみとめられた。また、細かな小片に破損していた高坏も遺構埋土中より出土している。これらのことから、６号礫床墓の土器は埋葬当初から墓坑内へ安置されたものではなく、主体部が封鎖されたのち、間層が形成される期間を経て墓坑内へと流入したものと推測される。棺蓋状の構造物上もしくは主体部を覆うマウンドなど想定されうる上部構造上に設置された土器が、棺構造の朽滅に伴う内部空間の陥没を契機に主体部内部へ転落したものであろう。礫床上に間層が形成されるため土器設置時期と墓坑内流入時期には一定の時間差は想定されるものの、遺構埋土が後世の影響を受けた痕跡がないことや、とりわけ帰属年代の異なる流入遺物等がみられないことから、礫床墓の帰属時期は出土した土器の年代観と大きく乖離しないものと推測される。土器は弥生時代後期の樽式土器形式に属するため、６号礫床墓は弥生時代後期と比定される。

墓坑内から土器が出土する礫床墓は本遺跡では他になく、６号礫床墓以外の遺構の年代判定の明確なものさしを欠く。しかし、遺構構造や主軸方向の類似、一定範囲で集中する遺構の分布などにみられるそれぞれの様相により、７基すべての礫床墓に関連性を見出すことが可能といえる。これらの礫床墓が一連の墓坑群として、大きな時間差なく構築されたとの推定が認められるならば、６号礫床墓から出土した土器を証左に、本遺跡の礫床墓群を構成するすべての礫床墓は、弥生時代後期に属すると結論づけることができよう。

第３節　鉄釧について

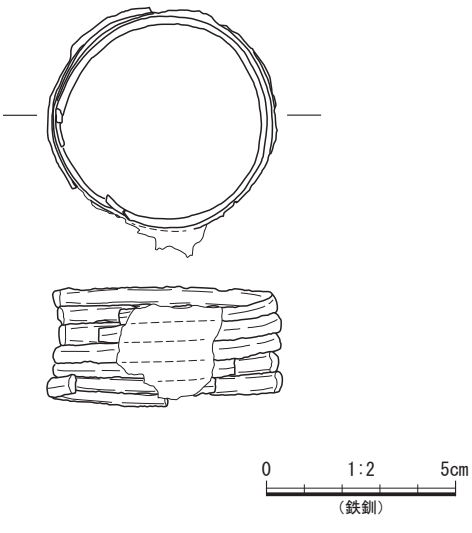
１．概要

１号礫床墓の礫床直上において、鉄製の釧が出土した。管見の限り、本県では沼田市石墨遺跡２例、渋川市有馬遺跡２例、玉村町福島味噌袋遺跡に次ぐ４遺跡６例目であり、本市にとっては初の出土となる。

検出した時点では埋土圧によるものか、円環がやや押しつぶされたように楕円状を呈していたが、一定の段数が残存し、鉄釧としての形状を明確に留めていた。一方で、これ以外にも、鉄釧本体から離れた位置の礫床上や埋土中より鉄釧と考えられる金属小片が出土している。これらの小片を含む鉄釧材の観察では環体幅が大きく２種に分かれる可能性が考えられたため、当初は複数個体の存在も想定した。[※3]

しかし、断面形状や外面の稜線のあり方など環体幅以外の要素には両者に大きな差異を見出せなかった。環体幅の差は鉄の劣化や錆膨れなどの要因によって異なる可能性があり、出土した環体の金属片総量による段数の想定からも、本遺跡出土の鉄釧は１個体であったと考えるに至っている。

もっとも残りの良い破片で６段以上が認められ、各段の環体幅が４～６㎜ほどに集中する傾向が看取される。かつ、鉄釧片総量からは10段を上回る段数が想定されることから、本遺跡の鉄釧は群馬県地域で検出例が多い４㎜幅の環体を10段前後に巻き上げる螺旋状鉄釧[※4]と推測される。



第290図　１号礫床墓出土鉄釧

２．鉄釧の装着

装着の仕方については製作方法とも連動する議論であるが、完成品の装着、もしくは直接腕に巻き付けによる成形などが想定される。

本遺跡資料のうち、最も残存段数が多い資料251を端部から見ると、大きな歪みなど顕著な変形は見られずほぼ正円を保っている。内面を観察すると、それぞれの段が丁寧に揃うことが看取されることから、鉄釧製作時に円筒形状の固体に巻き付けて鉄板を曲げたという印象を受ける。したがって、本遺跡の鉄釧は直接手に巻き付けて成形したのではなく、円筒形状の型などに合わせて製作されたものであったと想定する。なお、本遺跡出土の鉄釧の外径は概ね６cmだが、内径となると５cm台となる。報告者はもとより、小柄な成人でも装着が困難な大きさと思われる[※5]が、本遺跡以外でも、現在知られている鉄釧例の径は概ね６cm内外が優勢となるようである。現代人との体格差をどの程度考慮に入れるべきか検討が必要であるが、６cm内外の径でも着装が可能であったと考えたい。

着脱方法について、螺旋状である構造の理解から、直接腕に巻き付けたことを支持する説（牛山1996）もあるためその可能性を排除しないが、実験を通して装着が可能である（野澤2002）ことや常時着脱可能（藤岡1995）などの諸説、本遺跡資料の観察所見から、本遺跡１号礫床墓出土の鉄釧は、型などに当てて製作した完成品に装着者が手を通して装着したものと推定したい。

本遺跡では鉄釧が墓坑より出土している。鉄釧は装身具としての性質上、生前か死後かは不確かなものの、最終的には被葬者に装着した状態で墓坑内に納められたものと考えられる。生前での装着状態は分かりかねるが、鉄釧の出土状況からは埋葬時の装着状態が復元されよう。そのためには被葬者の埋葬方向・方位の情報が不可欠であるが、本遺跡の礫床墓内からは人骨や歯等の人体部位は残留しておらず、被葬者の埋葬方向等を推測しうる決定的な根拠がない。

そこで他遺跡に類例を求めると、弥生時代後期の遺跡で礫床墓を多数持ち、同一の墓域から鉄釧や人形土器が出土している点で本遺跡と多くの共通点が窺える渋川市有馬遺跡が参考となるだろう。

遺跡の詳細は報告書を参照されたいが、報文に従えば、人体部位が検出された礫床墓の過半が遺構主軸を東西軸に持ち、埋葬頭位を東に向ける傾向が看取される。また、遺構主軸が南北軸となる場合には埋葬頭位は南となるようである。前項のとおり、本遺跡１号礫床墓の主体部主軸は北西－南東方向となる。これは遺構が立地する傾斜地に対応するための主軸設定と考えられるが、遺構が東西軸なら頭位は東という有馬遺跡の埋葬頭位傾向に従うならば、本遺跡１号礫床墓の埋葬頭位は南東側にあったと考えられる。埋葬体位は屈葬と伸展葬が考えられるが、極めて幅狭の遺構形状から伸展葬であったと考えたい。[※6]

鉄釧の出土は遺構主体で見れば、ちょうど礫床範囲中央部で中心軸より南側の位置となる。被葬者の顔が見えていた仰位との想像が成り立つならば、１号礫床墓の被葬者は、鉄釧を左腕に装着したか、遺体の左側に鉄釧を安置して埋葬されていた可能性を提示したい。

３．布目等圧着痕

一部の破片の表面には、繊維状や布目状の圧着痕跡が認められる。いずれも繊維そのものの残存は見受けられない。肉眼で観察した限りでは、鉄釧の外面に布目状の圧着痕、内面に繊維状の圧着痕が看取される。外面の布目状圧着痕は平織りの布の痕跡と考えられる。内面の圧着痕は、斜めに走向する筋状を呈しており、外面で見られる布状の圧着痕とは異なっている。

鉄釧に繊維質素材の圧着痕が残存するためには、鉄釧表面が錆化する過程において、器面に当該素材が密着して固定される状態が一定期間、維持されることが必要と考えられる。鉄釧の製造過程や使用状況、保管状況など、最終的に礫床墓内へ置かれるまでの来歴が明確でない以上は器面に繊維質素材の痕跡が転写される要因は無数に考えられるだろうが、長時間動かさないという条件を満たすのは鉄釧の保管か埋納という選択肢にある程度絞られるのではないだろうか。竪穴建物跡等の生活の場と想定される遺構からの出土事例も報告されているが、本遺跡をはじめ墓坑より出土する事例からは、鉄釧が保持者個人に帰属し、保持者が亡くなるとその亡骸と共に埋葬されたものであったことが推測される。そうして礫床墓に納められた中で鉄釧に密着した布や繊維状素材の圧着痕が形成されたものと想定することが妥当であろう。

４．鉄釧装着者の人物像

さて、鉄釧を装着した１号礫床墓の被葬者とは一体いかなる人物であったであろうか。本遺跡で確認した礫床墓は部分検出を含めて７基となるが、遺構の構造という観点では、いずれも共通の要素を多く持ち、各礫床墓間で隔絶した差異は看取されない。また、礫床墓内からは総じて遺物の出土が少ない傾向にあるとはいえ、鉄釧以外の金属製品やガラス玉などの装身具も未発見である。

そのなかにあって鉄釧が副葬された１号礫床墓は、鉄釧に加え２体の人形土器を伴っている可能性が高く、同一墓域内の他礫床墓の被葬者とは明確な差が意識されていたといえよう。このことから１号礫床墓の被葬者は、集団内で区別される存在であったと考えるに無理はない。主体部の構造には反映されないが、墓域内での配置や鉄釧・人形土器といった特徴的な器物によって、１号礫床墓被葬者の特殊性が表象されているものと考えられる。

本遺跡と同じ八幡台地上にあり、南方1.1kmに所在する八幡遺跡からは弥生時代後期の集落ならびに礫床墓数基と共に鉄剣や銅釧が出土しており[※7]、当台地南縁にやはり金属製品を保持する集団の存在が示唆される。台地北縁の本遺跡周辺には鉄釧と人形土器、台地南縁の八幡遺跡周辺には銅釧と鉄剣をそれぞれ所有する集団が占地することが考えられるが、両集団にみる副葬品構成の差が何に起因するのか今ひとつ判然としない。ただし、別集団と想定されても両集団間は地形的には大きく断絶しているとはいえず、同一台地上の比較的近距離における両集団の関係性が注視される。[※8]

視野を広げると、県内に鉄釧や人形土器を出土する遺跡が点在しているが、鉄釧と人形土器が同一の墓坑に伴う事例はいまだ報告されておらず、本遺跡の１号礫床墓は県内でも特徴的な出土状況であるといえる。西毛～北毛地域での集団間のネットワーク、あるいは県境を超えた長野県地域との地域間ネットワークのなかで本遺跡を位置付けていく上でも、本遺跡の鉄釧は良好な資料となりうるであろう。

県内でも類例が数える程しかない希少な資料であるがゆえ、断面の著しい磨滅によって接合が困難を極め、あまり丁寧な復元が叶わなかったことは慚愧に耐えない。

第４節　人形土器について

前項までで詳述したとおり、本遺跡では弥生時代後期礫床墓７基が検出されている。なかでも鉄釧を出土した１号礫床墓の周囲からは人形土器２個体が検出された。本項では人形土器についてふれてみたい。

１．人形土器の出土状況

１号礫床墓は、古墳時代後期円墳である７号墳の墳丘下より検出し、遺構上部の一部を欠くものの礫床が残存しており、高崎市初例となる鉄釧が原位置で出土する極めて貴重な遺構である。

一方で、礫床墓外の構造を探るなかで遺構周辺の掘削を進めていくと、当礫床墓の東２ｍほどの地点より１号人形土器の頭部が出土した。１号人形土器は下唇以下を欠損しており、顔面を下に臥せるような状態で見つかった。さらに７号墳の周溝の調査過程で、取り上げた馬形埴輪の頭部破片の直下より２号人形土器の頭部が検出された。２号人形土器の出土位置は１号礫床墓からわずか南西１ｍであった。２号人形土器の頭部は比較的残存状態が良く、頭髪か被り物表現ならびに左耳の一部を欠くのみであった。その後、７号墳の周溝埋土中や墳丘盛土、盛土下の地山などから人形土器とよく似た胎土の破片が出土し、整理作業を経て１号人形土器は下顎や肩部が、２号人形土器は被り物および両肩が接合した。さらに、２号人形土器の胴部と推測される壺状土器の胴部下半が復元できた。[※9]

両者の破片接合度合いには思いの外、隔たりがみられ、１号人形土器が接合作業を経てもほぼ頭部しかなかったことに対し、２号人形土器は胸部を欠くほぼ全体が出土している。特に底部まで接合ができた胴下半部については、７号墳の周溝中より出土した破片が多かったのにも関わらず、である。このことから、２号人形土器は原位置から大きく移動していない可能性が高い一方で、１号人形土器は頭部のみであることから、検出位置が本来的に設置された位置とは大きく異なっている可能性を排除することを難しくしている。現況では１号礫床墓以外の礫床墓周辺でいずれの人形土器とも接合する破片の検出はないため、疑義のある１号人形土器を含め、両人形土器は１号礫床墓に伴ったものと推測する。

２．人形土器の特徴

１号人形土器は、やや粗野な印象をもつ造りであり、粘土貼付けによる鼻や耳はやや大きく象られているようである。額が高く隆起し、いわゆる誇張表現といえる。鼻には鼻孔表現があるが、耳は穿孔されていない。[※10] 目をくり抜く作業など、製作過程で何らかの工具の使用が想定されるが、残存部位をみる限り、頭部の整形は指頭によるナデに限られているようである。顔料による彩色や器面のミガキなども行われず、貼り付けた粘土塊を伸ばしてなじませるなど、器面を平滑化する意図すらあまり感じられない。

一方、２号人形土器は、より丁寧な造りをしており、顔面表現もバランスが取られ、より写実的な表現といえよう。頭部には粘土紐を巻きつけた被り物状の表現がある。耳には左右一対の穿孔があるが、鼻には鼻孔表現がない。残存する両肩から腕部がつくことが想定でき、残存のより良好な左腕の角度から腕部は前方斜め下に向かっていたことが推測される。１号人形土器同様に、彩色やミガキはなく頭部整形は指頭ナデによるが、左肩部内面の痕跡からは工具による整形が考えられる。

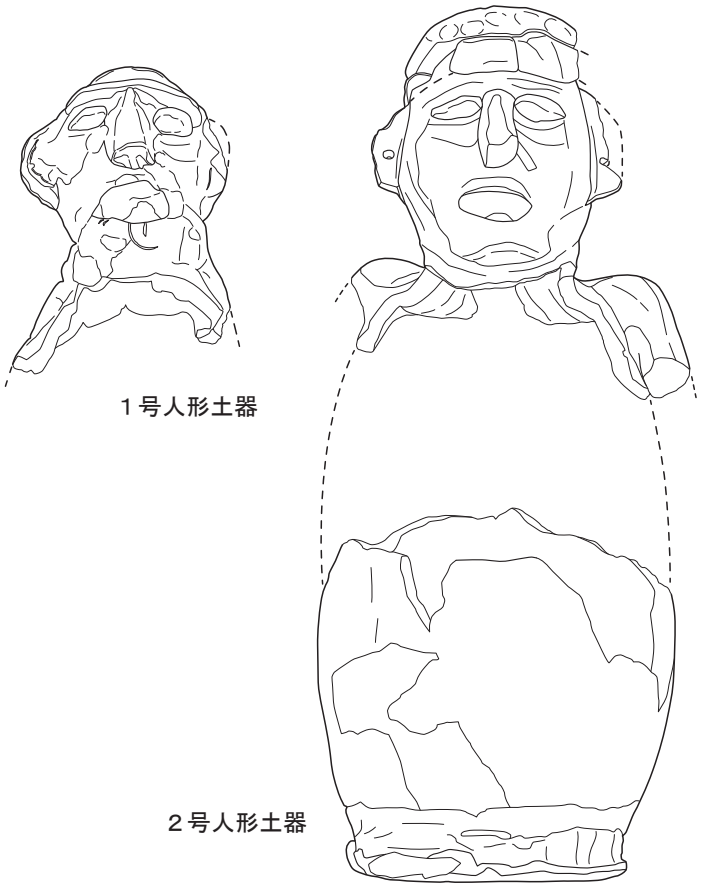
なお、両者は共に、上唇から上位となる頭部の主たる範囲は中実のため重量がある。粘土塊を中核としていることから目のくり抜きは背面までは貫通せず、抉り取られるように施されている。両者ともに頸部以下が空洞となり、口が内部空洞へとつながる開口部となることが推測される。

３．人形土器の分類

人形土器の類例は全国的に増加しており、弥生時代を通して様々な形態が看取される。[※11] なかでも後期の群馬県地域より出土する人形土器は特徴的であり、先学の諸氏により様々な類型や名称を与えられている。[※12] 構造上の違いを考えるならば、頭部が中空か中実の違いなどもあり、群馬県地域の資料でもおそらく細分が可能だが、既存の分類案を援用すれば本遺跡出土資料は「人形土器」とする呼称がもっとも妥当であろう。[※13]

１号人形土器は顔面表現がデフォルメされており、いわゆる誇張表現として群馬県出土例の典型要素といえよう。渋川市有馬遺跡出土例とは、中実か中空かの頭部構造、耳の穿孔や腕部の有無、器面仕上げの疎密など相違点もあるが、張り出す額部や高い鼻に鼻孔表現、少し突き出された下唇などの諸要素が共通しており、雰囲気はよく似ているといえる。翻って、２号人形土器は顔面部位の表現がより写実的で、際立つ誇張やデフォルメは少ないものと思われる。穏やかな表情ともいえる顔面表現は県内事例や長野県地域でみられる同種の人形土器とは異質である。[※14] これら２個体の人形土器の様態には、表現に反映される意図や意識の違いが内包されることが考えられるが、遺物そのもの構造や製作手法といった観点からは、両者に截然たる差は見出せない。両者の造り手が同一人物であったかは定かではないが、本遺跡出土の人形土器は製作手法を共有する個人や集団によって造り出されたものであった考えてよいだろう。

本遺跡２号人形土器の胴部は壺状を呈している。人形土器については、諸氏により容器（特に蔵骨器）としての機能の衰退が指摘されているが、本



第291図　１号礫床墓出土人形土器

遺跡のみならず、小八木志志貝戸遺跡、有馬遺跡など県内類例では、胴部が一定量の内容物を収容できる容積を持った容器として遜色ないという点が看取される。東日本の人形土器がその用途・機能を変容させてきた大勢については合点がいくが、人体部位の誇張という特異な容姿が目を引く陰で、容器としての機能を棄却しきらない当該地域の独自的発展の可能性を模索することはできないだろうか。[※15]

４．人形土器の用途

本遺跡では１号礫床墓周囲の墓坑外から人形土器２個体が出土している。本遺跡出土例も含め群馬県地域出土の人形土器は人面表現を誇張しており、まさに異形の様態を示していると考えられる。また、人形土器は墓に関連するものと思われるが墓坑のなかには設置されず、むしろ墓坑外で検出される。[※16]これらのことから、人形土器の用途が「辟邪」[※17]や「魔除け」[※18]という指摘には同意できる。そして墓を護る存在として古墳時代の盾持ち人埴輪と人形土器の共通性に着目する設楽氏は、盾持ち人埴輪の源流を 「方相氏」に求める塩谷修氏（塩谷2001）に賛意を示し、人形土器の成立背景に方相氏の概念を想定している（設楽2017）。

本遺跡で出土した２個体の人形土器は、出土位置や状況からひとつの礫床墓（主体部）に伴うものと推測される。２個体には胎土や製作技法の上では大きな差異は見出せないが、人物としての表現は明確に異なっている。先述のとおり、１号人形土器が顔面部位を誇張した粗暴な印象を受けるのに対し、２号人形土器はより洗練された穏やかな表情を呈している印象である。両者の表現の違いは、それぞれの人形土器によって表したかった対象の差であろう。男女の性別の違い、被葬者の帰属する共同体内外での社会的属性、一連の埋葬行為や葬送儀礼に関連した役割、あるいは非物質世界の概念的存在の表象など考えられる選択肢はいくつかあろう。

設楽氏は、土偶形容器からみた男女像の組み合わせを指摘するなかで、身体的表現より壺という貯蔵機能に重点をおいた人形土器（人面付土器）には男女の区別がないとする（設楽2017）。事実、本遺跡出土例を含む人形土器は明確に性別を判定できる身体的特徴を備えていない。表情の荒々しさや柔和さという主観のみをもって男女の表現と考えるには根拠が乏しいといわざるを得ない。

墓坑外に添えられること、容器として十分機能し得る容積を持ちながらも開口部が狭小であること、もしくは容器として明確な使用痕跡が見出さないことなどから、人形土器が日用品でなく、墓坑ないしは墓域に関連する儀礼や風習の中に位置づけられるものと考えることに異議はない。異形の風貌を示す群馬県・長野県両地域の出土例から、人形土器は墓を守護するものであったことには概ね賛同するところであり、本遺跡出土例では１号人形土器がこれに該当するものと思われる。そして、顔面部位の誇張表現が辟邪を目的としたものであるならば、同表現が看取されない２号人形土器は、害をなす存在を「威嚇」することで墓を護る辟邪の概念的表象とは異なる役割を与えられていただろうか。そうであるならば、あるいは２個体の人形土器は「動と静」の対極性を表現するとも評すことができるのではないだろうか。

検討課題が山積するなかで、明確な答えにたどり着くことができていないが、本遺跡の２号人形土器が従来の人形土器観に新たな議論を提起する好例となることを期待したい。

５．１号礫床墓をめぐる成果と課題

以上、１号礫床墓に関連して検討課題を反芻したが、要約すれば、墓域内でも礫床墓の配置原理や墓坑外に設置される人形土器２個体、あるいは被葬者に装着された鉄製装身具の存在により、礫床墓を主体とする弥生時代後期の墓域内において１号礫床墓被葬者の優位性が認められるという点に集約されるであろう。当該礫床墓はその構造のみならば他の礫床墓とさして変わりないことが理解されるが、墓坑外に人形土器を置き、県内でも出土例が少なく高崎市でも初例となる鉄釧を装着した人物は、同墓域内でもっとも手厚い埋葬を受けていると考えてよいだろう。これは取りも直さず、同墓域が母体とする共同体内での当該礫床墓被葬者の属性と連動することが示唆されるものと考える。その属性の具体像については現況では明らかにし得ないが、１号礫床墓の被葬者をよりよく理解するためには、当該共同体内に留まらず、礫床墓や人形土器、鉄釧など共通する要素をもつ他集団との関係性にも着目する必要性があろう。

第５節　集落について

若田坂上遺跡では、竪穴建物25軒を検出した。その内訳は、縄文時代５軒、弥生時代後期２軒、古墳時代前期８軒、古墳時代中期４軒、古墳時代後期３軒、古代３軒となる。今回の調査区では、掘立柱建物と想定されるピット群は未確認である。

縄文時代の竪穴建物は、出土する土器の様相から、いずれも中期に属すると考えられる。竪穴建物以外の土坑やピットなどの各種遺構も西区に偏って検出されており、東区では遺構はおろか、遺構外から出土する遺物も極端に少なくなる。このことから、若田原遺跡が所在する遺跡地西方が当該期の遺構展開の中心であったと考えられる。

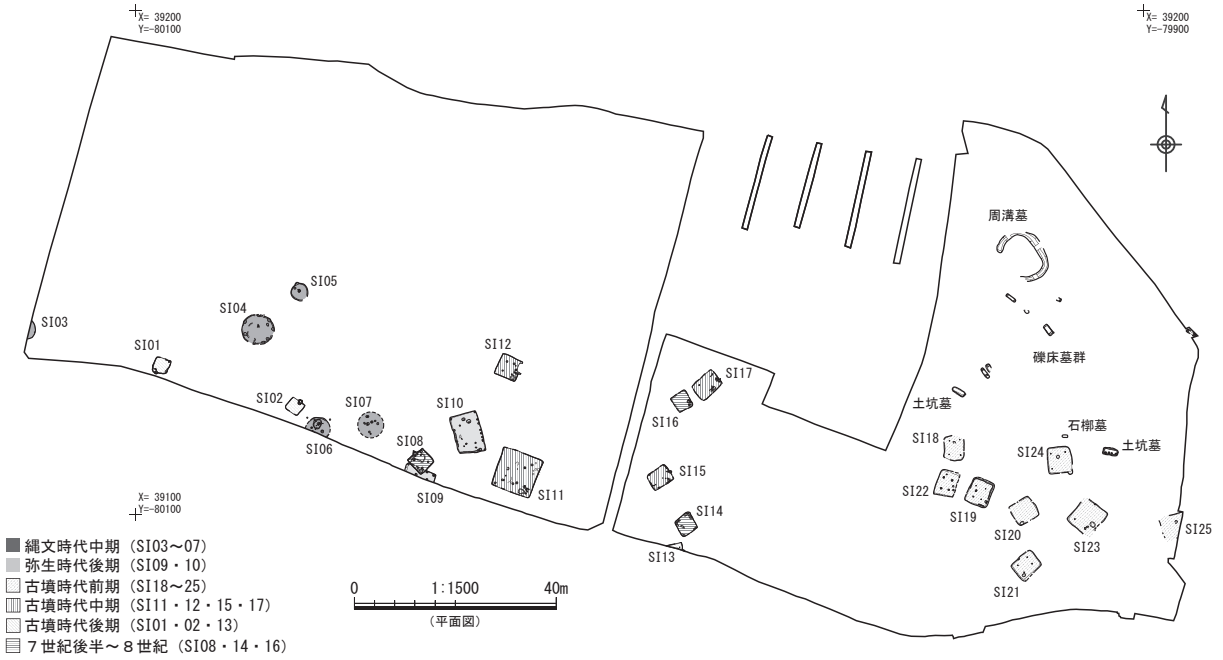
弥生時代の竪穴建物は、西区にて２軒を検出している。後期土器を出土することから当該期に属するものと考えられる。10号竪穴建物より北東110mには、鉄釧を出土し、人形土器２体が伴った１号礫床墓をはじめとする礫床墓群があり、当該期まで土地利用のなかった台地北縁部の一角に墓域が展開する。両者にはやや隔たりがあるが、礫床墓群を形成した集団の母体集落であったと考えられる。そのほか、北西70mには、遺構内に甕を伏せた土坑がある。後世に遺構の上半分が削平されているが、伏せた甕の片面は口縁から底部まで残存していた。それらの破片に混じって別個体の壺底部が出土していることから、両者は組み合わせて使用した土器棺墓であったと想定される。

古墳時代は前期および中期、後期と分けられる。前期の竪穴建物は、東区の東半分の比較的限定的な範囲に密集している。主軸はややばらつきがあるが、遺構規模は概ね似る。集落域の北50mにＳ字状口縁台付甕の破片を出土した１号周溝墓があり、集落域と墓域は比較的近接している。

中期は、西区の東端から東区の西端に集約される。11、12、17号竪穴建物は土器の様相から５世紀後半代と考えられるため、中期でも後半になるだろうか。本遺跡内ではこの時期に該当する墓域は確認できておらず、東方の剣崎長瀞西遺跡との関連を考慮する必要がある。

後期の竪穴建物は、西区西寄りや東区西端で確認できる。これは、弥生時代後期には墓域として利用が開始され、古墳時代前期には墓域と集落域へと展開、６世紀中葉から円墳が連綿と築かれていく東区東半分が、古墳群として整備されていくにあたって当該期の集落を西側に展開させたものと考えられる。円墳群と古墳時代中期以降の竪穴建物分布範囲のあいだには遺構が確認されないおよそ40mの空白域があることから、両者が計画的に配置されたものであったと想定される。

また、既述のとおり、円墳は時期が大きく下る近世期まで墳丘が残存していたと推定されるが、これは古墳時代後期以降も造営される竪穴建物が東区東半分の各円墳とは重複せず、より西側の範囲にのみ分布することと符号するといえる。



第292図　時期別竪穴建物配置図

註

※１　当該埋葬施設は、土坑状に掘った穴に木板を立て棺とし、礫で木板を固定し棺床に礫敷きを設ける構造を取っていると考えられることから本来は「礫床木棺墓」とする呼称が望ましいであろう。本遺跡で検出された礫敷きの埋葬施設も検出状況からは同様の構造が想定されるが、木板等の有機質棺材の検出は皆無であり、礫敷きの棺床および端部のピットや礫積みの確認に留まっている。棺材としては木質を主体とした有機質素材である蓋然性が極めて高いと考えられるものの明確な確証はないため、本稿ではこの種の埋葬施設については棺材を限定する呼称を避けて「礫床墓」と表記する。ただし、これは既知の「礫床木棺墓」の概念や構造、呼称とは異なる別種の遺構とする意図はなく、あくまで検出した遺構の特徴に即した名称と捉えている。

※２　２号礫床墓は７号墳周堀の外縁で検出したが、７号墳周堀により大幅な破壊を受けており、集中的に礫が看取されるものの礫床墓構造が判断できるほど残存状況は良好でなかった。

※３　鉄釧が複数埋葬される例がいくつか知られる。長野県後家山遺跡では１号木棺墓より環体幅6㎜の個体と幅1.4㎜の個体が連結された状態で出土している（佐久市教委2004）。長野県丘中学校遺跡では方形周溝墓から出土した鉄釧は複数個体が重なっていると報告されている(塩尻市教委1983)。東京都弁財天池遺跡１号方形周溝墓の第１主体部からは２個体の鉄釧が重なって出土している。
　なお、同周溝墓の第２主体部からは銅釧６点が出土し、内部から人骨が検出されたことから装着した状態として認識される（狛江市教委1992)。その他、長野県檀田遺跡１号円形周溝墓主体部から銅釧および鉄釧が出土。素材が異なる複数個体の出土として注目される（長野市教委2004)。

※４　土屋氏は環体幅と段数から「４㎜10段型」「８㎜５段型」およびその中間的な類型として「８㎜10段型」を設定している(土屋2009)。

※５　岩本氏は成人の装着は困難であることから若年期の着装が示唆され、鉄釧の装着者はあらかじめ決定されていた可能性を想定している(岩本2002)。

※６　有馬遺跡では屈葬と想定される礫床墓が報告されている。また、北に隣接する有馬条里遺跡では弥生時代中～後期の溝内より屈葬の壮年女性が発見されている。本遺跡でも礫床墓の規模や形状は有馬遺跡と大きな差異は認め難いため、本遺跡１号礫床墓も屈葬であった可能性は排除できない。

※７　八幡遺跡の鉄剣は「覆土中には多量の2～5cm程の河原石が認められ」ている７号土坑墓から出土しており、報文を見る限りでは礫床墓であった可能性が考えられる。一方で、銅釧は32号住居跡から出土しているが、報告者自らが当該遺構の住居機能は想定できないとしている（高崎市教委1989）。

※８　「釧類の所有と鉄剣の所有との関係は排他的ではなく、補完関係にあるような意義（岩本2002）」が想定されるように、鉄釧と鉄剣は競合や対立する関係性と必ずしも考える必要はない。その点で、巨視的には周囲の低地からは比高のある舌状台地上を共に占地する若田坂上遺跡と八幡遺跡の両集団も共生や補完関係にあると考えることが可能であろう。

※９　頭部および胴部のそれぞれの破片には直接の接合点がないため、確実に２号人形土器頭部に伴う胴部壺となるかどうか確証はない。しかし肉眼観察の限りでは、土器胎土の類似やヘラ状の工具を使用した内部整形などの共通点から、両者は同一の個体であったと考える。

※10　右耳背面に小穴があるが前面まで貫通せず、２号人形土器や他遺跡の例でみられる典型的な耳の穿孔とは同じものとすることは難しい。

※11　設楽博己の総合的な研究に詳しい(設楽2017)

※12　黒沢浩「人面付土器Ｂ」(黒沢1997)、設楽博己氏「人面付土器Ｃ」(設楽2017)、櫻井秀雄氏「人形土器」(櫻井2015)の各分類に該当するだろう。

※13　櫻井氏も述べている(櫻井2015)が、壺形土器の一部への顔面表現とは異なり、独立した立体的な頭部を有している。また、腕など顔面以外の部位をも表現しているため、「人面付」「人面」土器という名称より、より実態を反映していると考える「人形土器」の呼称を使用したい。

※14　櫻井氏は、橋本裕行氏が「やさしい顔(橋本1997)」と表現したひる畑遺跡出土例にならって、人形土器をＡ類「やさしい顔」とＢ類「異形」に分類した(櫻井2015)。これに従うなら本遺跡出土人形土器の１号はＢ類、２号がＡ類となるだろうか。

※15　平野進一氏が、開口部の小ささゆえの出し入れの困難さから、人形土器内には信仰にかかわる人骨や特殊なものが入っていた可能性を考え、人形土器の「墓域で信仰にかかわる特殊な機能と用途」(平野2001)を指摘している。狭小な開口部から出し入れできる物理的なものとすれば粉末状や液状の物質が考えられようが、少なくとも本遺跡出土例には明確な使用痕跡等がない。被葬者や墓域の守護、もしくは埋葬儀礼のなかに人形土器を位置付けるのであれば、非物質的世界の概念存在の収納ということもあり得るだろうか。本遺跡１号人形土器や有馬遺跡例など原位置に近い状態を保っていると考えられる出土例が、顔面を伏せる状態で検出されていることがヒントになるのかも知れない。

※16　群馬県内の類例はもとより長野県地域など他県の例を見ても、設楽氏のいう人面付土器Ｃや櫻井氏のいう人形土器に該当する例で墓坑の内部から出土したものは原則ないものの、その出土状況の多くは墓域との関連を想定できる。このことから設楽氏も櫻井氏も副葬品や蔵骨器としての性格は否定し、むしろ墓坑外に置かれていたものと考える(設楽2017、櫻井2015)。

※17　蔵骨器機能の否定、顔面の誇張表現、墓前の出土という点から「墓に添えて邪霊を防ぐ(設楽2017)」ことが目的としている。

※18　設楽氏の「辟邪」の考え方を受け入れ、同様の観点から櫻井氏は「外敵(悪霊)から墓もしくは墓域を護ること(櫻井2015)」が人形土器の役割とする。

参考文献

【報告書】

・群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990『有馬遺跡Ⅱ』弥生・古墳時代編
・群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『金井東裏遺跡』近世・弥生・縄文時代編
・群馬県埋蔵文化財調査事業団 2016『福島味噌袋遺跡』
・高崎市 1999『新編　高崎市史』資料編１　原始古代１　高崎市市史編さん委員会
・沼田市教育委員会ほか 1985『石墨遺跡』
・榛名町誌編さん委員会 2010『榛名町誌　資料編１　原始古代』

【論考等】

・岩本　崇 2002「東日本における弥生時代鉄釧の製作背景」『古代文化』Vol.54
・大谷宏治 2008「瓢形環状鏡板付轡の特質」『静岡県考古学研究』40　静岡県考古学会
・尾上元規 2002「壺鐙と瓢形円環轡について」『環瀬戸内海の考古学 -平井勝氏追悼論文集-』下巻
　古代吉備研究会
・岡安光彦 1984「いわゆる「素環の轡」について―環状鏡板付轡の型式学的分析と編年―」
　『日本古代文化研究』創刊号　PHALANX -古墳文化研究会-
・黒田　晃 2002『剣崎長瀞西遺跡』高崎市文化財調査報告書第179集　高崎市教育委員会
・笹澤　浩 2014「千曲川水系の後期弥生社会 -その性格と銅釧・鉄釧を装着した人物について-」
　『ふたかみ邪馬台国シンポジウム14　シンポジウム「邪馬台国時代の甲・信と大和」 資料集』
　香芝市二上山博物館
・桐原　健 2015「鉄釧私考」『古代学研究』207
・土屋了介 2009 a「弥生時代単環状鉄釧の形式学的研究 -断面長方形・断面二等辺三角形にみる系譜の違い-」
　『東海史學』第43号
・土屋了介 2009 b「螺旋状鉄釧の基礎研究 -形態と数量的要素を中心に-」『日々の考古学２』
・土屋了介 2009 c「弥生時代鉄釧の研究 -鉄釧形式の応用研究-」
　『平成21年度 九州考古学会総会　研究発表資料集』
・野澤誠一 2000「高山村湯倉洞穴出土の「鉄釧」について」『須高』第50号
・野澤誠一 2002「銅釧・鉄釧からみた東日本の弥生社会」『長野県立歴史館研究紀要』第８号
・藤岡孝司 1995「螺旋状鉄釧小考 -東日本における腕輪の意味-」『千葉県文化財センター研究紀要』16
・橋本裕行 1997「弥生人の顔」『考古学ジャーナル』
・平林大樹 2016「県山古墳出土の鉄製品」『長野県考古学会誌』152　長野県考古学会
・前原 豊　2020「三ツ寺型高坏について -榛名山東南麓に集中する垂下突帯付高坏を探る-」『利根川』42
・三浦茂三郎 2017 a『群馬県伊勢崎市雷電神社跡古墳出土埴輪報告書』
　2017 b『平成29年度高崎市観音塚考古資料館第29回企画展　小さな古墳の物語
　-群馬の群集墳を考える-』　高崎市観音塚考古資料館
・中澤貞治 1979『蟹沼東古墳群』　伊勢崎市教育委員会